

**IBM Content Collector for SAP  
Applications**  
バージョン 2 リリース 2

**インストール、構成およびユー  
ザーズ・ガイド**





**IBM Content Collector for SAP  
Applications**  
バージョン 2 リリース 2

**インストール、構成およびユー  
ザーズ・ガイド**



注

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、465 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、IBM Content Collector for SAP Applications のバージョン 2、リリース 2、モディフィケーション 0 (製品番号 5725-B46)、および新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

本書は、SH12-6951-01 の改訂版です。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： SH12-6951-02  
IBM Content Collector for SAP Applications  
Version 2 Release 2  
Installation, Configuration, and User's Guide

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： トランスレーション・サービス・センター

第1刷 2011.8

© Copyright IBM Corporation 2010, 2011.

# 目次

本書について	ix
対象読者	ix
本資料で使用する規則と用語	ix
構文図の読み方	x
アクセシビリティ	xii
ご意見の送付方法	xii

## 第 1 部 製品の概要 . . . . . 1

### 第 1 章 Content Collector for SAP のアーキテクチャー . . . . . 3

Archiving Client	4
Viewing Client	5
注釈処理アプレット	5
メール・アプレット	5
Utility Client	5
P8 Client	6

### 第 2 章 基本機能と拡張機能 . . . . . 7

データのアーカイブ	7
文書のアーカイブ	7
SAP ワークフローに作業項目を作成することによる着信文書のアーカイブ	8
着信文書の同時アーカイブ	9
バーコードの処理による着信文書のアーカイブ	9
発信文書のアーカイブ	10
印刷リストのアーカイブ	10
オブジェクトのリンク	10
スキャン・アプリケーションによりアーカイブされた Content Manager 文書のリンク	11
FileNet P8 オブジェクトのリンク	11
Cold プログラムを使用して文書をリンクする	12
文書の前処理	12
文書のリトリートと表示	13

### 第 3 章 新機能 . . . . . 15

## 第 2 部 計画 . . . . . 19

### 第 4 章 マイグレーションの計画 . . . . . 21

FileNet Application Connector for SAP R/3, J2EE Edition、バージョン 2.1 のマイグレーションの計画	21
Image Services 文書を再利用するための FileNet Application Connector for SAP R/3, J2EE Edition バージョン 2.1 のマイグレーションの計画	21
FileNet P8 文書を再利用するための FileNet Application Connector for SAP R/3, J2EE Edition バージョン 2.1 のマイグレーションの計画	23
CommonStore for SAP バージョン 8.4 のマイグレーションの計画	23

### 第 5 章 インストールの計画 . . . . . 25

どの Content Collector for SAP コンポーネントをインストールするか決定	26
タスクに必要な Content Collector for SAP コンポーネントおよびインストール・パッケージ: 概要	26
アーカイブおよびリンクに使用する Content Collector for SAP クライアント: 概要	27
ハードウェア要件	28
ソフトウェア要件	29
追加プログラムのインストールの計画	29

### 第 6 章 構成の計画 . . . . . 31

## 第 3 部 マイグレーション . . . . . 33

### 第 7 章 Image Services 文書を再利用するための FileNet Application Connector for SAP の Content Collector for SAP へのマイグレーション . . . . . 35

Image Services 文書に対する FileNet Application Connector for SAP の構成設定の収集	35
Image Services を使用する FileNet Application Connector for SAP のためのワークシート IS	37
FileNet P8 のインストール	40
Image Services 文書の再利用のための FileNet P8 の構成	40
Image Services V4.1.2 文書を再利用するための FileNet P8 V4.0、V4.5.0、V4.5.1、または V5.0 の構成	40
Image Services V4.2 文書の再利用のための FileNet P8 V5.1の構成	47
Image Services 文書の再利用のための Collector Serverの構成	57
Image Services 文書のアーカイブおよびリンクのための構成	58
さまざまな文書クラスでの発信 Image Services 文書のアーカイブのための構成	60
Workplace または Workplace XT に組み込まれているビューアー・アプリケーションを使用して	
Image Services 文書を表示するための構成	61
発信 Image Services 文書の前処理のための構成	63
Image Services 文書のページ編集のための構成	64
ご使用の Image Services 文書に対する追加構成設定	65

**第 8 章 FileNet P8 文書を再利用するための FileNet Application Connector for SAP の Content Collector for SAP へのマイグレーション . . . . . 67**

FileNet P8 文書に対する FileNet Application Connector for SAP の構成設定の収集 . . . . . 67

- FileNet P8 を使用する FileNet Application Connector for SAP のためのワークシート *FN* . . . 68

FileNet P8 文書の再利用のための FileNet P8 の構成 72

- 文書の読み取り、アーカイブ、更新、および削除に必要なプロパティ: 概要 . . . . . 72

Collector Server文書の再利用のための FileNet P8 の構成 . . . . . 74

- FileNet P8 文書のアーカイブおよびリンクのための構成 . . . . . 74
- さまざまな文書クラスでの発信 FileNet P8 文書のアーカイブのための構成 . . . . . 77
- バーコード付きのアーカイブされた FileNet P8 文書のリンクのための構成 . . . . . 78
- Workplace または Workplace XT に組み込まれているビューアー・アプリケーションを使用して FileNet P8 文書を表示するための構成 . . . . . 79
- 発信 FileNet P8 文書の前処理のための構成 . . . 81
- FileNet P8 文書のページ編集のための構成 . . . 82
- ご使用の FileNet P8 文書に対する追加構成設定 . . . 83

**第 9 章 CommonStore for SAP バージョン 8.4 の Content Collector for SAP バージョン 2.2 へのマイグレーション . . . 85**

**第 10 章 Content Manager バージョン 7 文書のマイグレーション . . . . . 87**

Content Manager Enterprise Edition バージョン 7 の索引クラスのマイグレーション . . . . . 87

- マイグレーションされたシステム属性用マッピング・ファイルの作成 . . . . . 88

Collector Serverの新規項目タイプへのアクセスを使用可能にする . . . . . 89

**第 11 章 別のオペレーティング・システムへの Collector Serverのマイグレーション . . . . . 91**

---

**第 4 部 インストール . . . . . 93**

**第 12 章 Content Collector for SAP で使用するためにアーカイブをインストールする . . . . . 95**

Content Manager Enterprise Edition バージョン 8 をインストールする . . . . . 95

- Content Manager OnDemand のインストール . . . 95
- FileNet P8 のインストール . . . . . 96
- Tivoli Storage Manager のインストール . . . . . 98

**第 13 章 Content Collector for SAP のインストール . . . . . 99**

コンソール・モードまたは GUI モードでのサーバー・パッケージのインストール . . . . . 99

- Linux または UNIX システム上のサーバー・パッケージのインストール . . . . . 99
- Windows 上でのサーバー・パッケージのインストール . . . . . 101

Collector Serverと共にインストールされるファイル . . . . . 103

- Collector Serverが必要とする SAP コンポーネントのインストール . . . . . 104

コンソール・モードまたは GUI モードでのクライアント・パッケージのインストール . . . . . 105

- サイレント・モードでの Content Collector for SAP のインストール . . . . . 107
- Linux または UNIX システム上でのサイレント・モードでのサーバー・パッケージのインストール . . . . . 107
- Windows 上でのサイレント・モードでのサーバー・パッケージのインストール . . . . . 109
- サイレント・モードでのクライアント・パッケージのインストール . . . . . 111

**第 14 章 追加プログラムのインストール . . . . . 113**

Cold プログラムのインストール . . . . . 113

- eClient 拡張機能のインストール . . . . . 115
- SAP Cryptographic Library のインストール . . . 117
- Utility Client の Index Transfer Enablement パッケージのインストール . . . . . 117

**第 15 章 Content Collector for SAP のアンインストール . . . . . 121**

---

**第 5 部 構成 . . . . . 123**

**第 16 章 構成ファイル: デフォルト・ロケーション . . . . . 125**

**第 17 章 属性またはプロパティの名前のマッピング . . . . . 127**

**第 18 章 環境の準備 . . . . . 129**

Collector Server・インスタンスの構成 . . . . . 129

- Linux または UNIX で、Collector Server インスタンス・ユーザーを構成する . . . . . 129
- Windows で Collector Server インスタンスを構成する . . . . . 130

アーカイブ向け環境の構成 . . . . . 131

- Content Manager 用の環境を構成する . . . 131
- Tivoli Storage Manager 用の環境を構成する . . 132

基本的な SAP システムのセットアップ . . . . . 132

- CPIC アクセス権限を持つユーザーの作成 . . . 133
- SAP クライアントへの論理システムのリンク . . 136

SAP ArchiveLink の番号範囲の定義 . . . . .	137
<b>第 19 章 Content Collector for SAP で使用するためにアーカイブを構成する . 139</b>	
Content Collector for SAP で使用するために Content Manager を構成する . . . . .	139
ユーザー ID の作成 . . . . .	139
属性の作成 . . . . .	139
文書パート項目タイプの作成 . . . . .	140
文書項目タイプの作成 . . . . .	141
項目タイプ・サブセットの作成 . . . . .	142
リモート Content Manager サーバーへの接続の 構成 . . . . .	143
Content Collector for SAP で使用するために OnDemand を構成する . . . . .	144
ユーザー ID の作成 . . . . .	144
アプリケーション・グループの作成 . . . . .	145
アプリケーションの作成 . . . . .	147
フォルダーの作成 . . . . .	148
リモート OnDemand サーバーへの接続の構成	150
Content Collector for SAP で使用するために FileNet P8 を構成する . . . . .	152
文書の読み取り、アーカイブ、更新、および削除 に必要なプロパティ: 概要 . . . . .	152
Content Collector for SAP で使用するために Tivoli Storage Manager を構成する . . . . .	154
Content Collector for SAP による Tivoli Storage Manager ノードの登録 . . . . .	154
管理クラスの作成 . . . . .	155
アーカイブ・コピー・グループの作成 . . . . .	155
STANDARD ポリシー・セットの検証と活動化	156
パスワード・オプションの設定 . . . . .	157
リモート Tivoli Storage Manager サーバーへの 接続の構成 . . . . .	158
<b>第 20 章 Collector Serverの構成 . . . 159</b>	
アーカイブと共に使用するための Collector Serverの 構成 . . . . .	160
サーバー構成プロファイル: 一般情報および構造	160
Content Manager Version 8 で使用するための Collector Serverの構成 . . . . .	165
OnDemand で使用するための Collector Serverの 構成 . . . . .	168
FileNet P8 で使用するための Collector Serverの 構成 . . . . .	171
Tivoli Storage Manager で使用するために Collector Server を構成する . . . . .	174
Collector Serverと SAP の間の接続の構成 . . . . .	178
RFC ディスパッチャーの数の設定 . . . . .	179
Hypertext Transfer Protocol (HTTP) を介した Collector Server と SAP の間の接続のセットア ップ . . . . .	180
Remote Function Call (RFC) を介した Collector Server とSAP の間の接続のセットアップ . . . . .	185
Collector Serverが SAP に接続できるようにする	189
Collector Server を初めて始動する . . . . .	191

Collector Serverの停止 . . . . .	193
<b>第 21 章 Archiving Client の構成. . . 195</b>	
Archiving Client のセットアップ . . . . .	195
Collector Serverへの接続の定義 . . . . .	196
一時ファイルのディレクトリーの指定 . . . . .	197
キューのモジュールのロード . . . . .	197
バッチ・ジョブのバーコードの数の指定 . . . . .	197
キューの文書フォーマットを SAP に送信する操 作 . . . . .	198
Archiving Client のロギングとトレースの機能を 有効にする . . . . .	198
Archiving Client のセットアップの完了 . . . . .	199
キューの管理 . . . . .	200
キューの作成 . . . . .	200
キュー情報の保存と再利用 . . . . .	212
キューのプロパティの表示と変更 . . . . .	213
Archiving Client と Collector Serverの間の接続の 表示 . . . . .	213
キューの削除 . . . . .	214
SAP 文書フォーマットの追加または削除 . . . . .	214
Collector Serverで Archiving Client を使用できるよ うにする . . . . .	215
他のコンピューターへの Archiving Client とその設 定の配布 . . . . .	215
<b>第 22 章 P8 Client の構成. . . . . 217</b>	
管理者として Workplace または Workplace XT に ログオンする . . . . .	217
「Browse」ポートレットの構成 . . . . .	218
「Browse」ポートレットの登録と「マイ・ワー クスペース (My Workplace)」ビューへの追加 . . . . .	218
Collector Serverへの接続の定義 . . . . .	219
マイ・ワークスペースのセットアップ . . . . .	220
オブジェクト・ストアとフォルダーの選択 . . . . .	221
「Queue」ポートレットの構成 . . . . .	222
「Queue」ポートレットの登録と「マイ・ワーク スペース (My Workplace)」ビューへの追加 . . . . .	222
Collector Serverへの接続の定義 . . . . .	224
マイ・ワークスペースのセットアップ . . . . .	225
P8 キューへの「Queue」ポートレットの関連付 け . . . . .	226
<b>第 23 章 P8 Client SAP Connector の構成 . . . . . 227</b>	
SAP への P8 Client SAP Connector の登録 . . . . .	227
FileNet P8 オブジェクトをリンクするための SAP ArchiveLink アプリケーションの作成 . . . . .	228
FileNet P8 オブジェクトをリンクする目的での SAP ArchiveLink プロトコルの調整 . . . . .	230
<b>第 24 章 Utility Client の構成 . . . . . 233</b>	
索引転送のセットアップ . . . . .	233
SAPサーバーへの接続の定義 . . . . .	234
Collector Serverへの接続の定義 . . . . .	234
アーカイブを定義する . . . . .	234

アーカイブ属性に転送する SAP 属性のマッピング	235
索引転送プロファイルの作成	235
索引転送セッションの作成	235
文書リンク・プロセスのセットアップ	236
SAPサーバーへの接続の定義	236
Collector Serverへの接続の定義	236
アーカイブを定義する	236
文書リンク・セッションの作成	237
Utility Client の構成の管理	237
属性フィルターの作成	238
Utility Client の設定の変更	239

## 第 25 章 Viewing Client の構成 . . . 241

「Viewing Client	241
Collector Serverへの接続の定義	241
一時ファイルのディレクトリーの指定	242
ビューアー・アプリケーションの指定	242
アプリケーションを閉じる機能を有効にする	243
Viewing Client のロギングとトレースの機能を有効にする	243
Viewing Client のセットアップの完了	245
Collector Serverで Viewing Client を使用できるようにする	245
他のコンピューターへの Viewing Client とその設定の配布	245

## 第 26 章 基本タスク向け環境の構成 247

データをアーカイブするための構成	247
サンプル・アーカイブ・オブジェクト	
FI_BANKS のセットアップ	248
SAP ArchiveLink パスの構成	249
データ・アーカイブ構成の検査	251
サンプル・アーカイブ・オブジェクト用テスト・データの作成	252
アーカイブ・セットアップをテストするアーカイブ・セッションの実行	252
BC-ILM を使用してデータをアーカイブするための構成	254
ILM 対応データ・アーカイブのためのユーザーの作成	256
BC_ILM を使用したデータ・アーカイブのための Collector Serverの使用可能化	258
空の Tivoli Storage Manager アーカイブにルート・コレクションを作成する	259
XML Data Archiving Service (XML DAS) での宛先の作成	260
XML Data Archiving Service (XML DAS) でのアーカイブ・ストアの作成	261
SAP Web Application Server ABAP と XML Data Archiving Service (XML DAS) の間の接続の構成	262
Tivoli Storage Manager アーカイブでのアーカイブ・オブジェクトに対するホーム・パスの作成	263
アーカイブ・ストアへのホーム・パスの割り当て	264
着信文書をアーカイブするための構成	265

SAP ワークフローで作業項目を作成することによって着信文書をアーカイブするため構成	265
着信文書のバーコードの処理による着信文書のアーカイブのための構成	273
発信文書をアーカイブするための構成	275
Content Manager 文書を SAP にリンクするための構成	277
SAP ワークフローで作業項目を作成することによって Content Manager 文書を SAP にリンクするための構成	278
バーコードを処理することによって Content Manager 文書を SAP にリンクするための構成	281
FileNet P8 オブジェクトを SAP にリンクするための構成	286
Utility Clientを使用して FileNet P8 文書をリンクするための構成	286
P8 Clientを使用して FileNet P8 オブジェクトをリンクするための構成	291
印刷リストをアーカイブおよび表示するための構成	294
アーカイブ装置を定義する	295
印刷リスト用に文書タイプを作成して SAP ワークフローで使用可能にする	295
SAP ArchiveLink バッチ・ジョブを作成する	296
拡張 ALF 表示を使用可能にする	297
印刷リスト表示を使用可能にする	297
SAP GUI を使用して、アーカイブされた文書を表示するための構成	298
外部ビューアー・アプリケーションを使用した、アーカイブされた文書の表示のための構成	299
SAP への Archiving Client の登録	301
文書表示のために SAP ArchiveLink アプリケーションを作成する	301
文書を表示するための SAP ArchiveLink プロトコルの調整	303
ビューアー・アプリケーションを終了するための、SAP ArchiveLink アプリケーションの構成	304
Content Manager eClient	305
Workplace または Workplace XT に組み込まれているビューアー・アプリケーションを使用して FileNet P8 オブジェクトを表示するための構成	307
SAP Document Finder を使用してアーカイブ済み文書を検索および表示するための構成	310
索引情報の転送のための構成	313

## 第 27 章 追加タスクまたは拡張タスク向け環境の構成 . . . 317

ブラウザー・キャッシュへの Web コンテンツの保管の回避	317
Secure Hypertext Transfer Protocol (HTTPS) 通信を構成する	317
サーバー認証の構成	318
クライアント認証の構成	323
クライアント接続に Secure Hypertext Transfer Protocol (HTTPS) の使用を強制	324
MIME タイプへの SAP 文書クラスの関連付け	324



MIME タイプへの SAP 文書クラスのマッピングの概要 . . . . .	324
MIME タイプへの SAP 文書クラスの欠落したマッピングの追加 . . . . .	326
Collector Serverの複数インスタンスの作成 . . . . .	326
インスタンスのフォルダーの作成 . . . . .	326
インスタンスのサーバー構成プロファイルの構成 . . . . .	327
インスタンスへの固定ポートの割り当て . . . . .	327
Content Collector for SAP の SAP Solution Manager への統合 . . . . .	329
サービスとしての Collector Serverの実行 . . . . .	330
サービスとしての Collector Serverのインストールおよびアンインストール . . . . .	330
サービスの開始と停止 . . . . .	330
サービスとしての Collector Serverの複数インスタンスの実行 . . . . .	331
ヒント . . . . .	331
複数の Tivoli Storage Manager アーカイブに文書を保管するための構成 . . . . .	332
RFC または Java RFC ディスパッチャーおよびエージェントに対するタイムアウト期間の設定 . . . . .	333
RFC または Java RFC ディスパッチャーに対するタイムアウト期間の設定 . . . . .	334
エージェントに対するタイムアウト期間の設定 . . . . .	334
1 つの文書と複数の SAP ビジネス・オブジェクトをリンクするために Content Manager アーカイブを使用可能にする . . . . .	335
Cold プログラムを使用して文書を SAP にリンクする . . . . .	336
Cold プログラムを使用して、まだアーカイブされていない文書をリンクする . . . . .	336
Cold プログラムを使用して、アーカイブされた文書をリンクする . . . . .	338
アーカイブのセットアップでの Java アプリケーションの統合のための構成 . . . . .	340
複数の SAP システムから文書を表示するための構成 . . . . .	341
検索済み文書のキャッシュを使用可能にする . . . . .	342
発信文書の前処理のための構成 . . . . .	342
プリプロセッサ・ユーザー出口 . . . . .	342
プリプロセッサを実行するための要件 . . . . .	343
アーカイブ・プロセスへのプリプロセッサの組み込み . . . . .	347
Collector Serverから SAP ログオン・グループへのログオンを有効にする . . . . .	348

## 第 6 部 使用 . . . . . 349

### 第 28 章 着信文書のアーカイブ . . . . . 351

キューに含まれている文書の管理 . . . . .	351
文書のインポート . . . . .	351
キューから文書を削除する操作 . . . . .	351
SAP ワークフローに作業項目を作成することによる着信文書のアーカイブ . . . . .	352
SAP ワークフローに作業項目を作成することによる SAP GUI からの着信文書のアーカイブ . . . . .	352

SAP ワークフローに作業項目を作成することによる Archiving Clientからの着信文書のアーカイブ . . . . .	353
バーコードの処理による着信文書のアーカイブ . . . . .	353

### 第 29 章 アーカイブされたオブジェクトの SAP へのリンク . . . . . 355

Content Manager にアーカイブされた文書の SAP へのリンク . . . . .	355
Archiving Client を使用した Content Manager に格納されている文書の SAP へのリンク . . . . .	355
Utility Client を使用した、アーカイブされた文書の SAP へのリンク . . . . .	356
FileNet P8 でアーカイブされたオブジェクトの SAP へのリンク . . . . .	357
Utility Client を使用した、アーカイブされた文書の SAP へのリンク . . . . .	357
P8 Client を使用した、FileNet P8 にアーカイブされたオブジェクトの SAP へのリンク . . . . .	358

### 第 30 章 着信文書のアーカイブおよびアーカイブされた文書の定期的な間隔でのリンク . . . . . 363

### 第 31 章 印刷リストの作成とアーカイブ . . . . . 365

### 第 32 章 アーカイブされた文書の表示 367

外部ビューアー・アプリケーションを使用した、アーカイブ済み文書の表示 . . . . .	367
Content Manager eClient でのアーカイブされた文書の表示 . . . . .	367
Workplace または Workplace XT に組み込まれているビューアー・アプリケーションを使用したアーカイブされた文書の表示 . . . . .	367
SAP Document Finder を使用した、Content Manager および OnDemand に格納された文書の表示 . . . . .	368

### 第 33 章 アーカイブされた印刷リストの表示 . . . . . 369

### 第 34 章 索引情報の転送 . . . . . 371

## 第 7 部 付録 . . . . . 373

### 付録 A. トラブルシューティングとサポート . . . . . 375

問題のトラブルシューティング . . . . .	375
知識ベースの検索 . . . . .	377
Fix Central からのフィックスの取得 . . . . .	378
IBM サポート部門へのお問い合わせ . . . . .	379
IBM サポート部門へのトレースおよび診断情報の送信 . . . . .	379
サポート更新情報のサブスクライブ . . . . .	380
ネットワーク接続の安定化 . . . . .	381

可変ポート使用時のネットワーク接続の安定化	381	ソケット・ダンプのアクティブ化	404
固定ポート使用時のネットワーク接続の安定化	382	ヒント	404
アーカイブのトラブルシューティング	382	すべてのアーカイブが使用可能かどうかの検査を オフに切り替える	404
アーカイブへのアクセス不能	383	Content Collector for SAP が作動可能かどうかの 確認方法	405
SAP ノートでエラーが生成される	383	Collector Server によるすべての使用可能エー ジェントの使用の回避	405
Content Manager のトラブルシューティング	384	<b>付録 B. 参照</b>	<b>407</b>
OnDemand のトラブルシューティング	384	サーバー構成プロファイル内のキーワード	407
Tivoli Storage Manager のトラブルシュー ティング	385	グローバル・キーワード	408
Collector Server のトラブルシューティング	385	DESTINATION セクション	422
Collector Server が始動しない原因の判別	385	アーカイブ固有のキーワード	425
Collector Server がサービスとして始動しない	386	コマンド解説	454
アーカイブに時間がかかりすぎる	386	archadmin	454
Content Collector for SAP クライアントのトラブ ルシューティング	386	archpro	455
アーカイブ失敗後のエラー・フラグのリセット	386	archservice	457
ヘルプ情報が表示されない	387	archstop	459
戻りコード	388	ダイナミック・リンク・ライブラリー	
ログ・ファイルとトレース	393	csclient.dll	460
Collector Server によって作成されるログ・フ ァイルとトレース	393	Utility Client のコマンド行インターフェース	461
CM エージェントによって作成されるログ・フ ァイルとトレース	403	Archiving Client のキーボード・ショートカット	462
Archiving Client と Viewing Client によって作成 されるログ・ファイルおよびトレース	403	<b>特記事項</b>	<b>465</b>
P8 Client によって作成されるログ・ファイル	403	<b>索引</b>	<b>469</b>
Utility Client によって作成されるログ・ファイ ルとトレース	404		

---

## 本書について

本書には、IBM® Content Collector for SAP Applications のインストール、構成、および使用に必要なすべての情報が含まれています。

---

## 対象読者

本書は、IBM Content Collector for SAP Applications のセットアップを担当する管理者およびユーザーを対象としています。

管理者は、使用する SAP とアーカイブを熟知している必要があります。SAP の 3 層アーキテクチャーを熟知し、文書管理とアーカイブについて基本的な知識があることが前提条件です。また、基礎となるオペレーティング・システムの操作については十分な知識が必要です。

本書ではまた、カスタマイズしたアーカイブ・クライアントを作成するために、IBM Content Collector for SAP Applications および SAP の概念を理解して、サンプル・コードを変更および拡張できるようにしようとするプログラマー向けの情報も扱います。

本書は、ユーザーを主に対象としたものではありません。ただし、アーカイブへの保存を行うユーザーに関する概念的な情報は含まれています。

---

## 本資料で使用する規則と用語

本書では、読みやすくするために、製品名を短縮形で表記しています (該当する場合)。また、IBM Content Collector for SAP Applications バージョン 2.2 のインストール時に、特定のファイルの名前やパスが変更されている可能性があります。このセクションでは、デフォルトの名前が示されています。

- IBM Content Collector for SAP Applications バージョン 2.2 は、*Content Collector for SAP* に省略されます。
- より読みやすくするために、多くの場合、以下の製品名は、以下の表に示すように省略されます。

フルネーム	省略名
Content Manager Enterprise Edition	Content Manager
Content Manager OnDemand	OnDemand
FileNet® Application Connector for SAP R/3, J2EE Edition	FileNet Application Connector for SAP
FileNet Application Engine	Application Engine
FileNet Content Engine	Content Engine
FileNet Image Services	Image Services
FileNet Process Engine	Process Engine
FileNet Workplace	Workplace

フルネーム	省略名
FileNet Workplace XT	Workplace XT

- *Content Manager Enterprise Edition* または *Content Manager* は、製品のバージョン 8 を示します。本書で製品のバージョン 7 に言及する場合は、バージョン番号を追加して『Content Manager Enterprise Edition バージョン 7』または『Content Manager バージョン 7』と表記します。
- *<InstallHome>* は、Content Collector for SAP がインストールされているディレクトリーの絶対パスを表します。デフォルトのインストール・パスは以下のとおりです。
  - Linux および UNIX システム上: /opt/IBM/iccssap
  - Windows 上: C:\Program Files\IBM\ICCSAP
- *FileNet P8* オブジェクト は、アーカイブされた文書、フォルダー、保管された検索、検索テンプレート、またはこれらの組み合わせの総称として使用されます。
- アーカイブ は、データ、文書、または印刷リストをアーカイブに格納し、将来の検索のために SAP ビジネス・オブジェクトにリンクするプロセスです。
- リンク は、既にアーカイブに格納されているオブジェクトが将来のリトリブのために SAP ビジネス・オブジェクトにリンクされるプロセスです。
- デフォルトのサーバー構成プロファイルは、archint.ini です。これは Windows のインスタンス・ディレクトリー *<InstallHome>\%Server\instances\instance01* に置かれます。
- デフォルトのクライアント構成プロファイルは、CSClient.ini です。そのファイルは、%SystemRoot% ディレクトリーにあります。
- FileNet P8 をアーカイブとして使用し、FileNet Content Federation Services for FileNet Image Services をインストール済みの場合、Image Services に格納した文書には、FileNet P8 を使用してアクセスできます。これ以降、「FileNet P8 に格納された文書」などのフレーズには、Image Services 文書が含まれます。
- P8 キュー は、FileNet P8 に格納される文書やこれから処理される文書を保持するキューです。これらのキューは「BPM キュー」とも呼ばれます。
- 基本環境 は、SAP GUI、Content Collector for SAP の Collector Server、および 1 つ以上のアーカイブ で構成されます。

## 構文図の読み方

構文図は、Content Collector for SAP コマンドの構文を示すために使用します。

構文図は、パスを左から右、上から下へとたどり、途中でエレメントを追加します。以下の構文図では、スペースおよびその他の文字はすべて有効な文字です。

各構文図は、右矢印の矢じりを 2 個つなげたもので始まり、右矢印と左矢印の矢じりの対で終わります。右矢印の矢じり 1 個で始まる行は、継続行です。

▶—keyword—variable\_value————▶

キーワードはすべて小文字ですが、入力する文字は大文字でも小文字でも構いません。ユーザーが指定する変数値はイタリックで示されており、通常これらは小文字で指定します。値が大文字で示されている場合は、値をそのとおりに入力する必要があります。

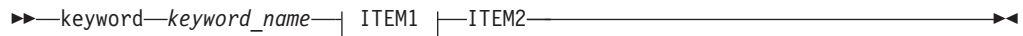
選択項目の場合、次のようにデフォルトの項目が常にメインの線より上に示されます。



オプションの構文エレメントは、次のようにメインの線の下に示されます。



場合によっては、ある項目にそれと関連する追加項目がある場合に、追加項目の構文全体を表す構文図が別に示されることもあります。例えば、次の構文図では、ITEM1 の場所に指定することが可能なまたは必要な追加情報が、「ITEM1 の変数」構文図に示されています。



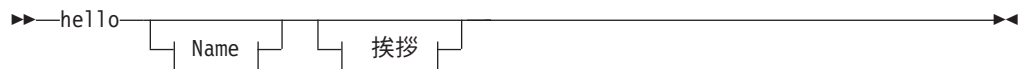
#### ITEM1 の変数:



### サンプル構文図

以下に、サンプル構文図を示します。この図には、hello コマンドで構成可能な式が示されています。

#### hello コマンド



#### Name



#### 挨拶



hello コマンドとして有効なものは以下のとおりです。

```
hello
hello name_of_person
hello, how are you?
hello name_of_person, how are you?
```

*name\_of\_person* 値の前のスペースが有効な文字であること、および *name\_of\_person* の値を抜かした場合でも **how are you?** の前のコンマをやはりコーディングすることに注意してください。

---

## アクセシビリティ

アクセシビリティ機能は、運動障害または視覚障害など障害を持つユーザーが情報技術製品を快適に使用できるようにサポートします。

IBM は、年齢や能力に関係なく、どなたでもアクセスできる便利な製品をご提供できるよう、努めています。

### アクセシビリティ機能

次のリストに、主要なアクセシビリティ機能を示します。

- キーボードのみによる操作
- 画面読み上げ機能および画面拡大機能などの支援機能
- 色、コントラスト、フォント・サイズなどカスタマイズ可能な表示属性

### キーボード・ナビゲーション

本製品では、標準的な Microsoft Windows ナビゲーション・キーが使用されています。

### IBM とアクセシビリティ

IBM のアクセシビリティへの積極的な取り組みについて詳しくは、<http://www.ibm.com/able/> にある「IBM Accessibility - Human Ability and Accessibility Center」を参照してください。

---

## ご意見の送付方法

IBM にお客様のご意見をお寄せください。

以下のいずれかの方法を使用して、コメントをお送りいただくことができます。

- 「Information Management Reader Comment Form」ホーム・ページへアクセスしてください。

[https://www14.software.ibm.com/webapp/iwm/web/signup.do?lang=en\\_US&source=swg-rcf](https://www14.software.ibm.com/webapp/iwm/web/signup.do?lang=en_US&source=swg-rcf)

フィードバック・ページでご意見を記入してお送りください。

- E メールで [swsdid@de.ibm.com](mailto:swsdid@de.ibm.com) へご意見をお送りください。製品名、製品のバージョン番号、および情報の名前と資料番号 (該当する場合) を含めてください。特

定のテキストに関するご意見である場合は、テキストの位置 (タイトル、表番号、ページ番号など) を記入してください。

- 本書の巻末にあるフォームに記入して、郵便または FAX で送るか、IBM 担当員にお渡しください。





---

## 第 1 部 製品の概要

Content Collector for SAP は、SAP ユーザーが業務をより効率的に行うのに役立つ、先進のアーカイブ機能を提供します。あらゆるタイプのビジネス情報へのアクセスを提供するほか、低コストのディスクやテープへの古い情報の転送をサポートし、システム・パフォーマンスを改善します。次のような拡張機能が組み込まれています。

- SAP アプリケーションの拡大を管理することにより、システム・パフォーマンスを改善する
- ハードウェアを追加するための投資を削減する
- 実質的にネットワーク上のすべての権限があるユーザーから、ビジネス文書を利用できるようにする
- SAP から ILM を介して、アーカイブされた SAP トランザクションに対する保存期間と法的保留期間を有効にすることにより、規制要件および法的要件に適合できるようにする
- SAP GUI より文書に簡単にアクセスできるようにすることで、生産性を向上させる
- Content Manager Enterprise Edition、Content Manager OnDemand、Tivoli® Storage Manager、および FileNet P8 アーカイブと統合する



---

## 第 1 章 Content Collector for SAP のアーキテクチャー

Content Collector for SAP は複数のコンポーネントで構成されています。これらのコンポーネントを使用して、データ、文書、および印刷リストのアーカイブおよび表示を行うことができ、アーカイブされた文書をリンクできます。

Content Collector for SAP のコンポーネントは次のとおりです。

- Collector Server は、Content Collector for SAP の中心となるコンポーネントです。これはデータ、文書、および印刷リストのアーカイブ、リンク、リトリート、および更新に関するすべての操作を処理します。
- 以下のクライアント
  - Windows 上: Archiving Client
  - Windows 上: Viewing Client
  - Utility Client
  - P8 Client。これは、FileNet P8 がサポートするすべてのオペレーティング・システムにインストールできます。これは、Workplace または Workplace XT にある Browse ポートレットおよび Queue ポートレットで構成されています。P8 Client は以下の追加コンポーネントを必要とします。
  - Windows の場合: SAP GUI と P8 Client の間のインターフェースである P8 Client SAP Connector です。これを使用して SAP GUI から OLE 要求を受信し、それを P8 Client に送信します。

FileNet Application Connector for SAP では、P8 Client SAP Connector は *OLE* サーバー として知られていました。

Viewing Client および Archiving Client は、Content Collector for SAP のダイナミック・リンク・ライブラリー (DLL) に基づいています。

4 ページの図 1 は、Content Collector for SAP 環境を表しています。この図は、Content Collector for SAP の個別のコンポーネント、および Content Collector for SAP がどのように SAP およびアーカイブと通信するかを示しています。

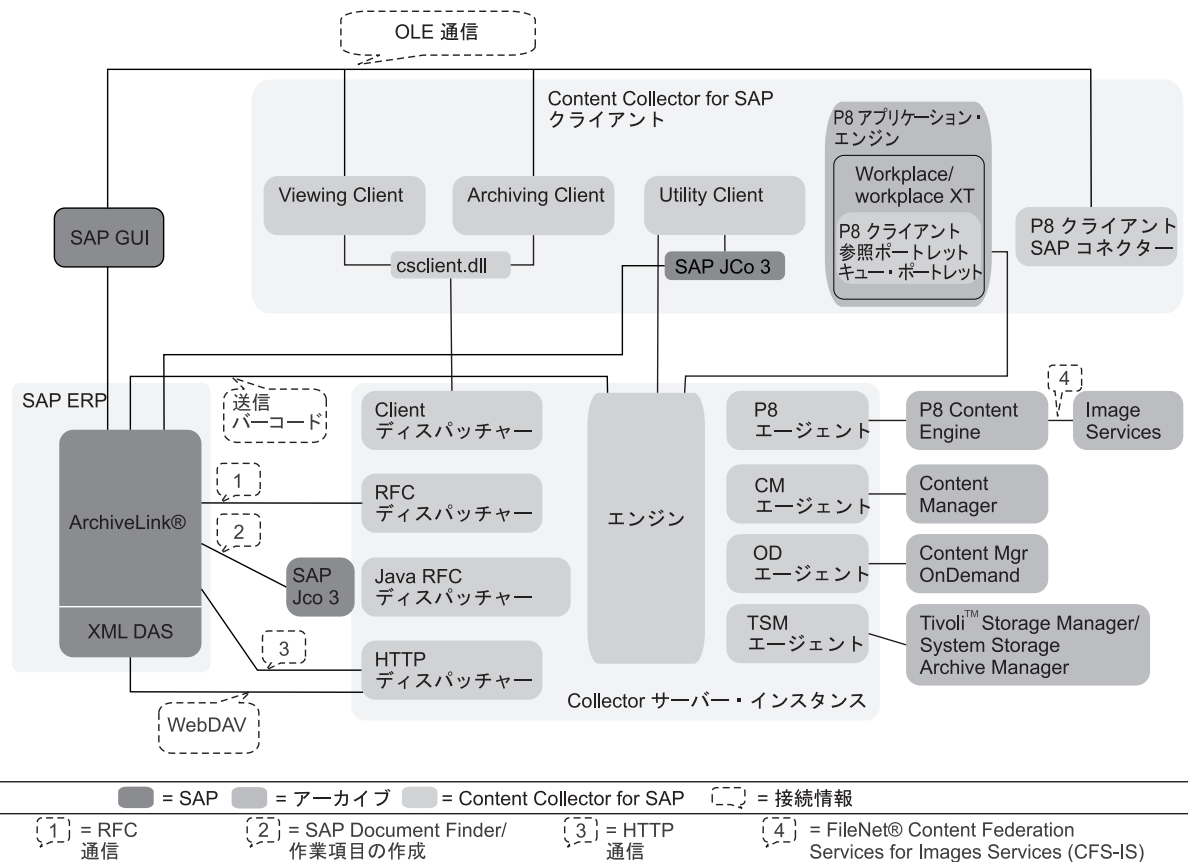


図 1. Content Collector for SAP 環境のアーキテクチャ

## Archiving Client

Content Collector for SAP でサポートされている任意のアーカイブにスキャンされた文書をアーカイブするには、Archiving Client を使用します。アーカイブ中は、各文書は SAP ビジネス・オブジェクトにリンクされます。Archiving Client は Windows でのみ使用可能です。

次のいずれかの方法で、Archiving Client は文書をリンクできます。

- SAP ワークフローで文書の作業項目を作成する。
- 文書のバーコードを、SAP の「**Open Barcode**」テーブルにアップロードする。

Archiving Client は、以下の SAP 文書のアーカイブ方式をサポートします。

- SAP ビジネス・ワークフローを使用した早期アーカイブ
- 同時アーカイブ
- バーコードによる遅延アーカイブ

Archiving Client は、ファイル・システムおよび Content Manager ワーク・バスケットからの文書を処理できます。

---

## Viewing Client

Viewing Client は、文書を表示するために使用します。これは、Object Linking and Embedding (OLE) を介して SAP GUI から要求を受け取り、外部ビューアー・アプリケーションを開きます。Viewing Client は Windows でのみ使用可能です。

### 注釈処理アプレット

Viewing Client の注釈処理アプレットを使用して、Web ブラウザーで表示している文書に注釈を追加します。これらの注釈は、文書によって永久的に保存されます。このようにすると、アーカイブ済み文書および関連する注釈についての情報を共有できます。

新しいメモは、既存のメモに追加されます。注釈が作成された日時が保存されます。

### メール・アプレット

Viewing Client のメール・アプレットを使用すると、Web ブラウザーで表示している文書を E メールに添付し、この E メールを別のユーザーに送信できます。文書に注釈を追加した場合、その注釈は添付文書に組み込まれ、保存されます。E メールは、Collector Serverに指定されたメール・サーバーに送信されます。

---

## Utility Client

Utility Client を使用して、索引情報を SAP からアーカイブ済み文書のメタデータに転送します (索引転送)。さらに、アーカイブ済み文書を SAPにリンクするために、このクライアントを使用します (文書リンク・プロセス)。

SAP で作成され、Content Collector for SAP を使用して Content Manager Enterprise Edition、Content Manager OnDemand、および FileNet P8 に格納された文書には、検索可能な属性は含まれません。Utility Client を使用して、これらのアーカイブ済み文書のメタデータに SAP ビジネス・オブジェクトの索引情報を追加する場合は、以下の文書も検索できます。

アーカイブ済み文書が次のアーカイブのいずれかに保管されている場合、Utility Client はこれらを SAP にリンクすることができます。

- Content Manager Enterprise Edition に直接接続されたスキャン・アプリケーションを使用して Content Manager Enterprise Edition に保管された文書。
- FileNet P8 に保管された文書。

次のいずれかの方法で、Utility Client は文書をリンクできます。

- SAP ワークフローで文書の作業項目を作成する。この場合、追加属性は索引情報として転送できます。
- 文書のバーコードを、SAP の「**Open Barcode**」テーブルにアップロードする。

---

## P8 Client

FileNet P8 に保管された文書、フォルダー、保管された検索、および検索テンプレートを、P8 Client を使用して SAP にリンクします。リンク・プロセスには Object Linking and Embedding (OLE) が使用されます。

P8 Client は、Workplace または Workplace XT にある Browse ポートレットおよび Queue ポートレットで構成されています。これには、SAP GUI と P8 Client の間のインターフェースである P8 Client SAP Connector のインストール済み環境を必要とします。P8 Client SAP Connector を使用して SAP GUI から OLE 要求を受信し、それを P8 Client に送信します。FileNet Application Connector for SAP では、P8 Client SAP Connector は OLE サーバー として知られていました。

Browse ポートレットを使用することにより、フォルダーで編成された SAP に、文書、保管された検索、および検索テンプレートをリンクできたり、フォルダー全体をリンクできたり、また、文書の特定のバージョンをリンクできたりします。選択した各文書およびフォルダーについて、SAP Business Workplace の Inbox に作業項目が作成されます。その後で、どの SAP インバウンド・リンク・プロセスを使用するか、決めることができます。

Queue ポートレットを使用することにより、P8 キューで使用可能な文書を SAP にリンクできます。選択した各作業項目は、P8 キューから SAP Business Workplace の Inbox に移動されます。その後で、どの SAP インバウンド・リンク・プロセスを使用するか、決めることができます。

文書をリンクする場合、複数のユーザーが作業を行う多くの文書をリンクするには、Queue ポートレットを使用します。文書の特定のバージョンをリンクするには、Browse ポートレットを使用します。

P8 Client は、以下のようなすべての SAP インバウンド・リンク・プロセスをサポートします。

- 文書リンクは、SAP ビジネス・オブジェクトが作成される前に作成されます。
- 文書リンクは、SAP ビジネス・オブジェクトが作成される時に作成されます。
- 文書は既存の SAP ビジネス・オブジェクトにリンクされます。

さらに、P8 Client は大量アーカイブをサポートします。

---

## 第 2 章 基本機能と拡張機能

ご使用の SAP 環境に Content Collector for SAP を統合すると、多くのメリットがあります。この情報には Content Collector for SAP の最も重要な機能が説明されています。

---

### データのアーカイブ

SAPシステムが実働段階に移行すると、そのデータベースは通常、データベース・サーバーのローカル・ハード・ディスク上で、十分なデータのストレージが可能なサイズを持ちます。生産中は、データベースの拡大率は、1年に30%から50%に達することも珍しくなく、そうした場合は、しばしば1年ないし2年以内にシステム・パフォーマンスと管理業務に影響が出ます。Content Collector for SAP を使用して、通常のシステム操作であまり使用されていない大量のデータをアーカイブできます。

データベースの急速な拡大は、次のような悪影響を及ぼします。

- 通常、物理表は、データベースに直接接続されたハード・ディスクに保管されるので、ハード・ディスクの所要量増大は避けられません。
- データベースの管理保守が増えることによって必要となる業務量が、許容の限度を超えます。
- データベース表ごとの行数が増えるので、基本操作（これらの表に対する照会の実行など）が遅くなります。このような遅延が積み重なると、データベースへのアクセスを試みたときの応答時間が短くなります。

Content Collector for SAP が提供するアーカイブ処理には、以下の利点があります。

- SAP の即時操作で使用するストレージ以外のストレージ・メディアに、データを移動させることができます。
- アーカイブされたデータは一般に圧縮されるため、場所をとりません。
- アーカイブされたデータへはいつでも SAP からアクセスできます。
- アーカイブされたデータは、SAP システムのハードウェア変更やリリース変更による影響を受けません。

---

### 文書のアーカイブ

法的な理由や社内ポリシーにより、企業は文書を一定期間保管する必要があります。紙文書やマイクロフィッシュでのファイリングには巨大な収納場所が必要です。紙文書やマイクロフィッシュはローカル・ユーザーからしか利用できず、複数のユーザーがそれを必要とするときには複製しなければなりません。さらに、紙文書やマイクロフィッシュの検索は時間がかかり、非効率的な場合があります。Content Collector for SAP を使用すると、文書を電子的に処理できます。

文書の電子的な処理には、次のようなメリットがあります。

- 費用効率の高いストレージ・メディアを使用できます。
- 従来方式のアーカイブ照会による遅延がなく、権限があるすべてのユーザーが文書にアクセスできます。
- 複数のユーザーが同じ文書に同時にアクセスできます。
- SAP のワークフローを組み込み、既存の作業ルーチンを最適化できます。

Content Collector for SAP は、次のすべてのタイプの SAP 文書を扱うことができます。

#### 着信文書

業者の送り状など、郵便やファクシミリによって会社に届く文書で、ラスタラー・イメージとして保管されます。

#### 発信文書

通常は印刷されている文書で、受信者に向けて発信されます。これらの文書を Content Collector for SAP を使用してアーカイブしておくこと、社内外の監査がある場合や、お客様や業者からの照会があった場合に素早く検索できます。

#### デスクトップ・ファイル

業務用アプリケーションや Common Agent Services (CAS) アプリケーションなどで作成される文書です。これらの文書は Content Collector for SAP で保管でき、デスクトップ・オフィス・インテグレーション (BC-CI) や文書管理システム (DMS) を使用して SAP からアクセスできます。

この情報は着信および発信文書のアーカイブ方法、およびアーカイブされた文書をリンクして表示する方法について説明します。さらに、これらのタスクのためにご使用の環境を構成する方法について説明します。

次の各トピックについては、ご使用の SAP 資料を参照してください。

- デスクトップ・ファイルのアーカイブと表示
- これらのタスク用の SAP の構成

## SAP ワークフローに作業項目を作成することによる着信文書のアーカイブ

SAP ワークフローで作業項目を作成することによる文書のアーカイブは、帳簿記入などの対応する SAP ビジネス・オブジェクトが作成される前に文書がスキャンおよびアーカイブされるプロセスです。文書は、作業項目として SAP ワークフローに配置されます。対応する SAP ビジネス・オブジェクトおよび文書へのリンクは、ワークフローが処理されるときに作成されます。

SAP では、このプロセスは、「SAP ビジネス・ワークフローを使用した早期アーカイブ」として知られていました。

このシナリオでは、次のような流れで処理が行われます。

1. 紙文書が会社に届き、担当者のもとに送られます。
2. 担当者が Content Collector for SAP を使用してその文書をスキャンし、アーカイブします。この時点で紙文書は不要になります。



アーカイブの際に、スキャンされる各文書について、既存の SAP ワークフローに作業項目が作成されます。これは、スキャンされる各文書が SAP 文書タイプと関連付けられ、それが今度は SAP ワークフローに関連付けられることを意味します。

3. クラークは、SAP Business Workplace の Inbox に作業項目があることを確認し、ワークフローを開始します。
4. ワークフローの結果、アーカイブされた文書にリンクされた SAP ビジネス・オブジェクトが作成されます。
5. 担当者は、この文書にリンクされた SAP ビジネス・オブジェクトを使用して、アーカイブされた文書にアクセスできます。

アーカイブ・プロセスは次のいずれかの方法で開始できます。

- Object Linking and Embedding (OLE) を使用して SAP GUI から開始。

Archiving Client で、アーカイブされる文書を選択します。選択した各文書について、SAP GUI から Archiving Client へ OLE 要求を送信します。

- Archiving Client から開始。
- 文書をスキャンおよびアーカイブできるスキャン・アプリケーションから開始。

スキャン・アプリケーションは、Content Collector for SAP のダイナミック・リンク・ライブラリー (csclient.dll) を使用します。

## 着信文書の同時アーカイブ

同時アーカイブは、SAP ビジネス・オブジェクトが作成されるときに文書がアーカイブされるプロセスです。

このシナリオでは、次のような流れで処理が行われます。

1. 文書が会社に届きます。
2. 担当者が文書をスキャンし、ファイル・システムに保管します。
3. 担当者は SAP GUI で文書の帳簿記入を行い、それによって SAP ビジネス・オブジェクトが作成されます。帳簿記入がされると直ちに、Archiving Client が文書をアーカイブし、これを SAP ビジネス・オブジェクトにリンクします。

帳簿記入の結果、SAP ビジネス・オブジェクトが作成され、文書がアーカイブされるため、このシナリオでは SAP ワークフローは必要ありません。

## バーコードの処理による着信文書のアーカイブ

バーコードの処理による文書のアーカイブは、対応する SAP ビジネス・オブジェクトが作成された後で文書がアーカイブされるプロセスです。文書のバーコードは、文書と SAP ビジネス・オブジェクトの間のリンクを作成するために使用されます。文書はアーカイブされるまで、紙の形式で社内で回覧されます。

SAP では、このプロセスは、「バーコードによる遅延アーカイブ」として知られていました。

このシナリオでは、次のような流れで処理が行われます。

1. 紙文書が会社に到着すると、担当者は紙文書にバーコード・ラベルを付け、帳簿への記入とバーコード入力を行います。このようにして、バーコードに関連付けられた SAP ビジネス・オブジェクトが作成されます。
2. 担当者は紙文書をアーカイブの部署に送ります。
3. 紙文書はスキャンされ、その品質や完成度が調べられます。スキャン・アプリケーションが、文書に付いているバーコードを認識し、文書を電子的にファイル・システムに保管します。
4. Archiving Client はファイル・システムから電子文書を読み取り、アーカイブします。さらに、アーカイブされた文書のバーコードを SAP に送り、そこでバーコードは「Open Barcode」表に保管されます。
5. SAP は、一致するバーコードを含むビジネス・オブジェクトが存在するかどうかを検査します。存在する場合、SAP はそのビジネス・オブジェクトにアーカイブ済み文書へのリンクを作成します。
6. バーコードが「Open Barcode」表から削除されます。
7. SAP GUI から、担当者はアーカイブされた文書の表示を要求できます。文書を開くために、ビジネス・オブジェクト内のこのリンクが使用されます。

このアーカイブ・プロセスでは、スキャンした文書をスキャン・アプリケーションが保管するファイル・システムに Archiving Client がアクセスできることが必要です。SAP GUI は必要ありません。

定期的な間隔で文書を自動的にアーカイブするように、Archiving Client をセットアップすることができます。

## 発信文書のアーカイブ

発信文書のアーカイブは、文書が SAP で作成された後に、アーカイブに保管されるプロセスです。文書は表示、印刷、更新、削除することができます。Content Collector for SAP のプリプロセッサ出口を使用すると、文書が保管される前に処理することができます。

---

## 印刷リストのアーカイブ

印刷リストは、レポート、分析、または本のジャーナルなどの、SAP により作成され、印刷用にフォーマット設定された文書です。これには、例えば顧客が過去に購入した品目についての情報（注文番号や個々の注文の価額など）が含まれています。印刷リストは通常、印刷されます。Content Collector for SAP を使用して印刷リストをアーカイブできます。

---

## オブジェクトのリンク

既にアーカイブで使用可能ではあっても、まだ SAP にリンクされていない文書、フォルダー、保管された検索、および検索テンプレートがある場合があります。Content Collector for SAP は、オブジェクトが保管されるアーカイブのタイプに応じて、さまざまなリンク方式を提供します。

## スキャン・アプリケーションによりアーカイブされた Content Manager 文書のリンク

スキャン・アプリケーションによりアーカイブされた、Content Manager Enterprise Edition に直接リンクされた文書があるとしたします。このような文書は、SAP にリンクされません。それらは、SAP ではアクセスできない項目タイプ内に格納される可能性すらあります。

文書が SAP によってアクセスできる項目タイプに格納されている場合、文書と SAP の間の接続は以下のどちらかの方法で確立できます。

- バーコードと文書 ID を SAP にアップロードして、これらを「**Open Barcode**」表に保管する。文書のリンクの手順には、Archiving Client または Utility Client を使用できます。
- SAP ワークフローに作業項目を作成する。このリンク手順には、Utility Client を使用できます。Utility Client は索引情報として追加属性を転送できます。

文書が SAP によってアクセスできない項目タイプ内に保管されている場合は、バーコードの処理によってのみ文書をリンクできます。この場合、Utility Client を使用する必要があります。リンクの手順の間、Utility Client は SAP によってアクセスできる項目タイプに文書を転送します。さらに、SAP が必要とする文書に、DocID と DocProtection という属性を追加します。

クライアントの代わりに、Cold プログラムを使用して文書をバーコードとリンクすることもできます。文書がワーク・バスケットになく、ワーク・バスケットに入れるには時間がかかりすぎたり複雑すぎたりする場合に、このプログラムを使用します。

## FileNet P8 オブジェクトのリンク

FileNet P8 に保管されている文書、フォルダー、検索結果、および検索テンプレートを、SAP にリンクできます。オブジェクトをリンクするには、Utility Client または P8 Client のポートレットを使用できます。

Utility Client は、P8 キューにあるすべての文書と SAP との間の接続を、次のいずれかの方法で確立します。

- バーコードと文書 ID を SAP にアップロードして、これらを「**Open Barcode**」表に保管する。
- SAP ワークフローに作業項目を作成する。追加属性は索引情報として転送できません。

P8 Client の Browse ポートレットで、フォルダー全体や、フォルダーで編成されたオブジェクト（文書、保管された検索、および検索テンプレート）をリンクできます。特定バージョンの文書をリンクすることも可能です。

P8 Client の Queue ポートレットを使用して、P8 キューで使用可能な文書をリンクできます。リンクされるのは、常に文書の最新リリース・バージョンです。

選択した各オブジェクトについて、SAP Business Workplace の Inbox に作業項目が作成され、ユーザーは、SAP が提供するどのインバウンド・リンク・プロセスを使用するか、決めることができます。

大容量の文書をリンクする場合、バーコードがリンクを作成するために使用される場合、またはリンクをバッチ・ジョブとしてスケジュールする場合は、Utility Client を使用します。Utility Client は常に文書のリリース済みのバージョンにリンクされます。選択した文書をリンクする場合、ご使用の文書の選択したバージョンをリンクする場合、およびフォルダー、保管された検索、および検索テンプレートをリンクする場合は、P8 Client を使用します。

## Cold プログラムを使用して文書をリンクする

SAP ArchiveLink を使用して処理できず、そのため SAP ビジネス・オブジェクトにリンクされない文書がある場合があります。Content Collector for SAP がサンプル・コードとして提供する Cold プログラムを使用して、文書のバーコードを処理することによって、文書を SAP ビジネス・オブジェクトにリンクできます。

文書はまだアーカイブする必要はありません。この Cold プログラムはニーズに合わせて変更できます。

**例:** SAP オブジェクトにリンクされた文書を印刷し、それを顧客に送付します。顧客はその文書に署名し、返送します。この文書と SAP ビジネス・オブジェクトとの間のリンクは、文書が印刷されたときに失われています。署名された文書のスキャンおよびアーカイブを行った後に、Cold プログラムは SAP ビジネス・オブジェクトとのリンクを再作成します。これで、アーカイブされた文書に SAP GUI から直接にアクセスできます。

アーカイブされた文書をリンクする場合、Content Manager Enterprise Edition、Content Manager OnDemand、または FileNet P8 に保管する必要があります。

Content Manager Enterprise Edition に保管された文書をリンクするには、Archiving Client または Utility Client も使用できます。ただし、文書がワーク・バスケットになく、ワーク・バスケットに入れるには時間がかかりすぎたり複雑すぎたりする場合には、Cold プログラムを使用します。

---

## 文書の前処理

発信文書は、アーカイブされる前に、表示や印刷のためにプリプロセッサによって変更できます。Content Collector for SAP は、ユーザーが提供する 1 つ以上のプリプロセッサを含めることができるプリプロセッサ・ユーザー出口を提供します。MIME タイプごとに 1 つのプリプロセッサを使用できます。

特定のビューアー・アプリケーションを必要とするフォーマットで文書が保管されているが、その文書を表示する必要のあるすべてのコンピューターにはアプリケーションがインストールされていないという場合があります。また、TIFF 形式の複数の単一ページ文書を、1 つのマルチページ TIFF 文書として表示しようとする場合もあります。そのような文書の表示を容易にするために、例えば文書の形式を PDF に変更したり、複数文書を 1 つの TIFF 文書にマージしたりするような変換プログラムを、プリプロセッサとして使用できます。

---

## 文書のリトリブと表示

Content Collector for SAP では、アーカイブされた文書の検索および表示にいくつかの選択肢があります。印刷リストは、SAP GUI を使用すると表示のみが可能です。

外部ビューアー・アプリケーションを使用して、サポートされているアーカイブに保管されている任意の文書を表示できます。この目的のためには、文書を SAP GUI から開きます。Object Linking and Embedding (OLE) 要求が Viewing Clientを開始し、次にこのクライアントが、ユーザーの選択したビューアー・アプリケーションを開始します。

Content Manager Enterprise Edition および Content Manager OnDemand に保管された文書は、SAP Document Finder を使用して SAP GUI から見ることができます。Content Manager および OnDemand を検索するために SAP Document Finder を有効にする場合は、表示する文書も検索できます。

Content Manager Enterprise Edition および FileNet P8 に保管された文書は、SAP GUI のインストールを必要としないビューアー・アプリケーションによっても表示できます。

- Content Manager Enterprise Edition に保管された文書は、Content Manager eClient を使用して表示できます。
- FileNet P8 に保管された文書は、Workplace または Workplace XT に組み込まれているビューアー・アプリケーションによって表示できます。
  - MIME タイプが image/tiff、image/bmp、image/gif、および image/jpeg の文書は、FileNet P8 の Image Viewer を使用して表示できます。
  - サポートされている他のすべての MIME タイプの文書は、Workplace または Workplace XT に付属しているブラウザで開きます。
  - フォルダー、検索結果、および検索テンプレートは常に、Workplace または Workplace XT で表示できます。

SAP で作成され、Content Collector for SAP を使用して Content Manager Enterprise Edition、Content Manager OnDemand、および FileNet P8 に格納された文書には、検索可能な属性は含まれません。SAP ビジネス・オブジェクトに含まれる索引情報をこれらのアーカイブされた文書のメタデータに追加する場合は、これらの文書も検索できます。



---

## 第 3 章 新機能

Content Collector for SAP バージョン 2.2 は CommonStore for SAP バージョン 8.4 と FileNet Application Connector for SAP R/3, J2EE Edition バージョン 2.1 を統合します。このセクションでは、主要な改善点または機能拡張について要約し、詳しい情報が記載されている関連トピックを示します。

### Content Collector for SAP バージョン 2.2 フィックスパック 1 の新機能

#### マイグレーション:

Content Collector for SAP は、Image Services V4.2 に保管されている文書を再利用できるようになりました。FileNet Application Connector for SAP R/3, J2EE Edition をマイグレーションする際に FileNet P8 V5.1 がインストールされている場合、文書を Content Engine にのみカタログするか、または Image Services と Content Engine にカタログするかを選択できます。詳しくは、21 ページの『Image Services 文書を再利用するための FileNet Application Connector for SAP R/3, J2EE Edition バージョン 2.1 のマイグレーションの計画』および 35 ページの『第 7 章 Image Services 文書を再利用するための FileNet Application Connector for SAP の Content Collector for SAP へのマイグレーション』を参照してください。

### Content Collector for SAP バージョン 2.2 の新機能

CommonStore for SAP または FileNet Application Connector for SAP R/3, J2EE Edition をお持ちの場合は、CommonStore for SAP バージョン 8.4 および FileNet Application Connector for SAP バージョン 2.1 に対する Content Collector for SAP の改善点および機能拡張にご関心があるでしょう。

#### CommonStore for SAP バージョン 8.4 に対する改善点と機能拡張:

- FileNet P8 での文書のアーカイブ。

文書を FileNet P8 にもアーカイブできるようになりました。着信文書をアーカイブするには、Archiving Client を使用します。発信文書をアーカイブするには、サーバー構成プロファイルのみを変更する必要があります。

詳しくは、7 ページの『文書のアーカイブ』を参照してください。

- FileNet P8 に格納された SAP への文書、フォルダー、保管された検索、および検索テンプレートのリンク。

リンクされたオブジェクトについては、検索およびオブジェクトの表示に使用できるアプリケーションに関する選択肢が増えました。オブジェクトをリンクするには、Utility Client または P8 Client のポートレットを使用できます。Content Collector for SAP バージョン 2.2 に、P8 Client がはじめて導入されました。

詳しくは、11 ページの『FileNet P8 オブジェクトのリンク』を参照してください。

- Image Services に格納されている SAP への文書のリンク。

FileNet Content Federation Services for FileNet Image Services がインストールされている場合、Image Services に格納されている文書は、FileNet P8 を介してアクセスすることができ、FileNet P8 オブジェクトのように処理することができます。

- 発信文書のアーカイブ前のプリプロセッシング。

Content Collector for SAP は、ユーザーが提供する 1 つ以上のプリプロセッサを含めることができるプリプロセッサ・ユーザー出口を提供します。1 つのプリプロセッサが処理する文書は、同じ MIME タイプである必要があります。MIME タイプごとに 1 つのプリプロセッサを使用できます。

詳しくは、12 ページの『文書の前処理』を参照してください。

- 別のオペレーティング・システムへの Collector Server のマイグレーション。

Collector Server を特定のオペレーティング・システムにインストールし、それを他のオペレーティング・システムに移動することにした場合、既存のアーカイブにある文書を継続して使用できます。アーカイブまたは文書をマイグレーションする必要はありません。Tivoli Storage Manager アーカイブの場合、サーバー構成プロファイルにキーワードを追加する必要があります。

詳しくは、91 ページの『第 11 章 別のオペレーティング・システムへの Collector Server のマイグレーション』を参照してください。

- SAP Application Server のグループへのログオン。

バーコードの処理によって文書をアーカイブする場合、複数の SAP Application Server に作業を分散する可能性があります。Collector Server を使用可能にし、SAP Application Server のグループにログオンすることができます。

詳しくは、348 ページの『Collector Server から SAP ログオン・グループへのログオンを有効にする』を参照してください。

- FIPS 準拠のパスワード暗号化。

FIPS 準拠の拡張暗号化規格 AES-256-CBC によるパスワードの暗号化も可能になりました。この新しい規格を適用するには、サーバー構成プロファイルに 2 つの新規グローバル・キーワードを追加する必要があります。

詳しくは、408 ページの『グローバル・キーワード』を参照してください。

- Collector Server の集約ログ・ファイルとトレース。

Collector Server と Content Collector for SAP クライアントの個別のログが、分析およびトラブルシューティングを容易にするために、単一のログに集約されません。

詳しくは、393 ページの『Collector Server によって作成されるログ・ファイルとトレース』を参照してください。

#### **FileNet Application Connector for SAP R/3, J2EE Edition バージョン 2.1 に対する改善点と機能拡張:**

- 索引転送。



SAP ビジネス・オブジェクトに含まれる索引情報を、アーカイブされた文書に転送することができます。その後、アーカイブされた文書を検索できます。

詳しくは、13 ページの『文書のリトリブと表示』を参照してください。

- 追加のアーカイブのサポート。

文書を Content Manager Enterprise Edition、Content Manager OnDemand、および Tivoli Storage Manager にアーカイブできるようになりました。

- SAP ログオン・グループにログオンします。

バーコードの処理によって文書をアーカイブする場合、複数の SAP Application Server に作業を分散する可能性があります。Collector Server を使用可能にし、SAP ログオン・グループにログオンすることができます。

詳しくは、348 ページの『Collector Serverから SAP ログオン・グループへのログオンを有効にする』を参照してください。

- FileNet P8 文書のように、Image Services 文書を処理。

FileNet Content Federation Services for FileNet Image Services をインストールした場合、Image Services に格納されている文書は FileNet P8 で使用可能です。Content Collector for SAP は、FileNet P8 に格納されている文書のように、それらをリンクすることができます。



---

## 第 2 部 計画

Content Collector for SAP をインストールする前に、計画アクティビティーを実行して、すべての要件が満たされており、前提条件のタスクが完了していることを確認します。

基本的な環境として、Collector Server、SAP、および少なくとも 1 つのアーカイブが必要です。実行するタスクによっては、1 つ以上の Content Collector for SAP クライアントも必要になります。



---

## 第 4 章 マイグレーションの計画

Content Collector for SAP を使用して、FileNet Application Connector for SAP R/3, J2EE Edition または CommonStore for SAP で使用するために構成されたアーカイブに保管されている文書とデータを再利用することができます。

Content Collector for SAP は以下のマイグレーション・シナリオをサポートします。

- Content Collector for SAP への FileNet Application Connector for SAP R/3, J2EE Edition、バージョン 2.1 のマイグレーション。Image Services 上および FileNet P8 で FileNet Application Connector for SAP が格納している文書の使用を続行できます。
- CommonStore for SAP バージョン 8.4 の Content Collector for SAP へのマイグレーション。
- Content Manager Enterprise Edition バージョン 8 の読み取り専用項目タイプへの Content Manager Enterprise Edition バージョン 7 の索引クラスのマイグレーション。
- 別のオペレーティング・システムへの Collector Server のマイグレーション。

---

### FileNet Application Connector for SAP R/3, J2EE Edition、バージョン 2.1 のマイグレーションの計画

Content Collector for SAP バージョン 2.2 は、FileNet Application Connector for SAP が Image Services または FileNet P8 に格納した文書を再利用できます。

FileNet Application Connector for SAP をマイグレーションするユーザーは、FileNet Application Connector for SAP、Image Services、および FileNet P8 についての深い知識を持っている必要があります。このユーザーが、これらのシステムをセットアップした人であれば理想的です。

### Image Services 文書を再利用するための FileNet Application Connector for SAP R/3, J2EE Edition バージョン 2.1 のマイグレーションの計画

Content Collector for SAP は、Image Services でカタログされている文書が Content Engine でもカタログされている場合に、その文書を再利用できます。

カタログ とは、文書のメタデータ、および任意のアノテーションを製品カタログに保管することを意味します。カタログされた文書は、検索および表示することができます。文書の内容、つまり、文書を構成するファイルは、メタデータやアノテーションから独立して保管されます。

Content Engine カタログで Image Services 文書のメタデータおよびアノテーションを使用可能にするには、FileNet P8 が必要です。FileNet P8 インストール済み環境がある場合は、このインストール済み環境を使用できます。FileNet Content

Federation Services for FileNet Image Services (CFS-IS) (Content Engine と Image Services の間のブリッジとして機能する) は、FileNet P8 と一緒にインストールされます。

Content Collector for SAP は以下のマイグレーション・シナリオをサポートします。

- Image Services バージョン 4.1.2 と FileNet P8 バージョン 4.0、バージョン 4.5.0、バージョン 4.5.1、またはバージョン 5.0 がある場合、Content Engine カタログは、Image Services カタログから更新を受け取ることができます (ただし、その逆は不可)。マイグレーションされた文書に対する更新と新規文書は、FileNet P8 でのみ表示されます。

Image Services 文書のコンテンツは、Image Services 上に残ります。

- Image Services バージョン 4.2 と FileNet P8 バージョン 5.1 がある場合、Content Engine カタログおよび Image Services カタログを両方向で同期できます。同期のプロセスは、双方向フェデレーション または双方向レプリケーションと呼ばれます。マイグレーションされた文書に対する更新は、FileNet P8 のみ、または Image Services と FileNet P8 で表示されるようにすることができます。新規文書は、その文書タイプに応じて、Content Engine のみ、または Image Services と Content Engine でカタログすることができます。

マイグレーションされた Image Services 文書の内容は、Image Services 上に残ります。新規文書および文書更新に関して、文書の内容を FileNet P8 または Image Services のどちらに保管するかを決定することができます。その決定は、文書がどこにカタログされているか、またカタログが同期されるかどうかに関係なく行えます。

**重要:** 文書の複数のバージョンを FileNet P8 に保管することを計画する場合、文書の最初のバージョンのみを Image Services と同期できます。Content Collector for SAP は、複数の文書バージョンの双方向フェデレーションをサポートしていません。SAP ノートを文書に追加するか、ECL ビューアーを使って文書を更新する場合にも、新規バージョンが作成されます。

以下の表は、サポートされているバージョンの Image Services とサポートされているバージョンの FileNet P8 の併用の可能性と、双方向フェデレーションがどの組み合わせに対してサポートされているかを示しています。

表 1. 双方向フェデレーションがサポートされている Image Services と FileNet P8 の組み合わせの概要

	Image Services バージョン 4.1.2	Image Services バージョン 4.2	CFS-IS による双方向フェデレーションのサポート
FileNet P8 バージョン 4.0	可	可	不可
FileNet P8 バージョン 4.5.0	可 最小: Image Services バージョン 4.1.2 フィックスパック 001	可	不可

表 1. 双方向フェデレーションがサポートされている Image Services と FileNet P8 の組み合わせの概要 (続き)

	Image Services バージョン 4.1.2	Image Services バージョン 4.2	CFS-IS による双方向フェデレーションのサポート
FileNet P8 バージョン 4.5.1	可 最小: Image Services バージョン 4.1.2 フィックスパック 002	可	不可
FileNet P8バージョン 5.0	可 最小: Image Services バージョン 4.1.2 フィックスパック 002	可	不可
FileNet P8バージョン 5.1	可 最小: Image Services バージョン 4.1.2 フィックスパック 002	可	可 (FileNet P8 バージョン 5.1 と Image Services バージョン 4.2 が一緒に使用される場合)

## FileNet P8 文書を再利用するための FileNet Application Connector for SAP R/3, J2EE Edition バージョン 2.1 のマイグレーションの計画

Content Collector for SAP が FileNet P8 文書を再利用できるようにするには、FileNet P8 および Collector Serverを構成する必要があります。文書は FileNet P8 内に残ります。

---

## CommonStore for SAP バージョン 8.4 のマイグレーションの計画

AIX®、Linux、Solaris、および Windows 用の CommonStore for SAP バージョン 8.4 を Content Collector for SAP バージョン 2.2 にマイグレーションできます。その後は、CommonStore for SAP によって Content Manager Enterprise Edition、Content Manager OnDemand、または Tivoli Storage Manager にアーカイブされた文書の使用を続行できます。





---

## 第 5 章 インストールの計画

Content Collector for SAP をインストールする前に、Web で前提条件を確認します。

Content Collector for SAP は以下のインストール・パッケージを提供します。

- Linux、UNIX、または Windows 64 ビット・オペレーティング・システムにインストールできるサーバー・パッケージ。これには、以下の 64 ビット・モードの Content Collector for SAP コンポーネントが含まれます。
  - Collector Server
  - P8 Client
  - Utility Client
- Windows 32 ビット・オペレーティング・システムまたは Windows 64 ビット・オペレーティング・システムにインストールできるクライアント・パッケージ。これには、以下の 32 ビット・モードの Content Collector for SAP コンポーネントが含まれます。
  - Archiving Client
  - P8 Client
  - P8 Client SAP Connector
  - Utility Client
  - Viewing Client

どちらのインストール・パッケージにも、オペレーティング・システムに必要な JRE が含まれています。両方のパッケージのデフォルトのインストール・パスは <InstallHome> です。

### 注:

- Windows のみ: クライアント・パッケージとサーバー・パッケージを同じコンピューターにインストールしないでください。
- 同じオペレーティング・システム上で実行している場合は、複数のコンポーネントを一度にインストールできます。
- インストール・パッケージのすべてのコンポーネントは、P8 Client を除き、同じサーバーにインストールされます。P8 Client は、Workplace または Workplace XT と同じサーバーにインストールされます。したがって、P8 Client には両方のインストール・パッケージが含まれます。Workplace または Workplace XT が Windows にインストールされる場合にのみ、クライアント・パッケージから P8 Client をインストールします。常に、P8 Client をインストールする前に Workplace または Workplace XT をインストールします。
- P8 Client には、P8 Client SAP Connector のインストール済み環境が必要です。P8 Client SAP Connector は、P8 Client と SAP GUI の間のインターフェースであるため、クライアント・パッケージだけに含まれており、SAP GUI と同じコンピューター上で実行する必要があります。

## どの Content Collector for SAP コンポーネントをインストールするかの決定

Content Collector for SAP のどのコンポーネントをインストールする必要があるかは、実行するタスクおよび使用するクライアントに応じて異なります。

### タスクに必要な Content Collector for SAP コンポーネントおよびインストール・パッケージ: 概要

実行するタスクによっては、1 つ以上の Content Collector for SAP コンポーネントが必要です。概要では、どのコンポーネントが必要か決定するのを助け、コンポーネントが含まれているのはどのインストール・パッケージかを示します。

タスク	サーバー・パッケージ						注釈
	Collector Server	P8 Client	Utility Client	Archiving Client	P8 Client SAP Connector	Viewing Client	
	クライアント・パッケージ						
データに関するタスク							
アーカイブ	x						
アーカイブされたデータのリトリブ	x						
文書に関するタスク							
着信文書のアーカイブ	x			x			
発信文書のアーカイブ	x						
Content Manager に保管されている文書のリンク	x		x	x			Archiving Client または Utility Client のいずれかが必要です。
FileNet P8 に保管されている文書のリンク	x	x	x		x		P8 Client と P8 Client SAP Connector が必要か、Utility Client が必要かのどちらかです。
外部ビューアー・アプリケーションを使用した、アーカイブ済み文書の表示	x					x	
SAP Document Finder を使用した Content Manager 文書および OnDemand 文書の検索および表示	x						

タスク	サーバー・パッケージ				P8 Client SAP Connector	Viewing Client	注釈
	Collector Server	P8 Client	Utility Client	Archiving Client			
	クライアント・パッケージ						
Content Manager eClient を使用した、 Content Manager 文 書の表示	x						サーバー・パッ ケージとクライ アント・パッケ ージに含まれ ている eClient 拡張機 能 は、eClient サー バーにインス トールする必 要があります。
Workplace または Workplace XT を使 用した、FileNet P8 文書の表示	x						
Content Manager、 OnDemand、または FileNet P8 に格納さ れている SAP 文書 の検索を可能にする 索引情報の転送	x		x				
印刷リストに関するタスク							
印刷リストのアーカ イブ	x						
アーカイブされた印 刷リストの表示	x						

注: P8 Client には、P8 Client SAP Connector のインストール済み環境が必要です。P8 Client および P8 Client SAP Connector をクライアント・パッケージからインストールできます。P8 Client をサーバー・パッケージから、および P8 Client SAP Connector をクライアント・パッケージからインストールすることもできます。P8 Client および P8 Client SAP Connector は異なるオペレーティング・システム上で実行できます。

## アーカイブおよびリンクに使用する Content Collector for SAP クライアント: 概要

文書のバーコードの処理によって、または SAP ワークフローで各文書に対する作業項目を作成することによって、文書のアーカイブおよびリンクを行います。概要では、どのクライアントをどの方式に使用できるかを示します。

文書の場所	Archiving Client	P8 Client	Utility Client
アーカイブまたはリンクされる文書のバーコードの処理:			

文書の場所	Archiving Client	P8 Client	Utility Client
スキャンされた文書はファイル・システムで使用可能	はい 文書はサポートされている任意のアーカイブにアーカイブできます。	番号 (No)	番号 (No)
Content Manager ワーク・バスケットでアーカイブされ、Content Manager で使用可能	はい SAP からアクセスできる項目タイプ内にアーカイブされている場合。	番号 (No)	はい
FileNet P8 にアーカイブされ、P8 キューで使用可能	番号 (No)	番号 (No)	はい
FileNet P8 にアーカイブされ、P8 フォルダーで使用可能	番号 (No)	番号 (No)	番号 (No)
OnDemand にアーカイブされる	番号 (No)	番号 (No)	番号 (No)
<b>アーカイブまたはリンクされる各文書に対する SAP ワークフローでの作業項目の作成:</b>			
スキャンされた文書はファイル・システムで使用可能	はい、文書はサポートされている任意のアーカイブにアーカイブできます。	番号 (No)	番号 (No)
Content Manager ワーク・バスケットでアーカイブされ、Content Manager で使用可能	番号 (No)	番号 (No)	はい SAP からアクセスできる項目タイプ内にアーカイブされている場合。  追加属性は索引情報として転送できます。
FileNet P8 にアーカイブされ、P8 キューで使用可能	番号 (No)	はい	はい  追加属性は索引情報として転送できます。
FileNet P8 にアーカイブされ、P8 フォルダーで使用可能	番号 (No)	はい	番号 (No)
OnDemand にアーカイブされる	番号 (No)	番号 (No)	番号 (No)

## ハードウェア要件

サーバー・パッケージ内、およびクライアント・パッケージ内のコンポーネントに必要なハードウェアを確認します。

最新のハードウェア要件については、以下を参照してください。  
<http://www.ibm.com/support/docview.wss?uid=swg27019178#HW>.

## ソフトウェア要件

必要なソフトウェアが、このリリースの Content Collector for SAP がサポートするバージョン・レベルでインストールされていることを確認します。

オペレーティング・システムに加えて、少なくとも 1 つの SAP システム、1 つのアーカイブ、および Collector Serverが特定のアーカイブと通信するために必要とするコネクタが必要です。Content Collector for SAP のクライアントのいずれかのインストールには、Collector Serverのインストール済み環境が必要です。詳細については、以下の Web ページ・セクションを参照してください。

プログラムまたはコンポーネント	見出し
SAP	<a href="http://www.ibm.com/support/docview.wss?uid=swg27019178#SAP">http://www.ibm.com/support/docview.wss?uid=swg27019178#SAP</a>
SAP コンポーネント	<a href="http://www.ibm.com/support/docview.wss?uid=swg27019178#SAPCOMP">http://www.ibm.com/support/docview.wss?uid=swg27019178#SAPCOMP</a>
アーカイブ	<a href="http://www.ibm.com/support/docview.wss?uid=swg27019178#ARC">http://www.ibm.com/support/docview.wss?uid=swg27019178#ARC</a>
コネクタ	<a href="http://www.ibm.com/support/docview.wss?uid=swg27019178#CON">http://www.ibm.com/support/docview.wss?uid=swg27019178#CON</a>
Collector Server	<a href="http://www.ibm.com/support/docview.wss?uid=swg27019178#SRV">http://www.ibm.com/support/docview.wss?uid=swg27019178#SRV</a>
Archiving Client	<a href="http://www.ibm.com/support/docview.wss?uid=swg27019178#AC">http://www.ibm.com/support/docview.wss?uid=swg27019178#AC</a>
P8 Client	<a href="http://www.ibm.com/support/docview.wss?uid=swg27019178#P8C">http://www.ibm.com/support/docview.wss?uid=swg27019178#P8C</a>
Utility Client	<a href="http://www.ibm.com/support/docview.wss?uid=swg27019178#UC">http://www.ibm.com/support/docview.wss?uid=swg27019178#UC</a>
Viewing Client	<a href="http://www.ibm.com/support/docview.wss?uid=swg27019178#VC">http://www.ibm.com/support/docview.wss?uid=swg27019178#VC</a>

## 追加プログラムのインストールの計画

Content Collector for SAP およびご使用の環境で実行するタスクによっては、追加のプログラムをインストールしなければならない場合があります。次の表に各種タスクと必要なプログラムの概要を示します。

タスク	インストールするプログラム
336 ページの『Cold プログラムを使用して文書を SAP にリンクする』	Cold プログラム
371 ページの『第 34 章 索引情報の転送』	Index Transfer Enablement パッケージ
367 ページの『Content Manager eClient でのアーカイブされた文書の表示』	eClient拡張機能

タスク	インストールするプログラム
317 ページの『Secure Hypertext Transfer Protocol (HTTPS) 通信を構成する』	SAP Cryptographic Library

---

## 第 6 章 構成の計画

Collector Serverを構成する前に、使用するアーカイブを構成する必要があります。その後で、Collector Serverと SAP との間の接続をセットアップできます。

Content Collector for SAP で実行するタスク用の環境の構成を続ける前に、Collector Serverを始動します。一部のタスクには Content Collector for SAP クライアントが 1 つ必要です。必要に応じてそれらを構成してください。





---

## 第 3 部 マイグレーション

Content Collector for SAP は、FileNet Application Connector for SAP R/3, J2EE Edition または CommonStore for SAP バージョン 8.4 で使用するために構成されたアーカイブに保管されている文書とデータをユーザーがさらに使用できるような、さまざまなマイグレーション・シナリオをサポートしています。さらに、Content Manager Enterprise Edition バージョン 7 に格納されている文書を再利用できます。ご使用の Collector Server を別のオペレーティング・システムに移動することを決定する場合は、既存のアーカイブにある文書を継続して使用できます。



---

## 第 7 章 Image Services 文書を再利用するための FileNet Application Connector for SAP の Content Collector for SAP へのマイグレーション

FileNet Application Connector for SAP R/3, J2EE Edition バージョン 2.1 を Content Collector for SAP にマイグレーションすることによって、FileNet Application Connector for SAP が Image Services に格納していた文書を再利用できます。

始める前に:

- 21 ページの『Image Services 文書を再利用するための FileNet Application Connector for SAP R/3, J2EE Edition バージョン 2.1 のマイグレーションの計画』.
- 99 ページの『コンソール・モードまたは GUI モードでのサーバー・パッケージのインストール』. 少なくとも Collector Serverをインストールします。

Content Collector for SAP は、FileNet P8 で文書を格納および検索を行うことができますが、Image Services に直接アクセスすることはできません。このため、Image Services 文書を FileNet P8 で使用可能にする必要があります。

手順:

1. 『Image Services 文書に対する FileNet Application Connector for SAP の構成設定の収集』
2. 40 ページの『FileNet P8 のインストール』
3. 40 ページの『Image Services 文書の再利用のための FileNet P8 の構成』
4. 57 ページの『Image Services 文書の再利用のための Collector Serverの構成』

---

### Image Services 文書に対する FileNet Application Connector for SAP の構成設定の収集

ご使用の Image Services アーカイブおよびご使用の SAP システムについて FileNet Application Connector for SAP で指定した構成設定を収集します。収集された構成設定は、後で、Content Collector for SAPの Collector Serverを構成するときに再使用します。

アーカイブ/SAP システムの各組み合わせについて、37 ページの『Image Services を使用する FileNet Application Connector for SAP のためのワークシート IS』を印刷し、必要事項を記入します。例えば、文書がアーカイブ IS1 とアーカイブ IS2 に格納されている場合、1 つの SAP システムを使用して、ワークシートを 2 回印刷します。

注: 構成設定の収集は、Image Services および FileNet P8 のバージョンに依存していません。

以下の手順を完了して、FileNet Application Connector for SAP の構成設定を確認します。

1. ご使用の管理者 ID と管理者パスワードを使用して FileNet Application Connector for SAP にログインします。
2. 「構成 (Configuration)」 ペインから必要な設定にナビゲートします。

**次の作業:** 40 ページの『FileNet P8 のインストール』

## Image Services を使用する FileNet Application Connector for SAP のためのワークシート IS

注:

- ワークシートは、サポートされているすべてのバージョンの Image Services および FileNet P8 に適用されます。
- 表のセクション・ヘッダーは、FileNet Application Connector for SAP の「構成 (Configuration)」ペイン内の項目を反映します。
- アスタリスク (\*) でマークが付けられているすべてのフィールド名は、Content Collector for SAP では再利用されませんが、FileNet P8 の構成で必要になる可能性があります。

行	フィールド名	FileNet Application Connector for SAP の値	注釈
「リポジトリ (Repository)」 (「構成 (Configuration)」 → 「FileNet リポジトリ (FileNet Repositories)」 → ISRA_JNDI_name)			
IS1	Repository user name *		
IS2	Repository password *		
<b>SAP System</b> (Configuration → SAP Systems → SAP_system_name)			
IS3	SAP System Name		
IS4	Auth ID		
IS5	User name		
IS6	Password		
IS7	System Number		
IS8	Client Name		
IS9	Server Host		
<b>Archive Settings</b> (Configuration → SAP Systems → SAP_system_name → Archives → IS_archive_name)			
IS10	Archive name		
IS11	FileNet repository *		FileNet Application Connector for SAP で、行 IS1 と IS2 で指定した Image Services システムの ISRA JNDI 名を選択します。
IS12	Repository user name *		使用不可の場合は、行 IS1 の値を使用します。
IS13	Repository password *		使用不可の場合は、行 IS2 の値を使用します。
IS14	Enable Pure Thin mode	<input type="checkbox"/> Enabled <input type="checkbox"/> 使用不可	
IS15	Document deletion	<input type="checkbox"/> Delete <input type="checkbox"/> 閉じる	

行	フィールド名	FileNet Application Connector for SAP の値	注釈
IS16	Document Pure Thin Settings		Enable Pure Thin mode列が <b>Enabled</b> になっているすべての MIME タイプをリストします。
<b>Document Classes</b> (Configuration -> SAP Systems -> <i>SAP_system_name</i> -> Archives -> <i>IS_archive_name</i> -> Document Classes)			
IS17	Default document class		
IS18	<i>table</i>		FileNet P8 文書クラスへの MIME タイプのすべてのマッピングをリストします。例: image/tiff --> ISSAPTIF  <b>注:</b> FileNet document class列が値を示すマッピングのみをリストします。

行	フィールド名	FileNet Application Connector for SAP の値	注釈
<b>Server</b> (Configuration -> Server)			
IS19	Temporary file directory		Content Collector for SAP の Collector Server が Image Services と同じコンピュータ上にインストールされる場合、および同一時ディレクトリーが使用される場合にだけこのディレクトリーが必要です。
IS20	Page size		
<b>Bar Codes</b> (Configuration -> Bar Codes)			
IS21	Sleep duration		
IS22	Number of bar code entries		
<b>Preprocessors</b> (Configuration -> Preprocessors)			
IS23	<i>table</i>		SAP 文書タイプをすべてリストします。Preprocessor path 列に値が表示され、絶対パスを追加します。例: TIF c:%testproc.exe
<b>Security</b> (Configuration -> Security)			
IS24	Default document protection level	<input type="checkbox"/> Read <input type="checkbox"/> 更新 <input type="checkbox"/> 作成 <input type="checkbox"/> 削除	
IS25	Security check required	<input type="checkbox"/> Read <input type="checkbox"/> 更新 <input type="checkbox"/> 作成 <input type="checkbox"/> 削除	

---

## FileNet P8 のインストール

サポートされている FileNet P8 バージョンの 1 つをインストールします。FileNet Content Federation Services for FileNet Image Services (CFS-IS) は FileNet P8 と一緒に自動的にインストールされます。FileNet P8 は CFS-IS を使用して Image Services に接続します。

**始める前に:** 35 ページの『Image Services 文書に対する FileNet Application Connector for SAP の構成設定の収集』

**手順:**

1. まだ FileNet P8 インストール済み環境がない場合、または Image Services 文書に対して既存の FileNet P8 インストール済み環境を使用しない場合は、FileNet P8 をインストールします。この製品のインストール方法については、IBM FileNet P8 インフォメーション・センターを参照してください。
2. FileNet P8 バージョン 4.0.1 を使用する場合、フィックスパック 13 以降をインストールするか、APAR PJ37874 で説明されているフィックスをインストールします。

**次の作業:** 『Image Services 文書の再利用のための FileNet P8 の構成』

---

## Image Services 文書の再利用のための FileNet P8 の構成

Content Collector for SAP は、FileNet P8 の Content Engine カタログで Image Services 文書のメタデータおよびアノテーションを使用可能にした後で、Image Services 文書にアクセスできます。

**始める前に:** 『FileNet P8 のインストール』

### Image Services V4.1.2 文書を再利用するための FileNet P8 V4.0、V4.5.0、V4.5.1、または V5.0 の構成

マイグレーションの後で、Image Services 文書のメタデータおよびアノテーションが Content Engine にカタログされ、Image Services 文書を FileNet P8 文書のように扱うことができるように、FileNet P8 を構成します。Image Services 文書のコンテンツは、Image Services 上に残ります。

**手順:**

1. 『アノテーションに関するセキュリティー概念のセットアップ』
2. 41 ページの『FileNet P8 V4.0、V4.5.0、V4.5.1、または V5.0 の構成手順』

#### アノテーションに関するセキュリティー概念のセットアップ

FileNet Application Connector for SAP では、Image Services 文書のアノテーションに対する読み取り権限、書き込み権限、および実行権限を指定することができます。FileNet Application Connector for SAP のマイグレーションの後、FileNet P8 のデフォルト権限がアノテーションに対して適用されます。FileNet P8 セキュリティー概念は FileNet Application Connector for SAP のセキュリティー概念と異なるため、アノテーションのセキュリティー概念を FileNet P8 でセットアップする必要があります。



アノテーションに対する権限は、FileNet Application Connector for SAP の「アーカイブ設定 (Archive Settings)」ページから確認できます (「構成 (Configuration)」 > 「SAP システム」 > 「SAP\_system\_name」 > 「アーカイブ」 > 「IS\_archive\_name」)。

マイグレーションの後に特定のユーザーだけがアノテーションに対して読み取り、書き込み、および実行を行えるようにするには、以下の手順を実行します。

- CFS-IS によって FileNet P8 に転送される権限を確認します。FileNet P8 で適用されるデフォルトの権限も確認します。
- FileNet Application Connector for SAP のセキュリティー概念を FileNet P8 のセキュリティー概念にマップします。マップする必要がある権限とそのマップの方法については、CFS-IS および FileNet P8 のセキュリティー概念を参照してください。

詳しくは、IBM FileNet P8 インフォメーション・センターを参照してください。

- マイグレーション後にアノテーションを表示できることを確認します。Image Services 文書 (そのアノテーションを含む) は、Workplace または Workplace XT に組み込まれているビューアー・アプリケーションを使用して開くことができます。Content Collector for SAP では、文書へのアクセスが次のように制御されています。
  - 組み込みビューアー・アプリケーションを使って表示するには、文書の MIME タイプを有効にする必要があります。
  - 文書の表示が許可されるユーザーのグループを次のいずれかの方法で制限できます。
    - ユーザーは、毎回文書を表示するたびに Workplace または Workplace XT にログオンする必要があります。
    - アーカイブ内の文書はすべて、1 人のユーザー名で表示されます。このアーカイブへのアクセス権限を持つすべてのユーザーが文書を表示できます。認証は不要です。

詳細については、61 ページの『Workplace または Workplace XT に組み込まれているビューアー・アプリケーションを使用して Image Services 文書を表示するための構成』を参照してください。

次の作業: 『FileNet P8 V4.0、V4.5.0、V4.5.1、または V5.0 の構成手順』

## FileNet P8 V4.0、V4.5.0、V4.5.1、または V5.0 の構成手順

このトピックのすべての手順を実行します。詳しくは、ご使用のバージョンの FileNet P8 の IBM FileNet P8 インフォメーション・センターの『FileNet Content Federation Services for FileNet Image Services Configuration』セクションを参照してください。

始める前に:

- 40 ページの『アノテーションに関するセキュリティー概念のセットアップ』
- Image Services では、再利用される文書の文書クラスをカタログにできることを確認します。詳しくは、IBM FileNet P8 インフォメーション・センターの『Configuring Content Federation Services for FileNet Image Services』セクションを参照してください。

構成する FileNet P8 アーカイブごとに、44 ページの『Image Services V4.1.2 文書のための FileNet P8 V4.0、V4.5.0、V4.5.1、または V5.0 構成設定のワークシート IS-FN』を印刷し、以下のタスクを実行するときに指定する情報をそれに記入します。この情報は、後で Content Collector for SAP の Collector Server を構成するときに必要です。

**手順:**

1. FileNet P8 で使用可能にされる Image Services 文書を表示、作成、変更、読み取り、および削除する権限を持つ FileNet P8 ユーザーを作成します。
2. オブジェクト・ストアに対してドメインを作成するか、デフォルトのドメインを使用します。
3. アクセスする Image Services サーバーごとに固定コンテンツ装置を作成します。
4. 既存のオブジェクト・ストア内に 1 つ以上のストレージ域を作成するか、1 つ以上のオブジェクト・ストアを作成します。
5. 文書クラスのプロパティを作成します。Image Services 文書クラスに対して定義されているすべてのプロパティを作成する必要があります。また、Content Collector for SAP が文書をアーカイブ、更新、および削除する必要があるすべてのプロパティを作成する必要があります。それ以外の場合は、Image Services 文書は読み取り専用になります。

作成する必要があるプロパティの概要については、45 ページの『Image Services プロパティの FileNet P8 プロパティへのマッピング: 概要』を参照してください。

6. 各 Image Services 文書クラスに対して、FileNet P8 で文書クラスを作成し、必要なプロパティとカスタム・プロパティを割り当てます。可能であれば、FileNet P8 文書クラスに対しては Image Services 文書クラスの名前を使用します。各 FileNet P8 文書クラスに対して、ステップ 1 でデフォルト・インスタンス・セキュリティのアクセス制御リスト (ACL) に対して作成したユーザーを追加し、そのユーザーの権限を指定します。
7. Image Services 文書クラスを FileNet P8 文書クラスにマップします。
8. 各文書クラス。マッピング内で、Image Services プロパティを FileNet P8 プロパティにマップします。

どのプロパティをマップする必要があるかについての概要は、45 ページの『Image Services プロパティの FileNet P8 プロパティへのマッピング: 概要』を参照してください。

9. Image Services のアノテーションは Content Engine カタログに手動でコピーすることも、文書のメタデータと同時にカタログすることもできます。メタデータと一緒にアノテーションをエクスポートするには、「システム構成エディター (System Configuration Editor)」(fn\_edit) の「アノテーションのエクスポート (Export Annotations)」チェック・ボックスを選択します。
10. Image Services 文書のメタデータ、および任意のアノテーションを Content Engine カタログにエクスポートします。このタスクを実行するには、Remote Admin Console (RAC) ワークステーションで IS Catalog Export Tool を使用します。

Image Services カタログに対する更新が Content Engine カタログに自動的にエクスポートされるようにする場合は、IS Catalog Export Tool を使用して、Image Services 文書クラスと FileNet P8 オブジェクト・ストアの間にデフォルト・マッピングを作成します。

11. Content Engine カタログが自動的に更新されるようにします。「エンタープライズ・マネージャーのプロパティ (Enterprise Manager Properties)」ウィンドウの「IS インポート・エージェント (IS Import Agent)」ページで、「**ディスパッチャーの有効化 (Enable Dispatcher)**」チェック・ボックスを選択し、必要に応じてインポート設定を調整します。

**Image Services V4.1.2 文書のための FileNet P8 V4.0、 V4.5.0、 V4.5.1、 または V5.0 構成設定のワークシート IS-FN:**

行	フィールド名	FileNet P8 の構成の間に指定した値	注釈
IS-FN1	Repository user name		
IS-FN2	Repository password		
IS-FN3	Remote server URL		
IS-FN4	Domain		
IS-FN5	Object store		
IS-FN6	PE router URL		
IS-FN7	PE user name		
IS-FN8	PE user password		
IS-FN9	Workplace URL		
IS-FN10	Default document class		デフォルトの Image Services 文書クラスがマップされる FileNet P8 文書クラスを指定します。
IS-FN11	Document class mapping		<p>Image Services 文書クラスの FileNet P8 文書クラスへのすべてのマッピングをリストします。</p> <p>例えば、ワークシート IS の行 IS18 で、以下のマッピングをリストした場合  image/tiff --&gt; ISSAPTIF</p> <p>ご使用の文書クラスは以下のようになります。  ISSAPTIF -&gt; P8SAPTIF</p>

## Image Services プロパティの FileNet P8 プロパティへのマッピング: 概要:

Content Collector for SAP は、文書の読み取り、アーカイブ、更新、および削除を行うことができるようにするために、特定のプロパティを必要とします。必要なプロパティについて、ご使用の Image Services 文書に対して存在するすべてのプロパティをマップします。また、例えば、索引情報などとして、さらに使用するすべてのカスタム・プロパティをマップします。

### 注:

- マップされたプロパティを持つクラスだけが FileNet P8 にインポートされます。
- マップされていないプロパティは、FileNet P8 では使用できません。

### 発信 文書のプロパティのマッピング

以下の表は、特定のタスクをサポートするために、どの Image Services プロパティがどの FileNet P8 プロパティにマップされるかについての概要を示します。

Image Services プロパティ名	FileNet P8 プロパティ名	説明	データ・タイプ	FileNet P8 プロパティの最小サイズ	文書の読み取りに必須またはオプション	文書のアーカイブ、更新、および削除に必須またはオプション
F_DOCNUMBER	ISDocId	オリジナルの Image Services 文書 ID。このプロパティは、インデックス・プロパティとして指定します。	Float		必須	必須
ALFdpages	ALFdpages	文書にページ番号が付いている場合の、ALF 記述ページの合計数。	ストリング	3	オプション	必須
ALFpages	ALFpages	文書にページ番号が付いている場合の、ALF ページの合計数。	ストリング	239	オプション	必須
PageSize	PageSize	ページ番号が付いている文書のページ・サイズ。	ストリング	239	オプション	必須
SAPCompCreated	SAPCompCreated	コンポーネントが作成された日時 (UTC 形式)。	ストリング	239	オプション	必須
SAPCompModified	SAPCompModified	コンポーネントが最後に変更された日時 (UTC 形式)。	ストリング	239	オプション	必須
SAPComps	SAPComps	コンポーネント ID。	ストリング	239	オプション	必須

Image Services プロパティ名	FileNet P8 プロパティ名	説明	データ・タイプ	FileNet P8 プロパティの最小サイズ	文書の読み取りに必須またはオプション	文書のアーカイブ、更新、および削除に必須またはオプション
SAPCompSize	SAPCompSize	コンポーネント・サイズ。このプロパティを指定すると、コンポーネント・サイズを確認するためだけにコンポーネントを取り出すことができません。	ストリング	239	オプション	必須
SAPContType	SAPContType	MIME タイプ (text/plain、image/tiff など)。このプロパティは、文書の表示に必要です。	ストリング	239	オプション	必須
SAPDocDate	SAPDocDate	文書の作成日時。タイム・スタンプは、協定世界時 (UTC) 形式で表示されます。	ストリング	239	オプション	必須
SAPDocId	SAPDocId	SAP 文書 ID。このプロパティは、インデックス・プロパティとして指定します。	ストリング	40	オプション	必須
SAPDocProt	SAPDocProt	SAP 文書の保護 (作成、読み取り、更新、削除)。	ストリング	4	オプション	必須
SAPType	SAPType	SAP 文書クラス (TXT、TIF など)。このプロパティは、バーコードの処理に必要です。	ストリング	3	オプション	必須

### 着信 文書のプロパティのマッピング

以下の表は、特定のタスクをサポートするために、どの Image Services プロパティがどの FileNet P8 プロパティにマップされるかについての概要を示します。

**ヒント:** 発信文書に対する表にリストされているプロパティもマップします。

Image Services プロパティ名	FileNet P8 プロパティ名	説明	FileNet P8 データタイプ	FileNet P8 プロパティの最小サイズ	文書の読み取りに必須またはオプション	文書のアーカイブ、更新、および削除に必須またはオプション
F_DOCNUMBER	ISDocId	オリジナルの Image Services 文書 ID。このプロパティは、インデックス・プロパティとして指定します。	Float		必須	必須
Document_Title	DocumentTitle		ストリング		オプション	オプション

## Image Services V4.2 文書の再利用のための FileNet P8 V5.1の構成

構成の際、新規文書およびマイグレーションされた文書に対する更新に関して、文書のメタデータとアノテーションをカタログする場所と文書の内容を格納する場所を決めることができます。

### 手順:

- 『アノテーションに関するセキュリティ概念のセットアップ』
- 48 ページの『FileNet P8 V5.1 の構成手順』

### アノテーションに関するセキュリティ概念のセットアップ

FileNet Application Connector for SAP では、Image Services 文書のアノテーションに対する読み取り権限、書き込み権限、および実行権限を指定することができます。FileNet Application Connector for SAP のマイグレーションの後、FileNet P8 のデフォルト権限がアノテーションに対して適用されます。FileNet P8 セキュリティ概念は FileNet Application Connector for SAP のセキュリティ概念と異なるため、アノテーションのセキュリティ概念を FileNet P8 でセットアップする必要があります。

アノテーションに対する権限は、FileNet Application Connector for SAP の「アーカイブ設定 (Archive Settings)」ページから確認できます (「構成 (Configuration)」 > 「SAP システム」 > 「SAP\_system\_name」 > 「アーカイブ」 > 「IS\_archive\_name」)。

マイグレーションの後に特定のユーザーだけがアノテーションに対して読み取り、書き込み、および実行を行えるようにするには、以下の手順を実行します。

- CFS-IS によって FileNet P8 に転送される権限を確認します。FileNet P8 で適用されるデフォルトの権限も確認します。
- FileNet Application Connector for SAP のセキュリティ概念を FileNet P8 のセキュリティ概念にマップします。マップする必要がある権限とそのマップの方法については、CFS-IS および FileNet P8 のセキュリティ概念を参照してください。

詳しくは、IBM FileNet P8 インフォメーション・センターを参照してください。

Content Engine カタログを Image Services カタログと同期する必要がある場合には特に、マップされたセキュリティ概念が必要です。

- マイグレーション後にアノテーションを表示できることを確認します。 Image Services 文書 (そのアノテーションを含む) は、 Workplace または Workplace XT に組み込まれているビューアー・アプリケーションを使用して開くことができます。 Content Collector for SAP では、文書へのアクセスが次のように制御されています。
  - 組み込みビューアー・アプリケーションを使って表示するには、文書の MIME タイプを有効にする必要があります。
  - 文書の表示が許可されるユーザーのグループを次のいずれかの方法で制限できます。
    - ユーザーは、毎回文書を表示するたびに Workplace または Workplace XT にログオンする必要があります。
    - アーカイブ内の文書はすべて、1 人のユーザー名で表示されます。このアーカイブへのアクセス権限を持つすべてのユーザーが文書を表示できます。認証は不要です。

詳細については、61 ページの『Workplace または Workplace XT に組み込まれているビューアー・アプリケーションを使用して Image Services 文書を表示するための構成』を参照してください。

次の作業: 『FileNet P8 V5.1 の構成手順』

## FileNet P8 V5.1 の構成手順

このトピックのすべての手順を実行します。詳しくは、IBM FileNet P8 バージョン 5.1 インフォメーション・センターの『Configuring Content Federation Services for FileNet Image Services』セクションおよび『CFS-IS Configuration road map』を参照してください。

始める前に:

- 47 ページの『アノテーションに関するセキュリティ概念のセットアップ』
- Image Services では、再利用される文書の文書クラスをカタログにできることを確認します。詳しくは、IBM FileNet P8 インフォメーション・センターの『Configuring Content Federation Services for FileNet Image Services』セクションを参照してください。

構成する必要がある FileNet P8 アーカイブごとに、44 ページの『Image Services V4.1.2 文書のための FileNet P8 V4.0、V4.5.0、V4.5.1、または V5.0 構成設定のワークシート IS-FN』を印刷し、以下の手順を実行するときに指定する情報をそれに記入します。この情報は、後で Content Collector for SAP の Collector Serverを構成するときに必要です。

手順:

1. FileNet P8 で使用可能にされる Image Services 文書を表示、作成、変更、読み取り、および削除する権限を持つ FileNet P8 ユーザーを作成します。



2. オブジェクト・ストアに対してドメインを作成するか、デフォルトのドメインを使用します。
3. アクセスする Image Services サーバーごとに固定コンテンツ装置を作成します。
4. 固定コンテンツ装置ごとに外部リポジトリを作成します。
5. 既存のオブジェクト・ストア内に 1 つ以上のストレージ域を作成するか、1 つ以上のオブジェクト・ストアを作成します。

自分で選択したストレージ域を選択できます。ただし、固定ストレージ域を使用する場合は、作成した固定コンテンツ装置を選択します。

マイグレーションされた Image Services 文書にアクセスする必要があるユーザーまたはユーザーのグループを追加します。少なくとも、ステップ 1 (48 ページ) で作成したユーザーを追加します。ユーザーを指定しない場合、管理者以外の FileNet P8 ユーザーはすべて、Image Services 文書の読み取りしか行えません。

6. オブジェクト・ストアと外部リポジトリの組み合わせごとにレプリケーション・グループを作成します。

レプリケーション・グループで、オブジェクト・ストアと外部リポジトリの関連付けを指定します。加えて、新規文書のカタログ先の場所も決定します。

- 新規文書が Image Services と Content Engine の両方にカタログされる場合、オブジェクト・ストアに対してマスター・モードを選択します。
- 新規文書が Content Engine だけにカタログされる場合、オブジェクト・ストアに対してスレーブ・モードを選択します。

注: 文書タイプによっては、Content Engine にしかカタログできないものもあります。詳細については、54 ページの『文書クラスのレプリケーションの方向』を参照してください。

7. 文書クラスのプロパティーを作成します。Image Services 文書クラスに対して定義されているすべてのプロパティーを作成する必要があります。また、Content Collector for SAP が文書をアーカイブ、更新、および削除する必要があるすべてのプロパティーを作成する必要があります。それ以外の場合は、Image Services 文書は読み取り専用になります。

作成する必要があるプロパティーの概要については、52 ページの『Image Services プロパティーの FileNet P8 プロパティーへのマッピング: 概要』を参照してください。

8. 各 Image Services 文書クラスに対して、FileNet P8 で文書クラスを作成し、必要なプロパティーとカスタム・プロパティーを割り当てます。可能であれば、FileNet P8 文書クラスに対しては Image Services 文書クラスの名前を使用します。各 FileNet P8 文書クラスに対して、ステップ 1 (48 ページ) でデフォルト・インスタンス・セキュリティーのアクセス制御リスト (ACL) に対して作成したユーザーを追加し、そのユーザーの権限を指定します。

注: 発信文書を除き、FileNet P8 文書クラスに対してデフォルトのレプリケーション・グループが指定されていないことを確認してください (これがデフォルトです)。指定されていると、文書の新しいバージョンが自動的に Image

Services と同期されます。発信文書の設定に関する詳細については、54 ページの『文書クラスのレプリケーションの方向』を参照してください。

9. Image Services 文書クラスを FileNet P8 文書クラスにマップします。文書クラス・マッピングごとに、レプリケーションの方向を指定します。
  - Image Services で引き続き新規文書をカタログする場合、Image Services カタログを Content Engine カタログに同期する必要があります。この場合、文書クラス・マッピングごとに双方向フェデレーションを使用可能にする必要があります。レプリケーションの方向として「**両方 (Both)**」を選択します。
  - Content Engine カタログを最新の状態に保つことだけがが必要な場合、レプリケーションの方向として「**インバウンド (Inbound)**」を選択します。

注: 文書のデータ・タイプによって、レプリケーションの方向が決まります。詳しくは、54 ページの『文書クラスのレプリケーションの方向』を参照してください。

10. 各文書クラス。マッピング内で、Image Services プロパティを FileNet P8 プロパティにマップします。

プロパティ・マッピングごとに、レプリケーションの方向を指定する必要があります。これは、プロパティが属する文書クラスのレプリケーションの方向によって異なります。個々のプロパティに対して選択するレプリケーションの方向について詳しくは、57 ページの『プロパティのレプリケーションの方向』を参照してください。

11. オブジェクト・ストアまたは文書クラスごとに、文書の内容の保管場所を定義する保管ポリシーを作成します。保管ポリシーはパフォーマンスに影響を与える可能性があるため、企業ポリシーに最も適合し、同時にパフォーマンスへの影響が最も少ないポリシーを使用してください。
12. Image Services のアノテーションは Content Engine カタログに手でコピーすることも、文書のメタデータと同時にカタログすることもできます。メタデータと一緒にアノテーションをエクスポートするには、「システム構成エディター (System Configuration Editor)」(fn\_edit) の「**アノテーションのエクスポート (Export Annotations)**」チェック・ボックスを選択します。
13. Image Services 文書のメタデータ、および任意のアノテーションを Content Engine カタログにエクスポートします。このタスクを実行するには、Remote Admin Console (RAC) ワークステーションで IS Catalog Export Tool を使用します。

Image Services カタログに対する更新が Content Engine カタログに自動的にエクスポートされるようにする場合は、IS Catalog Export Tool を使用して、Image Services 文書クラスと FileNet P8 オブジェクト・ストアの間にデフォルト・マッピングを作成します。

14. Content Engine カタログが自動的に更新されるようにします。「エンタープライズ・マネージャーのプロパティ (Enterprise Manager Properties)」ウィンドウの「IS インポート・エージェント (IS Import Agent)」ページで、「**ディスパッチャーの有効化 (Enable Dispatcher)**」チェック・ボックスを選択し、必要に応じてインポート設定を調整します。

**Image Services V4.2 文書に対する FileNet P8 V5.1 構成設定に対するワークシート IS-FN:**

行	フィールド名	FileNet P8 の構成の間に指定した値	注釈
IS-FN1	Repository user name		
IS-FN2	Repository password		
IS-FN3	Remote server URL		
IS-FN4	Domain		
IS-FN5	Object store		
IS-FN6	PE router URL		
IS-FN7	PE user name		
IS-FN8	PE user password		
IS-FN9	Workplace URL		
IS-FN10	Default document class		デフォルトの Image Services 文書クラスがマップされる FileNet P8 文書クラスを指定します。
IS-FN11	Document class mapping		<p>Image Services 文書クラスの FileNet P8 文書クラスへのすべてのマッピングをリストします。</p> <p>例えば、ワークシート IS の行 IS18 で、以下のマッピングをリストした場合  image/tiff --&gt; ISSAPTIF</p> <p>ご使用の文書クラスは以下のようになります。  ISSAPTIF -&gt; P8SAPTIF</p>

## Image Services プロパティの FileNet P8 プロパティへのマッピング: 概要:

Content Collector for SAP は、文書の読み取り、アーカイブ、更新、および削除を行うことができるようにするために、特定のプロパティを必要とします。必要なプロパティについて、ご使用の Image Services 文書に対して存在するすべてのプロパティをマップします。また、例えば、索引情報などとして、さらに使用するすべてのカスタム・プロパティをマップします。

### 注:

- マップされたプロパティを持つクラスだけが FileNet P8 にインポートされます。
- マップされていないプロパティは、FileNet P8 では使用できません。

### 発信 文書のプロパティのマッピング

以下の表は、特定のタスクをサポートするために、どの Image Services プロパティがどの FileNet P8 プロパティにマップされるかについての概要を示します。

Image Services プロパティ名	FileNet P8 プロパティ名	説明	データ・タイプ	FileNet P8 プロパティの最小サイズ	文書の読み取りに必須またはオプション	文書のアーカイブ、更新、および削除に必須またはオプション
F_DOCNUMBER	ISDocId	オリジナルの Image Services 文書 ID。このプロパティは、インデックス・プロパティとして指定します。	Float		必須	必須
ALFdpages	ALFdpages	文書にページ番号が付いている場合の、ALF 記述ページの合計数。	ストリング	3	オプション	必須
ALFpages	ALFpages	文書にページ番号が付いている場合の、ALF ページの合計数。	ストリング	239	オプション	必須
PageSize	PageSize	ページ番号が付いている文書のページ・サイズ。	ストリング	239	オプション	必須
SAPCompCreated	SAPCompCreated	コンポーネントが作成された日時 (UTC 形式)。	ストリング	239	オプション	必須
SAPCompModified	SAPCompModified	コンポーネントが最後に変更された日時 (UTC 形式)。	ストリング	239	オプション	必須
SAPComps	SAPComps	コンポーネント ID。	ストリング	239	オプション	必須

Image Services プロパティ名	FileNet P8 プロパティ名	説明	データ・タイプ	FileNet P8 プロパティの最小サイズ	文書の読み取りに必須またはオプション	文書のアーカイブ、更新、および削除に必須またはオプション
SAPCompSize	SAPCompSize	コンポーネント・サイズ。このプロパティを指定すると、コンポーネント・サイズを確認するためだけにコンポーネントを取り出すことができません。	ストリング	239	オプション	必須
SAPContType	SAPContType	MIME タイプ (text/plain、image/tiff など)。このプロパティは、文書の表示に必要です。	ストリング	239	オプション	必須
SAPDocDate	SAPDocDate	文書の作成日時。タイム・スタンプは、協定世界時 (UTC) 形式で表示されます。	ストリング	239	オプション	必須
SAPDocId	SAPDocId	SAP 文書 ID。このプロパティは、インデックス・プロパティとして指定します。	ストリング	40	オプション	必須
SAPDocProt	SAPDocProt	SAP 文書の保護 (作成、読み取り、更新、削除)。	ストリング	4	オプション	必須
SAPType	SAPType	SAP 文書クラス (TXT、TIF など)。このプロパティは、バーコードの処理に必要です。	ストリング	3	オプション	必須

### 着信 文書のプロパティのマッピング

以下の表は、特定のタスクをサポートするために、どの Image Services プロパティがどの FileNet P8 プロパティにマップされるかについての概要を示します。

**ヒント:** 発信文書に対する表にリストされているプロパティもマップします。

Image Services プロパティ名	FileNet P8 プロパティ名	説明	FileNet P8 データタイプ	FileNet P8 プロパティの最小サイズ	文書の読み取りに必須またはオプション	文書のアーカイブ、更新、および削除に必須またはオプション
F_DOCNUMBER	ISDocId	オリジナルの Image Services 文書 ID。このプロパティは、インデックス・プロパティとして指定します。	Float		必須	必須
Document_Title	DocumentTitle		ストリング		オプション	オプション

### 文書クラスのレプリケーションの方向:

文書クラスのレプリケーションの方向は、文書タイプによって異なります。また、文書タイプによって、マイグレーションされた文書に対する更新および新規文書を Image Services と FileNet P8 のどちらにカタログする必要があるかが決まります。

#### 一般的な考慮事項

FileNet P8 は、文書のさまざまなバージョンを処理できます。Image Services は、文書の最初のバージョンのみをカタログできます。例えば、SAP ノートを文書に追加するか、ECL ビューアーを使って文書を更新することによって、新規バージョンが作成されます。Content Collector for SAP は、索引情報を最新の文書バージョンだけに転送します。そのため、文書が Image Services と Content Engine の両方にカタログされる場合は、文書のバージョンが 1 つだけとなるようにしてください。双方向フェデレーションと索引転送は、バージョンが 1 つの文書でのみサポートされます。

#### 着信文書 (文書タイプ TIFF または FAX など)

着信文書は Content Engine のみ、または Image Services と Content Engine の両方にカタログできます。Image Services で新規文書をカタログすることにした場合、Image Services 文書进行处理するために開発したアプリケーションを引き続き使用できます。

文書のカタログ場所に関係なく、索引情報を転送できます。SAP ノートを追加したり、ECL ビューアーを使って文書を更新したりすることはできません。Content Engine カタログを Image Services カタログと同期するには、レプリケーションの方向として「両方 (Both)」を指定します。

詳細の概要を次の表に示します。

表 2. 着信文書の詳細

カタログ	Content Engine のみ、または Image Services と Content Engine
レプリケーションの方向	両方
索引転送	許可される

表 2. 着信文書の詳細 (続き)

SAP ノート	許可されない
ECL ビューアーを使った更新	許可されない

### 発信文書 (文書タイプ PDF など)

デフォルトで、新規発信文書は Content Engine にカタログされます。ただし、マイグレーションされた文書に対する更新が Content Engine カタログと Image Services カタログの両方で反映されるようにするために、レプリケーションの方向として「両方 (Both)」を指定する必要があります。SAP ノート、ECL ビューアーを使った更新、および索引転送は許可されています。ただし、索引情報の転送は、SAP ノートの追加または ECL ビューアーを使った文書の更新を行わない場合のみ可能です。

Image Services で引き続き新規発信文書をカタログする場合、以下の設定を指定する必要があります。

- Image Services カタログを Content Engine カタログと同期するには、レプリケーションの方向として「両方 (Both)」を指定します。
- 文書クラスに対してデフォルトのレプリケーション・グループを指定します。  
「クラス・プロパティ (Class Properties)」ウィンドウの「一般情報」ページにある「デフォルト・レプリケーション・グループ (Default Replication Group)」リストから、該当するレプリケーション・グループを選択します。
- SAP ノートを追加するか ECL ビューアーを使って文書を更新することによって文書の追加バージョンを作成する際、各バージョンが取得する SAP 文書 ID (SAPDocId プロパティ) は同じになります。Image Services 文書を処理するために作成したアプリケーションがある場合、それらのアプリケーションが非固有の SAP 文書 ID を処理できるかどうかを確認します。固有の SAP 文書 ID し処理できない場合、バージョン管理を非活動化します。「クラス・プロパティ (Class Properties)」ウィンドウの「一般情報」ページにある「バージョン管理のサポート (Support Versioning)」チェック・ボックスをクリアします。

#### 重要:

- 文書のバージョンが 1 つだけの場合、索引情報を転送できます。
- バージョン管理を非活動化した後、文書の更新または SAP ノートの追加は行えなくなります。この状況で SAP ノートを追加しようとすると、以下のエラーが SAP で発生します。

HTTP エラー: 500 内部サーバー・エラー

Collector Server によって作成されるトレースとログには、このエラーに関する詳細が含まれます。詳しくは、383 ページの『SAP ノートでエラーが生成される』を参照してください。

以下の表は、発信文書のデフォルト処理と、Image Services に発信文書を保持し続ける場合に使用できるフィーチャーの詳細を要約しています。

表 3. 発信文書のデフォルト処理に関する詳細

カタログ	Content Engine のみ
------	-------------------

表 3. 発信文書のデフォルト処理に関する詳細 (続き)

レプリケーションの方向	両方
索引転送	許可される
SAP ノート	許可される
ECL ビューアーを使った更新	許可される

表 4. Image Services での発信文書の保持に関する詳細

カタログ	Content Engine のみ、または Image Services と Content Engine
レプリケーションの方向	両方
デフォルトのレプリケーション・グループ	有効なグループを選択する必要がある
索引転送	文書のバージョンが 1 つだけの場合、許可される
SAP ノート	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 同じ SAP 文書 ID を持つ文書をアプリケーションが処理できる場合、許可される。</li> <li>• 固有の SAP 文書 ID を持つ文書しかアプリケーションが処理できない場合、許可されない。この場合、バージョン管理を非活性化します。</li> </ul>
ECL ビューアーを使った更新	

### データ (文書タイプ REO など)

データは Content Engine でのみカタログできます。そのため、レプリケーションの方向として「インバウンド (Inbound)」を指定する必要があります。索引転送は許可されます。SAP ノートは許可されますが、これはまれです。

詳細の概要を次の表に示します。

表 5. データの詳細

カタログ	Content Engine のみ
レプリケーションの方向	インバウンド
索引転送	許可される
SAP ノート	許可される (ただし、まれ)

### 印刷リスト (文書タイプ ALF など)

印刷リストは Content Engine でのみカタログできます。そのため、レプリケーションの方向として「インバウンド (Inbound)」を指定する必要があります。索引転送および SAP ノートは許可されます。

詳細の概要を次の表に示します。

表 6. 印刷リストの詳細

カタログ	Content Engine のみ
レプリケーションの方向	インバウンド
索引転送	許可される



表 6. 印刷リストの詳細 (続き)

SAP ノート	許可される
---------	-------

### プロパティのレプリケーションの方向:

Image Services プロパティを FileNet P8 プロパティにマップする際、プロパティのレプリケーションの方向を指定する必要があります。レプリケーションの方向は、プロパティが属する文書クラスのレプリケーションの方向によって異なります。

注: このトピックでは、52 ページの『Image Services プロパティの FileNet P8 プロパティへのマッピング: 概要』に示されているプロパティのレプリケーションの方向について扱われています。

Image Services プロパティ名	FileNet P8 プロパティ名	プロパティのレプリケーションの方向	
		文書クラスのレプリケーションの方向が「両方 (Both)」の場合	文書クラスのレプリケーションの方向が「インバウンド (Inbound)」の場合
F_DOCNUMBER	ISDocId	インバウンド	インバウンド
ALFdpages	ALFdpages	両方	
ALFpages	ALFpages		
PageSize	PageSize		
SAPCompCreated	SAPCompCreated		
SAPCompModified	SAPCompModified		
SAPComps	SAPComps		
SAPCompSize	SAPCompSize		
SAPContType	SAPContType		
SAPDocDate	SAPDocDate		
SAPDocId	SAPDocId		
SAPDocProt	SAPDocProt		
SAPType	SAPType		
任意の追加カスタム・プロパティ			

## Image Services 文書の再利用のための Collector Serverの構成

Content Collector for SAP を使用して、FileNet Application Connector for SAP に対するものと同じタスクを Image Services 文書に対して実行できます。Collector Serverがこれらのタスクを実行できるようにするには、Content Collector for SAP のサーバー構成プロファイルで、収集された FileNet Application Connector for SAP および FileNet P8 の構成設定を指定する必要があります。

FileNet P8 および Image Services の文書に対して Content Collector for SAP が提供するサンプル・サーバー構成プロファイルを使用します。FileNet Application Connector for SAP および FileNet P8 の構成設定を入力したワークシート IS および IS-FN を使用します。

### 始める前に:

- サーバー・パッケージから Collector Serverをインストールします。詳しくは、99 ページの『コンソール・モードまたは GUI モードでのサーバー・パッケージのインストール』または 105 ページの『コンソール・モードまたは GUI モードでのクライアント・パッケージのインストール』を参照してください。
- 129 ページの『第 18 章 環境の準備』.
- 40 ページの『Image Services V4.1.2 文書を再利用するための FileNet P8 V4.0、V4.5.0、V4.5.1、または V5.0 の構成』.

注: Collector Server の構成は、Image Services および FileNet P8 のバージョンに依存していません。

## Image Services 文書のアーカイブおよびリンクのための構成

サーバー構成プロファイルで、Collector Serverが Image Services 文書をアーカイブおよびリンクするために始動および実行できるようにする最小設定を指定します。

### 手順:

1. サンプル・プロファイル archint\_sample\_p8.ini を、同じディレクトリーの archint.ini にコピーします。
2. テキスト・エディターでサーバー構成プロファイルを開き、サンプル値をご使用のセットアップを反映するように変更します。一部のキーワードに対しては、ワークシート IS および IS-FN で入力した値を使用できます。

キーワード	説明 (Description)	ワークシートの行	注釈
INSTANCEPATH	インスタンス関連のファイル (サーバー構成プロファイルなど) があるディレクトリーの絶対パスを指定します。インスタンス・ユーザーはこのディレクトリーに対する完全な権限を持っている必要があります。		Windows では、このパスは、Collector Serverのインストール中に自動的に割り当てられます。別のディレクトリーにインスタンス・ディレクトリーを作成した場合は、それに従って、INSTANCEPATH キーワードの値を変更します。  Linux および UNIX システムでは、Collector Server・インスタンス・ユーザーを構成したときに、作成されたインスタンス・ディレクトリーへのパスを指定する必要があります。
TEMPPATH	Collector Server が処理に必要な一時ファイルを格納するディレクトリーの絶対パスを指定します。	ワークシート IS、 行 IS19	Collector Server が Image Services と同じコンピューターにインストールされており、Image Services と同じ一時ディレクトリーを使用している場合は、ワークシート IS からの値だけを使用します。

キーワード	説明 (Description)	ワークシートの行	注釈
DESTINATION	自分で選択した名前を指定します。 このキーワードは、Collector Serverが SAP に接続するために必要なすべての設定をグループ化します。		
R3NAME	SAP に文書をリンクする際に Collector Serverが接続する SAP システムの ID を指定します。	ワークシート IS 行 IS3	バーコードを使用して文書をアーカイブまたはリンクする場合、P8 Client を使用する場合、および Collector Serverが SAP Application Server のグループにログオンできるようにする場合に、このキーワードが必要です。
LOGICAL_SYSTEM	自分で選択した名前を指定します。 このキーワードは、SAP クライアントと CPIC アクセス権限を持っているユーザーに対する設定をグループ化します。		例えば、R3NAME キーワードの値を指定します。
CLIENT	Content Collector for SAP と共に使用する SAP クライアントの名前を指定します。	ワークシート IS 行 IS8	
USER	指定した SAP クライアントへのアクセス権限を持つユーザーの名前を指定します。	ワークシート IS 行 IS5	適切な SAP クライアントで CPIC アクセス権限を持つユーザーを作成したときに、この名前を指定しました。
ARCHIVE	サンプル・ファイルには、2 つの定義済みのアーカイブ・プロファイルが含まれます。A1 には FileNet P8 アーカイブに対する最小設定が含まれます。A2 には、バーコード付き文書を含むさまざまな文書タイプをアーカイブおよびリンクするための設定、および索引転送のための設定が含まれます。	ワークシート IS 行 IS10	
REMOTESERVERURL	Content Engine Web Service Interface (WSI) エンドポイントへの絶対パスを指定します。		このパスは、ワークシート IS-FN の行 IS-FN3 の値から生成します。
P8USER	インポートされた文書の作成、変更、読み取り、削除、および表示の権限を持つ Content Engine ユーザーの名前を指定します。	ワークシート IS-FN 行 IS-FN1	
P8DOMAIN	文書が保管されている、またはこれから保管されるオブジェクト・ストアを含むドメインの名前を指定します。	ワークシート IS-FN 行 IS-FN4	ご使用の FileNet P8 システムを値について検査します。
OBJECTSTORE	文書が含まれている、またはこれから文書が含まれるオブジェクト・ストアの名前を指定します。	ワークシート IS-FN 行 IS-FN5	

キーワード	説明 (Description)	ワークシートの行	注釈
DEFAULT_P8DOCCLASS	SAP で文書の MIME タイプが提供されていない場合、またはアーカイブに MIME タイプが定義されていない場合に使用される文書クラスを指定します。	ワークシート IS-FN 行 IS-FN10	このキーワードは、発信文書のアーカイブにのみ必要です。  この文書クラスには、文書の読み取り、または文書の読み取りと更新と削除に必要なすべてのプロパティがなければなりません。
P8_CLASSPATH	Content Engine Client のすべての JAR ファイルへの絶対パス、および Process Engine Client の特定の JAR ファイルへの絶対パスを指定します。		詳細については、96 ページの『FileNet P8 のインストール』を参照してください。
JAVA_OPTIONS	Java ランタイム環境のオプションを指定します。		このキーワードは、Content Engine Client Version 4.0 または 4.5.0 を使用する場合にだけ必要です。詳細については、96 ページの『FileNet P8 のインストール』を参照してください。
ARCHWINS	Content Collector for SAP クライアントを使用しないように計画している場合は、このキーワードの値を 0 に設定します。		
ARCHPRO_PORT	別のプログラムがこのポートを使用しない場合は、デフォルト・ポートを 5500 のままにします。		

3. QUEUEPATH キーワードを追加し、それに対するパスを指定します。または、ご使用のインスタンス・ディレクトリーに queue という名前のディレクトリーを作成できます。詳しくは、129 ページの『Collector Server・インスタンスの構成』を参照してください。
4. 同じ方法で、必要な数だけ ARCHIVE セクションを追加します。他のアーカイブを使用しない場合は、ARCHIVE キーワードで始まる残りのブロックを削除するか、またはコメント化します。
5. 変更を保管します。

次の作業: 191 ページの『Collector Server を初めて始動する』

## さまざまな文書クラスでの発信 Image Services 文書のアーカイブのための構成

さまざまな文書クラスに格納されたさまざまな MIME タイプの発信 Image Services 文書がある場合があります。Content Collector for SAP に対してこれらの MIME タイプと文書クラスを構成できます。

始める前に:

1. 58 ページの『Image Services 文書のアーカイブおよびリンクのための構成』
2. 191 ページの『Collector Server を初めて始動する』

**手順:**

1. サーバー構成プロファイルをテキスト・エディターで開きます。
2. ご使用の Image Services 文書に対して構成した FileNet P8 ARCHIVE セクションに以下のキーワードを追加します。

キーワード	説明 (Description)	ワークシートの行
DOCTYPE	マップした MIME タイプを指定します。  このキーワードは、指定した MIME タイプの文書の構成をグループ化します。	ご使用の Image Services 文書の MIME タイプを適切な FileNet P8 文書クラスにマップしたワークシート IS の行 IS18 で入力した MIME タイプを指定します。
P8DOCCLASS	MIME タイプがマップされている FileNet P8 文書クラスを指定します。	Image Services 文書クラスを FileNet P8 文書クラスにマップしたワークシート IS-FN の行 IS-FN11 で入力した FileNet P8 文書クラスを指定します。

各 MIME タイプに対して DOCTYPE セクションを作成します。 例:

```
DOCTYPE image/tiff
P8DOCCLASS P8SAPTIF
DOCTYPE image/jpg
P8DOCCLASS P8SAPJPG
DOCTYPE application/x-alf
P8DOCCLASS P8SAPALF
```

3. サーバー構成プロファイルを保存し、Collector Serverを再始動して変更を有効にしてください。

## Workplace または Workplace XT に組み込まれているビューアー・アプリケーションを使用して Image Services 文書を表示するための構成

FileNet Application Connector for SAP では、Image Services 文書で Daeja Viewer を使用した表示を可能にしていたかもしれませんが、Content Collector for SAP では、Workplace または Workplace XT に組み込まれているビューアー・アプリケーションを使用して文書を表示できることを確認できます。

**始める前に:** 60 ページの『さまざまな文書クラスでの発信 Image Services 文書のアーカイブのための構成』

ワークシート IS の行 IS14 で、Pure Thin オプションがご使用の Image Services 文書に対して有効にされていることを確認します。ワークシート IS の行 IS16 で、Pure Thin オプションが有効にされているがどの MIME タイプであるかを確認します。FileNet Application Connector for SAP での Pure Thin オプションの有効化は、

Workplace または Workplace XT に組み込まれているビューアー・アプリケーションを使用した文書の表示に対する前提条件です。

**手順:**

1. サーバー構成プロファイルをテキスト・エディターで開きます。
2. ご使用の Image Services 文書に対して構成した FileNet P8 ARCHIVE セクションに、以下のキーワードを追加します。

```
WORKPLACEURL <url>
```

<url> は、Workplace または Workplace XT の Web アドレス、つまり `http://<application_engine_hostname>:<portnumber>/Workplace` または `http://<application_engine_hostname>:<portnumber>/WorkplaceXT` を表します。

<url> には、ワークシート IS-FN の行 IS-FN15 に指定した値を使用します。

3. Pure Thin オプションを有効にする対象となり、Workplace または Workplace XT に組み込まれているビューアー・アプリケーションを使用した表示を構成する対象となる MIME タイプの設定をグループ化する DOCTYPE セクションに、以下のキーワードを追加します。

```
PURETHIN YES
```

**注:** このキーワードは、image/tiff および image/jpg など、Workplace または Workplace XT に組み込まれているビューアー・アプリケーションを使用して表示できる一般的な MIME タイプに対してだけ追加します。一部の MIME タイプは、SAP のみが表示できます。

例:

```
DOCTYPE image/tiff
  P8DOCCLASS P8SAPTIF
  PURETHIN YES
DOCTYPE image/jpg
  P8DOCCLASS P8SAPJPG
  PURETHIN YES
DOCTYPE          application/x-alf
  P8DOCCLASS P8SAPALF
```

このサンプル指定の結果として、MIME タイプ image/tiff および image/jpg の文書が Workplace および Workplace XT のイメージ・ビューアーに表示されます。MIME タイプ application/x-alf の文書は、SAP によって決定されているビューアー・アプリケーションで表示されます。

4. Pure Thin オプションが有効にされていながらも、FileNet P8 文書クラスにマップされていない MIME タイプがある場合があります。この場合は、この MIME タイプに対する DOCTYPE セクションを追加し、P8DOCCLASS キーワードに対して DEFAULT\_P8DOCCLASS キーワードの値を指定できます。
5. アーカイブされたオブジェクトを表示するには、Workplace または Workplace XT にログオンする必要があります。オブジェクトを表示するたびにログオンするか、アーカイブ内のすべての文書が表示されるときに使用されるユーザー名を

定義します。後者の場合は、認証が不要になります。したがって、アーカイブされたオブジェクトを表示することを許可されているユーザーだけがアーカイブへのアクセス権を持つようにします。

- アーカイブされたオブジェクトを表示する各ユーザーが Workplace または Workplace XT にログオンする必要があるように決定した場合は、サーバー構成プロファイルを保存し、Collector Serverを再始動して変更を有効にしてください。
- アーカイブ内のすべての文書が 1 つのユーザー名を使用して表示されるように決定する場合は、以下の手順を実行します。

- a. サーバー構成プロファイルを保存して、Collector Serverを停止します。
- b. コマンド行を開いて、インスタンス・ディレクトリーに変更します。
- c. 以下のコマンドを入力します。

```
archpro -f serverpasswd_WP <server_id> <wp_user_name> <wp_password>
```

変数はオプションです。指定しない場合は、これらを入力するようプロンプトが出されます。

<server\_id>

キーワード OBJECTSTORE、REMOTESERVERURL、および P8DOMAIN の値を指定します。これらのキーワードは、サーバー構成プロファイルに以下の形式で定義されています。

```
[objectstore][remoteserverurl][p8domain]
```

この値のいずれかにブランクが含まれている場合は、サーバー ID 全体を引用符で囲みます。つまり、次のようになります。

```
"[objectstore][remoteserverurl][p8domain]"
```

注: Windows では、二重引用符を使用する必要があります。Linux および UNIX システムでは、単一引用符または二重引用符を使用することができます。

<wp\_user\_name>

WP\_USERID キーワードの値を指定します。

<wp\_password>

Workplace ユーザーまたは Workplace XT ユーザーのパスワードを指定します。

- d. Collector Server を再始動します。

## 発信 Image Services 文書の前処理のための構成

特定の SAP 文書タイプの Image Services 文書は、アーカイブされる前にプリプロセッサによって変更される可能性があります。定義したプリプロセッサの使用を続けることができます。

Content Collector for SAP は、FileNet Application Connector for SAP で使用したプリプロセッサを含めることができるプリプロセッサ・ユーザー出口を提供します。MIME タイプごとに 1 つのプリプロセッサを使用できます。

始める前に: 60 ページの『さまざまな文書クラスでの発信 Image Services 文書のアーカイブのための構成』

**手順:**

1. サーバー構成プロファイルをテキスト・エディターで開きます。
2. ご使用の Image Services 文書に対して構成した FileNet P8 ARCHIVE セクションに以下のキーワードを追加します。表示されている順序でキーワードを追加します。値について、入力がワークシート IS の行 IS23 にあることを確認します。

キーワード	説明 (Description)	注釈
PREPROC_MIMETYPE	処理される文書の MIME タイプを指定します。	
PREPROC_EXEC	指定された MIME タイプの文書を処理する実行可能ファイルの絶対パスを指定します。	このキーワードは、プリプロセッサを実行可能ファイルとして始動する場合は、必要です。
PREPROC_CLASS	プリプロセッサのJava クラスの完全修飾名を指定します。いろいろな MIME タイプ用に、いろいろな Java プリプロセッサを含める場合は、それぞれの Java クラスに固有名を指定します。	このキーワードは、プリプロセッサを Java クラスとして始動する場合に必要です。
PREPROC_CLASSPATH	Java クラスの絶対パスを指定します。	このキーワードは、プリプロセッサを Java クラスとして始動する場合に必要です。

3. サーバー構成プロファイルを保存し、Collector Serverを再始動して変更を有効にしてください。

## Image Services 文書のページ編集のための構成

FileNet Application Connector for SAP は、application/x-alf および application/x-reo という MIME タイプの文書のページ編集をサポートしています。Content Collector for SAP では、これらの MIME タイプのそれぞれに対して文書がページ編集されるか、およびどのページ・サイズかを決定できます。

始める前に: 60 ページの『さまざまな文書クラスでの発信 Image Services 文書のアーカイブのための構成』

印刷リストおよび REO データのページ編集:

1. サーバー構成プロファイルをテキスト・エディターで開きます。
2. MIME タイプ application/x-alf および application/x-reo に対する構成設定を含んでいる DOCTYPE セクションでは、以下のキーワードを追加します。

PAGESIZE <number>

<number> はページのサイズを KB 単位で表します。ワークシート IS の行 IS20 で指定した値を使用します。



注: これらの MIME タイプのいずれかまたは両方が FileNet P8 文書クラスにマップされなかった場合は、これらの MIME タイプに対して DOCTYPE セクションを追加し、P8DOCCLASS キーワードに対して DEFAULT\_P8DOCCLASS キーワードの値を指定します。

3. サーバー構成プロファイルを保存し、Collector Serverを再始動して変更を有効にしてください。

## ご使用の Image Services 文書に対する追加構成設定

FileNet Application Connector for SAP では、Content Collector for SAP に含める追加構成設定がある可能性があります。このトピックでは、主な追加設定の概要を示します。

すべての設定は、サーバー構成プロファイルに追加する必要があります。サーバー構成プロファイルを変更した後で、Collector Serverを再始動して変更を有効にします。

以下の表に、FileNet Application Connector for SAP の設定に一致するか同等である Content Collector for SAP キーワードの概要を示します。

目的	Content Collector for SAP キーワード	Content Collector for SAP キーワードの説明	例
デフォルトの文書保護レベル	PROTECTION	アーカイブ全体に対するデフォルトの保護を指定します。  ワークシート IS の行 IS24 を必要な保護レベルについて検査します。	PROTECTION <prot_flags>  <prot_flags> は、文字 r (read 読み取り)、c (create 作成)、u (update 更新)、d (delete 削除)、またはこれらの文字の組み合わせを表します。
セキュリティ検査	SECKEY_CHECK	secKey が検査される際のアクセス・モードを指定します。このキーワードはアーカイブ全体に適用されます。  ワークシート IS の行 IS25 を必要な保護レベルについて検査します。	SECKEY_CHECK <prot_flags>  <prot_flags> は、文字 r (read 読み取り)、c (create 作成)、u (update 更新)、d (delete 削除)、またはこれらの文字の組み合わせを表します。
文書の削除	LOGICAL_DELETE	削除されるファイルが物理的に削除されるのか、または論理的に削除されるのかを指定します。デフォルトは物理的に削除されます (OFF)。  ワークシート IS の行 IS15 を設定について検査します。	LOGICAL_DELETE ON

Content Collector for SAP は、Image Services 文書上で実行できる追加タスクを提供します。これらのタスクに対する環境を構成する方法については、以下のトピックを参照してください。

- 286 ページの『FileNet P8 オブジェクトを SAP にリンクするための構成』
- 313 ページの『索引情報の転送のための構成』



---

## 第 8 章 FileNet P8 文書を再利用するための FileNet Application Connector for SAP の Content Collector for SAP へのマイグレーション

FileNet Application Connector for SAP R/3, J2EE Edition バージョン 2.1 を Content Collector for SAP にマイグレーションすることによって、FileNet Application Connector for SAP が FileNet P8 に格納していた文書を再利用できます。

始める前に:

- 23 ページの『FileNet P8 文書を再利用するための FileNet Application Connector for SAP R/3, J2EE Edition バージョン 2.1 のマイグレーションの計画』。
- 99 ページの『コンソール・モードまたは GUI モードでのサーバー・パッケージのインストール』。少なくとも Collector Serverをインストールします。

FileNet P8 文書を再利用するには、FileNet P8 およびContent Collector for SAP を構成する必要があります。

手順:

1. 『FileNet P8 文書に対する FileNet Application Connector for SAP の構成設定の収集』
2. 72 ページの『FileNet P8 文書の再利用のための FileNet P8 の構成』
3. 74 ページの『Collector Server文書の再利用のための FileNet P8 の構成』

---

### FileNet P8 文書に対する FileNet Application Connector for SAP の構成設定の収集

ご使用の FileNet P8 アーカイブおよびご使用の SAP システムについて FileNet Application Connector for SAP で指定した構成設定の収集された構成設定は、後で、Content Collector for SAP の Collector Serverを構成するときに再使用します。

アーカイブ/SAP システムの各組み合わせについて、68 ページの『FileNet P8 を使用する FileNet Application Connector for SAP のためのワークシート FN』を印刷し、必要事項を記入します。例えば、文書がアーカイブ P1 とアーカイブ P2 に格納されている場合、1 つの SAP システムを使用して、ワークシートを 2 回印刷します。

以下の手順を完了して、FileNet Application Connector for SAP の構成設定を確認します。

1. ご使用の管理者 ID と管理者パスワードを使用して FileNet Application Connector for SAP にログオンします。
2. 「構成 (Configuration)」ペインから必要な設定にナビゲートします。

次の作業: 72 ページの『FileNet P8 文書の再利用のための FileNet P8 の構成』

## FileNet P8 を使用する FileNet Application Connector for SAP のためのワークシート FN

注: 表のセクション・ヘッダーは、FileNet Application Connector for SAP の「構成 (Configuration)」ペイン内の項目を反映します。

行	フィールド名	FileNet Application Connector for SAP の値	注釈
<b>Repository</b> (Configuration -> FileNet Repositories -> <i>Content_Engine_name</i> )			
FN1	Repository user name		
FN2	Repository password		
<b>SAP System</b> (Configuration -> SAP Systems -> <i>SAP_system_name</i> )			
FN3	SAP System Name		
FN4	Auth ID		
FN5	User name		
FN6	Password		
FN7	System Number		
FN8	Client Name		
FN9	Server Host		
<b>Archive Settings</b> (Configuration -> SAP Systems -> <i>SAP_system_name</i> -> Archives -> <i>P8_archive_name</i> )			
FN10	Archive name		
FN11	FileNet repository		FileNet Application Connector for SAP で、行 FN1 と FN22 で指定した Content Engine を選択します。
FN12	Object store		選択したオブジェクト・ストアを指定します。
FN13	Repository user name		使用不可の場合は、行 FN1 の値を使用します。
FN14	Repository password		使用不可の場合は、行 FN2 の値を使用します。
FN15	PE router URL		
FN16	PE user name		
FN17	PE user password		
FN18	Workplace URL		
FN19	Enable Pure Thin mode	<input type="checkbox"/> Enabled <input type="checkbox"/> 使用不可	
FN20	Document deletion	<input type="checkbox"/> Delete <input type="checkbox"/> 閉じる	

行	フィールド名	FileNet Application Connector for SAP の値	注釈
FN21	Document Pure Thin Settings		Enable Pure Thin mode列が <b>Enabled</b> になっているすべての MIME タイプをリストします。
<b>Document Classes</b> (Configuration -> SAP Systems -> <i>SAP_system_name</i> -> Archives -> <i>P8_archive_name</i> -> Document Classes)			
FN22	Default document class		
FN23	Default folder		

行	フィールド名	FileNet Application Connector for SAP の値	注釈
FN24	<i>table</i>		FileNet文書クラス、デフォルト・フォルダー、およびこれらの両方への MIME タイプのマッピングをすべてリストします。例:  image/tiff --> SAPFAX  注: FileNet document class列、Default folder列、または両方の列が値を示すマッピングのみをリストします。
<b>Bar Codes</b> (Configuration -> SAP Systems -> <i>SAP_system_name</i> -> Archives -> <i>P8_archive_name</i> -> Bar Codes)			
FN25	BPM Queues		選択したものを指定します。
FN26	Bar code property		
FN27	Bar code length		
FN28	Enable settings	<input type="checkbox"/> Enabled <input type="checkbox"/> 使用不可	
<b>Server</b> (Configuration -> Server)			
FN29	Temporary file directory		Content Collector for SAP の Collector Server が FileNet P8 と同じコンピューター上にインストールされる場合、および同じ一時ディレクトリーが使用される場合にだけこのディレクトリーが必要です。
FN30	Page size		
<b>Bar Codes</b> (Configuration -> Bar Codes)			
FN31	Sleep duration		
FN32	Number of bar code entries		
<b>Preprocessors</b> (Configuration -> Preprocessors)			

行	フィールド名	FileNet Application Connector for SAP の値	注釈
FN33	<i>table</i>		SAP 文書タイプをすべてリストします。Preprocessor path列に値が表示され、絶対パスを追加します。例: TIF c:¥testproc.exe
<b>Security</b> (Configuration -> Security)			
FN34	Default document protection level	<input type="checkbox"/> Read <input type="checkbox"/> 更新 <input type="checkbox"/> 作成 <input type="checkbox"/> 削除	
FN35	Security check required	<input type="checkbox"/> Read <input type="checkbox"/> 更新 <input type="checkbox"/> 作成 <input type="checkbox"/> 削除	

## FileNet P8 文書の再利用のための FileNet P8 の構成

FileNet P8 は、既に FileNet P8 文書の再利用のために完全に構成済みである可能性があります。このトピックでは、完了しておく必要があるタスクの概要を示します。また、すべての必要なプロパティが文書クラスに対して定義されているかどうかも確認します。

**始める前に:** 67 ページの『FileNet P8 文書に対する FileNet Application Connector for SAP の構成設定の収集』

**手順:**

1. 以下の権限を持つユーザーを作成します。
  - オブジェクト・ストア内で文書の作成、変更、読み取り、および削除を行う権限
  - オブジェクト・ストア内に保管されている文書を表示する権限
2. 文書が保管されている、あるいは保管されることになっているオブジェクト・ストアが含まれるドメインを作成します。
3. 文書を保持するオブジェクト・ストアを 1 つ以上作成します。
4. 文書クラスのプロパティを作成します。必要なプロパティは、アーカイブされた文書を読み取るだけでよいのか、アーカイブされた文書の読み取り、更新、削除を行ったり、発信文書をアーカイブしたりする必要があるのかによって異なります。詳しくは、152 ページの『文書の読み取り、アーカイブ、更新、および削除に必要なプロパティ: 概要』を参照してください。
5. 文書クラスを作成し、適切なプロパティを割り当てます。文書クラスは少なくとも 1 つは作成してください。さもないと、文書が保管されません。すべての文書を 1 つの文書クラスに保管しないようにする場合は、複数の文書クラスを作成します。文書クラスは MIME タイプごとに作成できます。

**次の作業:** 74 ページの『Collector Server文書の再利用のための FileNet P8 の構成』

### 文書の読み取り、アーカイブ、更新、および削除に必要なプロパティ: 概要

作成する必要があるプロパティは、アーカイブされた文書を読み取るだけでよいのか、アーカイブされた文書の更新や削除を行ったり、発信文書をアーカイブしたりする必要があるのかによって異なります。

次の表は、プロパティの概要をアルファベット順に並べたものです。プロパティ名は大/小文字の区別があり、変更しないようにする必要があります。これらのプロパティ名が既に存在する場合は、自分の選択した名前にこれらの名前をマップする属性マッピング・ファイルを作成する必要があります。属性マッピング・ファイルの作成方法の詳細は、127 ページの『第 17 章 属性またはプロパティの名前のマッピング』を参照してください。



プロパティ名	説明 (Description)	データ・タイプ	最小サイズ	必須/ オプション (文書の 読み取り)	必須/ オプション (文書の アーカイブ、 更新、削除)
ALFdpages	文書にページ番号が付いている場合の、ALF 記述ページの合計数。	ストリング	3	オプション	必須
ALFpages	文書にページ番号が付いている場合の、ALF ページの合計数。	ストリング	3	オプション	必須
Barcode	バーコード。	ストリング	最大サイズ: 40	オプション	バーコード付き文書に必要
PageSize	ページ番号が付いている文書のページ・サイズ。	ストリング	239	オプション	必須
SAPCompCharset	コンポーネントの内容がエンコードされている文字セット。	ストリング	239	オプション	オプション
SAPCompCreated	コンポーネントが作成された日時 (UTC 形式)。	ストリング	239	オプション	必須
SAPCompModified	コンポーネントが最後に変更された日時 (UTC 形式)。	ストリング	239	オプション	必須
SAPComps	コンポーネント ID。	ストリング	239	オプション	必須
SAPCompSize	コンポーネント・サイズ。このプロパティを指定すると、コンポーネント・サイズを確認するためにコンポーネントを取り出すことができません。	ストリング	239	オプション	必須
SAPCompVersion	コンポーネントの作成に使用される SAP アプリケーションのバージョン。	ストリング	239	オプション	オプション
SAPContType	MIME タイプ (text/plain、image/tiff など)。このプロパティは、文書の表示に必要です。	ストリング	239	オプション	必須
SAPDocDate	文書の作成日時。タイム・スタンプは、協定世界時 (UTC) 形式で表示されます。	ストリング	239	オプション	必須
SAPDocId	SAP 文書 ID。このプロパティは、インデックス・プロパティとして指定します。	ストリング	40	オプション	必須
SAPDocProt	SAP 文書の保護 (作成、読み取り、更新、削除)。	ストリング	4	オプション	必須

プロパティ名	説明 (Description)	データ・タイプ	最小サイズ	必須/オプション (文書の読み取り)	必須/オプション (文書のアーカイブ、更新、削除)
SAPType	SAP 文書クラス (TXT、TIF など)。このプロパティは、バーコードの処理に必要です。	ストリング	3	オプション	必須

## Collector Server文書の再利用のための FileNet P8 の構成

Content Collector for SAP を使用して、FileNet Application Connector for SAP に対するものと同じタスクを FileNet P8 文書に対して実行できます。Collector Serverがこれらのタスクを実行できるようにするには、Content Collector for SAP のサーバー構成プロファイルで、収集された FileNet Application Connector for SAP の構成設定を指定する必要があります。

Content Collector for SAP が FileNet P8 に提供したサンプル・サーバー構成プロファイルを使用して、それを適合させます。FileNet Application Connector for SAP 構成設定を入力したワークシート FN を使用します。

### 始める前に:

- サーバー・パッケージから Collector Serverをインストールします。詳しくは、99 ページの『コンソール・モードまたは GUI モードでのサーバー・パッケージのインストール』または 105 ページの『コンソール・モードまたは GUI モードでのクライアント・パッケージのインストール』
- 129 ページの『第 18 章 環境の準備』を参照してください。
- 72 ページの『FileNet P8 文書の再利用のための FileNet P8 の構成』。

## FileNet P8 文書のアーカイブおよびリンクのための構成

サーバー構成プロファイルで、Collector Serverが FileNet P8 文書をアーカイブおよびリンクするために始動および実行できるようにする最小設定を指定します。

### 手順:

1. サンプル・プロファイル archint\_sample\_p8.ini を、同じディレクトリーの archint.ini にコピーします。
2. テキスト・エディターでサーバー構成プロファイルを開き、サンプル値をご使用のセットアップを反映するように変更します。一部のキーワードに対しては、ワークシート FN で入力した値を使用できます。

キーワード	説明 (Description)	ワークシート FN の行	注釈
INSTANCEPATH	インスタンス関連のファイル (サーバー構成プロファイルなど) があるディレクトリーの絶対パスを指定します。インスタンス・ユーザーはこのディレクトリーに対する完全な権限を持っている必要があります。		Windows では、このパスは、Collector Serverのインストール中に自動的に割り当てられます。別のディレクトリーにインスタンス・ディレクトリーを作成した場合は、それに従って、INSTANCEPATH キーワードの値を変更します。  Linux および UNIX システムでは、Collector Server・インスタンス・ユーザーを構成したときに、作成されたインスタンス・ディレクトリーへのパスを指定する必要があります。
TEMPPATH	Collector Server が処理に必要な一時ファイルを格納するディレクトリーの絶対パスを指定します。	行 FN29	Collector Server が FileNet P8 と同じコンピューターにインストールされており、FileNet P8 と同じ一時ディレクトリーを使用している場合は、ワークシート FN からの値だけを使用します。
DESTINATION	自分で選択した名前を指定します。このキーワードは、Collector Serverが SAP に接続するために必要なすべての設定をグループ化します。		
R3NAME	SAP に文書をリンクする際に Collector Serverが接続する SAP システムの ID を指定します。	行 FN3	バーコードを使用して文書をアーカイブまたはリンクする場合、P8 Client を使用する場合、および Collector Serverが SAP Application Server のグループにログオンできるようにする場合に、このキーワードが必要です。
LOGICAL_SYSTEM	自分で選択した名前を指定します。このキーワードは、SAP クライアントと CPIC アクセス権限を持っているユーザーに対する設定をグループ化します。		例えば、R3NAME キーワードの値を指定します。
CLIENT	Content Collector for SAP と共に使用する SAP クライアントの名前を指定します。	行 FN8	
USER	指定した SAP クライアントへのアクセス権限を持つユーザーの名前を指定します。	行 FN5	適切な SAP クライアントで CPIC アクセス権限を持つユーザーを作成したときに、この名前を指定しました。

キーワード	説明 (Description)	ワークシート FN の行	注釈
ARCHIVE	サンプル・ファイルには、2 つの定義済みのアーカイブ・プロファイルが含まれます。A1 には FileNet P8 アーカイブに対する最小設定が含まれます。A2 には、バーコード付き文書を含むさまざまな文書タイプをアーカイブおよびリンクするための設定、および索引転送のための設定が含まれます。	行 FN10	
REMOTESERVERURL	Content Engine Web Service Interface (WSI) エンドポイントへの絶対パスを指定します。		
P8USER	文書の作成、変更、読み取り、削除、および表示の権限を持つ Content Engine ユーザーの名前を指定します。	行 FN1	
P8DOMAIN	文書が保管されている、またはこれから保管されるオブジェクト・ストアを含むドメインの名前を指定します。		ご使用の FileNet P8 システムを値について検査します。
OBJECTSTORE	文書が含まれている、またはこれから文書が含まれるオブジェクト・ストアの名前を指定します。	行 FN12	
DEFAULT_P8DOCCLASS	SAP で文書の MIME タイプが提供されていない場合、またはアーカイブに MIME タイプが定義されていない場合に使用される文書クラスを指定します。	行 FN22	このキーワードは、発信文書のアーカイブにのみ必要です。  この文書クラスには、文書の読み取り、または文書の読み取りと更新と削除に必要なすべてのプロパティがなければなりません。
P8_CLASSPATH	Content Engine Client のすべての JAR ファイルへの絶対パス、および Process Engine Client の特定の JAR ファイルへの絶対パスを指定します。		詳細については、96 ページの『FileNet P8 のインストール』を参照してください。
JAVA_OPTIONS	Java ランタイム環境のオプションを指定します。		このキーワードは、Content Engine Client Version 4.0 または 4.5.0 を使用する場合にだけ必要です。詳細については、96 ページの『FileNet P8 のインストール』を参照してください。
ARCHWINS	Content Collector for SAP クライアントを使用しないように計画している場合は、このキーワードの値を 0 に設定します。		
ARCHPRO_PORT	別のプログラムがこのポートを使用しない場合は、デフォルト・ポートを 5500 のままにします。		

3. QUEUEPATH キーワードを追加し、それに対するパスを指定します。または、ご使用のインスタンス・ディレクトリーに `queue` という名前のディレクトリーを作成できます。詳しくは、129 ページの『Collector Server・インスタンスの構成』を参照してください。
4. 同じ方法で、必要な数だけ ARCHIVE セクションを追加します。他のアーカイブを使用しない場合は、ARCHIVE キーワードで始まる残りのブロックを削除するか、またはコメント化します。
5. 変更を保管します。

次の作業: 191 ページの『Collector Server を初めて始動する』

## さまざまな文書クラスでの発信 FileNet P8 文書のアーカイブのための構成

さまざまな文書クラスに格納されたさまざまな MIME タイプの発信 FileNet P8 文書がある場合があります。Content Collector for SAP に対してこれらの MIME タイプと文書クラスを構成できます。

### 始める前に:

1. 74 ページの『FileNet P8 文書のアーカイブおよびリンクのための構成』
2. 191 ページの『Collector Server を初めて始動する』

### 手順:

1. サーバー構成プロファイルをテキスト・エディターで開きます。
2. FileNet P8 ARCHIVE セクションに以下のキーワードを追加します。MIME タイプを適切な FileNet P8 文書クラスにマップしたワークシート FN の行 FN24 で指定した情報を使用します。

キーワード	説明 (Description)
DOCTYPE	マップした MIME タイプを指定します。  このキーワードは、指定した MIME タイプの文書の構成をグループ化します。
P8DOCCLASS	MIME タイプがマップされている FileNet P8 文書クラスを指定します。

各 MIME タイプに対して DOCTYPE セクションを作成します。例:

```
DOCTYPE image/tiff
  P8DOCCLASS SAPTIF
DOCTYPE image/jpg
  P8DOCCLASS SAPJPG
DOCTYPE          application/x-alf
  P8DOCCLASS SAPALF
```

3. サーバー構成プロファイルを保存し、Collector Server を再始動して変更を有効にしてください。

## バーコード付きのアーカイブされた FileNet P8文書のリンクのための構成

FileNet Application Connector for SAP で、文書が P8 キューまたはいわゆる「BPM」キュー内の作業項目として使用可能な SAP にバーコード付き文書をリンクできます。Content Collector for SAP は、その Utility Client と同じ機能を提供します。

### 始める前に:

1. 74 ページの『FileNet P8 文書のアーカイブおよびリンクのための構成』
2. 191 ページの『Collector Server を初めて始動する』

バーコード付き文書のリンクのための環境の構成のために、実行する必要がある個別のタスクについては、286 ページの『FileNet P8 オブジェクトを SAP にリンクするための構成』を参照してください。以下のセクションでは、再利用する FileNet P8 文書のバーコードの処理を Collector Server ができるようにするための方法だけを示します。

FileNet Application Connector for SAP では、アーカイブごとに、バーコード処理の設定が使用されるかどうかを指定する必要がありました。ワークシート FN の行 FN28 を参照してください。Content Collector for SAP では、このようなオプションは存在しません。バーコードは、以下のキーワードがサーバー構成プロファイルで指定されている場合にのみ処理されます。

### 手順:

1. サーバー構成プロファイルをテキスト・エディターで開きます。
2. FileNet P8 ARCHIVE セクションに以下のキーワードを追加します。

キーワード	説明 (Description)	ワークシート FN の行
PE_QUEUE_NAME	リンクする文書を含む P8 キューの名前を指定します。	行 FN25
PE_CONNECTPOINT	Process Engine 接続ポイントの名前を指定します。	行 FN15
PE_USERID	P8 キューを読み取ることができ、文書を作業項目として P8 キューで使用できるようにするために作成されたワークフローを処理できる Process Engine ユーザーの名前を指定します。	行 FN16

3. サーバー構成プロファイルを保存して、Collector Serverを停止します。
4. 以下の手順に従って、Collector Serverを再始動します。
  - a. コマンド行を開いて、インスタンス・ディレクトリーに変更します。
  - b. 以下のコマンドを入力します。

```
archpro -f serverpasswd_PE <server_id> <pe_user_name> <pe_password>
```

変数はオプションです。指定しない場合は、これらを入力するようプロンプトが出されます。

<server\_id>

サーバー構成プロファイルに定義した

OBJECTSTORE、REMOTESERVERURL、および P8DOMAIN の各キーワードの値を、以下のフォーマットで指定します。

```
[<objectstore>][<remoteserverurl>][<p8domain>]
```

いずれかの値に空白が含まれている場合は、次のように、サーバー ID 全体を引用符で囲みます。

```
"[<objectstore>][<remoteserverurl>][<p8domain>]"
```

注: Windows では、二重引用符を使用する必要があります。Linux および UNIX システムでは、単一引用符または二重引用符を使用することができます。

<pe\_user\_name>

ワークシート FN の行 FN16 の値である PE\_USERID キーワードの値を指定します。

<pe\_password>

ワークシート FN の行 FN17 にある Process Engine ユーザーのパスワードを指定します。

5. 290 ページの『P8 キューおよびワークフローの作成』。

注: ワークシート FN の行 FN26 の値が Barcode ではない場合は、Barcode を FileNet Application Connector for SAP で設定された値にマップする属性マッピング・ファイルを作成する必要があります。属性マッピング・ファイルの作成方法の詳細は、127 ページの『第 17 章 属性またはプロパティの名前のマッピング』を参照してください。

## Workplace または Workplace XT に組み込まれているビューアー・アプリケーションを使用して FileNet P8 文書を表示するための構成

FileNet Application Connector for SAP では、FileNet P8 文書で Daeja Viewer を使用した表示を可能にしていたかもしれませんが、Content Collector for SAP では、Workplace または Workplace XT に組み込まれているビューアー・アプリケーションを使用して文書を表示できることを確認できます。

**始める前に:** 77 ページの『さまざまな文書クラスでの発信 FileNet P8 文書のアーカイブのための構成』

ワークシート FN の行 FN19 で、Pure Thin オプションがご使用の FileNet P8 文書に対して有効にされていることを確認します。ワークシート FN の行 FN21 で、Pure Thin オプションが有効にされているがどの MIME タイプであるかを確認します。FileNet Application Connector for SAP での Pure Thin オプションの有効化は、Workplace または Workplace XT に組み込まれているビューアー・アプリケーションを使用した文書の表示に対する前提条件です。

**手順:**

1. サーバー構成プロファイルをテキスト・エディターで開きます。

2. FileNet P8 ARCHIVE セクションに以下のキーワードを追加します。

```
WORKPLACEURL <url>
```

<url> は、Workplace または Workplace XT の Web アドレス、つまり `http://<application_engine_hostname>:<portnumber>/Workplace` または `http://<application_engine_hostname>:<portnumber>/WorkplaceXT` を表します。

<url> には、ワークシート FN の行 FN18 に指定した値を使用します。

3. Pure Thin オプションを有効にする対象となり、Workplace または Workplace XT に組み込まれているビューアー・アプリケーションを使用した表示を構成する対象となる MIME タイプの設定をグループ化する DOCTYPE セクションに、以下のキーワードを追加します。

```
PURETHIN YES
```

**注:** このキーワードは、image/tiff および image/jpg など、Workplace または Workplace XT に組み込まれているビューアー・アプリケーションを使用して表示できる一般的な MIME タイプに対してだけ追加します。一部の MIME タイプは、SAP のみが表示できます。

以下に例を示します。

```
DOCTYPE image/tiff
P8DOCCLASS SAPTIF
PURETHIN YES
DOCTYPE image/jpg
P8DOCCLASS SAPJPG
PURETHIN YES
DOCTYPE          application/x-alf
P8DOCCLASS SAPALF
```

このサンプル指定の結果として、MIME タイプ image/tiff および image/jpg の文書が Workplace および Workplace XT のイメージ・ビューアーに表示されます。MIME タイプ application/x-alf の文書は、SAP によって決定されているビューアー・アプリケーションで表示されます。

4. Pure Thin オプションが有効にされていながらも、FileNet P8 文書クラスにマップされていない MIME タイプがある場合があります。この場合は、この MIME タイプに対する DOCTYPE セクションを追加し、P8DOCCLASS キーワードに対して DEFAULT\_P8DOCCLASS キーワードの値を指定できます。
5. アーカイブされたオブジェクトを表示するには、Workplace または Workplace XT にログオンする必要があります。オブジェクトを表示するたびにログオンするか、アーカイブ内のすべての文書が表示されるときに使用されるユーザー名を定義します。後者の場合は、認証が不要になります。したがって、アーカイブされたオブジェクトを表示することを許可されているユーザーだけがアーカイブへのアクセス権限を持つようにします。
  - アーカイブされたオブジェクトを表示する各ユーザーが Workplace または Workplace XT にログオンする必要があるように決定した場合は、サーバー構成プロファイルを保存し、Collector Serverを再始動して変更を有効にしてください。



- アーカイブ内のすべての文書が 1 つのユーザー名を使用して表示されるように決定する場合は、以下の手順を実行します。
  - a. サーバー構成プロファイルを保存して、Collector Serverを停止します。
  - b. コマンド行を開いて、インスタンス・ディレクトリーに変更します。
  - c. 以下のコマンドを入力します。

```
archpro -f serverpasswd_WP <server_id> <wp_user_name> <wp_password>
```

変数はオプションです。指定しない場合は、これらを入力するようプロンプトが出されます。

<server\_id>

キーワード OBJECTSTORE、REMOTESERVERURL、および P8DOMAIN の値を指定します。これらのキーワードは、サーバー構成プロファイルに以下の形式で定義されています。

```
[objectstore][remoteserverurl][p8domain]
```

この値のいずれかにブランクが含まれている場合は、サーバー ID 全体を引用符で囲みます。つまり、次のようになります。

```
"[objectstore][remoteserverurl][p8domain]"
```

注: Windows では、二重引用符を使用する必要があります。Linux および UNIX システムでは、単一引用符または二重引用符を使用することができます。

<wp\_user\_name>

WP\_USERID キーワードの値を指定します。

<wp\_password>

Workplace ユーザーまたは Workplace XT ユーザーのパスワードを指定します。

- d. Collector Server を再始動します。

## 発信 FileNet P8 文書の前処理のための構成

特定の SAP 文書タイプの FileNet P8 文書は、アーカイブされる前にプリプロセッサによって変更される可能性があります。定義したプリプロセッサの使用を続けることができます。

Content Collector for SAP は、FileNet Application Connector for SAP で使用したプリプロセッサを含めることができるプリプロセッサ・ユーザー出口を提供します。MIME タイプごとに 1 つのプリプロセッサを使用できます。

**始める前に:** 77 ページの『さまざまな文書クラスでの発信 FileNet P8 文書のアーカイブのための構成』

**手順:**

1. サーバー構成プロファイルをテキスト・エディターで開きます。
2. FileNet P8 ARCHIVE セクションに以下のキーワードを追加します。表示されている順序でキーワードを追加します。値について、入力がワークシート FN の行 FN33 にあることを確認します。

キーワード	説明 (Description)	注釈
PREPROC_MIMETYPE	処理される文書の MIME タイプを指定します。	
PREPROC_EXEC	指定された MIME タイプの文書を実行可能ファイルの絶対パスを指定します。	このキーワードは、プリプロセッサを実行可能ファイルとして始動する場合は、必要です。
PREPROC_CLASS	プリプロセッサのJava クラスの完全修飾名を指定します。いろいろな MIME タイプ用に、いろいろな Java プリプロセッサを含める場合は、それぞれの Java クラスに固有名を指定します。	このキーワードは、プリプロセッサを Java クラスとして始動する場合に必要です。
PREPROC_CLASSPATH	Java クラスの絶対パスを指定します。	このキーワードは、プリプロセッサを Java クラスとして始動する場合に必要です。

3. サーバー構成プロファイルを保存し、Collector Serverを再始動して変更を有効にしてください。

## FileNet P8 文書のページ編集のための構成

FileNet Application Connector for SAP は、application/x-alf および application/x-reo という MIME タイプの文書のページ編集をサポートしています。Content Collector for SAP では、これらの MIME タイプのそれぞれに対して文書がページ編集されるか、およびどのページ・サイズかを決定できます。

**始める前に:** 77 ページの『さまざまな文書クラスでの発信 FileNet P8 文書のアーカイブのための構成』

印刷リストおよび REO データのページ編集:

1. サーバー構成プロファイルをテキスト・エディターで開きます。
2. MIME タイプ application/x-alf および application/x-reo に対する構成設定を含んでいる DOCTYPE セクションでは、以下のキーワードを追加します。

PAGESIZE <number>

<number> はページのサイズを KB 単位で表します。ワークシート FN の行 FN30 で指定した値を使用します。

**注:** これらの MIME タイプのいずれかまたは両方が FileNet P8 文書クラスにマップされなかった場合は、これらの MIME タイプに対して DOCTYPE セクションを追加し、P8DOCCLASS キーワードに対して DEFAULT\_P8DOCCLASS キーワードの値を指定します。

3. サーバー構成プロファイルを保存し、Collector Serverを再始動して変更を有効にしてください。

## ご使用の FileNet P8 文書に対する追加構成設定

FileNet Application Connector for SAP では、Content Collector for SAP に含める追加構成設定がある可能性があります。このトピックでは、主な追加設定の概要を示します。

すべての設定は、サーバー構成プロファイルに追加する必要があります。サーバー構成プロファイルを変更した後で、Collector Serverを再始動して変更を有効にします。

以下の表に、FileNet Application Connector for SAP の設定に一致するか同等である Content Collector for SAP キーワードの概要を示します。

目的	Content Collector for SAP キーワード	Content Collector for SAP キーワードの説明	例
デフォルトの文書保護レベル	PROTECTION	アーカイブ全体に対するデフォルトの保護を指定します。  ワークシート FN の行 FN34 を必要な保護レベルについて検査します。	PROTECTION <prot_flags>  <prot_flags> は、文字 r (read 読み取り)、c (create 作成)、u (update 更新)、d (delete 削除)、またはこれらの文字の組み合わせを表します。
セキュリティチェック	SECKEY_CHECK	secKey が検査される際のアクセス・モードを指定します。このキーワードはアーカイブ全体に適用されます。  ワークシート FN の行 FN35 を必要な保護レベルについて検査します。	SECKEY_CHECK <prot_flags>  <prot_flags> は、文字 r (read 読み取り)、c (create 作成)、u (update 更新)、d (delete 削除)、またはこれらの文字の組み合わせを表します。
文書の削除	LOGICAL_DELETE	削除されるファイルが物理的に削除されるのか、または論理的に削除されるのかを指定します。デフォルトは物理的に削除されます (OFF)。  ワークシート FN の行 FN20 を設定について検査します。	LOGICAL_DELETE ON

Content Collector for SAP は、Image Services 文書上で実行できる追加タスクを提供します。これらのタスクに対する環境を構成する方法については、以下のトピックを参照してください。

- 286 ページの『FileNet P8 オブジェクトを SAP にリンクするための構成』
- 313 ページの『索引情報の転送のための構成』



---

## 第 9 章 CommonStore for SAP バージョン 8.4 の Content Collector for SAP バージョン 2.2 へのマイグレーション

AIX、Linux、Solaris、および Windows に対して CommonStore for SAP をマイグレーションできます。

### 始める前に:

- 23 ページの『CommonStore for SAP バージョン 8.4 のマイグレーションの計画』
- 25 ページの『第 5 章 インストールの計画』

### 手順:

1. archint.ini および archint.cfg ファイルのコピーを安全な場所に保存します。
2. CommonStore for SAP バージョン 8.4 をアンインストールします。
3. サポートされているオペレーティング・システムのいずれかの上の 99 ページの『第 13 章 Content Collector for SAP のインストール』。

**重要:** サーバー・パッケージ、クライアント・パッケージ、または両方のパッケージをインストールした後、Collector Server、P8 Client、および Utility Client で追加ステップが必要になります。そのステップについては、インストール手順の一部として説明されます。

4. INSTANCEPATH および BINPATH のキーワードの値を新しいインストール済み環境に合わせます。例えば、Windows では、デフォルト BINPATH は C:%Program Files%IBM%ICCSAP%server%bin です。
5. 保存されているサーバー構成プロファイルおよび archint.cfg ファイルを、INSTANCEPATH の値によって指定されている新しいインスタンス・ディレクトリにコピーします。
6. INSTANCEPATH キーワードの値を変更する必要がある場合は、185 ページの『Collector Server への証明書の送信』を参照してください。
7. 317 ページの『Secure Hypertext Transfer Protocol (HTTPS) 通信を構成する』。



---

## 第 10 章 Content Manager バージョン 7 文書のマイグレーション

Content Manager Enterprise Edition バージョン 7 に保管されている文書を使用するには、Content Manager Enterprise Edition バージョン 7 の索引クラスを Content Manager Enterprise Edition バージョン 8 の項目タイプにマイグレーションする必要があります。新しい項目タイプの文書は読み取り専用です。

手順:

1. 『Content Manager Enterprise Edition バージョン 7 の索引クラスのマイグレーション』
2. 88 ページの『マイグレーションされたシステム属性用マッピング・ファイルの作成』
3. 89 ページの『Collector Serverの新規項目タイプへのアクセスを使用可能にする』

---

### Content Manager Enterprise Edition バージョン 7 の索引クラスのマイグレーション

「Content Manager バージョン 8 データベース・マイグレーション・ウィザード (Content Manager Version 8 Database Migration Wizard)」を使用して、索引クラスをマイグレーションします。マイグレーションの際に、項目タイプが作成され、文書がバージョン 7 索引クラスからバージョン 8 項目タイプに移動されます。

マイグレーション・ウィザードの開始方法およびマイグレーション・ウィザードで指定する情報について詳しくは、IBM DB2® Content Management インフォメーション・センターを参照してください。

項目タイプには次の特性があります。

- 読み取り専用です。すなわち、文書を表示することはできますが、変更や削除はできません。
- 項目タイプ名は、マイグレーション・プログラムにより生成されます。これは通常、索引クラスの名前で、大文字に変換され、番号が付加されます。例えば、索引クラス名 class1 は CLASS1\_001 に変換されます。

名前をメモしてください。この名前は、後で Collector Serverのサーバー構成プロファイルで指定する必要があります。

- これには、文書と一緒に移動されたシステム属性が含まれています。

**次の作業:** 88 ページの『マイグレーションされたシステム属性用マッピング・ファイルの作成』

## マイグレーションされたシステム属性用マッピング・ファイルの作成

文書と一緒にマイグレーションされたシステム属性の名前は、通常、Content Collector for SAP システム属性の名前と一致しません。マイグレーションの際に、名前は大文字に変換されたり、名前に接尾部が付加されることがあります。したがって、Content Collector for SAP が読み取り専用の項目タイプに格納されている文書を検索および表示できるように、マッピング・ファイルを作成する必要があります。

**始める前に:** 87 ページの『Content Manager Enterprise Edition バージョン 7 の索引クラスのマイグレーション』

Content Collector for SAP では、大文字と小文字が違えば、システム属性が同じ名前を持つことが可能です。例えば、DocID と DOCID は異なる属性の名前です。ただし、Content Manager Enterprise Edition バージョン 8 は大文字と小文字の区別を無視するため、DocID と DOCID は同一の属性名と見なされます。

マッピング・ファイルを作成するには、次のステップを実行します。

1. Content Manager Enterprise Edition のシステム管理クライアントを使用して、読み取り専用項目タイプを開きます。
2. テキスト・エディターを開きます。
3. 読み取り専用項目タイプに含まれているそれぞれのシステム属性について 1 つの項目を指定します。項目は次のように構成されます。

```
INTERNAL_<iccforsap_sys_attr>_MIG <display_name_in_item_type>
```

ここで、

- <iccforsap\_sys\_attr> は、Content Collector for SAP システム属性の名前を表します。
- <display\_name\_in\_item\_type> は、読み取り専用項目タイプの属性の表示名です。表示名を表示するには、属性のプロパティを開きます。

次の表は、属性マッピング・ファイルの項目がどのようになっているかを示しています。

読み取り専用項目タイプの属性の表示名	属性マッピング・ファイルの項目
MyDocID	INTERNAL_DOCID_MIG MyDocID
DocProt	INTERNAL_DOCPROT_MIG DocProt
TstampC	INTERNAL_TIMESTAMP_MIG TstampC
TstampM	INTERNAL_TIMESTAMPM_MIG TstampM
CompID	INTERNAL_COMPID_MIG CompID
CCSID	INTERNAL_CHARSET_MIG CCSID
MyVersion	INTERNAL_APPVERSION_MIG MyVersion
CType	INTERNAL_CONTENTTYPE_MIG CType
SBarcodeID	INTERNAL_SAPBARCODEID_MIG SBarcodeID
BC	INTERNAL_BARCODE_MIG BC



- Collector Serverによりアクセス可能なディレクトリーに、テキスト・ファイルを保存します。

次の作業: 『Collector Serverの新規項目タイプへのアクセスを使用可能にする』

---

## Collector Serverの新規項目タイプへのアクセスを使用可能にする

Content Collector for SAP が新しい読み取り専用項目タイプの文書を開いて表示できるように、サーバー構成プロファイルを変更します。

始める前に: 88 ページの『マイグレーションされたシステム属性用マッピング・ファイルの作成』

### 手順:

- 現行サーバー構成プロファイルのバックアップ・コピーを作成します。
- 現行のサーバー構成プロファイルを開きます。ARCHIVE セクションは Content Manager Enterprise Edition バージョン 7 索引クラスに関連しており、次の例のようになっています。

```
ARCHIVE          A1
STORAGETYPE     VI
LIBSERVER       LIBSERV1
INDEX_CLASS     class1
VIUSER          CSUSER
```

- 次の例のような、新しい ARCHIVE セクションを追加します。

```
ARCHIVE          A1
STORAGETYPE     CM
LIBSERVER       LIBSERV2
ITEM_TYPE_MIG   CLASS1_001
CMUSER          CSUSER
ATTRMAPPING_FILE C:%Program Files%IBM%ICCSAP%Server%instance01%cmmap.txt
```

### 注:

- ARCHIVE キーワードの値は変更しないでください。
  - マイグレーション・プロセスは、マイグレーション済みデータを別のライブラリー・サーバーに割り当てます。このため、新しいセクションの例には、LIBSERV1 の代わりに LIBSERV2 が表示されています。
- 古い ARCHIVE セクションを削除するか、これをコメント化します。
  - 変更を保管します。



---

## 第 11 章 別のオペレーティング・システムへの Collector Serverのマイグレーション

ご使用の Collector Serverを、別のオペレーティング・システムに移動する場合があります。その場合、既存のアーカイブで文書の使用を続けることができます。アーカイブまたは文書をマイグレーションする必要はありません。

Content Manager Enterprise Edition、Content Manager OnDemand、または FileNet P8 をアーカイブとして使用する場合、特に変更を行うことなく文書を継続して使用できます。Tivoli Storage Manager をアーカイブとして使用し、Collector Server を Linux または UNIX システムから Windows に、またはその反対にマイグレーションした場合、以下の手順を実行します。

1. 移動された Collector Serverのサーバー構成プロファイルを変更します。
  - a. サーバー構成プロファイルをテキスト・エディターで開きます。
  - b. STORAGETYPE キーワードに、値として TSM\_CROSSPLATFORM を指定します。

STORAGETYPE キーワードは、サーバー構成プロファイルの各 ARCHIVE セクションで指定した、アーカイブ固有のキーワードです。
  - c. 変更を保存し、Collector Serverを再始動して変更内容を有効にしてください。
2. Windows から Linux または UNIX システムにマイグレーションする場合は、Windows 上で作成されたすべてのファイル・スペース名を変更します。影響を受けるファイル・スペース名は、ARCHINT および ARCHINT\_<yyyydd> です。これらは、¥ARCHINT および ¥ARCHINT\_<yyyydd> に変更される必要があります。

**dsmadmc** プログラムを使用して、ファイル・スペース名前を変更します。以下のように操作を続行します。

- a. Collector Serverを停止します。
- b. コマンド行から、dsmadmc プログラムがインストールされているディレクトリに移動します。
- c. dsmadmc と入力して、プログラムのコマンド行インターフェースを始動し、ログオンします。
- d. 以下のコマンドを入力します。

```
rename filespace <node_name> <current_file_space_name> <new_file_space_name>
```

```
<node_name>
```

名前を変更するファイル・スペースが所属するクライアント・ノードの名前を指定します。

```
<current_file_space_name>
```

名前を変更されるファイル・スペースの名前を指定します。

```
<new_file_space_name>
```

ファイル・スペースの新しい名前を指定します。

例:

```
rename filespace NODE1 ARCHINT_201003 ¥ARCHINT_201003
```

- e. Collector Server を開始します。

---

## 第 4 部 インストール

Content Collector for SAP で実行するタスクに必要なソフトウェアを、次の順序でインストールします。

1. 95 ページの『第 12 章 Content Collector for SAP で使用するためにアーカイブをインストールする』
2. 99 ページの『第 13 章 Content Collector for SAP のインストール』
3. 113 ページの『第 14 章 追加プログラムのインストール』



---

## 第 12 章 Content Collector for SAP で使用するためにアーカイブをインストールする

Content Manager Enterprise Edition Version 8、Content Manager OnDemand、FileNet P8、Tivoli Storage Manager のうち 1 つ以上のアーカイブをインストールできます。Content Collector for SAP のアーカイブと Collector Serverは、同じコンピューターまたは異なるコンピューターにインストールできます。

これらのアーカイブに対する最近のソフトウェア要件については、<http://www.ibm.com/support/docview.wss?uid=swg27019178#ARC> を参照してください。

---

### Content Manager Enterprise Edition バージョン 8 をインストールする

Content Manager Enterprise Edition をインストールします。詳細については、IBM DB2 Content Management インフォメーション・センターを参照してください。

さらに、以下の手順を実行します。

Collector Serverをインストールするコンピューターに DB2 Information Integrator for Content をインストールします。DB2 Information Integrator for Content には、Content Manager Enterprise Edition と Collector Serverとの間のコネクタが含まれています。

- DB2 Information Integrator for Content のインストールを開始して、指示に従います。任意のコンポーネントを選択できます。
- ライブラリー・サーバー・データベースの名前、ユーザー名、およびポート番号を入力して、Content Manager コネクタを構成します。Web サービスを構成する必要はありません。

次の作業: 99 ページの『第 13 章 Content Collector for SAP のインストール』

---

### Content Manager OnDemand のインストール

Content Manager OnDemand をインストールします。詳細については、IBM Content Manager OnDemand インフォメーション・センターを参照してください。

Content Manager OnDemand サーバー・パッケージには、Content Manager OnDemand とCollector Server の間のコネクタが含まれています。

さらに、以下の手順を実行します。

1. これらのケースのいずれの場合でも、Collector Serverがインストールされることになっているコンピューターに Content Manager OnDemand Version 8.5 のサーバー・パッケージをインストールします。
  - Content Manager OnDemand Version 8.5 をアーカイブとして使用し、Content Manager OnDemand Collector Server は異なるコンピューターにあります。

- Content Manager OnDemand Version 8.4 をアーカイブとして使用することをお勧めします。
2. Windows: PATH 環境変数を、ダイナミック・リンク・ライブラリー `icuuc44.dll` への絶対パスになるように設定します。それ以外の場合は、Collector Server は始動しません。詳しくは、IBM Content Manager OnDemand README を参照してください。
  3. AIX、Linux、および Solaris: Content Collector for SAP がインストールされることになっているコンピューターに IBM Global Secure ToolKit (GSKit) をインストールします。詳しくは、IBM Content Manager OnDemand README を参照してください。

次の作業: 99 ページの『第 13 章 Content Collector for SAP のインストール』

---

## FileNet P8 のインストール

Collector Server には、FileNet P8 の Content Engine Client および Process Engine Client が必要です。これらのクライアントのインストール方法の詳細については、IBM FileNet P8 インフォメーション・センターを参照してください。ただし、両方のクライアントに同じバージョンであることを確認します。

クライアントにアクセスするには、Collector Server は Content Engine Client のすべての JAR ファイルと Process Engine Client の特定の JAR ファイルへの絶対パスを知っている必要があります。これらのパスは、後で、FileNet P8 に対して Collector Server を構成するときに、サーバー構成プロファイルで `P8_CLASSPATH` キーワードを設定することによって、指定します。JAR ファイルは Content Engine Client と Process Engine Client と一緒にインストールされます。

Process Engine Client のバージョンからは独立して、Collector Server は、以下の Process Engine Client の JAR ファイルへのアクセス権限を常に持っている必要があります。

```
pe.jar
peResources.jar
```

Collector Server がアクセス権限を持つ必要がある対象となる Content Engine Client の JAR ファイルは、Content Engine Client のバージョンに応じて異なります。

Content Engine Client の必要な JAR ファイルのリストを確認するには、以下の手順を実行します。

- Content Engine Client Version 4.0、4.5.0、または 4.5.1 を使用する場合は、以下の手順を実行します。
  1. FileNet P8 と一緒にインストールされる「Content Engine Development のヘルプ」(`ecm_help/nav/dev_ce_start.htm`) を開きます。
  2. 左側のナビゲーション・ペインで、「開発者ヘルプ (Developer Help)」 > 「Content Engine Development」 > 「Java および .NET 開発者ガイド (Java and .NET Developer's Guide)」 > 「始めに (Getting Started)」 > 「概念 (Concepts)」を展開します。
  3. 右側のトピック・ペインで、「始めに (Getting Started)」 > 「開発者の要件 (Developer Requirements)」 > 「必要な Java Archive (JAR) ファイル



(Required Java Archive (JAR) Files)」に移動します。以下の表に、Content Engine Client の各サポートされているバージョンに対する JAR ファイルの概要を示します。

Content Engine Client のバージョン	JAR ファイル	注釈
4.0	Jace.jar log4-1.2.13.jar wasp.jar jaxrpc.jar jetty.jar runner.jar saaj.jar wsdl.jar activation.jar builtin_serialization.jar java "-Dwasp.location=[directory]:/[path]"	jaxrpc.jar、jetty.jar、runner.jar、saaj.jar、および wsdl.jar (Version 4.0) または wsdl_api.jar (Version 4.5.0) は wasp.jar ファイルで参照される JAR ファイルです。  Linux または UNIX システムに Content Engine Client をインストールした場合は、Collector Serverを始動したユーザーがご使用の Content Engine Client インストール済み環境のディレクトリ wsi/app_classpath への書き込み権限を持っていることを確認します。このディレクトリへのパスは wasp.location プロパティによって設定されます。
4.5.0	Jace.jar log4j-<version>.jar wasp.jar jaxrpc.jar jetty.jar runner.jar saaj.jar wsdl_api.jar activation.jar builtin_serialization.jar java "-Dwasp.location=[directory]:/[path]"	
4.5.1	Jace.jar log4j.jar stax-api.jar xlpScanner.jar xlpScannerUtils.jar	

- Content Engine Client バージョン 5.0 を使用する場合は、以下の手順を実行します。
  1. FileNet P8 バージョン 5.0 インフォメーション・センターを開きます。
  2. 左側のナビゲーション・ペインで、「**Developing IBM FileNet P8 applications**」 > 「**Content Engine の開発**」 > 「**Content Engine Java and .NET Developer's Guide**」 > 「入門」 > 「概念」を展開します。
  3. 右側のトピック・ペインで、「**始めに (Getting Started)**」 > 「**開発者の要件 (Developer Requirements)**」 > 「**必要な Java Archive (JAR) ファイル (Required Java Archive (JAR) Files)**」に移動します。「Content Engine Java API CEWS トランスポート・クライアントに必要なファイル」という見出しが付いた表セクションには、以下に示す必要な JAR ファイルがリストされます。

Jace.jar  
log4j.jar  
stax-api.jar  
xlxpScanner.jar  
xlxpScannerUtils.jar

例:

Content Engine Client および Process Engine Client の Version 4.5.1 をインストールした場合、Process Engine Client の JAR ファイルを含む、ご使用の P8\_CLASSPATH 指定は、以下のようになります。

- Linux または UNIX システムの場合:

```
P8_CLASSPATH /opt/IBM/FileNet/BPMClient/files/pe.jar:  
/opt/IBM/FileNet/BPMClient/files/peResources.jar:  
/opt/IBM/FileNet/CEClient/lib/Jace.jar:  
/opt/IBM/FileNet/CEClient/lib/log4j.jar:  
/opt/IBM/FileNet/CEClient/lib/stax-api.jar:  
/opt/IBM/FileNet/CEClient/lib/xlxpScanner.jar:  
/opt/IBM/FileNet/CEClient/lib/xlxpScannerUtils.jar
```

- Windows の場合:

```
P8_CLASSPATH C:%Program Files%IBM%FileNet%BPMClient%files%pe.jar;  
C:%Program Files%IBM%FileNet%BPMClient%files%peResources.jar;  
C:%Program Files%IBM%FileNet%CEClient%lib%Jace.jar;  
C:%Program Files%IBM%FileNet%CEClient%lib%log4j.jar;  
C:%Program Files%IBM%FileNet%CEClient%lib%stax-api.jar;  
C:%Program Files%IBM%FileNet%CEClient%lib%xlxpScanner.jar;  
C:%Program Files%IBM%FileNet%CEClient%lib%xlxpScannerUtils.jar
```

**重要:** パスは、読みやすいように数行に分けて表示されます。サーバー構成プロファイルでパスを指定するときは、1 行で指定します。

次の作業: 99 ページの『第 13 章 Content Collector for SAP のインストール』

---

## Tivoli Storage Manager のインストール

Tivoli Storage Manager をインストールします。詳細については、IBM Tivoli Storage Manager インフォメーション・センターを参照してください。

また、64 ビット Tivoli Storage Manager クライアント API を Collector Server と同じコンピューターにインストールします。この クライアント API は、Tivoli Storage Manager と Collector Server との間のコネクタとして使用されます。

次の作業: 99 ページの『第 13 章 Content Collector for SAP のインストール』

---

## 第 13 章 Content Collector for SAP のインストール

1 つのインストール・パッケージから Content Collector for SAP の 1 つ以上のコンポーネントを一度にインストールできます。インストール・パッケージはコンソール・モード、GUI モード、またはサイレント・モードでインストールできます。Linux および UNIX システムでは、コンソール・モードがデフォルトのインストール・モードです。Windows では GUI モードがデフォルトのインストール・モードです。

Content Collector for SAP では、Flexera が提供する InstallAnywhere を、インストールに使用します。

### 始める前に:

1. 25 ページの『第 5 章 インストールの計画』
2. 95 ページの『第 12 章 Content Collector for SAP で使用するためにアーカイブをインストールする』

---

## コンソール・モードまたは GUI モードでのサーバー・パッケージのインストール

サーバー・パッケージは、Linux、UNIX、または Windows 64 ビット・オペレーティング・システムにインストールできます。このパッケージには、Collector Server、P8 Client、および Utility Client というコンポーネントが含まれています。

## Linux または UNIX システム上のサーバー・パッケージのインストール

Linux または UNIX 64 ビット・オペレーティング・システムにサーバー・パッケージをインストールするには、以下の手順を完了します。

### 始める前に:

- Solaris オペレーティング環境の場合: gzip ユーティリティーをインストールして、それを PATH 環境変数に組み込みます。
- P8 Client をインストールする場合は、Workplace または Workplace XT を Linux システムまたは UNIX システムにインストールします。

### 手順:

1. サーバー・パッケージをインストールするオペレーティング・システムに、root ユーザーとしてログオンします。
2. InstallAnywhere を開始するには、次のステップを実行します。
  - a. 製品 DVD を挿入してマウントし、サーバー・パッケージが含まれているディレクトリーに変更します。自分で選択したディレクトリーにサーバー・パッケージをダウンロードして解凍してから、そのディレクトリーに変更することもできます。

**注:**

- サーバー・パッケージをダウンロードする場合は、それを解凍するようにします。それ以外の場合は、パッケージが正しくインストールされません。
  - 実行可能プログラムに実行権限があることを確認します。
- b. 以下のいずれかのコマンドを入力します。
- コンソール・モード (デフォルトのインストール・モード) でサーバー・パッケージをインストールするには、次のように入力します。  

```
install.bin
```
  - GUI モードでサーバー・パッケージをインストールするには、次のように入力します。  

```
install.bin -i gui
```
3. 表示されるインストールの指示に従います。 Content Collector for SAP のどのコンポーネントをインストールするか尋ねられたら、必要なコンポーネントをすべて指定します。

**注:**

- 競合を避けるために、すべてのコンポーネントをご使用のオペレーティング・システムと同じ言語でインストールします。
- P8 Client は Workplace または Workplace XT がインストールされているサーバーにインストールされます。インストーラーは、Workplace または Workplace XT が特定のパスにインストールされているものと想定しています。このパスは、P8 Client のインストール中に変更できます。

Content Collector for SAP インフォメーション・センターは、Collector Serverと一緒にインストールされます。

4. インフォメーション・センターを開くには、以下の手順を実行します。
- a. コマンド行を開き、ディレクトリーを `<InstallHome>/IEHS` に変更します。
  - b. `help_start.sh` と入力します。
  - c. ブラウザーを開いて、以下の Web アドレスを入力します。  

```
http://<server_name>:8888/help/index.jsp
```

  
`<server_name>` は、インフォメーション・センターがインストールされているコンピューターの完全修飾ホスト名または TCP/IP アドレスを表します。
  - d. インフォメーション・センターを停止するには、コマンド行で `help_end.sh` を入力します。
5. Collector Serverをインストールした場合は、以下の追加手順を完了します。
- a. Collector Serverと SAP の間に Remote Function Call (RFC) 接続を構成することを計画している場合は、交換ディレクトリーを作成します。Collector Serverと SAP Application Server は、この交換ディレクトリーへのアクセス権限を持つ必要があります。この交換ディレクトリーで、SAP アプリケーションは Content Collector for SAP によりアーカイブされたファイルを保管します。

**注:** Collector Serverが実行されるユーザー ID は、交換ディレクトリーに対する読み取りおよび書き込み権限を持つ必要があります。

この交換ディレクトリーへのパスは、後で RFC 接続を構成するときに指定する必要があります。

- b. /etc/services ファイルに以下の項目を追加します。

```
sapdpxy 32xy/tcp
sapgwxxy 33xy/tcp
```

xy は SAP のシステム番号を表します。この番号は、「SAP ログオン (SAP Logon)」ウィンドウの表で見つかります。例えば、SAP システム番号が 00 の場合は、次のエントリーを追加する必要があります。

```
sapdp00 3200/tcp
sapgw00 3300/tcp
```

- c. 104 ページの『Collector Serverが必要とする SAP コンポーネントのインストール』。
6. P8 Client をインストールした場合は、以下の追加手順を完了します。
- Workplace または Workplace XT を再始動します。
  - クライアント・パッケージから Windows 32 ビット・オペレーティング・システムまたは Windows 64 ビット・オペレーティング・システムに P8 Client SAP Connector をインストールします。
7. Utility Client をインストールした場合は、以下の追加手順を完了します。
- SAP Java Connector (SAP JCo) ファイルを、Utility Client インストール・システムの lib ディレクトリーにコピーします。これらのファイルは、ステップ 5 (100 ページ) で Collector Serverに必要な SAP コンポーネントをインストールしたときに、ダウンロードしました。
  - 索引転送機能を使用する場合は 117 ページの『Utility Client の Index Transfer Enablement パッケージのインストール』を参照してください。

#### 次の作業:

- 1 つ以上の Content Collector for SAP クライアントが必要な場合は、105 ページの『コンソール・モードまたは GUI モードでのクライアント・パッケージのインストール』を使用して続行します。
- 1 つ以上の追加プログラムが必要な場合は、113 ページの『第 14 章 追加プログラムのインストール』を使用して続行します。
- Content Collector for SAP クライアントまたは追加プログラムを必要としない場合は、123 ページの『第 5 部 構成』を使用して続行します。

## Windows 上でのサーバー・パッケージのインストール

Windows 64 ビット・オペレーティング・システムにサーバー・パッケージをインストールするには、以下の手順を完了します。

**始める前に:** P8 Client をインストールする場合は、Windows に Workplace または Workplace XT をインストールします。

#### 手順:

- Windows 64 ビット・オペレーティング・システムにログオンします。
- InstallAnywhere を開始するには、次のステップを実行します。

- a. 製品 DVD を挿入してマウントし、サーバー・パッケージが含まれているディレクトリーに変更します。または、自分で選択したディレクトリーにサーバー・パッケージをダウンロードして解凍してから、そのディレクトリーに変更します。

**重要:** サーバー・パッケージをダウンロードする場合は、それを解凍するようにします。それ以外の場合は、パッケージが正しくインストールされません。

- b. 以下のいずれかのコマンドを入力します。
  - GUI モード (デフォルトのインストール・モード) でサーバー・パッケージをインストールするには、次のコマンドを実行します。

```
install.exe
```

- コンソール・モードでサーバー・パッケージをインストールするには、次のコマンドを実行します。

```
install.exe -i console
```

3. 表示されるインストールの指示に従います。 Content Collector for SAP のどのコンポーネントをインストールするか尋ねられたら、必要なコンポーネントをすべて指定します。

**注:**

- 競合を避けるために、すべてのコンポーネントをご使用のオペレーティング・システムと同じ言語でインストールします。
- P8 Client は Workplace または Workplace XT がインストールされているサーバーにインストールされます。インストーラーは、Workplace または Workplace XT が特定のパスにインストールされているものと想定しています。このパスは、P8 Client のインストール中に変更できます。

Content Collector for SAP インフォメーション・センターは、Collector Serverと一緒にインストールされます。

4. インフォメーション・センターを開始するには、「スタート」 > 「すべてのプログラム」 > 「IBM Content Collector for SAP Applications」 > 「インフォメーション・センターの開始」をクリックします。インフォメーション・センターを停止するには、「スタート」 > 「すべてのプログラム」 > 「IBM Content Collector for SAP Applications」 > 「インフォメーション・センターの停止」をクリックします。
5. Collector Server をインストールした場合は、以下の追加手順を完了します。

- a. Collector Serverと SAP の間に Remote Function Call (RFC) 接続を構成することを計画している場合は、交換ディレクトリーを作成します。Collector Serverと SAP Application Server は、この交換ディレクトリーへのアクセス権限を持つ必要があります。この交換ディレクトリーで、SAP アプリケーションは Content Collector for SAP によりアーカイブされたファイルを保管します。

**注:** Collector Serverが実行されるユーザー ID は、交換ディレクトリーに対する読み取りおよび書き込み権限を持つ必要があります。

この交換ディレクトリーへのパスは、後で RFC 接続を構成するときに指定する必要があります。

- b. 1 つ以上の SAP コンポーネントがインストールされているコンピューターに Collector Serverをインストールする場合は、次のエントリーが存在している必要があります。存在していない場合は、それらをファイル `%SystemRoot%\system32\drivers\etc\services` に追加します。

```
sapdpxy 3200/tcp
sapgwxy 3300/tcp
```

xy は、SAP システム番号 (例えば、00) を表します。この番号は、「SAP ログオン (SAP Logon)」ウィンドウの表で見つかります。

これらのエントリーは通常、SAP GUI をインストールするときに作成されます。

- c. 104 ページの『Collector Serverが必要とする SAP コンポーネントのインストール』。
6. P8 Client をインストールした場合は、以下の追加手順を完了します。
    - a. Workplace または Workplace XT を再始動します。
    - b. クライアント・パッケージから Windows 32 ビット・オペレーティング・システムまたは Windows 64 ビット・オペレーティング・システムに P8 Client SAP Connector をインストールします。
  7. Utility Client をインストールした場合は、以下の追加手順を完了します。
    - a. SAP Java Connector (SAP JCo) ファイルを、Utility Client インストール・システムの lib ディレクトリーにコピーします。これらのファイルは、ステップ 5 (102 ページ) で Collector Serverに必要な SAP コンポーネントをインストールしたときに、ダウンロードしました。
    - b. 索引転送機能を使用する場合は 117 ページの『Utility Client の Index Transfer Enablement パッケージのインストール』を参照してください。

#### 次の作業:

- 1 つ以上の Content Collector for SAP クライアントが必要な場合は、105 ページの『コンソール・モードまたは GUI モードでのクライアント・パッケージのインストール』を使用して続行します。
- 1 つ以上の追加プログラムが必要な場合は、113 ページの『第 14 章 追加プログラムのインストール』を使用して続行します。
- Content Collector for SAP クライアントまたは追加プログラムを必要としない場合は、123 ページの『第 5 部 構成』を使用して続行します。

## Collector Serverと共にインストールされるファイル

Collector Serverをインストールすると、実行可能ファイルがご使用の Collector Serverのインストール済み環境の bin ディレクトリーにコピーされます。ここでは最も重要ないくつかのファイルについて説明します。

#### AgentEnv\_CM8.bat

Windows のみ: このプログラムによって環境変数が CM8\_CLASSPATH に設定されます。

### **archadmin**

このプログラムは、Collector Serverへのリモート接続を可能にし、Collector Serverが発行するメッセージを表示できるようにします。接続は、複数のコンピューターおよび複数のオペレーティング・システムにまたがって確立できます。

### **archpro**

このプログラムは、Collector Serverのメインプログラムです。プログラムは継続的に実行され、他のすべての Content Collector for SAP コンポーネントを制御します。

### **archservice**

Windows のみ: このプログラムは、Windows サービスとして、Collector Serverをインストールまたはアンインストールします。

### **archstop**

このプログラムは Collector Server をシャットダウンします。

### **csmimes.properties**

このリソース・ファイルはアーカイブされた文書の文書フォーマットを MIME タイプにマップします。アーカイブされた文書を SAP GUI またはブラウザー・プログラムを使って表示する際、SAP は取得されたコンテンツを正しく表示するためにこのファイルを使用します。

### **manage\_root\_collection**

このプログラムを使用することにより、WebDAV Storage Interface for SAP NetWeaver Information Lifecycle Management (BC-ILM) をサポートする Tivoli Storage Manager アーカイブにルート・コレクションを作成したり、そこからルート・コレクションを削除したりすることができます。

## **Collector Serverが必要とする SAP コンポーネントのインストール**

Collector Serverのインストールの後、Collector Serverを実行するためには、いくつかの SAP コンポーネントをインストールする必要があります。これらはどの順序でもインストールできます。

### **始める前に:**

- SAP Service Marketplace から SAP コンポーネントをダウンロードする必要があります。SAP Service Marketplace のユーザー ID が必要です。
- AIX、Linux、および Solaris オペレーティング環境の場合: Collector Server が root ユーザー以外のユーザーによって開始される場合に SAP コンポーネントにアクセスできるようにするために、グループおよびその他のユーザーに少なくとも読み取り権限を付与してください。

### **SAP Java Connector のインストール**

SAP Java Connector (SAP JCo) リリース 3.0.x をインストールします。

*x* は、このプログラムの最新の修正レベルです。

### **手順:**



1. SAP Service Marketplace から SAP JCo Release 3.0.x の 64 ビット・バージョンをダウンロードします。
2. パッケージのコンテンツを、Collector Server・インストール・システムの bin ディレクトリーに解凍します。Windows では、デフォルト・パスは `<InstallHome>%Server%bin` です。

## SAP RFC Library のインストール

このライブラリーの最新バージョンをインストールします。

手順:

1. SAP Service Marketplace から SAP RFC SDK の 64 ビット・バージョンをダウンロードします。非 Unicode パッケージをダウンロードします。
2. 自分で選択したディレクトリーにパッケージの内容を解凍します。
3. 解凍したパッケージの lib ディレクトリーに、以下のファイルのいずれかが入っています。
  - AIX の場合: `librfccm.o`
  - Linux および Solaris オペレーティング環境の場合: `librfccm.so`
  - Windows 上: `librfc32.dll`

オペレーティング・システムのファイルを Collector Server・インストール・システムの bin ディレクトリーにコピーします。Windows では、デフォルト・パスは `<InstallHome>%Server%bin` です。

## SAP セキュリティー・ライブラリーのインストール

SAP セキュリティー・ライブラリー (SAPSECULIB) を、SAP ArchiveLink インターフェースのセキュリティー・プロバイダーとしてインストールします。

手順:

1. SAP Service Marketplace から SAPSECULIB の 64 ビット・バージョンをダウンロードします。
2. パッケージのコンテンツを、Collector Server・インストール・システムの bin ディレクトリーに解凍します。Windows では、デフォルト・パスは `<InstallHome>%Server%bin` です。

---

## コンソール・モードまたは GUI モードでのクライアント・パッケージのインストール

クライアント・パッケージは Windows 32 ビット・オペレーティング・システムにも Windows 64 ビット・オペレーティング・システムにもインストールできます。このパッケージには、Archiving Client、P8 Client、P8 Client SAP Connector、Utility Client、および Viewing Client というコンポーネントが含まれています。

始める前に:

- P8 Client をインストールする場合は、Windows で Workplace または Workplace XT をインストールします。
- 99 ページの『コンソール・モードまたは GUI モードでのサーバー・パッケージのインストール』。

クライアント・パッケージをインストールする場合は、以下の点に注意してください。

- サーバー・パッケージをインストールしたコンピューターにクライアント・パッケージをインストールしないでください。
- サーバー・パッケージから P8 Client をインストールした場合は、P8 Client SAP Connector をインストールする必要があります。P8 Client SAP Connector は Windows 32 ビット・オペレーティング・システムにも Windows 64 ビット・オペレーティング・システムにもインストールできます。

**手順:**

1. Windows 64 ビット・オペレーティング・システムまたは Windows 32 ビット・オペレーティング・システムにログオンします。
2. InstallAnywhere を開始するには、次のステップを実行します。
  - a. 製品 DVD を挿入してマウントし、クライアント・パッケージが含まれているディレクトリーに変更します。または、自分で選択したディレクトリーにクライアント・パッケージをダウンロードして解凍してから、そのディレクトリーに変更します。

**重要:** クライアント・パッケージをダウンロードする場合は、それを解凍するようにします。それ以外の場合は、パッケージが正しくインストールされません。

- b. 以下のいずれかのコマンドを入力します。
  - GUI モード (デフォルトのインストール・モード) でクライアント・パッケージをインストールするには、次のコマンドを実行します。

```
install.exe
```
  - コンソール・モードでクライアント・パッケージをインストールするには、次のコマンドを実行します。

```
install.exe -i console
```
3. 表示されるインストールの指示に従います。Content Collector for SAP のどのコンポーネントをインストールするか尋ねられたら、必要なコンポーネントをすべて指定します。

**注:**

- 競合を避けるため、クライアント・パッケージ内のコンポーネントをサーバー・パッケージ内のコンポーネントと同じ言語でインストールします。
  - P8 Client は Workplace または Workplace XT がインストールされているサーバーにインストールされます。インストーラーは、Workplace または Workplace XT が特定のパスにインストールされているものと想定しています。このパスは、P8 Client のインストール中に変更できます。
  - P8 Client を使用するには、P8 Client SAP Connector をインストールする必要があります。
4. P8 Client をインストールした場合は、Workplace または Workplace XT を再起動します。
  5. Utility Client をインストールした場合は、以下の追加手順を完了します。

- a. <http://service.sap.com/connectors>に移動し、リンクを「**SAP Java Connector**」 > 「**ツールおよびサービス (Tools & Services)**」 > 「**SAP JCo リリース 3.0.x のダウンロード (Download SAP JCo Release 3.0.x)**」とたどります。
- b. ご使用のオペレーティング・システム用の SAP JCo ライブラリーの 32 ビット・バージョンまたは 64 ビット・バージョンをダウンロードします。
- c. Utility Client のインストール・システムの lib ディレクトリーに、パッケージを解凍します。
- d. 索引転送機能を使用する場合は 117 ページの『Utility Client の Index Transfer Enablement パッケージのインストール』を参照してください。

**次の作業:**

- 1 つ以上の追加プログラムが必要な場合は、113 ページの『第 14 章 追加プログラムのインストール』を使用して続行します。
- 追加プログラムを必要としない場合は、123 ページの『第 5 部 構成』を使用して続行します。

---

## サイレント・モードでの Content Collector for SAP のインストール

インストール・パッケージは、サイレント・モードでもインストールできます。Content Collector for SAP では、Linux または UNIX システムでのサーバー・パッケージのインストール用、Windows でのサーバー・パッケージのインストール用、および Windows 32 ビット・オペレーティング・システムでのクライアント・パッケージのインストール用のサンプル応答ファイルが提供されます。サンプル応答ファイルは、必要に応じて変更できます。

Content Collector for SAP の一部のコンポーネントは、両方のインストール・パッケージで使用可能です。どのパッケージからインストールするかを決定し、それに合わせてサンプル応答ファイルを変更します。

### Linux または UNIX システム上でのサイレント・モードでのサーバー・パッケージのインストール

Linux または UNIX 64 ビット・オペレーティング・システム上でサーバー・パッケージのサイレント・インストールを実行するには、以下の手順を完了します。

サンプルの応答ファイル `installer.properties.sample` は、インストール・パッケージと同じパスにあります。ファイルには次の設定が含まれています。

- サーバー・パッケージ内のすべてのコンポーネントとして、具体的には以下のものがインストールされます。
  - Collector Server
  - P8 Client
  - Utility Client.
- インストール・パスは `/opt/IBM/iccsap` です。
- Workplaceは、パス `opt/FileNet/AE/Workplace` にインストールされます。

**手順:**

1. Content Collector for SAP をインストールするオペレーティング・システムに、root ユーザーとしてログオンします。
2. 自分で選択したディレクトリーにインストール・パッケージをダウンロードして解凍します。 サンプルの応答ファイルは、インストール・プログラムと同じディレクトリーにあります。
3. コマンド行からサイレント・インストールを開始します。
  - a. コマンド行を開いて、インストール・パッケージを解凍したディレクトリーに変更します。
  - b. ファイルの名前を `installer.properties` に変更します。ファイルは、インストール・プログラムと同じディレクトリーに置いておきます。
  - c. 以下のコマンドを入力します。

```
install.bin
```

P8 Client は Workplace がインストールされているサーバーにインストールされます。Content Collector for SAP インフォメーション・センターは、Collector Serverと一緒にインストールされます。

4. インフォメーション・センターを開くには、以下の手順を実行します。
  - a. コマンド行を開き、ディレクトリーを `<InstallHome>/IEHS` に変更します。
  - b. `help_start.sh` と入力します。
  - c. ブラウザーを開いて、以下の Web アドレスを入力します。

```
http://<server_name>:8888/help/index.jsp
```

`<server_name>` は、インフォメーション・センターがインストールされているコンピューターの完全修飾ホスト名または TCP/IP アドレスを表します。

4. インフォメーション・センターを停止するには、コマンド行で `help_end.sh` を入力します。
5. Collector Serverの場合は、次の追加ステップを実行します。

- a. Collector Serverと SAP の間に Remote Function Call (RFC) 接続を構成することを計画している場合は、交換ディレクトリーを作成します。Collector Serverと SAP Application Server は、この交換ディレクトリーへのアクセス権限を持つ必要があります。この交換ディレクトリーで、SAP アプリケーションは Content Collector for SAP によりアーカイブされたファイルを保管します。

**注:** Collector Serverが実行されるユーザー ID は、交換ディレクトリーに対する読み取りおよび書き込み権限を持つ必要があります。

この交換ディレクトリーへのパスは、後で RFC 接続を構成するときに指定する必要があります。

- b. `/etc/services` ファイルに以下の項目を追加します。

```
sapdpxy 32xy/tcp  
sapgwxy 33xy/tcp
```

`xy` は SAP のシステム番号を表します。この番号は、「SAP ログオン (SAP Logon)」ウィンドウの表で見つかります。

- c. 104 ページの『Collector Serverが必要とする SAP コンポーネントのインストール』

6. P8 Clientの場合は、次の追加ステップを実行します。
  - a. Workplace または Workplace XT を再始動します。
  - b. クライアント・パッケージから Windows 32 ビット・オペレーティング・システムまたは Windows 64 ビット・オペレーティング・システムに P8 Client SAP Connector をインストールします。
7. Utility Clientの場合は、次の追加ステップを実行します。
  - a. SAP Java Connector (SAP JCo) ファイルを、Utility Client インストール・システムの lib ディレクトリーにコピーします。これらのファイルは、ステップ 5 (108 ページ) で Collector Serverに必要な SAP コンポーネントをインストールしたときに、ダウンロードしました。
  - b. 索引転送機能を使用する場合は 117 ページの『Utility Client の Index Transfer Enablement パッケージのインストール』を参照してください。

**次の作業:**

- 1 つ以上の Content Collector for SAP クライアントが必要な場合は、105 ページの『コンソール・モードまたは GUI モードでのクライアント・パッケージのインストール』を使用して続行します。
- 1 つ以上の追加プログラムが必要な場合は、113 ページの『第 14 章 追加プログラムのインストール』を使用して続行します。
- Content Collector for SAP クライアントまたは追加プログラムを必要としない場合は、123 ページの『第 5 部 構成』を使用して続行します。

## Windows 上でのサイレント・モードでのサーバー・パッケージのインストール

Windows 64 ビット・オペレーティング・システムでサーバー・パッケージのサイレント・インストールを実行するには、以下の手順を完了します。

サンプルの応答ファイル `installer.properties.sample` は、インストール・パッケージと同じパスにあります。ファイルには次の設定が含まれています。

- サーバー・パッケージ内のすべてのコンポーネントとして、具体的には以下のものがインストールされます。
  - Collector Server
  - P8 Client
  - Utility Client.
- インストール・パスは `C:\Program Files\IBM\ICSSAP` です。
- Workplaceは、パス `C:\Program Files\FileNet\AE\Workplace` にインストールされます。

**手順:**

1. Windows 64 ビット・オペレーティング・システムにログオンします。
2. 自分で選択したディレクトリーにインストール・パッケージをダウンロードして解凍します。サンプルの応答ファイルは、インストール・プログラムと同じディレクトリーにあります。
3. コマンド行からサイレント・インストールを開始します。

- a. コマンド行を開いて、インストール・パッケージを解凍したディレクトリーに変更します。
- b. ファイルの名前を `installer.properties` に変更します。ファイルは、インストール・プログラムと同じディレクトリーに置いておきます。
- c. 以下のコマンドを入力します。

```
install.exe
```

P8 Client は Workplace がインストールされているサーバーにインストールされます。Content Collector for SAP インフォメーション・センターは、Collector Serverと一緒にインストールされます。

4. インフォメーション・センターを開始するには、「スタート」 > 「すべてのプログラム」 > 「IBM Content Collector for SAP Applications」 > 「インフォメーション・センターの開始」をクリックします。インフォメーション・センターを停止するには、「スタート」 > 「すべてのプログラム」 > 「IBM Content Collector for SAP Applications」 > 「インフォメーション・センターの停止」をクリックします。
5. Collector Serverの場合は、次の追加ステップを実行します。

- a. 1 つ以上の SAP コンポーネントがインストールされているコンピューターに Collector Serverをインストールする場合は、次のエントリーが存在する必要があります。存在していない場合は、それらをファイル `%SystemRoot%\system32\drivers\etc\services` に追加します。

```
sapdpxy 3200/tcp  
sapgwxy 3300/tcp
```

xy は、SAP システム番号 (例えば、00) を表します。この番号は、「SAP ログオン (SAP Logon)」ウィンドウの表で見つかります。

これらのエントリーは通常、SAP GUI をインストールするときに作成されません。

- b. Collector Serverと SAP の間に Remote Function Call (RFC) 接続を構成することを計画している場合は、交換ディレクトリーを作成します。Collector Serverと SAP Application Server は、この交換ディレクトリーへのアクセス権限を持つ必要があります。この交換ディレクトリーで、SAP アプリケーションは Content Collector for SAP によりアーカイブされたファイルを保管します。

**注:** Collector Serverが実行されるユーザー ID は、交換ディレクトリーに対する読み取りおよび書き込み権限を持つ必要があります。

この交換ディレクトリーへのパスは、後で RFC 接続を構成するときに指定する必要があります。

- c. 104 ページの『Collector Serverが必要とする SAP コンポーネントのインストール』
6. P8 Clientの場合は、次の追加ステップを実行します。
  - a. Workplace または Workplace XT を再始動します。
  - b. クライアント・パッケージから Windows 32 ビット・オペレーティング・システムまたは Windows 64 ビット・オペレーティング・システムに P8 Client SAP Connector をインストールします。

7. Utility Clientの場合は、次の追加ステップを実行します。
  - a. SAP Java Connector (SAP JCo) ファイルを、Utility Client インストール・システムの lib ディレクトリーにコピーします。これらのファイルは、ステップ 5 (110 ページ) で Collector Serverに必要な SAP コンポーネントをインストールしたときに、ダウンロードしました。
  - b. 索引転送機能を使用する場合は 117 ページの『Utility Client の Index Transfer Enablement パッケージのインストール』を参照してください。

**次の作業:**

- 1 つ以上の Content Collector for SAP クライアントが必要な場合は、105 ページの『コンソール・モードまたは GUI モードでのクライアント・パッケージのインストール』を使用して続行します。
- 1 つ以上の追加プログラムが必要な場合は、113 ページの『第 14 章 追加プログラムのインストール』を使用して続行します。
- Content Collector for SAP クライアントまたは追加プログラムを必要としない場合は、123 ページの『第 5 部 構成』を使用して続行します。

## サイレント・モードでのクライアント・パッケージのインストール

Windows 32 ビット・オペレーティング・システムでクライアント・パッケージのサイレント・インストールを実行するには、以下の手順を完了します。クライアント・パッケージを Windows 64 ビット・オペレーティング・システムにインストールするには、サンプル応答ファイルの説明に従ってデフォルトのインストール・パスを変更します。

サンプルの応答ファイル installer.properties は、インストール・パッケージと同じパスにあります。ファイルには次の設定が含まれています。

- クライアント・パッケージ内のすべてのコンポーネントは、具体的には以下のものがインストールされます。
  - Archiving Client
  - P8 Client
  - P8 Client SAP Connector
  - Utility Client
  - Viewing Client
- インストール・パスは C:¥Program Files¥IBM¥ICSSAP です。
- Workplaceは、パス C:¥Program Files¥FileNet¥AE¥Workplace にインストールされます。

**手順:**

1. Windows 64 ビット・オペレーティング・システムにログオンします。
2. 自分で選択したディレクトリーにインストール・パッケージをダウンロードして解凍します。サンプルの応答ファイルは、インストール・プログラムと同じディレクトリーにあります。
3. コマンド行からサイレント・インストールを開始します。
  - a. コマンド行を開いて、インストール・パッケージを解凍したディレクトリーに変更します。

- b. ファイルの名前を `installer.properties` に変更します。ファイルは、インストール・プログラムと同じディレクトリーに置いておきます。
- c. 以下のコマンドを入力します。

```
install.exe
```

P8 Client は Workplace がインストールされているサーバーにインストールされます。

4. P8 Client の場合は、Workplace または Workplace XT を再始動します。
5. Utility Client の場合は、追加のステップを実行する必要があります。
  - a. <http://service.sap.com/connectors>に移動し、リンクを「**SAP Java Connector**」 > 「**ツールおよびサービス (Tools & Services)**」 > 「**SAP JCo リリース 3.0.x のダウンロード (Download SAP JCo Release 3.0.x)**」とたどります。
  - b. ご使用のオペレーティング・システム用の SAP JCo ライブラリーの 32 ビット・バージョンまたは 64 ビット・バージョンをダウンロードします。
  - c. Utility Client のインストール・システムの lib ディレクトリーに、パッケージを解凍します。
  - d. 索引転送機能を使用する場合は 117 ページの『Utility Client の Index Transfer Enablement パッケージのインストール』を参照してください。



---

## 第 14 章 追加プログラムのインストール

特定の Content Collector for SAP のタスクについては、追加のプログラムをインストールする必要があります。

始める前に:

- 29 ページの『追加プログラムのインストールの計画』
- 99 ページの『コンソール・モードまたは GUI モードでのサーバー・パッケージのインストール』

---

### Cold プログラムのインストール

バーコードの付いた文書を Cold プログラムを使用して SAP にリンクするには、ご使用の SAP システムに Cold プログラムをインストールする必要があります。Content Collector for SAP ではこのプログラムをサンプル・コードとして提供しています。

詳細およびライセンス情報については、プログラム・パッケージに含まれているレポート ZCSL および ZCSI のヘッダーを参照してください。

手順:

1. Content Collector for SAP インストール・システムの cold ディレクトリーから、SAP システムの trans ディレクトリーに、ファイル cold.car をコピーします。

Linux または UNIX システムでは、ディレクトリーの名前は /usr/sap/trans です。

2. ファイル cold.car のコンテンツを抽出します。
  - a. コマンド行を開いて、trans ディレクトリーに変更します。
  - b. 以下のコマンドを入力します。



```
sapcar -xvf cold.car
```

出力は、次のようになります。

```
cofiles/Kxxxxxx.EC5  
data/Rxxxxxx.EC5
```

xxxxxx は、転送要求を一意的に識別する 6 桁の番号です。この番号は、以下のステップで使用されます。

3. ファイル cold.car を trans ディレクトリーから削除します。
4. 管理者として SAP GUI にログオンし、トランザクション・コード STMS を入力して「Transport Management System」ウィンドウを開きます。次に、以下のように入ります。
  - a. 「概要 (Overview)」 > 「インポート (Imports)」をクリックします。
  - b. 「インポートの概要 (Import Overview)」ウィンドウで、ターゲット・キューをダブルクリックします。

- c. 「インポート・キュー (Import Queue)」ウィンドウで、「エクストラ (Extras)」 > 「その他の要求 (Other Requests)」 > 「追加 (Add)」をクリックします。「転送要求をインポート・キューに追加 (Add Transport Request to Import Queue)」ウィンドウが開きます。
  - d. 「転送要求 (Transp. Request)」フィールドに EC5Kxxxxxx と入力します。xxxxxx は、手順 2 (113 ページ) で表示された 6 桁の数値を表します。
  - e. 選択したキューに転送要求を付加するかどうかを尋ねられたら、「はい (Yes)」をクリックします。
  - f. 要求 EC5Kxxxxxx がインポート・キューの末尾に表示されていることを確認します。
5. インポートが正常に実行されるかどうかの検査を続行する前に、テスト・インポートを実行します。以下の手順で行います。
    - a. 「インポート・キュー (Import Queue)」ウィンドウで、「要求 (Request)」 > 「インポート (Import)」をクリックします。
    - b. 「転送要求のインポート (Import Transport Request)」ウィンドウの「日付」ページで、「開始日」の下の「即時 (Immediate)」をクリックします。
    - c. 「実行 (Execution)」ページで、「同期 (Synchronous)」をクリックします。
    - d. 「オプション (Options)」ページで、「後でインポートするためにキューに転送要求を残す (Leave Transport Request in Queue for Later Import)」をクリックします。
    - e. 「テスト・インポートの実行 (Perform Test Import)」アイコン  をクリックします。「はい (Yes)」をクリックして、テスト・インポートを実行することを確認します。
    - f. インポート・キュー内の要求を右クリックし、「ログ (Logs)」をクリックして、転送ログを開きます。
    - g. 「転送ログの概要 (Overview of Transport Logs)」ウィンドウで、最新のテスト項目に潜在的なエラーや警告がないか調べます。この項目は、「要求 (request)」 > 「sid」 > 「テスト・インポート (Test Import)」の階層をたどると見つかります。
    - h. 「戻る」アイコン  をクリックして、ターゲット・システムの「インポート・キュー (Import Queue)」ウィンドウに戻ります。
  6. テスト・インポートが正常に実行された場合は、要求を右クリックし、「インポート (Import)」をクリックします。
  7. 「転送要求のインポート (Import Transport Request)」ウィンドウで、有効なターゲット・クライアントを選択します。「実行 (Execution)」ページおよび「オプション (Options)」ページの設定を調べて、必要な場合は調整します。その後 Enter を押してインポートを開始します。
  8. 「インポート・キュー (Import Queue)」ウィンドウで要求を右クリックし、次に「インポート・モニター (Import Monitor)」をクリックして、要求の状況を調査します。

Cold プログラムは、文書をインポートするためのプログラム、および文書リストをインポートするためのプログラムとして実装されます。トランザクション・コード

ZSCI または ZSCL を SAP GUI で入力すると、パラメーターを表示できます。  
SAP GUI を使用して、プログラムを変更します。

パラメーターについて詳しくは、以下を参照してください。

- 338 ページの『Cold プログラムを使用して、アーカイブされた文書をリンクする』
- 336 ページの『Cold プログラムを使用して、まだアーカイブされていない文書をリンクする』

---

## eClient 拡張機能のインストール

Content Manager eClient を Content Collector for SAP に統合するには、Content Collector for SAP のサーバー・パッケージとクライアント・パッケージに含まれている eClient 拡張機能をインストールする必要があります。

### 始める前に:

- Content Manager Enterprise Edition バージョン 8.3 以降の eClient サーバーをインストールします。eClient サーバーのインストール方法について詳しくは、IBM DB2 Content Management インフォメーション・センターを参照してください。
- クライアント・コンピューターで次のソフトウェアをインストールします。
  - Microsoft Internet Explorer 7 以降
  - Java ランタイム環境または Java Development Kit 1.5 以降の Web ブラウザー・プラグイン
  - Content Collector for SAP の Viewing Client

### 手順:

1. ファイル cseclientext.zip を <InstallHome> ディレクトリーに配置します。このファイルは、サーバー・パッケージ、クライアント・パッケージ、またはこれらのパッケージからのコンポーネントをインストールするときに、インストールされます。
2. cseclientext.zip を eClient サーバーの eClient.war ディレクトリーに解凍します。このディレクトリーのパスは、ご使用の Content Manager のバージョンによって異なります。例えば、Windows では、このディレクトリーのデフォルト・パスは次のようになります。

#### Content Manager Enterprise Edition バージョン 8.3 の場合

C:%Program

Files%IBM%db2cmv8%CMClient%installedApps%eclient.ear%eclient.war

#### Content Manager Enterprise Edition バージョン 8.4 の場合

C:%Program Files%IBM%WebSphere%AppServer%profiles%

<profile\_name>%installedApps%

<cell\_name>%eClient.ear%eclient.war

3. web.xml ファイルのバックアップ・コピーを作成します。例えば Windows の場合、このファイルは、アプリケーション・サーバーのインストール・システムの eClient デプロイメント・ディレクトリーに配置されます。

### Content Manager Enterprise Edition バージョン 8.3 の場合

```
C:¥Program Files¥WebSphere¥AppServer¥config¥cells¥  
<computer> ¥applications¥eClient.ear¥deployments¥  
eClient¥eclient.war¥WEB-INF¥
```

<computer> は、eClient がインストールされているコンピューターの名前です。

### Content Manager Enterprise Edition バージョン 8.4 の場合

```
C:¥Program Files¥IBM¥WebSphere¥AppServer¥profiles¥  
<profile_name>¥config¥cells¥<cell_name>  
¥applications¥eClient.ear¥deployments¥  
eClient¥eclient.war¥WEB-INF
```

**重要:** これは、ステップ 2 (115 ページ) のディレクトリーと同じではありません。ステップ 2 (115 ページ) で説明されているディレクトリーにも、web.xml という名前のファイルがあります。

4. オリジナルの web.xml ファイルをエディターで開きます。
5. 最後のセクションの後ろに、以下のセクションを <servlet> という見出しで追加します。

```
<servlet>  
  <servlet-name>CSCallEClientServlet</servlet-name>  
  <display-name>CSCallEClientServlet</display-name>  
  <servlet-class>com.ibm.esd.commonstore.cmclientex.servlets.  
  CSCallEClientServlet</servlet-class>  
  <init-param>  
    <param-name>cookieDurability</param-name>  
    <param-value>365</param-value>  
  </init-param>  
  <init-param>  
    <param-name>logonScramblingKey</param-name>  
    <param-value>EXAMPLEKEY</param-value>  
  </init-param>  
</servlet>  
  
<servlet>  
  <servlet-name>CSLogonServlet</servlet-name>  
  <display-name>CSLogonServlet</display-name>  
  <servlet-class>  
    com.ibm.esd.commonstore.cmclientex.servlets.CSLogonServlet  
  </servlet-class>  
</servlet>
```

6. 最後のセクションの後ろに、以下のセクションを <servlet-mapping> という見出しで追加します。

```
<servlet-mapping>  
  <servlet-name>CSCallEClientServlet</servlet-name>  
  <url-pattern>/CSCallEClientServlet</url-pattern>  
</servlet-mapping>  
  
<servlet-mapping>  
  <servlet-name>CSLogonServlet</servlet-name>  
  <url-pattern>CSLogonServlet</url-pattern>  
</servlet-mapping>
```

7. 追加した <servlet> セクション内の初期化パラメーターを、必要に応じて修正します。

### cookieDurability

このパラメーターは、ユーザー ID とそのパスワードが Cookie から何日後に削除されるかを定義します。デフォルト値は 365 です。

### logonScramblingKey

このパラメーターは、ユーザー ID とそのパスワードを、cookie に格納される前に暗号化するための鍵を定義します。デフォルトの鍵は EXAMPLEKEY です。安全のため、デフォルトの鍵は必ず自分の選択したセキュア・キーに変更してください。

8. 必要な場合、変更を有効にするために eClient サーバーを停止してから再始動します。

---

## SAP Cryptographic Library のインストール

Collector Serverが secure hypertext transfer protocol (HTTPS) を使用して SAP と通信する場合は、SAP Cryptographic Library を SAP Application Server にインストールする必要があります。SAP Cryptographic Library は、暗号化された HTTP 接続 (デフォルトで使用可能に設定) が必要です。

考えられるエクスポート制限については、SAP ノート 397175 を参照してください。

### 手順:

1. SAP Cryptographic Library を SAP サービス・マーケットプレイスからダウンロードし、それを SAP ランタイム・ディレクトリーに保存します。
2. 提供されたチケット・ファイルを、該当する <sapinstance>%sec ディレクトリーにコピーします。<sapinstance> は、SAP Application Serverのインスタンスを指定します。
3. Cryptographic Library の絶対パスを、SAP インスタンスのプロファイルに追加します。
4. 詳しくは、SAP の注釈 510007 を参照してください。

### 関連情報

 <http://service.sap.com>

 SAP ノート 510007

---

## Utility Client の Index Transfer Enablement パッケージのインストール

Utility Client の索引転送機能を使用する場合は、Index Transfer Enablement パッケージをインストールする必要があります。索引転送機能を使用する前に、このパッケージをインストールしてください。

### 始める前に:

- サーバー・パッケージから、またはクライアント・パッケージから Utility Client をインストールします。詳しくは、99 ページの『コンソール・モードまたは GUI モードでのサーバー・パッケージのインストール』または 105 ページの『コンソール・モードまたは GUI モードでのクライアント・パッケージのインストール』を参照してください。

- SAP Transportation Management アプリケーションの構成が完了しており、インポート・プログラム (RDDNEWPP) がターゲットの SAP システムで実行されていることを確認します。詳しくは、SAP 文書を参照してください。

**手順:**

1. Utility Client インストール・システムの trans サブディレクトリーから、SAP システムの trans ディレクトリーに、ファイル zibmccixer.car をコピーします。Linux または UNIX システムでは、ディレクトリーの名前は /usr/sap/trans です。

2. ファイル zibmccixer.car のコンテンツを、次のように抽出します。

- a. コマンド行を開いて、trans ディレクトリーに変更します。

- b. 以下のコマンドを入力します。



```
sapcar -xvf zibmccixer.car
```

出力は、次のようになります。

```
cofiles/Kxxxxxx.EC5  
data/Rxxxxxx.EC5
```

xxxxxx は、転送要求を一意的に識別する 6 桁の番号です。この番号は、以下のステップで使用されます。

3. ファイル zibmccixer.car を trans ディレクトリーから削除します。
4. 管理者として SAP GUI にログオンし、トランザクション・コード STMS を入力して「Transport Management System」ウィンドウを開きます。次に、以下のように入ります。
  - a. 「概要 (Overview)」 > 「インポート (Imports)」をクリックします。
  - b. 「インポートの概要 (Import Overview)」ウィンドウで、ターゲット・キューをダブルクリックします。
  - c. 「インポート・キュー (Import Queue)」ウィンドウで、「エクストラ (Extras)」 > 「その他の要求 (Other Requests)」 > 「追加 (Add)」をクリックします。「転送要求をインポート・キューに追加 (Add Transport Request to Import Queue)」ウィンドウが開きます。
  - d. 「転送要求 (Transp. Request)」フィールドに EC5Kxxxxxx と入力します。xxxxxx は、手順 2 (113 ページ) で表示された 6 桁の数値を表します。
  - e. 選択したキューに転送要求を付加するかどうかを尋ねられたら、「はい (Yes)」をクリックします。
  - f. 要求 EC5Kxxxxxx がインポート・キューの末尾に表示されていることを確認します。
5. インポートが正常に実行されるかどうかの検査を続行する前に、テスト・インポートを実行します。以下の手順で行います。
  - a. 「インポート・キュー (Import Queue)」ウィンドウで、「要求 (Request)」 > 「インポート (Import)」をクリックします。
  - b. 「転送要求のインポート (Import Transport Request)」ウィンドウの「日付」ページで、「開始日」の下の「即時 (Immediate)」をクリックします。
  - c. 「実行 (Execution)」ページで、「同期 (Synchronous)」をクリックします。

- d. 「オプション (Options)」 ページで、「後でインポートするためにキューに転送要求を残す (Leave Transport Request in Queue for Later Import)」 をクリックします。
  - e. 「テスト・インポートの実行 (Perform Test Import)」 アイコン  をクリックします。「はい (Yes)」 をクリックして、テスト・インポートを実行することを確認します。
  - f. インポート・キュー内の要求を右クリックし、「ログ (Logs)」 をクリックして、転送ログを開きます。
  - g. 「転送ログの概要 (Overview of Transport Logs)」 ウィンドウで、最新のテスト項目に潜在的なエラーや警告がないか調べます。この項目は、「要求 (request)」 > 「sid」 > 「テスト・インポート (Test Import)」 の階層をたどると見つかります。
  - h. 「戻る」 アイコン  をクリックして、ターゲット・システムの「インポート・キュー (Import Queue)」 ウィンドウに戻ります。
6. テスト・インポートが正常に実行された場合は、要求を右クリックし、「インポート (Import)」 をクリックします。
  7. 「転送要求のインポート (Import Transport Request)」 ウィンドウで、有効なターゲット・クライアントを選択します。「実行 (Execution)」 ページおよび「オプション (Options)」 ページの設定を調べて、必要な場合は調整します。その後 Enter を押してインポートを開始します。
  8. 「インポート・キュー (Import Queue)」 ウィンドウで要求を右クリックし、次に「インポート・モニター (Import Monitor)」 をクリックして、要求の状況を調査します。

インポートが完了したら、ターゲット・システムの「インポート・キュー (Import Queue)」 ウィンドウに戻ります。要求を右クリックし、「ログ (Logs)」 をクリックしてインポートの詳細を表示します。





## 第 15 章 Content Collector for SAP のアンインストール

Content Collector for SAP のコンポーネントは、1 つずつアンインストールすることも、いくつかのコンポーネントまたはすべてのコンポーネントを一緒にアンインストールすることもできます。コンポーネントはコンソール・モード、GUI モード、またはサイレント・モードでアンインストールできます。

Content Collector for SAP では、Flexera による InstallAnywhere を使用して、コンポーネントをアンインストールします。すべての構成ファイルは保持されます。InstallAnywhere は、それ自身でインストールしたコンポーネントのみ、アンインストールできます。インストール後に追加されたファイルやフォルダーは削除できません。

### 手順:

1. 次のいずれかの方法で InstallAnywhere を開始します。
  - Linux または UNIX システム上の Content Collector for SAP をアンインストールするには、次のステップを実行します。
    - a. コマンド行を開き、次のディレクトリーに移動します。  
`<InstallHome>/uninstall`
    - b. 使用するインストール・モードに応じて、次のコマンドのいずれかを入力します。Content Collector for SAP が米国英語以外の言語でインストールされている場合は、アンインストール・プログラムの名前が異なっていることがあります。<sup>1</sup>

インストール・モード	コマンド
コンソール・モード	<code>deinstall.bin</code>
GUI モード	<code>deinstall.bin -i gui</code>
サイレント・モード	<code>deinstall.bin</code> <b>注:</b> インストール・パッケージをサイレント・モードでインストールした場合は、インストールされたコンポーネントは、デフォルトでは、サイレント・モードでアンインストールされます。ただし、アンインストール・コマンドに <code>-i console</code> または <code>-i gui</code> を追加することによって、コンポーネントをコンソール・モードまたは GUI モードでアンインストールすることもまだできます。以下に例を示します。  <code>deinstall.bin -i console</code>

1. 例えば、ドイツ語では、プログラムの名前が `deinstallieren.bin` または `deinstallieren.exe` となります。

- Windows 上の Content Collector for SAP をアンインストールするには、次の方法が可能です。Content Collector for SAP が米国英語以外の言語でインストールされている場合は、アンインストール・プログラムの名前が異なることがあります。<sup>1</sup>

インストール・モード	手順
GUI モード	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. プログラムおよび機能を追加または削除できるウィンドウを開きます。</li> <li>2. <b>IBM Content Collector for SAP Applications</b> をクリックして、「変更/削除」をクリックします。</li> </ol>
コンソール・モード	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. コマンド・プロンプトを開き、次のディレクトリーに移動します。 <code>&lt;InstallHome&gt;\%uninstall</code></li> <li>2. 次のように入力します。 <code>deinstall.exe -i console</code></li> </ol>
サイレント・モード	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. コマンド・プロンプトを開き、次のディレクトリーに移動します。 <code>&lt;InstallHome&gt;\%uninstall</code></li> <li>2. 次のように入力します。 <code>deinstall.exe</code></li> </ol> <p><b>注:</b> インストール・パッケージをサイレント・モードでインストールした場合は、インストールされたコンポーネントは、デフォルトでは、サイレント・モードでアンインストールされます。ただし、アンインストール・コマンドに <code>-i console</code> または <code>-i gui</code> を追加することによって、コンポーネントをコンソール・モードまたは GUI モードでアンインストールすることもまだできます。以下に例を示します。</p> <pre>deinstall.exe -i gui</pre>

2. 表示されるアンインストールの指示に従います。

指定したコンポーネントが削除されました。

---

## 第 5 部 構成

構成する必要がある Content Collector for SAP のコンポーネントおよび製品は、Content Collector for SAP で実行するタスクによって異なります。

すべてのタスクで、構成済みの Collector Serverが稼働していることが必要です。したがって、以下の構成手順が必須です。

1. 129 ページの『第 18 章 環境の準備』
2. 139 ページの『第 19 章 Content Collector for SAP で使用するためにアーカイブを構成する』。
3. 159 ページの『第 20 章 Collector Serverの構成』

これらの手順を完了した後に、どのタスクを Content Collector for SAP で実行するかを決定して、247 ページの『第 26 章 基本タスク向け環境の構成』で適切な構成についてのトピックを参照します。一部のタスクでは、Collector Server、アーカイブ、または SAP を追加で構成する必要があります。また、タスクによっては、いずれかの Content Collector for SAP クライアントを構成する必要があります。



## 第 16 章 構成ファイル: デフォルト・ロケーション

構成時に、構成ファイルをコピーして変更する必要があります。このトピックでは、個々の構成ファイルのデフォルト・ロケーションの概要をアルファベット順に説明します。

構成ファイル	Linux およびUNIX システムのデフォルト・ロケーション	Windows のデフォルト・ロケーション
archint.ini デフォルトのサーバー構成プロファイル。	<InstallHome>/server/bin	<InstallHome>% Server% instances% instance01
archint_sample_cm8.ini archint_sample_cmod.ini archint_sample_tsm.ini archint_sample_p8.ini サンプルのサーバー構成プロファイル。		
archint.cfg Collector Serverのすべての変数パラメーター (暗号化されたパスワードなど) が含まれているデフォルトの構成ファイル。		
csmimes.properties アーカイブされた文書の文書フォーマットを MIME タイプにマップして、文書の内容をSAP で正しく表示できるようにします。		
WorkflowGeneration.pep バーコード処理用に設計されたサンプル・ワークフロー定義が含まれています	<InstallHome>	<InstallHome>

表 7. Linux および UNIX でのみ使用可能なファイル

構成ファイル	デフォルト・ロケーション
.profile	インスタンス・ユーザーのホーム・ディレクトリー

表 8. Windows でのみ使用可能なファイル

構成ファイル	デフォルト・ロケーション
CSArch.ini Archiving Client の設定が含まれています。	<InstallHome>%ArchivingClient
CSClient.ini デフォルトのクライアント構成プロファイル。	%SystemRoot% ディレクトリー
csdoctypes.ini サポートされている SAP 文書フォーマットが含まれています。	<InstallHome>%ArchivingClient

---

## 第 17 章 属性またはプロパティの名前のマッピング

一部の文書属性または文書プロパティには、Content Collector for SAP が使用できるように特定の名前を付ける必要があります。そのような名前が既にある場合、または別の名前を付ける場合は、Content Collector for SAP によって要求される名前に、ユーザーが割り当てる名前をマッピングできます。このためには、属性マッピング・ファイルを作成する必要があります。

### 手順:

1. テキスト・エディターを開きます。
2. 各マッピングは、以下の部分で構成されます。
  - マッピングの左側には、INTERNAL\_ というプレフィックスの後に Content Collector for SAP 属性またはプロパティの名前を大文字で指定します。
  - 右側には、ユーザーが指定した属性またはプロパティの名前を指定します。

以下に例を示します。

```
INTERNAL_BARCODE barcode1
```

3. 例えば、mapping.txt のように、属性マッピング・ファイルに拡張子 txt を付けて保存します。
4. サーバー構成プロファイルをテキスト・エディターで開きます。
5. 属性マッピング・ファイルを使用する各 ARCHIVE セクションで、ATTRMAPPING\_FILE キーワードに対してマッピング・ファイルの絶対パスを指定します。以下に例を示します。

```
ARCHIVE A1  
...  
ATTRMAPPING_FILE C:¥ICCSAP¥Server¥instance01¥mapping.txt
```

6. サーバー構成プロファイルを保存し、Collector Serverを再始動して変更内容を有効にします。





---

## 第 18 章 環境の準備

Linux または UNIX システムでは、Content Collector for SAP には Content Collector for SAP インスタンス・ユーザーが必要です。Content Manager Enterprise Edition バージョン 8 および Tivoli Storage Manager では、特定の環境変数を設定する必要があります。さらに、基本的な SAP システムをセットアップする必要があります。

### 始める前に:

1. 95 ページの『第 12 章 Content Collector for SAP で使用するためにアーカイブをインストールする』
2. 99 ページの『第 13 章 Content Collector for SAP のインストール』
3. オプション: 113 ページの『第 14 章 追加プログラムのインストール』

### 手順:

1. 『Collector Server・インスタンスの構成』
2. Content Manager Version 8 または Tivoli Storage Manager をアーカイブとして使用する場合: 131 ページの『アーカイブ向け環境の構成』
3. 132 ページの『基本的な SAP システムのセットアップ』

---

## Collector Server・インスタンスの構成

Collector Server で作業できるようにするには、少なくとも 1 つのインスタンスが存在している必要があります。

### Linux または UNIX で、Collector Server インスタンス・ユーザーを構成する

Linux または UNIX システムでは、Collector Server インスタンス・ユーザーを Content Collector for SAP で操作できるように構成する必要があります。

### 手順:

1. Collector Server インスタンス・ユーザーを作成する。
2. Collector Server インスタンス・ユーザーとしてログオンする。
3. インスタンス・ユーザーのホーム・ディレクトリーにある `.profile` ファイルに、以下のパスを追加します。

```
. <InstallHome>/server/bin/csenv.sh
```

ピリオド (.) と `<InstallHome>` の間のスペースに注意してください。

指定したパスを記録しておきます。あとで Collector Server をアーカイブで使用するよう構成する場合は、サーバー構成プロファイルの `INSTANCEPATH` キーワードにこのパスを指定する必要があります。インスタンス・ユーザーには、ディレクトリーへの書き込み許可が必要です。

4. インスタンス・ディレクトリーに、queue という名前のディレクトリーを作成します。代わりに、QUEUEPATH キーワードをサーバー構成プロファイルに追加して、それにパスを指定することもできます。Collector Serverをアーカイブで使用するために構成する場合は、キーワードを追加することができます。

**ヒント:** 多数のキューが予想される場合は、QUEUEPATH キーワードを使用します。

#### 次の作業:

- Content Manager Enterprise Edition をアーカイブとして使用する場合は、131 ページの『Linux または UNIX システムで Content Manager 用に環境を構成する』を使用して続行
- Tivoli Storage Manager をアーカイブとして使用する場合は、132 ページの『Tivoli Storage Manager 用の環境を構成する』を使用して続行
- その他のサポートされているアーカイブを使用する場合は、132 ページの『基本的な SAP システムのセットアップ』を使用して続行

## Windows で Collector Server インスタンスを構成する

Collector Serverをインストールすると、Collector Server インスタンスが既にディレクトリー <InstallHome>%server%instances%instance01 内にセットアップされています。このインスタンス・ディレクトリーを移動または名前変更するか、独自のインスタンス・ディレクトリーを作成することもできます。

次のステップを実行して、インスタンスを構成します。

1. 自分で選択したディレクトリー内にインスタンス・ディレクトリーを作成します。
2. 新しいインスタンス・ディレクトリーへのパスを記録しておきます。あとで Collector Serverをアーカイブで使用するように構成する場合は、サーバー構成プロファイルの INSTANCEPATH キーワードにこのパスを指定する必要があります。
3. 新しいインスタンス・ディレクトリーに queue という名前のディレクトリーを作成します。代わりに、QUEUEPATH キーワードをサーバー構成プロファイルに追加して、それにパスを指定することもできます。Collector Serverをアーカイブで使用するために構成する場合は、キーワードを追加することができます。

**ヒント:** 多数のキューが予想される場合は、QUEUEPATH キーワードを使用します。

#### 次の作業:

- Content Manager Enterprise Edition をアーカイブとして使用する場合は、131 ページの『Windows で Content Manager 用に環境を構成する』
- Tivoli Storage Manager をアーカイブとして使用する場合は、132 ページの『Tivoli Storage Manager 用の環境を構成する』を使用して続行
- その他のサポートされているアーカイブを使用する場合は、132 ページの『基本的な SAP システムのセットアップ』を使用して続行

---

## アーカイブ向け環境の構成

Content Manager Version 8 および Tivoli Storage Manager のための環境を構成します。

### Content Manager 用の環境を構成する

アーカイブとして Content Manager Enterprise Edition を使用する場合は、Content Collector for SAP が Content Manager Enterprise Edition にアクセスできるように、環境設定を構成する必要があります。

#### Linux または UNIX システムで Content Manager 用に環境を構成する

DB2 環境を構成する必要があります。また、Content Manager Enterprise Edition コネクタを使用するための環境構成も必要です。

**始める前に:** 129 ページの『Linux または UNIX で、Collector Server インスタンス・ユーザーを構成する』

**手順:**

1. Content Collector for SAP インスタンス・ユーザーとしてログオンする。
2. Content Manager Enterprise Edition コネクタの環境の構成
  - a. cmbenv81.sh シェル・スクリプトを実行します。
  - b. ログオンするたびにこのスクリプトが自動的に実行されるようにするためには、.profile ファイルに以下の項目を追加します。

```
. /opt/IBM/db2cmv8/bin/cmbenv81.sh
```
3. ログオン・プロファイルに対する変更を有効にするためには、ログオフ後、インスタンス・ユーザーとして再度ログオンします。

**注:** ピリオド (.) と最初のスラッシュ (/) の間にスペースがあります。

**次の作業:** 132 ページの『基本的な SAP システムのセットアップ』

#### Windows で Content Manager 用に環境を構成する

Content Manager Enterprise Edition コネクタを使用するために環境を構成する必要があります。

**始める前に:** 130 ページの『Windows で Collector Server インスタンスを構成する』

**手順:**

コマンド・プロンプトからバッチ・プログラム AgentEnv\_CM8.bat を実行します。このプログラムは Collector Server のインストール・ディレクトリーにあります。このプログラムによって、環境変数 CM8\_CLASSPATH が設定されます。

**次の作業:** 132 ページの『基本的な SAP システムのセットアップ』

## Tivoli Storage Manager 用の環境を構成する

Tivoli Storage Manager API クライアントが所定のファイルを見つけられるように、特定の環境変数を構成する必要があります。

**始める前に:** 129 ページの『Collector Server・インスタンスの構成』

以下のように操作を続行します。

- `DSMI_CONFIG` 環境変数を、空のクライアント・オプション・ファイル `dsm.opt` の完全修飾パスに設定します。 例:
  - Linux および UNIX システム: ファイルをディレクトリー `/opt/ibm/cssap/server/client_opt` に保存した場合は、環境変数を次のように指定します。  
`DSMI_CONFIG=/opt/ibm/iccsap/server/client_opt/dsm.opt`
  - Windows: ファイルをディレクトリー `C:%Program Files%IBM%ICCSAP%Server%client_opt` に保存した場合は、環境変数を次のように指定します。  
`DSMI_CONFIG=C:%Program Files%IBM%ICCSAP%Server%client_opt%dsm.opt`
- `DSMI_DIR` 環境変数を以下のパスに設定します。
  - Linux および UNIX システム上: `/usr/tivoli/tsm/client/api/bin64`。環境変数は `bin64` ディレクトリーを指す必要があるということに注意してください。 `bin` ディレクトリーを指してはなりません。
  - Windows の場合: Tivoli Storage Manager メッセージ・ファイル `dscenu.txt` が保管されているパス。
- `DSMI_LOG` 環境変数を、Tivoli Storage Manager のエラー・ログ `dsmerror.log` が保管されているパスに設定します。
- `PATH` 環境変数を、Tivoli Storage Manager API DLL が保管されているディレクトリーに設定します。

次の作業: 『基本的な SAP システムのセットアップ』

---

## 基本的な SAP システムのセットアップ

任意の Content Collector for SAP タスクを実行するには、基本的な SAP システムが存在する必要があります。

**始める前に:**

- Content Manager Enterprise Edition をアーカイブとして使用する場合: 131 ページの『Linux または UNIX システムで Content Manager 用に環境を構成する』
- Tivoli Storage Manager をアーカイブとして使用する場合: 『Tivoli Storage Manager 用の環境を構成する』
- その他のサポートされているアーカイブを使用する場合: 129 ページの『Collector Server・インスタンスの構成』

**手順:**

1. 133 ページの『CPIC アクセス権限を持つユーザーの作成』
2. 136 ページの『SAP クライアントへの論理システムのリンク』

## CPIC アクセス権限を持つユーザーの作成

Content Collector for SAP と共に使用する SAP クライアントでユーザーを作成します。

このトピックは、SAP クライアント 800 でサンプル・ユーザー CPICUSER1 を作成する方法を示します。

### 手順:


1. SAP GUI でトランザクション・コード SU01 を入力して、「ユーザー保守: 初期画面 (User Maintenance: Initial Screen)」ウィンドウを開く。
2. 「ユーザー」フィールドに、作成する CPIC ユーザーに対する名前を指定します。

例えば、以下のように入力します。

CPICUSER1

注: SAP は小文字または小文字と大文字の混在している名前を大文字に変換します。



CPIC ユーザー名は、後からアーカイブと共に使用するために Collector Server を構成するときに指定する必要があります。

3. 「作成 (Create)」アイコン  をクリックする。「ユーザーの保守 (Maintain User)」ウィンドウが開きます。
4. 「アドレス (Address)」ページの「姓 (Last name)」フィールドにユーザーの姓を入力する。

例えば、以下のように入力します。

CPICUSER1\_family

5. 「ログオン・データ (Logon data)」タブをクリックし、以下の情報を指定する。
  - a. 「ユーザー・タイプ (User Type)」フィールドから「通信データ (Communications Data)」を選択する。
  - b. 「初期パスワード (Initial password) フィールドに、ユーザーのパスワードを入力する。
  - c. 「パスワードの繰り返し (Repeat password)」フィールドに、このパスワードを繰り返す。
  - d. オプション: 「有効範囲の始まり (Valid from)」フィールドと「有効範囲の終わり (Valid through)」フィールドに、このユーザーが有効な期間の開始日と終了日を指定する。
6. CPIC ユーザーに SAP システム全体に対するアクセス権限を付与するか、ユーザーの許可を、データ、印刷リスト、および文書のアーカイブ、リンク、および表示に必要なものに減らすかを決定する。
  - CPIC ユーザーに SAP システム全体に対するアクセス権限を付与するには、以下のステップを実行します。
    - a. 「プロファイル (Profiles)」タブをクリックする。

- b. 「プロファイル (Profile)」列の最初の行に、以下を入力する。  
SAP\_ALL
  - c. 「プロファイル (Profile)」列の 2 番目の行に、以下を入力する。  
SAP\_NEW
  - d. 「保管」アイコン  をクリックして、設定を保存する。
- CPIC ユーザーのアクセス権限を制限するには、以下のステップを実行します。
    - a. 「保管」アイコン  をクリックして、設定を保存する。
    - b. 『CPIC ユーザーのアクセス権限の制限』

次の作業: CPIC ユーザーの許可に関する決定に応じて、以下のいずれかのタスクを続行します。

- 『CPIC ユーザーのアクセス権限の制限』
- 136 ページの『SAP クライアントへの論理システムのリンク』

## CPIC ユーザーのアクセス権限の制限

CPIC ユーザーに SAP システム全体に対するアクセス権限を付与する代わりに、ユーザーの許可を、データ、印刷リスト、および文書のアーカイブ、リンク、および表示に必要なものに減らすことができます。

### CPIC ユーザーの役割とプロファイルの作成:

CPIC ユーザーに対して役割を作成する必要があります。加えて、必要な許可を指定するプロファイルを作成する必要があります。

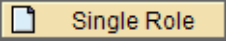

このトピックでは、サンプル ICCSAP\_USER を作成する方法を示します。

#### 手順:

1. SAP GUI で、トランザクション・コード PFCG を入力して、「役割の保守 (Role Maintenance)」ウィンドウを開きます。
2. 「役割 (Role)」フィールドに、役割の名前を入力します。

例えば、以下のように入力します。


ICCSAP\_USER








3. 「単一の役割 (Single Role)」アイコン  をクリックします。「役割の作成 (Create Roles)」ウィンドウが開きます。
4. 「説明」フィールドに説明を入力します。その後、「保管」アイコン  をクリックして設定を保存します。

例えば、以下のように入力します。

Content Collector for SAP の許可

5. 「許可 (Authorizations)」タブをクリックします。ウィンドウのタイトルが「役割の変更 (Change Roles)」に変わります。
6. 「許可プロファイルに関する情報 (Information About Authorization Profile)」の、「プロファイル名 (Profile Name)」フィールドの右にある「プロファイル

名の提案 (Propose Profile Names)」アイコン  をクリックします。SAP によって、プロファイル名と説明が生成されます。

7. 「保管」アイコン  をクリックして、設定を保存します。
8. 「許可データの保守とプロファイルの生成 (Maintain Authorization Data and Generate Profiles)」の「許可データの変更 (Change authorization data)」アイコン  をクリックします。
9. 「役割の変更: 許可 (Change role: Authorizations)」ウィンドウで、「テンプレートを  
選択しない (Do not select templates)」アイコン  をクリックします。
10. 「手動 (Manually)」アイコン  をクリックします。
11. 「許可の手動選択 (Manual selection of authorizations)」ウィンドウで、右の列に以下の許可を入力します (行ごとに 1 つの許可)。
  - S\_WFAR\_LOG
  - S\_WFAR\_LOP
  - S\_WFAR\_OBJ
  - S\_WFAR\_PRI
  - S\_WFAR\_RED
  - S\_WFAR\_RFC
12. 「続く (Continue)」アイコン  をクリックして、指定内容を保存し、「役割の変更: 許可 (Change role: Authorizations)」ウィンドウに戻ります。
13. 個々の許可を活動化します。すべてのノードを展開し、各アスタリスク (\*) をクリックします。アスタリスクの背景色が青から緑に変わります。すべてのアスタリスクの背景が緑になると、ノードの状況が黄色から緑に自動的に変わります。
14. 「保管」アイコン  をクリックして、設定を保存します。
15. 「生成 (Generate)」アイコン  をクリックして、役割およびプロファイルを作成します。

次の作業: 『CPIC ユーザーに対する役割の割り当て』

#### CPIC ユーザーに対する役割の割り当て:

CPIC ユーザーに対して役割 (プロファイルを含む) を割り当てる必要があります。


このトピックは、サンプル役割 ICCSAP\_USER をサンプル・ユーザー CPICUSER1 に割り当てる方法を示します。

#### 手順:

1. SAP GUI でトランザクション・コード SU01 を入力して、「ユーザー保守: 初期画面 (User Maintenance: Initial Screen)」ウィンドウを開く。
2. 「ユーザー」フィールドに、役割の割り当て先の CPIC ユーザーの名前を指定する。


例えば、以下のように入力します。

CPICUSER1

3. 「変更 (Change)」アイコン  をクリックする。
4. 「ユーザーの保守 (Maintain User)」ウィンドウで、「役割 (Roles)」タブをクリックする。
5. 「役割の割り当て (Role Assignments)」テーブルの「役割 (Role)」列で、割り当てする役割の名前を指定し、Enter を押す。

例えば、以下のように入力します。

ICCSAP\_USER

6. 「プロファイル (Profiles)」タブをクリックして、プロファイルが「割り当てられた許可プロファイル (Assigned Authorization Profiles)」テーブルに表示されるかどうかを確認する。作成したプロファイルの名前と説明が表示されるはずで  
す。例えば、T-E6550422、Profile for role ICCSAP\_USER のように表示されま  
す。
7. 「保管」アイコン  をクリックして、設定を保存します。

役割とプロファイルが CPIC ユーザーに割り当てられます。このユーザーを処理できるようになりました。

次の作業: 『SAP クライアントへの論理システムのリンク』

## SAP クライアントへの論理システムのリンク

論理システムを定義し、それを Content Collector for SAP と一緒に使用する SAP クライアントにリンクします。

このトピックでは、サンプル論理システム T90CLNT090 を作成する方法、およびそれをユーザー CPICUSER1 のために作成した SAP クライアント 800 にリンクする方法を示します。

始める前に: 133 ページの『CPIC アクセス権限を持つユーザーの作成』





手順:

1. SAP GUI でトランザクション・コード BD54 を入力して、「「論理システム」ビューの変更: 全容表示 (Change View "Logical Systems": Overview)」ウィンドウを開きます。警告: テーブルはクロス・クライアントです。(Caution: The table is cross-client.) というメッセージを含むウィンドウが表示された場合は、Enter を押します。
2. 表に既に論理システムが含まれている場合は、それらのいずれかを使用できません。既存の論理システムを使用する場合は、4 (137 ページ) を使用して続行します。

注: 既存の論理システムの設定は変更しないでください。

3. 論理システムが存在していない場合は、次の指示に従って論理システムを作成します。一例として、論理システム T90CLNT090 を作成します。



- a. 「「論理システム」ビューの変更: 全容表示 (Change View "Logical Systems": Overview)」ウィンドウで、「新規項目 (New Entries)」をクリックします。  
「新規項目: 追加項目の概要 (New Entries: Overview of Added Entries)」ウィンドウが開きます。
  - b. 「論理システム (Log. System)」列の空いている最初の行に、その論理システムの名前を入力する。  
  
例えば、以下のように入力します。  
T90CLNT090  
  
この名前は、後でアーカイブと一緒に使用するために Collector Serverを構成するときに指定する必要があります。
  - c. 同じ行の「名前 (Name)」列に説明を追加する。  
  
例えば、以下のように入力します。  
SAP クライアント 800 用の最初の論理システム
  - d. 「保管」アイコン  をクリックする。
  - e. 「ワークベンチ要求プロンプト (Prompt for Workbench request)」ウィンドウの「要求 (Request)」フィールドに、要求の名前を入力するか、既存の要求を1つ選択する。要求が存在しない場合は、「要求の作成 (Create Request)」アイコン  を使用して要求を作成する。
4. CPIC アクセス権限を保持するユーザーを作成する対象となった SAP クライアントに論理システムをリンクする。サンプル論理システム T90CLNT090 をサンプル SAP クライアント 800 にリンクするには、以下の手順を実行する。
    - a. トランザクション・コード SCC4 を入力して、「「クライアント」ビューの表示: 全容表示 (Display View "Clients": Overview)」ウィンドウを開く。
    - b. 「変更」アイコン  をクリックします。警告: テーブルはクロス・クライアントです。(Caution: The table is cross-client.) というメッセージを含むウィンドウが表示された場合は、Enter を押します。
    - c. 論理システムのリンク対象にする SAP クライアントが含まれている「クライアント」列の行をダブルクリックする。  
  
例えば、番号 800 が含まれている「クライアント」列で行をダブルクリックします。
    - d. 「「クライアント」ビューの表示: 詳細 (Change View "Clients": Details)」ウィンドウで、「論理システム」リストから論理システムを選択します  
  
例えば、「T90CLNT090」を選択します。
  5. 「保管」アイコン  をクリックして、設定を保存します。

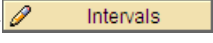



次の作業: 『SAP ArchiveLink の番号範囲の定義』

## SAP ArchiveLink の番号範囲の定義

このインターバルがまだ存在していない場合は、範囲 0000000001 から 9999999999 を SAP ArchiveLink に定義します。

始める前に: 136 ページの『SAP クライアントへの論理システムのリンク』

手順:

1. SAP GUI でトランザクション・コード OANR を入力して、「SAP ArchiveLink の番号範囲 (SAP ArchiveLink Number range)」ウィンドウを開きます。
2. 「インターバルの変更 (Change Intervals)」アイコン  をクリックします。
3. 必要なインターバルが存在しない場合は、以下の手順を実行します。
  - a. 「番号範囲インターバルの保守 (Maintain Number Range Intervals)」ウィンドウで、「インターバルの挿入 (Insert Interval)」アイコン  をクリックします。
  - b. 「インターバルの挿入 (Insert Interval)」ウィンドウで、以下の設定値を指定します。
    - 1) 「番号 (No)」列に、以下を入力します。  
01
    - 2) 「開始番号 (From number)」列に、以下を入力します。  
0000000001
    - 3) 「終了番号 (To number)」列に、以下を入力します。  
9999999999「現行番号 (Current number)」列内の設定は変更しません。
  - c. 「挿入 (Insert)」アイコン  をクリックして指定したインターバルを挿入します。
4. 「保管」アイコン  をクリックして、設定を保存します。

次の作業: 139 ページの『第 19 章 Content Collector for SAP で使用するためにアーカイブを構成する』

---

## 第 19 章 Content Collector for SAP で使用するためにアーカイブを構成する

Content Collector for SAP は、さまざまなアーカイブをサポートしています。アーカイブの各タイプには、それぞれ、異なる構成ステップが必要です。

始める前に: 129 ページの『第 18 章 環境の準備』

---

## Content Collector for SAP で使用するために Content Manager を構成する

Content Manager Enterprise Edition を構成します。Content Manager Enterprise Edition サーバーと Collector Serverが同じコンピューターにインストールされていない場合は、この 2 つのサーバー間の接続も構成する必要があります。

手順:

1. 『ユーザー ID の作成』
2. 『属性の作成』
3. 140 ページの『文書パート項目タイプの作成』
4. 141 ページの『文書項目タイプの作成』
5. オプション: 142 ページの『項目タイプ・サブセットの作成』
6. 143 ページの『リモート Content Manager サーバーへの接続の構成』

### ユーザー ID の作成

文書をアーカイブするライブラリー・サーバーに、Content Manager Enterprise Edition のユーザー ID を作成します。Collector Serverはこのユーザー ID を使用して、Content Manager Enterprise Edition にログオンします。

ユーザー ID の作成方法の詳細、および設定できるオプションと値の詳細については、IBM DB2 Content Management インフォメーション・センターを参照してください。ただし、以下に注意してください。

- ユーザー ID を記録しておきます。あとで、サーバー構成プロファイルの CMUSER キーワードにこのユーザー ID を指定する必要があります。Collector Serverを Content Manager Enterprise Edition で使用するために構成する場合は、サーバー構成プロファイルを変更します。
- パスワードを記録しておきます。この情報は、Collector Server を最初に始動する際に必要となります。

次の作業: 『属性の作成』

### 属性の作成

SAP ArchiveLink には、各文書へのリンクを保守し、各文書へのアクセスを管理するための特定の属性が必要です。

始める前に: 139 ページの『ユーザー ID の作成』

属性の作成方法の詳細、および設定できるオプションと値の詳細については、IBM DB2 Content Management インフォメーション・センターを参照してください。

次の表は、必須属性と、必要な属性指定を示したものです。属性名には大/小文字の区別があります。

属性名	属性タイプ	文字タイプ	最小文字長	最大文字長
DocId	可変文字	その他	0	40
DocProtection				10
CompId				254
Charset				20
バージョン				10
Checksum				20
ContentType				80
Barcode (バーコード付き着信文書のみに必要)				40
CSOBJKEY (アーカイブされた文書が複数の SAP オブジェクトから参照される場合は、子コンポーネントの第 2 レベル属性として必要)				65

定義された最大長より長い属性値は保管されず、そのような値を含む文書はアーカイブされません。ただし、値の長さを定義された最大長まで縮めることができます。次の例に示すように、サーバー構成プロファイルに TRUNCATE\_ATTRIBUTE キーワードを追加します。

```
ARCHIVE           A1
  STORAGETYPE     CM
  .
  .
  .
  TRUNCATE_ATTRIBUTE ON
```

これで、アーカイブ内のすべての属性の値が最大長に切り捨てられます。

Collector Serverを Content Manager Enterprise Edition 用に構成する際に、このキーワードを追加できます。

注: このキーワードは、アーカイブ内のすべての属性に適用されます。これを個々の属性に適用することはできません。

次の作業: 『文書パート項目タイプの作成』

## 文書パート項目タイプの作成

文書パート項目タイプには、文書の特定の部分が含まれます。Content Collector for SAP は、既存の文書パート項目タイプを使用できません。これらの項目タイプは、SAP が文書へのアクセスに必要とする属性を保管できないためです。したがって、文書パート項目タイプを少なくとも 1 つは追加で作成する必要があります。

始める前に: 139 ページの『属性の作成』

Content Collector for SAP は、以下の追加文書パート項目タイプをサポートしています。

#### ICMBASECS

テキスト以外のタイプのコンテンツ (画像、音声など) を含みます。この文書パート項目タイプは必須です。

#### ICMNOTELOGCS

SAP のすべてのメモのログを含みます。この文書パート項目タイプは、文書にメモが付加されている場合にのみ必要です。

#### ICMBASETEXTCS

文書のテキスト・コンテンツを含みます。この文書パート項目タイプは、アーカイブされた文書の内容を検索する場合にのみ必要です。

テキスト検索を有効にするには、サーバー構成プロファイルで

TEXT\_SEARCHABLE キーワードを YES に設定する必要があります。

Collector Serverを Content Manager Enterprise Edition で使用するために構成する場合は、サーバー構成プロファイルを変更します。

文書パート項目タイプの作成方法の詳細、および設定できるオプションと値の詳細については、IBM DB2 Content Management インフォメーション・センターの、項目タイプ作成に関するトピックを参照してください。Content Collector for SAP が使用する文書パート項目タイプ用の以下の設定を記録しておいてください。

- 「新規項目タイプ定義 (New Item Type Definition)」ウィンドウの「定義 (Definition)」ページで、以下を実行します。
  1. 「名前」フィールドで、パート項目タイプの名前 (つまり ICMBASECS、ICMNOTELOGCS、または ICMBASETEXTCS) を指定します。
  2. 「項目タイプ種別 (Item type classification)」から「文書パート (Document Part)」を選択します。
  3. 「メディア・オブジェクト (XDO) クラス (Media Object (XDO) Class)」リストから、以下の値のいずれかを選択します。
    - ICMBASECS の場合: **DKLobICM**
    - ICMNOTELOGCS および ICMBASETEXTCS の場合: **DKTextICM**
- 「属性」ページで、先ほど作成した以下の属性をすべて、「選択済みの属性およびコンポーネント (Selected attributes and components)」リストに追加します。
  - **CompId**
  - **Charset**
  - **Version**
  - **Checksum**
  - **ContentType**

次の作業: 『文書項目タイプの作成』

## 文書項目タイプの作成

文書項目タイプによって、Content Manager Enterprise Edition アーカイブ内の文書をグループ化します。項目タイプは、属性のセットに関連付けられます。したがっ

て、1つの項目タイプにグループ化されたすべての文書は、同じ属性のセットを共有します。SAPが項目タイプにアクセスできるようにするには、そこに、ユーザーが作成した文書パート項目タイプと追加属性が含まれている必要があります。

**始める前に:** 140 ページの『文書パート項目タイプの作成』

項目タイプの作成方法の詳細、および設定できるオプションと値の詳細については、IBM DB2 Content Management インフォメーション・センターを参照してください。Content Collector for SAP が使用する項目タイプ用の以下の設定を記録しておいてください。

以下のように操作を続行します。

- 「新規項目タイプ定義 (New Item Type Definition)」ウィンドウの「定義 (Definition)」ページで、以下のステップを実行します。
  1. 「項目タイプ種別 (Item type classification)」リストから、「文書 (Document)」を選択します。
  2. 「テキスト検索可能 (Text searchable)」チェック・ボックスを選択して、この項目タイプを文書内のテキスト検索に使用できるようにします。
- 「文書管理関係の定義 (Define Document Management Relations)」ウィンドウで、「パート・タイプ (Part type)」リストから、先ほど作成した文書パート項目タイプを選択します。一度に1つずつ文書パート項目タイプを選択して「OK」をクリックすると、それが「新規項目タイプ定義 (New Item Type Definition)」ウィンドウの「文書管理 (Document Management)」ページに追加されます。
- 「新規項目タイプ定義 (New Item Type Definition)」ウィンドウの「属性」ページで、先ほど作成した以下の属性をすべて、「選択済みの属性およびコンポーネント (Selected attributes and components)」リストに追加します。
  - DocId
  - DocProtection
- 文書項目タイプの名前を記録しておきます。項目タイプ・サブセットを作成しない場合は、あとで、サーバー構成プロファイルの ITEM\_TYPE キーワードにこの項目タイプの名前を指定する必要があります。Collector Serverを Content Manager Enterprise Edition で使用するために構成する場合は、サーバー構成プロファイルを変更します。

**次の作業:** 『項目タイプ・サブセットの作成』

## 項目タイプ・サブセットの作成

項目タイプ・サブセットを使用すれば、同じ項目タイプに保管されている文書と文書属性へのアクセスを制限できます。

**始める前に:** 141 ページの『文書項目タイプの作成』

例えば、サービス・プロバイダーが、文書が類似しているという理由でさまざまな顧客のファイルを同じ項目タイプに保管しているとします。このプロバイダーは、顧客 A が顧客 B の文書にアクセスできないようにする必要があります (逆も同様)。したがって、サービス・プロバイダーは、同じ項目タイプに基づいて、顧客ごとに別々のサブセットを作成します。

項目タイプ・サブセットの作成方法の詳細、および設定できるオプションと値の詳細については、IBM DB2 Content Management インフォメーション・センターを参照してください。

以下のように操作を続行します。

- 項目タイプ・サブセットの名前を記録しておきます。あとで、サーバー構成プロファイルの `ITEM_TYPE` キーワードにこの名前を指定する必要があります。  
Collector Serverを Content Manager Enterprise Edition で使用するために構成する場合は、サーバー構成プロファイルを変更します。
- 特定の属性値を持つ文書のみを項目タイプ・サブセットにアーカイブして表示できるようにするには、「新規項目タイプ・サブセット (New Item Type Subset)」ウィンドウの「表示のための属性フィルター (Attribute filter for view)」フィールドを使用します。さらに、以下の方法のいずれかを選択します。
  - フィルターを設定する対象の属性を、属性マッピング・ファイルに組み込みます。こうすると、Content Collector for SAP は、文書の属性値がフィルター基準を満たしているかどうかを検査した後に、項目タイプ・サブセットに文書を保管します。
  - フィルタリングされた属性が文書に存在せず、属性マッピング・ファイルに組み込まれていない場合、Content Collector for SAP はその属性を自動的に追加し、その属性にフィルター定義に従った値を割り当てることができます。このためには、次の例に示すように、サーバー構成プロファイルに `ADDVIEWFILTERATTR` キーワードを追加する必要があります。

```
ARCHIVE           A1
STORAGETYPE      CM
.
.
.
ADDVIEWFILTERATTR ON
```

Collector Serverを Content Manager Enterprise Edition で使用するために構成する際に、このキーワードを追加できます。

**注:** 複数の値を持つ属性に対してフィルターが設定されている場合、Content Collector for SAP は、フィルター基準との整合性を検査しません。また Content Collector for SAP では、Content Manager Enterprise Edition で複数值属性として定義されている属性は追加できません。

次の作業: 『リモート Content Manager サーバーへの接続の構成』

## リモート Content Manager サーバーへの接続の構成

項目タイプを保持する Content Manager Enterprise Edition サーバーが Collector Serverと同じコンピューターにインストールされていない場合は、この 2 つのサーバー間の接続を構成する必要があります。

始める前に: 142 ページの『項目タイプ・サブセットの作成』

手順:

1. Content Manager Enterprise Edition バージョン 8.3 を使用する場合は、DB2 に、リモート・ホストをカタログする TCP/IP ノードを作成します。さらに、Content Manager Enterprise Edition サーバーが使用するデータベースにデータベース別名を指定します。

Content Manager Enterprise Edition バージョン 8.3 では、このために JDBC 接続が使用されます。

2. オプション: リモート・サーバー上にアーカイブされているデータを確認するために、Content Manager クライアントを、Collector Serverがインストールされているコンピューターにインストールします。
3. IBMCMROOT/cmgmt/connectors ディレクトリーにある cmbicmsrvs.ini ファイル内の構成を検査します。

次の作業: 159 ページの『第 20 章 Collector Serverの構成』

---

## Content Collector for SAP で使用するために OnDemand を構成する

Content Manager OnDemand を構成します。Content Manager OnDemand サーバーと Collector Serverが同じコンピューターにインストールされていない場合は、この 2 つのサーバー間の接続も構成する必要があります。

この情報は、Content Manager OnDemand for Multiplatforms、Content Manager OnDemand for iSeries®、および Content Manager OnDemand for z/OS® and OS/390® に適用されます。

### 手順:

1. 『ユーザー ID の作成』
2. 145 ページの『アプリケーション・グループの作成』
3. 147 ページの『アプリケーションの作成』
4. 148 ページの『フォルダーの作成』
5. 150 ページの『リモート OnDemand サーバーへの接続の構成』

## ユーザー ID の作成

文書をアーカイブするライブラリー・サーバーに、Content Manager OnDemand のユーザー ID を作成します。Collector Serverはこのユーザー ID を使用して、Content Manager OnDemand にログオンします。

このユーザー ID には、文書の表示、追加、削除、更新に対するアクセス権が必要です。このアクセス権は、アプリケーション・グループの作成時に割り当てます。

ユーザー ID の作成方法の詳細、および設定できるオプションと値の詳細については、IBM Content Manager OnDemand インフォメーション・センターを参照してください。

「ユーザーの追加 (Add a User)」ウィンドウの「一般情報」ページが完了したら、Content Collector for SAP の使用に備えて、ユーザー用の以下の設定を記録しておきます。

- ユーザー・タイプとして「ユーザー」を選択します。



- 「非アクティブのタイムアウト (Inactivity Time Out)」領域で、「タイムアウトを設定しない (Never Time Out)」をクリックします。

次の作業: 『アプリケーション・グループの作成』

## アプリケーション・グループの作成

アーカイブされた文書を保持するアプリケーション・グループを作成します。SAPで、個々の論理アーカイブ用にアプリケーション・グループを作成します。複数のアーカイブで1つのアプリケーション・グループを使用することができます。

始める前に: 144 ページの『ユーザー ID の作成』

Content Collector for SAP で使用される各アプリケーション・グループで、データベース表ごとに複数のロードを持ち、セグメントに基づく有効期限ポリシーを持つデータベース編成を選択します。また、Content Manager OnDemand クライアントを介してアプリケーション・グループに保管される文書にユーザーがアクセスしたり注釈を付けたりできるようにする場合は、データベース表の中に注釈フラグ用のフィールドを用意してください。

アプリケーション・グループの作成方法の詳細、および設定できるオプションと値の詳細については、IBM Content Manager OnDemand インフォメーション・センターを参照してください。Content Collector for SAP が使用するアプリケーション・グループ用の以下の設定を記録しておいてください。

- 「アプリケーション・グループの追加 (Add an Application Group)」ウィンドウの「ストレージ管理 (Storage Management)」ページで、「有効期限タイプ (Expiration Type)」リストから「セグメント (Segment)」を選択します。
- 「許可 (Permissions)」ページで、先ほど作成したユーザー ID を選択して、以下の許可を追加します。
  - View (表示)
  - Add (追加)
  - Delete (削除)
  - Update (更新)
- 「フィールド定義 (Field Definition)」ページで、次の表に示すフィールドを追加します。「フィールド情報 (Field Information)」ページで、このフィールドのそれぞれにプロパティを追加します。

フィールド	タイプ	データ・タイプ	大文字 小文字	タイプ	長さ		
CONT_REP	フィルター	スト リ ン グ	混合	可変	10		
DOC_ID	索引				40		
AR_OBJECT	フィルター				10		
OBJECT_ID					50		
SAP_OBJECT					10		
COMP_ID					254		
DOC_PROT					10		
CONTENT_LENGTH					整数	N/A	N/A
CONTENT_TYPE	スト リ ン グ				混合	可変	80
CHARSET							20
VERSION		10					
DATE_TIME_C	日付 / 時刻	N/A	N/A	N/A			
DATE_TIME_M							

**重要:** Utility Client の索引転送機能を使用して、アーカイブされた文書に検索情報を追加する場合は、この情報を含む属性を、フィールドとしてアプリケーション・グループに追加する必要があります。

一部のフィールドでは、追加情報を指定する必要があります。

- COMP\_ID にプロパティを定義する場合は、マッピングも定義してください。マッピングごとに、「データベース値 (Database Value)」および「表示された値 (Displayed Value)」フィールドに以下の値を入力します。

データベースの値	表示される値
data	データ・ファイル
descr	属性ファイル
note	注

- CONTENT\_TYPE にプロパティを定義する場合は、マッピングも定義してください。マッピングごとに、「データベース値 (Database Value)」および「表示された値 (Displayed Value)」フィールドに以下の値を入力します。

データベースの値	表示される値
FAX	着信文書 (TIFF)
PDF	発信文書 (PDF)
ALF	印刷リスト (ALF)
REO	アーカイブ・データ
BIN	バイナリー・データ

- DATE\_TIME\_C フィールドを定義する場合は、「セグメント (Segment)」チェック・ボックスを選択します。

- 定義された最大長より長い属性値は保管されず、そのような値を含む文書はアーカイブされません。ただし、値の長さを定義された最大長まで縮めることができます。次の例に示すように、サーバー構成プロファイルに TRUNCATE\_ATTRIBUTE キーワードを追加します。

```

ARCHIVE           A1
STORAGETYPE      ONDEMAND
.
.
.
TRUNCATE_ATTRIBUTE ON

```

これで、アーカイブ内のすべての属性の値が最大長に切り捨てられます。

Collector Server を Content Manager OnDemand 用に構成する際に、このキーワードを追加できます。

**注:** このキーワードは、アーカイブ内のすべての属性に適用されます。これを個々の属性に適用することはできません。

- コンテンツ・タイプに応じて、Collector Server はさまざまなアプリケーション内の文書をアーカイブすることができます。アプリケーション・マッピング・ファイルで、コンテンツ・タイプとアプリケーションの間のマッピングを指定する必要があります。マッピング・ファイルの例:

PDF	application_pdf
application/pdf	application_pdf
TXT	application_txt
text/plain	application_txt
syz	'application name with spaces'

このファイルの各行は、コンテンツ・タイプ (最初のパラメーター) からアプリケーション名 (2 番目のパラメーター) へのマッピングを表します。Content Manager OnDemand 内に同じマッピングを定義する必要があります。つまり、同じコンテンツ・タイプとアプリケーションのセットを含むアプリケーション・グループを構成する必要があります。

アーカイブする文書のコンテンツ・タイプがマッピング・ファイル内で見つからない場合は、デフォルト・アプリケーションが使用されます。デフォルト・アプリケーションは、サーバー構成プロファイルに APPLICATION キーワードを追加して指定します。サーバー構成プロファイルに APPMAPPING\_FILE を追加すると、アプリケーション・マッピング・ファイルの完全修飾名を指定できます。これらのキーワードは、Collector Server を Content Manager OnDemand で使用するために構成する際に追加します。

次の作業: 『アプリケーションの作成』

## アプリケーションの作成

アプリケーション・グループごとに少なくとも 1 つのアプリケーションを作成して、そのアプリケーションをアプリケーション・グループに関連付けます。

始める前に: 145 ページの 『アプリケーション・グループの作成』

アプリケーションの作成方法の詳細、および設定できるオプションと値の詳細については、IBM Content Manager OnDemand インフォメーション・センターを参照してください。Content Collector for SAP が使用するアプリケーション用の以下の設定を記録しておいてください。

- 「アプリケーションの追加 (Add an Application)」ウィンドウの「一般情報」ページで、「アプリケーション・グループ (Application Group)」リストからアプリケーション・グループを選択します。
- 「ロード情報 (Load Information)」ページで、アーカイブする SAP 文書のタイプを決定します。「データ圧縮 (Data Compression)」リストまたは「リソース圧縮 (Resource Compression)」リストから、値を選択します。次の表は、SAP 文書に適した設定の概要です。<sup>2</sup>

文書タイプ	技術文書クラス	データ・タイプ	拡張子	データ圧縮/ リソース圧縮
着信文書	FAX	TIFF	N/A	使用不可
発信文書 (PDF)	PDF	PDF	N/A	<ul style="list-style-type: none"> <li>• LZW12</li> <li>• LZW16</li> <li>• OD77</li> </ul>
印刷リスト	ALF	ユーザー定義	ALF	
アーカイブ・データ	REO	なし	N/A	
バイナリー・データ	BIN	なし	N/A	

- 日付、時刻、あるいはその両方を表し、「アプリケーション・グループ DB 名 (Application Group DB Name)」リストから選択するデータベース・フィールドについては、次の形式で指定します。

フィールド・タイプ	形式
日付	%Y%m%d
時刻	%H%M%S
日付 / 時刻	%Y%m%d %H%M%S

次の作業: 『フォルダーの作成』

## フォルダーの作成

アプリケーション・グループごとにフォルダーを作成し、少なくとも必須データベース・フィールドに対しては、それぞれフォルダー・フィールドを定義します。

始める前に: 147 ページの『アプリケーションの作成』

フォルダーの作成方法の詳細については、IBM Content Manager OnDemand インフォメーション・センターを参照してください。Content Collector for SAP が使用するフォルダー用の以下の設定を記録しておいてください。

2. どの圧縮方式が最善かは、アーカイブする文書によって異なります。最善の方式を見付ける唯一の方法は、使用可能なすべてのオプションを調べ、次にパフォーマンスを調べるという方法です。

- 「フォルダーの追加 (Add a Folder)」ウィンドウの「一般情報」ページで、「アプリケーション・グループ (Application Groups)」リストからアプリケーション・グループを選択し、「追加」をクリックします。
- 「許可 (Permissions)」ページで、先ほど作成したユーザー ID を選択して「追加」をクリックします。このユーザーに、「アクセス (Access)」チェック・ボックスおよび「フィールド (Fields)」チェック・ボックスを選択します。さらに、「ユーザー/グループ・フィールド (User/Group Fields)」の下の「はい」をクリックします。
- 「フィールド定義 (Field Definition)」ページと「フィールド情報 (Field Information)」ページで、選択したアプリケーション・グループにフォルダー・フィールドを定義します。

少なくともアプリケーション・グループのデータベース・フィールドには、フォルダー・フィールドを定義してください (次の表を参照)。

データベース・フィールド名	推奨フォルダー名	フィールド・タイプ	マッピング・タイプ
DOC_ID	文書 ID	ストリング	単一
OBJECT_ID	オブジェクト ID / バーコード		
COMP_ID	コンポーネント ID		
DOC_PROT	文書保護		
CONTENT_LENGTH	コンテンツの長さ (バイト単位)	整数	
CONTENT_TYPE	テクニカル文書クラス / コンテンツ・タイプ	ストリング	
CHARSET	文字セット		
VERSION	アプリケーション・バージョン		
DATE_TIME_C	作成済み	日付 / 時刻	
DATE_TIME_M	最終変更日時		

オプションで、以下のデータベース・フィールドにフォルダー・フィールドを定義することもできます。

データベース・フィールド名	推奨フォルダー名	フィールド・タイプ	マッピング・タイプ
CONT_REP	論理アーカイブ / コンテンツ・リポジトリ	ストリング	単一
SAP_OBJECT	SAP ビジネス・オブジェクト		
AR_OBJECT	アーカイブ・オブジェクト		

- マッピング・タイプに「単一」を選択します。

- COMP\_ID フィールドで、「デフォルト」の下のテキスト・フィールド上段に data と入力します。
- タイプが日付、時刻、または日時のデータベース・フィールドを表すフォルダー・フィールドで、「表示形式 (Display Fmt)」フィールドと「デフォルト形式 (Defaults Fmt)」フィールドに適切な値を指定します (以下の表を参照)。

フィールド・タイプ	表示形式 (Display Fmt)	デフォルト形式 (Defaults Fmt)
日付	%m/%d/%Y	%m/%d/%Y
時刻	%H:%M:%S	%H:%M:%S
日付 / 時刻	%m/%d/%Y %H:%M:%S	%m/%d/%Y %H:%M:%S

- 必須フォルダー・フィールドでは、以下の検索演算子を指定します。

以下を表すフォルダー・フィールド	演算子
CONT_REP	Equal (デフォルト)、Not Equal、In、Not In
DOC_ID	Equal、Like (デフォルト)
OBJECT_ID	
COMP_ID	Equal (デフォルト)
DOC_PROT	Equal、Like (デフォルト)
CONTENT_LENGTH	Equal (デフォルト)、Between、Less Than、Less Than または Equal、Greater Than、Greater Than または Equal
CONTENT_TYPE	
CHARSET	
VERSION	Equal (デフォルト)、Between、Less Than、Less Than または Equal、Greater Than、Greater Than または Equal
DATE_TIME_C	
DATE_TIME_M	Equal、Between (デフォルト)、Less Than、Less Than または Equal、Greater Than、Greater Than または Equal

次の作業: 『リモート OnDemand サーバーへの接続の構成』

## リモート OnDemand サーバーへの接続の構成

アプリケーション・グループを保持する Content Manager OnDemand サーバーが Collector Serverと同じコンピューターにインストールされていない場合は、この 2 つのサーバー間の接続を構成する必要があります。

始める前に: 148 ページの『フォルダーの作成』

### Collector Serverが Linux または UNIX システムで稼働している場合に、リモート Content Manager OnDemand サーバーへの接続を構成する

Content Manager OnDemand の ars.ini ファイルを変更することで、接続を構成します。

手順:

1. `ars.ini` ファイルを開き、OnDemand サーバーの項目を追加します。ホスト名およびポート番号を、以下の例のように組み込みます。

```
[@SRV@_ARCHIVE]
HOST=myhost.yourcompany.com
PROTOCOL=2
PORT=1500
SRVR_INSTANCE=ARCHIVE
SRVR_INSTANCE_OWNER=root
SRVR_OD_CFG=/opt/ondemand/config/ars.cfg
SRVR_DB_CFG=/opt/ondemand/config/ars.dbfs
SRVR_SM_CFG=/opt/ondemand/config/ars.cache
```

2. あとで Collector Serverを Content Manager OnDemand で使用するよう構成する場合は、サーバー構成プロファイルの該当する ARCHIVE セクションで、ODHOST キーワードの値を変更します。ODHOST キーワードの場合は、SRVR\_INSTANCE キーワードの値を指定します。この例では、値は ARCHIVE です。

次の作業: 159 ページの『第 20 章 Collector Serverの構成』

## Collector Serverが Windows で稼働している場合に、リモート Content Manager OnDemand サーバーへの接続を構成する

接続は、OnDemand コンフィギュレーターで構成します。

手順:

1. Collector Serverが稼働しているコンピューターで、OnDemand コンフィギュレーターを開始します。OnDemand コンフィギュレーターは、Content Manager OnDemand サーバーの一部としてインストールされています。
2. 「ファイル」 > 「新規サーバー (New Server)」を選択します。リモート・サーバーのローカル定義を作成するために必要なステップを実行します。
3. ナビゲーション・ペインで、「`server_name`」 > 「インスタンス (Instances)」を展開します。`server_name` は、新規サーバー定義の名前を表します。右側のコンテンツ・ペインにインスタンスが表示されます。これは、新規サーバー定義のデフォルトのインスタンスです。このインスタンスの名前は常に一定とは限りません。
4. デフォルト・インスタンスを右クリックして、「新規」を選択します。
5. ウィザードが開くので、インスタンスの名前を入力します。
6. 「次へ」をクリックします。
7. 「リモート・ライブラリー・サーバー (Remote Library Server)」を選択します。
8. 「ライブラリー・サーバー名 (Library Server Name)」フィールドに、OnDemand サーバーの TCP/IP ホスト名または IP アドレスを入力します。
9. オプション: サーバーがデフォルト・ポート 1445 以外のポート上にある場合は、「通信 (Communications)」をクリックしてポート番号を変更します。
10. 「完了」をクリックします。
11. あとで Collector Serverを Content Manager OnDemand で使用するよう構成する場合は、サーバー構成プロファイルの該当する ARCHIVE セクションで、ODHOST キーワードの値を変更します。値として、ステップ 5 で入力した名前を指定します。

## Content Collector for SAP で使用するために FileNet P8 を構成する

発信文書を FileNet P8 に保管する際に必要なオブジェクトを作成します。着信文書については、必要なプロパティが文書クラスにあることを確認してください。

一部のオブジェクトは既に存在していて、使用できます。オブジェクトの作成方法の詳細、およびプロパティの文書クラスへの割り当て方法の詳細については、IBM FileNet P8 インフォメーション・センターを参照してください。作成するすべてのオブジェクトの名前を記録しておきます。Collector Serverを FileNet P8 で使用するために構成する場合は、あとで、サーバー構成プロファイルでこのオブジェクトを指定する必要があります。

FileNet P8 を構成する手順は次のとおりです。

1. 以下の権限を持つユーザーを作成します。
  - オブジェクト・ストア内で文書の作成、変更、読み取り、および削除を行う権限
  - オブジェクト・ストア内に保管されている文書を表示する権限
2. 文書が保管されている、あるいは保管されることになっているオブジェクト・ストアが含まれるドメインを作成します。
3. 文書を保持するオブジェクト・ストアを 1 つ以上作成します。
4. 文書クラスのプロパティを作成します。必要なプロパティは、アーカイブされた文書を読み取るだけでよいのか、アーカイブされた文書の読み取り、更新、削除を行ったり、発信文書をアーカイブしたりする必要があるのかによって異なります。詳しくは、『文書の読み取り、アーカイブ、更新、および削除に必要なプロパティ: 概要』を参照してください。
5. 文書クラスを作成し、適切なプロパティを割り当てます。文書クラスは少なくとも 1 つは作成してください。さもないと、文書が保管されません。すべての文書を 1 つの文書クラスに保管しないようにする場合は、複数の文書クラスを作成します。文書クラスは MIME タイプごとに作成できます。
6. アーカイブされた文書をフォルダー別に編成する場合は、必要なフォルダーを作成してください。

次の作業: 159 ページの『第 20 章 Collector Serverの構成』

### 文書の読み取り、アーカイブ、更新、および削除に必要なプロパティ: 概要

作成する必要があるプロパティは、アーカイブされた文書を読み取るだけでよいのか、アーカイブされた文書の更新や削除を行ったり、発信文書をアーカイブしたりする必要があるのかによって異なります。

次の表は、プロパティの概要をアルファベット順に並べたものです。プロパティ名は大/小文字の区別があり、変更しないようにする必要があります。これらのプロパティ名が既に存在する場合は、自分の選択した名前にこれらの名前をマップ



する属性マッピング・ファイルを作成する必要があります。属性マッピング・ファイルの作成方法の詳細は、127ページの『第17章 属性またはプロパティの名前のマッピング』を参照してください。

プロパティ名	説明 (Description)	データ・タイプ	最小サイズ	必須/ オプション (文書の 読み取り)	必須/ オプション (文書の アーカイブ、 更新、削除)
ALFdpages	文書にページ番号が付いている場合の、ALF 記述ページの合計数。	ストリング	3	オプション	必須
ALFpages	文書にページ番号が付いている場合の、ALF ページの合計数。	ストリング	3	オプション	必須
Barcode	バーコード。	ストリング	最大サイズ: 40	オプション	バーコード付き文書に必要
PageSize	ページ番号が付いている文書のページ・サイズ。	ストリング	239	オプション	必須
SAPCompCharset	コンポーネントの内容がエンコードされている文字セット。	ストリング	239	オプション	オプション
SAPCompCreated	コンポーネントが作成された日時 (UTC 形式)。	ストリング	239	オプション	必須
SAPCompModified	コンポーネントが最後に変更された日時 (UTC 形式)。	ストリング	239	オプション	必須
SAPComps	コンポーネント ID。	ストリング	239	オプション	必須
SAPCompSize	コンポーネント・サイズ。このプロパティを指定すると、コンポーネント・サイズを確認するためにコンポーネントを取り出すことができません。	ストリング	239	オプション	必須
SAPCompVersion	コンポーネントの作成に使用される SAP アプリケーションのバージョン。	ストリング	239	オプション	オプション
SAPContType	MIME タイプ (text/plain、image/tiff など)。このプロパティは、文書の表示に必要です。	ストリング	239	オプション	必須
SAPDocDate	文書の作成日時。タイム・スタンプは、協定世界時 (UTC) 形式で表示されます。	ストリング	239	オプション	必須

プロパティ名	説明 (Description)	データ・タイプ	最小サイズ	必須/オプション (文書の読み取り)	必須/オプション (文書のアーカイブ、更新、削除)
SAPDocId	SAP 文書 ID。このプロパティは、インデックス・プロパティとして指定します。	ストリング	40	オプション	必須
SAPDocProt	SAP 文書の保護 (作成、読み取り、更新、削除)。	ストリング	4	オプション	必須
SAPType	SAP 文書クラス (TXT、TIF など)。このプロパティは、バーコードの処理に必要です。	ストリング	3	オプション	必須

## Content Collector for SAP で使用するために Tivoli Storage Manager を構成する

Tivoli Storage Manager を構成します。Tivoli Storage Manager サーバーと Collector Serverが同じコンピューターにインストールされていない場合は、この 2 つのサーバー間の接続も構成する必要があります。

磁気テープ・ドライブまたは光ディスクをアーカイブに使用する場合は、追加のステップを実行して、選択したストレージ・メディアを使用できるようにTivoli Storage Managerサーバーを構成する必要があります。追加の構成ステップの詳細については、Tivoli Storage Manager インフォメーション・センターを参照してください。

### 手順:

- 『Content Collector for SAP による Tivoli Storage Manager ノードの登録』
- 155 ページの『管理クラスの作成』
- 155 ページの『アーカイブ・コピー・グループの作成』
- 156 ページの『STANDARD ポリシー・セットの検証と活動化』
- 157 ページの『パスワード・オプションの設定』
- 158 ページの『リモート Tivoli Storage Manager サーバーへの接続の構成』

## Content Collector for SAP による Tivoli Storage Manager ノードの登録

Content Collector for SAP を使用して Tivoli Storage Manager ノードを登録するには、以下のステップを実行します。

- コマンド行から、dsmadm プログラムがインストールされているディレクトリーに移動します。
- dsmadm と入力して、Tivoli Storage Manager サーバーを管理するコマンド行インターフェースを開始します。

3. 管理者のユーザー ID およびパスワードでログオンします。初期ユーザー ID と初期パスワードはどちらも `admin` です。ログオンに成功すると、以下の情報が表示されます。 `tsm: <NODE>`
4. 以下のコマンドを入力して、Content Collector for SAP で新規ノードを登録します。

```
register node <name> <password> archdel=yes
```

`<name>` は、新しいノードの名前です。 `<password>` は、そのノードへのログオンに使用するパスワードです。 `archdel=yes` は、ノードが削除可能であることを指定します。

次の作業: 『管理クラスの作成』

## 管理クラスの作成

Collector Serverが文書のアーカイブに使用できる Tivoli Storage Manager 管理クラスを作成します。

**始める前に:** 154 ページの『Content Collector for SAP による Tivoli Storage Manager ノードの登録』

以下のコマンドを入力して、管理クラスを作成します。

```
define mgmtclass standard standard <class_name>
```

`<class_name>` は、新しい管理クラスの名前 (例えば `R3DOCS`) です。この名前の長さは、16 文字までです。追加パラメーターの **standard standard** は、STANDARD ポリシー・セットを使用して、STANDARD ポリシー・ドメインに管理クラスを作成することを指定します。

次の作業: 『アーカイブ・コピー・グループの作成』

## アーカイブ・コピー・グループの作成

Content Collector for SAP で使用するための、Tivoli Storage Manager アーカイブ・コピー・グループを作成します。

**始める前に:** 『管理クラスの作成』

以下のように操作を続行します。

以下のいずれかのコマンドを入力して、アーカイブ・コピー・グループを作成します。

- SAP ArchiveLink (BC-AL) を使用して、または Hypertext Transfer Protocol (HTTP) プロトコル (BC-HCS) を使用して、SAP NetWeaver が文書管理システムに接続されている場合に、定期的アーカイブを行うには、以下のコマンドを入力します。

```
define copygroup standard standard <class_name>
type=archive dest=diskpool
serialization=static
retver=nolimit
```

- WebDAV Storage Interface for SAP NetWeaver Information Lifecycle Management (BC-ILM) を使用したデータ・アーカイブを行うには、以下のコマンドを入力します。

```
define copygroup standard standard <class_name>
type=archive dest=diskpool
retver=0 retinit=event retmin=0
```

<class\_name> は、先ほど作成した管理クラスの名前です。

パラメーターの説明:

#### **standard**

STANDARD ポリシー・ドメインを使用します。

#### **standard**

STANDARD ポリシー・セットを使用します。

#### **type=archive**

バックアップ・コピー・グループに対するアーカイブ・コピー・グループを作成します。

#### **destination=diskpool**

1 次ストレージ・プールとして DISKPOOL (ハード・ディスク) を使用します。

#### **retver=nolimit | 0**

nolimit は、ファイルをコピー・グループ内に保持する日数に制限がないことを意味します。ファイルはコピー・グループ内に無期限に存在し続けます。0 は、保存期間の終了直後にコピー・グループ内のオブジェクトを削除できることを意味します。この設定は BC-ILM アーカイブで必須です。

#### **serialization=static**

Tivoli Storage Manager がファイルをアーカイブするのは、ファイルが変更操作中でない場合のみとします。Tivoli Storage Manager がファイルのアーカイブを試みるのは、1 回だけです。

#### **retinit=event**

アーカイブされたデータの保存期間は API ファンクション呼び出しを使用するアプリケーションによって開始されるということを定めます。この設定は BC-ILM アーカイブで必須です。

#### **retmin=0**

アーカイブ・オブジェクトを保存する最小限の日数をゼロに設定します。この設定は BC-ILM アーカイブで必須です。

次の作業: 『STANDARD ポリシー・セットの検証と活動化』

## STANDARD ポリシー・セットの検証と活動化

構成エラーが発生していないことを確認してから、STANDARD ポリシー・セットの検証と活動化を行います。

始める前に: 155 ページの『アーカイブ・コピー・グループの作成』

手順:

1. STANDARD ポリシー・セットを検証するには、以下のコマンドを入力します。

```
validate policyset standard standard
```

検証が正常に行われた場合は、次のようなメッセージが表示されます。  
ANR1515I ポリシー・セット STANDARD はドメイン STANDARD で検証されました  
(活動化の準備ができました)。 (Policy set STANDARD validated in domain  
STANDARD (ready for activation).)

2. ポリシー・セットを活動化するには、以下のコマンドを入力します。

```
activate policyset standard standard
```

次のような応答が表示されます。ANR1514I ポリシー・セット STANDARD は、ポ  
リシー・ドメイン STANDARD で活動化されました。 (Policy set STANDARD  
activated in policy domain STANDARD.)

3. dsmadm プログラムを終了するには、quit と入力します。

次の作業: 『パスワード・オプションの設定』

## パスワード・オプションの設定

Tivoli Storage Manager では、パスワードの処理に各種のオプションが提供されま  
す。いくつかのファイルで、Content Collector for SAP がサポートするパスワー  
ド・オプションに設定値を指定する必要があります。

始める前に: 156 ページの『STANDARD ポリシー・セットの検証と活動化』

Content Collector for SAP は、以下のパスワード・オプションをサポートしていま  
す。

- PASSWORDACCESS PROMPT
- PASSWORDACCESS GENERATE

次の表は、Tivoli Storage Manager で使用するために Collector Serverを構成する場  
合に、該当するファイルに追加しなければならない設定を示しています。

	PASSWORDACCESS PROMPT	PASSWORDACCESS GENERATE
dsm.sys またはク ライアント・オブ ション・ファイル	SERVERNAME <i>server_name</i> PASSWORDACCESS PROMPT	SERVERNAME <i>server_name</i> PASSWORDACCESS GENERATE NODENAME <i>node_name</i>
サーバー構成ファ イル	ARCHIVE <i>archive_id</i> STORAGETYPE TSM SERVER <i>server_name</i> MGMT_CLASS <i>management_class</i> ADSMNODE <i>node_name</i>	ARCHIVE <i>archive_id</i> STORAGETYPE TSM SERVER <i>server_name</i> MGMT_CLASS <i>management_class</i>

注:

- クライアント・オプション・ファイルまたはサーバー構成プロファイルのいずれ  
かで、ノードを指定します。両方のファイルでノードを指定することはできませ  
ん。
- PASSWORDACCESS PROMPT オプションを使用する場合は、このオプションを関連付  
ける Tivoli Storage Manager ノードのパスワードが指定されていることが前提に  
なります。このパスワードは、Collector Serverを最初に始動する際に指定する必  
要があります。

パスワードはすべての接続に使用されます。パスワードの有効期限が切れた場合は、Tivoli Storage Manager サーバー、および Collector Server上でパスワードを更新してください。

- **PASSWORDACCESS GENERATE** オプションを使用する場合は、このオプションを関連付けるノードの初期パスワードを手動で設定することが前提になります。Tivoli Storage Manager ノードに初めて接続するときに、この初期パスワードを指定する必要があります。最初のアクセス後に、Tivoli Storage Manager は新規パスワードを生成して初期パスワードを変更します。生成されたパスワードは自動的に更新され、Tivoli Storage Manager クライアント上と、Tivoli Storage Manager サーバー上に保管されます。その後の接続はすべて、生成されたパスワードを使用して確立されます。
- Tivoli Storage Manager ノードに最初に接続する際には、コマンド行で以下のコマンドを入力します。
  1. `dsmc -se= <server_name>` (Tivoli Storage Manager サーバーにログオンする場合)
  2. `dsmc q mgm` (管理クラスを照会する場合)

管理クラスを照会するコマンドを入力すると、初期パスワードを求めるプロンプトが Tivoli Storage Manager から出されます。

- 初期テストには **PASSWORDACCESS PROMPT** オプションを使用してください。このオプションは、設定が簡単だからです。実稼働環境では、**PASSWORDACCESS GENERATE** を使用します。パスワードが自動的に生成され、更新されるからです。

次の作業: 『リモート Tivoli Storage Manager サーバーへの接続の構成』

## リモート Tivoli Storage Manager サーバーへの接続の構成

Tivoli Storage Manager サーバーが Collector Serverと同じコンピューターにインストールされていない場合は、この 2 つのサーバー間の接続を構成する必要があります。

始める前に: 157 ページの『パスワード・オプションの設定』

手順:

1. Tivoli Storage Manager インストール・システムの `¥TSM¥config` ディレクトリーに、ファイル `<server_name>.opt` を作成します。 `<server_name>` は、Tivoli Storage Manager サーバーの名前です。
2. このファイルで以下の情報を指定します。

<code>commmethod</code>	TCPIP
<code>tcpport</code>	1500
<code>tcpserveraddress</code>	Tivoli Storage Manager サーバーの TCP/IP アドレスを指定します。

次の作業: 159 ページの『第 20 章 Collector Serverの構成』

## 第 20 章 Collector Serverの構成

次に示す順序で Collector Serverを構成します。

### 始める前に:

1. 必要に応じて、SAP をインストールおよび構成します。
2. サーバー・パッケージから Collector Serverをインストールします。詳しくは、99 ページの『コンソール・モードまたは GUI モードでのサーバー・パッケージのインストール』または 105 ページの『コンソール・モードまたは GUI モードでのクライアント・パッケージのインストール』を参照してください。
3. 129 ページの『第 18 章 環境の準備』。
4. 139 ページの『第 19 章 Content Collector for SAP で使用するためにアーカイブを構成する』。

図 2 は、Content Collector for SAP 環境のどの部分が Collector Server インスタンスに属しているかを示します。

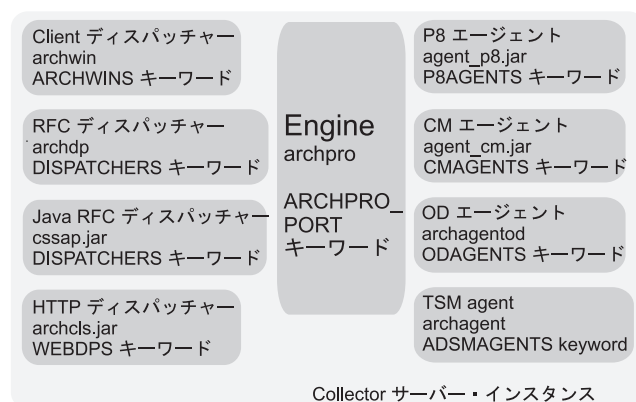


図 2. Collector Serverの構成

Collector Serverを構成するには、以下のタスクを完了します。

### 手順:

1. 160 ページの『アーカイブと共に使用するための Collector Serverの構成』。
2. 178 ページの『Collector Serverと SAP の間の接続の構成』
3. 191 ページの『Collector Server を初めて始動する』
4. 193 ページの『Collector Serverの停止』

## アーカイブと共に使用するための Collector Serverの構成

Content Collector for SAP で各アーカイブ用に提供されているサンプルのサーバー構成プロファイルを変更して、Collector Serverを構成します。サーバー構成プロファイルには、Collector Server が SAP と通信するために、および Content Collector for SAP によってサポートされているすべてのタスクを実行するために、必要とするすべての構成情報が含まれます。

サンプル・サーバー構成プロファイルは、キーワードとその値を含む ASCII ファイルです。Collector Serverのインストール中に、サンプル・ファイルが以下のディレクトリに格納されました。

- Linux および UNIX 上: <InstallHome>/server/bin/
- Windows 上: <InstallHome>%Server%instances%instance01

使用するアーカイブに応じて、次のサンプル・プロファイルのいずれかを変更します。

Archive	サンプルのサーバー構成プロファイル
Content Manager Enterprise Edition	archint_sample_cm8.ini
Content Manager OnDemand	archint_sample_cmod.ini
FileNet P8	archint_sample_p8.ini
Tivoli Storage Manager	archint_sample_tsm.ini

プロファイルに追加して、Collector Serverの振る舞いを微調整することができるキーワードは数多くあります。ただし、以下のトピックでは、Collector Serverを始動および実行して、最も重要なタスクを実行するために必要な基本的な設定を変更する方法を示します。

追加できるすべてのキーワードのリストについては、407 ページの『サーバー構成プロファイル内のキーワード』を参照してください。

**重要:** サーバー構成プロファイルの行の長さは、2048 バイト以下にする必要があります。

### サーバー構成プロファイル: 一般情報および構造

サーバー構成プロファイルは、任意の ASCII エディターを使用して変更できる ASCII ファイルです。これは、キーワードとその値で構成されています。 values.

キーワードは 1 つの値を持つことができ、コンマで区切られた複数の値のリストを持つことができる場合もあります。ほとんどのキーワードには、デフォルト値があります。このようなキーワードを省略した場合、デフォルト値が使用されます。Collector Serverを始動すると、Collector Serverによってサーバー構成プロファイルの構文が検査されます。Collector Serverは、キーワードとその値が正しい順序で正しく指定されている場合のみ始動します。

サーバー構成プロファイルには、以下のセクションがあります。

- 以下の情報を指定する一般情報セクション。
  - Collector Server・インスタンスへのパスや一時ファイルへのパスなどのパス



- ログ設定およびトレース設定
- 関連した SAP システムへの接続を指定する DESTINATION セクション
- 各 ARCHIVE セクションに 1 つの論理アーカイブに対する設定が含まれる、1 つ以上の ARCHIVE セクション
- 始動するディスパッチャーとエージェントの数を定義し、必要なポートを指定する、サブプロセス・セクション

一般情報セクションとサブプロセス・セクションには、Collector Server・インスタンスの全体に適用されるグローバル・キーワードがあります。グローバル・キーワードをサーバー構成プロファイルで 1 回だけ指定します。DESTINATION セクションは、サーバー構成プロファイルで 1 回だけ定義されます。アーカイブ固有のキーワードは、使用する各アーカイブに対して指定する必要があります。

以下の個別のセクションについての例は、Windows システム上の FileNet P8 に対するサンプル・サーバー構成プロファイルのコンテンツを反映しています。

#### 一般情報セクションの例:

```
#-----#
# The full path to the directory containing the program files of
# Collector Server. During the installation of Collector Server,
# InstallHome is replaced with the full path to the directory
# where Content Collector for SAP is installed.
#-----#
BINPATH          InstallHome\%bin

#-----#
# The full path to the instance directory of Collector Server,
# containing all instance-related files, such as the trace files, the
# log files, and the server configuration profile. During the installation
# of Collector Server, InstallHome is replaced with the full
# path to the directory where Content Collector for SAP is installed.
#-----#
INSTANCEPATH     InstallHome\%Instances\%Instance01

##-----##
# Enables or disables Collector Server to write additional information
# to stdout, which is normally the console.
#-----#
#REPORT          ON

#-----#
# Specifies how tracing is handled.
#-----#
#TRACE          DYNAMIC_ON

#-----#
# The maximum size of the Collector Server trace file, in KB.
#-----#
#TRACEMAX       2000

#-----#
# The fully qualified path to the trace file that contains the entire
# Collector Server trace information.
#-----#
#TRACEFILE      %INSTALLLOCATION%\%Instances\%Instance01\traces\%icc_trace.trc

#-----#
# The full path to the directory where Collector Server stores
# temporary files that are needed for processing.
#-----#
```

```

TEMPPATH          c:¥temp¥

#-----#
# Specifies whether Collector Server creates a log file every day that
# it is active.
#-----#
# LOG             ON|OFF                               #

#-----#
# The full path to the exchange directory where your SAP applications
# should store the files that are to be archived by Content Collector
# for SAP. The path should be shared by all SAP Application Servers
# by using NFS mount.
# Note: This keyword is only required if DISPATCHERS > 0.
#-----#
#BASEPATH         ¥¥SAPSERVER¥transfer¥base¥

#-----#
# The full path to the directory where Collector Server and SAP can
# retrieve the archived files.
# Note: This keyword is only required if DISPATCHERS > 0.
#-----#
#ARCHPATH        ¥¥SAPSERVER¥transfer¥arch

DESTINATION セクションの例:

#-----#
# Defines the connection between Collector Server and SAP. It is similar
# to the SAP sideinfo configuration file.
# You can specify several LOGICAL_SYSTEM sections. In this way, you can
# connect one Collector Server instance to several SAP clients.
#-----#
DESTINATION       KD7
#-----#
# It is good practice to use the ID of the SAP system here.
#-----#

#-----#
# Keywords used for an RFC connection and for the support of
# SAP Document Finder.
#-----#
#   PROGID        KD7.ICCSAP
#   GWHOST        /H/sapserver
#   GWSERV        sapgw00
#   LU            sapserver
#   TP            sapdp00

#-----#
# Keywords used for logging on to a group of SAP Application Servers.
#-----#
#   PROGID        KD7.ICCSAP
#   GWHOST        /H/sapserver
#   GWSERV        sapgw00
#   MSHOST        sapmsKD7
#   GROUP         myGroup

#-----#
#   R3NAME        KD7
#-----#
# Needed for logging on to a group of SAP Application Servers and for
# document linking by using P8 Client.
#-----#

#-----#
LOGICAL_SYSTEM   T90CLNT090
CLIENT           800

```

USER	CPICUser1
LOGICAL_SYSTEM	T90CLNT091
CLIENT	801
USER	CPICUser2

**注:**

- LOGICAL\_SYSTEM キーワードは、DESTINATION セクションおよび ARCHIVE セクションで使用できます。
- DESTINATION セクションでは、LOGICAL\_SYSTEM キーワードによって、論理システムにリンクされる SAP クライアントを指定し、SAP クライアントにログオンするために使用する CPIC ユーザーを指定するセクションが開始されます。LOGICAL\_SYSTEM セクションは、複数回指定することができます。このような方法で、Collector Server・インスタンスを複数の SAP クライアントに接続できます。
- SAP Document Finder を使用する場合は、DESTINATION セクションに LOGICAL\_SYSTEM セクションが含まれている必要があります。ARCHIVE セクションには、LOGICAL\_SYSTEM キーワードを指定する必要はありません。
- バーコードを処理することによって、または SAP で作業項目を作成することによって、文書のアーカイブまたはリンクのみを行う場合は、ARCHIVE セクションに LOGICAL\_SYSTEM キーワードが含まれている必要があります。

**ARCHIVE セクションの例:**

```

#-----#
# Technical connection parameters when FileNet P8 is used as archive.
# You need an ARCHIVE section for each FileNet P8 server and
# for each document class.
#-----#

#-----#
# Basic configuration for archiving outgoing documents.
#-----#
ARCHIVE P1
  STORAGETYPE          P8
  REMOTESERVERURL     http://<hostname>:<portnumber>/wsi/FNCEWS40MTOM
  P8USER              sampleUser1
  P8DOMAIN            <P8_domain_name>
  OBJECTSTORE         <object_store_name>
  DEFAULT_P8DOCCLASS  SAPDefault

#-----#
# Extended configuration for archiving outgoing documents
# with different document types, for linking documents by processing
# their bar codes, and for transferring index information.
#-----#
ARCHIVE P2
  STORAGETYPE          P8
  REMOTESERVERURL     http://<hostname>:<portnumber>/wsi/FNCEWS40MTOM
  WORKPLACEURL        http://<application_engine_hostname>:<portnumber>
  P8USER              sampleUser1
  WP_USERID           sampleuser2
  P8DOMAIN            <P8_domain_name>
  OBJECTSTORE         <object_store_name>
  DEFAULT_P8DOCCLASS  SAPDefault
  DEFAULT_FOLDER      DefaultFolder
  DOCTYPE              image/tiff
  P8DOCCLASS          SPTIF
  CUSTOM_FOLDER       /SAP_Documents/test
  PURETHIN            yes
  DOCTYPE              application/pdf

```

```

        P8DOCCLASS          SAPPDF
        CUSTOM_FOLDER       NONE
        DOCTYPE             application/x-alf
        P8DOCCLASS          SAPALF
        CUSTOM_FOLDER       /SAP_Documents/printlists
        PAGESIZE            2000
        LOGICAL_DELETE      YES
# Keywords for index transfer
        RETURN_ALL_ATTR     YES
        REPINFOCLASSES     SAPPDF, SAPTIF
        #TRUNCATE_ATTRIBUTE ON
# Keywords for bar code processing
        PE_USERID           sampleUser3
        PE_CONNECTPOINT     connectPointName
        PE_QUEUEENAME       queueName

#-----#
# The class path with all Content Engine Client JAR files and specific Process
# Engine Client JAR files.
# The following example applies to Content Engine Client V4.5.1. Note that the
# path must be specified on one line.
#-----#
P8_CLASSPATH C:%Program Files\IBM\FileNet\WebClient\CE_API\lib\Jace.jar;
C:%Program Files\IBM\FileNet\WebClient\CE_API\lib\log4j.jar;
C:%Program Files\IBM\FileNet\WebClient\CE_API\lib\stax-api.jar;
C:%Program Files\IBM\FileNet\WebClient\CE_API\lib\xlpScanner.jar;
C:%Program Files\IBM\FileNet\WebClient\CE_API\lib\xlpScannerUtils.jar;
C:%Program Files\IBM\FileNet\WebClient\WorkplaceXT\WEB-INF\lib\pe.jar;
C:%Program Files\IBM\FileNet\WebClient\WorkplaceXT\WEB-INF\lib\peResources.jar

#-----#
# Additional options for the Java runtime environment if you use
# Content Engine Client Version V4.0 or V4.5.0.
#-----#
#JAVA_OPTIONS -Dwaspl.location=/opt/IBM/CE_API/wsi

```

注: キーワード P8\_CLASSPATH および JAVA\_OPTIONS は、FileNet P8 だけに適  
用されるグローバル・キーワードです。

#### サブプロセス・セクションの例:

```

#-----#
# The number of parallel instances of the Content Collector for SAP
# child programs.
#-----#
DISPATCHERS      0
ADSMAGENTS       0
ODAGENTS         0
CMAGENTS         0
P8AGENTS         1
ARCHWINS         1
WEBDPS          1

#-----#
# The TCP/IP port numbers that are used by Content Collector for SAP.
# ARCHPRO_PORT is used by archstop and the dynamic-link library
# csclient.dll.
# WEBPORT is used by the HTTP dispatcher for the internet access.
#-----#
ARCHPRO_PORT     5500
WEBPORT         5580

#-----#
# End of profile

```

サーバー構成プロファイルを変更する場合は、以下の情報について注意してください。

- それぞれの行は個別に分析されます。行の長さは 2048 バイト以下にする必要があります。
- キーワードは、行の任意の桁から始めることができます。
- キーワードの前にはいかなる文字も指定しないでください。ただし、スペースを指定することはできません。
- 1 つのキーワードを複数回指定すると、予測不可能な結果になる可能性があります。
- ブランクまたはパスを含む値は、単一引用符で囲むことができますが、必須ではありません。
- プロファイルはキーワード END まで、またはファイルの最後に到達するまでスキャンされます。
- コメントを開始するにはハッシュ (#) 記号を使用します。Content Collector for SAP はコメントを処理しません。

キーワードに、コンマで区切られた複数の値を指定できる場合を除き、キーワードと同じ行のコメントを指定できます。例えば、次の指定は可能です。

```
DOCTYPE image/tiff # document type for TIFF images
```

次の指定の例は不可です。

```
REPINFOCLASSES test1, test2 # index transfer classes
```

## Content Manager Version 8 で使用するための Collector Serverの構成

次のステップを実行して、Content Manager Enterprise Edition のサーバー構成プロファイルを作成します。

手順:

1. サンプル・プロファイル archint\_sample\_cm8.ini を、同じディレクトリーの archint.ini にコピーします。archint.ini はサーバー構成プロファイルのデフォルトの名前です。

**注:** Collector Serverのインスタンスを複数使用する場合は、各インスタンスに別の名前を持つ固有のサーバー構成プロファイルが必要です。

2. テキスト・エディターでサーバー構成プロファイルを開き、次のキーワードの値を変更して固有のセットアップを反映します。

キーワード	説明 (Description)	注釈
INSTANCEPATH	インスタンス関連のファイル (サーバー構成プロファイルなど) があるディレクトリーの絶対パスを指定します。インスタンス・ユーザーはこのディレクトリーに対する完全な権限を持っている必要があります。	Windows では、このパスは、Collector Serverのインストール中に自動的に割り当てられます。別のディレクトリーにインスタンス・ディレクトリーを作成した場合は、それに従って、INSTANCEPATH キーワードの値を変更します。  Linux および UNIX システムでは、Collector Server・インスタンス・ユーザーを構成したときに、作成されたインスタンス・ディレクトリーへのパスを指定する必要があります。
TEMPPATH	Collector Server が処理に必要な一時ファイルを格納するディレクトリーの絶対パスを指定します。	
DESTINATION	自分で選択した名前を指定します。このキーワードは、Collector Serverが SAP に接続するために必要なすべての設定をグループ化します。	
LOGICAL_SYSTEM	Content Collector for SAP と共に使用する SAP クライアントにリンクされている論理システムの名前を指定します。	SAP で論理システムを定義したときに、この名前を指定しました。
CLIENT	Content Collector for SAP と共に使用する SAP クライアントの名前を指定します。	
USER	指定した SAP クライアントへのアクセス権限を持つユーザーの名前を指定します。	適切な SAP クライアントで CPIC アクセス権限を持つユーザーを作成したときに、この名前を指定しました。

キーワード	説明 (Description)	注釈
ARCHIVE	<p>サンプル・ファイルには、2つの定義済みのアーカイブ・プロファイルが含まれます。A1にはアーカイブに対する最小設定が含まれます。A2には、バーコード付き文書を含め、文書のアーカイブおよびリンクのための設定が含まれます。</p> <p>両方の定義を適合させて保持することもできますし、不要な方を削除することもできます。IDはサーバー構成プロファイルおよびSAPで固有である必要があります。</p>	このIDは、SAPでコンテンツ・リポジトリまたは論理アーカイブを作成するときに、もう一度指定する必要があります。
LIBSERVER	Content Manager Enterprise Edition ライブラリー・サーバーの別名を指定します。	
CMUSER	Content Collector for SAP で使用する Content Manager Enterprise Edition を構成したときに作成したユーザー ID を指定します。	
ITEM_TYPE	Content Collector for SAP で使用する Content Manager Enterprise Edition を構成したときに作成した項目タイプまたは項目タイプのサブセットの名前を指定します。	Content Manager Enterprise Edition バージョン 7 をマイグレーションした場合は、項目タイプの名前はマイグレーション・プログラムによって生成されています。その場合は、生成された名前を指定します。
ARCHWINS	Content Collector for SAP クライアントを使用しないように計画している場合は、このキーワードの値を 0 に設定します。	

キーワード	説明 (Description)	注釈
ARCHPRO_PORT	<p>別のプログラムがこのポートを使用しない場合は、デフォルト・ポートを 5500 のままにします。</p> <p>このキーワードは、すべての Content Collector for SAP クライアントおよびすべてのダイナミック・リンク・ライブラリー (DLL) が Collector Serverに接続するために使用する TCP/IP 登録ポートを指定します。</p>	

3. インスタンス・ディレクトリーに `queue` という名前のディレクトリーを作成しなかった場合は、`QUEUEPATH` キーワードを追加します。キューが保管されるディレクトリーの絶対パスを指定します。
4. 同じ方法で、必要な数だけ `ARCHIVE` セクションを追加します。他のアーカイブを使用しない場合は、`ARCHIVE` キーワードで始まる残りのブロックを削除するか、またはコメント化します。
5. 変更を保管します。

次の作業: 178 ページの『Collector Serverと SAP の間の接続の構成』

## OnDemand で使用するための Collector Serverの構成

次のステップを実行して、Content Manager OnDemand のサーバー構成プロファイルを作成します。

### 手順:

1. サンプル・プロファイル `archint_sample_cmod.ini` を、同じディレクトリーの `archint.ini` にコピーします。 `archint.ini` はサーバー構成プロファイルのデフォルトの名前です。

**注:** Collector Serverのインスタンスを複数使用する場合は、各インスタンスに別の名前を持つ固有のサーバー構成プロファイルが必要です。

2. テキスト・エディターでサーバー構成プロファイルを開き、次のキーワードの値を変更して固有のセットアップを反映します。



キーワード	説明 (Description)	注釈
INSTANCEPATH	インスタンス関連のファイル (サーバー構成プロファイルなど) があるディレクトリーの絶対パスを指定します。インスタンス・ユーザーはこのディレクトリーに対する完全な権限を持っている必要があります。	Windows では、このパスは、Collector Serverのインストール中に自動的に割り当てられます。別のディレクトリーにインスタンス・ディレクトリーを作成した場合は、それに従って、INSTANCEPATH キーワードの値を変更します。  Linux および UNIX システムでは、Collector Server・インスタンス・ユーザーを構成したときに、作成されたインスタンス・ディレクトリーへのパスを指定する必要があります。
TEMPPATH	Collector Server が処理に必要な一時ファイルを格納するディレクトリーの絶対パスを指定します。	
DESTINATION	自分で選択した名前を指定します。このキーワードは、Collector Serverが SAP に接続するために必要なすべての設定をグループ化します。	
LOGICAL_SYSTEM	Content Collector for SAP と共に使用する SAP クライアントにリンクされている論理システムの名前を指定します。	SAP で論理システムを定義したときに、この名前を指定しました。
CLIENT	Content Collector for SAP と共に使用する SAP クライアントの名前を指定します。	
USER	指定した SAP クライアントへのアクセス権限を持つユーザーの名前を指定します。	適切な SAP クライアントで CPIC アクセス権限を持つユーザーを作成したときに、この名前を指定しました。

キーワード	説明 (Description)	注釈
ARCHIVE	<p>サンプル・ファイルには、2つの定義済みのアーカイブ・プロファイルが含まれます。A1にはアーカイブに対する最小設定が含まれます。A2には、バーコード付き文書のアーカイブのための設定が含まれます。</p> <p>両方の定義を適合させて保持することもできますし、不要な方を削除することもできます。IDはサーバー構成プロファイルおよびSAPで固有である必要があります。</p>	このIDは、SAPでコンテンツ・リポジトリまたは論理アーカイブを作成するときに、もう一度指定する必要があります。
ODHOST	Content Manager OnDemand ライブラリー・サーバーのインスタンス名を指定します。	<p>このインスタンス名は、リモートの Content Manager OnDemand サーバーへの接続を構成したときに定義しています。</p> <p>このキーワードは、Content Manager OnDemand サーバーが Collector Serverと同じコンピュータにインストールされている場合に必要です。</p>
APPGROUP	アプリケーション・グループの名前を指定します。	アプリケーション・グループ、アプリケーション、フォルダー、およびユーザー ID は、Collector Serverで使用する Content Manager OnDemand を構成したときに作成しています。
APPLICATION	アプリケーション・グループと関連付けられているアプリケーションの名前を指定します。	
FOLDER	アプリケーション・グループと関連付けられているフォルダーの名前を指定します。	
ODUSER	Content Manager OnDemand ユーザーの ID を指定します。	
ARCHWINS	Content Collector for SAP クライアントを使用しないように計画している場合は、このキーワードの値を 0 に設定します。	

キーワード	説明 (Description)	注釈
ARCHPRO_PORT	<p>別のプログラムがこのポートを使用しない場合は、デフォルト・ポートを 5500 のままにします。</p> <p>このキーワードは、すべての Content Collector for SAP クライアントおよびすべてのダイナミック・リンク・ライブラリー (DLL) が Collector Serverに接続するために使用する TCP/IP 登録ポートを指定します。</p>	

3. インスタンス・ディレクトリーに queue という名前のディレクトリーを作成しなかった場合は、QUEUEPATH キーワードを追加します。キューが保管されるディレクトリーの絶対パスを指定します。
4. 同じ方法で、必要な数だけ ARCHIVE セクションを追加します。他のアーカイブを使用しない場合は、ARCHIVE キーワードで始まる残りのブロックを削除するか、またはコメント化します。
5. 変更を保管します。

次の作業: 178 ページの『Collector Serverと SAP の間の接続の構成』

## FileNet P8 で使用するための Collector Serverの構成

次のステップを実行して、FileNet P8 のサーバー構成プロファイルを作成します。

手順:

1. サンプル・プロファイル archint\_sample\_p8.ini を、同じディレクトリーの archint.ini にコピーします。archint.ini はサーバー構成プロファイルのデフォルトの名前です。

**注:** Collector Serverのインスタンスを複数使用する場合は、各インスタンスに別の名前を持つ固有のサーバー構成プロファイルが必要です。

2. テキスト・エディターでサーバー構成プロファイルを開き、次のキーワードの値を変更して固有のセットアップを反映します。

キーワード	説明 (Description)	注釈
INSTANCEPATH	インスタンス関連のファイル (サーバー構成プロファイルなど) があるディレクトリーの絶対パスを指定します。インスタンス・ユーザーはこのディレクトリーに対する完全な権限を持っている必要があります。	Windows では、このパスは、Collector Serverのインストール中に自動的に割り当てられます。別のディレクトリーにインスタンス・ディレクトリーを作成した場合は、それに従って、INSTANCEPATH キーワードの値を変更します。  Linux および UNIX システムでは、Collector Server・インスタンス・ユーザーを構成したときに、作成されたインスタンス・ディレクトリーへのパスを指定する必要があります。
TEMPPATH	Collector Server が処理に必要な一時ファイルを格納するディレクトリーの絶対パスを指定します。	
DESTINATION	自分で選択した名前を指定します。このキーワードは、Collector Serverが SAP に接続するために必要なすべての設定をグループ化します。	
R3NAME	SAP に文書をリンクする際に Collector Serverが接続する SAP システムの ID を指定します。	バーコードを使用して文書をアーカイブまたはリンクする場合、P8 Client を使用する場合、および Collector Serverが SAP Application Server のグループにログオンできるようにする場合に、このキーワードが必要です。
LOGICAL_SYSTEM	SAP クライアントに接続されている論理システムの名前を指定します。	SAP で論理システムを定義したときに、この名前を指定しました。
CLIENT	論理システムにリンクされる SAP クライアントの名前を指定します。	
USER	CPIC アクセス権限を持つユーザーの名前を指定します。	SAP で CPIC アクセス権限を持つユーザーを作成したときに、この名前を指定しました。

キーワード	説明 (Description)	注釈
ARCHIVE	サンプル・ファイルには、2つの定義済みのアーカイブ・プロファイルが含まれます。A1にはアーカイブに対する最小設定が含まれます。A2には、バーコード付き文書を含むさまざまな文書タイプをアーカイブおよびリンクするための設定、および索引転送のための設定が含まれます。	
REMOTESERVERURL	Content Engine Web Service Interface (WSI) エンドポイントへの絶対パスを指定します。	
P8USER	次の権限を持つ、Content Engine ユーザーの名前を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>文書の作成、変更、読み取り、削除、および表示</li> <li>Image Services 文書の FileNet P8 へのインポート。</li> </ul>	
P8DOMAIN	文書が保管されている、またはこれから保管されるオブジェクト・ストアを含むドメインの名前を指定します。	
OBJECTSTORE	文書が含まれている、またはこれから文書が含まれるオブジェクト・ストアの名前を指定します。	
DEFAULT_P8DOCCLASS	SAP で文書の MIME タイプが提供されていない場合、またはアーカイブに MIME タイプが定義されていない場合に使用される文書クラスを指定します。	このキーワードは、発信文書のアーカイブにのみ必要です。  この文書クラスには、文書の読み取り、または文書の読み取りと更新と削除に必要なすべてのプロパティがなければなりません。
P8_CLASSPATH	Content Engine Client のすべての JAR ファイルへの絶対パス、および Process Engine Client の特定の JAR ファイルへの絶対パスを指定します。	詳細については、96 ページの『FileNet P8 のインストール』を参照してください。

キーワード	説明 (Description)	注釈
JAVA_OPTIONS	Java ランタイム環境のオプションを指定します。	このキーワードは、Content Engine Client Version 4.0 または 4.5.0 を使用する場合にだけ必要です。詳細については、96 ページの『FileNet P8 のインストール』を参照してください。
ARCHWINS	Content Collector for SAP クライアントを使用しないように計画している場合は、このキーワードの値を 0 に設定します。	
ARCHPRO_PORT	別のプログラムがこのポートを使用しない場合は、デフォルト・ポートを 5500 のままにします。  このキーワードは、すべての Content Collector for SAP クライアントおよびすべてのダイナミック・リンク・ライブラリー (DLL) が Collector Server に接続するために使用する TCP/IP 登録ポートを指定します。	

3. インスタンス・ディレクトリーに queue という名前のディレクトリーを作成しなかった場合は、QUEUEPATH キーワードを追加します。キューが保管されるディレクトリーの絶対パスを指定します。
4. 同じ方法で、必要な数だけ ARCHIVE セクションを追加します。他のアーカイブを使用しない場合は、ARCHIVE キーワードで始まる残りのブロックを削除するか、またはコメント化します。
5. 変更を保管します。

次の作業: 178 ページの『Collector Server と SAP の間の接続の構成』

## Tivoli Storage Manager で使用するために Collector Server を構成する

Tivoli Storage Manager 用に Collector Server を構成するには、いくつかのタスクを完了する必要があります。

手順:

1. 175 ページの『Tivoli Storage Manager 用のサーバー構成プロファイルの作成』
2. 177 ページの『クライアント・オプション・ファイルの作成』

## Tivoli Storage Manager 用のサーバー構成プロファイルの作成

次のステップを実行して、Tivoli Storage Manager のサーバー構成プロファイルを作成します。

1. サンプル・プロファイル `archint_sample_tsm.ini` を、同じディレクトリーの `archint.ini` にコピーします。 `archint.ini` はサーバー構成プロファイルのデフォルトの名前です。

**注:** Collector Serverのインスタンスを複数使用する場合は、各インスタンスに別の名前を持つ固有のサーバー構成プロファイルが必要です。

2. テキスト・エディターでサーバー構成プロファイルを開き、次のキーワードの値を変更して固有のセットアップを反映します。

キーワード	説明 (Description)	注釈
INSTANCEPATH	インスタンス関連のファイル (サーバー構成プロファイルなど) があるディレクトリーの絶対パスを指定します。インスタンス・ユーザーはこのディレクトリーに対する完全な権限を持っている必要があります。	Windows では、このパスは、Collector Serverのインストール中に自動的に割り当てられます。別のディレクトリーにインスタンス・ディレクトリーを作成した場合は、それに従って、INSTANCEPATH キーワードの値を変更します。  Linux および UNIX システムでは、Collector Server・インスタンス・ユーザーを構成したときに、作成されたインスタンス・ディレクトリーへのパスを指定する必要があります。
TEMPPATH	Collector Server が処理に必要な一時ファイルを格納するディレクトリーの絶対パスを指定します。	
DESTINATION	自分で選択した名前を指定します。このキーワードは、Collector Serverが SAP に接続するために必要なすべての設定をグループ化します。	
LOGICAL_SYSTEM	SAP クライアントに接続されている論理システムの名前を指定します。	SAP で論理システムを定義したときに、この名前を指定しました。
CLIENT	論理システムにリンクされる SAP クライアントの名前を指定します。	
USER	CPIC アクセス権限を持つユーザーの名前を指定します。	SAP で CPIC アクセス権限を持つユーザーを作成したときに、この名前を指定しました。

キーワード	説明 (Description)	注釈
ARCHIVE	<p>サンプル・ファイルには、次の 3 つの定義済みのアーカイブ・プロファイルが含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• A1 には、発信文書、印刷リスト、およびデータをアーカイブできるようにするためのアーカイブに対する最小設定が含まれます。</li> <li>• A2 には、バーコード付き文書のアーカイブのための設定が含まれます。</li> <li>• A3 には、XML ベースのアーカイブ (BC-ILM) の設定が含まれます。</li> </ul> <p>すべての定義を適合させて保持したり、不要なものを削除したりすることができます。ID はサーバー構成プロファイルおよび SAP で固有である必要があります。</p>	この ID は、SAP でコンテンツ・リポジトリまたは論理アーカイブを作成するときに、もう一度指定する必要があります。
SERVER	Tivoli Storage Manager ノードを Content Collector for SAP に登録したときにログオンした Tivoli Storage Manager サーバーの名前を指定します。	このサーバーのクライアント・オプション・ファイルを作成するときにサーバー名を再び指定する必要があります。
MGMT_CLASS	Collector Serverが文書のアーカイブに使用する管理クラスを指定します。	この管理クラスは、Content Collector for SAP で使用する Tivoli Storage Manager を構成したときに作成されています。
ADSMNODE	Content Collector for SAP に登録した Tivoli Storage Manager ノードの名前を指定します。	このキーワードは、クライアント・オプション・ファイルでノードを指定しない場合にのみ必要です。
ARCHWINS	Content Collector for SAP クライアントを使用しないように計画している場合は、このキーワードの値を 0 に設定します。	



キーワード	説明 (Description)	注釈
ARCHPRO_PORT	<p>別のプログラムがこのポートを使用しない場合は、デフォルト・ポートを 5500 のままにします。</p> <p>このキーワードは、すべての Content Collector for SAP クライアントおよびすべてのダイナミック・リンク・ライブラリー (DLL) が Collector Serverに接続するために使用する TCP/IP 登録ポートを指定します。</p>	

3. インスタンス・ディレクトリーに `queue` という名前のディレクトリーを作成しなかった場合は、`QUEUEPATH` キーワードを追加します。キューが保管されるディレクトリーの絶対パスを指定します。
4. 同じ方法で、必要な数だけ `ARCHIVE` セクションを追加します。他のアーカイブを使用しない場合は、`ARCHIVE` キーワードで始まる残りのブロックを削除するか、またはコメント化します。
5. 変更を保管します。

次の作業: 『クライアント・オプション・ファイルの作成』

### クライアント・オプション・ファイルの作成

サーバー構成プロファイルで `SERVER` キーワードを使用して指定した、それぞれの Tivoli Storage Manager サーバーのクライアント・オプション・ファイルを作成します。クライアント・オプション・ファイルにより、Collector Serverが確実に正しいサーバーに接続できるようになります。

始める前に: 175 ページの『Tivoli Storage Manager 用のサーバー構成プロファイルの作成』

#### 手順:

1. Tivoli Storage Manager に同梱されている `dsm.opt` ファイルを、サーバー構成プロファイルが含まれていないディレクトリーにコピーします。Collector Serverが、このディレクトリーに対する書き込み権限を持っている必要があります。
2. テキスト・エディターでファイルを開き、その内容を削除してから、同じ名前での空のファイルとして保存します。
3. サーバー構成プロファイルで指定されている Tivoli Storage Manager サーバーと同じ数だけ、オリジナルの `dsm.opt` ファイルのコピーを作成します。空の `dsm.opt` ファイルが含まれているディレクトリーにこれらのコピーを保存します。各コピーに `server_name.opt` と名前を付けます。 `server_name` は、サーバー構成プロファイルで `SERVER` キーワードに指定した値を表します。
4. エディターで各コピーを開き、`tcpserveraddress` パラメーターの値を Tivoli Storage Manager サーバーのアドレスと置き換えます。

5. Linux および UNIX システムの場合: 各 Tivoli Storage Manager のアドレスを持つエントリーを `dsm.sys` ファイルに追加します。 `dsm.sys` ファイルには、指定したサーバーに接続するためのすべての Tivoli Storage Manager のパラメーターが含まれています。

次の作業: 『Collector Serverと SAP の間の接続の構成』

## Collector Serverと SAP の間の接続の構成

構成する必要がある接続および始動する必要があるディスパッチャーは、実行するタスクによって異なります。

**始める前に:** 139 ページの『第 19 章 Content Collector for SAP で使用するためにアーカイブを構成する』。

以下の表に、始動する必要があるタスクとディスパッチャーに対してセットアップする必要があるのはどの接続かを示します。

タスク	HTTP 接続 (HTTP ディスパッチャーを使用)	RFC 接続 (RFC ディスパッチャーを使用)	Java RFC ディスパッチャー ( <code>cssap.jar / DISPATCHERS keyword</code> )	注釈
データのアーカイブ	x	x		HTTP 接続または RFC 接続のいずれか
BC-ILM を使用したデータのアーカイブ	x			HTTP ディスパッチャーのみ
SAP ワークフローに作業項目を作成することによって文書をアーカイブする			x	
バーコードを処理することによって文書をアーカイブする				Collector Serverは、バーコードを直接 SAP に送信
発信文書のアーカイブ	x	x		HTTP 接続または RFC 接続のいずれか
作業項目の作成によって Content Manager 文書をリンクする			x	
バーコードの処理によって Content Manager 文書をリンクする				Collector Serverは、バーコードを直接 SAP に送信
Utility Client	を使用して 文書をリンクする		x	JAVA RFC ディスパッチャーは、作業項目の作成によって文書がリンクされる場合にのみ必要

タスク	HTTP 接続 (HTTP ディスパッチャーを使用)	RFC 接続 (RFC ディスパッチャーを使用)	Java RFC ディスパッチャー (cssap.jar / DISPATCHERS keyword)	注釈
P8 Client を使用して FileNet P8 オブジェクトをリンクする				P8 Client SAP Connector と SAP の間の OLE 通信が使用される
印刷リストのアーカイブと表示	x	x		HTTP 接続または RFC 接続のいずれか
SAP GUI を使用した、アーカイブ済み文書の表示	x	x		RFC 接続は印刷リストだけに使用可能
外部ビューアーを使用した、アーカイブ済み文書の表示	x	x		RFC 接続は印刷リストだけに使用可能
eClient を使用した、Content Manager 文書の表示	x			
Workplace または Workplace XT に組み込まれているビューアー・アプリケーションを使用した FileNet P8 オブジェクトの表示	x			
SAP Document Finder を使用したアーカイブ済み文書の検索と表示	x	x	x	HTTP 接続と RFC 接続の両方
索引情報の転送				SAP は直接 Utility Client 通信する

**注:**

- この表には、クライアント・ディスパッチャー (ARCHWINS キーワード) は含まれていません。クライアント・ディスパッチャーは、Collector Server および Archiving Client または Viewing Client の間の通信に使用されます。これらのクライアントを構成するときに、Collector Serverがクライアント・ディスパッチャーを始動できるようにします。
- Object Linking and Embedding (OLE) 通信は、Archiving Client、P8 Client SAP Connector、または Viewing Client と、SAP GUI との間の通信に使用されます。OLE 通信は、このタイプの通信を必要とするタスクを構成するときに構成します。

## RFC ディスパッチャーの数の設定

RFC ディスパッチャーの数と Java RFC ディスパッチャーの数は、両方ともサーバー構成プロファイルで DISPATCHERS キーワードによって設定されます。Remote Function Call (RFC) 通信には RFC ディスパッチャーが必要です。作業項目を作成

して文書のアーカイブとリンクを行う場合、または SAP Document Finder を使用して文書の検索と表示を行う場合は、Java RFC ディスパッチャーが必要です。

RFC 接続を構成する場合は、SAP と Content Collector for SAP の間で交換されるファイルが格納される場所も指定する必要があります。サーバー構成プロファイルで、RFC ディスパッチャーの数を設定し、パスを指定します。

**手順:**

1. サーバー構成プロファイルをテキスト・エディターで開きます。
2. DISPATCHERS キーワードを 0 よりも大きな数値に設定します。例えば次のようにします。

```
DISPATCHERS    4
```

3. RFC 接続を構成する場合は、以下のキーワードを追加してファイルの一時ストレージにパスを指定する必要があります。

```
BASEPATH        <basepath>  
ARCHPATH        <archpath>
```

**<basepath>**

SAP アプリケーションが、Content Collector for SAP によってアーカイブされるファイルを保管する、交換ディレクトリーの絶対パスを指定します。交換ディレクトリーは、Collector Serverをインストールしたときに作成してあります。

**<archpath>**

アーカイブしたファイルを、Collector Serverおよび SAP がリトリブできるディレクトリーの絶対パスを指定します。BASEPATH キーワードの場合と同じパスを使用できます。

RFC 接続が必要ない場合、BASEPATH および ARCHPATH キーワードを既存の一時ディレクトリーまたはダミー・ディレクトリーに設定できます。

4. サーバー構成プロファイルを保存し、Collector Serverを再始動して変更を有効にしてください。

**次の作業:** 以下のタスクのいずれかを使用して続行します。

- 『Hypertext Transfer Protocol (HTTP) を介した Collector Server と SAP の間の接続のセットアップ』
- 185 ページの『Remote Function Call (RFC) を介した Collector Server とSAP の間の接続のセットアップ』
- 189 ページの『Collector Serverが SAP に接続できるようにする』

## **Hypertext Transfer Protocol (HTTP) を介した Collector Server と SAP の間の接続のセットアップ**

SAP Content Server HTTP インターフェースを使用して文書をアーカイブおよびリトリブする場合は、この接続を構成する必要があります。

SAP GUI を使用して、接続を構成します。

**始める前に:** SAP Document Finder を使用して文書の検索および表示を行う場合、または SAP ワークフローで作業項目を作成することによって文書のアーカイブまたはリンクを行う場合は、179 ページの『RFC ディスパッチャーの数の設定』を参照してください。

**手順:**

1. 『HTTP ディスパッチャーの数の設定』
2. 『Hypertext Transfer Protocol (HTTP) 接続によって使用するための SAP ArchiveLink プロトコルの作成』
3. 182 ページの『Hypertext Transfer Protocol (HTTP) 接続によって使用するための SAP ArchiveLink キューの作成』
4. 183 ページの『Hypertext Transfer Protocol (HTTP) 接続に対するコンテンツ・リポジトリまたは論理アーカイブの作成』
5. 185 ページの『Collector Server への証明書の送信』

## HTTP ディスパッチャーの数の設定

HTTP 通信を使用可能にするには、少なくとも 1 つの HTTP ディスパッチャーを始動する必要があります。さらに、HTTP ディスパッチャーが要求を取得するために使用する TCP/IP ポートを指定する必要があります。

WEBDPS キーワードを使用して、サーバー構成プロファイルで、HTTP ディスパッチャーの数を指定します。サンプル・サーバー構成プロファイルでは、WEBDPS キーワードの値は既に 1 に設定されています。複数の HTTP ディスパッチャー・セッションを並行して実行する場合があります。デフォルト値は 0 です。

WEBPORT キーワードを使用して、サーバー構成プロファイルに TCP/IP ポートを指定します。サンプルのサーバー構成プロファイルで、WEBPORT キーワードの値は 5580 に設定されています。ここでは別のポートを指定する場合を想定します。デフォルトのポート番号は 8085 です。

HTTP ディスパッチャーの数を変更するには、および TCP/IP ポートを変更するには、以下の手順を実行します。

1. サーバー構成プロファイルをテキスト・エディターで開きます。
2. 必要に応じて、WEBDPS キーワードの値および WEBPORT キーワードの値を変更します。
3. 変更したサーバー構成プロファイルを保存します。

**次の作業:** 『Hypertext Transfer Protocol (HTTP) 接続によって使用するための SAP ArchiveLink プロトコルの作成』

## Hypertext Transfer Protocol (HTTP) 接続によって使用するための SAP ArchiveLink プロトコルの作成

HTTP コンテンツ・サーバーへの一般的な SAP ArchiveLink インターフェース用のプロトコルを作成します。

このトピックでは、サンプル・プロトコル HTTP1 を作成する方法を示します。

**始める前に:** 『HTTP ディスパッチャーの数の設定』

手順:

1. SAP GUI でトランザクション・コード 0AA3 を入力して、「ArchiveLink: 通信インターフェース管理 (ArchiveLink: Communications Interface Administration)」ウィンドウを開きます。
2. 「新規プロトコル (New protocol)」アイコン  をクリックします。
3. 「新しいプロトコルの作成 (Create New Protocol)」ウィンドウで、以下の設定を指定します。

フィールド	説明 (Description)	例
プロトコル (Protocol)	プロトコルの名前を入力します。	以下を入力します。 HTTP1
バージョン	SAP ArchiveLink HTTP Content Server Interface のバージョンを指定します。  通常は 0045 で十分です。ただし、キャッシュ・サーバーを使用する場合は 0046 を指定してください。	以下を入力します。 0045
説明 (Description)	このプロトコルに関する情報を指定します。	以下を入力します。 Demo_HTTP

4. Enter を押し、「保管」アイコン  をクリックして設定を保存します。

「ArchiveLink: 通信インターフェース管理 (ArchiveLink: Communications Interface Administration)」ウィンドウに新しいプロトコルがリストされます。

次の作業: 『Hypertext Transfer Protocol (HTTP) 接続によって使用するための SAP ArchiveLink キューの作成』

## Hypertext Transfer Protocol (HTTP) 接続によって使用するための SAP ArchiveLink キューの作成

次のステップを実行して、SAP ArchiveLink キューを作成します。


始める前に: 181 ページの 『Hypertext Transfer Protocol (HTTP) 接続によって使用するための SAP ArchiveLink プロトコルの作成』

手順:

1. SAP GUI でトランザクション・コード 0AQI を入力して、「SAP ArchiveLink: すべてのキュー (CFBC, CARA, CGDA) の作成 (SAP ArchiveLink: Create All Queues (CFBC, CARA, CGDA))」ウィンドウを開きます。
2. キュー管理者 (Queue Administrator) 以外のすべてのフィールドに X が入っていることを確認する。
3. 「キュー管理者 (Queue Administrator)」フィールドに、エラー通知を受信する SAP ユーザーのログオン ID を入力します。デフォルトでは、現行のログオン ID が挿入されます。

例えば、以下のように入力します。

ADMIN

4. 「実行 (Execute)」アイコン  をクリックします。

次の作業: 『Hypertext Transfer Protocol (HTTP) 接続に対するコンテンツ・リポジトリまたは論理アーカイブの作成』



## Hypertext Transfer Protocol (HTTP) 接続に対するコンテンツ・リポジトリまたは論理アーカイブの作成

Collector Serverが HTTP 接続を使用してアクセスできるコンテンツ・リポジトリまたは論理アーカイブを作成します。

このトピックでは、サンプル SAP ArchiveLink プロトコル HTTP1 に対してサンプル・コンテンツ・リポジトリ A2 を作成する方法を示します。

始める前に: 182 ページの 『Hypertext Transfer Protocol (HTTP) 接続によって使用するための SAP ArchiveLink キューの作成』

手順:

1. SAP GUI でトランザクション・コード OAC0 を入力して、「コンテンツ・リポジトリの表示: 全容表示 (Display Content Repositories: Overview)」ウィンドウを開きます。
2. 「変更」アイコン  をクリックします。
3. 「コンテンツ・リポジトリの変更: 概要 (Change Content Repositories: Overview)」ウィンドウで、「作成 (Create)」アイコン  をクリックします。
4. 「コンテンツ・リポジトリの変更: 詳細 (Change Content Repositories: Detail)」ウィンドウで、「全管理 (Full administration)」をクリックします。
5. 以下の情報を指定します。

フィールド	説明 (Description)	例
コンテンツ・リポジトリ (Content Rep.)	サーバー構成プロファイルの ARCHIVE キーワードに指定した論理アーカイブ ID を入力します。	以下を入力します。 A2
説明 (Description)	リポジトリまたはアーカイブの簡略説明を入力します。	以下を入力します。 Sample archive A2
文書域 (Document area)	「ArchiveLink」を選択します。	
ストレージ・タイプ (Storage type)	「HTTP コンテンツ・サーバー (HTTP content server)」を選択します。	
プロトコル (Protocol)	作成した SAP ArchiveLink プロトコルを選択します。	「HTTP1」を選択します。

フィールド	説明 (Description)	例
バージョン番号 (Version no.)	SAP ArchiveLink プロトコルを作成したときに指定した SAP ArchiveLink HTTP Content Server Interface のバージョンを選択します。	「0045」を選択します。
HTTP サーバー (HTTP server)	Collector Serverのホスト名または IP アドレスを入力します。	以下を入力します。 myhost.yourserver.com
ポート番号 (Port Number)	Collector Serverの HTTP ディスパッチャーがその要求を取得する際に経由する TCP/IP ポートのポート番号を入力します。  このポート番号は、HTTP ディスパッチャーを設定したときに指定した WEBPORT キーワードの値と一致する必要があります。	以下を入力します。 5580
HTTP スクリプト (HTTP Script)	以下を入力します。 cs	
基本パス (Basic Path)	SAP アプリケーションが、Content Collector for SAP によってアーカイブされるファイルを保管する、交換ディレクトリーの絶対パスを入力します。  パスの末尾は区切り文字にする必要があります。Windows の場合は ¥ で、Linux および UNIX システムの場合は / です。  サーバー構成プロファイルの BASEPATH キーワードで指定したパスを使用します。  両方のサーバーが、このディレクトリーにアクセスできるようにしてください。	以下を入力します。 D:¥SAPSERVER¥transfer¥base¥
アーカイブ・パス (Archive Path)	アーカイブしたファイルを、Collector Serverおよび SAP がリトリリーブできるディレクトリーの絶対パスを入力します。  パスの末尾は区切り文字にする必要があります。Windows の場合は ¥ で、Linux および UNIX システムの場合は / です。  サーバー構成プロファイルの ARCHPATH キーワードで指定したパスを使用します。通常は BASEPATH キーワードの場合と同じパスです。	以下を入力します。 D:¥SAPSERVER¥transfer¥arch¥



フィールド	説明 (Description)	例
出力装置 (OutputDevice)	「ARCH」を選択します。	
署名なし (No signature)	選択された場合、署名は使用されません。一般的には、これはテストの目的だけに使用します。	

6. 「保管」アイコン  をクリックして、設定を保存します。

次の作業: 『Collector Server への証明書の送信』


### Collector Server への証明書の送信

暗号化された HTTP 接続を使用するには、証明書が必要です。デフォルトでは、暗号化が使用可能になっています。

始める前に: 183 ページの『Hypertext Transfer Protocol (HTTP) 接続に対するコンテンツ・リポジトリまたは論理アーカイブの作成』

以下のいずれかの方法で、証明書を送信することができます。

- 「コンテンツ・リポジトリの変更: 詳細 (Change Content Repositories: Detail)」

ウィンドウの「保管」アイコン  をクリックした後、「証明書の送信 (Send

certificate)」アイコン  をクリックします。

- 以下のステップを実行します。

1. SAP GUI でトランザクション・コード OAHT を入力して、「HTTP コンテンツ・サーバーへの証明書の送信 (Send certificates to HTTP content server)」ウィンドウを開きます。
2. 証明書の送信先のコンテンツ・リポジトリまたは論理アーカイブをダブルクリックします。

例えば、「A2」をダブルクリックします。

対応する Collector Serverに証明書が送信されます。

Collector Serverはこの証明書を保存して、コンテンツ・リポジトリまたは論理アーカイブがアーカイブ要求またはリトリブ要求を送信するときにそれを使用します。

次の作業: 189 ページの『Collector Serverが SAP に接続できるようにする』

## Remote Function Call (RFC) を介した Collector Server と SAP の間の接続のセットアップ

SAP GUI を使用して RFC 接続を構成します。

始める前に: 179 ページの『RFC ディスパッチャーの数の設定』

手順:

1. 186 ページの『RFC 宛先の作成』


2. 187 ページの『Remote Function Call (RFC) 接続によって使用するための SAP ArchiveLink プロトコルの作成』
3. 187 ページの『Remote Function Call (RFC) 接続によって使用するための SAP ArchiveLink キューの作成』
4. 188 ページの『Remote Function Call (RFC) 接続に対するコンテンツ・リポジトリまたは論理アーカイブの作成』

## RFC 宛先の作成

次のステップを実行して、RFC 宛先を作成します。

このトピックでは、サンプル RFC 宛先 KD7.ICCSAP を作成する方法を示します。

### 手順:

1. SAP GUI で、トランザクション・コード SM59 を入力して「RFC 接続の構成 (Configuration of RFC Connections)」ウィンドウを開きます。
2. 「RFC 接続 (RFC Connections)」列で、「TCP/IP 接続 (TCP/IP connections)」をクリックし、「作成 (Create)」アイコン  をクリックします。
3. 「RFC 宛先 (RFC Destination)」ウィンドウの「RFC 宛先 (RFC Destination)」フィールドに RFC 宛先の名前を入力します。自分で選択した名前を使用できます。ただし、ステップ 7 で指定する「プログラム ID (Program ID)」フィールドと同じ名前を使用することもできます。

例えば、以下のように入力します。

KD7.ICCSAP

4. 「説明」の下で、1 つ以上の「説明」フィールドに 1 つの説明を入力します。

例えば、以下のように入力します。

RFC Connection 1

5. 「テクニカル設定 (Technical Settings)」タブをクリックする。
6. 「アクティベーション・タイプ (Activation Type)」の下で、「登録済みサーバー・プログラム (Registered Server Program)」をクリックする。
7. 「プログラム ID (Program ID)」フィールドに、ディスパッチャーが SAP ゲートウェイ・サーバーに登録されたときのプログラム ID を入力する。

Collector Serverが SAP に接続できるようにする場合は、サーバー構成プロファイルで PROGID キーワードに対してこの名前を指定する必要があります。

**重要:** RFC 宛先が SAP Document Finder によって使用される場合は、番号 1 を ID に付加します。例えば、プログラム ID が KD7.ICCSAP である場合は、「プログラム ID (Program ID)」フィールドに KD7.ICCSAP1 と入力します。

例えば、以下のように入力します。

KD7.ICCSAP1

8. 「保管」アイコン  をクリックして、設定を保存します。

**次の作業:** 187 ページの『Remote Function Call (RFC) 接続によって使用するための SAP ArchiveLink プロトコルの作成』

## Remote Function Call (RFC) 接続によって使用するための SAP ArchiveLink プロトコルの作成

RFC コンテンツ・サーバーへの一般的な SAP ArchiveLink インターフェース用のプロトコルを作成します。

このトピックでは、サンプル・プロトコル RFC1 を作成する方法を示します。

始める前に: 186 ページの『RFC 宛先の作成』

手順:

1. SAP GUI でトランザクション・コード 0AA3 を入力して、「ArchiveLink: 通信インターフェース管理 (ArchiveLink: Communications Interface Administration)」ウィンドウを開きます。
2. 「新規プロトコル (New protocol)」アイコン  をクリックします。
3. 「新しいプロトコルの作成 (Create New Protocol)」ウィンドウで、以下の設定を指定します。

フィールド	説明 (Description)	例
プロトコル (Protocol)	プロトコルの名前を入力します。	以下を入力します。 RFC1
バージョン	SAP ArchiveLink Interface のバージョン (ここでは 0031) を指定します。	
説明 (Description)	このプロトコルに関する情報を指定します。	以下を入力します。 Demo_RFC

4. 「保管」アイコン  をクリックして、設定を保存します。

次の作業: 『Remote Function Call (RFC) 接続によって使用するための SAP ArchiveLink キューの作成』

## Remote Function Call (RFC) 接続によって使用するための SAP ArchiveLink キューの作成

次のステップを実行して、SAP ArchiveLink キューを作成します。


始める前に: 『Remote Function Call (RFC) 接続によって使用するための SAP ArchiveLink プロトコルの作成』

手順:

1. SAP GUI でトランザクション・コード 0AQI を入力して、「SAP ArchiveLink: すべてのキュー (CFBC, CARA, CGDA) の作成 (SAP ArchiveLink: Create All Queues (CFBC, CARA, CGDA))」ウィンドウを開きます。
2. キュー管理者 (Queue Administrator) 以外のすべてのフィールドに X が入っていることを確認する。
3. 「キュー管理者 (Queue Administrator)」フィールドに、エラー通知を受信する SAP ユーザーのログオン ID を入力します。デフォルトでは、現行のログオン ID が挿入されます。

例えば、以下のように入力します。

ADMIN

4. 「実行 (Execute)」アイコン  をクリックします。

次の作業: 『Remote Function Call (RFC) 接続に対するコンテンツ・リポジトリまたは論理アーカイブの作成』



## Remote Function Call (RFC) 接続に対するコンテンツ・リポジトリまたは論理アーカイブの作成

Collector Serverが RFC 接続を使用してアクセスできるコンテンツ・リポジトリまたは論理アーカイブを作成します。

このトピックでは、サンプル SAP ArchiveLink プロトコル RFC1 に対してサンプル・コンテンツ・リポジトリ A1 を作成する方法を説明します。

始める前に: 187 ページの 『Remote Function Call (RFC) 接続によって使用するための SAP ArchiveLink キューの作成』

手順:

1. SAP GUI でトランザクション・コード OAC0 を入力して、「コンテンツ・リポジトリの表示: 全容表示 (Display Content Repositories: Overview)」ウィンドウを開きます。
2. 「変更」アイコン  をクリックします。
3. 「コンテンツ・リポジトリの変更: 概要 (Change Content Repositories: Overview)」ウィンドウで、「作成 (Create)」アイコン  をクリックします。
4. 「コンテンツ・リポジトリの変更: 詳細 (Change Content Repositories: Detail)」ウィンドウで、「全管理 (Full administration)」をクリックします。
5. 以下の情報を指定します。

フィールド	説明 (Description)	例
コンテンツ・リポジトリ (Content Rep.)	サーバー構成プロファイルの ARCHIVE キーワードに指定した論理アーカイブ ID を入力します。	以下を入力します。 A1
説明 (Description)	リポジトリまたはアーカイブの簡略説明を入力します。	以下を入力します。 Sample archive A1
文書域 (Document area)	「ArchiveLink」を選択します。	
ストレージ・タイプ (Storage type)	「RFC アーカイブ (RFC archive)」を選択します。	
プロトコル (Protocol)	作成した SAP ArchiveLink プロトコルを選択します。	「RFC1」を選択します。
バージョン番号 (Version no.)	「0031」を選択します。	
RFC 宛先 (RFC destination)	以前に作成した RFC 宛先を選択します。	「KD7.ICCSAP」を選択します。

フィールド	説明 (Description)	例
基本パス (Basic Path)	<p>SAP アプリケーションが、Content Collector for SAP によってアーカイブされるファイルを保管する、交換ディレクトリーの絶対パスを入力します。</p> <p>パスの末尾は区切り文字にする必要があります。Windows の場合は ¥ で、Linux および UNIX システムの場合は / です。</p> <p>サーバー構成プロファイルの BASEPATH キーワードで指定したパスを使用します。</p> <p>両方のサーバーが、このディレクトリーにアクセスできるようにしてください。</p>	<p>以下を入力します。</p> <p>D:¥SAPSERVER¥transfer¥base¥</p>
アーカイブ・パス (Archive Path)	<p>アーカイブしたファイルを、Collector Serverおよび SAP がリトリブできるディレクトリーの絶対パスを入力します。</p> <p>パスの末尾は区切り文字にする必要があります。Windows の場合は ¥ で、Linux および UNIX システムの場合は / です。</p> <p>サーバー構成プロファイルの ARCHPATH キーワードで指定したパスを使用します。通常は BASEPATH キーワードの場合と同じパスです。</p>	<p>以下を入力します。</p> <p>D:¥SAPSERVER¥transfer¥arch¥</p>
出力装置 (OutputDevice)	「ARCH」を選択します。	

6. 「保管」アイコン  をクリックして、設定を保存します。

次の作業: 『Collector Serverが SAP に接続できるようにする』

## Collector Serverが SAP に接続できるようにする

Remote Function Call (RFC) プロトコルおよび特定の Content Collector for SAP タスクには、特定の接続設定が必要です。これらの接続設定は、サーバー構成プロファイルの DESTINATION セクションで指定する必要があります。

始める前に: 以下のタスクのいずれかを完了しました。

- 179 ページの『RFC ディスパッチャーの数の設定』

- 180 ページの『Hypertext Transfer Protocol (HTTP) を介した Collector Server と SAP の間の接続のセットアップ』
- 185 ページの『Remote Function Call (RFC) を介した Collector Server とSAP の間の接続のセットアップ』

DESTINATION セクションは、1 つのCollector Server・インスタンスと 1 つの SAP システムの間の接続を定義します。ただし、このセクション内では、複数の SAP クライアントへの接続を定義できます。

**手順:**

1. サーバー構成プロファイルをテキスト・エディターで開きます。
2. 既に、Collector Serverをアーカイブと共に使用するために構成したときに、DESTINATION セクションおよびこのセクション内のいくつかのキーワードを指定しました。以下の表に、どのキーワードがどの接続タイプとタスクに必要とされるかを示します。不足しているキーワードを追加します。

接続またはタスク	必須キーワードおよび例の値を使用した DESTINATION セクション
RFC ディスパッチャーの数が 0 を超える場合の同期 RFC の呼び出しとコマンド	DESTINATION      KD7 PROGID            KD7.ICCSAP GWHOST            /H/sapserver GWSERV            sapgw00 LU                  sapserver TP                  sapdp00
RFC ディスパッチャーの数が 0 を超える場合の非同期 RFC の呼び出しとコマンド	DESTINATION      KD7 PROGID            KD7.ICCSAP GWHOST            /H/sapserver GWSERV            sapgw00 LU                  sapserver TP                  sapdp00 LOGICAL_SYSTEM   T90CLNT090 CLIENT             800 USER               CPICUser1
Collector Server が SAP ログオン・グループにログオンする場合、キーワード LU と TP は、キーワード MSHOST、R3NAME、および GROUP に置き換える必要があります。	DESTINATION      KD7 PROGID            KD7.ICCSAP GWHOST            /H/sapserver GWSERV            sapgw00 MSHOST            sapmsKD7 GROUP             myGroup R3NAME            KD7
バーコードの処理による文書のアーカイブおよびリンク。RFC ディスパッチャーの数は 0 です。  SAP ワークフローで文書ごとに作成される作業項目がある文書のアーカイブおよびリンク。RFC ディスパッチャーの数は 0 より大きくなる必要があります。	DESTINATION      KD7 GWHOST            /H/sapserver GWSERV            sapgw00 LOGICAL_SYSTEM   T90CLNT090 CLIENT             800 USER               CPICUser1

アルファベット順のキーワードの説明:

**CLIENT**

SAP クライアントの名前。このクライアントは、SAP で論理システムを定義したときに指定しました。

**GROUP**

SAP ログオン・グループの名前。

**GWHOST**

使用する SAP ゲートウェイのホスト名または IP アドレス。

**GWSERV**

使用する SAP ゲートウェイのサービスまたはポート番号。

**LOGICAL\_SYSTEM**

SAP クライアントに接続されている論理システムの名前。 SAP で論理システムを定義したときに、この名前を指定しました。

DESTINATION セクション内で複数の LOGICAL\_SYSTEM セクションを指定できます。各 LOGICAL\_SYSTEM セクションは、SAP クライアントへの接続を定義します。

**LU** SAP Application Server のホスト名または IP アドレス。

**MSHOST**

SAP Message Server のホスト名。

**PROGID**

ディスパッチャーが SAP ゲートウェイ・サーバーに登録される際のプログラム ID。このプログラム ID は、SAP で RFC 宛先を作成したときに指定しました。

注: RFC 宛先が SAP Document Finder によって使用される場合、SAP で指定したプログラム ID には番号 1 が付加されます。この番号を PROGID キーワードの一部として指定しないでください。例えば、SAP で DOCF.GIN.0D1 と指定した場合は、PROGID キーワードに DOCF.GIN.0D と指定します。

**R3NAME**

以下の ID のいずれか:

- SAP Application Server のグループが含まれている SAP システムの ID。
- SAP に文書をリンクする際に Collector Serverが接続する SAP システムの ID。

**TP** SAP Application Server のメッセージ・ディスパッチャーのサービスまたはポート番号。

**USER**

CPIC アクセス権限を持つユーザーの名前。この名前は、SAP で CPIC アクセス権限を持つユーザーを作成したときに指定しました。

3. サーバー構成プロファイルを保存します。

次の作業: 『Collector Server を初めて始動する』

---

## Collector Server を初めて始動する

Collector Serverを初めて始動する際には、特定の手順を実行する必要があります。

始める前に:

1. 139 ページの『第 19 章 Content Collector for SAP で使用するためにアーカイブを構成する』.
2. 178 ページの『Collector Serverと SAP の間の接続の構成』
3. FileNet P8 をアーカイブとして使用し、Content Engine Client Version 4.0 または 4.5.0 を Linux または UNIX システムにインストールした場合は、Collector Serverを始動するユーザーが Content Engine Client のインストール済み環境のディレクトリー `wsi/app_classpath` への書き込み権限を持っていることを確認してください。

**手順:**

1. 必要な場合、コマンド行を開いて、インスタンス・ディレクトリーに変更します。
2. 以下のコマンドを入力して、Collector Serverがアーカイブにアクセスできるようにします。

```
archpro -f serverpasswd
```

このコマンドは、初めて Collector Serverを始動する際に 1 回だけ指定する必要があります。

3. アーカイブ・ユーザーのパスワードを入力します。

このパスワードを変更したら、Collector Serverのログオン・パスワードも変更してください。

ログオン・サーバーおよびノードの名前を入力するようにプロンプトが出される場合もあります。

4. 以下のコマンドのいずれかを入力して、SAP にログオンします。
  - 特定の SAP クライアントにログオンするには、以下のコマンドを入力します。

```
archpro -f r3passwd user_name
```

*user\_name* は SAP クライアントへのアクセス権限を持っている CPIC ユーザーの名前を表します。指定した CPIC ユーザーのパスワードに対するプロンプトが出されます。

- サーバー構成プロファイルにリストされているすべての SAP クライアントにログオンする場合は、以下のコマンドを入力します。

```
archpro -f r3passwd
```

各 CPIC ユーザーのパスワードに対するプロンプトが出されます。

**注:**

- CPIC ユーザーに指定したとおりに正確にパスワードを入力します。
  - SAP パスワードを変更するたびに、このコマンドを入力する必要があります。
5. `archpro` を入力して、Collector Serverを始動します。

このコマンドおよび指定可能なパラメーターについては、455 ページの『`archpro`』を参照してください。



---

## Collector Serverの停止

いつでも Collector Server を停止できます。Collector Server は、すべてのジョブが終了するまで待ち、その後シャットダウンします。

### 手順:

1. Collector Serverがインストールされているオペレーティング・システムでコマンド行を開きます。
2. 停止するサーバー・インスタンスのインスタンス・ディレクトリーに移動します。Collector Serverのインスタンスを 1 つだけ使用する場合、これは `archint.ini` ファイルが含まれているディレクトリーです。
3. 以下のコマンドを入力します。

```
archstop
```

`archpro` プログラムは、**archstop** コマンドを受信すると、最初にすべての子プロセスを停止してから、プログラム自体を停止します。

このコマンドおよび指定可能なパラメーターについては、459 ページの『archstop』を参照してください。



---

## 第 21 章 Archiving Client の構成

着信文書をアーカイブする必要がある場合は、Archiving Client を構成します。また、Content Manager Enterprise Edition に保管されているスキャン対象の文書を SAP にリンクする必要がある場合にも、このクライアントを構成します。

### 始める前に:

1. クライアント・パッケージから Archiving Client をインストールします。詳しくは、105 ページの『コンソール・モードまたは GUI モードでのクライアント・パッケージのインストール』を参照してください。
2. 139 ページの『第 19 章 Content Collector for SAP で使用するためにアーカイブを構成する』。
3. 159 ページの『第 20 章 Collector Serverの構成』。

「スタート」 > 「すべてのプログラム」 > 「IBM Content Collector for SAP Applications」 > 「Archiving Client」をクリックして、Archiving Client を始動します。

Archiving Client を初めて起動する際には、「セットアップ」ウィンドウが開きます。それ以外の場合、「IBM Content Collector for SAP Applications - Archiving Client」ウィンドウが開きます。

### 手順:

1. 『Archiving Client のセットアップ』
2. 200 ページの『キューの管理』
3. オプション: 同じ設定の 215 ページの『他のコンピューターへの Archiving Client とその設定の配布』を複数のコンピューターに配置する必要がある場合は Archiving Client
4. 215 ページの『Collector Serverで Archiving Client を使用できるようにする』

---

## Archiving Client のセットアップ

Archiving Client を初めて始動するときに、それぞれの環境や好みに応じて設定を変更する必要があります。初期のセットアップは必須です。

「IBM Content Collector for SAP Applications - Archiving Client」ウィンドウで、「セットアップ」 > 「セットアップの実行」をクリックします。「セットアップ」ウィンドウが開きます。

### 手順:

1. 196 ページの『Collector Serverへの接続の定義』
2. 197 ページの『一時ファイルのディレクトリーの指定』
3. 197 ページの『キューのモジュールのロード』
4. 197 ページの『バッチ・ジョブのバーコードの数の指定』

5. 198 ページの『キューの文書フォーマットを SAP に送信する操作』
6. オプション: 198 ページの『Archiving Client のロギングとトレースの機能を有効にする』
7. 199 ページの『Archiving Client のセットアップの完了』

## Collector Serverへの接続の定義

文書をアーカイブに保存するために使用する Collector Serverに Archiving Client を接続する必要があります。

自動処理機能を有効にした場合は、「IBM Content Collector for SAP Applications - Archiving Client」ウィンドウで、「自動処理」 > 「停止」をクリックして、その機能を無効にします。

「セットアップ」ウィンドウの「優先サーバー接続」の下で、以下の情報を指定します。

1. 「アーカイブ・ホスト/IP アドレス」フィールドに、Collector Serverのホスト名または IP アドレスを入力します。

Collector Serverと Archiving Client が同じコンピューターにインストールされていない環境でホスト名を指定する場合は、myhost.yourserver.com のような完全修飾ホスト名を使用してください。あるいはリモート・ホストの IP アドレスを使用します。デフォルト値は、Internet Protocol バージョン 4 (IPv4) では 127.0.0.1、Internet Protocol バージョン 6 (IPv6) では ::1 です。これはローカル・ホストを指します。

2. 「ポート」フィールドに、すべての Content Collector for SAP クライアントによって Collector Server への接続に使用される TCP/IP 登録ポートを入力します。サーバー構成プロファイルの ARCHPRO\_PORT キーワードに指定したポート番号を使用します。

例えば、以下のように入力します。

5500

3. 「テスト」をクリックして、Archiving Client と指定の Collector Serverの間に接続を確立できるかどうかを確認します。テスト結果がボタンの右に表示されます。エラーが発生すると、エラーの説明が別のウィンドウに表示されます。

Archiving Client が指定の Collector Serverに接続できた場合は、接続状況が「OK」に設定され、緑の丸印が表示されます。さらに、「Web ポート」フィールドに、サーバー構成プロファイルの WEBPORT キーワードの値として設定されているポートが表示されます。

接続を確立できなかった場合は、接続状況が「失敗」に設定され、赤の十字印が表示されます。

### 次の作業:

- 自動処理を停止しなければならなかった場合は、「IBM Content Collector for SAP Applications - Archiving Client」ウィンドウで、「自動処理」 > 「使用可能」をクリックして、再度その機能を有効にします。
- 197 ページの『一時ファイルのディレクトリーの指定』。

## 一時ファイルのディレクトリーの指定

デフォルトでは、Archiving Client は、一時ファイルをインストール・ディレクトリーに格納します。別のディレクトリーを指定することもできます。

「セットアップ」ウィンドウの「作業パス」の下で、以下の情報を指定します。

Archiving Client が一時ファイルを格納するディレクトリーの絶対パスを指定します。

例えば、以下のように入力します。

C:\Program Files\IBM\ICCSAP\ArchivingClient\

次の作業: 『キューのモジュールのロード』

## キューのモジュールのロード

Archiving Client は、アーカイブされるスキャン対象の文書をキューから収集します。使用できるキューのタイプは、ご使用のスキャン・アプリケーションによって異なります。キューのタイプごとにソフトウェア・モジュールをロードする必要があります。

「セットアップ」ウィンドウの「モジュール」の下で、以下の情報を指定します。

- スキャン・アプリケーションがスキャン対象の文書を Content Manager のワーク・バスケットに格納する場合は、「CM キュー」チェック・ボックスを選択します。
- スキャン・アプリケーションがスキャン対象の文書をファイル・システムに格納する場合は、「ディレクトリー・キュー」チェック・ボックスを選択します。
- スキャン・アプリケーションがスキャン対象の文書をファイル・システムに格納し、説明ファイルを作成する場合は、「ファイル・キュー」チェック・ボックスを選択します。

次の作業: 『バッチ・ジョブのバーコードの数の指定』

## バッチ・ジョブのバーコードの数の指定

文書のバーコードを処理することによって複数の文書がリンクされることになっている場合は、バーコードを 1 つずつ送信する代わりに、1 つのバッチ・ジョブで最大 50 までのバーコードを送信することにより、パフォーマンスを高めることができます。

**注:** バッチ・ジョブで処理している文書のいずれかがリンクできなかった場合は、そのバッチ・ジョブ全体について 1 つの戻りコードが戻されます。戻りコードは、処理された文書ごとに戻されるものではありません。

「セットアップ」ウィンドウの「バーコード」の下で、以下の情報を指定します。

「1 回のバッチで送信されるバーコード数」フィールドで、矢印をクリックして、一緒に送信するバーコードの数を選択します。1 から 50 までの数値を入力することもできます。

例えば、以下のように入力します。

50

次の作業: 『キューの文書フォーマットを SAP に送信する操作』

## キューの文書フォーマットを SAP に送信する操作

アーカイブに保存した文書をアーカイブ・フォーマットで表示するには、Collector Server から文書フォーマットを SAP に送信する機能を有効にする必要があります。有効にしない場合、文書は FAX フォーマットで表示されます。文書のキューの作成時に、文書フォーマットを指定できます。

「セットアップ」ウィンドウの「**SAP に送信される文書フォーマット**」の下で、以下の情報を指定します。

文書を FAX 以外のフォーマットでアーカイブする場合は、「**キュー・セットアップの構成と同じ (未チェックの FAX の送信時)**」 チェック・ボックスを選択します。この場合、キューの作成時に指定する文書フォーマットが SAP に送信されません。

このチェック・ボックスを選択する場合、SAP が、アーカイブ済み文書の文書フォーマットを認識するビューアー・アプリケーションを使用できる状態になっていない限りなりません。

次の作業: 『Archiving Client のロギングとトレースの機能を有効にする』

## Archiving Client のロギングとトレースの機能を有効にする

Archiving Client のアクティビティをログ・ファイルとトレースに記録する機能を有効にできます。ロギングを有効にできるのは、一般的なログ・ファイル、Archiving Client と Collector Serverの間の通信に関する情報を記録するログ・ファイル、およびエラー・リカバリーのためのトレースの場合です。さらに、ログ・ファイルとトレースの格納場所を指定することもできます。

しかし、ロギングおよびトレースは Content Collector for SAP のパフォーマンスに影響を与えることに注意してください。

可能であれば、すべてのログ・ファイルとトレースのパスとして、一時ファイルを格納する場所のパスを使用してください。

「セットアップ」ウィンドウの「**ロギングおよびトレース**」の下で、以下の情報を指定します。

### 手順:

- 一般的なロギングを有効にするには、以下の手順を実行します。
  - 「**ログ・ファイル**」フィールドの横にある「**使用可能**」チェック・ボックスを選択します。
  - 「**ログ・ファイル**」フィールドで、ログ・ファイルの絶対パスを指定します。自分で選択したパスを指定できます。

例えば、以下のように入力します。

```
C:%Program Files%IBM%ICCSAP%ArchivingClient%ICCSAP_AC.log
```

- Archiving Client と Collector Serverの間の通信に関する情報を記録するには、以下の手順を実行します。

1. 「API トレース・ファイル」フィールドの横にある「使用可能」チェック・ボックスを選択します。
2. 「API トレース・ファイル」フィールドで、トレースの絶対パスを指定します。自分で選択したパスを指定できます。

例えば、以下のように入力します。

C:\Program Files\IBM\ICCSAP\ArchivingClient\ICCSAP\_ClientAPI.trc

- Archiving Client のアクティビティに関する詳細を収集するには、以下の手順を実行します。

1. 「クライアント・トレース・ファイル」フィールドの横にある「使用可能」チェック・ボックスを選択します。
2. 「クライアント・トレース・ファイル」フィールドで、トレースの絶対パスを指定します。自分で選択したパスを指定できます。

例えば、以下のように入力します。

C:\Program Files\IBM\ICCSAP\ArchivingClient\ICCSAP\_AC.trc

3. 「ファイルの最大サイズ」フィールドで、矢印をクリックして、トレースの最大サイズ (KB 単位) を選択します。最大で 10240 KB までの数値を指定できます。トレースがその制限値を超えると、最も古い情報が上書きされます。

例えば、以下のように入力します。

300

4. Archiving Client を始動するたびに既存のトレースを削除する場合は、「トレース・ファイルのクリア」チェック・ボックスを選択します。

注: このチェック・ボックスを選択すると、同じエラーが繰り返される場合に、エラー・リカバリーに関する貴重な情報が失われる可能性があります。

次の作業: 『Archiving Client のセットアップの完了』

## Archiving Client のセットアップの完了

「OK」をクリックして、構成を検証します。設定が正しければ、設定が保存されます。

「IBM Content Collector for SAP Applications - Archiving Client」に戻りました。ウィンドウの右下隅に、Collector Serverへの接続が確立されたことを示す、緑の丸印が表示されます。

次の作業:

- 「IBM Content Collector for SAP Applications - Archiving Client」ウィンドウで、「セットアップ」 > 「セットアップの実行」をクリックすれば、いつでも再びセットアップを変更できます。自動処理を有効にした後に、サーバー接続を変更することを決めた場合は、まず「IBM Content Collector for SAP Applications - Archiving Client」ウィンドウで、「自動処理」 > 「停止」をクリックして、自動処理機能を無効にすることを忘れないでください。
- 200 ページの『キューの作成』.

## キューの管理

キューとは、共通のプロパティを持つスキャン対象の文書のコンテナのことです。Archiving Client は、キューからスキャン対象の文書を収集して、アーカイブまたは SAP に格納します。

例えば、特定のコンテンツ (送り状など) の文書、特定のフォーマット (GIF など) の文書、同じアーカイブに格納する文書などに合わせて、それぞれのキューを作成できます。キュー・タイプは、使用するスキャン・アプリケーションによって決まります。

キューの作成、キューのプロパティの表示と変更、スキャン対象の文書をキューにインポートする操作、キューから文書を削除する操作を実行できます。これらのタスクを Archiving Client で実行できます。Archiving Client を始動するには、以下のようにします。

手順:

「スタート」 > 「すべてのプログラム」 > 「IBM Content Collector for SAP Applications」 > 「Archiving Client」をクリックします。

「IBM Content Collector for SAP Applications - Archiving Client」ウィンドウが開きます。

## キューの作成

共通のプロパティを持つ文書のキューを作成します。

始める前に:

- 自動処理機能を有効にした場合は、「IBM Content Collector for SAP Applications - Archiving Client」ウィンドウで、「自動処理」 > 「停止」をクリックして、その機能を無効にします。
- 195 ページの『Archiving Client のセットアップ』。

「IBM Content Collector for SAP Applications - Archiving Client」ウィンドウで、「キュー」 > 「新規キュー」をクリックします。「キュー」ウィンドウが開きます。

以下のうち少なくとも 1 つのキューを作成してください。

- 『スキャン対象の文書が Content Manager ワーク・バスケットにある場合のキューの作成』
- 204 ページの『スキャン対象の文書がファイル・システム内にある場合のキューの作成』
- 207 ページの『スキャン対象の文書がファイル・システムにあり、説明ファイルが存在する場合にキューを作成する』

### スキャン対象の文書が Content Manager ワーク・バスケットにある場合のキューの作成

スキャン・アプリケーションがスキャン対象の文書を Content Manager ワーク・バスケットに保管する場合は、CM キュー・タイプのキューを作成します。Archiving



Client は、このワーク・バスケットからスキャン対象の文書を収集します。バーコードは、文書の属性として定義されます。

**始める前に:** 285 ページの『ターゲット項目タイプと Content Manager ワークフロー用に Collector Serverを使用可能にする』

**手順:**

1. 『CM キュー・タイプのキューに関する詳細の指定』
2. 『Collector Serverへの接続の定義』
3. 202 ページの『論理アーカイブへのキューの接続』
4. 203 ページの『Content Manager ワーク・バスケットの詳細の指定』
5. 203 ページの『CM キュー・タイプのキューの作成を完了する』

**CM キュー・タイプのキューに関する詳細の指定:**

作成するキューに関する詳細を指定する必要があります。

「キュー」ウィンドウで以下の情報を指定します。

**手順:**

1. 「キュー・タイプ」リストから、「**CM キュー**」を選択します。
2. 「**キュー名**」フィールドに、キューの名前を入力します。

例えば、以下のように入力します。

my\_cmqueue

3. 「**文書フォーマット**」リストで、SAP 文書フォーマットを選択します。

例えば、「**FAX**」を選択します。

選択可能な文書フォーマットは、Archiving Client インストール・システムのディレクトリーにある、csdoctypes.ini ファイルにリストされています。必要な文書フォーマットがそのファイルに含まれていない場合は、その文書フォーマットを csdoctypes.ini ファイルに追加する必要があります。詳しくは、214 ページの『SAP 文書フォーマットの追加または削除』を参照してください。

FAX 以外の文書フォーマットを選択する場合は、「セットアップ」ウィンドウで「**キュー・セットアップの構成と同じ (未チェックの FAX の送信時)**」チェック・ボックスが必ず選択されていなければなりません。このチェック・ボックスが選択されている場合に限り、ここで指定する文書フォーマットが、文書のアーカイブ時に SAP に送信されます。選択されていない場合、文書フォーマット FAX が SAP に送信されます。SAP は、その文書フォーマットを使用して、アーカイブ文書に対応するビューアー・アプリケーションを開きます。

4. 「**次へ**」をクリックして、キューを Collector Serverに接続します。

**次の作業:** 『Collector Serverへの接続の定義』

**Collector Serverへの接続の定義:**

キューの接続先は、デフォルトでは、「セットアップ」ウィンドウで優先Collector Serverとして指定されている Collector Serverになります。ただし、キューを別の Collector Serverに接続することも可能です。

**始める前に:** 201 ページの『CM キュー・タイプのキューに関する詳細の指定』

「接続プロパティ」ウィンドウで、以下の情報を指定します。

**手順:**

1. 既存のサーバー接続を使用するか、サーバー接続を作成します。

- 既存のサーバー接続を使用する場合は、「**使用可能な接続**」の下で対象のサーバー接続をクリックします。

サーバー接続の詳細が上の各フィールドに表示されます。

- サーバー接続を作成する場合は、以下の手順を実行します。

- a. 「**アーカイブ・ホスト/IP アドレス**」フィールドに、Collector Serverのホスト名または IP アドレスを入力します。

Collector Serverと Archiving Client が同じコンピューターにインストールされていない環境でホスト名を指定する場合は、`myhost.yourserver.com` のような完全修飾ホスト名を使用してください。あるいはリモート・ホストの IP アドレスを使用します。デフォルト値は、Internet Protocol バージョン 4 (IPv4) では `127.0.0.1`、Internet Protocol バージョン 6 (IPv6) では `::1` です。これはローカル・ホストを指します。

この例では、デフォルト値にしておきます。

- b. 「**ポート**」フィールドに、すべての Content Collector for SAP クライアントが使用する TCP/IP 登録ポートを入力します。サーバー構成プロファイルの `ARCHPRO_PORT` キーワードに指定したポート番号を使用します。

例えば、以下のように入力します。

5500

- c. 「**WebPort**」フィールドで、HTTP ディスパッチャーがその要求の取得に使用する TCP/IP ポートを指定します。このポートは、サーバー構成プロファイルの `WEBPORT` キーワードの値に一致していなければなりません。

例えば、以下のように入力します。

5580

2. 「**次へ**」をクリックして、キューを論理アーカイブに接続します。

**次の作業:** 『論理アーカイブへのキューの接続』

**論理アーカイブへのキューの接続:**

サーバー構成プロファイルと SAP で既に定義されている論理アーカイブにキューを接続する必要があります。

**始める前に:** 201 ページの『Collector Serverへの接続の定義』

「論理アーカイブ」ウィンドウで、以下の情報を指定します。

**手順:**

1. 「**SAP アーカイブ**」フィールドで、論理アーカイブ ID を指定します。サーバー構成プロファイルの ARCHIVE キーワードで指定した ID (SAP でコンテンツ・リポジトリまたは論理アーカイブを作成したときに指定した ID) を使用します。

例えば、「**A1**」を選択します。

2. アーカイブ操作の実行時に、Object Linking and Embedding (OLE) 要求によって送信されたアーカイブ ID が、指定されている論理アーカイブ ID と一致するかどうかを Content Collector for SAP でチェックする場合は、「**アーカイブの一致をチェック**」チェック・ボックスを選択します。

この例では、チェック・ボックスを選択します。

3. 「**次へ**」をクリックして、選択したキュー・タイプに関する情報を指定します。

**次の作業:** 『Content Manager ワーク・バスケットの詳細の指定』

**Content Manager ワーク・バスケットの詳細の指定:**

Archiving Client がスキャン対象の文書を収集する場所となる Content Manager ワーク・バスケットの詳細を指定する必要があります。

「Content Manager キュー」ウィンドウで、以下の情報を指定します。

**手順:**

1. 「**ワークバスケット**」フィールドに、サーバー構成プロファイルの WORKLIST\_SCAN キーワードで指定されているワーク・バスケットが表示されます。別のワーク・バスケットを使用する場合は、WORKLIST\_SCAN キーワードの値を変更する必要があります。
2. 「**最大項目数**」フィールドに、ワーク・バスケットからキューに 1 回の操作でインポートする文書の最大数を入力します。

例えば、以下のように入力します。

50

3. ワーク・バスケットの属性に格納されている情報をインポートする場合は、「**属性のリトリブ**」チェック・ボックスを選択します。Content Collector for SAP によって、属性情報もアーカイブに保存されます。通常、スキャン日付やバーコードなどの情報はワーク・バスケットの属性に格納されているので、このオプションは便利です。ただし、このオプションを選択すると、Content Collector for SAP のパフォーマンスが低下することに注意してください。
4. 「**次へ**」をクリックします。

**次の作業:** 『CM キュー・タイプのキューの作成を完了する』

**CM キュー・タイプのキューの作成を完了する:**

「完了」をクリックして、キューを作成します。

「IBM Content Collector for SAP Applications - Archiving Client」ウィンドウに戻りました。そのキューは、ナビゲーション・ペインに表示され、使用可能な状態になります。

#### 次の作業:

- 自動処理を停止しなければならなかった場合は、「IBM Content Collector for SAP Applications - Archiving Client」ウィンドウで、「自動処理」 > 「使用可能」をクリックして、再度その機能を有効にします。
- 212 ページの『キュー情報の保存と再利用』。

## スキャン対象の文書がファイル・システム内にある場合のキューの作成

スキャン・アプリケーションがスキャン対象の文書をファイル・システム内に保管する場合は、ディレクトリー・キュー・タイプのキューを作成します。Archiving Client は、ファイル・システムからスキャン対象の文書を収集します。また、スキャン対象の文書のファイル名をバーコードとして使用できます。

#### 手順:

1. 『ディレクトリー・キュー・タイプのキューに関する詳細を指定する』
2. 205 ページの『Collector Serverへの接続の定義』
3. 206 ページの『論理アーカイブへのキューの接続』
4. 206 ページの『ディレクトリーの詳細の指定』
5. 207 ページの『ディレクトリー・キュー・タイプのキューの作成を完了する』

#### ディレクトリー・キュー・タイプのキューに関する詳細を指定する:

作成するキューの詳細を指定する必要があります。

「キュー」ウィンドウで以下の情報を指定します。

#### 手順:

1. 「キュー・タイプ」リストから、「ディレクトリー・キュー」を選択します。
2. 「キュー名」フィールドに、キューの名前を入力します。

例えば、以下のように入力します。

```
my_dirqueue
```

3. 「文書フォーマット」リストで、SAP 文書フォーマットを選択します。

例えば、「FAX」を選択します。

選択可能な文書フォーマットは、Archiving Client インストール・システムのディレクトリーにある、csdoctypes.ini ファイルにリストされています。必要な文書フォーマットがそのファイルに含まれていない場合は、その文書フォーマットを csdoctypes.ini ファイルに追加する必要があります。詳しくは、214 ページの『SAP 文書フォーマットの追加または削除』を参照してください。

FAX 以外の文書フォーマットを選択する場合は、「セットアップ」ウィンドウで「キュー・セットアップの構成と同じ (未チェックの FAX の送信時)」チェック・ボックスが必ず選択されていなければなりません。このチェック・ボック

スが選択されている場合に限り、ここで指定する文書フォーマットが、文書のアーカイブ時に SAP に送信されます。選択されていない場合、文書フォーマット FAX が SAP に送信されます。SAP は、その文書フォーマットを使用して、アーカイブ文書に対応するビューアー・アプリケーションを開きます。

4. SAP ワークフローで作業項目を作成することによって文書をアーカイブすることを計画している場合は、ワークフローに関連付ける文書タイプを SAP 側に知らせる必要があります。そのために、「**文書タイプ**」フィールドに文書タイプを入力します。着信文書のアーカイブのための環境を後から構成する場合は、適合する文書タイプを SAP で作成し、ワークフローの文書タイプとしてその文書タイプを有効にする必要があります。

例えば、以下のように入力します。

FIIINVOICE

5. 「次へ」をクリックして、キューを Collector Serverに接続します。

次の作業: 『Collector Serverへの接続の定義』

#### Collector Serverへの接続の定義:

キューの接続先は、デフォルトでは、「セットアップ」ウィンドウで優先Collector Serverとして指定されている Collector Serverになります。ただし、キューを別の Collector Serverに接続することも可能です。

**始める前に:** 204 ページの『ディレクトリー・キュー・タイプのキューに関する詳細を指定する』

「接続プロパティ」ウィンドウで、以下の情報を指定します。

#### 手順:

1. 既存のサーバー接続を使用するか、サーバー接続を作成します。
  - 既存のサーバー接続を使用する場合は、「**使用可能な接続**」の下で対象のサーバー接続をクリックします。

サーバー接続の詳細が上の各フィールドに表示されます。

- サーバー接続を作成する場合は、以下の手順を実行します。
  - a. 「**アーカイブ・ホスト/IP アドレス**」フィールドに、Collector Serverのホスト名または IP アドレスを入力します。

Collector Serverと Archiving Client が同じコンピューターにインストールされていない環境でホスト名を指定する場合は、`myhost.yourserver.com` のような完全修飾ホスト名を使用してください。あるいはリモート・ホストの IP アドレスを使用します。デフォルト値は、Internet Protocol バージョン 4 (IPv4) では `127.0.0.1`、Internet Protocol バージョン 6 (IPv6) では `::1` です。これはローカル・ホストを指します。

この例では、デフォルト値にしておきます。

- b. 「**ポート**」フィールドに、すべての Content Collector for SAP クライアントが使用する TCP/IP 登録ポートを入力します。サーバー構成プロファイルの `ARCHPRO_PORT` キーワードに指定したポート番号を使用します。

例えば、以下のように入力します。

5500

- c. 「**WebPort**」 フィールドで、HTTP ディスパッチャーがその要求の取得に使用する TCP/IP ポートを指定します。このポートは、サーバー構成プロファイルの **WEBPORT** キーワードの値に一致していなければなりません。

例えば、以下のように入力します。

5580

2. 「次へ」をクリックして、キューを論理アーカイブに接続します。

次の作業: 『論理アーカイブへのキューの接続』

#### 論理アーカイブへのキューの接続:

サーバー構成プロファイルと SAP で既に定義されている論理アーカイブにキューを接続する必要があります。

始める前に: 205 ページの 『Collector Serverへの接続の定義』

「論理アーカイブ」ウィンドウで、以下の情報を指定します。

#### 手順:

1. 「**SAP アーカイブ**」フィールドで、論理アーカイブ ID を指定します。サーバー構成プロファイルの **ARCHIVE** キーワードで指定した ID (SAP でコンテンツ・リポジトリまたは論理アーカイブを作成したときに指定した ID) を使用します。

例えば、「**A1**」を選択します。

2. アーカイブ操作の実行時に、Object Linking and Embedding (OLE) 要求によって送信されたアーカイブ ID が、指定されている論理アーカイブ ID と一致するかどうかを Content Collector for SAP でチェックする場合は、「**アーカイブの一致をチェック**」チェック・ボックスを選択します。

この例では、チェック・ボックスを選択します。

3. 「次へ」をクリックして、選択したキュー・タイプに関する情報を指定します。

次の作業: 『ディレクトリーの詳細の指定』

#### ディレクトリーの詳細の指定:

スキャン・アプリケーションがスキャン対象の文書を格納するディレクトリーを指定する必要があります。

「ディレクトリー・キュー」ウィンドウで以下の情報を指定します。

#### 手順:

1. 「**パス名**」フィールドで、スキャン対象の文書が含まれているディレクトリーの絶対パスを指定します。

例えば、以下のように入力します。

C:\Program Files\IBM\ICCSAP\ArchivingClient\queues\dir\

2. 「ファイル名をバーコードとして使用」チェック・ボックスが選択されていることを確認します。アーカイブ操作の実行時に、Content Collector for SAP は、スキャン対象の文書のファイル名をバーコードとして SAP に送信します。このチェック・ボックスをクリアした状態のままにしておくと、アーカイブに保存する文書を SAP ビジネス・オブジェクトにリンクできないので、エラー・メッセージを受け取るようになります。
3. 「次へ」をクリックします。

次の作業: 『ディレクトリー・キュー・タイプのキューの作成を完了する』

**ディレクトリー・キュー・タイプのキューの作成を完了する:**

「完了」をクリックして、キューを作成します。

「IBM Content Collector for SAP Applications - Archiving Client」ウィンドウに戻りました。そのキューは、ナビゲーション・ペインに表示され、使用可能な状態になります。

次の作業:

- 自動処理を停止しなければならなかった場合は、「IBM Content Collector for SAP Applications - Archiving Client」ウィンドウで、「自動処理」 > 「使用可能」をクリックして、再度その機能を有効にします。
- 212 ページの『キュー情報の保存と再利用』。

## **スキャン対象の文書がファイル・システムにあり、説明ファイルが存在する場合にキューを作成する**

スキャン・アプリケーションがスキャン対象の文書をファイル・システムに格納し、説明ファイルを作成する場合は、「ファイル・キュー」タイプのキューを作成します。その説明ファイルには、スキャン対象の各文書の項目が含まれています。

Archiving Client は、説明ファイル内に対応する項目が存在する文書のみを格納します。各項目には、スキャン対象の文書のファイル名が含まれている必要があります。文書のバーコードを処理する場合、項目にはバーコードも含まれている必要があります。項目に文書の追加属性が含まれている場合、Archiving Client は文書と一緒にそれらを格納できます。

手順:

1. 『「ファイル・キュー」タイプのキューに関する詳細の指定』
2. 208 ページの『Collector Serverへの接続の定義』
3. 209 ページの『論理アーカイブへのキューの接続』
4. 210 ページの『ディレクトリーおよび説明ファイルの詳細の指定』
- 5.
6. 212 ページの『「ファイル・キュー」タイプのキューの作成を完了する』

**「ファイル・キュー」タイプのキューに関する詳細の指定:**

作成するキューの詳細を指定する必要があります。

「キュー」ウィンドウで以下の情報を指定します。

手順:

1. 「**キュー・タイプ**」リストから、「**ファイル・キュー**」を選択します。
2. 「**キュー名**」フィールドに、キューの名前を入力します。

例えば、以下のように入力します。

my\_filequeue

3. 「**文書フォーマット**」リストで、**SAP 文書フォーマット**を選択します。

例えば、「**FAX**」を選択します。

選択可能な文書フォーマットは、Archiving Client インストール・システムのディレクトリーにある、csdoctypes.ini ファイルにリストされています。必要な文書フォーマットがそのファイルに含まれていない場合は、その文書フォーマットを csdoctypes.ini ファイルに追加する必要があります。詳しくは、214 ページの『SAP 文書フォーマットの追加または削除』を参照してください。

FAX 以外の文書フォーマットを選択する場合は、「**セットアップ**」ウィンドウで「**キュー・セットアップの構成と同じ (未チェックの FAX の送信時)**」チェック・ボックスが必ず選択されていなければなりません。このチェック・ボックスが選択されている場合に限り、ここで指定する文書フォーマットが、文書のアーカイブ時に SAP に送信されます。選択されていない場合、文書フォーマット FAX が SAP に送信されます。SAP は、その文書フォーマットを使用して、アーカイブ文書に対応するビューアー・アプリケーションを開きます。

4. SAP ワークフローで作業項目を作成することによって文書をアーカイブすることを計画している場合は、ワークフローに関連付ける文書タイプを SAP 側に知らせる必要があります。そのために、「**文書タイプ**」フィールドに文書タイプを入力します。着信文書のアーカイブのための環境を後から構成する場合は、適合する文書タイプを SAP で作成し、ワークフローの文書タイプとしてその文書タイプを有効にする必要があります。

例えば、以下のように入力します。

FIIINVOICE

5. 「**次へ**」をクリックして、キューを Collector Serverに接続します。

次の作業: 『Collector Serverへの接続の定義』

**Collector Serverへの接続の定義:**

キューの接続先は、デフォルトでは、「**セットアップ**」ウィンドウで優先Collector Serverとして指定されている Collector Serverになります。ただし、キューを別の Collector Serverに接続することも可能です。

**始める前に:** 207 ページの『「ファイル・キュー」タイプのキューに関する詳細の指定』

「**接続プロパティ**」ウィンドウで、以下の情報を指定します。



### 手順:

1. 既存のサーバー接続を使用するか、サーバー接続を作成します。

- 既存のサーバー接続を使用する場合は、「**使用可能な接続**」の下で対象のサーバー接続をクリックします。

サーバー接続の詳細が上の各フィールドに表示されます。

- サーバー接続を作成する場合は、以下の手順を実行します。
  - a. 「**アーカイブ・ホスト/IP アドレス**」フィールドに、Collector Serverのホスト名または IP アドレスを入力します。

Collector Serverと Archiving Client が同じコンピューターにインストールされていない環境でホスト名を指定する場合は、`myhost.yourserver.com` のような完全修飾ホスト名を使用してください。あるいはリモート・ホストの IP アドレスを使用します。デフォルト値は、Internet Protocol バージョン 4 (IPv4) では `127.0.0.1`、Internet Protocol バージョン 6 (IPv6) では `::1` です。これはローカル・ホストを指します。

この例では、デフォルト値にしておきます。

- b. 「**ポート**」フィールドに、すべての Content Collector for SAP クライアントが使用する TCP/IP 登録ポートを入力します。サーバー構成プロファイルの `ARCHPRO_PORT` キーワードに指定したポート番号を使用します。

例えば、以下のように入力します。

5500

- c. 「**WebPort**」フィールドで、HTTP デイスパッチャーがその要求の取得に使用する TCP/IP ポートを指定します。このポートは、サーバー構成プロファイルの `WEBPORT` キーワードの値に一致していなければなりません。

例えば、以下のように入力します。

5580

2. 「**次へ**」をクリックして、キューを論理アーカイブに接続します。

次の作業: 『論理アーカイブへのキューの接続』

#### 論理アーカイブへのキューの接続:

サーバー構成プロファイルと SAP で既に定義されている論理アーカイブにキューを接続する必要があります。

始める前に: 208 ページの『Collector Serverへの接続の定義』

「論理アーカイブ」ウィンドウで、以下の情報を指定します。

### 手順:

1. 「**SAP アーカイブ**」フィールドで、論理アーカイブ ID を指定します。サーバー構成プロファイルの `ARCHIVE` キーワードで指定した ID (SAP でコンテンツ・リポジトリまたは論理アーカイブを作成したときに指定した ID) を使用します。

例えば、「A1」を選択します。

2. アーカイブ操作の実行時に、Object Linking and Embedding (OLE) 要求によって送信されたアーカイブ ID が、指定されている論理アーカイブ ID と一致するかどうかを Content Collector for SAP でチェックする場合は、「アーカイブの一致をチェック」チェック・ボックスを選択します。

この例では、チェック・ボックスを選択します。

3. 「次へ」をクリックして、選択したキュー・タイプに関する情報を指定します。

**次の作業:** 『ディレクトリーおよび説明ファイルの詳細の指定』

#### ディレクトリーおよび説明ファイルの詳細の指定:

スキャン・アプリケーションがスキャン対象の文書を格納するディレクトリーを指定する必要があります。さらに、スキャン・アプリケーションが作成する説明ファイルの詳細を指定する必要があります。

**始める前に:** 209 ページの『論理アーカイブへのキューの接続』

説明ファイルには、スキャン対象の各文書の項目が含まれています。文書を SAP ビジネス・オブジェクトにリンクするために Archiving Client で使用できる項目は、以下の例のような可能性があります。

```
"OCR capture","Barcode","246148","C:¥Program Files¥IBM¥ICCSAP¥ArchivingClient¥queues¥file¥order.tiff","myclient","12345","order","11/07/31","2012"
```

文書の各属性値を囲む二重引用符が各属性値の開始と終了のマークになっています。246148 はバーコードの例であり、C:¥Program Files¥IBM¥ICCSAP¥ArchivingClient¥queues¥file¥order.tiff はスキャン対象の文書の絶対パスの例です。両方の属性が必須です。myclient や order などのその他の属性はオプションです。文書が見つけやすくなるように、オプションの属性を文書と一緒に格納できます。

「ファイル・キュー」ウィンドウで以下の情報を指定します。

#### 手順:

1. 「説明ファイルのパス名」フィールドで、説明ファイルが含まれているディレクトリーの絶対パスを指定します。

例えば、以下のように入力します。

```
C:¥Program Files¥IBM¥ICCSAP¥ArchivingClient¥queues¥file¥
```

2. 「説明ファイルの拡張子」フィールドに、説明ファイルの拡張子を入力します。

例えば、以下のように入力します。

```
txt
```

3. 「ファイル列」フィールドに、スキャン対象の各文書のファイル名が含まれている説明ファイル内の列の番号を入力します。

説明ファイルの例では、ファイル名は 4 番目の列です。したがって、「ファイル列」フィールドに 4 を入力します。

4. 「バーコード列」フィールドに、スキャン対象の各文書のバーコードが含まれている説明ファイル内の列の番号を入力します。

説明ファイルの例では、バーコードは 3 番目の列にあります。したがって、「バーコード列」フィールドに 3 を入力します。

5. 「次へ」をクリックして、各文書の説明ファイルにリストされ、文書と共に格納される属性を選択します。

**次の作業:** 文書の格納先に応じて、以下のいずれかのタスクを使用して続行します。

- 文書が Content Manager Enterprise Edition、Content Manager OnDemand、FileNet P8、または SAP に格納される場合は、『文書と一緒に格納する属性の指定』を使用して続行します。
- 文書が Tivoli Storage Manager に格納される場合は、212 ページの『「ファイル・キュー」タイプのキューの作成を完了する』を使用して続行します。

#### 文書と一緒に格納する属性の指定:

アーカイブに文書と一緒に格納するか、または SAP に送信する属性を指定できます。その属性は、アーカイブに保存した文書を後で検索するときに使用できます。

#### 始める前に:

- 文書の格納先は、Content Manager Enterprise Edition、Content Manager OnDemand、FileNet P8、SAP のいずれかです。
- スキャン・アプリケーションは、ここで追加する属性の値を作成できます。
- 210 ページの『ディレクトリーおよび説明ファイルの詳細の指定』

スキャン・アプリケーションによって作成される説明ファイルには、スキャン対象の文書の属性値が組み込まれます。それらの値と文書と一緒に格納できるようにするには、キューの属性を指定して、説明ファイル内での各属性値の位置を指定する必要があります。

「カスタム属性」ウィンドウには、アーカイブで既に定義されている属性のリストが表示されます。

「列」列には、説明ファイル内の属性値の位置が表示されます。属性に複数の値がある場合は、それらの値がコンマで区切られた状態で表示されます。「ターゲット」列には、属性の格納先に応じて、「アーカイブ」または「SAP」が表示されません。

属性のリストに Content Collector for SAP のシステム属性は組み込まれません。システム属性は、Collector Serverによって自動的に取り込まれます。

属性を追加するには、以下の手順を実行します。

1. 「カスタム属性」ウィンドウで、「追加」をクリックします。「カスタム属性の追加」ウィンドウが開きます。
2. 「名前」フィールドに、属性の名前を入力します。
3. 「列」フィールドに、説明ファイル内の属性値の位置を入力します。0 を入力すると、この属性は無視されます。

4. 「ターゲット」フィールドで、この属性をアーカイブに格納するか、SAP に送信するかに応じて、「アーカイブ」または「SAP」を選択します。「なし」を選択すると、この属性は無視されます。
5. 「OK」をクリックして、「カスタム属性」ウィンドウに戻ります。この属性がリストに追加されます。
6. 属性を変更するには、対象の属性をクリックして、「編集」をクリックします。
7. 「次へ」をクリックします。

#### 次の作業:

- 属性の格納先に応じて、属性をアーカイブで定義するか、SAP で定義する必要があります。そうしなければ、アーカイブ操作の実行時にエラーを受け取るようになります。
- 『「ファイル・キュー」タイプのキューの作成を完了する』.

#### 「ファイル・キュー」タイプのキューの作成を完了する:

「完了」をクリックして、キューを作成します。

「IBM Content Collector for SAP Applications - Archiving Client」ウィンドウに戻りました。そのキューは、ナビゲーション・ペインに表示され、使用可能な状態になります。「ファイル・キュー」タイプのキューを作成した場合は、コンテンツ・ペインに属性のリストが表示されます。

#### 次の作業:

- 自動処理を停止しなければならなかった場合は、「IBM Content Collector for SAP Applications - Archiving Client」ウィンドウで、「自動処理」 > 「使用可能」をクリックして、再度その機能を有効にします。
- 『キュー情報の保存と再利用』.

## キュー情報の保存と再利用

キュー情報をファイルに保存する操作をいつでも実行できます。 Archiving Client の次の始動時には、そのキュー情報を開いて再利用できます。

さまざまな状況のキュー情報を別々のファイル名で保存できます。例えば、1 つのキューを作成し、その情報を特定のファイル名で保存するとします。別のキューを作成したら、両方のキューの情報を別のファイル名で保存することも可能です。

「IBM Content Collector for SAP Applications - Archiving Client」ウィンドウでは、キュー情報の保存、変更、再オープンの操作を実行できます。

#### 手順:

1. 1 つ以上のキューを作成した後にキュー情報を保存するには、以下の手順を実行します。
  1. 「ファイル」 > 「保管」をクリックします。
  2. 表示されるウィンドウで絶対パスを指定します。そのファイルは、csw という拡張子で保存されます。
- キュー情報を変更した後にその情報を同じ名前で作成するには、「ファイル」 > 「保管」をクリックします。

- 構成を変更した後にその構成を別の名前で保存するには、以下の手順を実行します。
  1. 「ファイル」 > 「別名保管」をクリックします。
  2. 表示されるウィンドウで絶対パスを指定します。そのファイルは、csw という拡張子で保存されます。
- 設定を保存し、その設定が Archiving Client の次回の始動時にロードされるようにするには、「セットアップ」 > 「設定をファイルに保管」をクリックします。設定が CSArch.ini ファイルに保存されます。
- csw ファイルに保存したキュー情報を再利用するには、以下の手順を実行します。
  1. 「ファイル」 > 「開く」をクリックします。
  2. 表示されるウィンドウで、再利用するキュー情報が含まれているファイルを選択します。

次の作業: 215 ページの『Collector Serverで Archiving Client を使用できるようにする』

## キューのプロパティーの表示と変更

キューのプロパティーを表示できます。一部のキュー・プロパティーを変更することも可能です。

**始める前に:** 自動処理が有効になっている状態で、いずれかのプロパティーを変更する場合は、「IBM Content Collector for SAP Applications - Archiving Client」ウィンドウで、「自動処理」 > 「停止」をクリックして、自動処理機能を無効にします。

**手順:**

1. 「IBM Content Collector for SAP Applications - Archiving Client」ウィンドウのナビゲーション・ペインで、変更するキューを選択し、「キュー」 > 「プロパティー」をクリックします。「キューのプロパティー」ウィンドウが開きます。
2. 「キューのプロパティー」ウィンドウの各ページで、特定の設定を変更できます。

**注:** 「CM キュー」タイプのキューの場合は、サーバー接続を変更できません。それらのキューでは、キューの作成時に指定した Collector Serverが常に使用されるからです。

3. 「OK」をクリックして変更を保存し、「IBM Content Collector for SAP Applications - Archiving Client」ウィンドウに戻ります。

自動処理を停止しなければならなかった場合は、「IBM Content Collector for SAP Applications - Archiving Client」ウィンドウで、「自動処理」 > 「使用可能」をクリックして、再度その機能を有効にします。

## Archiving Client と Collector Serverの間の接続の表示

Archiving Client と Collector Serverの間の接続の詳細を表示できます。

**始める前に:** 自動処理を有効にした場合は、「IBM Content Collector for SAP Applications - Archiving Client」ウィンドウで、「自動処理」 > 「停止」をクリックして、自動処理を無効にします。

**手順:**

1. 「IBM Content Collector for SAP Applications - Archiving Client」ウィンドウのナビゲーション・ペインでキューをクリックし、「キュー」 > 「接続情報」をクリックします。

「接続情報」ウィンドウでは、キュー名でソートされた構成済みのすべての接続に関する詳細を表示できます。その情報には、Collector Serverが接続される先のSAPシステムの接続状況やその詳細が含まれます。

2. 「最新表示」をクリックすると、最新の情報が表示されます。「接続情報」ウィンドウを開いた後に新しい接続を構成した場合は、その操作を実行できます。
3. 「閉じる」をクリックして、ウィンドウを閉じます。

自動処理を停止しなければならなかった場合は、「IBM Content Collector for SAP Applications - Archiving Client」ウィンドウで、「自動処理」 > 「使用可能」をクリックして、再度その機能を有効にします。

## キューの削除

スキャン対象の文書がまだ入っているキューでも、削除することは可能です。キューと一緒にスキャン対象の文書も削除できます。

**手順:**

1. 「IBM Content Collector for SAP Applications - Archiving Client」ウィンドウのナビゲーション・ペインでキューを選択し、「キュー」 > 「削除」をクリックします。スキャン対象の文書がキューに含まれている場合は、次のメッセージが表示されます。

DIALOG19: 選択したキューを削除するときに、スキャン対象のオリジナル文書も削除しますか?

2. いずれかの項目を選択します。「はい」をクリックすると、キューと一緒にスキャン対象の文書も削除されます。「いいえ」をクリックすると、キューだけが削除されます。

## SAP 文書フォーマットの追加または削除

キューの作成時に、文書フォーマットを選択する必要があります。そうすれば、SAP は、アーカイブに保存する文書を表示するために該当するアプリケーションを開けるようになります。文書をアーカイブに保存するときに、選択したフォーマットも一緒に格納されます。選択できる文書フォーマットは、csdoctypes.ini ファイルに記述されています。そのファイルに文書フォーマットを追加することも、文書フォーマットを削除することもできます。

**手順:**

1. テキスト・エディターで csdoctypes.ini ファイルを開きます。このファイルは、Archiving Client インストール・システムのディレクトリーにあります。そのファイルの内容は、以下のとおりです。

;FAX は必須の doctype です。これは、doctype のリストに含まれている必要があります。

```
[CSCClientDocTypes]  
doctype=FAX,TIF,PDF,ALF,TXT,JPG,GIF,DOC,RTF,XLS,PPT,LWP,123,MPG
```

セミコロンで始まる行はコメントです。

2. doctypes= タグの後に、欠落している SAP 文書フォーマットを追加します。各項目をコンマで区切ってください。すべてのフォーマットを 1 行で入力します。
3. 不要な文書フォーマットはすべて削除できます。ただし、必須の文書フォーマットである FAX は削除しないでください。
4. そのファイルを保存して閉じます。

---

## Collector Serverで Archiving Client を使用できるようにする

Collector Serverを使用可能にして、少なくとも 1 つのクライアント・ディスパッチャーを始動する必要があります。

手順:

1. 使用する Collector Serverのサーバー構成プロファイルをテキスト・エディターで開きます。
2. ARCHWINS キーワードを 0 より大きい値に設定します。
3. サーバー構成プロファイルを保存し、Collector Serverを再始動して変更を有効にしてください。

次の作業:

- SAP ワークフローで作業項目を作成することによって文書をアーカイブするための環境を構成している場合は、265 ページの『SAP ワークフローで作業項目を作成することによって着信文書をアーカイブするため構成』に戻ってください。
- 文書のバーコードを処理することによってそれらの文書をアーカイブするための環境を構成している場合は、273 ページの『着信文書のバーコードの処理による着信文書のアーカイブのための構成』に戻ってください。

---

## 他のコンピューターへの Archiving Client とその設定の配布

同じ設定の Archiving Client を複数のコンピューターに配置する必要がある場合があります。このような場合は、1 つのコンピューターに Archiving Client をインストールおよびセットアップしてから、インストールと設定を他のコンピューターにコピーすることができます。

始める前に: 195 ページの『Archiving Client のセットアップ』

手順:

1. 「IBM Content Collector for SAP Applications - Archiving Client」ウィンドウで、「セットアップ」 > 「設定をファイルに保管」をクリックして、CSArch.ini ファイルに設定を保存します。CSArch.ini ファイルは、Archiving Client インストール・システムのディレクトリーにあります。

2. Archiving Client のインストール・ディレクトリーを他のコンピューターにコピーします。
3. ステップ 1 (215 ページ) で保存したファイル CSArch.ini を、他のコンピューターの Archiving Client インストール・ディレクトリーにコピーします。
4. 他のコンピューターの Archiving Client を始動して、CSArch.ini ファイルから Windows レジストリーへ設定をコピーします。



---

## 第 22 章 P8 Client の構成

FileNet P8 に格納された文書および他のオブジェクトを SAP にリンクする際は、P8 Client を構成します。P8 は、「Browse」ポートレットおよび「Queue」ポートレットというワークスペース・ポートレットで構成されています。

文書、特定バージョンの文書、保管された検索、検索テンプレート、またはフォルダー全体をリンクする場合は、「Browse」ポートレットを構成する必要があります。P8 キュー内の使用可能な文書をリンクする場合は、「Queue」ポートレットを構成する必要があります。Workplace または Workplace XT では、両方のポートレットを構成します。

### 始める前に:

1. サーバー・パッケージまたはクライアント・パッケージから P8 Client をインストールし、クライアント・パッケージから P8 Client SAP Connector をインストールします。詳しくは、99 ページの『第 13 章 Content Collector for SAP のインストール』を参照してください。
2. 129 ページの『第 18 章 環境の準備』。
3. 152 ページの『Content Collector for SAP で使用するために FileNet P8 を構成する』。
4. 171 ページの『FileNet P8 で使用するための Collector Serverの構成』。
5. 191 ページの『Collector Server を初めて始動する』。

ポートレットは、ユーザー・アカウント専用 (ユーザー設定) にも、Workplace または Workplace XT アプリケーションのすべてのユーザー・アカウント用 (サイト設定) にも構成できます。以下に、サイト設定を行う手順を示します。

---

## 管理者として Workplace または Workplace XT にログオンする

サイト設定を変更するには、Workplace または Workplace XT に管理者としてログオンする必要があります。

### 手順:

1. 以下の Web アドレスのいずれかを使用して、Workplace または Workplace XT を開始します。
  - `http://<application_engine_hostname>:<portnumber>/Workplace`
  - `http://<application_engine_hostname>:<portnumber>/WorkplaceXT`
2. アプリケーション・エンジン管理者グループのメンバーであるユーザーの名前と、そのユーザーのパスワードを使用して、Workplace または Workplace XT にログオンします。
3. Workplace または Workplace XT のいずれを使用するかによって、以下のようになります。
  - Workplace では、「管理 (Admin)」タブをクリックします。「管理 (Admin)」ページで、「サイト設定 (Site Preferences)」をクリックします。

- Workplace XT では、「ツール (Tools)」 > 「管理 (Administration)」をクリックします。

次の作業: 以下のいずれかのタスクを使用して続行します。

- 『「Browse」ポートレットの構成』
- 222 ページの『「Queue」ポートレットの構成』

## 「Browse」ポートレットの構成

SAP に、選択したフォルダー編成の文書の作業項目を作成する場合で、かつ、フォルダー全体の作業項目を作成する場合は、「Browse」ポートレットを構成します。

始める前に: 217 ページの『管理者として Workplace または Workplace XT にログインする』

手順:

1. 『「Browse」ポートレットの登録と「マイ・ワークスペース (My Workplace)」ビューへの追加』
2. 219 ページの『Collector Serverへの接続の定義』
3. 220 ページの『マイ・ワークスペースのセットアップ』
4. 221 ページの『オブジェクト・ストアとフォルダーの選択』

## 「Browse」ポートレットの登録と「マイ・ワークスペース (My Workplace)」ビューへの追加

「Browse」ポートレットを Workplace または Workplace XT に登録して、「マイ・ワークスペース (My Workplace)」ビューに追加する必要があります。

手順:

1. 「サイト設定 (Site Preferences)」ページのナビゲーション・ペインで、「マイ・ワークスペース (My Workplace)」 > 「登録済みポートレット (Registered Portlets)」を展開して、デフォルトの「Workplace」ポートレットまたは「Workplace XT」ポートレットを表示します。
2. 「登録済みポートレット (Registered Portlets)」の下で、「新規追加」をクリックして、「Browse」ポートレットを登録します。
3. 「ポートレット設定 (Portlet Settings)」領域で、以下の情報を入力します。

名称 (Title)	ACBrowsePortlet
ポートレット・サーブレット (Portlet Servlet)	ACBrowsePortlet
ポートレット・イメージ URL (Portlet Image URL)	ACBrowsePortlet/image.gif
説明 (Description)	With ACBrowsePortlet, you can browse folders, documents, stored searches, and search templates and you can link these objects to SAP by using an inbound linking process.

注: 表示に従って、ACBrowsePortlet と入力します。ここでは、大文字と小文字が区別されます。

4. 「同意 (Accept)」をクリックして、指定した内容を保存します。「登録済みポートレット (Registered Portlets)」ページに、登録した「Browse」ポートレットが表示されます。
5. 「サイト設定 (Site Preferences)」ページのナビゲーション・ペインで、「マイ・ワークスペース (My Workplace)」 > 「ページ」を展開します。
6. 「マイ・ワークスペース (My Workplace)」の下で、「新規追加」をクリックして新規ページを追加します。「ページの設定 (Design Page)」が開きます。
7. 「ページ・レイアウトの設計 (Design Page Layout)」の下の「ページ名 (Page Name)」フィールドに、新規ページの名前を入力します。例えば、次のようにします。

Content Collector for SAP Browse Portlet

8. 「ページの設定 (Design Page)」をクリックして、新規ページのコンテンツとレイアウトを定義します。「ページ・レイアウトの設計 (Design Page Layout)」ページが開きます。
9. 「ACBrowsePortlet」の下の「使用可能なポートレット (Available Portlets)」領域で、「レイアウトに追加 (Add to Layout)」をクリックします。
10. 「名称の作成 (Create Title)」ページで、「別名 (Alias)」フィールドにポートレットの別名を入力します。「同意 (Accept)」をクリックします。

「ページ・レイアウトの設計 (Design Page Layout)」ページ下部の左のボックスで、選択した「Browse」ポートレットが、その別名の下に追加されます。

11. 「同意 (Accept)」をクリックします。「ページの設定 (Design Page)」に戻りました。
12. 「ページ・レイアウトの設計 (Design Page Layout)」領域で、「アクセス・ロールの選択 (Select access roles)」をクリックして、新規ページへのアクセス権限が必要なユーザーを定義します。
13. 「アクセス・ロールの選択 (Select access roles)」ページで、新規「マイ・ワークスペース (My Workplace)」ページへのアクセス権限が必要なユーザー・グループを選択します。次に、「同意 (Accept)」をクリックします。
14. 「ページの設定 (Design Page)」で、「同意 (Accept)」をクリックします。「サイト設定 (Site Preferences)」ページの「マイ・ワークスペース (My Workplace)」領域に新規ページが表示されます。
15. 「適用 (Apply)」または「OK」をクリックして、「マイ・ワークスペース (My Workplace)」ビューに新規ページを永続的に追加します。

次の作業: 『Collector Serverへの接続の定義』

## Collector Serverへの接続の定義

特定のアーカイブ内の文書が適切な SAP システムにリンクされるようにするには、Workplace または Workplace XT が適切な Collector Serverのサーバー構成プロファイルにアクセスできなければなりません。

Collector Serverへの接続は、properties ファイルに定義されています。このファイルは、P8 Client がインストールされたときに、Workplace または Workplace XT イ

インストール・システムのディレクトリーにインストールされたものです。このプロパティー・ファイルには、必要に応じて変更できるサンプル項目が含まれていません。

**始める前に:** 218 ページの『「Browse」ポートレットの登録と「マイ・ワークスペース (My Workplace)」ビューへの追加』

プロパティー・ファイル `ACSystemSelection.properties` は、Workplace または Workplace XT インストールの以下のパスにインストールされています。

- Linux および UNIX システム上: `WEB-INF/classes`
- Windows 上: `WEB-INF\classes`

**手順:**

1. テキスト・エディターで `properties` ファイルを開きます。このファイルにはサンプル項目が含まれていますが、各項目のフォーマットは以下のようになっています。

```
<entry key="value">http://servername:port</entry>
```

2. 項目を以下のように変更します。
  - キーの *value* を、Collector Server (Workplace または Workplace XT は、そのサーバー構成プロファイルにアクセスします) の認識に役立つ名前に置き換えます。指定した名前が Workplace または Workplace XT の「プレビューおよびセットアップ (Preview and Setup)」ページに表示されます。
  - Web アドレスで、*servername* を Collector Server の IP アドレス、ホスト名、または完全修飾ホスト名に置き換えます。さらに、*port* を Collector Server のポート番号を指定する `ARCHPRO_PORT` キーワードの値に置き換えます。

**注:** 一部の文字は、項目に使用することができません。次の表に、これらの文字の概要と、代わりに使用する XML 文字のエスケープ処理を示します。

使用できない文字:	代わりに使用するエスケープ文字:
&	&amp;
<	&lt;
>	&gt;
"	&quot;
'	&#39;

3. `properties` ファイルに加えた変更を保存します。
4. Workplace または Workplace XT を Application Server に再度デプロイします。


**次の作業:** 『マイ・ワークスペースのセットアップ』

## マイ・ワークスペースのセットアップ

表示設定を行い、Workplace または Workplace XT が通信する Collector Server を指定する必要があります。

**始める前に:** 219 ページの『Collector Serverへの接続の定義』

**手順:**

1. Workplace または Workplace XT のいずれを使用するかによって、以下のように開始します。
  - Workplace では、「管理 (Admin)」タブをクリックします。「管理 (Admin)」ページで、「サイト設定 (Site Preferences)」をクリックします。
  - Workplace XT では、「ツール (Tools)」 > 「管理 (Administration)」をクリックします。
2. Workplace または Workplace XT の「サイト設定 (Site Preferences)」ページのナビゲーション・ペインで、「マイ・ワークスペース (My Workplace)」 > 「ページ」を展開します。「マイ・ワークスペース (My Workplace)」の下に、前に追加したページが表示されます。
3. 新規ページの名前の下で、「プレビューおよびセットアップ (Preview and setup)」をクリックします。
4. 表示されたウィンドウで、「常にこのパブリッシャーからのコンテンツを信頼する (Always trust content from this publisher)」チェック・ボックスをクリックしてから、「実行 (Run)」をクリックして、署名されたアプレットのセキュリティー証明書を永続的に受諾します。この手順は、Workplace または Workplace XT のいずれで作業しているかによって異なります。
5. ページの右側にある「編集」アイコン  をクリックして、ポートレットの現在の設定を変更します。
6. 「最大行数 (Maximum Rows)」フィールドに数値を入力して、ポートレットに一度に表示する文書とフォルダーの数を指定します。
7. 「SAP システム」リストから、Collector Serverへの接続を選択します。

接続は、ACSystemSelection.properties ファイルに定義されています。この接続を使用することにより、ポートレットは、サーバー構成プロファイルをリトリブして、文書のリンク元となるアーカイブを決定し、文書のリンク先となる SAP システムを決定します。

選択した項目は、永続的に保管されます。ACSystemSelection.properties ファイル内の接続の Web アドレスを変更すると、選択した項目が SAP System リストから削除されるので、別の接続を選択する必要があります。

8. 「適用 (Apply)」をクリックして変更を保存します。


次の作業: 『オブジェクト・ストアとフォルダーの選択』

## オブジェクト・ストアとフォルダーの選択

オブジェクト・ストアと、リンクする文書が保管されているフォルダーを選択する必要があります。

始める前に: 220 ページの『マイ・ワークスペースのセットアップ』

手順:

1. 「Browse」ポートレットの「プレビューおよびセットアップ (Preview and Setup)」ページで、ページの右側にある「編集」アイコン  をクリックして、ポートレットの現在の設定を変更します。

2. 「パス」をクリックして、オブジェクト・ストアとフォルダーのパスを定義します。
3. 「オブジェクト・ストア (Object Stores)」の下の「項目の選択 (Select Item)」ページで、表示されているいずれかのオブジェクト・ストアをクリックします。
4. 「フォルダーおよび検索 (Folders and Searches)」の下で、いずれかのフォルダーをクリックします。選択した項目が「パス」の下に表示されます。
5. 選択したフォルダーにサブフォルダーが含まれている場合は、自分で選択したフォルダーが「パス」に表示されるまで、サブフォルダーの選択を続行します。

**注:** サブフォルダーがあるフォルダーを選択すると、フォルダー内の全文書のリストと、サブフォルダーごとに 1 つのリスト項目が後で表示されます。サブフォルダー内の文書はリストに表示されません。この場合、SAP にリンクできるのは、サブフォルダー全体に限られます。したがって、サブフォルダー内の全文書が 1 つの SAP 文書タイプに割り当てられることを確認してください。

6. 「パス」の下で、「*folder\_name* の選択 (Select *folder\_name*)」をクリックします。ここで、*folder\_name* は、選択したフォルダーの名前です。「パス」フィールドに、選択したオブジェクト・ストアとフォルダーが表示されます。
7. 「適用 (Apply)」をクリックして変更を保存し、選択したフォルダー内の全文書のリストを表示します。フォルダーにサブフォルダーがある場合、各サブフォルダーは 1 つの項目としてリストに表示されます。
8. 「閉じる」をクリックして、「マイ・ワークスペース (My Workplace)」ビューに戻ります。

**次の作業:** P8 Client を使用して FileNet P8 オブジェクトをリンクするための環境を構成する場合は、227 ページの『第 23 章 P8 Client SAP Connector の構成』を使用して続行します。

---

## 「Queue」ポートレットの構成

P8 キュー内の作業項目として使用可能な文書を SAP にリンクする場合は、「Queue」ポートレットを構成します。

**始める前に:** 217 ページの『管理者として Workplace または Workplace XT にログインする』

**手順:**

1. 『「Queue」ポートレットの登録と「マイ・ワークスペース (My Workplace)」ビューへの追加』
2. 224 ページの『Collector Serverへの接続の定義』
3. 225 ページの『マイ・ワークスペースのセットアップ』
4. 226 ページの『P8 キューへの「Queue」ポートレットの関連付け』

## 「Queue」ポートレットの登録と「マイ・ワークスペース (My Workplace)」ビューへの追加

「Queue」ポートレットを Workplace または Workplace XT に登録して、「マイ・ワークスペース (My Workplace)」ビューに追加する必要があります。

手順:

1. 「サイト設定 (Site Preferences)」 ページのナビゲーション・ペインで、「マイ・ワークスペース (My Workplace)」 > 「登録済みポートレット (Registered Portlets)」を展開して、デフォルトの「Workplace」ポートレットまたは「Workplace XT」ポートレットを表示します。
2. 「登録済みポートレット (Registered Portlets)」の下で、「新規追加」をクリックして、「Queue」ポートレットを登録します。
3. 「ポートレット設定 (Portlet Settings)」領域で、以下の情報を入力します。

名称 (Title)	ACQCimPortlet
ポートレット・サーブレット (Portlet Servlet)	ACQCimPortlet
ポートレット・イメージ URL (Portlet Image URL)	ACQCimPortlet/image.gif
説明 (Description)	With ACQCimPortlet, you can view work items and you can link work items in a P8 queue to SAP by using an inbound linking process.

注: 表示に従って、ACQCimPortlet と入力します。ここでは、大文字と小文字が区別されます。

4. 「同意 (Accept)」をクリックして、指定した内容を保存します。「登録済みポートレット (Registered Portlets)」ページに、登録した「Queue」ポートレットが表示されます。
5. 「サイト設定 (Site Preferences)」 ページのナビゲーション・ペインで、「マイ・ワークスペース (My Workplace)」 > 「ページ」を展開します。
6. 「マイ・ワークスペース (My Workplace)」の下で、「新規追加」をクリックして新規ページを追加します。「ページの設計 (Design Page)」が開きます。
7. 「ページ・レイアウトの設計 (Design Page Layout)」の下の「ページ名 (Page Name)」フィールドに、新規ページの名前を入力します。例えば、次のようにします。  
Content Collector for SAP Queue Portlet
8. 「ページの設計 (Design Page)」をクリックして、新規ページのコンテンツとレイアウトを定義します。「ページ・レイアウトの設計 (Design Page Layout)」ページが開きます。
9. 「ACQCimPortlet」の下の「使用可能なポートレット (Available Portlets)」領域で、「レイアウトに追加 (Add to Layout)」をクリックします。
10. 「名称の作成 (Create Title)」ページで、「別名 (Alias)」フィールドにポートレットの別名を入力します。「同意 (Accept)」をクリックします。

「ページ・レイアウトの設計 (Design Page Layout)」 ページ下部の左のボックスで、選択した「Queue」ポートレットが、その別名の下に追加されます。

11. 「同意 (Accept)」をクリックします。「ページの設計 (Design Page)」に戻りました。

12. 「ページ・レイアウトの設計 (Design Page Layout)」領域で、「アクセス・ロールの選択 (Select access roles)」をクリックして、新規ページへのアクセス権限が必要なユーザーを定義します。
13. 「アクセス・ロールの選択 (Select access roles)」ページで、新規「マイ・ワークスペース (My Workplace)」ページへのアクセス権限が必要なユーザー・グループを選択します。次に、「同意 (Accept)」をクリックします。
14. 「ページの設定 (Design Page)」で、「同意 (Accept)」をクリックします。「サイト設定 (Site Preferences)」ページの「マイ・ワークスペース (My Workplace)」領域に新規ページが表示されます。
15. 「適用 (Apply)」または「OK」をクリックして、「マイ・ワークスペース (My Workplace)」ビューに新規ページを永続的に追加します。

次の作業: 『Collector Serverへの接続の定義』

## Collector Serverへの接続の定義

特定のアーカイブ内の文書が適切な SAP システムにリンクされるようにするには、Workplace または Workplace XT が適切な Collector Serverのサーバー構成プロファイルにアクセスできなければなりません。

Collector Serverへの接続は、properties ファイルに定義されています。このファイルは、P8 Client がインストールされたときに、Workplace または Workplace XT インストール・システムのディレクトリーにインストールされたものです。このプロパティ・ファイルには、必要に応じて変更できるサンプル項目が含まれています。

**始める前に:** 222 ページの『「Queue」ポートレットの登録と「マイ・ワークスペース (My Workplace)」ビューへの追加』

プロパティ・ファイル `ACSystemSelection.properties` は、Workplace または Workplace XT インストールの以下のパスにインストールされています。

- Linux および UNIX システム上: `WEB-INF/classes`
- Windows 上: `WEB-INF\classes`

**手順:**

1. テキスト・エディターで properties ファイルを開きます。このファイルにはサンプル項目が含まれていますが、各項目のフォーマットは以下のようになっています。

```
<entry key="value">http://servername:port</entry>
```

2. 項目を以下のように変更します。
  - キーの *value* を、Collector Server (Workplace または Workplace XT は、そのサーバー構成プロファイルにアクセスします) の認識に役立つ名前に置き換えます。指定した名前が Workplace または Workplace XT の「プレビューおよびセットアップ (Preview and Setup)」ページに表示されます。
  - Web アドレスで、*servername* を Collector Serverの IP アドレス、ホスト名、または完全修飾ホスト名に置き換えます。さらに、*port* を Collector Server のポート番号を指定する ARCHPRO\_PORT キーワードの値に置き換えます。



注: 一部の文字は、項目に使用することができません。次の表に、これらの文字の概要と、代わりに使用する XML 文字のエスケープ処理を示します。

使用できない文字:	代わりに使用するエスケープ文字:
&	&amp;
<	&lt;
>	&gt;
"	&quot;
'	&#39;

3. properties ファイルに加えた変更を保存します。
4. Workplace または Workplace XT を Application Server に再度デプロイします。


次の作業: 『マイ・ワークスペースのセットアップ』

## マイ・ワークスペースのセットアップ

表示設定を行い、Workplace または Workplace XT が通信する Collector Serverを指定する必要があります。

始める前に: 224 ページの『Collector Serverへの接続の定義』

手順:

1. Workplace または Workplace XT のいずれを使用するかによって、以下のように開始します。
  - Workplace では、「管理 (Admin)」タブをクリックします。「管理 (Admin)」ページで、「サイト設定 (Site Preferences)」をクリックします。
  - Workplace XT では、「ツール (Tools)」 > 「管理 (Administration)」をクリックします。
2. Workplace または Workplace XT の「サイト設定 (Site Preferences)」ページのナビゲーション・ペインで、「マイ・ワークスペース (My Workplace)」 > 「ページ」を展開します。「マイ・ワークスペース (My Workplace)」の下に、前に追加したページが表示されます。
3. 新規ページの名前の下で、「プレビューおよびセットアップ (Preview and setup)」をクリックします。
4. 表示されたウィンドウで、「常にこのパブリッシャーからのコンテンツを信頼する (Always trust content from this publisher)」チェック・ボックスをクリックしてから、「実行 (Run)」をクリックして、署名されたアプレットのセキュリティー証明書を永続的に受諾します。この手順は、Workplace または Workplace XT のいずれで作業しているかによって異なります。
5. ページの右側にある「編集」アイコン  をクリックして、ポートレットの現在の設定を変更します。
6. 「最大行数 (Maximum Rows)」フィールドに数値を入力して、ポートレットに一度に表示する文書とフォルダーの数を指定します。
7. 「SAP システム」リストから、Collector Serverへの接続を選択します。

接続は、ACSystemSelection.properties ファイルに定義されています。この接続を使用することにより、ポートレットは、サーバー構成プロファイルをリトリートして、文書のリンク元となるアーカイブを決定し、文書のリンク先となる SAP システムを決定します。

選択した項目は、永続的に保管されます。ACSystemSelection.properties ファイル内の接続の Web アドレスを変更すると、選択した項目が **SAP System** リストから削除されるので、別の接続を選択する必要があります。

8. 「適用 (Apply)」をクリックして変更を保存します。

次の作業: 『P8 キューへの「Queue」ポートレットの関連付け』


## P8 キューへの「Queue」ポートレットの関連付け

リンクする作業項目が含まれている P8 キューを選択する必要があります。

始める前に: 225 ページの『マイ・ワークプレースのセットアップ』

1 つの P8 キュー、複数の P8 キューで複数の文書を利用可能にするワークフロー、またはこれらの両方がまだ存在しない場合は、Content Collector for SAP と共に提供されるサンプル・ワークフロー定義をユーザーのニーズに合わせて調整することができます。サンプル・ワークフロー定義は、バーコードの処理用に設計されています。これは、ファイル WorkflowGeneration.pep で入手できます。このファイルは <InstallHome> 内にあります。詳細については、290 ページの『P8 キューおよびワークフローの作成』を参照してください。

手順:

1. 「Queue」ポートレットの「プレビューおよびセットアップ (Preview and Setup)」ページで、ページの右側にある「編集」アイコン  をクリックして、ポートレットの現在の設定を変更します。
2. 「パブリック・インボックス (Public Inbox)」をクリックして、P8 キューを選択します。
3. 「インボックス (Inboxes)」の下で、表示されているいずれかの P8 キューをクリックします。「パブリック・インボックス (Public Inbox)」の下に、「queue の選択 (Select queue)」が表示されます。ここで、queue は選択した P8 キューの名前です。さらに、選択した P8 キュー内のすべての作業項目がリストに表示されます。
4. 「パブリック・インボックス (Public Inbox)」の下で、「queue の選択 (Select queue)」をクリックします。「パブリック・インボックス (Public Inbox)」フィールドに、選択した P8 キューが表示されます。
5. 「適用 (Apply)」をクリックして変更を保存し、選択したワークフロー内の全文書を表示します。
6. 「閉じる」をクリックして、「マイ・ワークプレース (My Workplace)」ビューに戻ります。

次の作業: P8 Client を使用して FileNet P8 オブジェクトをリンクするための環境を構成する場合は、227 ページの『第 23 章 P8 Client SAP Connector の構成』を使用して続行します。

---

## 第 23 章 P8 Client SAP Connector の構成

P8 Client を使用して、FileNet P8 に格納されている SAP に文書とその他のオブジェクトをリンクする場合は、SAP で P8 Client SAP Connector を構成します。

P8 Client SAP Connector を使用して SAP GUI から OLE 要求を受信し、それを P8 Client に送信します。

### 始める前に:

1. クライアント・パッケージから P8 Client SAP Connector をインストールします。詳しくは、105 ページの『コンソール・モードまたは GUI モードでのクライアント・パッケージのインストール』を参照してください。
2. 129 ページの『第 18 章 環境の準備』。
3. 152 ページの『Content Collector for SAP で使用するために FileNet P8 を構成する』。
4. 160 ページの『アーカイブと共に使用するための Collector Serverの構成』。
5. Hypertext Transfer Protocol (HTTP) 接続および Remote Function Call (RFC) 接続が必要なく、そのような接続を構成していない場合は、SAP で SAP ArchiveLink プロトコル、およびコンテンツ・リポジトリまたは論理アーカイブを作成します。
  - a. 181 ページの『Hypertext Transfer Protocol (HTTP) 接続によって使用するための SAP ArchiveLink プロトコルの作成』
  - b. 183 ページの『Hypertext Transfer Protocol (HTTP) 接続に対するコンテンツ・リポジトリまたは論理アーカイブの作成』
6. 191 ページの『Collector Server を初めて始動する』。

### 手順:

1. 『SAP への P8 Client SAP Connector の登録』
2. 228 ページの『FileNet P8 オブジェクトをリンクするための SAP ArchiveLink アプリケーションの作成』
3. 230 ページの『FileNet P8 オブジェクトをリンクする目的での SAP ArchiveLink プロトコルの調整』


---

## SAP への P8 Client SAP Connector の登録

SAP に P8 Client SAP Connector を登録し、SAP GUI と P8 Client との間の接続を確立します。

### 手順:

1. SAP GUI でトランザクション・コード S0LE を入力して、「「OLE アプリケーションの保守ビュー」ビューの表示: 全容表示 (Display View "Maintenance view for OLE applications": Overview)」ウィンドウを開きます。

- 「表示」->「変更 (Change)」アイコン  をクリックします。警告: テーブルはクロス・クライアントです。(Caution: The table is cross-client.) というメッセージを含むウィンドウが表示された場合は、Enter を押します。
- 「新規項目 (New Entries)」をクリックする。
- 「新規項目: 追加項目の詳細 (New Entries: Details of Added Entries)」ウィンドウで、以下の情報を指定します。

フィールド名	説明	例
OLE アプリケーション	自分で選択した名前を入力します。  この名前は、P8 Client SAP Connector で使用するために SAP ArchiveLink アプリケーションを構成するときに、もう一度指定する必要があります。	以下を入力します。 ICCSAP_CE
バージョン番号	OLE アプリケーションのバージョンを入力します。	以下を入力します。 2.2
CLSID	以下を入力します。 ACCeDesktop.Bean 注: 表示に従って、大/小文字混合で ID を入力します。	
OLE オブジェクト名	以下を入力します。 ACCEDESKTOP.BEAN	
情報キーの入力 (Type Info key)	以下を入力します。 NO_TYPELIB	

その他のすべてのフィールドはブランクのままにします。

- 「保管」アイコン  をクリックして、設定を保存します。


次の作業: 『FileNet P8 オブジェクトをリンクするための SAP ArchiveLink アプリケーションの作成』

## FileNet P8 オブジェクトをリンクするための SAP ArchiveLink アプリケーションの作成

SAP ArchiveLink アプリケーションを作成し、P8 Client SAP Connector で使用するために構成します。

始める前に: 227 ページの『SAP への P8 Client SAP Connector の登録』

手順:

- SAP GUI で、トランザクション・コード OAA4 を入力して 「ArchiveLink: アプリケーションの保守 (ArchiveLink: Application Maintenance)」 ウィンドウを開きます。
- 「作成 (Create)」アイコン  をクリックします。

3. 「ArchiveLink: アプリケーションの保守 (ArchiveLink: Application Maintenance)」 ウィンドウで、SAP ArchiveLink アプリケーションに対してユーザーが選択した名前を入力します。

例えば、以下のように入力します。

P8LINK

4. Enter を押します。「ArchiveLink: アプリケーションの保守 (ArchiveLink: Application Maintenance)」ウィンドウに戻ります。
5. 作成した SAP ArchiveLink アプリケーションをダブルクリックします。

例えば、「P8LINK」をダブルクリックします。

6. 「Windows SAPGUI OLE 自動化 (Windows SAPGUI OLE automation)」 ページで、「フロントエンドからアーカイブ (Archive from Frontend)」をダブルクリックします。
7. 開いたウィンドウで、以下の情報を指定します。
  - a. 「アプリケーション」フィールドに、SAP と一緒に P8 Client SAP Connector を登録したときに指定した OLE アプリケーション名を入力します。

例えば、以下のように入力します。

ICCSAP\_CE

- b. ラジオ・ボタンをクリックし、次の表に示すようにコマンドを入力します。最初の行から指定を開始します。

ラジオ・ボタン	コマンド
M	ScanArchive @DTY,@AID,sap_system
G	@EID=DocumentId
G	@EID=LastError


コマンドは、表に示されているとおりに正確に入力します。スペースを追加しないでください。複数の値はコンマだけで区切られます。コンマの後にスペースを追加しないでください。sap\_system は、サーバー構成プロファイルに指定されている R3NAME キーワードの値を表します。

例えば、KD7 というように入力します。

次の表は、追加の SAP の機能についての指定を示します。

SAP の機能	ラジオ・ボタン	コマンド
格納された文書の表示	M	DisplayDocument @DID,@AID,@URL,@WTI,sap_system
	G	@EID=LastError
フロントエンドのリトリブ	M	RestoreFile @DID,@AID,@DPA,sap_system
	G	@EID=LastError
ローカル・ファイルの表示	M	DisplayFile @DPA
	G	@EID=LastError

SAP の機能	ラジオ・ボタン	コマンド
フロントエンドからのファイルの格納	M	ArchiveFile @AID,@DPA,@DTI,sap_system
	G	@DID=DocumentId
	G	@EID=LastError

8. 「戻る (Back)」 をクリックします。
9. 「保管」 アイコン  をクリックして設定を保存します。

「フロントエンドからアーカイブ (Archive from Frontend)」の隣の状況が「保守 (Maintained)」に変わります。

次の作業: 『FileNet P8 オブジェクトをリンクする目的での SAP ArchiveLink プロトコルの調整』

---

## FileNet P8 オブジェクトをリンクする目的での SAP ArchiveLink プロトコルの調整

P8 Client SAP Connector で使用するために SAP ArchiveLink プロトコルを調整する必要があります。


このトピックでは、サンプル・プロトコル HTTP1 を調整する方法を示します。


始める前に: 228 ページの『FileNet P8 オブジェクトをリンクするための SAP ArchiveLink アプリケーションの作成』


手順:


1. SAP GUI でトランザクション・コード OAA3 を入力して、「ArchiveLink: 通信インターフェース管理 (ArchiveLink: Communications Interface Administration)」ウィンドウを開きます。
2. SAP ArchiveLink プロトコルをダブルクリックします。

例えば、「HTTP1」をダブルクリックします。



3. 「ArchiveLink プロトコル: プロトコルの概要 (ArchiveLink Protocols: Overview of Protocol)」ウィンドウで、「フロントエンドからアーカイブ (Archive from frontend)」をダブルクリックします。
4. 「文書クラス (Document classes)」の下で、SAP 文書クラスの横にあるラジオ・ボタンをクリックし、「変更 (Change)」アイコン  をクリックします。この文書クラスは、リンクする文書の MIME タイプを表すものでなければなりません。

注: 必要な文書クラスがウィンドウに表示されていない場合は、使用する文書クラスが表示されるまで、「次のページ (Next page)」アイコン  をクリックします。

例えば、TIF が表示されるまで「次のページ (Next page)」アイコン  をクリックしてから、「TIF」をクリックします。

5. 開いた小さなウィンドウの「通信タイプ (Communication Type)」フィールドで、OPEN と指定します。次に、「続く (Continue)」アイコン  をクリックします。
6. 「アプリケーション」フィールドで、以前に作成した SAP ArchiveLink アプリケーションの名前を指定します。

例えば、「P8LINK」を選択します。

7. FileNet P8 オブジェクトをリンクする対象となる各 SAP 文書クラスに対して、ステップ 4 (230 ページ) から6 までを繰り返します。
8. 「続く (Continue)」アイコン  をクリックして指定内容を確認し、ウィンドウを閉じます。
9. 「保管」アイコン  をクリックして、設定を保存します。

**次の作業:** P8 Client を使用して FileNet P8 オブジェクトをリンクするための環境を構成する場合は、293 ページの『Collector Serverで P8 Client を使用できるようにする』を使用して続行します。





---

## 第 24 章 Utility Client の構成

Content Manager Enterprise Edition、Content Manager OnDemand、または FileNet P8 に保管されている文書に索引情報を転送する場合は、Utility Client を構成します。その後、アーカイブされた文書を検索できます。また、Content Manager Enterprise Edition または FileNet P8 に保管されている文書を、SAP にリンクする必要がある場合にも、Utility Client を構成します。

### 始める前に:

1. サーバー・パッケージまたはクライアント・パッケージから Utility Client をインストールします。詳細については、99 ページの『第 13 章 Content Collector for SAP のインストール』を参照してください。
2. 139 ページの『第 19 章 Content Collector for SAP で使用するためにアーカイブを構成する』。
3. 159 ページの『第 20 章 Collector Serverの構成』。

索引転送と文書リンクの両方のプロセスについて、Utility Client が必要とする、アーカイブ、Collector Server、および SAP に関する情報など、環境についての情報を含むオブジェクトを作成する必要があります。

個々のオブジェクトを作成するには、以下のようして Utility Client を開始します。

「すべてのプログラム」 > 「IBM Content Collector for SAP Applications」 > 「Utility Client」をクリックします。

「IBM Content Collector for SAP Applications - ユーティリティー・クライアント」ウィンドウが開きます。

---

## 索引転送のセットアップ

SAP ビジネス・オブジェクトから、Content Manager Enterprise Edition、Content Manager OnDemand、および FileNet P8 に格納されている文書に索引情報を転送できます。その後、アーカイブされた文書を検索できます。

**始める前に:** 117 ページの『Utility Client の Index Transfer Enablement パッケージのインストール』

### 手順:

1. 234 ページの『SAPサーバーへの接続の定義』
2. 234 ページの『Collector Serverへの接続の定義』
3. 234 ページの『アーカイブを定義する』
4. 235 ページの『アーカイブ属性に転送する SAP 属性のマッピング』
5. 235 ページの『索引転送プロファイルの作成』
6. 235 ページの『索引転送セッションの作成』

## SAPサーバーへの接続の定義

索引転送に使用する SAP システムへの接続を定義するオブジェクトを作成します。

手順:

「IBM Content Collector for SAP Applications - Utility Client」ウィンドウで、「SAP サーバーの定義」をクリックします。「SAP サーバーの新規作成」ウィザードが開きます。

SAP サーバーの定義方法については、「SAP サーバーの新規作成」ウィザードのヘルプ・ペインを参照してください。

次の作業: 『Collector Serverへの接続の定義』

## Collector Serverへの接続の定義

索引転送に使用する Collector Serverへの接続を定義するオブジェクトを作成します。

始める前に: 『SAPサーバーへの接続の定義』

手順:

「IBM Content Collector for SAP Applications - Utility Client」ウィンドウで、「Collector サーバーの定義」をクリックします。「Collector サーバーの新規作成」ウィザードが開きます。

Collector Serverの定義方法については、「Collector サーバーの新規作成」ウィザードのヘルプ・ペインを参照してください。

次の作業: 『アーカイブを定義する』

## アーカイブを定義する

文書が保管されるアーカイブを定義するオブジェクトを作成します。そのアーカイブは、SAP で既に指定されている必要があります。

始める前に: 『Collector Serverへの接続の定義』

**重要:** 文書のリンク中または索引転送中は、一度に 1 つの Utility Client だけがアーカイブにアクセスできます。

手順:

「IBM Content Collector for SAP Applications - Utility Client」ウィンドウで、「アーカイブの選択」をクリックします。「アーカイブの新規作成」ウィザードが開きます。

アーカイブの定義方法については、「アーカイブの新規作成」ウィザードのヘルプ・ペインを参照してください。

次の作業: 235 ページの『アーカイブ属性に転送する SAP 属性のマッピング』

## アーカイブ属性に転送する SAP 属性のマッピング

属性を定義するオブジェクトを作成します。この属性の値は、索引情報として文書とともに転送および保管されます。

**始める前に:** 234 ページの『アーカイブを定義する』

**手順:**

「IBM Content Collector for SAP Applications - Utility Client」ウィンドウで、「**属性マッピングの定義**」をクリックします。「属性マッピングの新規作成」ウィザードが開きます。

属性のマッピング方法については、「属性マッピングの新規作成」ウィザードのヘルプ・ペインを参照してください。

**次の作業:** 『索引転送プロファイルの作成』

## 索引転送プロファイルの作成

索引転送プロファイルとは、転送する索引情報を定義したプロファイルです。索引転送プロファイルは、複数の索引転送に使用できます。特定の索引転送に関連する情報は、索引転送セッションで指定されています。

**始める前に:** 『アーカイブ属性に転送する SAP 属性のマッピング』

**手順:**

「IBM Content Collector for SAP Applications - Utility Client」ウィンドウの「**索引転送のセットアップ**」の下で、「**プロファイルの定義**」をクリックします。「索引転送プロファイルの新規作成」ウィザードが開きます。

プロファイルの作成方法については、「索引転送プロファイルの新規作成」ウィザードのヘルプ・ペインを参照してください。

**次の作業:** 『索引転送セッションの作成』

## 索引転送セッションの作成

索引転送セッションには、1 回の索引転送の情報が含まれます。この情報は変更されることがあるので、セッションは通常 1 回だけ使用します。繰り返し使用する場合は、(特に Utility Client のコマンド行インターフェースを使用する場合は、) 以前のセッション実行後にアーカイブされた文書にのみ索引情報を追加することを指定するバッチ・セッションを作成します。

**始める前に:** 『索引転送プロファイルの作成』

**手順:**

「IBM Content Collector for SAP Applications - Utility Client」ウィンドウの「**索引転送のセットアップ**」の下で、「**セッションの定義**」をクリックします。「セッションの新規作成」ウィザードが開きます。

セッションの作成方法については、「セッションの新規作成」ウィザードのヘルプ・ペインを参照してください。

次の作業: 237 ページの『Utility Client の構成の管理』

---

## 文書リンク・プロセスのセットアップ

Content Manager Enterprise Edition または FileNet P8 に保管されている文書は、SAP にリンクすることができます。

手順:

1. 『SAPサーバーへの接続の定義』
2. 『Collector Serverへの接続の定義』
3. 『アーカイブを定義する』
4. 237 ページの『文書リンク・セッションの作成』

### SAPサーバーへの接続の定義

文書リンク・プロセスに使用する SAP システムへの接続を定義するオブジェクトを作成します。

手順:

「IBM Content Collector for SAP Applications - Utility Client」ウィンドウで、「SAP サーバーの定義」をクリックします。「SAP サーバーの新規作成」ウィザードが開きます。

SAP サーバーの定義方法については、「SAP サーバーの新規作成」ウィザードのヘルプ・ペインを参照してください。

次の作業: 『Collector Serverへの接続の定義』

### Collector Serverへの接続の定義

文書リンク・プロセスに使用する Collector Serverへの接続を定義するオブジェクトを作成します。

始める前に: 『SAPサーバーへの接続の定義』

手順:

「IBM Content Collector for SAP Applications - Utility Client」ウィンドウで、「Collector サーバーの定義」をクリックします。「Collector サーバーの新規作成」ウィザードが開きます。

Collector Serverの定義方法については、「Collector サーバーの新規作成」ウィザードのヘルプ・ペインを参照してください。

次の作業: 『アーカイブを定義する』

### アーカイブを定義する

文書が保管されるアーカイブを定義するオブジェクトを作成します。そのアーカイブは、SAP で既に指定されている必要があります。

始める前に: 『Collector Serverへの接続の定義』

**重要:** 文書のリンク中または索引転送中は、一度に 1 つの Utility Client だけがアーカイブにアクセスできます。

**手順:**

「IBM Content Collector for SAP Applications - Utility Client」ウィンドウで、「**アーカイブの選択**」をクリックします。「アーカイブの新規作成」ウィザードが開きます。

アーカイブの定義方法については、「アーカイブの新規作成」ウィザードのヘルプ・ペインを参照してください。

**次の作業:** 『文書リンク・セッションの作成』

## 文書リンク・セッションの作成

文書リンク・セッションには、1 回の文書リンク・プロセスの情報が含まれます。この情報は変更されることがあるので、セッションは通常 1 回だけ使用します。繰り返し使用する場合は、(特に Utility Client のコマンド行インターフェースを使用する場合は、以前の文書リンク・プロセスについての情報が保管されないため、) バッチ・セッションを作成します。

**始める前に:** 236 ページの『アーカイブを定義する』

**手順:**

「**文書リンク・プロセスのセットアップ**」の下の「IBM Content Collector for SAP Applications - Utility Client」ウィンドウで、「**セッションの定義**」をクリックします。「セッションの新規作成」ウィザードが開きます。

セッションの作成方法については、「セッションの新規作成」ウィザードのヘルプ・ペインを参照してください。

**注:** 文書のバーコードを処理するか、SAP ワークフロー内に作業項目を作成することによって、複数の文書をリンクできます。SAP がアクセスできない項目タイプ内に格納されている Content Manager 文書をリンクする場合は、「セッションの新規作成」ウィザードで、「**バーコードの作成**」を選択します。

**次の作業:** 『Utility Client の構成の管理』

---

## Utility Client の構成の管理

特定のオブジェクトの設定を変更することができます。Utility Client の構成を複数作成し、これらの構成を別々の名前でも保存することもできます。

- Utility Client を初めて構成した場合、または前の構成を使用せずに構成した場合に、その構成を保存するときは、以下の手順を実行します。
  1. 「**ファイル**」 > 「**保管**」をクリックします。
  2. 表示されるウィンドウで絶対パスを指定します。そのファイルは、cs という拡張子で保存されます。
- 構成を変更した後にその情報を同じ名前でも保存するには、「**ファイル**」 > 「**保管**」をクリックします。

- 構成を変更した後にその構成を別の名前で保存するには、以下の手順を実行します。
  1. 「ファイル」 > 「別名保管」をクリックします。
  2. 表示されるウィンドウで絶対パスを指定します。そのファイルは、cs という拡張子で保存されます。
- 保存した構成を開くには、以下の手順を実行します。
  1. 「ファイル」 > 「開く」をクリックします。
  2. 表示されるウィンドウで、使用する構成が含まれているファイルを選択します。
- オブジェクトのプロパティを変更するには、以下のようになります。
  1. 「IBM Content Collector for SAP Applications - Utility Client」ウィンドウのナビゲーション・ペインで、「すべてのオブジェクト」 > 「*object\_type*」 > 「*object\_name*」を展開します。  
  
*object\_type* は、オブジェクトのタイプ (SAP サーバーまたはプロファイルなど) を表します。*object\_name* は、変更するオブジェクトの名前を表します。
  2. 中央のコンテンツ・ペインで、「読み取り専用」チェック・ボックスをクリアします。
  3. 変更を加えます。
  4. 「読み取り専用」チェック・ボックスを選択して、変更を保存します。  
  
 「読み取り専用」チェック・ボックスが選択不可の場合は、プロパティを変更することはできません。しかし、ナビゲーション・ペインでオブジェクトを選択してから、「編集」 > 「コピー」をクリックすると、既存のオブジェクトの設定をコピーすることができます。

次の作業: Utility Client を使用して FileNet P8 文書をリンクするための環境を構成する場合は、288 ページの『Utility Client を使用して FileNet P8 文書をリンクするために Collector Serverを使用可能にする』を使用して続行します。

## 属性フィルターの作成

属性フィルターを使用すると、索引情報として値が転送される SAP 属性の数を制限できます。従って、属性フィルターにより、転送される使用可能な索引情報のサブセットが定義されます。属性フィルターは、索引転送プロファイル用および索引転送セッション用に定義することができます。

### 手順:

「IBM Content Collector for SAP Applications - Utility Client」ウィンドウで、「ファイル」 > 「新規」 > 「属性フィルター」をクリックします。「属性フィルターの新規作成」ウィザードが開きます。  
 フィルターの作成方法については、「属性フィルターの新規作成」ウィザードのヘルプ・ペインを参照してください。

## Utility Client の設定の変更

Utility Client に対して作成するトレースとログ、およびサーバーへの接続がタイムアウトする時期を指定できます。さらに、Utility Client GUI の表示スタイルと言語を変更できます。

手順:

1. 「IBM Content Collector for SAP Applications - Utility Client」ウィンドウで、「ファイル」 > 「設定」をクリックします。
2. 「ロギング/トレース」ページでは、以下のように指定することができます。
  - a. 「ログ・ファイルのパス」フィールドで、ログが含まれるファイルの絶対パスを指定します。

例えば、以下のように入力します。

```
C:\Program Files\IBM\ICCSAP\UtilityClient\UC.log
```

- b. 「トレース・ファイルのパス」フィールドで、トレースが含まれるファイルの絶対パスを指定します。

例えば、以下のように入力します。

```
C:\Program Files\IBM\ICCSAP\UtilityClient\UC.trc
```

- c. 「トレース」の下で、「トレースをオフ」を選択するか、Utility Client に対して作成するトレースとログを選択します。

例えば、「すべてのコンポーネントをトレース」をクリックします。

- d. 「表示するログ項目の最大数」フィールドで、「IBM Content Collector for SAP Applications - Utility Client」ウィンドウの下部に表示するログ項目の数を指定します。ログ項目は、そのウィンドウで「ログを表示」をクリックすると表示されます。

例えば、以下のように入力します。

```
50
```

3. 「接続」ページで、サーバーへの接続を確立できない場合に Utility Client によってエラーが表示されるまでの時間を、ミリ秒で指定します。

例えば、以下のように入力します。

```
45000
```

4. 「外観」ページで、「ルック・アンド・フィール」リストから、Utility Client GUI の表示スタイルを選択します。

例えば、「Windows」を選択します。

**注:** Utility Client GUI の表示スタイルは、この選択のみから影響を受けます。オペレーティング・システムの設定からは独立しています。

5. 「言語」ページで、「現在の言語」リストから、Utility Client GUI の言語を選択します。デフォルトの言語は、「英語 (米国) (English (United States))」です。
6. 「OK」をクリックします。

**重要:** Utility Client GUI の表示スタイルを変更した場合、または言語をヘブライ語に変更した場合は、変更内容を有効にするために Utility Client を再始動します。



---

## 第 25 章 Viewing Client の構成

アーカイブに保存された文書を外部のビューアー・アプリケーション (Web ブラウザーなど) で表示する場合は、Viewing Client を構成します。

始める前に:

1. クライアント・パッケージから Viewing Client をインストールします。詳しくは、105 ページの『コンソール・モードまたは GUI モードでのクライアント・パッケージのインストール』を参照してください。
2. 139 ページの『第 19 章 Content Collector for SAP で使用するためにアーカイブを構成する』。
3. 159 ページの『第 20 章 Collector Serverの構成』

---

### 「Viewing Client

Viewing Client を始動すると、「IBM Content Collector for SAP Applications - Viewing Client セットアップ」ウィンドウが開きます。Viewing Client を初めて始動するときに、それぞれの環境や好みに応じて設定を変更する必要があります。

「スタート」 > 「すべてのプログラム」 > 「IBM Content Collector for SAP Applications」 > 「Viewing Client」をクリックして、Viewing Client を始動します。「IBM Content Collector for SAP Applications - Viewing Client セットアップ」ウィンドウが開きます。

手順:

1. 『Collector Serverへの接続の定義』
2. 242 ページの『一時ファイルのディレクトリーの指定』
3. 242 ページの『ビューアー・アプリケーションの指定』
4. 243 ページの『アプリケーションを閉じる機能を有効にする』
5. オプション: 243 ページの『Viewing Client のロギングとトレースの機能を有効にする』
6. 245 ページの『Viewing Client のセットアップの完了』

### Collector Serverへの接続の定義

アーカイブに保存する文書を表示する場合は、その文書にアクセスできる Collector Serverに Viewing Client を接続する必要があります。

「IBM Content Collector for SAP Applications - Viewing Client セットアップ」ウィンドウの「サーバー接続」の下で、以下の情報を指定します。

1. 「アーカイブ・ホスト/IP アドレス」フィールドに、Collector Server のホスト名または IP アドレスを入力します。

Collector Serverと Viewing Client が同じコンピューターにインストールされていない環境でホスト名を指定する場合は、myhost.yourserver.com のような完全修

飾ホスト名を使用してください。デフォルト値は、Internet Protocol バージョン 4 (IPv4) では 127.0.0.1、Internet Protocol バージョン 6 (IPv6) では ::1 (ローカル・ホスト) です。

2. 「ポート」フィールドに、すべての Content Collector for SAP クライアント によって Collector Server への接続に使用される TCP/IP 登録ポートを入力します。サーバー構成プロファイルの ARCHPRO\_PORT キーワードに指定したポート番号を使用します。

例えば、以下のように入力します。

5500

3. 「テスト」をクリックして、Viewing Client と指定の Collector Server の間に接続を確立できるかどうかを確認します。テスト結果がボタンの右に表示されます。エラーが発生すると、エラーの説明が別のウィンドウに表示されます。

Viewing Client が指定の Collector Server に接続できた場合は、接続状況が「OK」に設定され、緑の丸印が表示されます。

接続を確立できなかった場合は、接続状況が「失敗」に設定され、赤の十字印が表示されます。

次の作業: 『一時ファイルのディレクトリーの指定』

## 一時ファイルのディレクトリーの指定

デフォルトでは、Viewing Client は、一時ファイルをインストール・ディレクトリーに格納します。別のディレクトリーを指定することもできます。

「IBM Content Collector for SAP Applications - Viewing Client セットアップ」ウィンドウの「作業パス」の下で、以下の情報を指定します。

Viewing Client が一時ファイルを格納するディレクトリーの絶対パスを指定します。

例えば、以下のように入力します。

C:\Program Files\IBM\ICCSAP\ViewingClient\

次の作業: 『ビューアー・アプリケーションの指定』

## ビューアー・アプリケーションの指定

Web ブラウザーまたは他のビューアー・アプリケーションを使用して、アーカイブに保存する文書を表示できます。自分で選択したビューアー・アプリケーションを指定できます。

**始める前に:** 180 ページの『Hypertext Transfer Protocol (HTTP) を介した Collector Server と SAP の間の接続のセットアップ』を使用して Collector Server と SAP 間の接続を構成します。

Web ブラウザーを使用する場合は、注釈処理アプレットを使用して、アーカイブに保存する文書に注釈を追加したり、メール・アプレットを使用して、それらの文書を E メールに添付したりすることができます。メール・アプレットを使用すると、注釈が添付ファイルに組み込まれることが保証されます。

「IBM Content Collector for SAP Applications - Viewing Client セットアップ」ウィンドウの「表示」の下で、以下の情報を指定します。

- Web ブラウザーを使用する場合は、「ブラウザー表示」をクリックして、以下の詳細を指定します。

1. 「WebPort」フィールドで、HTTP ディスパッチャーがその要求の取得に使用する TCP/IP ポートを指定します。サーバー構成プロファイルの WEBPORT キーワードで指定したポートを使用します。

例えば、以下のように入力します。

5580

2. 「注釈の処理」機能と「E メールの送信」機能をブラウザーに表示する場合は、「拡張機能性」チェック・ボックスを選択します。「注釈の処理」を使用すれば、アーカイブされた文書に注釈テキストを追加できます。「E メールの送信」を使用すれば、表示する文書を注釈と一緒に E メールに添付できます。

この例では、チェック・ボックスを選択しないでください。

3. 「Web ビューアー」フィールドで、ブラウザー・プログラムの絶対パスを指定します。

例えば、Internet Explorer のパスを選択します。

- 別のビューアー・アプリケーションを使用する場合は、「ネイティブ表示」を選択し、「ネイティブ・ビューアー」フィールドでビューアー・アプリケーションの絶対パスを指定します。

例えば、Internet Explorer のパスを選択します。

次の作業: 『アプリケーションを閉じる機能を有効にする』

## アプリケーションを閉じる機能を有効にする

Viewing Client で SAP から送られてくる doCloseWindow 要求に応答する機能を有効にできます。そのようにすると、Viewing Client は、自身が始動したすべてのアプリケーションを閉じて、すべての一時ファイルを削除できるようになります。

「IBM Content Collector for SAP Applications - Viewing Client セットアップ」ウィンドウの「ファイルおよびビューアー管理」の下で、「Viewing Client が一時ファイルを削除して、開いているすべてのビューアー・アプリケーションを閉じる」チェック・ボックスを選択します。

次の作業: 『Viewing Client のロギングとトレースの機能を有効にする』

## Viewing Client のロギングとトレースの機能を有効にする

Viewing Client のアクティビティをログ・ファイルとトレースに記録する機能を有効にできます。有効にできるのは、一般的なログ・ファイル、Viewing Client と Collector Server 間の通信に関する情報を記録するログ・ファイル、エラー分析のためのトレースです。さらに、ログ・ファイルとトレースの格納場所を指定することもできます。

しかし、ロギングおよびトレースは Content Collector for SAP のパフォーマンスに影響を与えることに注意してください。

可能であれば、すべてのログ・ファイルとトレースのパスとして、一時ファイルを格納する場所のパスを使用してください。

「IBM Content Collector for SAP Applications - Viewing Client セットアップ」ウィンドウの「ロギングおよびトレース」の下で、以下の情報を指定します。

- 一般的なロギングを有効にするには、以下の手順を実行します。
  1. 「ログ・ファイル」フィールドの横にある「使用可能」チェック・ボックスを選択します。
  2. 「ログ・ファイル」フィールドで、ログ・ファイルの絶対パスを指定します。自分で選択したパスを指定できます。

例えば、以下のように入力します。

```
C:\Program Files\IBM\ICCSAP\ViewingClient\ICCSAP_VC.log
```

- Viewing Client と Collector Serverの間の通信に関する情報を記録するには、以下の手順を実行します。
  1. 「API トレース・ファイル」フィールドの横にある「使用可能」チェック・ボックスを選択します。
  2. 「API トレース・ファイル」フィールドで、トレース・ファイルの絶対パスを指定します。自分で選択したパスを指定できます。

例えば、以下のように入力します。

```
C:\Program Files\IBM\ICCSAP\ViewingClient\ICCSAP_ClientAPI.trc
```

- Viewing Client のアクティビティに関する詳細を収集するには、以下の手順を実行します。
  1. 「クライアント・トレース・ファイル」フィールドの横にある「使用可能」チェック・ボックスを選択します。
  2. 「クライアント・トレース・ファイル」フィールドで、トレース・ファイルの絶対パスを指定します。自分で選択したパスを指定できます。

例えば、以下のように入力します。

```
C:\Program Files\IBM\ICCSAP\ViewingClient\ICCSAP_VC.trc
```

3. 「ファイルの最大サイズ」フィールドで、矢印をクリックして、トレースの最大サイズ (KB 単位) を選択します。最大で 10240 KB までの数値を指定できます。トレースがその制限値を超えると、最も古い情報が上書きされます。

例えば、以下のように入力します。

```
300
```

4. Viewing Client を始動するたびに既存のトレースを削除する場合は、「トレース・ファイルのクリア」チェック・ボックスを選択します。

注: そのチェック・ボックスを選択すると、同じエラーが繰り返される場合に、エラー・リカバリーに関する貴重な情報が失われる可能性があります。

次の作業: 245 ページの『Viewing Client のセットアップの完了』

## Viewing Client のセットアップの完了

「OK」をクリックして、構成を検証します。

設定が正しければ、構成がクライアント構成プロファイルに保存されます。

次の作業: 『Collector Serverで Viewing Client を使用できるようにする』

---

### Collector Serverで Viewing Client を使用できるようにする

Collector Serverを使用可能にして、少なくとも 1 つのクライアント・ディスパッチャーを始動する必要があります。

手順:

1. 使用する Collector Serverのサーバー構成プロファイルをテキスト・エディターで開きます。
2. ARCHWINS キーワードを 0 より大きい値に設定します。
3. サーバー構成プロファイルを保存し、Collector Serverを再始動して変更を有効にしてください。

次の作業: アーカイブされた文書を表示するための環境を構成する場合は、301 ページの『SAP への Archiving Client の登録』 を使用して続行します。

---

### 他のコンピューターへの Viewing Client とその設定の配布

同じ設定の Viewing Client を複数のコンピューターに配置する必要がある場合があります。このような場合は、1 つのコンピューターに Viewing Client をインストールおよびセットアップしてから、インストールと設定を他のコンピューターにコピーすることができます。

始める前に: 241 ページの『「Viewing Client」』

手順:

1. Viewing Client のインストール・ディレクトリーを他のコンピューターにコピーします。
2. Viewing Client のインストール・ディレクトリーにある csclient.dll ファイルを、他のコンピューターの Viewing Client インストール・システムのディレクトリーにコピーします。
3. %SystemRoot% ディレクトリーにあるファイル CSCClient.ini を、他のコンピューターの %SystemRoot% ディレクトリーにコピーします。



---

## 第 26 章 基本タスク向け環境の構成

データと印刷リストのアーカイブと表示、および文書のアーカイブ、リンクおよび表示は、実行する頻度が最も高いと思われる基本的なタスクです。基本環境として必要になるのは、SAP GUI、Collector Server、および 1 つ以上のアーカイブです。一部のタスクでは、追加の Content Collector for SAP コンポーネントが必要になります。以下のセクションでは、基本タスク向けに環境を構成する方法と、必要な追加のコンポーネントについて説明します。

ここでは、SAP のみで構成するタスクは扱っていません。Content Collector for SAP のコンポーネントを 1 つ以上構成する必要があるタスクのみを扱っています。

---

### データをアーカイブするための構成

Content Collector for SAP は、さまざまなデータ・アーカイブ・ソリューションをサポートしています。例えば、ハード・ディスク、磁気テープ、または WORM などの、さまざまなメディアでのデータのアーカイブをサポートしています。さらに、あるメディアから別のメディアへのデータの自動的な移動もサポートしています。データをアーカイブするには、基本環境が必要です。

#### 始める前に:

1. 129 ページの『第 18 章 環境の準備』。
2. 139 ページの『第 19 章 Content Collector for SAP で使用するためにアーカイブを構成する』。
3. 159 ページの『第 20 章 Collector Serverの構成』。Hypertext Transfer Protocol (HTTP) 接続または Remote Function Call (RFC) 接続を構成します。

248 ページの図 3 は、データをアーカイブできるようにするために、Content Collector for SAP 環境のどの部分を構成する必要があるかを示します。

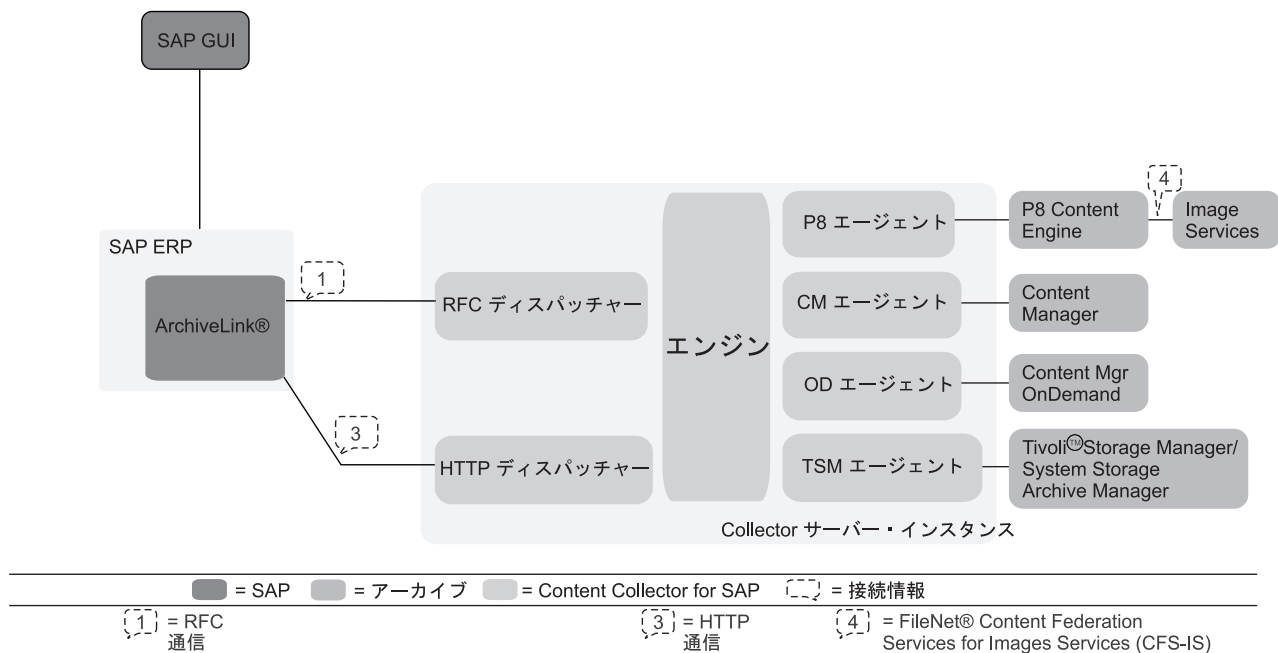


図3. データのアーカイブのためのユーザーの Content Collector for SAP 環境の構成

このトピックの始めにリストされている前提条件タスクを完了することによって、以下の部分が構成されることになります。

- データが格納されるアーカイブ
- Collector Server
- Collector Serverと SAP の間の HTTP 接続または RFC 接続

データをアーカイブするためのユーザーの環境の構成に必要なその他のタスクは、銀行のマスター・データを参照するサンプル・アーカイブ・オブジェクト FI\_BANKS を使用して説明されます。銀行のマスター・データは通常、アーカイブされません。したがって、サンプル・アーカイブ・オブジェクトは、SAP の実動システムで使用できます。

手順:




1. 『サンプル・アーカイブ・オブジェクト FI\_BANKS のセットアップ』
2. 249 ページの『SAP ArchiveLink パスの構成』
3. 251 ページの『データ・アーカイブ構成の検査』
4. 252 ページの『サンプル・アーカイブ・オブジェクト用テスト・データの作成』
5. 252 ページの『アーカイブ・セットアップをテストするアーカイブ・セッションの実行』

## サンプル・アーカイブ・オブジェクト FI\_BANKS のセットアップ

サンプル・アーカイブ・オブジェクト FI\_BANKS を使用するために SAP を構成します。

手順:



1. SAP GUI でトランザクション・コード SARA を入力して、「アーカイブ管理: 初期画面 (Archive Administration: Initial Screen)」ウィンドウを開く。
2. 「オブジェクト名 (Object Name)」フィールドに以下のように指定する。  
FI\_BANKS
3. 「カスタマイズ (Customizing)」をクリックして、「データ・アーカイブのカスタマイズ (Data Archiving Customizing)」ウィンドウを開く。
4. 「アーカイブ・オブジェクト固有のカスタマイズ (Archiving Object-Specific Customizing)」で「テクニカル設定 (Technical Settings)」をダブルクリックする。
5. 「「アーカイブ・ビューのカスタマイズ」ビューの変更: 明細 (Change View "Customizing View for Archiving": Details)」ウィンドウで、以下の設定がまだ指定されていない場合は、それらを指定する。
  - a. 「ジョブの削除 (Delete Jobs)」で、「自動開始 (Start Automatically)」を選択する。
  - b. 「ファイルをストレージ・システムに配置 (Place File in Storage System)」の下で、以下を行う。
    - 1) 「コンテンツ・リポジトリ」フィールドで、データをアーカイブするアーカイブを指定する。サーバー構成プロファイルの ARCHIVE キーワードで指定した論理アーカイブ ID を使用します。  
  
例えば、以下のように入力します。  
A1
    - 2) 「自動開始 (Start Automatically)」チェック・ボックスを選択する。この設定によって、アーカイブ・セッションが実行されるときに、要求が自動的に Content Collector for SAP に送られ、SAP で生成されたファイルをアーカイブするようになります。
    - 3) 「順序 (Sequence)」の下で、「削除前に保管 (Store Before Deleting)」を選択する。
6. 「保管」アイコン  をクリックして、設定を保存します。
7. 「ワークベンチ要求プロンプト (Prompt for Workbench request)」ウィンドウの「要求 (Request)」フィールドで要求を 1 つ選択する。要求がまだ存在しない場合は、「作成 (Create)」アイコン  をクリックして要求を作成します。
8. 「続く (Continue)」アイコン  をクリックして、「「アーカイブ・ビューのカスタマイズ」ビューの変更: 明細 (Change View "Customizing View for Archiving": Details)」ウィンドウに戻る。

次の作業: 『SAP ArchiveLink パスの構成』

## SAP ArchiveLink パスの構成

SAP ArchiveLink パスを構成するには、以下の手順を実行します。

始める前に: 248 ページの『サンプル・アーカイブ・オブジェクト FI\_BANKS のセットアップ』

手順:

1. SAP GUI でトランザクション・コード FILE を入力して、「「論理ファイル・パス定義」ビューの変更: 全容表示 (Change View "Logical File Path Definition": Overview)」ウィンドウを開く。警告: テーブルはクロス・クライアントです。(Caution: The table is cross-client.) というメッセージを含むウィンドウが表示された場合は、Enter を押します。
2. 表で、この項目が含まれている行の先頭セルをクリックして、**ARCHIVE\_GLOBAL\_PATH** を選択する。
3. 左方の「ダイアログ構造 (Dialog Structure)」ペインの「論理パスに対する物理パスの割り当て (Assignment of Physical Paths to Logical Path)」をダブルクリックする。




「「論理パスに対する物理パスの割り当て」ビューの変更: 全容表示 (Change View "Assignment of Physical Paths to Logical Path": Overview)」ウィンドウが開きます。

4. 表の Syntax grp 列で、使用するオペレーティング・システムの項目をダブルクリックする。

例えば、「UNIX」をダブルクリックします。

5. 「物理パス (Physical path)」として、交換ディレクトリーの絶対パスを指定する。SAP アプリケーションはこのディレクトリーに、Content Collector for SAP でアーカイブされるファイルを保存する必要があります。サーバー構成プロファイルの BASEPATH キーワードで指定したパスを使用します。

例えば、以下のように入力します。  
/home/sap/transfer/base/

6. 左方の「ダイアログ構造 (Dialog Structure)」ペインで、「論理ファイル名定義、クロス・クライアント (Logical File Name Definition, Cross-Client)」をダブルクリックする。
7. 「「論理ファイル名定義、クロス・クライアント」ビューの変更: 全容表示 (Change View "Logical File Name Definition, Cross-Client": Overview)」ウィンドウで、**ARCHIVE\_DATA\_FILE\_WITH\_ARCHIVE\_LINK** をダブルクリックする。
8. 「論理パス (Logical path)」フィールドに **ARCHIVE\_GLOBAL\_PATH** が表示されているかどうか確認する。必要に応じてパスを修正してください。
9. 「保管」アイコン  をクリックして設定を保存します。次に、「戻る (Back)」アイコン  をクリックします。
10. 「「論理ファイル名定義、クロス・クライアント」ビューの変更: 全容表示 (Change View "Logical File Name Definition, Cross-Client": Overview)」ウィンドウで、**ARCHIVE\_DATA\_FILE** テーブル項目をダブルクリックする。
11. 「論理パス (Logical path)」フィールドに **ARCHIVE\_GLOBAL\_PATH** が表示されているかどうか確認する。必要に応じてパスを修正してください。
12. 「保管」アイコン  をクリックして、設定を保存します。


次の作業: 251 ページの『データ・アーカイブ構成の検査』



## データ・アーカイブ構成の検査

サンプル・アーカイブ・オブジェクト FI\_BANKS の構成を検査します。

始める前に: 249 ページの『SAP ArchiveLink パスの構成』

手順:

1. SAP GUI でトランザクション・コード SARA を入力して、「アーカイブ管理: 初期画面 (Archive Administration: Initial Screen)」ウィンドウを開く。
2. 「オブジェクト名 (Object Name)」フィールドに以下のように指定する。  
FI\_BANKS
3. 「カスタマイズ (Customizing)」をクリックして、「データ・アーカイブのカスタマイズ (Data Archiving Customizing)」ウィンドウを開く。
4. 「アーカイブ・オブジェクト固有のカスタマイズ (Archiving Object-Specific Customizing)」で「テクニカル設定 (Technical Settings)」をダブルクリックする。
5. 「「アーカイブ・ビューのカスタマイズ」ビューの変更: 明細 (Change View "Customizing View for Archiving": Details)」ウィンドウで、以下の設定を確認します。
  - a. 「論理ファイル名 (Logical File Name)」フィールドの値が以下のいずれかであることを確認する。
    - ARCHIVE\_DATA\_FILE
    - ARCHIVE\_DATA\_FILE\_WITH\_ARCHIVE\_LINK
  - b. 「削除プログラムの設定 (Settings for Delete Program)」で、「テスト・モード・バリエーション (Test Mode Variant)」に、以下のようなテスト・バリエーションが含まれていることを確認する。  
SAP&TEST
  - c. 「本稼働モード・バリエーション (Production Mode Variant)」フィールドに、以下のような本稼働バリエーションが含まれていることを確認する。  
SAP&PROD
  - d. 「ジョブの削除 (Delete Jobs)」で、「自動開始 (Start Automatically)」が選択されているかどうかを確認する。
  - e. 「ファイルをストレージ・システムに配置 (Place File in Storage System)」の下で、「コンテンツ・リポジトリ (Content Repository)」フィールドに正しいアーカイブが指定されていることを確認する。  
  
例えば、A1 が指定されているかどうかを確認します。
  - f. 「自動開始 (Start Automatically)」チェック・ボックスが選択されているかどうかを確認する。この設定によって、アーカイブ・セッションが実行されるたびに、要求が自動的に Content Collector for SAP に送られ、SAP で生成されたファイルをアーカイブするようになります。
  - g. 「順序 (Sequence)」の下で、「削除前に保管 (Store Before Deleting)」が選択されているかどうかを確認する。
6. 「保管」アイコン  をクリックして、設定を保存します。

7. 「ワークベンチ要求プロンプト (Prompt for Workbench request)」ウィンドウの「要求 (Request)」フィールドで要求を 1 つ選択する。 要求がまだ存在しない場合は、「作成 (Create)」アイコン  をクリックして要求を作成します。
8. 「続く (Continue)」アイコン  をクリックして、「「アーカイブ・ビューのカスタマイズ」ビューの変更: 明細 (Change View "Customizing View for Archiving": Details)」ウィンドウに戻る。

設定が保存されます。


次の作業: 『サンプル・アーカイブ・オブジェクト用テスト・データの作成』

## サンプル・アーカイブ・オブジェクト用テスト・データの作成

サンプル・アーカイブ・オブジェクト FI\_BANKS 用のテスト・データを作成するには、以下の手順を実行します。

始める前に: 251 ページの『データ・アーカイブ構成の検査』

手順:

1. SAP GUI でトランザクション・コード FI01 を入力して、「銀行の登録: 初期画面 (Create Bank: Initial Screen)」ウィンドウを開きます。
2. 「銀行の国 (Bank Country)」フィールドに、以下のように入力する。  
AD
3. 「銀行キー (Bank Key)」フィールドに、以下のように入力する。  
1234567
4. Enter を押します。
5. 「銀行の登録: 初期画面 (Create Bank: Detail Screen)」ウィンドウで、「銀行名 (Bank name)」フィールドに Archiving test と入力します。
6. 「保管」アイコン  をクリックして、設定を保存します。

次の作業: 『アーカイブ・セットアップをテストするアーカイブ・セッションの実行』

## アーカイブ・セットアップをテストするアーカイブ・セッションの実行

アーカイブ・オブジェクト FI\_BANKS 用のテスト・データをアーカイブして、セットアップをテストします。

始める前に: 『サンプル・アーカイブ・オブジェクト用テスト・データの作成』


手順:

1. SAP GUI でトランザクション・コード SARA を入力して、「アーカイブ管理: 初期画面 (Archive Administration: Initial Screen)」ウィンドウを開く。
2. 「オブジェクト名 (Object Name)」フィールドに以下のように指定する。  
FI\_BANKS

3. オプション: 必要に応じて、「**カスタマイズ (Customizing)**」をクリックして構成設定を検査し、修正する。
4. 「**書き込み (Write)**」をクリックする。
5. 「アーカイブ管理: アーカイブ・ファイルの作成 (Archive Administration: Create Archive Files)」ウィンドウで、「**バリエント (Variant)**」フィールドにバリエントを指定する。




例えば、以下のように入力します。




test\_variant

6. 「**保守 (Maintain)**」をクリックする。
7. 「バリエント: 画面割り当ての変更 (Variants: Change Screen Assignment)」ウィンドウで、「**すべての選択画面を対象にする (For All Selection Screens)**」を選択し、 アイコンをクリックする。
8. 「**保守 (Maintain)**」をもう一度クリックする。
9. 「バリエントの保守 (Maintain Variant)」ウィンドウで、以下の情報を指定する。
  - a. 「**銀行マスター・データ (Bank Master Data)**」の下で、「**銀行の国 (Bank Country)**」フィールドに AD と入力する。
  - b. 「**制限 (Restrictions)**」の下で、「**削除インディケータのみ使用 (Only With Deletion Indicator)**」チェック・ボックスをクリアする。
  - c. 「**システムでの最小日数 (Min.No.of Days in the System)**」フィールドに、以下のように入力する。  
0
  - d. 「**処理オプション (Processing Options)**」の下で「**実動モード (Production Mode)**」をクリックする。
  - e. 「**詳細ログ (Detail Log)**」リストから「**完了 (Complete)**」を選択する。
  - f. 「**ログ出力 (Log Output)**」リストから「**リスト (List)**」を選択する。
  - g. 「**セッション・ノートのアーカイブ (Archiving Session Note)**」フィールドに説明を入力する。

例えば、以下のように入力します。

Content Collector for SAPTest

10. 「**保管**」アイコン  をクリックして、設定を保存します。
11. 「**戻る (Back)**」アイコン  をクリックする。
12. アーカイブ・セッションがいつ実行されるかを指定するには、以下の手順を実行する。
  - a. 「アーカイブ管理: アーカイブ・ファイルの作成 (Archive Administration: Create Archive Files)」ウィンドウで、「**開始日**」をクリックする。
  - b. 「**開始時刻**」ウィンドウで、「**即時 (Immediate)**」をクリックする。
  - c. ウィンドウの下部にある「**保管**」アイコン  をクリックする。
13. 出力デバイスを指定するには、以下の手順を実行します。

- a. 「アーカイブ管理: アーカイブ・ファイルの作成 (Archive Administration: Create Archive Files)」ウィンドウで、「パラメーターのスポール (Spool Params)」をクリックする。
  - b. 「バックグラウンド印刷パラメーター (Background Print Parameters)」ウィンドウで、「出力装置 (Output Device)」フィールドに適切なプリンターを入力する。  
  
例えば、以下のように入力します。  
LP01
  - c. 「続く (Continue)」アイコン  をクリックします。
14. 「アーカイブ管理: アーカイブ・ファイルの作成 (Archive Administration: Create Archive Files)」ウィンドウで、「実行 (Execute)」アイコン  をクリックしてアーカイブ・セッションを実行する。
15. 「ジョブの概要 (Job Overview)」アイコン  をクリックする。

「ジョブの概要 (Job Overview)」ウィンドウに、このアーカイブ・セッション用に開始されたさまざまなジョブが表示される。no はジョブに割り当てられている番号を表す。

```
ARV_FI_BANKS_SUBno  submit
ARV_FI_BANKS_WRI no  write
ARV_FI_BANKS_DEL no  delete
ARV_FI_BANKS_STO no  store
```

STO ジョブが完了した後に、「ファイルをストレージ・システムに配置 (Place File in Storage System)」の下で「「アーカイブ・ビューのカスタマイズ」ビューの変更: 明細 (Change View "Customizing View for Archiving": Details)」ウィンドウの「自動開始 (Start Automatically)」チェック・ボックスが選択されている場合は、要求は自動的に Content Collector for SAP に送信され、SAP で生成されたファイルがアーカイブされる。

---

## BC-ILM を使用してデータをアーカイブするための構成

WebDAV Storage Interface for SAP NetWeaver Information Lifecycle Management (BC-ILM) を使用してデータをアーカイブするには、SAP Application Server を J2EE Engine として、または ABAP Engine および J2EE Engine として、インストールする必要があります。BC-ILM インターフェースを使用してデータをアーカイブするには、アーカイブとしての Tivoli Storage Manager が必要です。

### 始める前に:

1. 129 ページの『Collector Server・インスタンスの構成』。
2. 132 ページの『Tivoli Storage Manager 用の環境を構成する』。
3. 154 ページの『Content Collector for SAP で使用するために Tivoli Storage Manager を構成する』。XML ベースのデータ・アーカイブ用にアーカイブ・コピー・グループを作成したことを確認してください。
4. 174 ページの『Tivoli Storage Manager で使用するために Collector Server を構成する』。
5. 181 ページの『HTTP ディスパッチャーの数の設定』。

6. 191 ページの『Collector Server を初めて始動する』。

図4 は、SAP データのライフサイクル管理が Content Collector for SAP とどのように統合されるかの概要を示します。

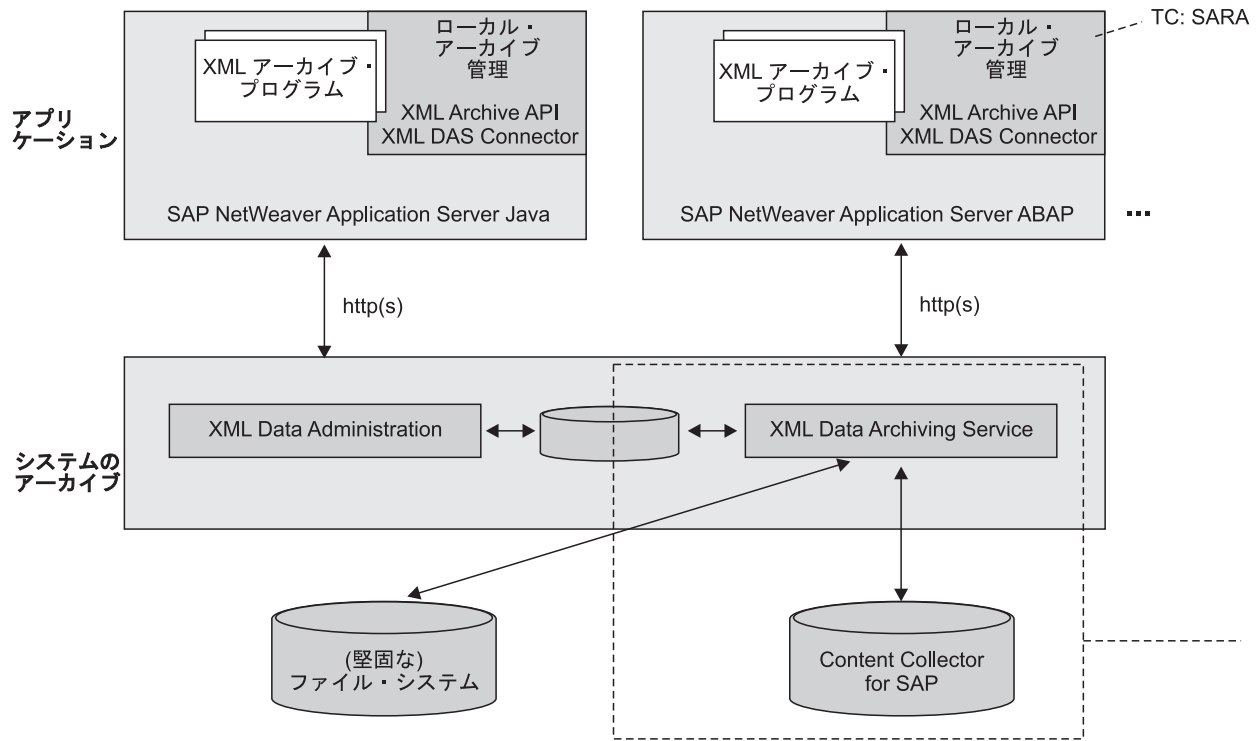


図4. ライフサイクル管理環境の概要

図5 は、BC-ILM を使用してデータをアーカイブできるようにするために、Content Collector for SAP 環境のどの部分を構成する必要があるかを示します。

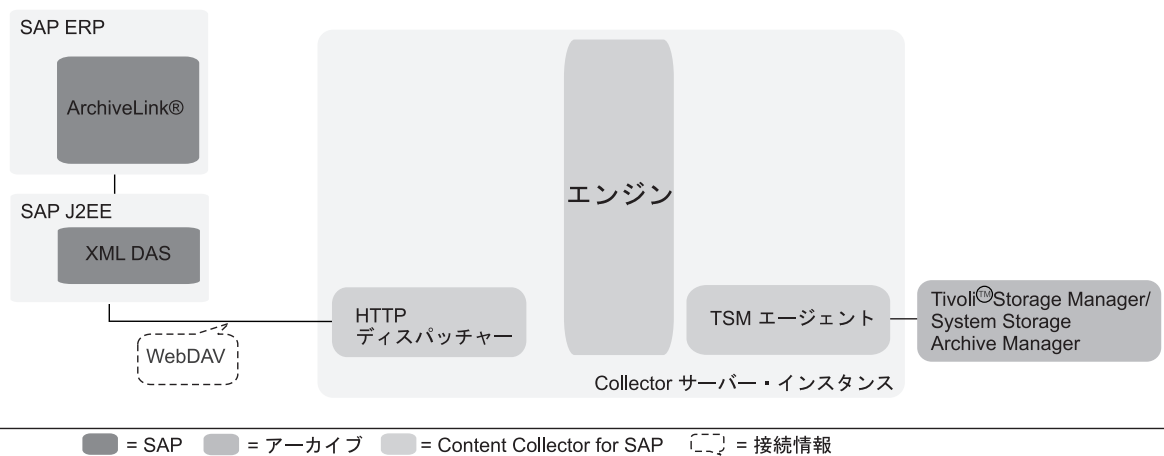


図5. BC-ILM を使用してデータをアーカイブするための Content Collector for SAP 環境の構成

このトピックの始めにリストされている前提条件タスクを完了することによって、以下の部分が構成されることになります。

- Tivoli Storage Manager、データが格納される場所

- Collector Server
- Collector Server と SAP の間の通信用に、少なくとも 1 つの HTTP ディスパッチャー

BC-ILM を使用してデータをアーカイブするには、XML Data Archiving Service (XML DAS) およびユーザーの SAP システムを構成する必要があります。さらに、Content Collector for SAP を詳細に構成する必要があります。以下の手順で行います。

1. 『ILM 対応データ・アーカイブのためのユーザーの作成』
2. 258 ページの『BC\_ILM を使用したデータ・アーカイブのための Collector Serverの使用可能化』
3. 259 ページの『空の Tivoli Storage Manager アーカイブにルート・コレクションを作成する』
4. 260 ページの『XML Data Archiving Service (XML DAS) での宛先の作成』
5. 261 ページの『XML Data Archiving Service (XML DAS) でのアーカイブ・ストアの作成』
6. 262 ページの『SAP Web Application Server ABAP と XML Data Archiving Service (XML DAS) の間の接続の構成』
7. 263 ページの『Tivoli Storage Manager アーカイブでのアーカイブ・オブジェクトに対するホーム・パスの作成』
8. 264 ページの『アーカイブ・ストアへのホーム・パスの割り当て』


## ILM 対応データ・アーカイブのためのユーザーの作成

XML Data Archiving Service (XML DAS) を使用してデータをアーカイブすることを許可されたユーザーを作成します。このユーザーには、XMLDAS という名前を付ける必要があります。このユーザーを作成する手順は、ユーザー・データが SAP J2EE データベースと SAP ECC データベースのどちらに格納されているかに応じて異なります。

このようなユーザーを作成することを許可されている管理者が既に存在するものとします。

### ユーザー・データが SAP J2EE データベースに格納される場合の ILM 対応データ・アーカイブ用のユーザーを作成

SAP Application Server を J2EE エンジンとしてインストールした場合は、以下の手順を実行します。

1. J2EE Engine Visual Administrator を始動する
2. 左側のナビゲーション・ペインで、「クラスター (Cluster)」タブをクリックします。
3. ご使用のサーバーを選択し、「サービス (Services)」 > 「セキュリティー・プロバイダー (Security Provider)」を選択します。
4. コンテンツ・ペインで、「編集モードに切り替える (Switch to the edit mode)」アイコン  をクリックします。
5. ユーザー XMLDAS を作成します。




- a. コンテンツ・ペインで、「**ユーザー管理 (User Management)**」 タブをクリックします。
  - b. 「**ユーザーの作成 (Create User)**」 をクリックします。
  - c. 「**新規ユーザーの作成 (Create New User)**」 ウィンドウで、ユーザーの名前を入力します。ここでは、次のように入力します。  
XMLDAS
- 後で、サーバー構成プロファイルで、およびデータに対して宛先を作成するときに、このユーザー名を指定する必要があります。
- d. ユーザーのパスワードを入力します。「**パスワードの確認 (Confirm password)**」 フィールドに、パスワードを繰り返し入力します。それから、「**OK**」 をクリックします。
6. ユーザー XMLDAS のプロパティを変更します。
    - a. 「**ユーザー管理 (User Management)**」 ページの「**ユーザー**」 ページで、「**名前**」 フィールドに XMLDAS と入力します。次に、「**検索 (Search)**」 をクリックします。
    - b. 検索結果ボックスでユーザー「**XMLDAS**」 をクリックします。「**ユーザー管理 (User Management)**」 ページの中央にあるペインに、選択したユーザーのプロパティが表示されます。
    - c. 「**認証 (Authentication)**」 の下で、「**パスワードの変更は不要 (No password change required)**」 チェック・ボックスを選択します。
  7. ユーザー XMLDAS を必要なセキュリティ概念に追加します。
    - a. **Policy Configurations** タブをクリックします。
    - b. **Components** の下で、**sap.com/tc~TechSrv~XML\_DAS\*DataArchivingService** をクリックしてください。リストがアルファベット順にソートされていない場合があります。
    - c. 「**セキュリティ・ロール (Security Roles)**」 タブをクリックします。
    - d. 「**セキュリティ・ロール (Security Roles)**」 の下で、「**XMLDASecurityRole**」 をクリックします。
    - e. 「**ユーザー**」 の隣の「**マッピング (Mappings)**」 の下で、「**追加**」 をクリックして、選択したセキュリティ・ロールにユーザー XMLDAS を追加します。

次の作業: 258 ページの『BC\_ILM を使用したデータ・アーカイブのための Collector Serverの使用可能化』

## ユーザー・データが SAP ECC データベースに格納される場合の ILM 対応データ・アーカイブ用のユーザーを作成

SAP Application Server に ABAP および J2EE スタックをインストールした場合は、以下の手順を実行します。

1. 133 ページの『CPIC アクセス権限を持つユーザーの作成』. 以下の仕様に注意してください。
  - ユーザー名として XMLDAS を指定します。

- 「ユーザーの保守 (Maintain User)」ウィンドウの「ログオン・データ (Logon data)」ページで、「ユーザー・タイプ (User Type)」リストから「システム (System)」を選択します。
2. J2EE Engine Visual Administrator を始動する
  3. 左側のナビゲーション・ペインで、「クラスター (Cluster)」タブをクリックします。
  4. ご使用のサーバーを選択し、「サービス (Services)」 > 「セキュリティー・プロバイダー (Security Provider)」を選択します。
  5. コンテンツ・ペインで、「編集モードに切り替える (Switch to the edit mode)」アイコン  をクリックします。
  6. ユーザー XMLDAS を必要なセキュリティー概念に追加します。
    - a. **Policy Configurations** タブをクリックします。
    - b. **Components** の下で、**sap.com/tc~TechSrv~XML\_DAS\*DataArchivingService** をクリックしてください。 リストがアルファベット順にソートされていない場合があります。
    - c. 「セキュリティー・ロール (Security Roles)」タブをクリックします。
    - d. 「セキュリティー・ロール (Security Roles)」の下で、「XMLDASSecurityRole」をクリックします。
    - e. 「ユーザー」の隣の「マッピング (Mappings)」の下で、「追加」をクリックして、選択したセキュリティー・ロールにユーザー XMLDAS を追加します。

次の作業: 『BC\_ILM を使用したデータ・アーカイブのための Collector Serverの使用可能化』

## BC\_ILM を使用したデータ・アーカイブのための Collector Serverの使用可能化

サーバー構成プロファイルの適切な ARCHIVE セクションを変更することによって、Collector Serverが XML Data Archiving Service (XML DAS) に通信できるようにします。

始める前に: 256 ページの『ILM 対応データ・アーカイブのためのユーザーの作成』

手順:

1. 使用する Collector Serverのサーバー構成プロファイルをテキスト・エディターで開きます。
2. ILM 対応のデータ・アーカイブに対するアーカイブを定義する ARCHIVE セクションを検索します。ARCHIVE セクションで、STORAGETYPE キーワードは設定 TSM\_WEBDAV にする必要があります。

```
ARCHIVE A3
  STORAGETYPE TSM_WEBDAV
  .
  .
  .
```

サンプルのサーバー構成プロファイルは、このような ARCHIVE セクションの完全な例です。

3. WEBDAV\_AUTH キーワードには、ILM 対応のデータ・アーカイブを許可されていて、以前作成した、ユーザー XMLDAS を指定します。

```
ARCHIVE A3
  STORAGETYPE TSM_WEBDAV
  :
  :
  :
  WEBDAV_AUTH XMLDAS
```

4. 構成プロファイルを保存して、Collector Serverを停止します。
5. 以下の手順に従って、Collector Serverを再始動します。
  - a. コマンド行を開いて、インスタンス・ディレクトリーに変更します。
  - b. 以下のコマンドを入力します。

```
archpro -f webdavpasswd <xmldas_password>
```

<xmldas\_password> は、ユーザー XMLDAS のパスワードを表します。

次の作業: 『空の Tivoli Storage Manager アーカイブにルート・コレクションを作成する』

## 空の Tivoli Storage Manager アーカイブにルート・コレクションを作成する

Content Collector for SAP には、ルート・コレクションを作成するためのコマンド行ツールが用意されています。

始める前に: 258 ページの『BC\_ILM を使用したデータ・アーカイブのための Collector Serverの使用可能化』

手順:

1. Content Collector for SAP ユーザー ID で、オペレーティング・システムにログオンします。
2. コマンド行で、Collector Server・インストール・システムの bin ディレクトリーに変更します。
3. 以下のコマンドを入力します。

```
manage_root_collection <port> <archive_id> <root_collection_path> create
```

<port> サーバー構成プロファイルに定義されている ARCHPRO\_PORT キーワードの値を指定します。

<archive\_id>

ルート・コレクションを作成する Tivoli Storage Manager アーカイブの論理アーカイブ ID を指定します。この ID はサーバー構成プロファイル内の ARCHIVE キーワードの隣に表示されます。ARCHIVE セクションには、以下の設定が含まれている必要があることに注意してください。

```
STORAGETYPE TSM_WEBDAV
```

<root\_collection\_path>

パスを以下のフォーマットで指定します。

```
/<node_1>/<node_2>/.../<node_N>/
```

各 <node\_i> は、ストレージ階層内の論理の名前です。単一のパスを使用する場合は、ルート・ノード (単一のスラッシュ (/) で示されます) で十分です。複数のパスが必要な場合は、オーバーラップしないようにしてください。

**例:**

```
manage_root_collection 5500 A3 /rootcoll1/ create
```

4. 既存の空のルート・コレクションを削除するには、次のコマンドを実行してください。

```
manage_root_collection <port> <archive_id> <root_collection_path> remove
```

パス全体が削除されます。

次の作業: 『XML Data Archiving Service (XML DAS) での宛先の作成』

## XML Data Archiving Service (XML DAS) での宛先の作成

宛先では、アーカイブする必要があるデータを指定します。

このトピックでは、サンプルの宛先である WEBDAV\_DEST を作成する方法を示します。

**始める前に:** 259 ページの『空の Tivoli Storage Manager アーカイブにルート・コレクションを作成する』

**手順:**

1. J2EE Engine Visual Administrator を始動します。
2. 左側のナビゲーション・ペインで、「**クラスター (Cluster)**」タブをクリックします。
3. 「**サービス (Services)**」 > 「**宛先**」を選択します。
4. 「ランタイム (Runtime)」ページの「宛先」ペインで、「**HTTP**」を選択します。
5. 宛先を作成するには「**新規 (New)**」をクリックします。
6. 開いたウィンドウで、宛先の名前を入力してから「**OK**」をクリックします。

例えば、以下のように入力します。

```
WEBDAV_DEST
```

7. 「**接続の設定 (Connection Settings)**」の下の「**URL**」フィールドに、以前に作成したルート・コレクションの絶対パスを入力します。このパスには以下のフォーマットを使用します。

```
http://<server>:<port><root_collection_path>
```

```
<server>
```

Collector Serverのホスト名または IP アドレスを指定します。

```
<port>
```

サーバー構成プロファイルに定義されている WEBPORT キーワードの値を指定します。

<root\_collection\_path>

ルート・コレクションへのパスを指定します。

例:

http://localhost:5580/rootcoll11/

8. 「ログオン・データ (Logon Data)」の下で、「認証 (Authentication)」リストから「BASIC」を選択します。
9. 「基本認証 (Basic Authentication)」の下で XMLDAS と入力します。
10. 「保管」をクリックします。
11. 必要に応じて、新しい宛先を使用できるようにするために宛先サービスを再始動します。

次の作業: 『XML Data Archiving Service (XML DAS) でのアーカイブ・ストアの作成』

## XML Data Archiving Service (XML DAS) でのアーカイブ・ストアの作成

アーカイブ・ストアを作成するには、以下の手順を実行します。

このトピックでは、サンプル・アーカイブ・ストアである WEBDAV\_STORE を作成する方法を示します。

始める前に: 260 ページの『XML Data Archiving Service (XML DAS) での宛先の作成』

手順:

1. 以下の Web アドレスを使用して、XML DAS Administration を開きます。  
http://<SAP J2EE Engine host>:<HTTP port>/DataArchivingService/DAS

Web アドレス 例:

http://sapj2ee:50000/DataArchivingService/DAS

2. ユーザー XMLDAS を使用して XML DAS Administration にログオンします。
3. 「アーカイブ・ストア管理 (Archive Store Management)」をクリックします。
4. 「定義 (Define)」をクリックします。
5. 以下の情報を指定します。
  - a. 「アーカイブ・ストア (Archive Store)」列で、ストアの名前を入力します。

例えば、以下のように入力します。

WEBDAV\_STORE

- b. オプション: 「説明」列で、説明を入力します。
- c. 「ストア・タイプ (Store Type)」列のリストから、「WebDAV システム (WebDAV System)」を選択します。
- d. 「宛先」列のリストから、以前に作成した宛先を選択します。

例えば、「WEBDAV\_DEST」を選択します。

- e. 「プロキシ・ポート (Proxy Port)」列で、必要に応じて、プロキシ・サーバーの HTTP ポートを入力します。
6. 「OK」をクリックして、アーカイブ・ストアを作成します。

次の作業: 『SAP Web Application Server ABAP と XML Data Archiving Service (XML DAS) の間の接続の構成』


## SAP Web Application Server ABAP と XML Data Archiving Service (XML DAS) の間の接続の構成

Hypertext Transfer Protocol (HTTP) 接続を作成します。

このトピックでは、サンプル接続 XML\_SRV\_CONN1 を作成する方法を示します。

始める前に: 261 ページの『XML Data Archiving Service (XML DAS) でのアーカイブ・ストアの作成』

手順:

1. SAP GUI で、トランザクション・コード SM59 を入力して「RFC 接続の構成 (Configuration of RFC Connections)」ウィンドウを開きます。
2. 「RFC 接続 (RFC Connections)」列で、「外部サーバーへの HTTP 接続 (HTTP Connections to External Server)」をクリックし、「作成 (Create)」アイコン  をクリックします。
3. 「RFC 宛先 (RFC Destination)」ウィンドウの「RFC 宛先 (RFC Destination)」フィールドに RFC 宛先の名前を入力します。

例えば、以下のように入力します。

XML\_SRV\_CONN1

4. 「説明」の下で、1 つ以上の「説明」フィールドに 1 つの説明を入力します。

例えば、以下のように入力します。

XML Data Archiving Service

5. 「テクニカル設定 (Technical Settings)」タブをクリックする。
6. 「ターゲット・システムの設定 (Target System Settings)」の下で、「ターゲット・ホスト (Target Host)」フィールドに SAP J2EE Engine のホスト名または IP アドレスを入力します。

例えば、以下のように入力します。


sapj2ee

7. 「パス・プレフィックス (Path Prefix)」フィールドに、XML DAS インストールへの相対パスを入力します。

例えば、以下のように入力します。

/DataArchivingService/DAS

8. 「ログオン & セキュリティー (Logon & Security)」タブをクリックします。メッセージ「HTTP 接続がセキュアではない可能性があります (HTTP connections may not be secure)」が表示されたら、Enter を押します。

9. 「ログオン手順 (Logon Procedure)」の下で、「基本認証 (Basic Authentication)」をクリックします。
10. メッセージ「HTTP ログオン手順を変更しますか (Do you want to change the HTTP logon procedure)」が表示されたら、「はい (Yes)」をクリックします。
11. 「特別なオプション (Special Options)」タブをクリックします。
12. 「HTTP バージョンの状況 (Status of HTTP Version)」の下で、「HTTP 1.1 (HTTP 1.1)」を選択します。
13. 「保管」アイコン  をクリックして、設定を保存します。
14. 「接続テスト (Connection Test)」をクリックして、接続を確立できるかどうかを検証します。

次の作業: 『Tivoli Storage Manager アーカイブでのアーカイブ・オブジェクトに対するホーム・パスの作成』

## Tivoli Storage Manager アーカイブでのアーカイブ・オブジェクトに対するホーム・パスの作成

各アーカイブ・オブジェクトに対して、アーカイブの空のルート・コレクションにホーム・パスを作成します。

このトピックでは、サンプル・アーカイブ・オブジェクトである BC\_SBOOK\_X に対してホーム・パスを作成する方法を示します。

始める前に: 262 ページの『SAP Web Application Server ABAP と XML Data Archiving Service (XML DAS) の間の接続の構成』

手順:

1. SAP GUI でトランザクション・コード SARA を入力して、「アーカイブ管理: 初期画面 (Archive Administration: Initial Screen)」ウィンドウを開く。
2. 「オブジェクト名 (Object Name)」フィールドに、例えば BC\_SBOOK\_X などのアーカイブ・オブジェクトの名前を指定します。
3. 「カスタマイズ (Customizing)」をクリックして、「データ・アーカイブのカスタマイズ (Data Archiving Customizing)」ウィンドウを開く。
4. 「基本カスタマイズ (Basis Customizing)」の下で、「ホーム・パスのカスタマイズ (Customizing of Home Paths)」をダブルクリックします。
5. 「「アーカイブ・ビューのカスタマイズ」ビューの変更: 明細 (Change View "Customizing View for Archiving": Details)」ウィンドウで、「ホーム・パス (Home Path)」フィールドに以下の項目が含まれるかどうかをチェックします。  
`<SYSID>/<CLIENT>/<OBJECT>/`

実行時に、個別のパラメーターは以下のように置き換えられます。

`<SYSID>`



ユーザーの SAP システムのシステム ID と置き換えられます。

`<CLIENT>`

SAP クライアントの名前と置き換えられます。

<OBJECT>

アーカイブ・オブジェクトの名前と置き換えられます。

6. 「戻る (Back)」アイコン  を 2 回クリックして 「データ・アーカイブのカスタマイズ (Data Archiving Customizing)」ウィンドウに戻ります。
7. 「基本カスタマイズ (Basis Customizing)」の下で、「ホーム・パスの同期 (Synchronization of Home Paths)」をダブルクリックします。
8. 「XML ベースのアーカイブのためのホーム・パスの同期 (Synchronization of Home Paths for XML-Based Archiving)」ウィンドウで、「実動モード (Production Mode)」をクリックし、「実行 (Execute)」アイコン  をクリックします。

例えば、SAP ID (SID) EC6 の SAP クライアント 800 で作業していて、ルート・コレクション・パスが /rootcoll1/ である場合、そのユーザーの Tivoli Storage Manager アーカイブには、その時点で、以下のフォルダー構造が含まれています。

```
/rootcoll1/ec6/  
/rootcoll1/ec6/800/  
/rootcoll1/ec6/800/bc_sbook_x
```

次の作業: 『アーカイブ・ストアへのホーム・パスの割り当て』

## アーカイブ・ストアへのホーム・パスの割り当て

XML Data Archiving Service (XML DAS) で作成したアーカイブ・ストアにホーム・パスを割り当てる必要があります。

このトピックでは、サンプル・アーカイブ・オブジェクト SB\_BOOK\_X のホーム・パスである /rootcoll1/ec6/800/bc\_sbook\_x をサンプル・アーカイブ・ストア WEBDAV\_STORE に割り当てる方法を示します。

**始める前に:** 263 ページの『Tivoli Storage Manager アーカイブでのアーカイブ・オブジェクトに対するホーム・パスの作成』

1. 以下の Web アドレスを使用して、XML DAS Administration を開きます。

`http://<SAP J2EE Engine host>:<HTTP port>/DataArchivingService/DAS`

Web アドレス 例:

`http://sapj2ee:50000/DataArchivingService/DAS`

2. ユーザー XMLDAS を使用して XML DAS Administration にログオンします。
3. 「アーカイブ階層およびストアの割り当て (Archive Hierarchy & Store Assignment)」をクリックします。
4. 「アーカイブ・パス (Archive Paths)」の下にルート・コレクションのコンテンツが表示されます。アーカイブ・オブジェクトが表示されるまで、ユーザーの SAP システムのシステム ID を示すフォルダーを解凍します。

サンプル・アーカイブ・オブジェクトである SB\_BOOK\_X を表示するには、「ec6」 > 「800」を解凍します。

5. アーカイブ・オブジェクトをクリックします。

例えば、SB\_BOOK\_X をクリックします。



6. 「アーカイブ・パスのプロパティ (Archive Path Properties)」の下で、「アーカイブ・ストア (Archive Store)」リストからホーム・パスを割り当てるアーカイブ・ストアを選択します。例えば、「WEBDAV\_STORE」を選択します。
7. 「割り当て (Assign)」をクリックします。
8. 割り当てる各ホーム・パスに、ステップ 5 (264 ページ) からステップ 7 を繰り返します。

---

## 着信文書をアーカイブするための構成

SAP ワークフローで作業項目を作成することによって、文書のバーコードを処理することによって、または同時アーカイブを使用することによって、文書をアーカイブできます。

同時アーカイブのための SAP の構成方法については、SAP 資料を参照してください。

SAP ワークフローで作業項目を作成することによって、または文書のバーコードを処理することによって文書をアーカイブするには、ご利用の基本環境に加えて Archiving Client が必要です。

## SAP ワークフローで作業項目を作成することによって着信文書をアーカイブするため構成

アーカイブ・プロセスは、SAP GUI (Object Linking and Embedding (OLE) がこの目的で使用されます)、または Archiving Client から開始できます。文書はファイル・システムで使用可能である必要があります。

### 始める前に:

1. クライアント・パッケージから Archiving Client をインストールします。詳しくは、105 ページの『コンソール・モードまたは GUI モードでのクライアント・パッケージのインストール』を参照してください。Archiving Client とスキャン・アプリケーションは、SAP GUI と同じコンピューターにインストールしてください。
2. 139 ページの『第 19 章 Content Collector for SAP で使用するためにアーカイブを構成する』。
3. 160 ページの『アーカイブと共に使用するための Collector Serverの構成』。
4. 179 ページの『RFC ディスパッチャーの数の設定』。
5. SAP GUI からアーカイブ・プロセスを開始する場合、かつ Hypertext Transfer Protocol (HTTP) 接続および Remote Function Call (RFC) 接続が必要なく、そのような接続を構成していない場合は、SAP で SAP ArchiveLink プロトコルおよびコンテンツ・リポジトリまたは論理アーカイブを作成します。
  - a. 181 ページの『Hypertext Transfer Protocol (HTTP) 接続によって使用するための SAP ArchiveLink プロトコルの作成』
  - b. 183 ページの『Hypertext Transfer Protocol (HTTP) 接続に対するコンテンツ・リポジトリまたは論理アーカイブの作成』
6. 191 ページの『Collector Server を初めて始動する』。

図6は、SAP ワークフロー内に作業項目を作成することによって文書をアーカイブできるようにするために Content Collector for SAP 環境のどの部分を構成する必要があるかを示しています。SAP GUI は、そこからアーカイブ・プロセスを開始する場合にのみ必要です。

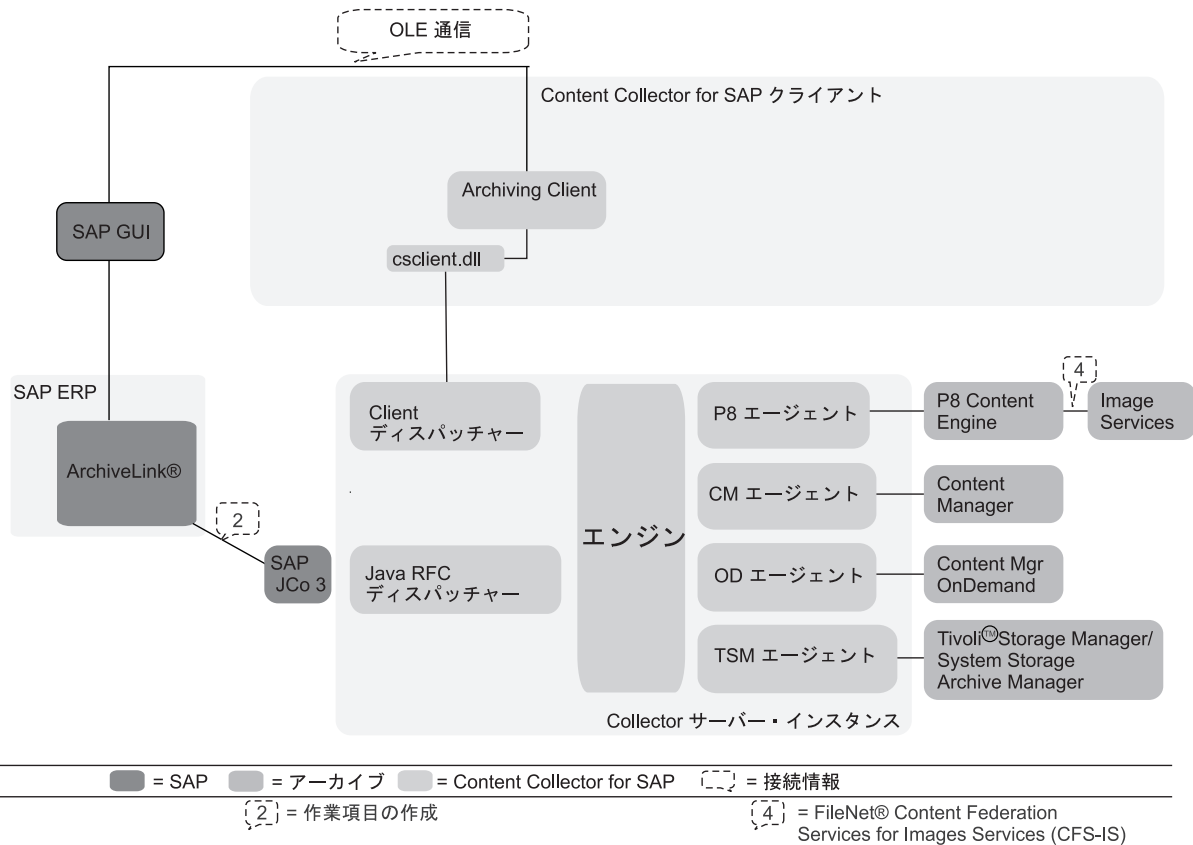


図6. SAP ワークフロー内に作業項目を作成することによって着信文書をアーカイブするための Content Collector for SAP 環境の構成

このトピックの始めにリストされている前提条件タスクを完了することによって、以下の部分が構成されることになります。

- 文書が格納されるアーカイブ
- Collector Server.
- Collector Serverと SAP の間の通信用に、少なくとも 1 つの Java RFC ディスパッチャー
- SAP GUI からアーカイブ・プロセスを開始するには、SAP で、Hypertext Transfer Protocol (HTTP) 接続、Remote Function Call (RFC) 接続、または SAP ArchiveLink プロトコルおよびコンテンツ・リポジトリまたは論理アーカイブ

SAPワークフロー内に作業項目を作成することによって文書をアーカイブするための環境の構成を完了するには、以下の手順を実行します。

1. Archiving Client の構成
  - a. 195 ページの『Archiving Client のセットアップ』

- b. 204 ページの『スキャン対象の文書がファイル・システム内にある場合のキューの作成』または 207 ページの『スキャン対象の文書がファイル・システムにあり、説明ファイルが存在する場合にキューを作成する』
  - c. 212 ページの『キュー情報の保存と再利用』
  - d. 215 ページの『Collector Serverで Archiving Client を使用できるようにする』
2. 『着信文書の文書タイプを作成して SAP ワークフローで使用可能にする』
  3. 270 ページの『SAP への Archiving Client の登録』
  4. SAP GUI からアーカイブ・プロセスを開始する場合は、以下の追加手順を完了します。
    - a. 271 ページの『文書をアーカイブするための SAP ArchiveLink アプリケーションの作成』
    - b. 272 ページの『文書をアーカイブするための SAP ArchiveLink プロトコルの調整』

## 着信文書の文書タイプを作成して SAP ワークフローで使用可能にする

アーカイブして SAP ビジネス・オブジェクトにリンクできるのは、特定のワークフローに関連付けることができる文書だけです。特定のワークフローへの文書の関連付けは、文書タイプをキューに割り当て、その文書タイプを SAP ワークフローで使用可能にすることにより行います。

**始める前に:** 195 ページの『第 21 章 Archiving Client の構成』

Archiving Client でキューを作成したときに文書タイプをキューに割り当てました。以下の手順を実行して、SAP で適合する文書タイプを作成し、それを SAP ワークフローで使用可能にする必要があります。

**手順:**

1. SAP GUI でトランザクション・コード 0AD5 を入力して、「ArchiveLink: 「文書タイプのカスタマイズ」ウィザード (ArchiveLink: Document Type Customizing Wizard)」を開きます。
2. 「**続く (Continue)**」をクリックします。
3. 「文書タイプ」ページで、以下の情報を指定します。
  - a. 「**文書タイプ**」フィールドに、アーカイブされる文書を含むキューの文書タイプを指定します。 Archiving Client にキューを作成したときに、文書タイプを指定しました。文書タイプを検索するには、以下の手順を実行します。
    - 1) Archiving Client を開始します。
    - 2) 「IBM Content Collector for SAP Applications - Archiving Client」ウィンドウのナビゲーション・ペインで、適切なキューを選択し、「**キュー**」 > 「**プロパティ**」をクリックします。
    - 3) 「キューのプロパティ」ウィンドウで、「**キュー**」タブをクリックします。「**文書タイプ**」フィールドに必要な情報が含まれています。

例えば、Archiving Client で文書タイプ FIINVOICE を使用してキューを作成したとします。したがって、以下のように入力します。

FIINVOICE

- b. 「名前」フィールドに、説明を指定します。

例えば、以下のように入力します。

Incoming invoice w/o verification

- c. 「続く (Continue)」をクリックします。
4. 「文書タイプ・テンプレート (Document type template)」ページで、以下のようになります。
- 既存の文書タイプをテンプレートとして使用する場合は、「Doc.type」フィールドにその文書タイプを指定します。それから、「続く (Continue)」をクリックします。
  - テンプレートを使用しない場合は、「続く (Continue)」をクリックします。

この例では、テンプレートを指定しません。

5. 「ワークフロー文書タイプ (Workflow document type)」ページで、「ワークフロー文書タイプ (Workflow document type)」チェック・ボックスを選択し、SAP ワークフローでこの文書タイプが使用できるようにします。それから、「続く (Continue)」をクリックします。
6. 「文書クラス (Document class)」ページで、「Doc. class」フィールドに文書クラスを指定し、「続く (Continue)」をクリックします。

例えば、以下のように入力します。

HTM

7. 「オブジェクト、メソッドおよびタスク (Object, method and tasks)」ページで、文書タイプをビジネス・オブジェクト・タイプに関連付け、メソッドとワークフロー・タスクをその文書タイプに割り当てます。それから、「続く (Continue)」をクリックします。標準タスクまたはワークフロー・テンプレートを使用できます。文書タイプ FIINVOICE の文書のデフォルト値は、以下のとおりです。


プロパティ	値
オブジェクト・タイプ	BKPF
メソッド	CREATE
タスク (エントリー用)	TS30001128
タスク (割り当て用)	TS30001117



詳しくは、SAP 文書を参照してください。

8. 「ワークフロー・パラメーター (Workflow parameter)」ページには、以下のオプションがあります。
- 既存の文書タイプをテンプレートとして指定した場合は、提供されたトランザクション・コードをそのまま使用して、「続く (Continue)」をクリックします。

- テンプレートを指定しなかった場合は、トランザクション・コードを指定してください。例えば、会計簿記入の場合は FB10 を指定します。それから、「**続く (Continue)**」をクリックします。
9. 「ストレージ・システムおよびリンク・テーブル (Storage system and link table)」 ページで、以下の情報を指定します。
    - a. 「**Cont.Rep.ID**」 フィールドに、アーカイブする文書が含まれているリポジトリーの ID を指定します。Collector Serverのサーバー構成プロファイルの ARCHIVE キーワードで指定した ID を使用してください。  
  
例えば、以下のように入力します。  
A2
    - b. 「**リンク (Link)**」 フィールドに、リンク・テーブルを指定します。  
  
例えば、「**TOA01**」を選択します。
    - c. 「**続く (Continue)**」 をクリックします。
  10. 「使用可能な事前設定からの選択 (Selection from available presettings)」 ページには、以下のオプションがあります。
    - 文書タイプを 1 つ以上の既存の事前設定に追加する場合は、選択可能な事前設定の前にあるボタンをクリックし、「**続く (Continue)**」 をクリックします。
    - 事前設定のみを作成する場合は、「**続く (Continue)**」 をクリックします。

この例では、事前設定を選択しません。
  11. 「新規事前設定の作成 (Create new presettings)」 ページには、以下のオプションがあります。
    - 事前設定を作成する場合は、事前設定用に 4 桁の ID と名前を指定します。それから、「**続く (Continue)**」 をクリックします。
    - 事前設定を作成しない場合は、「**続く (Continue)**」 をクリックします。

サンプルの事前設定を作成するには、「ID」列の最初の行に A101 と入力し、「名前」列の最初の行に Financial booking for A1 と入力します。
  12. 「事前設定の詳細 (Details of presettings)」 ページで、以下の手順を実行します。
    - a. 選択した既存の事前設定に移動するか、「**次のデフォルト設定 (Next default setting)**」 アイコン  をクリックして新しい事前設定に移動します。
    - b. 「オブジェクト・タイプ (Obj. Type)」列で、ユーザーを表す US を入力します。
    - c. 「ID」列で、作業項目が配置されるインボックスを所有しているユーザーの名前を入力します。  
  
例えば、以下のように入力します。  
DEMO\_US
    - d. 右にあるチェック・ボックスのうちの 1 つ以上を選択します。例えば、次のように選択します。
      - **後続の項目用に保管 (Storing for subsequent entry)**

- 保管して入力 (Store and enter)
  - 割り当て後に保管 (Assign then store)
- e. 「続く (Continue)」をクリックします。
13. 「完了 (Complete)」をクリックします。
14. 「ワークベンチ要求プロンプト (Prompt for Workbench request)」ウィンドウの「要求 (Request)」フィールドで要求を 1 つ選択する。 要求がまだ存在しない場合は、「作成 (Create)」アイコン  をクリックして要求を作成します。
15. 「続く (Continue)」アイコン  をクリックします。


次の作業: 『SAP への Archiving Client の登録』

## SAP への Archiving Client の登録

Object Linking and Embedding (OLE) アプリケーションを Archiving Client に登録することにより、SAP GUI を使用可能にして、Archiving Client を開始します。

始める前に: 267 ページの『着信文書の文書タイプを作成して SAP ワークフローで使用可能にする』

手順:

1. SAP GUI でトランザクション・コード S0LE を入力して、「「OLE アプリケーションの保守ビュー」ビューの表示: 全容表示 (Display View "Maintenance view for OLE applications": Overview)」ウィンドウを開きます。
2. 「表示」->「変更 (Change)」アイコン  をクリックします。 警告: テーブルはクロス・クライアントです。(Caution: The table is cross-client.) というメッセージを含むウィンドウが表示された場合は、Enter を押します。
3. 「新規項目 (New Entries)」をクリックする。
4. 「新規項目: 追加項目の詳細 (New Entries: Details of Added Entries)」ウィンドウで、以下の情報を指定します。

フィールド名	説明
OLE アプリケーション	以下を入力します。 CSCLIENT.DOCUMENT  この名前は、SAP ArchiveLink アプリケーションを Archiving Client と一緒に使用するために構成するときに、もう一度指定する必要があります。
CLSID	以下を入力します。 {C8452EF3-19FE-11D1-A16E-0004AC62FCBA}
情報キーの入力 (Type Info key)	以下を入力します。 NO_TYPELIB

その他のすべてのフィールドはブランクのままにします。

5. 「保管」アイコン  をクリックして、設定を保存します。

次の作業: アーカイブ・プロセスを SAP GUI から開始する場合は、『文書をアーカイブするための SAP ArchiveLink アプリケーションの作成』を使用して続行します。


## 文書をアーカイブするための SAP ArchiveLink アプリケーションの作成

アーカイブ・プロセスを SAP GUI から開始することになっている場合は、SAP ArchiveLink アプリケーションを作成し、それを Archiving Client で使用するために構成する必要があります。

このトピックでは、サンプル SAP ArchiveLink アプリケーション CSARCH を作成する方法を示します。

始める前に: 270 ページの『SAP への Archiving Client の登録』

### 手順:

1. SAP GUI で、トランザクション・コード OAA4 を入力して「ArchiveLink: アプリケーションの保守 (ArchiveLink: Application Maintenance)」ウィンドウを開きます。
2. 「作成 (Create)」アイコン  をクリックします。
3. 「ArchiveLink: アプリケーションの保守 (ArchiveLink: Application Maintenance)」ウィンドウで、SAP ArchiveLink アプリケーションに対してユーザーが選択した名前を入力します。

例えば、以下のように入力します。  
CSARCH

4. Enter を押します。「ArchiveLink: アプリケーションの保守 (ArchiveLink: Application Maintenance)」ウィンドウに戻ります。
5. 作成した SAP ArchiveLink アプリケーションをダブルクリックします。

例えば、「CSARCH」をダブルクリックします。

6. 「Windows SAPGUI OLE 自動化 (Windows SAPGUI OLE automation)」ページで、「フロントエンドからアーカイブ (Archive from Frontend)」をダブルクリックします。
7. 開いたウィンドウで、以下の情報を指定します。

- a. 「アプリケーション (Application)」フィールドに、SAP と一緒に Archiving Client を登録したときに指定した OLE アプリケーション名を入力します。


以下を入力します。  
CSCLIENT.DOCUMENT

- b. ラジオ・ボタンをクリックし、次の表に示すようにコマンドを入力します。最初の行から指定を開始します。

ラジオ・ボタン	コマンド
M	setAID @AID
	指定したコマンドがメソッドとして使用されます。

ラジオ・ボタン	コマンド
S	doQueueArchive =@DID 指定したコマンドを使用して、Archiving Client の属性が設定されます。
G	@EID =EID 指定したコマンドを使用して、Archiving Client から属性の値が取得されます。

注: コマンドは、表に示されているとおりに正確に入力します。

- 「戻る (Back)」をクリックします。
- 「保管」アイコン  をクリックして設定を保存します。

「フロントエンドからアーカイブ (Archive from Frontend)」の隣の状況が「保守 (Maintained)」に変わります。

次の作業: 『文書をアーカイブするための SAP ArchiveLink プロトコルの調整』

## 文書をアーカイブするための SAP ArchiveLink プロトコルの調整

Archiving Client で使用するために、SAP ArchiveLink プロトコルを調整する必要があります。


このトピックでは、サンプル・プロトコル HTTP1 を調整する方法を示します。

始める前に: 271 ページの『文書をアーカイブするための SAP ArchiveLink アプリケーションの作成』

手順:


- SAP GUI でトランザクション・コード OAA3 を入力して、「ArchiveLink: 通信インターフェース管理 (ArchiveLink: Communications Interface Administration)」ウィンドウを開きます。
- SAP ArchiveLink プロトコルをダブルクリックします。




例えば、「HTTP1」をダブルクリックします。

- 「ArchiveLink プロトコル: プロトコルの概要 (ArchiveLink Protocols: Overview of Protocol)」ウィンドウで、「フロントエンドからアーカイブ (Archive from frontend)」をダブルクリックします。
- 「文書クラス (Document classes)」の下で、SAP 文書クラスの横にあるラジオ・ボタンをクリックし、「変更 (Change)」アイコン  をクリックします。この文書クラスは、アーカイブする文書の MIME タイプを表すものでなければなりません。

例えば、「FAX」をクリックします。



注: 文書クラスはアルファベット順にソートされます。選択する文書クラスは、別のページに表示されている場合があります。「次のページ (Next page)」アイコン  をクリックして、次のページに移動します。

5. 開いた小さなウィンドウの「通信タイプ (Communication Type)」フィールドで、OPEN を指定し、「続く (Continue)」アイコン  をクリックします。
6. 「アプリケーション (Application)」フィールドで、以前に作成した SAP ArchiveLink アプリケーションの名前を指定します。  
  
例えば、「CSARCH」を選択します。
7. 「続く (Continue)」アイコン  をクリックして指定内容を確認し、ウィンドウを閉じます。
8. 「保管」アイコン  をクリックして、設定を保存します。

## 着信文書のバーコードの処理による着信文書のアーカイブのための構成

着信文書のバーコードを処理することによって、それらの文書をアーカイブして SAP ビジネス・オブジェクトにリンクするには、SAP Application Server で追加の構成手順を実行する必要があります。文書はファイル・システムで使用可能である必要があります。

### 始める前に:

1. クライアント・パッケージから Archiving Client をインストールします。詳しくは、105 ページの『コンソール・モードまたは GUI モードでのクライアント・パッケージのインストール』を参照してください。
2. 139 ページの『第 19 章 Content Collector for SAP で使用するためにアーカイブを構成する』。
3. 160 ページの『アーカイブと共に使用するための Collector Serverの構成』。
4. 191 ページの『Collector Server を初めて始動する』。

274 ページの図 7 は、文書のバーコードを処理することによって文書をアーカイブできるようにするために Content Collector for SAP 環境のどの部分を構成する必要があるかを示しています。

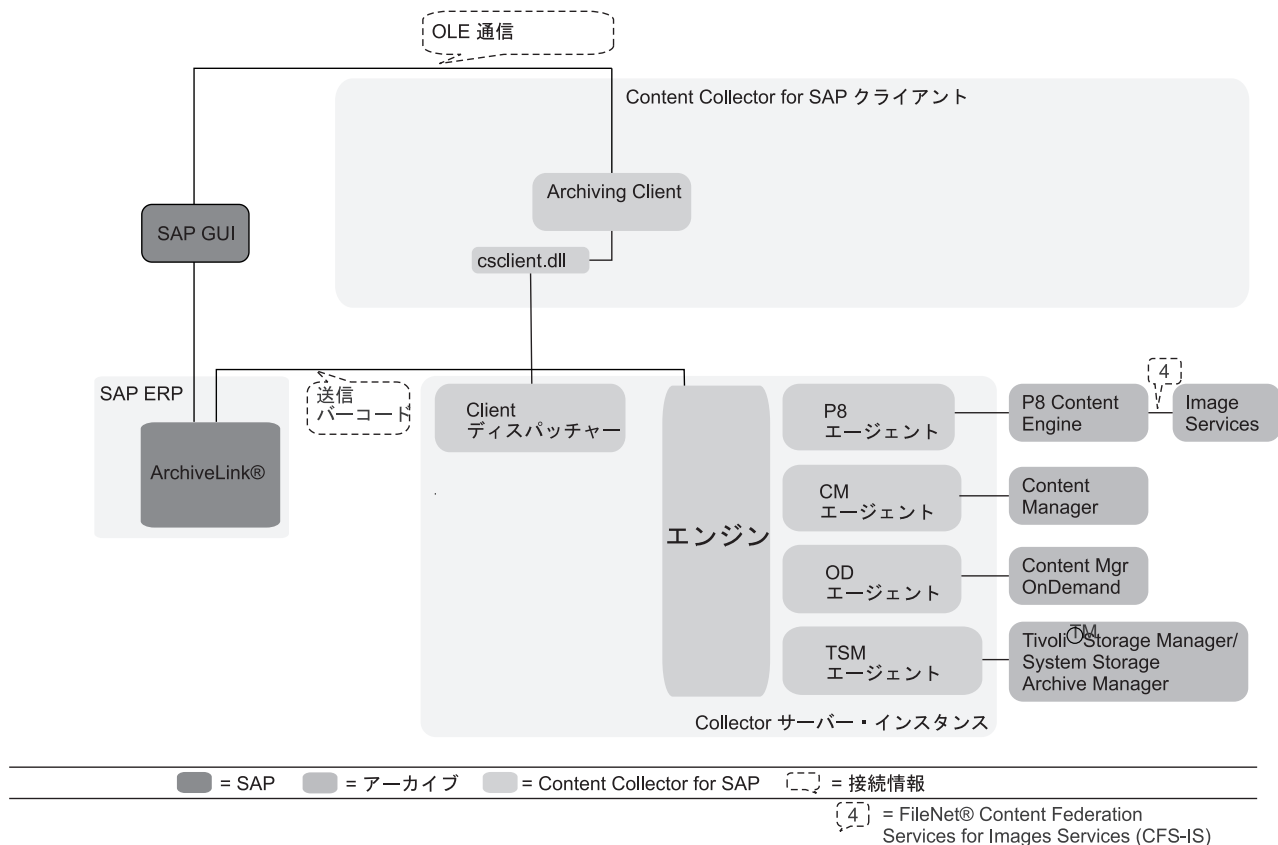


図7. 着信文書のバーコードを処理することによって着信文書をアーカイブするための Content Collector for SAP 環境の構成

このトピックの始めにリストされている前提条件タスクを完了することによって、以下の部分が構成されることになります。

- 文書が格納されるアーカイブ
- Collector Server

Collector Server は、バーコードを直接 SAP に送信します。 Hypertext Transfer Protocol (HTTP) 接続および Remote Function Call (RFC) 接続は必要ありません。

以下の手順を実行して、文書のバーコードを処理することによって文書をアーカイブするための環境の構成を完了します。

#### 1. Archiving Client の構成

- a. 195 ページの『Archiving Client のセットアップ』
- b. 204 ページの『スキャン対象の文書がファイル・システム内にある場合のキューの作成』または 207 ページの『スキャン対象の文書がファイル・システムにあり、説明ファイルが存在する場合にキューを作成する』
- c. 212 ページの『キュー情報の保存と再利用』
- d. 215 ページの『Collector Serverで Archiving Client を使用できるようにする』

#### 2. SAP GUI で、以下の手順を実行します。

- a. 文書で使用される各種バーコードを個々の SAP ビジネス・オブジェクトに割り当てます。この手順は、トランザクション・コード OAC5 を使用して実行します。
- b. 指定したバーコード・タイプの設定を確認します。この手順は、トランザクション・コード OAD4 を使用して実行します。
- c. SAP で、文書のバーコードを処理することによって文書をアーカイブできるようにします。

これらの手順の実行方法について詳しくは、SAP 資料を参照してください。

---

## 発信文書をアーカイブするための構成

発信文書をアーカイブするには、基本環境が必要です。

### 始める前に:

1. 129 ページの『第 18 章 環境の準備』.
2. 139 ページの『第 19 章 Content Collector for SAP で使用するためにアーカイブを構成する』.
3. 160 ページの『アーカイブと共に使用するための Collector Serverの構成』
4. 178 ページの『Collector Serverと SAP の間の接続の構成』.

**ヒント:** FileNet P8 をアーカイブとして使用する場合は、MIME タイプをサポートする Hypertext Transfer Protocol (HTTP) 接続をセットアップします。Remote Function Call (RFC) 接続を使用する場合は、一部のデータ・タイプがサポートされません。

5. 191 ページの『Collector Server を初めて始動する』

276 ページの図 8 は、発信文書をアーカイブできるようにするために、Content Collector for SAP 環境のどの部分を構成する必要があるかを示します。

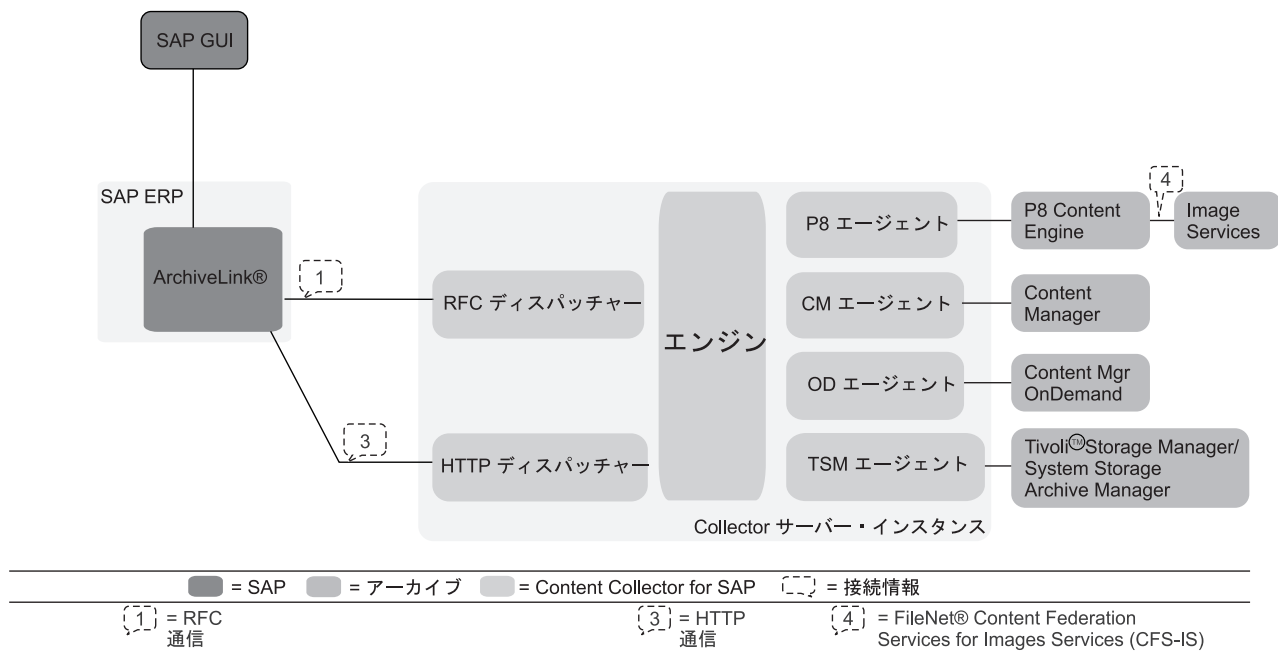


図 8. 発信文書のアーカイブのための Content Collector for SAP 環境の構成

このトピックの始めにリストされている前提条件タスクを完了することによって、以下の部分が構成されることになります。

- データが格納されるアーカイブ。
- Collector Server.
- Collector Serverと SAP の間の HTTP 接続または RFC 接続。

Content Manager Enterprise Edition、Content Manager OnDemand、または Tivoli Storage Manager をアーカイブとして使用する場合、または FileNet P8 をアーカイブとして使用し、すべての発信文書を 1 つの文書クラスに格納する場合は、現在の構成で十分です。しかし、FileNet P8 を使用して文書をさまざまな文書クラスに保管したり、それらを 1 つ以上のフォルダーに編成したりする場合は、追加の構成手順を実行する必要があります。

注: 検索がより容易になるように、文書をフォルダーに保管することができます。Workplace と Workplace XT では、フォルダー内にリストできる文書の量が限られています。したがって、同じ MIME タイプの文書が大量にできることが予想される場合は、それらをフォルダーに保管しないでください。文書は、検索機能を使用して見つけることができます。

例えば、以下のようにして文書を保管するとします。

- MIME タイプ image/tiff の文書は、文書クラス TIFF でフォルダー production/tiff に保管する。
- MIME タイプ application/pdf の文書は、文書クラス PDF で保管するが、フォルダーには保管しない。
- その他の MIME タイプの文書は、すべてデフォルトの文書クラス ALLDOCS でデフォルトのフォルダー production/all\_docs に保管する。

また、サンプル文書クラスとフォルダーは作成済みであると想定します。

**手順:**

1. デフォルトの文書クラスは、Content Collector for SAP で使用するために FileNet P8 の構成時に作成しました。また、この文書クラスは、FileNet P8 用に、Collector Serverの構成時にサーバー構成プロファイルに指定しました。

この例では、以下のように、MIME タイプ image/tiff および application/pdf 以外のすべての文書が保管されるデフォルトの文書クラスを指定したと想定します。

DEFAULT\_P8DOCCCLASS ALLDOCS

2. 使用する Collector Serverのサーバー構成プロファイルをテキスト・エディターで開きます。
3. 該当する FileNet P8 アーカイブの ARCHIVE セクションに、以下のキーワードを追加します。以下の値は、サンプルを反映しています。

追加するキーワード	説明
DEFAULT_FOLDER /production/all_docs	MIME タイプ image/tiff および application/pdf 以外のすべての文書が保管されるデフォルトのフォルダーを指定します。
DOCTYPE image/tiff	MIME タイプ image/tiff の文書の構成をグループ化します。
P8DOCCCLASS TIFF	MIME タイプ image/tiff の文書が保管される文書クラスを指定します。
CUSTOM_FOLDER /production/tiff	MIME タイプ image/tiff の文書が保管されるフォルダーを指定します。
DOCTYPE application/pdf	MIME タイプ application/pdf の文書の構成をグループ化します。
P8DOCCCLASS PDF	MIME タイプ application/pdf の文書が保管される文書クラスを指定します。
CUSTOM_FOLDER NONE	MIME タイプ application/pdf の文書をフォルダーに保管しないことを指定します。

**注:** フォルダー・パスは、常にスラッシュ (/) で始まる必要があります。

4. サーバー構成プロファイルを保存し、Collector Serverを再始動して変更を有効にしてください。

---

## Content Manager 文書を SAP にリンクするための構成

Content Manager Enterprise Edition に直接接続されているスキャン・アプリケーションによってスキャンおよびアーカイブされた文書は、SAP にリンクされていません。SAP ワークフローで、このような文書のバーコードを処理するか、作業項目を作成することによって、文書をリンクできます。使用できるリンクの手順は、文書が既に SAP でアクセスできる項目タイプであるかどうかで異なります。

## SAP ワークフローで作業項目を作成することによって Content Manager 文書を SAP にリンクするための構成

SAP ワークフローに作業項目を作成することによって文書をリンクするには、SAP がアクセスできる項目タイプで文書を格納する必要があります。

基本環境のほかに、Utility Client が必要です。

### 始める前に:

1. クライアント・パッケージから Archiving Client をインストールします。詳細については、105 ページの『コンソール・モードまたは GUI モードでのクライアント・パッケージのインストール』を参照してください。
2. 129 ページの『第 18 章 環境の準備』。
3. 139 ページの『Content Collector for SAP で使用するために Content Manager を構成する』。
4. 165 ページの『Content Manager Version 8 で使用するための Collector Server の構成』。
5. 179 ページの『RFC デイスパッチャーの数の設定』。
6. 191 ページの『Collector Server を初めて始動する』。

279 ページの図 9 は、SAP ワークフローで作業項目を作成することによって Content Manager 文書をリンクできるようにするために Content Collector for SAP 環境のどの部分を構成する必要があるかを示しています。

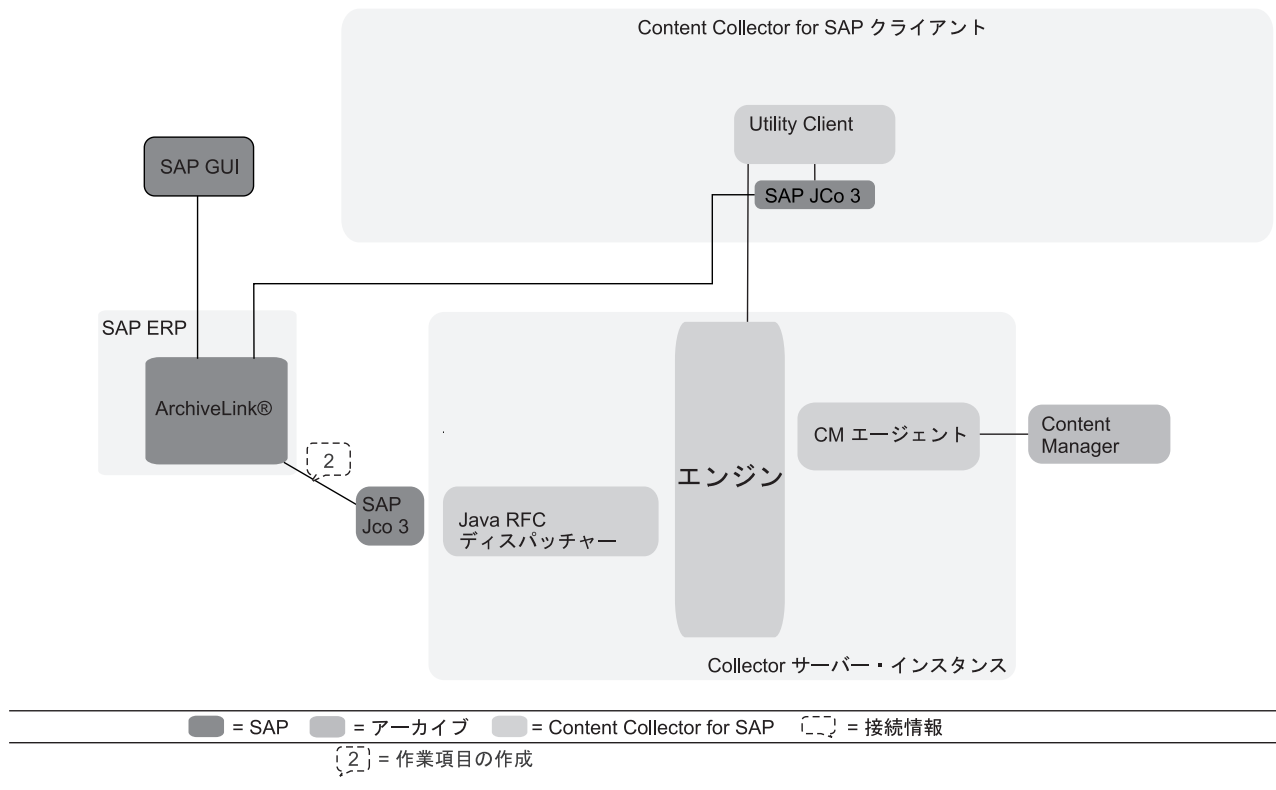


図9. SAP ワークフローで作業項目を作成することによって Content Manager 文書を SAP にリンクするための Content Collector for SAP 環境の構成

このトピックの始めにリストされている前提条件タスクを完了することによって、以下の部分が構成されることになります。

- Content Manager Enterprise Edition (リンクされるドキュメントが含まれています)
- Collector Server
- Collector Serverと SAP の間の通信用に、少なくとも 1 つの Java RFC ディスパッチャー

以下の手順を実行して、SAP ワークフローで作業項目を作成することによって Content Manager 文書をリンクするための環境の構成を完了します。

1. 280 ページの『Content Manager のワークフローの作成』
2. 281 ページの『ターゲット項目タイプと Content Manager ワークフロー用に Collector Serverを使用可能にする』
3. Utility Client の構成
  - a. 236 ページの『文書リンク・プロセスのセットアップ』. 「SAP ワークフローに作業項目を作成 (Create a work item in an SAP workflow)」を指定する文書リンク・セッションを作成します。
  - b. 237 ページの『Utility Client の構成の管理』

## Content Manager のワークフローの作成

バーコードおよび文書 ID を SAP にアップロードするには、Content Manager Enterprise Edition のワークフローが必要です。このワークフローは、文書ルーティング・プロセス (または、その一部) であり、スキャン作業ノードとエラー作業ノードを必要とします。

ワークフローは次のように機能します。スキャン作業ノードの作業項目が、エラー作業ノードにルーティングされます。同時に、文書がソース項目タイプからターゲット項目タイプに移動されます。作業項目がエラー作業ノードに到着した後、文書のバーコードと ID が SAP に送信されます。

アップロードが正常に完了すると、ワークフローは終了します。その結果、対応する作業項目がエラー作業ノードから除去され、プロセス内の次の作業ノードに渡されます。

アップロードが失敗した場合、ユーザーは、もう一度処理できるように、失敗した作業項目をエラー作業ノードからスキャン作業ノードに手動で戻すことができます。ただし、文書はターゲット項目タイプに残ります。これらは、ソース項目タイプに戻されることはありません。

この目的専用のルーティング・プロセスを定義するか、ワークフローをより大きな文書ルーティング・プロセスに組み込むことができます。

Content Manager Enterprise Edition のシステム管理クライアントを使用して、以下のようワークフローを作成します。

### 手順:

1. 2 つの作業ノードをワーク・バスケットとして定義します。1 つ目のノードはスキャン作業ノードで、2 つ目のノードはエラー作業ノードです。
2. 作業ノードごとにワーク・バスケットを作成します。各ワーク・バスケットに含めることができる作業ノードは 1 つだけです。
3. 文書ルーティング・プロセスを定義します。以下の表に、バーコードと文書 ID のアップロード専用のプロセスを示します。このワークフローをより大きなワークフローに組み込むには、START ノードと END ノードを適宜置き換えてください。

移動元ノード	選択	移動先ノード
START	継続	<scan work node>
<scan work node>	継続	<error work node>
<error work node>	エスカレート	<scan work node>
<error work node>	継続	END

<scan work node> はスキャン作業ノードの名前で、<error work node> はエラー作業ノードの名前です。

**次の作業:** 281 ページの『ターゲット項目タイプと Content Manager ワークフロー用に Collector Serverを使用可能にする』



## ターゲット項目タイプと Content Manager ワークフロー用に Collector Serverを使用可能にする

サーバー構成プロファイルにターゲット項目タイプとワークフローの詳細を指定します。

始める前に: 280 ページの『Content Manager のワークフローの作成』

手順:

1. 使用する Collector Serverのサーバー構成プロファイルをテキスト・エディターで開きます。
2. ARCHIVE セクションを以下のように変更します。

```
ARCHIVE          <archive_id>
STORAGETYPE      CM
LIBSERVER        <server_name>
ITEM_TYPE        <target_item_type>
SCAN_PROCESS     <process_name>
WORKLIST_SCAN    <workbasket_name>
WORKLIST_ERROR   <workbasket_name>
CMUSER           <user_id>
```

<archive\_id>

自分で選択した論理アーカイブの ID を指定します。

<server\_name>

文書を含むターゲット項目タイプを定義するライブラリー・サーバーの名前を指定します。

<target\_item\_type>

文書を格納するターゲット項目タイプの名前を指定します。

<process\_name>

Content Manager Enterprise Edition で作成したワークフローの名前を指定します。

<workbasket\_name>

スキャン作業ノード用またはエラー作業ノード用に作成したワーク・バスケットの名前を指定します。

<user\_id>

Collector Serverが Content Manager Enterprise Edition へのログオンに使用するユーザー ID を指定します。このユーザー ID は、Content Manager Enterprise Edition の構成時に、Content Collector for SAP で使用するために作成したものです。

3. サーバー構成プロファイルを保存し、Collector Serverを再始動して変更内容を有効にします。

次の作業: 236 ページの『文書リンク・プロセスのセットアップ』

## バーコードを処理することによって Content Manager 文書を SAP にリンクするための構成

文書が格納されている項目タイプに SAP がアクセスできるかどうかに関係なく、文書のバーコードを処理することによって文書をリンクできます。項目タイプが SAP によってアクセス可能な場合、Utility Client または基本環境に加えて

Archiving Client を使用できます。項目タイプが SAP によってアクセス可能ではない場合は、Utility Client を使用する必要があります。リンクの手順の間に、Utility Client はアクセス可能な項目タイプに文書を移動します。

**始める前に:**

1. クライアント・パッケージから Archiving Client をインストールするか、サーバー・パッケージまたはクライアント・パッケージから Utility Client をインストールします。詳しくは、99 ページの『第 13 章 Content Collector for SAP のインストール』を参照してください。
2. 129 ページの『第 18 章 環境の準備』.
3. 139 ページの『Content Collector for SAP で使用するために Content Manager を構成する』.
4. 165 ページの『Content Manager Version 8 で使用するための Collector Serverの構成』.
5. 191 ページの『Collector Server を初めて始動する』.

図 10は、文書のバーコードを処理することによって Content Manager文書をリンクできるようにするために Content Collector for SAP 環境のどの部分を構成する必要があるかを示しています。

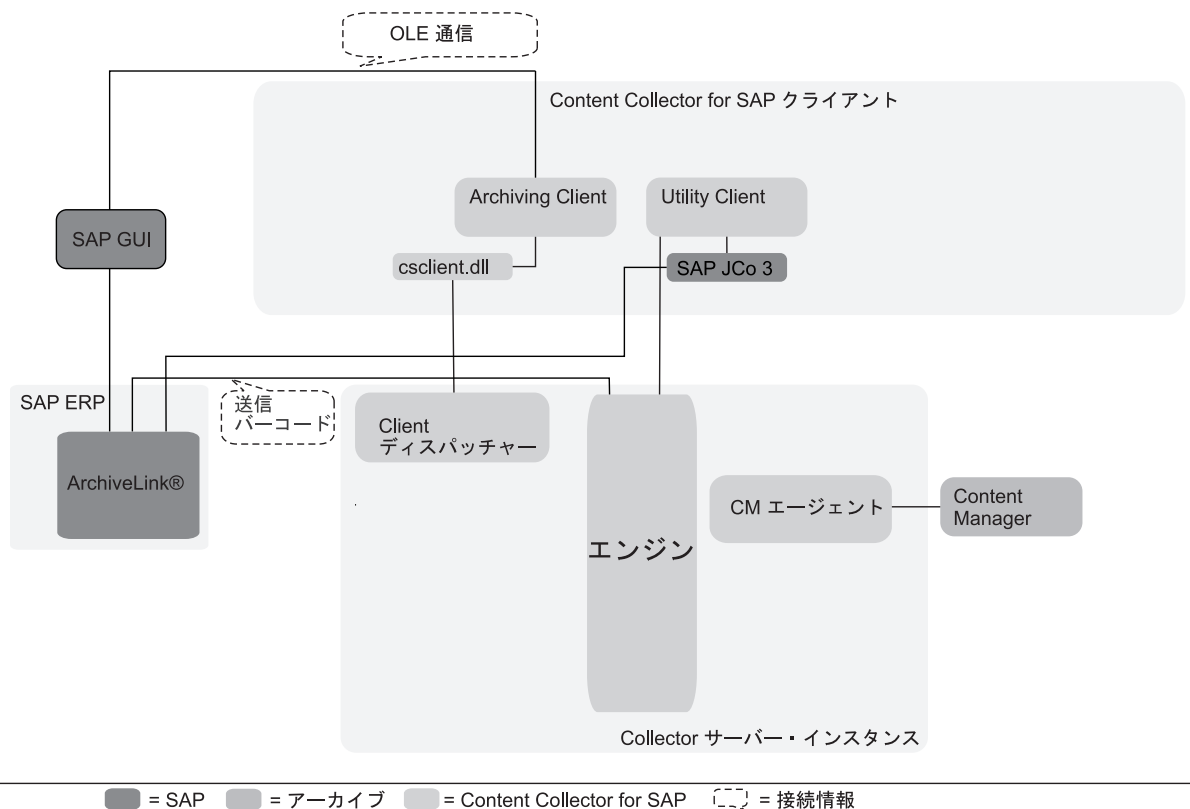


図 10. バーコードを処理することによって Content Manager 文書を SAP にリンクするための Content Collector for SAP 環境の構成

このトピックの始めにリストされている前提条件タスクを完了することによって、以下の部分が構成されることになります。

- Content Manager Enterprise Edition (リンクされるドキュメントが含まれています)
- Collector Server

Collector Server は、バーコードを直接 SAP に送信します。Hypertext Transfer Protocol (HTTP) 接続および Remote Function Call (RFC) 接続は必要ありません。

以下の手順を実行して、バーコードを処理することによって Content Manager 文書をリンクするための環境の構成を完了します。

1. 『ソース項目タイプの構成』
2. 『バーコードを処理することによって Content Manager 文書をリンクするためのターゲット項目タイプの作成』
3. 284 ページの『Content Manager のワークフローの作成』
4. 285 ページの『ターゲット項目タイプと Content Manager ワークフロー用に Collector Server を使用可能にする』
5. 使用するクライアントに対する手順を続行します。
  - Utility Client を使用する場合:
    - a. 236 ページの『文書リンク・プロセスのセットアップ』. 「バーコードの作成」を指定する文書リンク・セッションを作成します。
    - b. 237 ページの『Utility Client の構成の管理』
  - Archiving Client を使用する場合:
    - a. 195 ページの『Archiving Client のセットアップ』
    - b. 200 ページの『スキャン対象の文書が Content Manager ワーク・バスケットにある場合のキューの作成』
    - c. 212 ページの『キュー情報の保存と再利用』
    - d. 215 ページの『Collector Server で Archiving Client を使用できるようにする』

## ソース項目タイプの構成

スキャン対象の文書は、スキャン・アプリケーションによって、ソース項目タイプと呼ばれる Content Manager 項目タイプに配置されます。バーコードと文書 ID をアップロードするためにソース項目タイプをワークフローに組み込むには、属性 **Barcode** を項目タイプに定義する必要があります。それ以外の場合は、SAP の「オープン・バーコード (Open Barcode)」表に個別の文書に対する項目は作成されません。

次の作業: 『バーコードを処理することによって Content Manager 文書をリンクするためのターゲット項目タイプの作成』

## バーコードを処理することによって Content Manager 文書をリンクするためのターゲット項目タイプの作成

ソース項目タイプには、アーカイブされた文書にアクセスするために SAP で必要とされる属性が含まれていません。このために、必要なすべての属性が含まれ、文書をそこに移動できるターゲット項目タイプを作成する必要があります。ターゲット項目タイプは、論理アーカイブごとに 1 つ作成できます。しかし、すべての論理アーカイブに対して単一のターゲット項目タイプを作成することもできます。

**始める前に:** 283 ページの『ソース項目タイプの構成』

**手順:**

1. 141 ページの『文書項目タイプの作成』.
2. この項目タイプに、以下の文書パート項目タイプが含まれていることを確認します。
  - 文書パート項目タイプは ICMBASECS および ICMNOTELOGCS です。
  - 対応するソース項目タイプに定義されている文書パート項目タイプ。
3. ターゲット項目タイプに対する **Barcode** 属性を定義します。

**次の作業:** 『Content Manager のワークフローの作成』

## Content Manager のワークフローの作成

バーコードおよび文書 ID を SAP にアップロードするには、Content Manager Enterprise Edition のワークフローが必要です。このワークフローは、文書ルーティング・プロセス (または、その一部) であり、スキャン作業ノードとエラー作業ノードを必要とします。

**始める前に:** 283 ページの『バーコードを処理することによって Content Manager 文書をリンクするためのターゲット項目タイプの作成』

ワークフローは次のように機能します。スキャン作業ノードの作業項目が、エラー作業ノードにルーティングされます。同時に、文書がソース項目タイプからターゲット項目タイプに移動されます。作業項目がエラー作業ノードに到着した後、文書のバーコードと ID が SAP に送信されます。

アップロードが正常に完了すると、ワークフローは終了します。その結果、対応する作業項目がエラー作業ノードから除去され、プロセス内の次の作業ノードに渡されます。

アップロードが失敗した場合、ユーザーは、もう一度処理できるように、失敗した作業項目をエラー作業ノードからスキャン作業ノードに手動で戻すことができます。ただし、文書はターゲット項目タイプに残ります。これらは、ソース項目タイプに戻されることはありません。

この目的専用のルーティング・プロセスを定義するか、ワークフローをより大きな文書ルーティング・プロセスに組み込むことができます。

Content Manager Enterprise Edition のシステム管理クライアントを使用して、以下のようにワークフローを作成します。

**手順:**

1. 2 つの作業ノードをワーク・バスケットとして定義します。1 つ目のノードはスキャン作業ノードで、2 つ目のノードはエラー作業ノードです。
2. 作業ノードごとにワーク・バスケットを作成します。各ワーク・バスケットに含めることができる作業ノードは 1 つだけです。

3. 文書ルーティング・プロセスを定義します。以下の表に、バーコードと文書 ID のアップロード専用のプロセスを示します。このワークフローをより大きなワークフローに組み込むには、START ノードと END ノードを適宜置き換えてください。

移動元ノード	選択	移動先ノード
START	継続	<scan work node>
<scan work node>	継続	<error work node>
<error work node>	エスカレート	<scan work node>
<error work node>	継続	END

<scan work node> はスキャン作業ノードの名前で、<error work node> はエラー作業ノードの名前です。

次の作業: 『ターゲット項目タイプと Content Manager ワークフロー用に Collector Serverを使用可能にする』

## ターゲット項目タイプと Content Manager ワークフロー用に Collector Serverを使用可能にする

サーバー構成プロファイルにターゲット項目タイプとワークフローの詳細を指定します。

始める前に: 284 ページの『Content Manager のワークフローの作成』

手順:

1. 使用する Collector Serverのサーバー構成プロファイルをテキスト・エディターで開きます。
2. ARCHIVE セクションを以下のように変更します。

```

ARCHIVE          <archive_id>
STORAGETYPE     CM
LIBSERVER       <server_name>
ITEM_TYPE       <target_item_type>
SCAN_PROCESS    <process_name>
WORKLIST_SCAN   <workbasket_name>
WORKLIST_ERROR  <workbasket_name>
CMUSER          <user_id>

```

<archive\_id>

自分で選択した論理アーカイブの ID を指定します。

<server\_name>

ターゲット項目タイプを定義するライブラリー・サーバーの名前を指定します。

<target\_item\_type>

作成したターゲット項目タイプの名前を指定します。

<process\_name>

Content Manager Enterprise Edition で作成したワークフローの名前を指定します。

<workbasket\_name>

スキャン作業ノード用またはエラー作業ノード用に作成したワーク・バスケットの名前を指定します。

<user\_id>

Collector Serverが Content Manager Enterprise Edition へのログオンに使用するユーザー ID を指定します。このユーザー ID は、Content Manager Enterprise Edition の構成時に、Content Collector for SAP で使用するために作成したものです。

3. サーバー構成プロファイルを保存し、Collector Serverを再始動して変更内容を有効にします。

次の作業: Utility Client と Archiving Client のどちらを使用するかに応じて、以下のタスクを続行します。

- 236 ページの『文書リンク・プロセスのセットアップ』
- 195 ページの『Archiving Client のセットアップ』

---

## FileNet P8 オブジェクトを SAP にリンクするための構成

Archiving Client を使用せずに FileNet P8 に保管された文書は、SAP にリンクされません。そうした文書をリンクするには、基本環境のほかに Utility Client または P8 Client が必要です。

大容量の文書をリンクする場合、バーコードがリンクを作成するために使用される場合、またはリンクをバッチ・ジョブとしてスケジュールする場合は、Utility Client を使用します。Utility Client は常に文書のリリース済みのバージョンにリンクされます。選択した文書をリンクする場合、ご使用の文書の選択したバージョンをリンクする場合、およびフォルダー、保管された検索、および検索テンプレートをリンクする場合は、P8 Client を使用します。

## Utility Clientを使用して FileNet P8 文書をリンクするための構成

P8 キュー内にあるすべてのアーカイブされた文書をリンクするには、Utility Client の文書リンク・プロセスを使用します。このプロセスでは、SAP ワークフローの各文書に作業項目を作成するか、SAP の「オープン・バーコード (Open Barcode)」表に文書のバーコードをアップロードすることにより、文書がリンクされます。

作業項目が作成されると、追加の属性を索引情報として転送できます。

始める前に:

1. サーバー・パッケージまたはクライアント・パッケージから Utility Client をインストールします。詳細については、99 ページの『第 13 章 Content Collector for SAP のインストール』を参照してください。
2. 129 ページの『第 18 章 環境の準備』。
3. 152 ページの『Content Collector for SAP で使用するために FileNet P8 を構成する』。
4. 171 ページの『FileNet P8 で使用するための Collector Serverの構成』。
5. 作業項目を作成することによって文書をリンクする場合は 179 ページの『RFC ディスパッチャーの数の設定』

6. 191 ページの『Collector Server を初めて始動する』。

図 11は、SAP ワークフローで作業項目を作成することによって FileNet P8 文書をリンクできるようにするために Content Collector for SAP 環境のどの部分を構成する必要があるかを示しています。

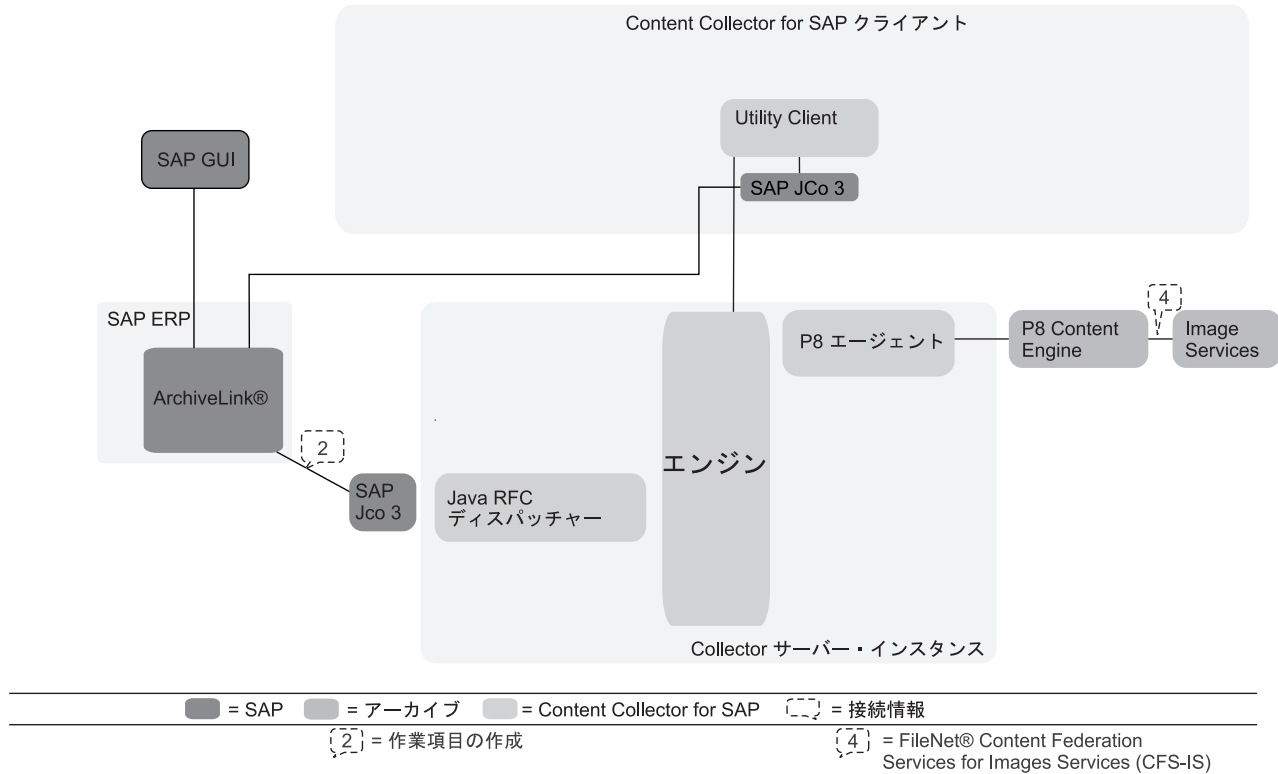


図 11. SAP ワークフローに作業項目を作成することによって FileNet P8 文書をリンクするための Content Collector for SAP 環境の構成

このトピックの始めにリストされている前提条件タスクを完了することによって、以下の部分が構成されることになります。

- FileNet P8 (リンクされるドキュメントが含まれています)
- Collector Server.
- Collector Serverと SAP ArchiveLink の間の通信用に、少なくとも 1 つの Java RFC ディスパッチャー

288 ページの図 12 は、バーコードを処理することによって FileNet P8 文書をリンクできるようにするために Content Collector for SAP 環境のどの部分を構成する必要があるかを示しています。

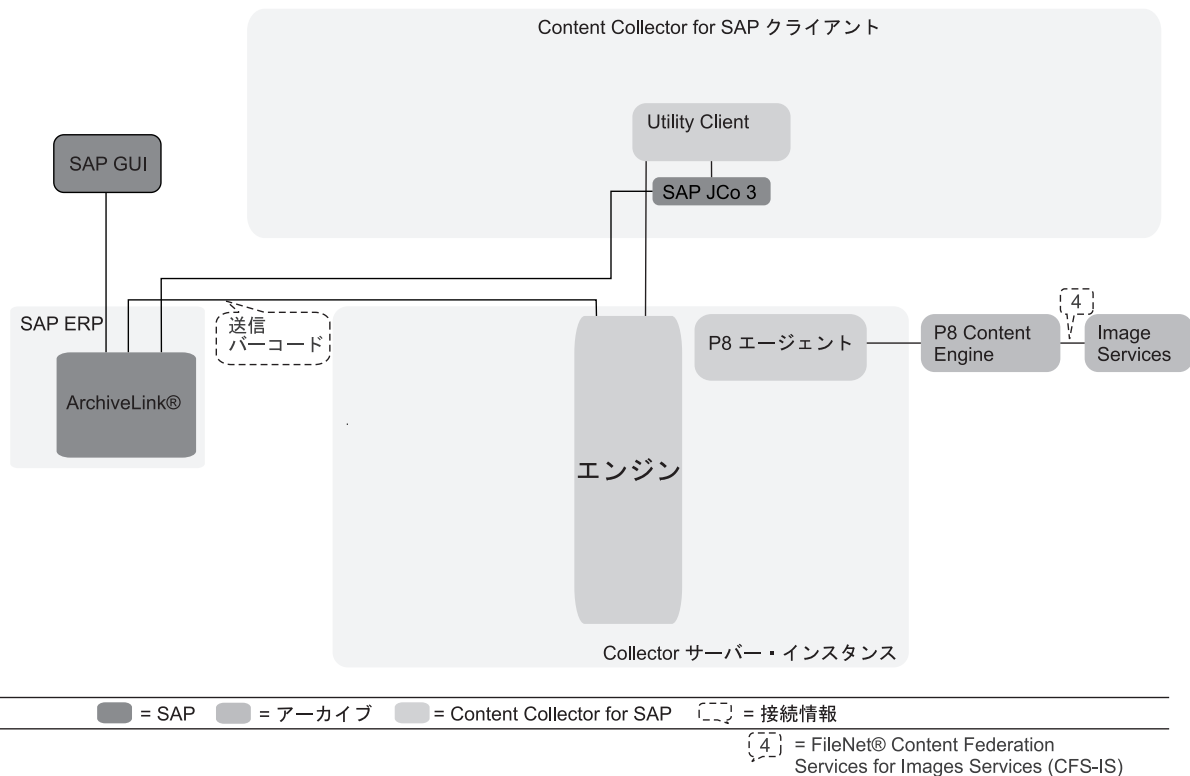


図 12. バーコードを処理することによって FileNet P8 文書をリンクするため Content Collector for SAP 環境の構成

このトピックの始めにリストされている前提条件タスクを完了することによって、以下の部分が構成されることになります。

- FileNet P8 (リンクされるドキュメントが含まれています)
- Collector Server

Collector Server は、バーコードを直接 SAP に送信します。Hypertext Transfer Protocol (HTTP) 接続および Remote Function Call (RFC) 接続は必要ありません。

以下の手順を実行して、Utility Client を使用して FileNet P8 文書をリンクするための環境の構成を完了します。

1. Utility Client の構成
  - a. 236 ページの『文書リンク・プロセスのセットアップ』
  - b. 237 ページの『Utility Client の構成の管理』
2. 『Utility Client を使用して FileNet P8 文書をリンクするために Collector Server を使用可能にする』
3. 290 ページの『P8 キューおよびワークフローの作成』

### Utility Client を使用して FileNet P8 文書をリンクするために Collector Server を使用可能にする

FileNet P8 に保管されている文書をリンクする場合は、特定のキーワードがサーバー構成プロファイルに正しく設定されていることを確認する必要があります。

始める前に: 233 ページの『第 24 章 Utility Client の構成』



### 手順:

1. 使用する Collector Serverのサーバー構成プロファイルをテキスト・エディターで開きます。
2. 該当する FileNet P8 アーカイブの ARCHIVE セクションに、以下のキーワードが含まれている必要があります。

```
PE_QUEUENAME <p8_queue_name>  
PE_CONNECTPOINT <pe_connectpoint_name>  
PE_USERID <pe_user_name>
```

<p8\_queue\_name>

リンクする文書を含む P8 キューの名前を指定します。

<pe\_connectpoint\_name>

Process Engine 接続ポイントの名前を指定します。

<pe\_user\_name>

P8 キューを読み取ることができ、文書を作業項目として P8 キューで使用できるようにするために作成されたワークフローを処理できる Process Engine ユーザーの名前を指定します。

3. サーバー構成プロファイルを保存して、Collector Serverを停止します。
4. 以下の手順に従って、Collector Serverを再始動します。
  - a. コマンド行を開いて、インスタンス・ディレクトリーに変更します。
  - b. 以下のコマンドを入力します。

```
archpro -f serverpasswd_PE <server_id> <pe_user_name> <pe_password>
```

変数はオプションです。指定しない場合は、これらを入力するようプロンプトが出されます。

<server\_id>

サーバー構成プロファイルに定義した

OBJECTSTORE、REMOTESERVERURL、および P8DOMAIN の各キーワードの値を、以下のフォーマットで指定します。

```
[<objectstore>][<remoteserverurl>][<p8domain>]
```

いずれかの値にブランクが含まれている場合は、次のように、サーバー ID 全体を引用符で囲みます。

```
"[<objectstore>][<remoteserverurl>][<p8domain>]"
```

注: Windows では、二重引用符を使用する必要があります。Linux および UNIX システムでは、単一引用符または二重引用符を使用することができます。

<pe\_user\_name>

PE\_USERID キーワードの値を指定します。

<pe\_password>

Process Engine ユーザーのパスワードを指定します。

次の作業: 290 ページの『P8 キューおよびワークフローの作成』

## P8 キューおよびワークフローの作成

リンク対象の文書は、P8 キューの作業項目として使用できなければなりません。P8 キューを作成する必要があります。また、これらの文書を P8 キューで使用できるようにするワークフローを作成する必要があります。

### 始める前に:

- 288 ページの『Utility Client を使用して FileNet P8 文書をリンクするために Collector Serverを使用可能にする』。
- バーコード付きの文書には、データ・タイプが『string』で、最大長が 40 文字の Barcode という名前のプロパティがある必要があります。

Collector Serverが特定のタスク (文書のバーコード処理など) を実行できるようにするには、ワークフローと P8 キューが以下の要件を満たす必要があります。

- ワークフロー名が次の形式に従っている必要があります。

```
<sap_system>_<archive_id>_<p8_queue_name>
```

```
<sap_system>
```

文書のリンク先の SAP システムの ID を指定します。この ID は、サーバー構成プロファイルの R3NAME キーワードで定義されています。

```
<archive_id>
```

リンク対象の文書が入っている FileNet P8 アーカイブの論理アーカイブ ID を指定します。この ID は、サーバー構成プロファイルの ARCHIVE キーワードで定義されています。

```
<p8_queue_name>
```

リンク対象文書を受信する P8 キューの名前を指定します。この名前は、サーバー構成プロファイルの PE\_QUEUENAME キーワードで定義されています。

ワークフロー名の例: EC5\_Y5\_BarcodeQueue

- このワークフローには、以下のプロパティを付ける必要があります。
  - Utility Client を使用して文書をリンクする場合は、データ・タイプが「ストリング」のフィールド (名前は DWRemark)。このフィールドは、バーコード処理中に発生する可能性があるエラー・メッセージを保管するために使用されません。文書がリンクされるのは、このフィールドが空の場合に限られます。

フィールドの長さはバイト単位で指定する必要があります。このフィールドは、英数字 ASCII 文字で 100 文字が入るのに十分な長さでなければなりません。マルチバイト文字セットを使用する場合、文字数とバイト数は同じではありません。ご使用のデータベースのコード・ページを確認して、1 文字あたりのバイト数を判別し、DWRemark フィールドに必要な最小の長さをバイト単位で計算してください。

- 「配列」以外のデータ・タイプの添付ファイル (名前は DocumentNumber)。

この添付ファイルには、リンク対象文書の文書 ID が含まれています。

- Utility Client を使用して文書がリンクされる場合は、P8 キューで F\_CLASS フィールドと DWRemark フィールドを公開します。これらのフィールドは内部検索で使用されます。

Expose Workplace または Workplace XT のプロセス構成コンソールを使用してフィールドを公開します。詳しくは、IBM FileNet P8 インフォメーション・センターを参照してください。

**注:** 名前 Barcode および DWRemark では大/小文字の区別があり、変更しないようにする必要があります。これらが既に存在している場合は、これらの名前に選択した名前をマップする属性マッピング・ファイルを作成する必要があります。例えば、Barcode の代わりに bar\_code、および DWRemark の代わりに remarks を使用する場合、属性マッピング・ファイルは以下のようになります。

```
INTERNAL_BARCODE bar_code
INTERNAL_DWREMARK remarks
```

属性マッピング・ファイルの作成方法の詳細は、127 ページの『第 17 章 属性またはプロパティの名前のマッピング』を参照してください。

Content Collector for SAP では、バーコード処理用に設計されたワークフロー定義のサンプルを用意しています。このワークフロー定義は、ファイル WorkflowGeneration.pep で入手できます。このファイルは <InstallHome> にあります。このサンプルを Workplace または Workplace XT に統合して、必要に応じて変更します。

P8 キューとワークフローの作成方法については、IBM FileNet P8 インフォメーション・センターを参照してください。以下の手順は、ワークフロー定義のサンプルを Workplace XT に統合する方法を示しています。

1. 以下の Web アドレスにアクセスして、Workplace XT を開始します。  
`http://<application_engine_hostname>:<portnumber>/WorkplaceXT`
2. 管理者として Workplace XT にログオンします。
3. 「ツール (Tools)」 > 「拡張ツール (Advanced Tools)」 > 「プロセス・デザイナー (Process Designer)」をクリックします。
4. 表示される署名済みアプレットのセキュリティ証明書を受諾します。
5. 「プロセス・デザイナー (Process Designer)」ウィンドウで、「ファイル」 > 「開く」をクリックし、<InstallHome> に移動してから、ファイル WorkflowGeneration.pep を選択します。ワークフロー定義のサンプルがインポートされます。ワークフローの名前がタブに表示され、「ワークフロー (Workflow)」領域にアイコンが追加されます。
6. 右側に表示されるワークフロー・プロパティを表示および変更するには、この新しいアイコンをクリックします。

## P8 Clientを使用して FileNet P8 オブジェクトをリンクするための構成

選択されたアーカイブ文書、フォルダー、保管された検索、および検索テンプレートを、P8 Client のいずれかのポートレットを使用してリンクするには、P8 Client を構成する必要があります。さらに、Collector Serverでポートレットを使用できるようにする必要があります。

**始める前に:**

1. サーバー・パッケージまたはクライアント・パッケージから P8 Client をインストールし、クライアント・パッケージから P8 Client SAP Connector をインストールします。詳しくは、99 ページの『第 13 章 Content Collector for SAP のインストール』を参照してください。
2. 129 ページの『第 18 章 環境の準備』。
3. 152 ページの『Content Collector for SAP で使用するために FileNet P8 を構成する』。
4. 171 ページの『FileNet P8 で使用するための Collector Server の構成』。
5. 191 ページの『Collector Server を初めて始動する』。

図 13 は、P8 Client を使用して FileNet P8 オブジェクトをリンクできるようにするには Content Collector for SAP 環境のどの部分を構成する必要があるかを示しています。

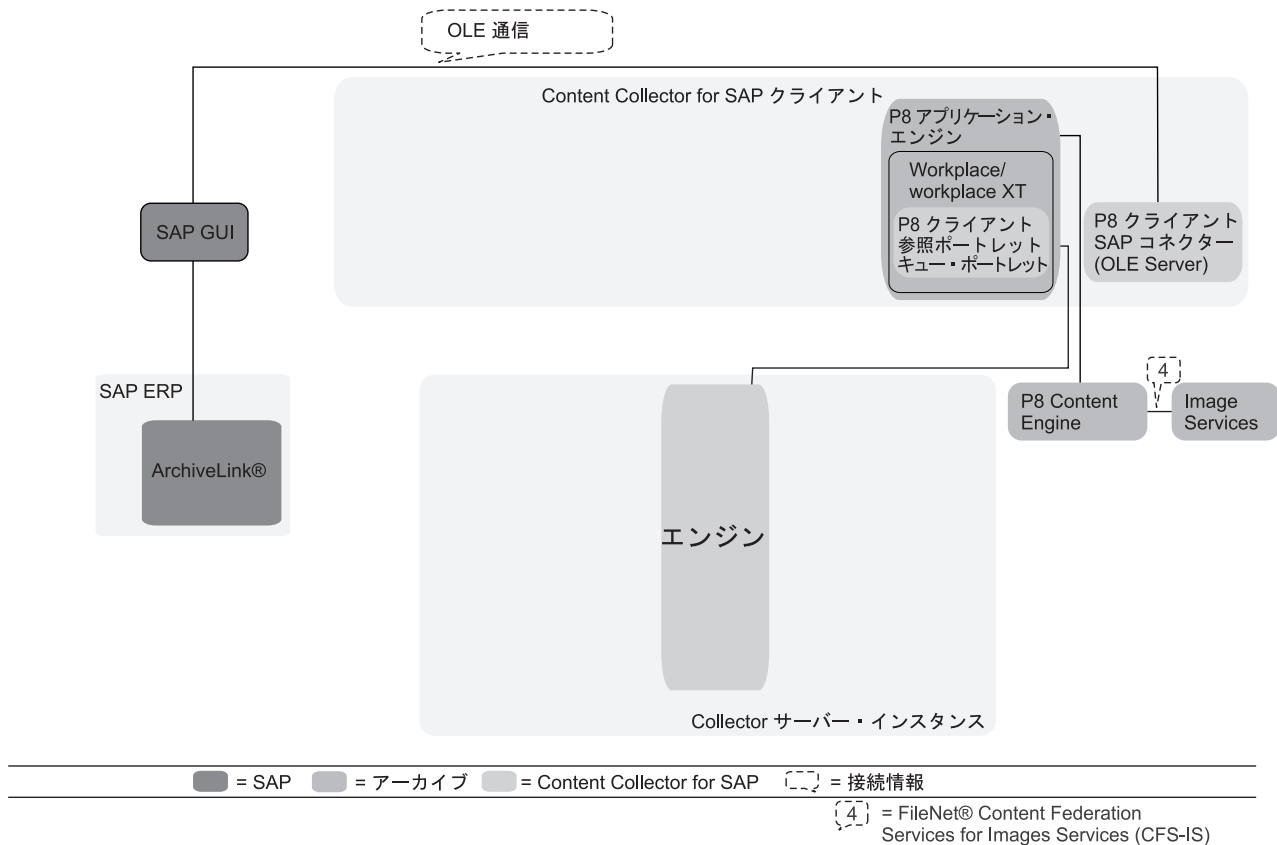


図 13. P8 Client を使用した FileNet P8 オブジェクトのリンクのための Content Collector for SAP 環境の構成

このトピックの始めにリストされている前提条件タスクを完了することによって、以下の部分が構成されることになります。

- FileNet P8 (リンクされるオブジェクトが含まれています)
- Collector Server

P8 Client SAP Connectorは P8 Clientと SAP GUI の間のインターフェースです。これは、Object Linking and Embedding (OLE) を使用して SAP GUI と通信します。このため、Hypertext Transfer Protocol (HTTP) 接続および Remote Function Call (RFC) 接続は必要ありません。

以下の手順を実行して、P8 Clientを使用して FileNet P8 オブジェクトをリンクするための環境の構成を完了します。

1. P8 Clientの構成
  - a. 217 ページの『管理者として Workplace または Workplace XT にログオンする』
  - b. どのポートレットを使用するかに応じて、または両方のポートレットを使用するかどうかに応じて、以下のタスクのいずれかまたは両方を完了します。
    - 218 ページの『「Browse」ポートレットの構成』
    - 222 ページの『「Queue」ポートレットの構成』
2. 227 ページの『第 23 章 P8 Client SAP Connector の構成』
3. 『Collector Serverで P8 Client を使用できるようにする』

## Collector Serverで P8 Client を使用できるようにする

Collector Serverで P8 Client のポートレットを使用できるようにする必要があります。このために、特定のキーワードがサーバー構成プロファイルに正しく設定されていることを確認してください。

### 始める前に:

1. 217 ページの『第 22 章 P8 Client の構成』
2. 227 ページの『第 23 章 P8 Client SAP Connector の構成』

### 手順:

1. 使用する Collector Serverのサーバー構成プロファイルをテキスト・エディターで開きます。
2. 以下のキーワードを設定する必要があります。

```
DESTINATION <dest_name>  
R3NAME      <sap_system>  
DISPATCHERS 0
```

<dest\_name>  
自分で選択した名前を指定します。

<sap\_system>  
SAP に文書をリンクする際に Collector Serverが接続する SAP システムの ID を指定します。

### 注:

- DESTINATION セクションにキーワード R3NAME を指定する必要があります。
- DISPATCHERS キーワードの値は、0 に設定できます。また、DISPATCHERS キーワードを削除することもできます。DISPATCHERS キーワードを 0 より大きい値に設定した場合は、DESTINATION セクションに追加のキーワードを指定して、さらに情報を指定する必要があります。

3. サーバー構成プロファイルを保存し、Collector Serverを再始動して変更を有効にしてください。

## 印刷リストをアーカイブおよび表示するための構成

印刷リストをアーカイブおよび表示するためには、基本環境が必要です。

始める前に:

1. 129 ページの『第 18 章 環境の準備』.
2. 139 ページの『第 19 章 Content Collector for SAP で使用するためにアーカイブを構成する』.
3. 159 ページの『第 20 章 Collector Serverの構成』. Hypertext Transfer Protocol (HTTP) 接続または Remote Function Call (RFC) 接続を構成します。

図 14 は、印刷リストをアーカイブおよび表示できるようにするために、Content Collector for SAP 環境のどの部分を構成する必要があるかを示します。

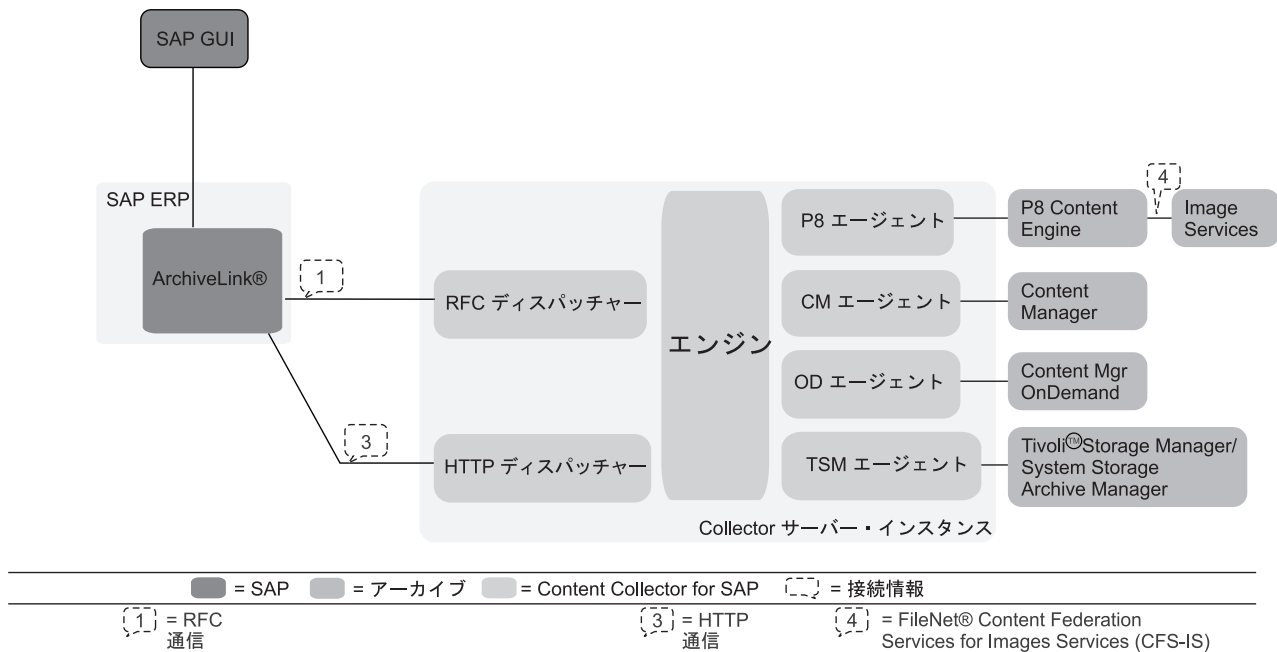


図 14. 印刷リストのアーカイブおよび表示のための Content Collector for SAP 環境の構成

このトピックの始めにリストされている前提条件タスクを完了することによって、以下の部分が構成されることになります。

- データが格納されるアーカイブ
- Collector Server
- Collector Serverと SAP の間の HTTP 接続または RFC 接続

以下のタスクを実行して、印刷リストのアーカイブおよび表示のための環境の構成を完了します。

1. 295 ページの『アーカイブ装置を定義する』

2. 『印刷リスト用に文書タイプを作成して SAP ワークフローで使用可能にする』
3. 296 ページの『SAP ArchiveLink バッチ・ジョブを作成する。』
4. 297 ページの『拡張 ALF 表示を使用可能にする。』
5. 297 ページの『印刷リスト表示を使用可能にする』

## アーカイブ装置を定義する

印刷リストをアーカイブできるアーカイブ装置を定義します。

手順:

1. SAP GUI でトランザクション・コード SPAD を入力して、「スプール管理: 初期画面 (Spool Administration: Initial Screen)」ウィンドウを開く。
2. 「出力装置 (Output devices)」の隣にある「表示」をクリックする。
3. 「スプール管理: 出力装置のリスト (Spool Administration: List of Output Devices)」ウィンドウで、「ARCH」をダブルクリックする。
4. 「スプール管理: 出力装置 (変更) (Spool Administration: Output Device (Change))」ウィンドウで、「変更 (Change) アイコン  をクリックする。
5. 「スプール管理: 出力装置 (変更) (Spool Administration: Output Device (Change))」ウィンドウの「装置属性 (Device Attributes)」ページで、「装置タイプ (Device Type)」リストから、「ARCHLINK: SAP ArchiveLink アーカイバー (ARCHLINK: SAP ArchiveLink Archiver)」を選択する。
6. 「装置クラス (Device Class)」から「アーカイブ・プログラム (Archiving program)」を選択する。
7. 「アクセス方式 (Access Method)」タブをクリックする。
8. 「ホスト・スプール・アクセス方式 (Host Spool Access Method)」から「I: アーカイブ装置 (I: Archiving Device)」を選択する。
9. 「保管」アイコン  をクリックして、設定を保存します。

次の作業: 『印刷リスト用に文書タイプを作成して SAP ワークフローで使用可能にする』

## 印刷リスト用に文書タイプを作成して SAP ワークフローで使用可能にする

印刷リストは SAP ビジネス・オブジェクト DRAW にリンクされる必要があります。特定のワークフローに関連付けることができる印刷リストだけがアーカイブされてリンクされます。特定のワークフローへの印刷リストの関連付けは、文書タイプをキューに割り当て、その文書タイプを SAP ワークフローで使用可能にすることにより行います。

始める前に: 『アーカイブ装置を定義する』

Archiving Client でキューを作成したときに文書タイプをキューに割り当てました。SAP で適合する文書タイプを作成し、それを SAP ワークフローで使用可能にする必要があります。

このタスクを実行するために必要な手順については、267 ページの『着信文書の文書タイプを作成して SAP ワークフローで使用可能にする』を参照してください。

「ArchiveLink: 「文書タイプのカスタマイズ」ウィザード (ArchiveLink: Document Type Customizing Wizard)」の「オブジェクト、メソッドおよびタスク (Object, method and tasks)」ページの「オブジェクト・タイプ (Obj. type)」フィールドに忘れずに「DRAW」を指定してください。

次の作業: 『SAP ArchiveLink バッチ・ジョブを作成する。』

## SAP ArchiveLink バッチ・ジョブを作成する。

SAP ArchiveLink バッチ・ジョブを作成して、スプールされた印刷リストを自動的にアーカイブします。



始める前に: 295 ページの『印刷リスト用に文書タイプを作成して SAP ワークフローで使用可能にする』

手順:

1. SAP GUI でトランザクション・コード SM36 を入力して、「バックグラウンド・ジョブの定義 (Define Background Job)」ウィンドウを開きます。
2. 「ジョブ名 (Job name)」フィールドに、自分で選択した名前を入力します。


例えば、以下のように入力します。

ARCHIVELINK

3. 「ジョブ・クラス (Job class)」フィールドの値は C のままにしておきます。
4. 「開始条件 (Start condition)」アイコン  Start condition をクリックします。
5. 「開始時刻」ウィンドウで、「日付 / 時刻 (Date/Time)」をクリックします。
6. 使用可能になるフィールドで、スケジュールを指定し、ウィンドウの下部にある「保管」アイコン  をクリックします。「ジョブ開始 (Job start)」の下に指定したスケジュールが表示される「バックグラウンド・ジョブの定義 (Define Background Job)」ウィンドウに戻ります。
7. 「ステップ (Step)」をクリックします。
8. 「ステップ 1 の作成 (Create Step 1)」ウィンドウで、「ABAP プログラム (ABAP program)」をクリックします。
9. 「ABAP プログラム (ABAP program)」の下で、「名前」フィールドに ABAP プログラムの名前を入力します。

例えば、以下のように入力します。

ILQBATCH

10. ウィンドウの下部にある「保管」アイコン  をクリックします。「ステップ・リスト概要 (Step List Overview)」ウィンドウが開きます。指定した ABAP プログラムが表示されます。

次の作業: 297 ページの『拡張 ALF 表示を使用可能にする。』

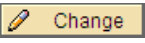
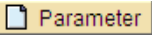




## 拡張 ALF 表示を使用可能にする。

拡張 ALF 表示を使用可能にするには、以下のステップを実行します。

始める前に: 296 ページの『SAP ArchiveLink バッチ・ジョブを作成する。』

手順:

1. SAP GUI でトランザクション・コード RZ10 を入力して、「プロファイルの編集 (Edit Profiles)」ウィンドウを開きます。
2. 「プロファイル」フィールドに、既存のプロファイルの名前を指定します。  
  
例えば、「DEFAULT」を選択します。
3. 「プロファイルの編集 (Edit Profile)」で、「拡張保守 (Extended maintenance)」をクリックし、次に「変更 (Change)」アイコン  をクリックします。
4. 「プロファイルの保守 (Maintain Profile)」ウィンドウで、「作成 (Create)」アイコン  をクリックします。
5. 「パラメーター名 (Parameter name)」フィールドに、以下の値を入力します。  
rspo/archive\_format
6. 「パラメーター値 (Parameter val.)」フィールドに、以下の値を入力します。  
2
7. 「終了」アイコン  をクリックします。
8. 「パラメーターは変更されました。変更内容を保存しますか? (The parameter was changed. Do you want to save the changes?)」というメッセージが表示されたら、「はい」をクリックします。
9. 「プロファイルの編集 (Edit Profiles)」ウィンドウで、「保管」アイコン  をクリックします。
10. プロファイルを活動化するかどうか尋ねられたら、「はい」をクリックします。

次の作業: 『印刷リスト表示を使用可能にする』

## 印刷リスト表示を使用可能にする

印刷リストの表示を使用可能にするには、SAP ArchiveLink プロトコルを調整する必要があります。





このトピックでは、サンプル・プロトコル HTTP1 を調整する方法を示します。

始める前に: 『拡張 ALF 表示を使用可能にする。』

手順:

1. SAP GUI でトランザクション・コード OAA3 を入力して、「ArchiveLink: 通信インターフェース管理 (ArchiveLink: Communications Interface Administration)」ウィンドウを開きます。
2. SAP ArchiveLink プロトコルをダブルクリックします。

例えば、「HTTP1」をダブルクリックします。

3. 「ArchiveLink プロトコル: プロトコルの概要 (ArchiveLink Protocols: Overview of Protocol)」ウィンドウで、「保管文書の表示 (Display Stored Document)」をダブルクリックします。
4. 「文書クラス (Document classes)」の下で、「ALF」の横にあるラジオ・ボタンをクリックし、「変更 (Change)」アイコン  をクリックします。
5. 開いた小さなウィンドウの「通信タイプ (Communication Type)」フィールドで、R/3 を指定し、「続く (Continue)」アイコン  をクリックします。
6. 「続く (Continue)」アイコン  をクリックして指定内容を確認し、ウィンドウを閉じます。
7. 「保管」アイコン  をクリックして、設定を保存します。

---

## SAP GUI を使用して、アーカイブされた文書を表示するための構成

SAP GUI を使用して、アーカイブされた文書を表示するには、基本環境だけが必要です。

始める前に:

1. 139 ページの『第 19 章 Content Collector for SAP で使用するためにアーカイブを構成する』。
2. 159 ページの『第 20 章 Collector Serverの構成』。Hypertext Transfer Protocol (HTTP) 接続を構成します。印刷リストのために、HTTP 接続または Remote Function Call (RFC) 接続を構成できます。

299 ページの図 15 は、SAP GUI を使用して、アーカイブされた文書を表示できるようにするために Content Collector for SAP 環境のどの部分を構成する必要があるかを示しています。

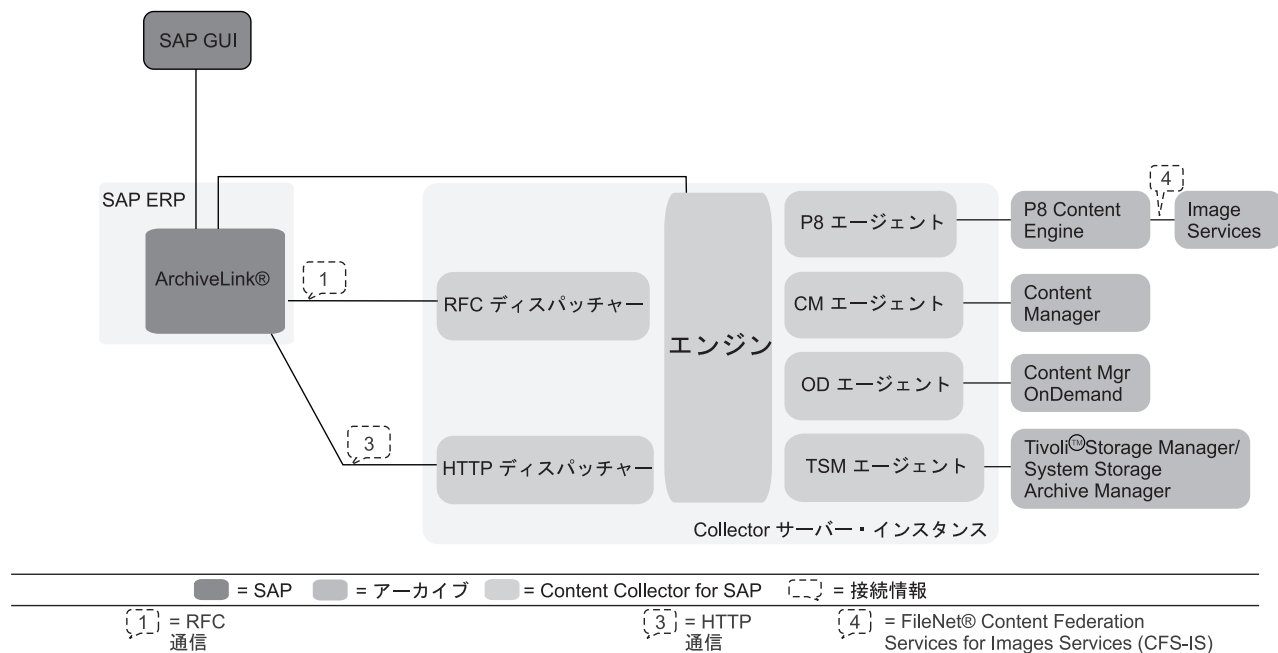


図 15. SAP GUI を使用して、アーカイブされた文書を表示するための Content Collector for SAP 環境の構成

このトピックの始めにリストされている前提条件タスクを完了することによって、以下の部分が構成されることになります。

- 表示される文書が格納されているアーカイブ
- Collector Server
- Collector Serverと SAP の間の HTTP 接続または RFC 接続

## 外部ビューアー・アプリケーションを使用した、アーカイブされた文書の表示のための構成

アーカイブされた文書を外部のビューアー・アプリケーションで表示するには、基本環境に加えて Viewing Client が必要です。Viewing Client は、OLE を使用して SAP GUI から始動します。Viewing Client によって、ビューアー・アプリケーションが開始されます。

### 始める前に:

1. クライアント・パッケージから Viewing Client をインストールします。詳しくは、105 ページの『コンソール・モードまたは GUI モードでのクライアント・パッケージのインストール』を参照してください。
2. 139 ページの『第 19 章 Content Collector for SAP で使用するためにアーカイブを構成する』。
3. 159 ページの『第 20 章 Collector Serverの構成』。Hypertext Transfer Protocol (HTTP) 接続を構成します。印刷リストのために、HTTP 接続または Remote Function Call (RFC) 接続を構成できます。

300 ページの図 16 は、外部ビューアー・アプリケーションを使用して、アーカイブされた文書を表示できるようにするために Content Collector for SAP 環境のどの部

分を構成する必要があるかを示しています。

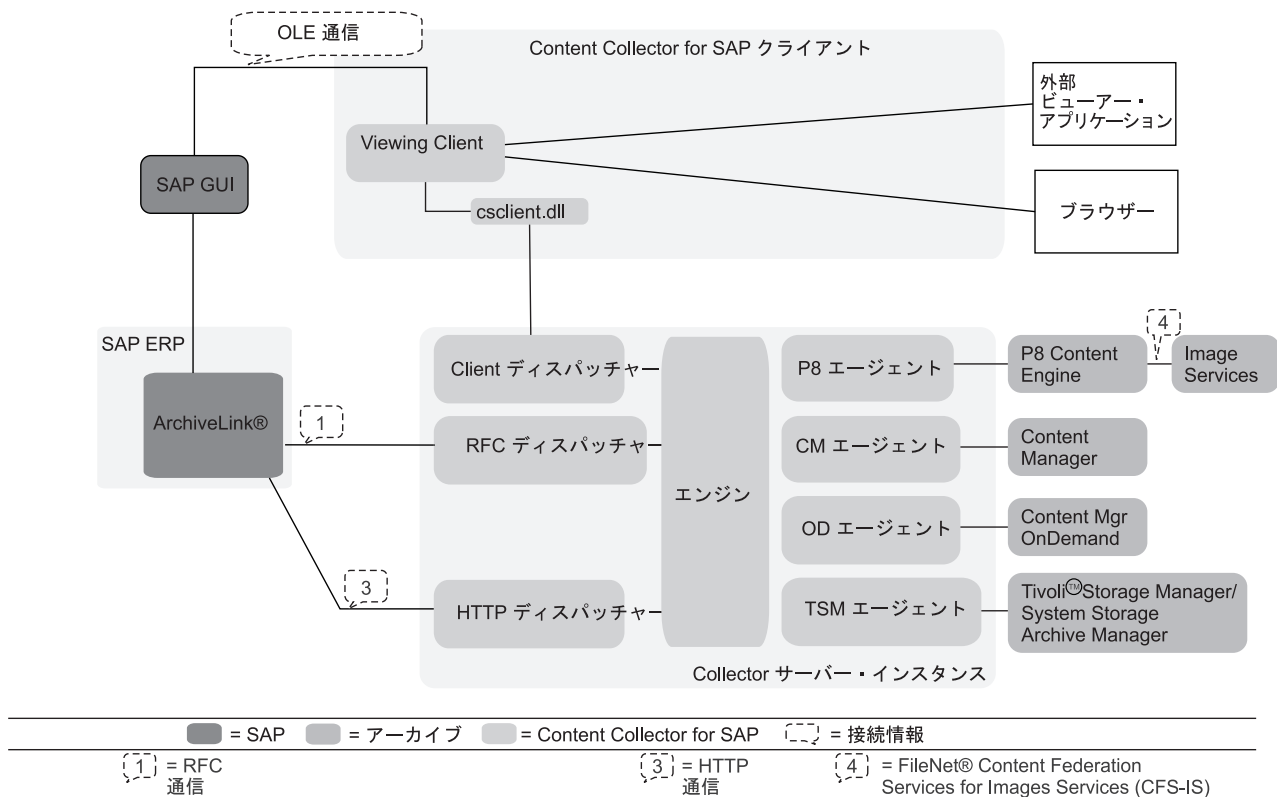


図 16. 外部ビューアー・アプリケーションを使用して、アーカイブされた文書を表示するための *Content Collector for SAP* 環境の構成

このトピックの始めにリストされている前提条件タスクを完了することによって、以下の部分が構成されることになります。

- 表示される文書が格納されているアーカイブ
- Collector Server
- Collector Serverと SAP の間の HTTP 接続または RFC 接続

以下の手順を実行して、外部ビューアー・アプリケーションを使用して、アーカイブされた文書を表示するための環境の構成を完了します。


1. Viewing Client の構成
  - a. 241 ページの『「Viewing Client」』
  - b. 245 ページの『Collector Serverで Viewing Client を使用できるようにする』
2. 301 ページの『SAP への Archiving Client の登録』
3. 301 ページの『文書表示のために SAP ArchiveLink アプリケーションを作成する』
4. 303 ページの『文書を表示するための SAP ArchiveLink プロトコルの調整』
5. 304 ページの『ビューアー・アプリケーションを終了するための、SAP ArchiveLink アプリケーションの構成』

## SAP への Archiving Client の登録

Object Linking and Embedding (OLE) アプリケーションを Archiving Client に登録することにより、SAP GUI を使用可能にして、Archiving Client を開始します。

始める前に: 241 ページの『第 25 章 Viewing Client の構成』

手順:

1. SAP GUI でトランザクション・コード S0LE を入力して、「「OLE アプリケーションの保守ビュー」ビューの表示: 全容表示 (Display View "Maintenance view for OLE applications": Overview)」ウィンドウを開きます。
2. 「表示」->「変更 (Change)」アイコン  をクリックします。警告: テーブルはクロス・クライアントです。(Caution: The table is cross-client.) というメッセージを含むウィンドウが表示された場合は、Enter を押します。
3. 「新規項目 (New Entries)」をクリックする。
4. 「新規項目: 追加項目の詳細 (New Entries: Details of Added Entries)」ウィンドウで、以下の情報を指定します。

フィールド名	説明
OLE アプリケーション	以下を入力します。 OLEDISPA.DOCUMENT  この名前は、SAP ArchiveLink アプリケーションを Viewing Client と一緒に使用するために構成するときに、もう一度指定する必要があります。
CLSID	以下を入力します。 {45526A21-AA41-11CF-B90A-0004ACED415F}
情報キーの入力 (Type Info key)	以下を入力します。 NO_TYPELIB

その他のすべてのフィールドはブランクのままにします。

5. 「保管」アイコン  をクリックして、設定を保存します。

次の作業: 『文書表示のために SAP ArchiveLink アプリケーションを作成する』


## 文書表示のために SAP ArchiveLink アプリケーションを作成する

SAP ArchiveLink アプリケーションを作成し、Viewing Client で使用するために構成する必要があります。

始める前に: 『SAP への Archiving Client の登録』

手順:

1. SAP GUI で、トランザクション・コード OAA4 を入力して「ArchiveLink: アプリケーションの保守 (ArchiveLink: Application Maintenance)」ウィンドウを開きます。

2. 「作成 (Create)」アイコン  をクリックします。
3. 「ArchiveLink: アプリケーションの保守 (ArchiveLink: Application Maintenance)」ウィンドウで、SAP ArchiveLink アプリケーションに対してユーザーが選択した名前を入力します。

例えば、以下のように入力します。

CSVIEW

4. Enter を押します。「ArchiveLink: アプリケーションの保守 (ArchiveLink: Application Maintenance)」ウィンドウに戻ります。
5. 作成した SAP ArchiveLink アプリケーションをダブルクリックします。

例えば、「CSVIEW」をダブルクリックします。

6. 「Windows SAPGUI OLE 自動化 (Windows SAPGUI OLE automation)」ページで、「保管文書の表示 (Display Stored Document)」をダブルクリックします。
7. 開いたウィンドウで、以下の情報を指定します。
  - a. 「アプリケーション (Application)」フィールドに、SAP と一緒に Viewing Client を登録したときに指定した OLE アプリケーション名を入力します。


以下を入力します。

OLEDISPA.DOCUMENT

- b. ラジオ・ボタンをクリックし、次の表に示すようにコマンドを入力します。最初の行から指定を開始します。

ラジオ・ボタン	コマンド
M	SetUID @UID 注: このステップは、注釈を処理する際にユーザー ID を保存する場合にのみ必要です。
M	SetAID @AID 指定したコマンドがメソッドとして使用されます。
M	doView @DID 指定したコマンドがメソッドとして使用されます。
G	@EID =EID 指定したコマンドを使用して、Archiving Client から属性の値が取得されます。

注: コマンドは、表に示されているとおりに正確に入力します。

8. 「戻る (Back)」をクリックします。
9. 「保管」アイコン  をクリックして設定を保存します。

「保管文書の表示 (Display Stored Document)」の隣にある状況が、「保守 (Maintained)」に変わります。

次の作業: 『文書を表示するための SAP ArchiveLink プロトコルの調整』

## 文書を表示するための SAP ArchiveLink プロトコルの調整

Viewing Client で使用するために、SAP ArchiveLink プロトコルを調整する必要があります。


このトピックでは、サンプル・プロトコル HTTP1 を調整する方法を示します。

始める前に: 301 ページの『文書表示のために SAP ArchiveLink アプリケーションを作成する』


手順:


1. SAP GUI でトランザクション・コード OAA3 を入力して、「ArchiveLink: 通信インターフェース管理 (ArchiveLink: Communications Interface Administration)」ウィンドウを開きます。
2. SAP ArchiveLink プロトコルをダブルクリックします。

例えば、「HTTP1」をダブルクリックします。



3. 「ArchiveLink プロトコル: プロトコルの概要 (ArchiveLink Protocols: Overview of Protocol)」ウィンドウで、「保管文書の表示 (Display Stored Document)」をダブルクリックします。
4. 「文書クラス (Document classes)」の下で、SAP 文書クラスの横にあるラジオ・ボタンをクリックし、「変更 (Change)」アイコン  をクリックします。この文書クラスは、表示する文書の MIME タイプを表すものでなければなりません。

例えば、「FAX」をクリックします。

注: 文書クラスはアルファベット順にソートされます。選択する文書クラスは、別のページに表示されている場合があります。「次のページ (Next page)」アイコン  をクリックして、次のページに移動します。

5. 開いた小さなウィンドウの「通信タイプ (Communication Type)」フィールドで、OPEN を指定し、「続く (Continue)」アイコン  をクリックします。
6. 「アプリケーション (Application)」フィールドで、以前に作成した SAP ArchiveLink アプリケーションの名前を指定します。

例えば、「CSVVIEW」を選択します。

7. 「続く (Continue)」アイコン  をクリックして指定内容を確認し、ウィンドウを閉じます。
8. 「保管」アイコン  をクリックして、設定を保存します。

次の作業: 304 ページの『ビューアー・アプリケーションを終了するための、SAP ArchiveLink アプリケーションの構成』

## ビューアー・アプリケーションを終了するための、SAP ArchiveLink アプリケーションの構成

SAP ArchiveLink は、SAP ArchiveLink アプリケーション内で Object Linking and Embedding (OLE) 機能呼び出し、その機能によって外部のビューアー・アプリケーションを終了させることができます。これにより、リソースをご使用のコンピューターに保存できます。

**始める前に:** 303 ページの『文書を表示するための SAP ArchiveLink プロトコルの調整』

Viewing Client は、doCloseWindow 呼び出しを受け取ると、ビューアー・アプリケーションの現行インスタンスを終了します。この目的で SAP ArchiveLink アプリケーションを構成する場合は、以下のステップに従ってください。

### 手順:

1. SAP GUI で、トランザクション・コード OAA4 を入力して「ArchiveLink: アプリケーションの保守 (ArchiveLink: Application Maintenance)」ウィンドウを開きます。
2. 文書表示のために構成した SAP ArchiveLink アプリケーションをダブルクリックします。

例えば、「CSVIEW」をダブルクリックします。

3. 「Windows SAPGUI OLE 自動化 (Windows SAPGUI OLE automation)」ページで、「ウィンドウを閉じる (Close window)」をダブルクリックします。
4. 開いたウィンドウで、以下の情報を指定します。
  - a. 「アプリケーション (Application)」フィールドに、SAP と一緒に Viewing Client を登録したときに指定した OLE アプリケーション名を入力します。


以下を入力します。

OLEDISPA.DOCUMENT

- b. 最初の行でラジオ・ボタンをクリックし、以下の表に示すようにコマンドを入力します。

ラジオ・ボタン	コマンド
M	doCloseWindow 注: 指定したコマンドがメソッドとして使用されます。

注: コマンドは、表に示されているとおりに正確に入力します。

5. 「戻る (Back)」をクリックします。
6. 「保管」アイコン  をクリックして設定を保存します。

「ウィンドウを閉じる (Close window)」の隣にある状況が、「保守 (Maintained)」に変わります。



## Content Manager eClient

を使用して Content Manager 文書を表示するための構成 Content Manager eClient を Content Collector for SAP に統合することにより、eClient の追加機能 (アーカイブされた文書への注釈の追加など) を使用することもできます。

### 始める前に:

1. 115 ページの『eClient 拡張機能のインストール』
2. 129 ページの『第 18 章 環境の準備』.
3. 139 ページの『Content Collector for SAP で使用するために Content Manager を構成する』.
4. 165 ページの『Content Manager Version 8 で使用するための Collector Serverの構成』.
5. 180 ページの『Hypertext Transfer Protocol (HTTP) を介した Collector Server と SAP の間の接続のセットアップ』.
6. 191 ページの『Collector Server を初めて始動する』.

図 17 は、Content Manager eClient を使用して Content Manager 文書を表示できるようにするために Content Collector for SAP 環境のどの部分を構成する必要があるかを示しています。

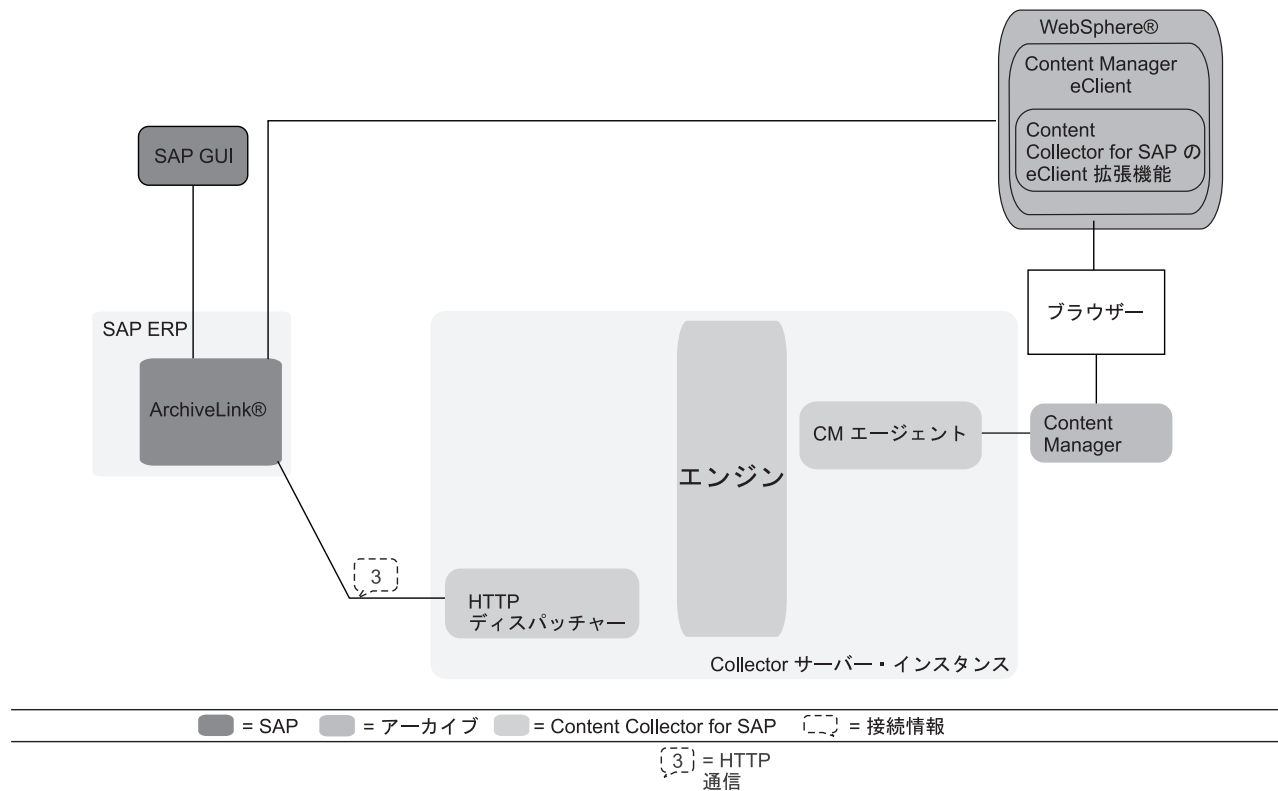


図 17. Content Manager eClient を使用して Content Manager 文書を表示するための Content Collector for SAP 環境の構成

このトピックの始めにリストされている前提条件タスクを完了することによって、以下の部分が構成されることになります。

- Content Manager Enterprise Edition、表示される文書が格納されている場所
- Collector Server
- Collector Serverと SAP の間の HTTP 接続

Content Manager eClient を統合するためには、サーバー構成プロファイルを変更して、eClient と Collector Server間の接続を確立する必要があります。

**手順:**

1. 使用する Collector Serverのサーバー構成プロファイルをテキスト・エディターで開きます。
2. ECLIENT\_URL\_PREFIX キーワードを設定して、Content Manager eClient がインストールされているサーバーの完全修飾ホスト名を指定します。例えば、次のようになります。

```
ECLIENT_URL_PREFIX /myserver.com:9080/eclient/
```

**注:** ECLIENT\_URL\_PREFIX はグローバル・キーワードです。サーバー構成プロファイルで一度指定すると、eClient で使用可能なすべてのアーカイブで有効になります。

3. eClient で有効にしようとするアーカイブの ARCHIVE セクションに、次の行を追加します。

```
ECLIENT_VIEWING YES
```

4. Secure Hypertext Transfer Protocol (HTTPS) を使用して eClient に接続する場合は、使用可能にするアーカイブの ARCHIVE セクションに、さらに以下の行も追加します。

```
ECLIENT_PROTOCOL HTTPS
```

5. オプション: eClient で表示および編集できる文書タイプを制限することができます。以下のキーワードを使用してください。

**ECLIENT\_INCLUDED\_TYPES**

eClient で表示および編集できる文書タイプを指定します。デフォルトで、すべてのタイプが許可されます。1 つ以上の MIME タイプをコンマで区切って指定することにより、文書タイプを制限できます。

例えば、eClient でテキスト文書だけを表示または編集できるように指定するには、このキーワードを次のように指定します。

```
ECLIENT_INCLUDED_TYPES 'text/plain'
```

**注:** これはグローバル・キーワードです。サーバー構成プロファイルで一度指定すると、eClient で使用可能なすべてのアーカイブで有効になります。

**ECLIENT\_EXCLUDED\_TYPES**

eClient で表示および編集できない文書タイプを指定します。次の例のように、1 つ以上の MIME タイプを指定してください。

```
ECLIENT_EXCLUDED_TYPES 'application/pdf,text/plain'
```

**注:**

- これはグローバル・キーワードです。サーバー構成プロファイルで一度指定すると、eClient で使用可能なすべてのアーカイブで有効になります。

- デフォルトで、MIME タイプ `application/x-alf` は、既に除外されています。
6. オプション: eClient で文書を表示または編集するには、Content Manager Enterprise Edition にログオンする必要があります。自分自身の認証を省略したい場合は、サーバー構成プロファイルに次のキーワードを追加します。

```
ECLIENT_USER <userid>
```

**注:**

- このキーワードはセキュリティ上のリスクをもたらす可能性があるため、オプションになっています。このセットアップに組み込まれているコンピューターからは、認証しなくても、アーカイブされた文書を表示できます。
- これはグローバル・キーワードです。サーバー構成プロファイルで一度指定すると、eClient で使用可能なすべてのアーカイブで有効になります。
- 指定したユーザー ID を eClient にアクセスできるユーザー ID として完全に認証するには、そのユーザー ID のパスワードを一度サブミットする必要があります。そのためには、Collector Serverのインスタンス・ディレクトリーから以下のコマンドを入力します。

```
archpro -f eclientpasswd
```

プロンプトが出されたら、パスワードを入力してください。

7. サーバー構成プロファイルを保存し、Collector Serverを再始動して変更内容を有効にします。

---

## Workplace または Workplace XT に組み込まれているビューアー・アプリケーションを使用して FileNet P8 オブジェクトを表示するための構成

Workplace または Workplace XT に組み込まれているビューアー・アプリケーションを使用してアーカイブ済み文書、フォルダー、保管された検索、および検索テンプレートを表示するには、サーバー構成プロファイルを変更する必要があります。

**始める前に:**

1. 129 ページの『第 18 章 環境の準備』.
2. 152 ページの『Content Collector for SAP で使用するために FileNet P8 を構成する』.
3. 171 ページの『FileNet P8 で使用するための Collector Serverの構成』.
4. 180 ページの『Hypertext Transfer Protocol (HTTP) を介した Collector Server と SAP の間の接続のセットアップ』
5. 191 ページの『Collector Server を初めて始動する』.

308 ページの図 18 は、組み込まれているビューアー・アプリケーションを使用して FileNet P8 オブジェクトを表示できるようにするために Content Collector for SAP 環境のどの部分を構成する必要があるかを示しています。

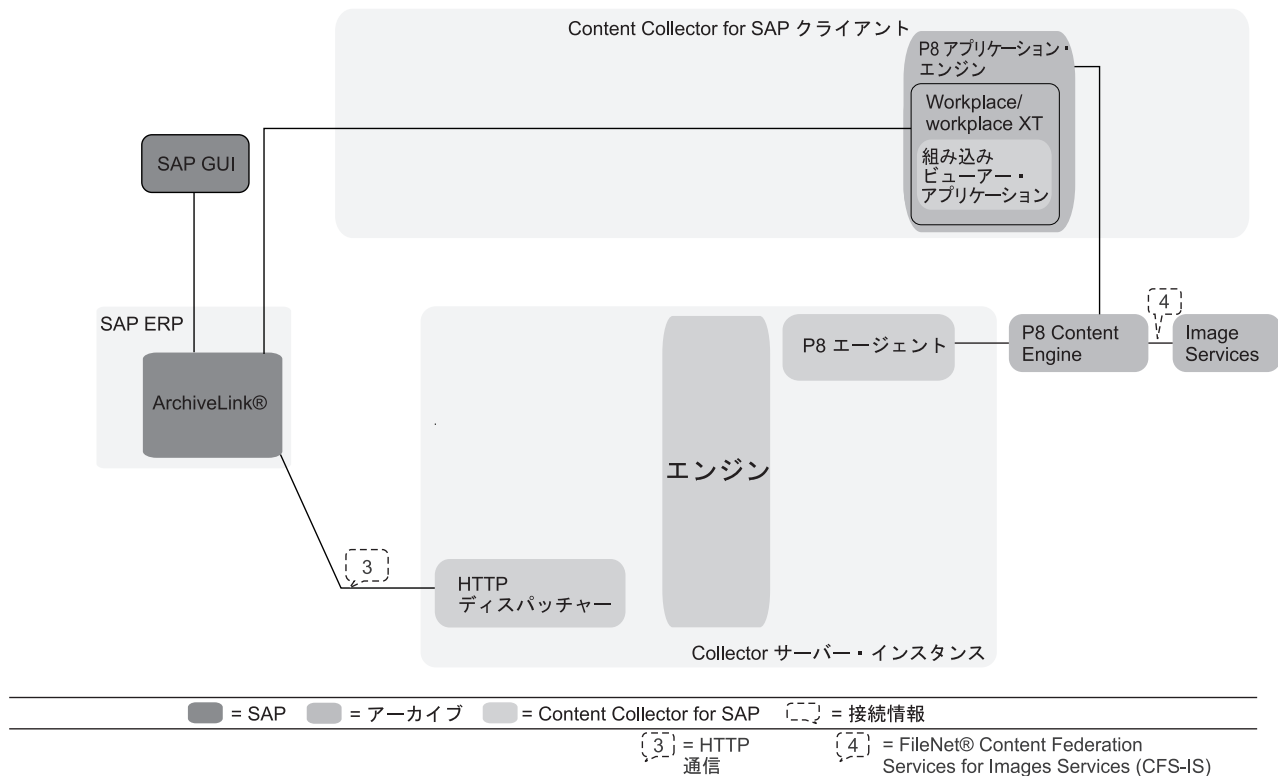


図 18. Workplace または Workplace XT に組み込まれているビューアー・アプリケーションを使用して FileNet P8 オブジェクトを表示するための Content Collector for SAP 環境の構成

このトピックの始めにリストされている前提条件タスクを完了することによって、以下の部分が構成されることになります。

- FileNet P8、表示される文書が格納されている場所
- Collector Server
- Collector Serverと SAP の間の HTTP 接続

以下の手順を実行して、組み込まれているビューアー・アプリケーションを使用して FileNet P8 オブジェクトを表示するための環境の構成を完了します。

1. 使用する Collector Serverのサーバー構成プロファイルをテキスト・エディターで開きます。
2. 個々の FileNet P8 アーカイブの ARCHIVE セクションに、次のキーワードを追加します。

```
WORKPLACEURL <url>
```

<url> は、Workplace または Workplace XT の Web アドレス、つまり `http://<application_engine_hostname>:<portnumber>/Workplace` または `http://<application_engine_hostname>:<portnumber>/WorkplaceXT` を表します。

これで、フォルダー、検索、および検索テンプレートが、Workplace または Workplace XT で開きます。文書はこれまでと同様、SAP が決めるビューアー・アプリケーションで表示されます。

3. 組み込みのビューアー・アプリケーションを使用して文書を表示するかどうかは、MIME タイプごとに決定できます。組み込まれているビューアー・アプリケーションを使用するには、MIME タイプの設定をグループ化する DOCTYPE セクションに、次のキーワードを追加します。

```
PURETHIN YES
```

例:

```
ARCHIVE P81
```

```
...
DOCTYPE      image/tiff
P8DOCCLASS   TIF
PURETHIN     YES
DOCTYPE      image/jpg
P8DOCCLASS   JPG
PURETHIN     YES
```

このサンプルのように指定すると、MIME タイプの image/tiff および image/jpg の文書が FileNet P8 の Image Viewer で表示されます。

4. アーカイブされたオブジェクトを表示するには、Workplace または Workplace XT にログオンする必要があります。オブジェクトを表示するたびにログオンするか、アーカイブ内のすべての文書が表示されるときに使用されるユーザー名を定義します。後者の場合は、認証が不要になります。したがって、アーカイブされたオブジェクトを表示することを許可されているユーザーだけがアーカイブへのアクセス権限を持つようにします。
- アーカイブされたオブジェクトを表示する各ユーザーが Workplace または Workplace XT にログオンする必要があるように決定した場合は、サーバー構成プロファイルを保存し、Collector Serverを再始動して変更を有効にしてください。
  - アーカイブ内のすべての文書が 1 つのユーザー名を使用して表示されるように決定する場合は、以下の手順を実行します。
    - a. サーバー構成プロファイルを保存して、Collector Serverを停止します。
    - b. コマンド行を開いて、インスタンス・ディレクトリーに変更します。
    - c. 以下のコマンドを入力します。

```
archpro -f serverpasswd_WP <server_id> <wp_user_name> <wp_password>
```

変数はオプションです。指定しない場合は、これらを入力するようプロンプトが出されます。

```
<server_id>
```

キーワード OBJECTSTORE、REMOTESERVERURL、および P8DOMAIN の値を指定します。これらのキーワードは、サーバー構成プロファイルに以下の形式で定義されています。

```
[objectstore][remoteserverurl][p8domain]
```

この値のいずれかにブランクが含まれている場合は、サーバー ID 全体を引用符で囲みます。つまり、次のようになります。

```
"[objectstore][remoteserverurl][p8domain]"
```

注: Windows では、二重引用符を使用する必要があります。Linux および UNIX システムでは、単一引用符または二重引用符を使用することができます。

<wp\_user\_name>

WP\_USERID キーワードの値を指定します。

<wp\_password>

Workplace ユーザーまたは Workplace XT ユーザーのパスワードを指定します。

- d. Collector Server を再始動します。

---

## SAP Document Finder を使用してアーカイブ済み文書を検索および表示するための構成

Content Manager Enterprise Edition または Content Manager OnDemand にアーカイブされている文書は、SAP Document Finder を使用して検索および表示することができます。SAP Document Finder は、複数の検索引数を含むクエリーを処理できます。

始める前に:

1. 129 ページの『第 18 章 環境の準備』
2. 139 ページの『Content Collector for SAP で使用するために Content Manager を構成する』または 144 ページの『Content Collector for SAP で使用するために OnDemand を構成する』
3. 165 ページの『Content Manager Version 8 で使用するための Collector Serverの構成』または 168 ページの『OnDemand で使用するための Collector Serverの構成』
4. Hypertext Transfer Protocol (HTTP) および Remote Function Call (RFC) を使用した 178 ページの『Collector Serverと SAP の間の接続の構成』

**重要:** RFC 接続を作成する際、「プログラム ID (Program ID)」フィールドに指定する必要がある ID に数値 1 を忘れずに付加してください。

5. 191 ページの『Collector Server を初めて始動する』

SAP Document Finder は、文書域を検索します。文書域は、Content Manager Enterprise Edition の項目タイプ、または Content Manager OnDemand のアプリケーション・グループに相当します。以下の項目はすべて、文書域によって決まります。

- 文書検索の対象となるオペレーティング・システム、アプリケーション、および論理アーカイブ
- 検索に使用される属性
- 検出された文書が含まれる結果リストのレイアウト

Content Collector for SAP は、SAP に属性を提供します。SAP は、その属性と表示クラスを参照する照会クラスを提供します。これらのクラスを使用することも、独自のクラスを実装することもできます。

通常は、文書がどの文書域にあるかわからないので、複数の文書域をグループ化して 1 つの集合文書域を作成することができます。集合文書域によって、文書域の枠を越えた検索、すなわちさまざまなコンテンツ・リポジトリまたは論理アーカイブでの検索が可能になります。同じデータ・タイプの属性、およびさまざまな文書域からのセマンティクスは、同じテクニカル名を必要としません。ただし、SAP Document Finder を構成すると、異なる属性を集合文書域では 1 つの名前でグループ化することができます。

図 19 は、SAP Document Finder を使用できるようにするために、Content Collector for SAP 環境のどの部分を構成する必要があるかを示します。

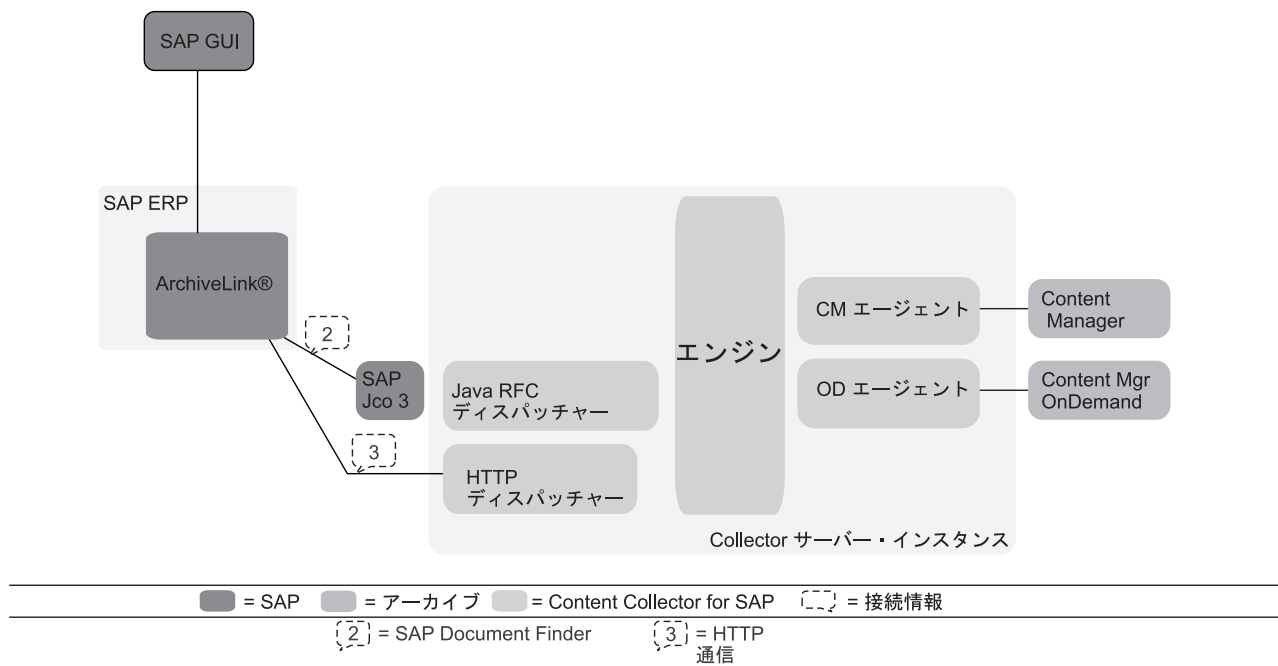


図 19. SAP Document Finder を使用した文書の検索および表示のための Content Collector for SAP 環境の構成


このトピックの始めにリストされている前提条件タスクを完了することによって、以下の部分が構成されることになります。

- 文書が格納されているアーカイブ
- Collector Server
- Collector Serverと SAP の間の HTTP 接続および RFC 接続

SAP Document Finder を使用するには、サーバー構成プロファイルを変更する必要があります、SAP GUI を使用して文書域を作成する必要があります。

#### 手順:

1. サーバー構成プロファイルを変更します。
  - a. サーバー構成プロファイルをテキスト・エディターで開きます。
  - b. 検索されるアーカイブの ARCHIVE セクションに ARCHIVETYPE キーワードを追加し、それを以下の値のいずれかに設定します。
    - Content Manager Enterprise Edition の場合は、キーワードを MULTIPART\_GENERIC に設定します。

- Content Manager OnDemand アーカイブの場合は、キーワードを GENERIC に設定します。
  - c. サーバー構成プロファイルを保存し、Collector Serverを再始動して変更を有効にしてください。
2. SAP で文書域を作成します。
- a. トランザクション・コード SPRO を入力して、「カスタマイズ: プロジェクトの実行 (Customizing: Execute Project)」ウィンドウを開きます。
  - b. 「SAP 参照 IMG (SAP Reference IMG)」をクリックします。
  - c. 「IMG の表示 (Display IMG)」ウィンドウで、ナビゲーション・ツリーを次のように展開します。「SAP NetWeaver」 > 「アプリケーション・サーバー (Application Server)」 > 「基本サービス (Basis Services)」 > 「ArchiveLink」 > 「Document Finder のカスタマイズ (Document Finder Customizing)」 > 「文書域の登録 (Register Document Areas)」。
  - d. 「文書域の登録 (Register Document Areas)」の前にある「IMG - アクティビティ (IMG - Activity)」アイコン  をクリックします。警告: テーブルはクロス・クライアントです。(Caution: The table is cross-client.) というメッセージを含むウィンドウが表示された場合は、Enter を押します。
  - e. 「「ArchiveLink: 文書域」ビューの変更: 全容表示 (Change View "ArchiveLink: Document Areas": Overview)」ウィンドウで、「新規項目 (New Entries)」をクリックします。
  - f. 「新規項目: 追加項目の詳細 (New Entries: Details of Added Entries)」ウィンドウの「文書域 (Document Area)」フィールドに Remote Function Call (RFC) 接続に定義したコンテンツ・リポジトリまたは論理アーカイブの名前を入力します。

例えば、以下のように入力します。

A1





- g. 「宛先」フィールドに RFC 宛先の名前を入力します。

例えば、以下のように入力します。

KD7.ICCSAP

- h. オプション: 「ArchiveLink: 文書域 (ArchiveLink: Document Areas)」に、文書域の説明を入力します。
- i. 「照会クラス (Query Class)」フィールドに、以下のように入力します。  
CL\_ALINK\_QUERY
- j. 「最大ヒット数 (Maximum No. of Hits)」フィールドに 1000 を入力します。このフィールドを空のままにすると、結果リストには検索条件に一致する文書がすべてリストされます。
- k. 全文検索を有効にするには、「FTS アクティブ (FTS Active)」チェック・ボックスを選択します。全文検索を有効にすると、キーワードを指定するためのフィールドが SAP Document Finder に表示されます。
- l. 「文書域アクティブ (Document Area Active)」チェック・ボックスを選択します。



- m. 「保管」アイコン  をクリックする。
- n. 「ワークベンチ要求プロンプト (Prompt for Workbench request)」ウィンドウの「要求 (Request)」フィールドで要求を 1 つ選択する。 要求がまだ存在しない場合は、「作成 (Create)」アイコン  をクリックして要求を作成します。
- o. 「続く (Continue)」アイコン  をクリックします。
- p. 「戻る (Back)」アイコン  をクリックして、「「ArchiveLink: 文書域」ビューの変更: 全容表示 (Change View "ArchiveLink: Document Areas": Overview)」ウィンドウに戻ります。

新しい文書は、「ArchiveLink: 文書域」ビューの変更: 全容表示 (Change View "ArchiveLink: Document Areas": Overview)」ウィンドウのリストに表示されます。

---

## 索引情報の転送のための構成

SAP で作成され、Content Collector for SAP を使用して Content Manager Enterprise Edition、Content Manager OnDemand、および FileNet P8 に格納された文書には、検索可能な属性は含まれません。SAP ビジネス・オブジェクトに格納されている索引情報をこれらのアーカイブされた文書のメタデータに追加すると、これらの文書を検索できます。

### 始める前に:

1. 117 ページの『Utility Client の Index Transfer Enablement パッケージのインストール』
2. 129 ページの『第 18 章 環境の準備』
3. 139 ページの『第 19 章 Content Collector for SAP で使用するためにアーカイブを構成する』
4. 160 ページの『アーカイブと共に使用するための Collector Serverの構成』
5. 191 ページの『Collector Server を初めて始動する』
6. 検索対象のアーカイブに応じて、以下のタスクのいずれかを完了しておきます。
  - 265 ページの『着信文書をアーカイブするための構成』
  - 275 ページの『発信文書をアーカイブするための構成』
  - 286 ページの『FileNet P8 オブジェクトを SAP にリンクするための構成』
  - 277 ページの『Content Manager 文書を SAP にリンクするための構成』

314 ページの図 20 は、索引情報を転送できるようにするために、Content Collector for SAP 環境のどの部分を構成する必要があるかを示します。

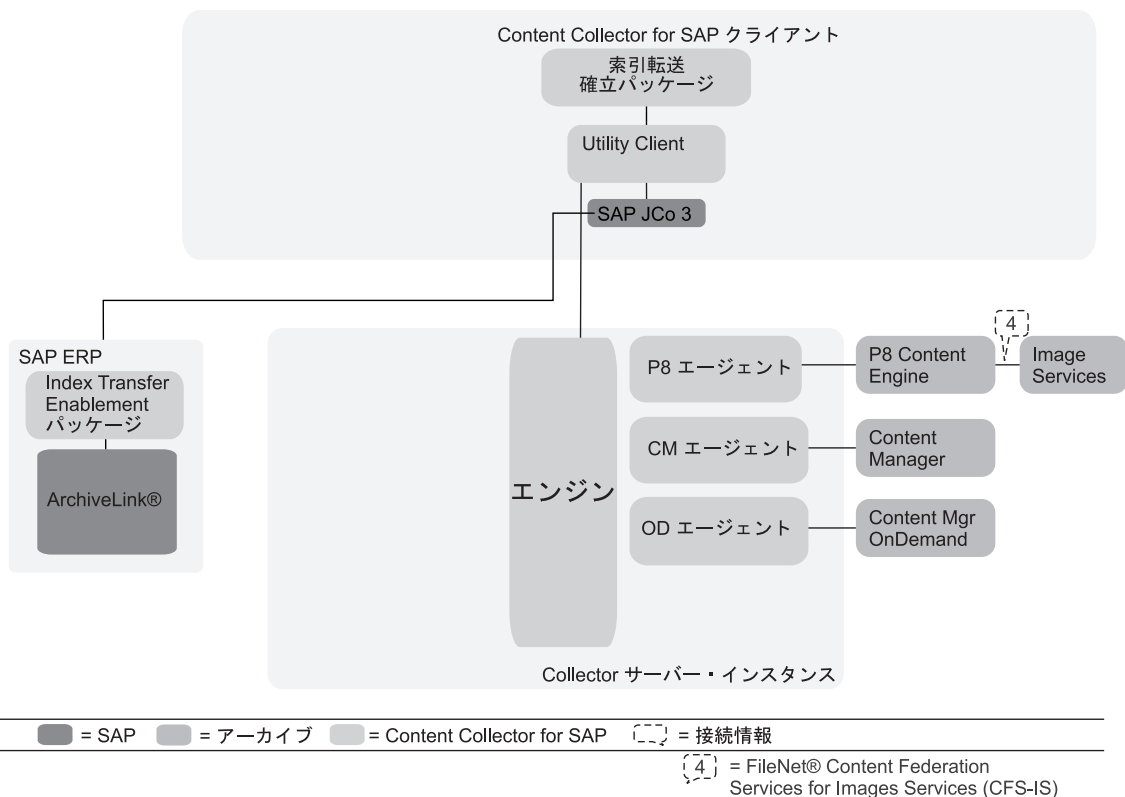


図 20. 索引情報の転送のための Content Collector for SAP 環境の構成

このトピックの始めにリストされている前提条件タスクを完了することによって、以下の部分が構成されることになります。

- 索引情報の転送先となるアーカイブ
- Collector Server

Collector Serverは、SAP と直接通信します。 Hypertext Transfer Protocol (HTTP) 接続および Remote Function Call (RFC) 接続は必要ありません。

以下の手順を実行して、索引情報の転送のための環境の構成を完了します。

1. FileNet P8 アーカイブの場合のみ: 索引情報の転送元の文書クラスを指定する必要があります。
  - a. 使用する Collector Serverのサーバー構成プロファイルをテキスト・エディターで開きます。
  - b. 該当する ARCHIVE セクションに、以下のキーワードを追加します。

```
REPINFOCLASSES <class1, class2, ...>
```

<class1, class2, ...> は、カスタム・プロパティーが索引情報として転送される FileNet P8 文書クラスを表します。リストされるすべての文書クラスに共通のカスタム・プロパティーだけが転送されます。

注: SAPDocId や SAPCompSize などのシステム・プロパティーは転送されません。

- c. REPINFOCLASSES に対してリストされた文書クラスの中には、異なるプロパティを持つものがある可能性があります。この文書クラスのすべてのプロパティが転送されるようにする場合は、以下のキーワードを追加します。

RETURN\_ALL\_ATTR YES

注: この場合は、索引転送をセットアップするときに特に注意してください。

例えば、REPINFOCLASSES Class1, Class2, Class3 と指定するとします。また、リストされた文書クラスには、以下のプロパティがあるとします。

文書クラス	プロパティ
CLASS1	p1, p2, p3, p4
CLASS2	p2, p4, p5
CLASS3	p1, p2, p5, p7

RETURN\_ALL\_ATTR を指定しなかった場合、または RETURN\_ALL\_ATTR NO を指定した場合、prop2 だけが転送されます。RETURN\_ALL\_ATTR YES を指定した場合は、当該のクラスが同じプロパティを持っていないので索引の転送中にエラーを受け取ることになります。ただし、例えば、CLASS1 と CLASS2 の prop2 と prop4 だけが転送されるように索引転送をセットアップすることができます。

- d. サーバー構成プロファイルを保存し、Collector Serverを再始動して変更を有効にしてください。
2. Utility Client の構成
- a. 233 ページの『索引転送のセットアップ』
  - b. 237 ページの『Utility Client の構成の管理』



---

## 第 27 章 追加タスクまたは拡張タスク向け環境の構成

特定の機能を使用する、Collector Serverの始動を自動化する、またはパフォーマンスを向上させるためには、ご使用の環境をさらに構成する必要があります。

---

### ブラウザ・キャッシュへの Web コンテンツの保管の回避

ブラウザは、すべての Web コンテンツおよびダウンロードしたコンテンツのキャッシュ・メモリーを維持します。Web コンテンツのキャッシュ・プロパティは制御できますが、ダウンロードしたコンテンツのキャッシュ・プロパティは制御できません。キャッシュ・ディレクトリーは安全ではないため、Web ブラウザーで重要な資料が表示される場合は、これが問題になる可能性があります。サーバー構成プロファイルを構成することにより、Web コンテンツが Web ブラウザーのキャッシュ・メモリーに保管されないようにすることができます。

#### 始める前に:

- 159 ページの『第 20 章 Collector Serverの構成』。
- HTTP 1.1 準拠のブラウザが必要です。さらに、HTTP 1.1 を使用するようブラウザを構成する必要があります。

#### 手順:

1. サーバー構成プロファイルをテキスト・エディターで開きます。
2. BROWSECACHING キーワードを追加し、以下のように、その値を OFF に設定します。

```
BROWSECACHING OFF
```

このキーワードのデフォルト値は ON です。

Web ブラウザーによって表示コンテンツが一時的に保管されるフォルダーに、文書とプラグインがダウンロードされます。このフォルダーが空になるよう、終了後に Web ブラウザーを閉じます。

---

### Secure Hypertext Transfer Protocol (HTTPS) 通信を構成する

HTTPS は、オープン・ネットワーク上で私用データまたは機密データを転送するために広く使用される規格です。Content Collector for SAP を使用すると、Collector Serverと SAP の間の通信に HTTPS プロトコルを使用することができます。

HTTPS により、Collector Serverが送受信するデータを暗号化することができます。さらに、HTTPS を使用すると、Collector Serverが重要なデータの転送を行なう際に、無許可ユーザーによるそうしたデータへのアクセスを防ぐことができます。

#### 始める前に:

1. 117 ページの『SAP Cryptographic Library のインストール』
2. 129 ページの『第 18 章 環境の準備』

3. 139 ページの『第 19 章 Content Collector for SAP で使用するためにアーカイブを構成する』.
4. 180 ページの『Hypertext Transfer Protocol (HTTP) を介した Collector Server と SAP の間の接続のセットアップ』
5. 191 ページの『Collector Server を初めて始動する』

SAP が HTTPS を使用してアーカイブにアクセスできるようにするには、次の認証方式を構成します。

- サーバー認証。接続中の Web ブラウザーにより、Collector Serverの ID が検査され、Collector Serverによるデータの送受信が確実に行なわれます。
- クライアント認証。Collector Serverによって要求中のクライアントの ID が検査され、無許可のクライアントによる Collector Serverへのアクセスが阻止されます。この機能は、サーバー認証に追加された場合にのみ使用可能です。

これらの認証方式を構成した後も、非セキュア HTTP 接続を使用できます。すべてのデータへのアクセスが HTTPS 接続のみで可能になるようにするには、クライアント接続に対して HTTPS の使用を強制します。

手順:

1. 『サーバー認証の構成』
2. 323 ページの『クライアント認証の構成』
3. 324 ページの『クライアント接続に Secure Hypertext Transfer Protocol (HTTPS) の使用を強制』

## サーバー認証の構成

サーバー認証は、Content Collector for SAP および SAP で構成する必要があります。

手順:

1. 『Content Collector for SAP でのサーバー認証の構成』
2. 321 ページの『SAP でのサーバー認証の構成』

### Content Collector for SAP でのサーバー認証の構成

証明書を作成し、サーバー認証のために Collector Server を構成し、その証明書を SAP にエクスポートする必要があります。

手順:

1. 『Content Collector for SAP 用の証明書の作成』
2. 320 ページの『サーバー認証のために Collector Serverを使用可能にする』
3. 320 ページの『Content Collector for SAP 証明書の SAP へのエクスポート』

### Content Collector for SAP 用の証明書の作成:

Content Collector for SAP は、Secure Sockets Layer (SSL) を提供するために、鍵ストアを必要とします。鍵ストアには、鍵、およびその鍵から作成される証明書が含まれています。

鍵ストアを作成または変更するには、IBM JRE の一部として Content Collector for SAP と共に提供される IBM 鍵管理を使用します。IBM 鍵管理は、Linux システムおよび UNIX システムではパス <InstallHome>/java/jre/bin で、Windows では <InstallHome>%java%jre%bin で入手できます。GUI インターフェースを始動するには、**ikkeyman** プログラムをダブルクリックします。コンソール・インターフェースを使用して証明書を作成するには、以下の手順を実行します。ただし、鍵ストアには一度に 1 つの鍵のみが含まれるようにしてください。

#### 手順:

1. Collector Serverがインストールされているコンピューターでコマンド行を開いて、IBM 鍵管理が含まれているディレクトリーに変更します。
2. 鍵と鍵ストアを作成するには、以下の手順を実行します。
  - a. 次のコマンドを 1 行で入力します。

```
keytool -genkey -keyalg RSA -alias <server_name>
-validity <number_of_days> -keystore <keystore_name>
```

<server\_name>

SAP で HTTP サーバーに対して指定したとおりに Collector Serverのホスト名または IP アドレスを指定します (トランザクション・コード OAC0)。

<number\_of\_days>

この鍵の有効期間を日単位で指定します。

<keystore\_name>

鍵ストアの名前を指定します。

- b. プロンプトで以下のメッセージが表示されたら、パスワードを入力します。  
鍵ストアのパスワードを入力してください (Enter keystore password):
3. 証明書を作成するには、以下の質問に答えます。答えを入力し (必要な場合)、「**Enter**」を押して、次の質問を表示します。以下に例を示します。

```
名前 (姓名) はなんですか
(What is your first and
last name?)
[Unknown]:
<server_name>
```

```
組織単位の名前はなんですか? (What is the name of your organizational unit?)[Unknown]:
Myunit
```

```
組織の名前はなんですか? (What is the name of your organization?)[Unknown]:
Myorg
```

```
市区町村または住所の名前は? (What is the name of your City or Locality?)
[Unknown]:
Mycity
```

```
都道府県の名前は? (What is the name of your State or Province?)[Unknown]:
Mystate
```

```
国の 2 桁の国別コードは? (What is the two-letter country-code for this unit?)[Unknown]:
US
```

```
<CN=myserver.com, OU=Myunit, O=Myorg, L=Mycity, ST=Unknown, C=US> でよろしいですか? [no]:
yes
```

```
<server_name> の鍵パスワードを入力してください (鍵ストアの場合と同じパスワード
を使用する場合は、Enter を押します) (Enter key password for <server_name>
(Press Enter if you want to use the same password as for the keystore))
```

以上の指示に従って、自己署名証明書を作成します。Collector Server に接続するユーザーは、そのような証明書を使用するに際して警告を受けます。このような警告に対処するために、以下の選択肢があります。

- これらの警告が表示されないようにする、トラステッド認証局から、証明書に署名してもらいます。
- 警告を受けたときに、トラステッド証明書にこの証明書を追加するよう、クライアント・ユーザーに指示します。

**次の作業:** 『サーバー認証のために Collector Serverを使用可能にする』

**サーバー認証のために Collector Serverを使用可能にする:**

Collector Server が Secure Socket Layer (SSL) と作成した鍵ストアを使用できるようにする必要があります。

**始める前に:** 318 ページの『Content Collector for SAP 用の証明書の作成』

**手順:**

1. 使用する Collector Serverのサーバー構成プロファイルをテキスト・エディターで開きます。
2. Secure Hypertext Transfer Protocol (HTTPS) 接続に使用するポートを指定することによって Secure Socket Layer (SSL) サポートをオンにします。例えば、以下のように入力します。

```
SSL_WEBPORT 5790
```

3. KEYSTORE\_FILE キーワードを使用して、鍵ストアの絶対パスを指定します。例えば、以下のように入力します。

```
KEYSTORE_FILE C:%ssl%keystore.jks
```

4. サーバー構成プロファイルを保存して、Collector Serverを停止します。
5. 以下の手順に従って、Collector Serverを再始動します。
  - a. コマンド行を開いて、インスタンス・ディレクトリーに変更します。
  - b. 以下のコマンドを入力します。

```
archpro -f keystore_passwd
```
  - c. パスワードを求められるので、入力します。

**次の作業:** 『Content Collector for SAP 証明書の SAP へのエクスポート』

**Content Collector for SAP 証明書の SAP へのエクスポート:**

Content Collector for SAP に対して作成した鍵ストアから新しい証明書をファイルにエクスポートするには、IBM 鍵管理を使用します。

**始める前に:** 『サーバー認証のために Collector Serverを使用可能にする』

**手順:**

1. Collector Serverがインストールされているコンピューターでコマンド行を開いて、IBM 鍵管理が含まれているディレクトリーに変更します。
2. 以下のコマンドを入力します。



```
keytool -export -file <file_name> -keystore <keystore_name> -alias <server_name>
<file_name>
```

証明書への絶対パスを指定します。

```
<keystore_name>
```

鍵ストアの名前を指定します。

```
<server_name>
```

SAP で HTTP サーバーに対して指定したとおりに Collector Serverのホスト名または IP アドレスを指定します (トランザクション・コード 0AC0)。

次の作業: 『SAP でのサーバー認証の構成』

## SAP でのサーバー認証の構成

SAP は Personal Security Environment (PSE) を使用して信頼されている証明書を保持します。各 SAP Application Server で、Content Collector for SAP に対して作成した証明書を PSE 追加する必要があります。さらに、Secure Hypertext Transfer Protocol (HTTPS) に対してコンテンツ・リポジトリを使用可能にする必要があります。

始める前に:

- PSE が存在している必要があります。
- 318 ページの『Content Collector for SAP でのサーバー認証の構成』。

手順:


1. 『Content Collector for SAP 証明書の SAP へのインポート』
2. 322 ページの『コンテンツ・リポジトリの Secure Sockets Layer (SSL) サポートを使用可能にする』

### Content Collector for SAP 証明書の SAP へのインポート:

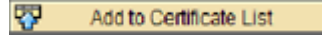
以前に作成した Content Collector for SAP 証明書をさまざまな Personal Security Environment (PSE) にインポートする必要があります。

証明書を SSL サーバー PSE、匿名 SSL クライアント PSE、および標準 SSL クライアント PSE にインポートする必要があります。


手順:

1. SAP GUI で、トランザクション・コード STRUST を入力して 「信用マネージャー (Trust Manager)」 ウィンドウを開きます。
2. ナビゲーション・ペインで、「SSL サーバー (SSL Server)」をダブルクリックします。
3. コンテンツ・ペインの下部にある 「証明書のインポート (Import certificate)」 アイコン  をクリックします。
4. 「証明書のインポート (Import Certificate)」 ウィンドウの 「ファイル・パス (File path)」 フィールドで、自分が作成した Content Collector for SAP 証明書を指定し、Enter キーを押します。

5. 「信用マネージャー (Trust Manager)」 ウィンドウで、



をクリックします。

6. ナビゲーション・ペインで、「SSL クライアント (匿名) (SSL Client (Anonymous))」をダブルクリックし、ステップ 3 (321 ページ) からステップ 5 を繰り返します。
7. ナビゲーション・ペインで、「SSL クライアント (標準) (SSL Client (Standard))」をダブルクリックし、ステップ 3 (321 ページ) からステップ 5 を繰り返します。
8. 「保管」アイコン  をクリックする。

次の作業: 『コンテンツ・リポジトリの Secure Sockets Layer (SSL) サポートを使用可能にする』

コンテンツ・リポジトリの Secure Sockets Layer (SSL) サポートを使用可能にする:

コンテンツ・リポジトリの Secure Socket Layer (SSL) サポートを使用可能にするには、以下の手順を実行します。

始める前に: 321 ページの『Content Collector for SAP 証明書の SAP へのインポート』

手順:

1. SAP GUI でトランザクション・コード OAC0 を入力して、「コンテンツ・リポジトリの表示: 全容表示 (Display Content Repositories: Overview)」ウィンドウを開きます。
2. コンテンツ・リポジトリをダブルクリックします。

例えば、「LP」をダブルクリックします。

3. 「コンテンツ・リポジトリの表示: 詳細 (Display Content Repositories:

Detail)」ウィンドウで、「表示/変更 (Display/Change)」アイコン  をクリックします。

4. 「SSL ポート番号 (SSL Port Number)」フィールドに、Collector Serverでサーバー認証を有効にした際に指定した、SSL\_WEBPORT キーワードの値を入力します。

例えば、以下のように入力します。

5790

5. ウィンドウの最上部のフィールドに、次のように入力します。

%https

6. Enter を押します。以下のフィールドが有効になります。

- フロントエンドで HTTPS (HTTPS on frontend)

- バックエンドで HTTPS (HTTPS on backend)

7. 両方のフィールドで、「必要な HTTPS (HTTPS required)」を選択します。

次の作業: 323 ページの『クライアント認証の構成』

## クライアント認証の構成

SAP の Personal Security Environment (PSE) から証明書を Content Collector for SAP 鍵ストアにインポートし、クライアント認証に対して Collector Server を使用可能にする必要があります。

始める前に: 318 ページの『サーバー認証の構成』

手順:

1. 『SAP 証明書の Content Collector for SAP へのインポート』
2. 『クライアント認証のために Collector Server を使用可能にする』

### SAP 証明書の Content Collector for SAP へのインポート

SAP の PSE からの証明書をエクスポートし、それらの証明書を Content Collector for SAP 鍵ストアにインポートする必要があります。

自己署名の SAP 証明書は使用しないでください。SAP サーバーは、身元の認証のためには、その種の証明書を送信しないためです。認証局 (トラステッド・サイト) が署名した証明書を使用するか、別の鍵を作成して、その鍵で証明書に署名します。

手順:

1. SAP の「信用マネージャー (Trust Manager)」ウィンドウを使用して証明書をエクスポートします (トランザクション・コード STRUST)。
2. Content Collector for SAP 証明書のエクスポートに使用したプログラムである IBM 鍵管理を使用して、証明書を Content Collector for SAP 鍵ストアにインポートします。

次の作業: 『クライアント認証のために Collector Server を使用可能にする』

#### 関連情報

320 ページの『Content Collector for SAP 証明書の SAP へのエクスポート』  
Content Collector for SAP に対して作成した鍵ストアから新しい証明書をファイルにエクスポートするには、IBM 鍵管理を使用します。

 SSL を使用するための SAP Application Server の構成

 SAP Application Server ノート 506314 および 510007

### クライアント認証のために Collector Server を使用可能にする

Collector Server が SAP 証明書を使用できるようにする必要があります。

始める前に: 『SAP 証明書の Content Collector for SAP へのインポート』

手順:

1. 通信を保護する Collector Server のサーバー構成プロファイルをテキスト・エディターで開きます。
2. 以下のように、SSL\_CLIENTAUTH キーワードを ON に設定します。

```
SSL_CLIENTAUTH ON
```

3. サーバー構成プロファイルを保存し、Collector Serverを再始動して変更を有効にしてください。

次の作業: 『クライアント接続に Secure Hypertext Transfer Protocol (HTTPS) の使用を強制』

## クライアント接続に Secure Hypertext Transfer Protocol (HTTPS) の使用を強制

アーカイブとクライアントの間の接続で HTTPS だけが使用されるようにすることができます。その後は、HTTPS だけを使用してアーカイブにアクセスできます。

始める前に: 323 ページの『クライアント認証の構成』

手順:

1. 通信を保護する Collector Serverのサーバー構成プロファイルをテキスト・エディターで開きます。
2. この方法で保護するすべてのアーカイブの ARCHIVE セクションに、次のキーワードを追加します。

SSL ON

例えば、すべてのクライアントが HTTPS を使用して Content Manager Enterprise Edition アーカイブ A1 と A2 にアクセスする必要があるとします。この場合、アーカイブ・ステートメントは、次の例のようになります。

```
ARCHIVE A1
STORAGETYPE    CM
LIBSERVER      LIBSCM
ITEM_TYPE      MAIL
CMUSER         CSTORE
SSL            ON
```

```
ARCHIVE A2
STORAGETYPE    CM
LIBSERVER      LIBSCM
ITEM_TYPE      DOCS
CMUSER         CSTORE
SSL            ON
```

3. サーバー構成プロファイルを保存し、Collector Serverを再始動して変更を有効にしてください。

---

## MIME タイプへの SAP 文書クラスの関連付け

Content Manager eClient は、文書を正しく表示するために、文書の MIME タイプを認識している必要があります。アーカイブ済みのほとんどの SAP 文書は、追加の構成を行わなくても表示できます。これは、SAP の必要なマッピングが既に内部リストに含まれているためです。ただし、欠落しているマッピングを追加することができます。

## MIME タイプへの SAP 文書クラスのマッピングの概要

内部リストには、MIME タイプへの SAP 文書クラスの必要なマッピングが含まれています。次の表に、これらのマッピングの概要を示します。

SAP文書クラス	MIME タイプ
*	text/x-docType
123	application/vnd.lotus123
alf	application/x-alf
bin	application/octet-stream
bmp	image/bmp
cgm	application/x-cgm
css	text/css
doc	application/msword
dot	
fax	image/tiff
gif	image/gif
htm	text/html
html	
html-wk	
html-wp	
jpg	image/jpeg
js	text/javascript
lwp	application/vnd.lotus-wordpro
mov	video/quicktime
mpp	application/vnd.ms-project
mwp	application/vnd.lotus-wordpro
pcx	image/pcx
pdf	application/pdf
ppt	application/vnd.ms-powerpoint
prz	application/vnd.lotus-freelance
ps	application/postscript
raw	application/x-raw
reo	application/x-reo
rpt	application/x-rpt
rtf	application/rtf
scr	application/x-scr
stl	application/x-stl
tif	image/tiff
txt	text/plain
vbs	text/vbscript
vsd	application/vnd.visio
xml	text/xml
xsl	text/xsl

## MIME タイプへの SAP 文書クラスの欠落したマッピングの追加

SAP 文書クラスのマッピングがマッピングの内部リストに含まれていない場合、または正しい MIME タイプに関連付けられていない場合は、適切なマッピングを外部マッピング・ファイルに追加します。

手順:

1. テキスト・エディターを開きます。
2. 以下の形式で、欠落しているマッピングを入力します。

```
<sap_doc_class>=<mime_type>
```

<sap\_doc\_class> は SAP 文書クラス、<mime\_type> は対応する MIME タイプです。

例

```
FAX=image/tiff  
TIF=image/tiff  
PDF=applications/pdf
```

注: SAP 文書クラスと MIME タイプは、大/小文字の区別がありません。したがって、一方が小文字で、もう一方が大文字の重複した項目を作成しないでください。

3. このファイルを `cssapdoctypes.properties` として Collector Serverのインスタンス・ディレクトリーに保存します。
4. Collector Serverを停止してから再始動します。

---

## Collector Serverの複数インスタンスの作成

Collector Serverの複数のインスタンスを実行できます。つまり、各インスタンスが固有のポートを使用する場合、複数の独立した Content Collector for SAP プロセスのセットを同じコンピューター上で同時に実行することができます。

始める前に: 159 ページの『第 20 章 Collector Serverの構成』

Collector Server のすべてのインスタンスで、同じセットの実行可能ファイルを使用できます。ただし、Collector Server のインスタンスごとに別々のサーバー構成プロファイルを保守する必要があります。これらのプロファイルは、異なるインスタンス・ディレクトリーに格納する必要があります。

手順:

1. 『インスタンスのフォルダーの作成』
2. 327 ページの『インスタンスのサーバー構成プロファイルの構成』
3. 327 ページの『インスタンスへの固定ポートの割り当て』

## インスタンスのフォルダーの作成

Collector Serverの追加インスタンスごとに、別個のフォルダーを作成する必要があります。

手順:

1. 追加インスタンスのフォルダーを作成します。
2. 最初のインスタンス・フォルダーの内容を、この新規フォルダーにコピーします。

**注:** 同じポート番号を複数回指定しないようにしてください。archint.cfg ファイルもコピーした場合、このファイルは、新規の Collector Server・インスタンスを初めて始動したときに更新されます。

次の作業: 『インスタンスのサーバー構成プロファイルの構成』

## インスタンスのサーバー構成プロファイルの構成

インスタンスごとに、別個のサーバー構成プロファイルが必要です。プロファイル内の特定の設定を手直しする必要があります。

始める前に: 326 ページの『インスタンスのフォルダーの作成』

手順:

- 各サーバー構成プロファイルに、Collector Server・インストール・システム内で固有の名前を付けます。
- 各サーバー構成プロファイルで、INSTANCEPATH キーワードを設定します。インスタンス関連のファイルが入っているディレクトリーへの絶対パスを指定します。
- サーバー構成プロファイルに QUEUEPATH キーワードが含まれる場合は、キューが保管されるディレクトリーの絶対パスを指定します。
- リモート Content Collector for SAP コンポーネントとの通信に使用する以下の TCP/IP ポートを変更します。
  - WEBPORT (WEBDPS キーワードが存在し、値がゼロ以外の場合)
  - ARCHPRO\_PORT (各インスタンスに固定ポートを割り当てられるようにします)
  - SSL\_WEBPORT (サーバー認証に Secure Hypertext Transfer Protocol (HTTPS) が使用される場合)

次の作業:

1. サーバー構成プロファイルを変更した後で、Collector Serverを再始動します。
2. 『インスタンスへの固定ポートの割り当て』。

関連資料

408 ページの『グローバル・キーワード』

グローバル・キーワード とは、サーバー構成プロファイルに一度指定する キーワードです。このキーワードは、Collector Server インスタンス全体に適用されます。キーワードがアーカイブの構成に影響する場合、プロファイルにリストされているすべてのアーカイブに対して、その キーワードが適用されます。

## インスタンスへの固定ポートの割り当て

Web ディスパッチャーや・エージェントなどのインスタンスのプロセスに固定ポートを使用していない限り、Collector Server は、プロセスに自動的にポート番号を割り当てます。複数のインスタンスがあると、同じポート番号に複数のプロセスが割

り当てられて失敗する可能性があります。したがって、Collector Serverの各インスタンスには、連続するポート番号の固定された範囲を使用してください。

**始める前に:** 327 ページの『インスタンスのサーバー構成プロファイルの構成』

Collector Server・インスタンスのポート番号は、サーバー構成プロファイルの ARCHPRO\_PORT キーワードで指定されます。

各インスタンスに対して、連続するポート番号の固定された範囲を割り当てるには、各インスタンスのサーバー構成プロファイルの ARCHPRO\_PORT キーワードの値を変更する必要があります。各インスタンスのサーバー構成プロファイルをテキスト・エディターで開き、以下のようにします。

1. 5000 より大きい ARCHPRO\_PORT キーワードの値を指定します。この値は、このインスタンスに割り当てる範囲の最初のポート番号です。この値が、予想される別のインスタンスのポートの範囲に含まれないことを確認してください。

最後のポート番号を決定するには、サーバー・インスタンスによって開始されるプロセスおよびスレッドの数を計算します。次の表は、各インスタンスで必要なプロセスおよびスレッドの数を予測するのに役立ちます。

プロセス	説明 (Description)	ポート数
archpro	Collector Server・インスタンス	2
archwin	Collector Server への並列クライアントの接続数	クライアント接続ごとに 2。 接続数は変化するので、起こり得る接続の最大数を計算に使用してください。
RFC ディスパッチャー	DISPATCHERS キーワードで決定される RFC ディスパッチャー・プロセスの数	プロセスごとに 2
Java RFC ディスパッチャー	RFC ディスパッチャーにより自動的に開始される単一プロセス	1 (RFC ディスパッチャー・ポートの他に必要)
HTTP ディスパッチャー	WEBDPS キーワードで決定される HTTP ディスパッチャー・セッションの数	(スレッド数) + 1
CM エージェント	CMAGENTS キーワードで決定される Content Manager Enterprise Edition エージェント・プロセスの数	プロセスごとに 2
P8 エージェント	P8AGENTS キーワードで決定される FileNet P8 エージェント・プロセスの数	プロセスごとに 2
OD エージェント	ODAGENTS キーワードで決定される Content Manager OnDemand エージェント・プロセスの数	プロセスごとに 1
TSM エージェント	ADSMAGENTS キーワードで決定される Tivoli Storage Manager エージェント・プロセスの数	プロセスごとに 1

**例:**

サーバー構成プロファイルには、以下の項目が含まれるものとします。



```
ARCHPRO_PORT 5799
.
.
WEBDPS 3
.
.
CMAGENTS 2
```

この例では、2 個の固定ポートが Collector Server・インスタンス用に、4 個 (3+1) が HTTP ディスパッチャー・スレッド用に、4 個が CM エージェント用に予約されます。固定ポートは合計 10 個です。この結果、この Collector Server・インスタンス専用に、5799 から 5808 までのポート番号が割り当てられます。

これら 10 個のポートのうち、最初の 2 個のポートが Collector Serverによって予約されます。その後続くポートは、クライアント接続によって予約されます。これらのポートが使用されるのは、サーバー構成プロファイルのキーワード CLIENT\_ALL\_PORTS\_FIXED が YES に設定されている場合です。他のプロセスはすべて、残りのポートを使用します。

2. 次の行を追加します。

```
ALL_PORTS_FIXED YES
```

3. サーバー構成プロファイルを保存し、各 Collector Server・インスタンスを再起動します。

---

## Content Collector for SAP の SAP Solution Manager への統合

Content Collector for SAP を SAP System Landscape Directory (SLD) に登録することにより、Content Collector for SAP を SAP Solution Manager に統合することができます。

### 手順:

1. Collector Server・インストール・システムのディレクトリーに変更します。デフォルトのインストール・ディレクトリーは、以下のとおりです。
  - Windows 上: <InstallHome>%Server
  - Linux および UNIX システム上: <InstallHome>/server
2. テキスト・エディターで slddata.xml ファイルを開きます。このファイルは server サブディレクトリーにあります。
3. 出現する HOSTNAME というワードをすべて、Collector Serverがインストールされているホストの完全修飾名に置き換えます。
4. 変更済みのファイル slddata.xml を、SAP Solution Manager がインストールされているコンピューター上のディレクトリーにコピーします。
5. sldreg ツールを実行して、変更済み slddata.xml ファイルに含まれている情報を SLD にアップロードします。sldreg ツールについての説明は、SAP ヘルプ・ポータルを開き、「sldreg の構成および SLD へのデータの転送 (Configuring sldreg and transferring data to SLD)」を検索してください。

---

## サービスとしての Collector Serverの実行

Windows では、Collector Serverをサービスとして実行できます。サービスとしての Collector Serverは、すべてのユーザーがログオフした後も稼働し続けます。

## サービスとしての Collector Serverのインストールおよびアンインストール

archservice.exe ファイルを使用して、Collector Serverをサービスとしてインストールおよびアンインストールします。

手順:

1. コマンド・プロンプトを開き、以下のコマンドを入力します。

```
archservice install -i <srv_config>
```

<srv\_config> は、サーバー構成プロファイルの絶対パスを表します。サーバー構成プロファイルが入っているディレクトリーからコマンドを入力する場合、-i <srv\_config> は任意です。

このコマンドに -n <new\_service\_name> を追加することにより、サービスに異なる名前を付けることができます。

サービスがインストールされ、Windows の「サービス」ウィンドウに、Content Collector for SAP・サービスが元の名前または割り当てた名前でもリストされません。

2. サービスをアンインストールするには、以下のコマンドを入力します。

```
archservice remove
```

このコマンドの詳細は、457 ページの『archservice』を参照してください。

## サービスの開始と停止

サービスとしての Collector Serverは、さまざまな方法で開始および停止することができます。

1. サービスを開始するには、Collector Serverがインストールされているコンピューター上で、以下のいずれかの方法を実行します。

- コマンド・プロンプトで、以下のコマンドを入力します。

```
archservice start
```

- 「サービス」ウィンドウで Collector Server・サービスを右クリックし、メニュー項目をクリックしてサービスを開始します。

Collector Server・サービスが開始します。さらに、archpro プログラムが開始され、このプログラムにより他の関連プログラムが開始されます。Collector Server・サービスは、archpro プログラムがまだ実行中かどうかを数秒ごとに検査します。このサービスは、このプログラムが停止したことを検出すると、1 分待ってからその再始動を試みます。

2. Collector Server・サービスの状況情報を入手するには、以下のコマンドを入力します。

```
archservice status
```

3. サービスを停止するには、Collector Serverがインストールされているコンピューター上で、以下のいずれかの方法を実行します。

- コマンド・プロンプトで、以下のコマンドを入力します。

```
archservice stop
```

- 「サービス」ウィンドウで、Collector Server・サービスを選択してから、「アクション」 > 「すべてのタスク」 > 「停止」をクリックします。

Collector Server・サービスが停止し、それとともに archpro.exe プログラムと、archpro.exe プログラムによって開始されたプログラムが停止します。

## サービスとしての Collector Serverの複数インスタンスの実行

Collector Serverの複数インスタンスを、例えばパフォーマンス向上のために、単一のオペレーティング・システムでサービスとして実行することができます。

複数のインスタンスをサービスとしてインストールするには、以下のようにします。

1. コマンド・プロンプトを開きます。
2. 以下のコマンドを入力します。

```
archservice install -i <srv_config> -n <new_service_name>
```

<srv\_config> は、サーバー構成プロファイルの絶対パスを表します。サーバー構成プロファイルが入っているディレクトリーからコマンドを入力する場合、-i <srv\_config> は任意です。<new\_service\_name> はサービスの名前を表します。

このコマンドの詳細は、457 ページの『archservice』を参照してください。

サービスがインストールされ、Windows の「サービス」ウィンドウに、Content Collector for SAP・サービスが割り当てた名前でリストされます。

3. サービスとしてインストールする Collector Serverの各インスタンスについて、2を繰り返します。
4. 327 ページの『インスタンスへの固定ポートの割り当て』。
5. 各サービスには、専用のサービス初期設定ファイルが必要です。各初期設定ファイルは別個のディレクトリーに置き、各ファイルの SERVICE\_TRACEFILE キーワード値は、異なる値にしてください。
6. 特定のサービスをアンインストールするには、以下のコマンドを入力します。

```
archservice remove -n <new_service_name>
```

## ヒント

Collector Serverをサービスとして実行したときに問題が発生した場合は、以下のヒントが問題の解決に役立ちます。

- Collector Serverを正常に構成した後に初めて開始し、以後エラー・メッセージや警告が出ない場合にのみ、Collector Serverをサービスとしてインストールします。
- サーバー構成プロファイルで TRACE キーワードを DYNAMIC\_ON に設定して、Collector Serverの始動をトレースするようにします。Collector Serverが完全に初期化されると、トレースは自動的に停止します。

また、archadmin プログラムを使用してトレースを開始することもできます。

**注:** トレースは、Content Collector for SAPのパフォーマンスに影響を与えます。したがって、トレースが必要でなくなった場合は、再度使用不可にしてください。

archadmin プログラムと、指定可能なパラメーターについて詳しくは、454 ページの『archadmin』を参照してください。

- RFC ディスパッチャーの数が 0 より大きい場合、キーワード BASEPATH および ARCHPATH で定義されたパスは、Collector Serverをサービスとして実行する場合には恐らく使用できません。しかし、archpro プログラムを開始する場合、すべてのパスが使用可能でなければなりません。archpro プログラムは、パスが使用可能であることを確認できない場合は開始しません。トレース・ファイルには、対応するすべてのエラー・メッセージが入ります。

---

## 複数の Tivoli Storage Managerアーカイブに文書を保管するための構成

アーカイブされた文書の可用性とデータ損失に対する安全性を高めるために、単一のアーカイブ操作で文書を複数の Tivoli Storage Managerアーカイブに保管することができます。いずれかのアーカイブから文書を検索できない場合、Content Collector for SAP は、要求された文書が含まれている次のアーカイブにアクセスし、その中からその文書を検索します。

### 始める前に:

- それぞれのアーカイブを異なる Tivoli Storage Manager ノードにインストールします。最も安全な方法は、ノードを異なるサーバーに配置し、サーバーを異なるコンピューター上に置くことです。
- 129 ページの『第 18 章 環境の準備』
- 174 ページの『Tivoli Storage Manager で使用するために Collector Server を構成する』

文書を複数のアーカイブに保管する場合、文書のコピーは、それぞれ同じ文書 ID でアーカイブされます。Content Collector for SAP によって、この ID が同じノード上の別の文書で既に使用されていないか検査されます。文書は、その ID がまだ存在していない場合にのみアーカイブされます。

複数の Tivoli Storage Manager アーカイブに文書を保管するために Content Collector for SAP を構成するには、同じ論理アーカイブ ID を持つすべてのアーカイブを、サーバー構成プロファイル内に指定する必要があります。以下に例を示します。

```
ARCHIVE U1
  STORAGETYPE  TSM
  SERVER       blackbox
  MGMT_CLASS   arc1
  ADMSNODE     PRIMARY
```

```
ARCHIVE U1
  STORAGETYPE  TSM
  SERVER       whitebox
  MGMT_CLASS   arc2
  ADMSNODE     SECONDARY
```

次に、Content Collector for SAP は文書のコピーを 2 つ作成します。1 つはサーバー blackbox 上の管理クラス arc1 の中に入れられ、もう 1 つはサーバー whitebox 上の管理クラス arc2 に保管されます。

注:

- 変更したサーバー構成プロファイルを保存した後で、Collector Serverを再始動して変更を有効にします。
- サーバー構成プロファイルに誤った定義が含まれている場合、Collector Serverは始動せず、文書もアーカイブされません。例えば、STORAGETYPE キーワードは常に TSM に設定されている必要があることに注意してください。
- Content Collector for SAP では、複数のアーカイブへの保管、または複数のアーカイブからの検索が、単一のアーカイブまたは検索の操作のように処理されません。したがって、1 つのジョブだけが作成され、戻されるメッセージは 1 つだけです。
- アーカイブ操作は、指定されたすべてのアーカイブに文書を保存できた場合にのみ、成功と見なされます。Content Collector for SAP は、いずれかのアーカイブにアクセスできなかった場合、既にアーカイブされたコピーを削除します。このような場合、その文書はいずれのアーカイブにも保管されません。
- Content Collector for SAP がいずれかのアーカイブから文書を検索することができれば、検索操作は成功と見なされます。したがって、Content Collector for SAP では、要求された文書のあるアーカイブから検索できた場合、他のアーカイブでのエラーは無視されます。
- 複数のアーカイブに文書を保存すると、より多くの操作が必要となるため、パフォーマンスは低下します。

---

## RFC または Java RFC ディスパッチャーおよびエージェントに対するタイムアウト期間の設定

RFC ディスパッチャーまたは Java RFC ディスパッチャーとエージェントが、SAP ゲートウェイまたはアーカイブへのネットワーク接続を、一定の非アクティブ期間の後に閉じて再開できるようにすることができます。タイムアウト期間を設定することにより、関係するコンポーネント間の接続は未変更のままになります。

タイムアウト設定には、以下のような利点があります。

- 複数の SAP システムがあるときに、ある SAP システムに障害が発生した場合、RFC ディスパッチャーまたは Java RFC ディスパッチャーは、自動的に別の SAP システムとの作業接続を確立します。Collector Serverを再始動する必要はありません。
- Content Manager Enterprise Edition または Content Manager OnDemand を使用する場合は、ご使用のアーカイブ・サーバーを Collector Serverとは無関係にシャットダウンし、再始動することができます。Collector Server が稼働している間、エージェントは、アーカイブ・サーバーが再び使用可能になったときに、自動的に新しい接続を確立します。
- Tivoli Storage Manager を使用している場合、指定されたタイムアウト期間中はアーカイブとの接続をアクティブの状態に保つことができます。この方法では、特に多数の要求が同じ磁気テープ・ドライブに集中する場合には、磁気テープ・ドラ

イブのマウントおよびアンマウントをする必要がなくなります。タイムアウトの設定がない場合、Tivoli Storage Manager は各要求の後でネットワーク接続を閉じます。結果的に、要求のたびに磁気テープ・ドライブがマウントおよびアンマウントされます。

タイムアウトは、TIMEOUT キーワードを使用してサーバー構成プロファイルに設定します。RFC ディスパッチャーまたは Java RFC ディスパッチャーとエージェントに異なるタイムアウトを指定できます。タイムアウト値を設定しない場合、Collector Server は、RFC ディスパッチャーまたは Java RFC ディスパッチャーとエージェントに対してデフォルトの設定値を使用します。以下の表に、デフォルトの設定値を示します。

コンポーネント	秒単位の値
TSM エージェント	0
CM エージェント	86400 (1 日)
P8 エージェント	
OD エージェント	
RFC ディスパッチャーまたは Java RFC ディスパッチャー	

## RFC または Java RFC ディスパッチャーに対するタイムアウト期間の設定

RFC ディスパッチャーまたは Java RFC ディスパッチャーにタイムアウト期間を指定するには、サーバー構成プロファイルの DESTINATION セクションに TIMEOUT キーワードを追加します。

このキーワードは、ゼロ以上の整数値に設定してください。値は秒単位です。

例:

```

DESTINATION          KD7
  PROGID              KD7.ICCSAP
  GWHOST              /H/sapserver
  GWSERV              sapgw00
  LU                  sapserver
  TP                  sapdp00
  TIMEOUT              15          # 15 seconds
  LOGICAL_SYSTEM      T90CLNT090
  CLIENT              800
  USER                CPICUser1
  
```

変更したサーバー構成プロファイルを保存した後、Collector Serverを再始動して変更を有効にします。

## エージェントに対するタイムアウト期間の設定

エージェントにタイムアウト期間を指定するには、タイムアウト期間を指定するサーバー構成プロファイルの各アーカイブの ARCHIVE セクションに、TIMEOUT キーワードを追加します。

このキーワードは、ゼロ以上の整数値に設定してください。値は秒単位です。

例:

```

ARCHIVE UA
STORAGETYPE ADSM
SERVER iceberg
MGMT_CLASS docs
ADSMNODE docs
LOGICAL_SYSTEM T90CLNT090
TIMEOUT 10 # 10 seconds

```

変更したサーバー構成プロファイルを保存した後、Collector Serverを再始動して変更を有効にします。

## 1 つの文書と複数の SAP ビジネス・オブジェクトをリンクするために Content Manager アーカイブを使用可能にする

Content Manager Enterprise Edition バージョン 8 をアーカイブとして使用する場合は、アーカイブされた文書へのリンクを複数の SAP ビジネス・オブジェクトに挿入することができます。このため、アーカイブ済み文書は、それを指すオブジェクトのいずれかでリンクをクリックすれば、SAP GUI で表示できます。このタイプのリンクを使用可能にするには、Content Manager Enterprise Edition の子コンポーネント (複数值属性) が必要です。

始める前に:

1. 129 ページの『第 18 章 環境の準備』
2. 139 ページの『Content Collector for SAP で使用するために Content Manager を構成する』
3. 165 ページの『Content Manager Version 8 で使用するための Collector Serverの構成』
4. 178 ページの『Collector Serverと SAP の間の接続の構成』
5. 191 ページの『Collector Server を初めて始動する』

注: この機能は、Content Manager Enterprise Edition アーカイブでのみ使用可能です。サポートされる他のアーカイブに保管されている文書へのリンクは、1 つの SAP ビジネス・オブジェクトにしか挿入できません。

手順:

1. Content Manager Enterprise Edition のシステム管理クライアントを始動します。
2. CSOBJKEY という名前の属性を作成します。この属性には、以下のプロパティを付ける必要があります。

属性タイプ	可変文字
文字タイプ	その他
最小文字長	0
最大文字長	65

名前が対立しないように、CSOBJKEY 以外の属性名を使用できます。ただし、この場合は属性マッピング・ファイルを作成する必要があり、このファイル内で、お客様が選択した名前を CSOBJKEY 属性にマップします。属性マッピング・ファイルには、以下の項目を入れる必要があります。ここで、*MyObjKey* は、CSOBJKEY の代わりに使用する属性名です。

```
INTERNAL_CSOBJKEY MyObjKey
```

- Content Manager Enterprise Edition で子コンポーネントを作成します。この子コンポーネントを、既存の項目タイプに追加します。
- CSOBJKEY を第 2 レベル属性として子コンポーネントに追加します。
- 子コンポーネントに、必要に応じて他の属性を追加します。
- サーバー構成プロファイルの該当する ARCHIVE セクションに、INDEXCHILDNAME キーワードを追加します。子コンポーネントの名前をキーワードの値として指定します。

例:

```
ARCHIVE A1
  STORAGETYPE      CM
  ARCHIVETYPE      GENERIC_MULTIPART
  .
  .
  .
  INDEXCHILDNAME  MULTISAPOBJ
```

- 属性マッピング・ファイルを作成した場合は、ATTRMAPPING\_FILE キーワードを使用して、このファイルの絶対パスも指定します。

例:

```
ARCHIVE A1
  STORAGETYPE      CM
  ARCHIVETYPE      GENERIC_MULTIPART
  .
  .
  .
  INDEXCHILDNAME  MULTISAPOBJ
  ATTRMAPPING_FILE C:%Program Files%IBM%ICCSAP%Server%instance01%myAtts.txt
```

- サーバー構成プロファイルを保存し、Collector Serverを再始動して変更内容を有効にします。

---

## Cold プログラムを使用して文書を SAP にリンクする

Cold プログラムを使用して、まだアーカイブされていない文書をリンクしたり、Content Manager Enterprise Edition、Content Manager OnDemand、または FileNet P8 に保管されている文書をリンクしたりすることができます。文書のバーコードは、リンクを作成するために使用されます。Cold プログラムは、Content Collector for SAP と共に提供されています。このプログラムは、必要に応じて変更できます。

始める前に:

- 113 ページの『Cold プログラムのインストール』
- 159 ページの『第 20 章 Collector Serverの構成』

## Cold プログラムを使用して、まだアーカイブされていない文書をリンクする

まだアーカイブされていない文書を既存の SAP ビジネス・オブジェクトにリンクするには、Archiving Client または文書をアーカイブおよびスキャンできるスキャン・アプリケーションが、それらの文書にアクセスできなければなりません。

始める前に:



- 273 ページの『着信文書のバーコードの処理による着信文書のアーカイブのための構成』.
- 文書には、Cold プログラムでリンクの作成に使用できる情報が含まれていなければなりません。この情報は、ファイル名または説明ファイル内にあります。

Cold プログラムには、SAP ビジネス・オブジェクトを識別するためのメソッドの実装に使用できるユーザー出口が用意されています。文書をリンクできる SAP ビジネス・オブジェクトが見つからない場合、その文書は印刷リストとしてインポートされます。

#### 手順:

1. Archiving Client を使用するか、文書をアーカイブできるスキャン・アプリケーションを使用して、文書をアーカイブします。いずれの場合も、文書 ID は SAP にバーコードとして送信され、SAP の「オープン・バーコード」表に保管されます。
2. SAP GUI で、トランザクション・コード ZCSI を入力して、「IBM Content Collector for SAP Applications - Document Import」 ウィンドウを開きます。
3. 「ARCHIV」フィールドで、アーカイブの ID を指定します。アーカイブ ID はサーバー構成プロファイルにあります。アーカイブ ID は、SAP ArchiveLink が必要です。

例えば、以下のように入力します。

A1

4. 「SAPOBJ」フィールドに、文書がリンクされる SAP ビジネス・オブジェクトを指定します。デフォルト値は DRAW です。この場合、文書は印刷リストとして SAP の文書管理システム (DMS) にインポートされます。
5. 「AR\_OBJ」フィールドに、SAP ビジネス・オブジェクトが依存する文書の種類を指定します。デフォルト値は DRW です。
6. 「DOCTYPE」フィールドに、文書タイプを入力します。デフォルトの文書タイプは、印刷リストの場合は alf です。
7. 「OBJECTID」フィールドに、印刷リスト ID 自動生成の開始点として使用する ID を入力します。


ID は、*cnnnnnnn* の形式でなければなりません。c は英字を表し、nnnnnnn は 7 つの 1 桁の整数を表します。Cold プログラムは、同じ ID が TOADL テーブルに存在しているかどうかを検査し、数値を自動的に大きくしていきます。先頭の各英字について、最大で 99,999,999 の文書をインポートできます。デフォルトでは ID は C0000000 から始まります。

8. 「INFO」フィールドに、DMS に表示され、索引として使用される値を入力します。デフォルト値は IMP です。
9. 「PRINTER」フィールドに、プリンターの ID を入力します。この ID は DMS に表示され、索引として使用されます。Cold プログラムを実行するたびに値を割り当てることができます。このパラメーターは、印刷リストにのみ適用されます。デフォルト値は LP01 です。
10. 「FORMULAR」フィールドに、フォームを入力します。このフォームは DMS に表示され、索引として使用されます。Cold プログラムを実行するたびに値

を割り当てることができます。このパラメーターは、印刷リストにのみ適用されます。デフォルト値は CS\_INDEX です。

11. DMS を介して印刷リストにアクセスできるようにする場合は、「DVS」チェック・ボックスを選択します。

この例では、チェック・ボックスを選択します。

12. 「実行 (Execute)」アイコン  をクリックします。

Cold プログラムが開始します。このプログラムは、「オープン・バーコード」表の項目を読み取り、文書を既存の SAP ビジネス・オブジェクトにリンクするか、SAP の文書管理システム (SAP DMS) に配置します。送信されたバーコードは、ビジネス・オブジェクト ID か印刷リスト記述のいずれかとして解釈されます。バーコードが SAP ビジネス・オブジェクト ID として解釈されない場合は、ユーザー出口を使用して、SAP オブジェクトを識別するためのメソッドを実装します。要求に応じて、ユーザー出口はインポート・プロトコルに文書のハイパーリンクを生成します。

## Cold プログラムを使用して、アーカイブされた文書をリンクする

Cold プログラムは、SAP の「オープン・バーコード」表に文書ごとの項目を生成し、次いで SAP 印刷リスト表に文書ごとのリンクを作成することにより、アーカイブされた文書をリンクします。こうして、SAP GUI から文書にアクセスできるようになります。

文書は、Content Manager Enterprise Edition、Content Manager OnDemand、または FileNet P8 に保管することができます。

### 手順:

1. アーカイブされたすべての文書を含む入力ファイルを作成します。この入力ファイルには、各文書ごとに、文書 ID、アーカイブ日付、および SAP オブジェクト ID が、コンマ区切りで含まれている必要があります。以下に例を示します。

```
199912348888d,20100103,document1  
1999432421abc,20100102,document2  
1999zzzzzzzzzz,20100101,document3
```

入力ファイルは UTF-8 フォーマットでなければなりません。

また、文書を保管したスキャン・アプリケーションによって作成される、入力ファイルを使用することもできます。ただし、コンマで区切られた必須の項目が、入力ファイルに含まれていることを確認してください。

2. 入力ファイルにリストされた各文書の項目を、SAP の「オープン・バーコード」表に以下のとおり作成します。
  - a. SAP GUI で、トランザクション・コード ZCSL を入力して、「IBM Content Collector for SAP Applications - List Importer」ウィンドウを開きます。
  - b. 「ARCHIVID」フィールドに、固有のアーカイブ ID を入力します。アーカイブ ID はサーバー構成プロファイルにあります。アーカイブ ID が「オープン・バーコード」表に挿入されます。デフォルト値は A1 です。

- c. 「**DOCTYPE**」フィールドに、文書タイプを指定します。着信文書の場合、デフォルト値は fax です。
- d. 「**TIMEFROM**」フィールドと「**TIMETO**」フィールドに、文書をリンクするためにアーカイブしておく期間を指定します。デフォルトの開始日は 01.01.1999 です。デフォルトの終了日は 31.12.9999 です。
- e. SAP レポートは開くが、入力ファイルの処理は抑止するために、「**TESTRUN**」チェック・ボックスを選択します。このチェック・ボックスを選択した場合、「**オープン・バーコード**」表に項目は生成されません。

この例では、チェック・ボックスを選択します。

- f. 「**FNIMPORT**」フィールドに、入力ファイルの物理位置とファイル名 (大/小文字の区別あり) を入力します。Linux および UNIX システムでは、デフォルト・パスは /usr/sap/put/transfer/base/import.txt です。
- g. 「**POS1**」フィールドに、入力ファイル内のアーカイブされた文書の ID の位置を入力します。タイプは character で、最大長は 40 です。デフォルト値は 1 です。
- h. 「**POS2**」フィールドに、入力ファイル内のアーカイブ日付の位置を入力します。タイプは character で、形式は yyyymmdd です。デフォルト値は 2 です。
- i. 「**POS3**」フィールドに、入力ファイル内のオブジェクト ID の位置を入力します。タイプは character で、最大長は 50 です。デフォルト値は 3 です。
- j. 入力ファイルの最初の行を無視する場合は、「**IGNORE**」チェック・ボックスを選択します。


この例では、チェック・ボックスを選択しないでください。

- k. 入力ファイルを処理した後に削除する場合は、「**DELFLAG**」チェック・ボックスを選択します。

この例では、チェック・ボックスを選択しないでください。

- l. 「**FNERROR**」フィールドに、エラー・ファイルの完全修飾名を入力します。Linux および UNIX システムでは、デフォルト・パスは /usr/sap/put/transfer/base/error.txt です。
- m. 既存のエラー・ファイルを保持し、さらに新しいエラーをこのファイルに追加する場合は、「**APP**」チェック・ボックスを選択します。

この例では、チェック・ボックスを選択しないでください。

- n. 「**実行 (Execute)**」アイコン  をクリックします。

Cold プログラムは、入力ファイルを読み取り、ファイル内の行ごとに 1 つの項目を SAP の「**オープン・バーコード**」表に生成します。指定された日付範囲内のすべての文書が処理されます。エラーの項目は、ステップ 21 で指定したエラー・ファイルに書き込まれます。

- 3. ステップ 2 (337 ページ) からステップ 12 (338 ページ) を実行して、文書ごとのリンクを SAP 印刷リスト表に作成します。

これで、SAP GUI から文書にアクセスできるようになりました。

## アーカイブのセットアップでの Java アプリケーションの統合のための構成

Content Manager Enterprise Edition バージョン 8 をアーカイブとして使用する場合は、ユーザー出口を使用することにより、Java アプリケーションをアーカイブの仕組みに統合できます。このようなアプリケーションの例として、アーカイブ前の文書を特定の形式に変換するツールが考えられます。

### 始める前に:

1. 139 ページの『Content Collector for SAP で使用するために Content Manager を構成する』
2. 165 ページの『Content Manager Version 8 で使用するための Collector Serverの構成』
3. 178 ページの『Collector Serverと SAP の間の接続の構成』
4. 191 ページの『Collector Server を初めて始動する』
5. 使用する Java アプリケーションをインストールします。

Java アプリケーションは、Java リモート・メソッド呼び出し (RMI) を使用することにより、ユーザー出口を介して開始できます。アプリケーションはその後、Web インターフェースから呼び出されます。

RMI は URL を使用して Java アプリケーションを開始します。実行時に、Collector Serverは HTTP サーバー経由で URL を呼び出し、Content Collector for SAP が文書の処理を開始する前にアプリケーションを実行します。

ユーザー出口をアクティブ化し、RMI を使用して Java アプリケーションを統合するには、サーバー構成プロファイルの該当する ARCHIVE セクションに TRANSFORM\_URL キーワードを追加し、RMI ストリングを値として指定する必要があります。

### 例:

```
ARCHIVE A1
  STORAGETYPE CM
  LIBSERVER LIBSCM
  ITEM_TYPE DOCS1
  CMUSER cmuser1
  .
  .
  .
  TRANSFORM_URL rmi://localhost:1099/Transformer,
                 rmi://localhost:1100/Transformer,
                 rmi://localhost:1101/Transformer
```

複数の URL を組み込んで、複数のアプリケーションを並行して実行することができます。ただし、URL の長さは、合計で 255 文字を超えてはなりません。この例では、すべての Java アプリケーションが Collector Serverと同じコンピューターにインストールされています。各アプリケーションは、異なる通信ポートを使用します。

変更したサーバー構成プロファイルを保存した後、Collector Serverを再始動して変更を有効にします。

## 複数の SAP システムから文書を表示するための構成

通常、文書は 1 つの SAP システムからしか表示できません。これは、ダイナミック・リンク・ライブラリー `csclient.dll` が Collector Server の 1 つのインスタンスにしか接続できないためです。複数の SAP システムから文書を表示するには、クライアント構成プロファイルを構成する必要があります。

**始める前に:** 159 ページの『第 20 章 Collector Server の構成』

`csclient.dll` が Collector Server の 3 つのインスタンスに接続できることを定義するには、以下の手順を実行します。

1. クライアント構成プロファイルをテキスト・エディターで開きます。
2. クライアント構成プロファイルの `[ARCHPRO_CONNECTIONPARAMETER]` セクションに以下のキーワードを追加します。

### Server

Collector Server のインスタンスの名前または IP アドレス。

### Port

このインスタンスのポート。

### Server\_2

Collector Server の別のインスタンスの名前または IP アドレス。

### Port\_2

このもう一方のインスタンスのポート。

### Server\_3

Collector Server の 3 番目のインスタンスの名前または IP アドレス。

### Port\_3

この 3 番目のインスタンスのポート。

例:

```
[ARCHPRO_CONNECTIONPARAMETER]
Server   = w3362117
Port     = 5500
Server_2 = w3362117
Port_2   = 5502
Server_3 = archifix
Port_3   = 8017
```

**重要:** キーワードの順序を守り、番号をスキップしないようにしてください。例えば、`Server` と `Port` を指定し、次に `Server_2` と `Port_2`、さらに `Server_4` と `Port_4` の順で指定すると、`csclient.dll` は `Server_2` と `Port_2` の後で読み取りを停止します。

3. `csclient.dll` が Collector Server に接続できないときに表示されるメッセージを抑制します。 `[ARCHPRO_CONNECTIONPARAMETER]` セクションに以下のキーワードを指定します。

`Interactive=0`

デフォルトは、`Interactive=1` です。

`csclient.dll` が、指定された Collector Server ・インスタンスのセットに接続されます。文書の検索要求を正常に処理できる最初のインスタンスがアクティブ・イン

スタンスになります。その後続く要求は、常に最初にアクティブ・インスタンスに送信されます。このインスタンスが要求された文書を検索できない場合は次のインスタンスが接続され、要求が正常に処理されるか、または指定されたすべてのインスタンスが接続されるまで繰り返されます。要求が正常に終了すると、文書が表示されます。それ以外の場合は、SAP にエラー・メッセージが送信されます。

---

## 検索済み文書のキャッシュを使用可能にする

文書を Web ブラウザーで表示する場合を除き、検索された文書と照会情報はローカル・キャッシュに保管できます。ダイナミック・リンク・ライブラリー `cscclient.dll` は、検索された文書のローカル・キャッシュをサポートしています。

**始める前に:** 159 ページの『第 20 章 Collector Serverの構成』

ローカル・キャッシュには、**CacheMax** パラメーターで指定された最大サイズに達するまで、表示された文書が入れます。最大サイズに達すると、キャッシュはフラッシュされ、再びキャッシュが開始されます。

キャッシュを使用可能にするには、クライアント構成プロファイルの [ARCHPRO\_CONNECTIONPARAMETER] セクションに以下のキーワードを追加します。

### CachePath

キャッシュの絶対パスを指定します。このディレクトリが存在する必要がありますが、最大キャッシュ・サイズを超えるとすべてのファイルが削除されるため、他の用途には使用しないでください。

### CacheMax

キャッシュの最大サイズを KB (K バイト) 単位で指定します。デフォルト値は 10240 です。

例:

```
[ARCHPRO_CONNECTIONPARAMETER]
.
.
.
CachePath=E:\CSCClient\cache
CacheMax=10240
```

---

## 発信文書の前処理のための構成

Content Collector for SAP は、プリプロセッサ・ユーザー出口を提供します。このユーザー出口を使用して、発信文書がアーカイブされる前にプリプロセッサを使用して発信文書を変更できます。プリプロセッサをアーカイブ・プロセスに組み込むには、サーバー構成プロファイルを変更する必要があります。

### プリプロセッサ・ユーザー出口

プリプロセッサ・ユーザー出口は、MIME タイプごとに 1 つのプリプロセッサをサポートします。

プリプロセッサ・ユーザー出口は、SAP によって送信され、`create` 操作または `mCreate` 操作で作成された文書の MIME タイプを検査します。文書が複数のコンポ

ーメントで構成されている場合、プリプロセッサ・ユーザー出口は最初のコンポーネントだけの MIME タイプをチェックします。ユーザー出口は、文書のすべてのコンポーネントを読み取った後、サーバー構成プロファイル内で MIME タイプ用に定義されたプリプロセッサを呼び出します。プリプロセッサは、実行可能ファイルまたは Java クラスとして実行できます。

Content Collector for SAP のプリプロセッサ・ユーザー出口は、現在、以下のタイプの前処理をサポートしています。

- 文書のフォーマットの変更。例えば、TIFF から PDF への変更など。
- 複数の単一ページのコンポーネントで構成されている文書を 1 つの複数ページのコンポーネントを持つ 1 つの文書にマージします。この方法で、例えば、複数の TIFF フォーマットの単一ページの文書を 1 つの複数ページの TIFF 文書にマージできます。

プリプロセッサ・ユーザー出口では、以下のタスクはサポートされません。

- 処理済みの文書にファイルをリンクする
- 文書 ID またはコンポーネント ID を変更または削除する
- 複数のプリプロセッサで 1 つの文書进行处理する

## プリプロセッサを実行するための要件

プリプロセッサは、実行可能ファイルまたは Java クラスとして実行できます。

実行可能ファイルとしてプリプロセッサを実行するには、プリプロセッサを始動するためのコマンドを以下のようにする必要があります。

```
<preprocessor_command> <input_file> <result_file>
```

プリプロセッサを Java クラスとして実行するには、以下のインターフェースを実装する Java クラスを提供する必要があります。

```
public interface ACPreprocessor {  
    public ResultSection execute(String archiveFileName);  
}
```

プリプロセッサへの入力 は Content Collector for SAP によって作成されます。Content Collector for SAP が評価できる結果を生成するプリプロセッサの作成は、ユーザーの責任で行います。

## プリプロセッサのための入力

Content Collector for SAP は、プリプロセッサに対して入力ファイルと拡張入力ファイルという入力を作成します。

入力ファイルの名前は、発信文書の一時ファイル名です。文書が複数のコンポーネントで構成されている場合、入力ファイルの名前は最初のコンポーネントの一時ファイル名です。拡張入力ファイルには、入力ファイルの名前を含む、文書のすべてのコンポーネントの一時ファイルが含まれています。一時ファイルの名前によって、複数の SAP 要求が並行して処理される場合でも、前処理中に個別のコンポーネントが一意的に識別されます。

拡張入力ファイルには以下のセクションが含まれています。

**[Data]** アノテーションや説明ではないすべてのコンポーネントの一時ファイルの名

前が含まれています。複数の 1 ページの文書を 1 つの複数のページの文書に変換する場合は、このセクションにすべてのページの一時ファイルの名前が含まれます。

**[Note]** アノテーションの一時ファイルの名前が含まれています。

**[Desc]** 説明の一時ファイルの名前が含まれています。このセクションは、MIME タイプ `application/x-alf` の文書だけに対して指定されます。

特定のコンポーネント・タイプが存在しない場合は、対応するセクションは省略されます。例えば、アノテーションがない場合、拡張入力ファイルには **[NOTE]** セクションは含まれません。

注:

- ファイル名の拡張子を除き、入力ファイルのファイル名は拡張入力ファイルのファイル名と同じです。拡張入力ファイルには、常に拡張子 `.input` が付いています。
- 入力ファイルの名前は、拡張入力ファイルの **[Data]** セクションにある最初のファイル名として含まれます。
- 拡張入力ファイルには、コンポーネントが前処理される順序でファイル名がリストされます。
- 入力ファイルの名前はプリプロセッサに渡されます。拡張入力ファイルの名前は、プリプロセッサに渡されません。拡張入力ファイルを扱うことができるプリプロセッサは、それが存在するかどうかをチェックする必要があります。

## プリプロセッサからの結果

プリプロセッサを実行可能ファイルと Java クラスのどちらとして実行するかに応じて、プリプロセッサは結果ファイルと結果オブジェクトのどちらかを生成します。この結果ファイルまたは結果オブジェクトは、特定の特性と特定のフォーマットを保持している必要があります。

結果ファイルまたは結果オブジェクトは、以下の要件を満たす必要があります。

- 結果ファイルまたは結果オブジェクトには、出力ファイルの名前である 1 つのファイル名だけが含まれます。つまり、プリプロセッサは 1 つのコンポーネントのみを返し、その他のすべてのコンポーネントを削除します。このような方法で、複数のコンポーネントを持つ文書は 1 つのコンポーネントを持つ 1 つの文書にマージされます。
- 結果ファイルまたは結果オブジェクトおよび入力ファイルには、さまざまな MIME タイプを含めることができます。このようにして、TIFF 文書を PDF 文書に変更することができます。MIME タイプが入力ファイルの MIME タイプと異なる場合は、結果ファイルまたは結果オブジェクトで指定する必要があります。
- 結果ファイルまたは結果オブジェクトには追加索引を含めることができます。索引フィールドとそれらの値は、結果ファイルまたは結果オブジェクトの属性リストに追加する必要があります。

Content Collector for SAP は文書がプリプロセッサによって変更された後には、その文書をチェックしません。SAP がその文書にアクセスでき、その文書を使用できることを確認してください。



## 結果ファイルのフォーマット:

プリプロセッサを実行可能ファイルとして実行する場合、結果ファイルが生成されます。結果ファイルのフォーマットは、サーバー構成プロファイルのフォーマットと似ています。別のセクションの順序と各セクション内のパラメーターの順序は任意です。

結果ファイルには、GLOBAL セクションおよび INDEX セクションが含まれている必要があります。以下の例は、ユーザーが指定できるさまざまなセクションとパラメーターを示します。

```
[GLOBAL]
File=[<output_file_name>]
DocType=<new_mimetype>
```

```
[INDEX]
<index_field1>=<index_value1>
<index_field2>=<index_value2>
```

パラメーターの説明:

パラメーター	説明	必須またはオプション
File	文書を含み、プリプロセッサによって作成された出力ファイルの名前。  指定できるのはファイル名だけです。	必須
DocType	文書がプリプロセッサによって変更された後の文書の MIME タイプ。	入力ファイルと異なる場合は必須
[INDEX] セクション	プリプロセッサによって以下のフォーマットで返された属性のリスト  <index_field>=<index_value>	オプション

注:

- File パラメーターに指定するファイル名は、引用符で囲むことができます。Hypertext Transfer Protocol (HTTP) デイスパッチャーは引用符を削除します。
- Content Collector for SAP は、結果ファイルのすべてのパラメーターを評価します。

## 結果オブジェクトのフォーマット:

プリプロセッサを Java クラスとして実行する場合は、結果オブジェクトが生成されます。結果オブジェクトのフォーマットは、特定の要件を満たす必要があります。

プリプロセッサから返される結果オブジェクトは以下のようになっているはずで

```
public class ResultSection {
    private GlobalEntries globalEntries;
    private List          linkEntries;
    private Map           indexValues;
}
```

GlobalEntries クラスには、以下のパラメーターが含まれている必要があります。

```

public class GlobalEntries {
    private List    filenames;
    private String  documentClass;
    private String  documentType;
    private String[] links;
}

```

List linkEntries のエレメントは、以下の定義に従って、LinkEntries のクラスにする必要があります。

```

public class LinkEntries {
    private String  linkName;
    private String  filename;
    private String  documentClass;
    private String  index;
    private HashMap indexValues;
}

```

Content Collector for SAP は、以下のパラメーターを評価します。その他のすべてのパラメーターは無視されます。

パラメーター	説明	必須またはオプション
filenames	文書を含み、プリプロセッサによって作成された出力ファイルの名前。  指定できるのはファイル名だけです。	必須
documentType	文書がプリプロセッサによって変更された後の文書の MIME タイプ。	入力ファイルと異なる場合は必須
indexValues	プリプロセッサによって以下のフォーマットで返された属性のリスト  <attribute_name>=<attribute_value>	オプション

**注:** LinkEntries クラスは、FileNet Application Connector for SAP との互換性を確認する必要があります。これは Content Collector for SAP では使用されません。

## プリプロセッサ

Content Collector for SAP が作成する入力を処理することができ、Content Collector for SAP が使用できる結果を生成し、Content Collector for SAP のプリプロセッサ・ユーザー出口によるサポートに従って文書を変更する、プリプロセッサの作成はユーザーの責任で行います。

入力および結果の要求に加えて、プリプロセッサを作成するときは以下の情報について注意してください。

- プリプロセッサは、作成したすべての一時ファイルを削除する必要があります。
- プリプロセッサは、前処理が完了した後の入力を削除する必要はありません。拡張入力ファイルにリストされている入力ファイルとすべてのファイルは、Content Collector for SAP によって削除されます。

**重要:** 結果ファイルまたは結果オブジェクトの存在は、プリプロセッサが正しく実行されたことの指標でしかありません。このため、結果ファイルまたは結果オブジェクトの作成が最後の前処理手順になるようにします。

## アーカイブ・プロセスへのプリプロセッサの組み込み

1 つ以上のプリプロセッサを組み込むには、サーバー構成プロファイルを変更する必要があります。MIME タイプごとに 1 つのプリプロセッサを指定できます。

始める前に:

1. 129 ページの『第 18 章 環境の準備』
2. 160 ページの『アーカイブと共に使用するための Collector Serverの構成』。
3. 180 ページの『Hypertext Transfer Protocol (HTTP) を介した Collector Server と SAP の間の接続のセットアップ』
4. 191 ページの『Collector Server を初めて始動する』

手順:

1. サーバー構成プロファイルをテキスト・エディターで開きます。
2. ARCHIVE セクションに、以下のいずれかのキーワードのセットを追加します。
  - プリプロセッサを実行可能ファイルとして実行する場合は、以下のキーワードを示された順序で指定します。

```
PREPROC_MIMETYPE <mime_type>
PREPROC_EXEC <exec>
```

<mime\_type>  
処理される文書の MIME タイプ。

<exec>  
指定された MIME タイプの文書を実行可能ファイルの絶対パス。

例:

```
PREPROC_MIMETYPE image/tiff
PREPROC_EXEC d:%preprocessors%preproc_tif.bat
```

- プリプロセッサを Java クラスとして実行する場合は、以下のキーワードを示された順序で指定します。

```
PREPROC_MIMETYPE <mime_type>
PREPROC_CLASS <java_classname>
PREPROC_CLASSPATH <java_classpath>
```

<mime\_type>  
処理される文書の MIME タイプ。

*java\_classname*  
Java クラスの完全修飾名。

<java\_classpath>  
Java クラスの完全修飾クラスパス。

例:

```
PREPROC_MIMETYPE image/tiff
PREPROC_CLASS Preprocessor.SamplePreprocTif
PREPROC_CLASSPATH d:%preprocessors%preproc_java.jar
```

**注:** 同じプリプロセッサを何度も使用できます。各 MIME タイプに対して異なるプリプロセッサを使用することもできます。異なるプリプロセッサ

を使用する場合は、Java クラスが異なるクラスパスにある場合でも、各プロセッサが一意の Java クラス名を持っていることを確認します。Java クラスパスは連結されます。複数のプリプロセッサに対して同じ Java クラス名を使用する場合、プリプロセッサ・ユーザー出口がその Java クラス名に対して見つけた最初のプリプロセッサを呼び出します。

3. サーバー構成プロファイルを保存し、Collector Serverを再始動して変更を有効にしてください。

---

## Collector Serverから SAP ログオン・グループへのログオンを有効にする

バーコードを処理することによって文書をアーカイブする場合は、複数の SAP Application Server に作業を配布することも可能です。そのためには、Collector Serverから SAP ログオン・グループにログオンできるようにする必要があります。

使用する SAP ログオン・グループが既に存在していなければなりません。

以下のようにして、サーバー構成プロファイルを変更します。

1. サーバー構成プロファイルをテキスト・エディターで開きます。
2. DESTINATION セクションに以下のキーワードを追加します。

```
MHOST <hostname>  
GROUP <group_name>  
R3NAME <sap_system>
```

<hostname>

SAP Message Server のホスト名。

<group\_name>

SAP ログオン・グループの名前。

<sap\_system>

SAP Application Server のグループが含まれている SAP システムの ID。

例:

```
DESTINATION      KD7  
PROGID           KD7.ICCSAP  
GWHOST           /H/sapserver  
GWSERV           sapgw00  
MHOST            sapmsKD7  
GROUP            myGroup  
R3NAME           KD7  
LOGICAL_SYSTEM   T90CLNT090  
CLIENT          800  
USER             CPICUser1  
LOGICAL_SYSTEM   T90CLNT091  
CLIENT          801  
USER             CPICUser2
```

3. サーバー構成プロファイルを保存し、Collector Serverを再始動して変更を有効にしてください。

---

## 第 6 部 使用

主要なタスクは、データ、文書、および印刷リストのアーカイブと表示、文書のリンク、および索引情報の転送です。

データをアーカイブおよび表示する方法や、発信文書をアーカイブする方法について詳しくは、SAP の資料を参照してください。



---

## 第 28 章 着信文書のアーカイブ

SAP ワークフローで作業項目を作成することによって、バーコードを処理することによって、または同時アーカイブを使用することによって、着信文書を任意のサポートされているアーカイブにアーカイブできます。

同時アーカイブについて詳しくは、SAP の資料を参照してください。

---

### キューに含まれている文書の管理

アーカイブに保存する文書をキューに入れる必要があります。自動処理機能を有効にしていない限り、手動で文書をキューにインポートしなければなりません。キューから特定の文書を削除する操作も、常時実行できます。

#### 文書のインポート

これらの文書を、キュー・タイプが合致するキューへインポートすることができます。キュー・タイプは、キューの作成時に指定しました。

手順:

1. 「IBM Content Collector for SAP Applications - Archiving Client」ウィンドウのナビゲーション・ペインでキューを選択し、「**キュー**」 > 「**インポート**」をクリックします。
2. オプション: いつでもインポート処理を停止できます。そのためには、「**キュー**」 > 「**インポートの停止**」をクリックします。

文書がインポートされ、右側のコンテンツ・ペインに表示されます。

#### キューから文書を削除する操作

1 つ以上の文書が現在インポートもアーカイブもされていない場合は、それらをキューから削除することができます。さらに、ローカル・ファイル・システムから文書を削除することも可能です。Content Manager ワーク・バスケットに含まれている文書を削除することはできません。

手順:

1. 「IBM Content Collector for SAP Applications - Archiving Client」ウィンドウのナビゲーション・ペインで、削除する文書が入っているキューをクリックします。
2. コンテンツ・ペインで、削除する文書を選択し、「**文書**」 > 「**削除**」をクリックします。 選択した文書をキューから削除するだけにするのか、キューとローカル・ファイル・システムの両方から削除するのを選択するための画面が表示されます。
3. いずれかを選択して、「**OK**」をクリックします。

「IBM Content Collector for SAP Applications - Archiving Client」ウィンドウから文書が削除されます。選択したオプションによっては、ローカル・ファイル・システムからも削除されます。

## SAP ワークフローに作業項目を作成することによる着信文書のアーカイブ

アーカイブ・プロセスは、Object Linking and Embedding (OLE) を使用して SAP GUI から開始できます。または、Archiving Client から開始できます。「ファイル・キュー」タイプまたは「ディレクトリー・キュー」タイプのキューに入っている文書をアーカイブに保存できます。


始める前に:

- 265 ページの『SAP ワークフローで作業項目を作成することによって着信文書をアーカイブするため構成』
- 351 ページの『文書のインポート』

## SAP ワークフローに作業項目を作成することによる SAP GUI からの着信文書のアーカイブ

一度に 1 つ以上の文書をアーカイブに保存できます。

手順:

1. Archiving Client を開始し、オプションで、キューに入れられた 1 つ以上の文書を選択します。
2. SAP GUI でトランザクション・コード OAWD を入力して、「文書の保存 (Store documents)」ウィンドウを開きます。
3. 文書のデフォルト設定を拡張し、項目をダブルクリックします。
4. 「後続の項目用に保管 (Storing for subsequent entry)」ウィンドウで、以下のいずれかかのアーカイブ方法を選択します。
  - 「続く (Continue)」アイコン  をクリックし、次の文書のいずれかをアーカイブします。
    - Archiving Client でキューまたは文書を選択しなかった場合は、最初のキューの最初の文書がアーカイブされます。
    - キューは選択したが、文書は選択しなかった場合、選択したキューの最初の文書がアーカイブされます。
    - キューで単一の文書を選択した場合、その文書がアーカイブされます。
    - キューでいくつかの文書を選択した場合、選択した文書の最初のものがアーカイブされます。
  - 「大量アーカイブ (Mass archiving)」をクリックし、以下の文書をアーカイブします。
    - Archiving Client でキューを選択しなかった場合は、すべてのキューに入れられたすべての文書がアーカイブされます。
    - 1 つのキューを選択した場合、そのキューに入れられたすべての文書がアーカイブされます。
    - キューで単一の文書を選択した場合、その文書がアーカイブされます。



アーカイブされる各文書について、組織オブジェクトのインボックスに作業項目が作成されます。組織オブジェクトは、ユーザー、ユーザーのグループ、またはユーザーのグループが割り当てられたジョブです。

## SAP ワークフローに作業項目を作成することによる Archiving Clientからの着信文書のアーカイブ

一度に 1 つ以上の文書をアーカイブに保存できます。

### 手順:

1. 「IBM Content Collector for SAP Applications - Archiving Client」ウィンドウのナビゲーション・ペインで、アーカイブする文書が入っているキューをクリックします。
2. キューに入れられたすべての文書、または選択した文書をアーカイブできます。
  - すべての文書をアーカイブに保存する場合は、「キュー」 > 「WFL への早期アーカイブ」をクリックします。
  - 選択した文書をアーカイブに保存する場合は、以下の手順を実行します。
    - コンテンツ・ペインで、アーカイブに保存する文書を選択します。
    - 「文書」 > 「WFL への早期アーカイブ」 > 「選択項目のアーカイブ」をクリックします。
3. オプション: いつでもアーカイブ処理を停止できます。そのためには、「キュー」 > 「アーカイブの停止」または「文書」 > 「アーカイブの停止」をクリックします。

文書はアーカイブされた後、「IBM Content Collector for SAP Applications - Archiving Client」ウィンドウから削除されます。

---

## バーコードの処理による着信文書のアーカイブ

一度に 1 つ以上の文書をアーカイブに保存できます。「ファイル・キュー」タイプまたは「ディレクトリー・キュー」タイプのキューに入っている文書をアーカイブに保存できます。

### 始める前に:

- 273 ページの『着信文書のバーコードの処理による着信文書のアーカイブのための構成』
- 351 ページの『文書のインポート』

### 手順:

1. 「IBM Content Collector for SAP Applications - Archiving Client」ウィンドウのナビゲーション・ペインで、アーカイブする文書が入っているキューをクリックします。
2. キューに入れられたすべての文書、または選択した文書をアーカイブできます。
  - すべての文書をアーカイブに保存する場合は、「キュー」 > 「遅延アーカイブ」をクリックします。
  - 選択した文書をアーカイブに保存する場合は、以下の手順を実行します。
    - コンテンツ・ペインで、アーカイブに保存する文書を選択します。

- 「文書」 > 「遅延アーカイブ」 > 「選択項目のアーカイブ」をクリックします。
3. オプション: いつでもアーカイブ処理を停止できます。そのためには、「キュー」 > 「アーカイブの停止」または「文書」 > 「アーカイブの停止」をクリックします。

文書はアーカイブされた後、「IBM Content Collector for SAP Applications - Archiving Client」 ウィンドウから削除されます。

---

## 第 29 章 アーカイブされたオブジェクトの SAP へのリンク

Content Manager Enterprise Edition に格納されている SAP に、文書をリンクすることができます。さらに、FileNet P8 に格納されている文書、検索、検索テンプレート、およびフォルダーをリンクすることもできます。

---

### Content Manager にアーカイブされた文書の SAP へのリンク

Archiving Client を使用して、または Utility Client の文書リンク・プロセスを使用して、文書をリンクできます。SAP ワークフローに作業項目を作成することにより文書をリンクする場合、または文書が SAP によってアクセスできない項目タイプに格納されている場合は、Utility Client を使用する必要があります。

Cold プログラムを使用した文書のリンクの方法については、338 ページの『Cold プログラムを使用して、アーカイブされた文書をリンクする』を参照してください。

### Archiving Client を使用した Content Manager に格納されている文書の SAP へのリンク

「CM キュー」タイプのキューに入れられた 1 つ以上の文書を一度にリンクできます。文書は、SAP によってアクセスできる項目タイプに格納する必要があります。

始める前に:

1. 281 ページの『バーコードを処理することによって Content Manager 文書を SAP にリンクするための構成』
2. 351 ページの『文書のインポート』

手順:

1. 「IBM Content Collector for SAP Applications - Archiving Client」ウィンドウのナビゲーション・ペインで、アーカイブする文書が入っているキューをクリックします。
2. キューに入れられたすべての文書、または選択した文書をアーカイブできます。
  - すべての文書をアーカイブに保存する場合は、「キュー」 > 「遅延アーカイブ」をクリックします。
  - 選択した文書をアーカイブに保存する場合は、以下の手順を実行します。
    - コンテンツ・ペインで、アーカイブに保存する文書を選択します。
    - 「文書」 > 「遅延アーカイブ」 > 「選択項目のアーカイブ」をクリックします。
3. オプション: いつでもアーカイブ処理を停止できます。そのためには、「キュー」 > 「アーカイブの停止」または「文書」 > 「アーカイブの停止」をクリックします。

文書はターゲット項目タイプにアーカイブされます。文書はアーカイブされた後、「IBM Content Collector for SAP Applications - Archiving Client」 ウィンドウから削除されます。

## Utility Client を使用した、アーカイブされた文書の SAP へのリンク

Utility Client の文書リンク・プロセスを使用して、バーコードを処理することにより、または SAP ワークフローに作業項目を作成することにより、アーカイブされた文書をリンクできます。文書は、Content Manager Enterprise Edition または FileNet P8 に保管できます。

Content Manager 文書は、Content Manager ワーク・バスケットで使用可能である必要があります。FileNet P8 文書は P8 キュー内で使用可能である必要があります。

SAP によってアクセスできない項目タイプに保管された Content Manager 文書は、バーコードの処理だけによってリンクできます。

文書がどこに保管されたかに応じて、以下のタスクのいずれかを完了します。

- 277 ページの『Content Manager 文書を SAP にリンクするための構成』
- 286 ページの『Utility Clientを使用して FileNet P8 文書をリンクするための構成』

**重要:** 文書のリンクのために複数の Utility Client をセットアップし、同じアーカイブを指定した場合、一度に 1 つの Utility Client だけがアーカイブにアクセスできることに注意してください。

**手順:**

1. 「IBM Content Collector for SAP Applications - Utility Client」 ウィンドウのナビゲーション・ペインで、「プロジェクト・オブジェクト」 > 「文書リンク」 > 「セッション」 を展開して、セッションを選択します。
2. 「セッション」 > 「セッションの開始」 をクリックします。
3. 「進行状況」 で、文書リンクの進行を確認できます。文書リンクは、「停止」 をクリックすることによっていつでも停止できます。

文書リンク中は、「セッション項目」にあるテーブルに、リンク・プロセスが失敗した文書が表示されます。「セッションの新規作成」 ウィンドウで「正常に転送された項目を記録」 チェック・ボックスを選択した場合、テーブルには、リンク・プロセスが正常に完了した文書も表示されます。

- 1 つ以上の文書をリンクできない場合、アーカイブに応じて、次のようにします。
  - リンクできなかった Content Manager Enterprise Edition 文書は、エラー作業ノードに残されます。リンクの失敗を引き起こす問題を解決した後、失敗した作業項目をエラー作業ノードからスキャン作業ノードに手動で戻すことができます。次のセッションが実行されると、スキャン作業ノード内のすべての作業項目が処理されます。
  - リンクできなかった各 FileNet P8 文書について、「DWRemark」フィールドにエラー・メッセージが置かれます。リンクの失敗を引き起こす問題を解決した後、

「DWRemark」フィールドからエラー・メッセージを削除します。次のセッションが実行されると、空の「DWRemark」フィールドを持つ文書が処理されます。

---

## FileNet P8 でアーカイブされたオブジェクトの SAP へのリンク

Utility Client の文書リンク・プロセスを使用して、文書をリンクできます。P8 Client を使用することにより、文書、フォルダー、保管された検索、および検索テンプレートをリンクすることができます。Utility Client を使用する場合は、文書は P8 キューで使用可能である必要があります。

### Utility Client を使用した、アーカイブされた文書の SAP へのリンク

Utility Client の文書リンク・プロセスを使用して、バーコードを処理することにより、または SAP ワークフローに作業項目を作成することにより、アーカイブされた文書をリンクできます。文書は、Content Manager Enterprise Edition または FileNet P8 に保管できます。

Content Manager 文書は、Content Manager ワーク・バスケットで使用可能である必要があります。FileNet P8 文書は P8 キュー内で使用可能である必要があります。

SAP によってアクセスできない項目タイプに保管された Content Manager 文書は、バーコードの処理だけによってリンクできます。

文書がどこに保管されたかに応じて、以下のタスクのいずれかを完了します。

- 277 ページの『Content Manager 文書を SAP にリンクするための構成』
- 286 ページの『Utility Client を使用して FileNet P8 文書をリンクするための構成』

**重要:** 文書のリンクのために複数の Utility Client をセットアップし、同じアーカイブを指定した場合、一度に 1 つの Utility Client だけがアーカイブにアクセスできることに注意してください。

**手順:**

1. 「IBM Content Collector for SAP Applications - Utility Client」 ウィンドウのナビゲーション・ペインで、「プロジェクト・オブジェクト」 > 「文書リンク」 > 「セッション」 を展開して、セッションを選択します。
2. 「セッション」 > 「セッションの開始」 をクリックします。
3. 「進行状況」 で、文書リンクの進行を確認できます。文書リンクは、「停止」 をクリックすることによっていつでも停止できます。

文書リンク中は、「セッション項目」にあるテーブルに、リンク・プロセスが失敗した文書が表示されます。「セッションの新規作成」 ウィンドウで「正常に転送された項目を記録」 チェック・ボックスを選択した場合、テーブルには、リンク・プロセスが正常に完了した文書も表示されます。

1 つ以上の文書をリンクできない場合、アーカイブに応じて、次のようにします。

- リンクできなかった Content Manager Enterprise Edition 文書は、エラー作業ノードに残されます。リンクの失敗を引き起こす問題を解決した後、失敗した作業項

目をエラー作業ノードからスキャン作業ノードに手動で戻すことができます。次のセッションが実行されると、スキャン作業ノード内のすべての作業項目が処理されます。

- リンクできなかった各 FileNet P8 文書について、「DWRemark」フィールドにエラー・メッセージが置かれます。リンクの失敗を引き起こす問題を解決した後、「DWRemark」フィールドからエラー・メッセージを削除します。次のセッションが実行されると、空の「DWRemark」フィールドを持つ文書が処理されます。

## P8 Client を使用した、FileNet P8 にアーカイブされたオブジェクトの SAP へのリンク


P8 Client のポートレットを使用することにより、選択された文書、検索された検索、検索テンプレート、およびフォルダーをリンクすることができます。

SAP が提供するインバウンド・リンク・プロセスを使用し、さらに大量アーカイブを使用することにより、オブジェクトをリンクすることができます。


### Workplace または Workplace XT をユーザーとして開始

FileNet P8 に保管されているオブジェクトを SAP にリンクするには、Workplace または Workplace XT にログオンする必要があります。

手順:

1. P8 Client SAP Connector がインストールされているコンピューターからブラウザを開きます。
2. 以下の Web アドレスのいずれかを使用して、Workplace または Workplace XT を開始します。
  - `http://<application_engine_hostname>:<portnumber>/Workplace`
  - `http://<application_engine_hostname>:<portnumber>/WorkplaceXT`
3. お客様のユーザー名およびユーザー・パスワードで Workplace または Workplace XT にログオンします。
4. Workplace または Workplace XT がインストールされているかどうか、および文書がフォルダーにあるのか P8 キューに入れられているのかに従って、以下に進みます。
  - フォルダー内で編成されているオブジェクトにリンクする場合:
    - Workplace のナビゲーション・ペインで、「マイ・ワークスペース (My Workplace)」 > 「*page\_name*」を展開します。*page\_name* は、例えば Content Collector for SAP 参照ポートレットなどの Browse ポートレットに対して設定されたページを表します。
    - Workplace XT で、「マイ・ワークスペース (My Workplace)」アイコン  をクリックします。「マイ・ワークスペース (My Workplace)」ページのナビゲーション・ペインで、例えば Content Collector for SAP 参照ポートレットなどの Browse ポートレットに対して設定されたページをクリックします。
  - P8 キューに入れられている文書にリンクする場合:
    - Workplace のナビゲーション・ペインで、「マイ・ワークスペース (My Workplace)」 > 「*page\_name*」を展開します。「*page\_name*」は、例えば

Content Collector for SAP キュー・ポートレットなどの Queue ポートレットに対して設定されたページを表します。

- Workplace XT で、「マイ・ワークスペース (My Workplace)」アイコン  をクリックします。「マイ・ワークスペース (My Workplace)」ページのナビゲーション・ペインで、例えば Content Collector for SAP キュー・ポートレットなどの Queue ポートレットに対して設定されたページをクリックします。

## 文書、フォルダー、保管された検索、および検索テンプレートの SAP へのリンク

1 つ以上の文書、保管された検索、または検索テンプレートを一度にリンクしたり、文書とフォルダーを混ぜてリンクしたりすることができます。リンクの対象となるすべての文書は、同じ SAP 文書タイプに合致しなければなりません。特定のバージョンの文書をリンクできます。

### 始める前に:

1. 218 ページの『「Browse」ポートレットの構成』
2. 358 ページの『Workplace または Workplace XT をユーザーとして開始』

「参照」ポートレットの「マイ・ワークスペース (My Workplace)」ページに、「参照」ポートレットの構成中に選択されたフォルダーのすべての文書、保管された検索、および検索テンプレートが表示されます。フォルダーにサブフォルダーが含まれる場合は、各サブフォルダーが 1 つの項目としてリストされます。


次の手順では、パスにいくつかの文書およびサブフォルダーを持つフォルダーが含まれ、そのフォルダー内のすべての文書を 1 つの SAP 文書タイプに割り当てることが可能で、インバウンド・リンク・プロシーチャー「後続の項目用に保管 (Storing for subsequent entry)」を使用するとします。

### 手順:

1. 「マイ・ワークスペース (My Workplace)」ページには、次のオプションがあります。
  - 常に現在リリースされているバージョンの文書をリンクするには、リンクする各文書およびサブフォルダーの前にあるチェック・ボックスを選択します。
  - 特定のバージョンの文書をリンクするには、文書の下で「リンク・バージョン」をクリックし、文書のバージョンの前にあるチェック・ボックスを選択します。
  - 「リンクの現在のフォルダー」チェック・ボックスを選択し、そのフォルダー内のすべての文書およびサブフォルダーを選択します。

文書およびサブフォルダーは現行ページからのみ選択できます。より多くの文書およびサブフォルダーを表示するには、「項目の表示 (Show Items)」リストからより大きな数字を選択して、表示される項目数を増やします。

2. SAP GUI を開始し、トランザクション・コード OAWD を入力して、「文書の保存 (Store documents)」ウィンドウを開きます。
3. 「デフォルト設定 (Default settings)」の下で、「すべてのアプリケーション - 要約ではなく (All Applications - NOT a summary)」を展開します。

4. 文書に適用する SAP 文書タイプをダブルクリックします。「後続の項目用に保管 (Store for subsequent entry)」ウィンドウが開きます。
5. 「注」フィールドに、リンクされる文書またはサブフォルダーの名前が表示されます。この名前は、SAP で作成される作業項目の名前に割り当てられます。別の名前を指定することもできます。
6. 次のいずれかの方法で続行します。
  - 1 つの文書またはサブフォルダーをリンクする場合、または選択された各文書またはサブフォルダーの作業項目の名前を変更する必要がある場合は、「**続く (Continue)**」アイコン  をクリックします。Workplace または Workplace XT で選択した各文書およびサブフォルダーについて、プロンプトが出されません。
  - いくつかの文書およびサブフォルダーをリンクする予定で、選択されたすべての文書およびフォルダーの作業項目を同じ名前にできる場合、「**大量アーカイブ (Mass archiving)**」をクリックします。

Workplace または Workplace XT で、選択された各文書およびサブフォルダーは、作業項目が作成された後で選択解除することができます。

7. トランザクション・コード SBWP を使用して、Business Workplace を開きます。ナビゲーション・ペインで、「**インボックス (Inbox)**」を展開します。コンテンツ・ペインの右側には、選択された文書およびサブフォルダー用に作成された作業項目が含まれます。

## P8 キューに入っている文書の SAP へのリンク

1 つ以上の文書が同じ SAP 文書タイプに合致する場合、これらの文書を一度にリンクさせることができます。リンクされるのは、常に文書の最新リリース・バージョンです。

### 始める前に:

1. 222 ページの『「Queue」ポートレットの構成』
2. 358 ページの『Workplace または Workplace XT をユーザーとして開始』

「キュー」ポートレットの「マイ・ワークスペース (My Workplace)」ページに、「Queue」ポートレットの構成中に選択された P8 キューに入れられた各文書の作業項目が表示されます。リンク・プロセス中に、選択された各作業項目が SAP にアップロードされます。


次の手順では、文書に対して、インバウンド・リンク・プロシージャ「後続の項目用に保管 (Storing for subsequent entry)」を使用するとします。

### 手順:

1. 「キュー」ポートレットの「マイ・ワークスペース (My Workplace)」ページで、アップロードする各作業項目の前にあるチェック・ボックスを選択します。
2. SAP GUI を開始し、トランザクション・コード OAWD を入力して、「文書の保存 (Store documents)」ウィンドウを開きます。
3. 「**デフォルト設定 (Default settings)**」の下で、「**すべてのアプリケーション - 要約ではなく (All Applications - NOT a summary)**」を展開します。



4. 選択されたすべての文書に適用する SAP 文書タイプをダブルクリックします。  
「後続の項目用に保管 (Store for subsequent entry)」ウィンドウが開きます。
5. 「注」フィールドに、作業項目の名前が表示されます。別の名前を指定することもできます。
6. 次のいずれかの方法で続行します。

- 各作業項目に異なる名前を指定する場合は、「**続く (Continue)**」アイコン  をクリックします。Workplace または Workplace XT で選択した各作業項目について、プロンプトが出されます。
- すべての作業項目を同じ名前でアップロードする場合は、「**大量アーカイブ (Mass archiving)**」をクリックします。

Workplace または Workplace XT で、アップロードされた各作業項目が P8 キューから削除されます。

7. トランザクション・コード SBWP を入力して、Business Workplace を開きます。ナビゲーション・ペインで、「**インボックス (Inbox)**」を展開します。コンテンツ・ペインの右側にはアップロードされた作業項目が含まれます。



---

## 第 30 章 着信文書のアーカイブおよびアーカイブされた文書の定期的な間隔でのリンク

「ファイル・キュー」、「ディレクトリー・キュー」、または「CM キュー」タイプのキューを定期的に空にすることができます。アーカイブのスケジュールを定義することによって、これらのキュー内の文書の処理を自動化できます。このプロセスには、文書のインポートが含まれます。

以下のいずれかのタスクを 1 つ以上完了しました。

- 265 ページの『SAP ワークフローで作業項目を作成することによって着信文書をアーカイブするため構成』。
- 273 ページの『着信文書のバーコードの処理による着信文書のアーカイブのための構成』。
- 281 ページの『バーコードを処理することによって Content Manager 文書を SAP にリンクするための構成』。Archiving Client を使用するために構成します。

手順:

1. 「IBM Content Collector for SAP Applications - Archiving Client」 ウィンドウで、「自動処理」 > 「使用可能」 をクリックします。「自動処理」ウィンドウが開きます。
2. 2 つのアーカイブ操作の間の期間を指定します。「値」フィールドに数値を入力してください。「時間単位」で「時間」または「分」を選択します。
3. 「アーカイブ方式」で以下のいずれかの処理方式を選択します。

- **バーコードによる遅延アーカイブ**

これらの処理方法を使用することにより、文書のバーコードを処理することによって、ファイル・キューとディレクトリー・キューのタイプのキュー内にある文書をアーカイブできます。さらに、CM キュー・タイプのキュー内の Content Manager 文書をリンクできます。Content Manager 文書が格納される項目タイプには SAP がアクセス可能である必要があります。

- **ワークフローへの早期アーカイブ**

この処理方法を使用することにより、SAP ワークフローに作業項目を作成することによって、ファイル・キューとディレクトリー・キューのタイプのキュー内にある文書をアーカイブできます。

4. エラー発生時にアーカイブ処理を停止する場合は、「エラー時に停止」チェック・ボックスを選択してください。
5. 「OK」をクリックして、設定を保存します。

キューに入っている文書は、指定されたスケジュールに従ってアーカイブされません。

注: 次のタスクを実行する前に、「IBM Content Collector for SAP Applications - Archiving Client」 ウィンドウで、「自動処理」 > 「停止」 をクリックすることによって、自動処理を使用不可にします。



- 200 ページの『キューの作成』.
- キューのプロパティーの変更。詳細については、213 ページの『キューのプロパティーの表示と変更』を参照してください。
- 196 ページの『Collector Serverへの接続の定義』.
- 213 ページの『Archiving Client と Collector Serverの間の接続の表示』.

## 第 31 章 印刷リストの作成とアーカイブ

印刷リストは、SAP ArchiveLink バッチ・ジョブが実行されるときにアーカイブされます。



始める前に: 294 ページの『印刷リストをアーカイブおよび表示するための構成』

印刷リストを作成するには、次の手順を実行します。

1. SAP GUI でトランザクション・コード OAC2 を入力し、「「グローバル文書タイプ」ビューの変更: 全容表示 (Change View "Global document types": Overview)」ウィンドウを開く。このウィンドウには、SAP で定義される文書タイプがリストされます。
2. 「印刷 (Print)」アイコン  をクリックする。
3. 「印刷 (Print)」アイコン  をもう一度クリックする。
4. 「ALV リストの印刷 (Print ALV List)」ウィンドウで、「出力装置 (Output Device)」フィールドから既存のプリンターを指定する。
5. 「プロパティ (Properties)」をクリックする。
6. 「一般プロパティ (General Properties)」フォルダーを展開する。
7. 「印刷時 (Time of printing)」をダブルクリックする。
8. 「他のプロパティ「印刷の時間」(Other Properties "Time of printing")」で、「印刷時 (Time of print)」リストから「即時印刷 (Print out immediately)」を選択する。
9. 「出力オプション (Output Options)」フォルダーを展開する。
10. 「印刷後即時に削除 (Delete immediately after printing)」をダブルクリックする。
11. 「他のプロパティ「印刷後即時に削除」(Other Properties "Delete immediately after printing")」の下の「印刷後削除 (Delete After Printing)」が選択されていることを確認する。
12. 「出力オプション (Output Options)」フォルダーの「ストレージ・モード (Storage Mode)」をダブルクリックする。
13. 「他のプロパティ「ストレージ・モード」(Other Properties "Storage Mode")」の下の「ストレージ・モード (Storage Mode)」リストから、「アーカイブのみ (Archive only)」または「印刷とアーカイブ (Print and archive)」を選択する。
14. 「他のプロパティ「ストレージ・モード」(Other Properties "Storage Mode")」の下で、以下の情報を指定します。

フィールド名	説明 (Description)
「ストレージ・モード (Storage Mode)」	「アーカイブのみ (Archive only)」または「印刷とアーカイブ (Print and archive)」を選択します。

フィールド名	説明 (Description)
「オブジェクト・タイプ (Object Type)」	以下を入力します。 DRAW
「文書タイプ (Document Type)」	文書タイプを指定します。  例えば、以下のように入力します。 D01 または、以下のように入力します。 ZD01
「情報 (Information)」	3 文字を入力します。
テキスト	説明を入力します。

15. 「続く (Continue)」アイコン  をクリックします。
16. 「ALV リストの印刷 (Print ALV List)」ウィンドウで、「続く (Continue)」アイコン  をクリックする。

これで印刷リストが作成され、ファイル・システムに保管されます。SAP ArchiveLink バッチ・ジョブが実行されると、アーカイブされます。

---

## 第 32 章 アーカイブされた文書の表示

アーカイブされた文書は、外部ビューアー・アプリケーション、またはアーカイブやアーカイブされたオブジェクトを管理するクライアントと共に提供されるブラウザやその他のアプリケーションで表示できます。さらに、SAP Document Finder を使用することにより、SAP GUI から文書を表示することもできます。

---

### 外部ビューアー・アプリケーションを使用した、アーカイブ済み文書の表示

外部ビューアー・アプリケーションを使用して、サポートされている任意のアーカイブに保管されている文書を表示できます。

**始める前に:** 299 ページの『外部ビューアー・アプリケーションを使用した、アーカイブされた文書の表示のための構成』

財務会計文書にリンクされた文書を表示するには、例えば、次の手順を行います。

1. SAP GUI でトランザクション・コード FB03 を入力し、「文書の表示: 初期画面 (Display Document: Initial Screen)」ウィンドウを開きます。
2. 財務会計文書の詳細を指定して、Enter を押します。
3. 表示されるウィンドウで、「環境 (Environment)」 > 「オブジェクト・リンク (Object Links)」をクリックします。
4. 「オブジェクト・リンクの選択 (Choose Object Links)」ウィンドウで、「アーカイブされた文書 (Archived documents)」をクリックします。
5. アーカイブされた文書のリストで、表示する文書をクリックします。

Object Linking and Embedding (OLE) を使用して SAP GUI から開始された Viewing Client が、ビューアー・アプリケーションを開始します。

---

### Content Manager eClient でのアーカイブされた文書の表示

Content Manager Enterprise Edition に格納された文書は、Content Manager eClient を使用して表示できます。

**始める前に:** 305 ページの『Content Manager eClient』

Content Manager 文書の表示方法については、IBM DB2 Content Management インフォメーション・センターを参照してください。

---

### Workplace または Workplace XT に組み込まれているビューアー・アプリケーションを使用したアーカイブされた文書の表示

FileNet P8 に格納されている文書は、Workplace または Workplace XT のブラウザや、FileNet P8 のイメージ・ビューアーで開くことができます。フォルダー、保管された検索、および検索テンプレートは常に、Workplace または Workplace XT に表示されます。

**始める前に:** 307 ページの『Workplace または Workplace XT に組み込まれているビューアー・アプリケーションを使用して FileNet P8 オブジェクトを表示するための構成』

FileNet P8 オブジェクトの表示方法については、IBM FileNet P8 インフォメーション・センターを参照してください。

---

## SAP Document Finder を使用した、Content Manager および OnDemand に格納された文書の表示

Content Manager Enterprise Edition および Content Manager OnDemand に格納された文書は、SAP Document Finder を使用して表示できます。

**始める前に:** 310 ページの『SAP Document Finder を使用してアーカイブ済み文書を検索および表示するための構成』

**手順:**

1. SAP Document Finder を開始するには、SAP GUI にトランザクション・コード OA\_FIND を入力します。「ArchiveLink Document Finder」ウィンドウが開きます。
2. 「**文書域 (Document Area)**」リストから文書域を選択します。文書域の作成時に指定した照会クラスに基づき、SAP Document Finder は、この領域の検索属性が含まれる検索テンプレートを動的に生成します。検索属性に値を入力することによって、検索を制限することができます。
3. 「**検索の開始 (Start Search)**」をクリックして、検索を開始します。検索が正常に行われたら、ヒット・リストが表示されます。

セットアップ時に使用可能にした場合は、文書を SAP ビジネス・オブジェクトに付加することができます。例えば、アーカイブされた顧客からの E メールを、SAP システムで顧客のオーダーに付加できます。この場合、ヒット・リストの下部に追加のボタンがあります。

4. 文書を表示するには、ヒット・リストの項目をダブルクリックします。





---

## 第 33 章 アーカイブされた印刷リストの表示

アーカイブされた印刷リストは、SAP GUI を使用して表示できます。

**始める前に:** 365 ページの『第 31 章 印刷リストの作成とアーカイブ』

**手順:**

1. トランザクション・コード OADR を入力して、「保管されている印刷リストの検索 (Find stored print lists)」ウィンドウを開きます。
2. フィールドに入力し、「実行 (Execute)」アイコン  をクリックします。
3. アーカイブされた印刷リストのリストから、表示する印刷リストを選択します。
4. 「ストレージ・システムから表示 (Display from storage system)」アイコン  をクリックします。



---

## 第 34 章 索引情報の転送

SAP で作成された文書、Content Collector for SAP を使用して Content Manager Enterprise Edition、Content Manager OnDemand、および FileNet P8 に格納された文書のメタデータに索引情報を追加できます。索引転送の後、アーカイブされた文書を検索できます。索引転送のセットアップ時に、アーカイブおよび転送する情報を指定しました。

**始める前に:** 313 ページの『索引情報の転送のための構成』

**重要:** 索引の転送のために、複数の Utility Client をセットアップし、同じアーカイブを指定した場合、一度に 1 つの Utility Client だけがアーカイブにアクセスできることに注意してください。

**手順:**

1. 「IBM Content Collector for SAP Applications - Utility Client」 ウィンドウのナビゲーション・ペインで、「プロジェクト・オブジェクト」 > 「索引転送」 > 「セッション」 を展開し、セッションを選択します。
2. 「セッション」 > 「セッションの開始」 をクリックします。
3. 「進行状況」 で、索引転送の進行を確認できます。索引転送は、「停止」 をクリックすることによって、いつでも停止できます。

索引転送中は、「セッション項目」にあるテーブルに、索引転送に失敗した文書が表示されます。「セッションの新規作成」 ウィンドウで「正常に転送された項目を記録」 チェック・ボックスを選択した場合、テーブルには索引転送が正常に完了した文書も表示されます。

同じ開始日および終了日のバッチ・セッションを再利用する場合、以前の索引転送で処理されたすべての文書に対して、索引転送が開始されます。索引転送がバッチ・セッション・オブジェクトに対して失敗する場合は、次のようにします。

1. 「IBM Content Collector for SAP Applications - Utility Client」 ウィンドウのナビゲーション・ペインで、「すべてのオブジェクト」 > 「セッション」 を展開します。適切なバッチ・セッションをクリックし、「編集」 > 「コピー」 を選択して、バッチ・セッションをコピーします。
2. 「セッションの新規作成」 ウィンドウで、「バッチ・セッション」 チェック・ボックスをクリアします。
3. 「完了」 をクリックして、設定を保存し、セッションを再度実行します。



---

## 第 7 部 付録



---

## 付録 A. トラブルシューティングとサポート

IBM ソフトウェアに関する問題の把握、分離、および解決に役立つように、トラブルシューティングおよびサポート情報には、ご使用の IBM 製品に同梱されている問題判別リソースの使用法に関する説明が含まれています。

ご自身で問題を解決するために、問題の原因の特定方法、診断情報の収集方法、フィックスの取得先、および検索する知識ベースを調べることができます。IBM サポート部門へのお問い合わせが必要な場合は、サービス技術者が問題に対処する際に必要とする診断情報を調べることができます。

---

### 問題のトラブルシューティング

トラブルシューティングは、問題を解決するための系統的なアプローチです。トラブルシューティングの目標は、予想したように動作しなかった原因およびその問題の解決方法を判別することです。

トラブルシューティングの最初の手順は、問題を完全に記述することです。問題記述によって、ユーザーと IBM 技術サポートの担当者が問題の原因を見つけるために、どこから開始するべきかを知るのに役立ちます。この手順には、自身への基本的な質問が含まれます。

- 問題にはどのような症状がありますか?
- どこで問題が発生していますか?
- いつ問題が発生しますか?
- どのような条件下で問題が発生しますか?
- 問題を再現できますか?

これらの問題への回答は、通常、問題の適切な記述につながり、その後、問題の解決を導くことができます。

#### 問題にはどのような症状がありますか?

問題の記述を開始する際に最も自明な質問は、「問題は何か」です。この質問は簡潔に見えますが、問題についての詳細な説明を引き出す複数の焦点を絞った質問に分解できます。次のような質問が含まれます。

- 問題を報告しているのは誰または何ですか?
- エラー・コードおよびメッセージは何ですか?
- システムにどのような障害が発生しますか? 例えば、ループ、停止、異常終了、性能低下、または間違った結果。

#### どこで問題が発生していますか?

問題が発生している場所の判別は必ずしも容易ではありませんが、問題解決においては最も重要な手順の 1 つです。障害を報告したコンポーネントと障害が発生した

コンポーネントの間には、何層ものテクノロジーが存在する可能性があります。ネットワーク、ディスク、およびドライバは、問題を調査する際に考慮すべきコンポーネントの一部に過ぎません。

以下の質問は、問題の発生場所に焦点を絞って、問題の層を特定するのに役立ちます。

- 問題は 1 つのプラットフォームまたはオペレーティング・システムに特定のものですか、それとも複数のプラットフォームまたはオペレーティング・システムに共通しますか?
- 現行の環境および構成はサポートされていますか?

あるレイヤーが問題を報告している場合、問題が発生しているのは必ずしもそのレイヤー内ではありません。問題の発生場所を特定するためには、その問題が存在する環境を理解することも必要です。オペレーティング・システムとバージョン、対応するすべてのソフトウェアとバージョン、およびハードウェア情報など、時間をかけて問題の環境を完全に記述してください。サポートされる構成の環境で稼働していることを確認してください。問題の多くは、ソフトウェア・レベルの非互換性に原因がある場合が多く、それらのソフトウェアは、同時に実行されることを意図していないか、または同時に実行する場合のテストが十分に行われていません。

### いつ問題が発生しますか?

特に発生が 1 回限りのケースについては、障害に至るイベントの詳細なタイムラインを作成します。時間をさかのぼることによって、タイムラインを簡単に作成できます。エラーが報告された時点 (できるだけ詳細に、ミリ秒単位まで) から開始し、使用できるログと情報を逆方向にたどります。通常、確認する必要があるのは、診断ログで見つけた最初の疑わしいイベントまでの部分だけです。

イベントの詳細なタイムラインを作成するには、次の質問に答えます。

- 問題が発生するのは、一日の特定の時刻だけですか?
- 問題はどのくらいの頻度で発生しますか?
- 問題が報告される時刻に至るまで、どういうイベントのシーケンスがありますか?
- 問題が発生するのは、ソフトウェアやハードウェアのアップグレードやインストールなど、環境を変更した後ですか?

これらの種類の質問に回答することによって、問題の調査における参照の枠組みを提示できます。

### どのような条件下で問題が発生しますか?

問題の発生時に稼働しているシステムおよびアプリケーションを把握することは、トラブルシューティングの重要な部分です。次の環境に関する質問は、問題の根本原因を特定するのに役立ちます。

- 問題が発生するのは、いつも同じタスクが実行されているときですか?
- 特定のイベントのシーケンスが発生しないと、問題は表面化しませんか?
- 同時に他のアプリケーションにも障害が発生しますか?

これらの質問に答えることで、問題が発生する環境を説明し、依存関係を関連付けることができます。ほぼ同時に複数の問題が発生する場合でも、それらの問題が関



連しているとは限らないことに注意してください。

## 問題を再現できますか？

トラブルシューティングの観点からすると、再現可能な問題が理想的です。通常、問題が再現できる場合は、調査に役立つ大規模なツールやプロシーチャーのセットがあります。そのため、再現可能な問題はデバッグおよび解決が容易である場合が多いです。しかし、再現可能な問題には不利な点もあります。業務に大きな影響を与える問題は、再現したくありません。可能であれば、テストまたは開発用の環境で問題を再作成します。これらの環境では通常、調査時の柔軟性が高まり、制御しやすくなります。

- テスト・システムで問題を再現できますか？
- 複数のユーザーまたはアプリケーションで同じタイプの問題が発生していますか？
- 単一コマンド、コマンドのセット、または特定のアプリケーションで問題を再現できますか？

### 関連情報

『知識ベースの検索』

IBM 知識ベースを検索することで、問題の解決策が見つかることがあります。使用可能なリソース、サポート・ツール、および検索方法を使用して、結果を最適化できます。

---

## 知識ベースの検索

IBM 知識ベースを検索することで、問題の解決策が見つかることがあります。使用可能なリソース、サポート・ツール、および検索方法を使用して、結果を最適化できます。

インフォメーション・センターで Content Collector for SAP について検索することによって、役立つ情報を見つけることができますが、ときには質問への回答や問題の解決のためにインフォメーション・センター以外も確認する必要があります。

知識ベースで必要な情報を検索するには、以下の方法を 1 つ以上使用します。

- 「IBM サポート・ポータル」を使用して必要なコンテンツを検索します。

IBM サポート・ポータルは、IBM のシステム、ソフトウェア、およびサービスのすべてについてのすべての技術サポート・ツールと情報が統合され、中央管理されているビューです。IBM サポート・ポータルでは、1 つの場所から IBM 電子サポート・ポートフォリオにアクセスできます。問題回避と迅速な問題解決のために必要な情報とリソースに絞り込むようにページを調整できます。このツールについての「デモ・ビデオ」([https://www.ibm.com/blogs/SPNA/entry/the\\_ibm\\_support\\_portal\\_videos](https://www.ibm.com/blogs/SPNA/entry/the_ibm_support_portal_videos)) を表示して、IBM サポート・ポータルに慣れてください。これらのビデオは、IBM サポート・ポータルを紹介し、トラブルシューティングとその他のリソースを調べ、ポートレットの移動、追加、および削除によってページをどのように調整できるかの実例を示します。

- IBM マストヘッド検索を使用してコンテンツを検索します。任意の [ibm.com](https://www.ibm.com)<sup>®</sup> ページの上部にある「検索」フィールドに検索ストリングを入力することによって、IBM マストヘッド検索を使用できます。

- Google、Yahoo、または Bing などの外部検索エンジンを使用してコンテンツを検索します。外部検索エンジンを使用する場合、結果に `ibm.com` ドメイン以外のものが含まれる可能性が高くなります。ただし、ときには、`ibm.com` 上にはないニュースグループ・フォーラム、およびブログに IBM 製品についての問題を解決する役立ち情報が見つかることがあります。

**ヒント:** IBM 製品に関する情報を検索する場合は、「IBM」と製品の名前を検索に含めてください。

---

## Fix Central からのフィックスの取得

Fix Central を使用して、Content Collector for SAP を含むさまざまな製品に対して IBM サポート部門が推奨するフィックスを検索することができます。Fix Central では、送達オプションを選択し、ご使用のシステムに対するフィックスを検索、選択、注文、およびダウンロードすることができます。問題を解決する Content Collector for SAP 製品フィックスが提供されている場合があります。

フィックスを検索してインストールするには:

1. Web ページ「Fix Central」へアクセスし、以下の手順を実行して、Content Collector for SAP のフィックス・リストを取得します。
  - a. 「製品グループ」リストから、「Software」 > 「Information Management」を選択します。
  - b. 「Product」リストから、「IBM Content Collector for SAP Applications」を選択します。
  - c. 「Installed Version」リストから、「2.2」または「All」を選択します。
  - d. 「プラットフォーム」リストから、いずれかのオペレーティング・システムまたは「All」を選択します。
  - e. 「続く (Continue)」をクリックします。
  - f. IBM ID を使用してサインインし、「次へ進む」をクリックします。
  - g. 「フィックスの特定」Web ページで、検索基準を指定し、「次へ進む」をクリックします。

「フィックスの選択」Web ページに、検索基準に適合するすべてのフィックスがリストされます。
2. ダウンロードするフィックスの隣にあるチェック・ボックスを選択し、「次へ進む」をクリックします。
3. 「ダウンロード・オプション」Web ページで、ダウンロード方式を選択し、前提条件のフィックスまたは相互に必要な修正のフィックスを含めるかどうかを指定します。「続く (Continue)」をクリックします。
4. 条件に同意して、「今すぐダウンロードする」をクリックします。
5. フィックスを適用します。ダウンロードしたドキュメントの「Installation Instructions」セクションの説明に従います。
6. オプション: フィックスおよびその他の IBM サポート部門の更新についての Eメールの通知を毎週受け取るようにサブスクライブします。

---

## IBM サポート部門へのお問い合わせ

IBM サポート部門は、製品の問題点についての支援、FAQ への回答、および再ディスカバリーの実行を提供します。

技術情報などの他の自己解決型のヘルプを使用して回答や解決策を探そうとした後で、IBM サポート部門にお問い合わせいただくことができます。IBM サポート部門にお問い合わせいただくには、会社が有効な IBM ソフトウェア・サブスクリプションおよびサポート契約を保持し、お問い合わせいただくユーザーが IBM に問題を送信する権限を持っている必要があります。使用可能なサポートのタイプについては、「*Software Support Handbook*」の『Support portfolio』のトピックを参照してください。

問題について IBM サポート部門へお問い合わせいただくには、次のステップを実行してください。

1. 問題を明確にし、背景情報を収集し、問題の重大度を判断してください。詳しくは、「*Software Support Handbook*」の『Getting IBM support』のトピックを参照してください。
2. 診断情報を収集します。
3. 以下のいずれかの方法で、問題を IBM サポート部門に送信します。
  - 『IBM サポート・ポータル』を介したオンライン: すべてのサービス要求を「サービス要求 (Service Request)」ページの「サービス要求 (Service Request)」ポートレットから開き、更新し、表示することができます。
  - 電話によるお問い合わせ: 各地域のお問い合わせ電話番号については、「ワールドワイドのお問い合わせ先」Web ページを参照してください。

ソフトウェア障害または資料の欠落や不正確さなどが問題である場合は、IBM サポート部門がプログラム診断依頼書 (APAR) を作成します。APAR には問題が詳細に説明されています。可能な場合はいつでも、IBM サポート部門は、APAR が解決されてフィックスが送達されるまで、ユーザーが実施できる回避策を提供します。IBM は解決済みの APAR を IBM サポート Web サイトに毎日公開し、同じ問題を経験した他のユーザーが、同じ解決策を利用できるようにしています。

## IBM サポート部門へのトレースおよび診断情報の送信

問題の診断または識別を行うには、IBM サポート部門にご使用のシステムからデータと情報を提供いただく必要があります。

問題を解決するための時間を削減するため、IBM サポート部門にトレースおよび診断情報を送信できます。

IBM サポート部門に診断情報を送信するには:

1. 問題管理レコード (PMR) を開きます。「サービス・リクエスト・ツール」を使用できます。
2. 要求の際は、以下の情報を収集してください。
  - 使用している環境の説明。SAP インストールの数、ハードウェア構成、クライアント構成、アーカイブとそのバージョン番号、インストール済みのフィックスパック、およびその他の関連ソフトウェアを指定する場合には、できるだけ正確に記入してください。

- シナリオの説明。何をしたいのか。厳密には何が機能しないのか。
- 正確なエラー・メッセージ。
- 問題が再現可能か。再現性がある場合は、再現する条件を教えてください。
- エラー・ログ・ファイル。
- サーバー構成プロファイル。
- Collector Server によって作成されるトレース・ファイル (archint.trace、startup.trace)、および、Collector Server がサービスとして稼働している場合は、サービス・トレース・ファイル。サービス・トレース・ファイルは最大ファイル・サイズに達すると切り捨てられます。そのため、問題に関連するトレース情報がファイルに含まれていることを確認してください。含まれていない場合は、その問題を再現させ、システムを停止してください。
- Content Collector for SAP が文書を検索できない場合は、Content Manager Enterprise Edition または Content Manager OnDemand のクライアントを使用して、それを検索できるかどうか。
- ご使用の構成ウィンドウの画面取り。これにより、サポート・チームは入力された値を検証できます。

---

## サポート更新情報のサブスクライブ

使用する IBM 製品についての重要な情報を受け取り続けるには、更新情報にサブスクライブできます。

更新情報を受け取るようにサブスクライブすることによって、特定の IBM サポート・ツールおよびリソースに対する重要な技術情報と更新を受け取ることができます。2 つの方法のいずれかを使用して更新情報をサブスクライブできます。

- RSS フィード。

開始手順および RSS 対応の IBM Web ページのリストを含め、RSS についての一般情報については、「IBM Software Support RSS feeds」のサイトを参照してください。

- My Notifications。

My Notifications を使用すると、任意の IBM 製品に対するサポートの更新にサブスクライブできます。(My Notifications は My Support に置き換わるものであり、過去に使用したことがあるかもしれないツールに似ています。) My Notifications を使用して、毎日または毎週 E メールによる告知を受け取るように指定できます。どのような情報 (広報、ヒント、製品フラッシュ (またはアラート)、ダウンロード、およびドライバーなど) を受け取るのかを指定できます。My Notifications を使用して、どの製品についての情報を得るのか、およびニーズに最も適した配送方法をカスタマイズおよび分類できます。

サポート更新にサブスクライブするには、以下のようにします。

1. 「IBM サポート・ポータル」に進みます。
2. 「通知 (Notifications)」ポートレットで「**My notifications サブスクリプション (My notifications subscriptions)**」をクリックします。
3. IBM ID とパスワードを使用してサインインし、「送信 (Submit)」をクリックします。

4. 「**Subscribe**」タブをクリックします。
5. 「**Information Management**」をクリックします。
6. IBM Content Collector for SAP Applications および任意のその他の製品の隣にあるチェック・ボックスを選択します。「**続く (Continue)**」をクリックします。
7. 更新を受け取る方法の設定を選択します。E メールによって、指定したフォルダー内にオンラインで、RSS または Atom フィードとして、のいずれかを選択します。
8. 例えば、製品ダウンロードについての新しい情報とディスカッション・グループのコメントなど、受け取る資料の更新のタイプを選択します。
9. 「**送信 (Submit)**」をクリックします。

RSS フィードと My Notifications の設定を変更するまでは、要求した更新情報の通知を受け取ります。必要なとき (例えば、1 つの製品の使用を停止して別の製品の使用を開始する場合など) に設定を変更できます。

#### 関連情報

-  [IBM ソフトウェア・サポート RSS フィード](#)
-  [My Notifications サポート・コンテンツの更新へのサブスクライブ](#)
-  [IBM 技術サポートの My notifications](#)
-  [IBM 技術サポートの My notifications の概要](#)

---

## ネットワーク接続の安定化

例えば、Collector Server と Content Collector for SAP クライアント の間でファイアウォールを使用すると、ネットワーク接続が失敗する可能性があります。ネットワーク接続を安定化することができます。

### 可変ポート使用時のネットワーク接続の安定化

ダイナミック・リンク・ライブラリー `csclient.dll` は、クライアント・ディスパッチャーへの接続を即時に確立できないことがあります。そのため、接続の試行を数回繰り返すように、`csclient.dll` を構成することができます。

`csclient.dll` は、クライアント・ディスパッチャー (`archwin.exe`) を使用して、Collector Server と通信します。クライアント・ディスパッチャーのインスタンスが複数ある場合があります。各インスタンスは異なるポートで通信します。クライアント・ディスパッチャーへの接続を確立するために、`csclient.dll` は `archpro` プログラムを使用します。これにより、接続の試行に使用されるポートの情報が返されます。

`csclient.dll` が接続を繰り返し試行できるようにするには、以下のいずれかのキーワードをクライアント構成プロファイルに追加します。

- `MaxConnectRetries` は、毎回同じポートを使用した、クライアント・ディスパッチャーへの接続の試行回数を指定します。例:

```
MaxConnectRetries 3
```

- `MaxArchwinRetries` は、毎回異なるポートを使用した、クライアント・ディスパッチャーへの試行回数を指定します。試行が失敗すると、次回は別のポート番号が使用されます。例:

```
MaxArchwinRetries 6
```

## 固定ポート使用時のネットワーク接続の安定化

固定ポートを使用する場合、`cscclient.dll` によって、クライアント・ディスパッチャーとの直接接続を確立できます。有効なポート番号を取得するために、`archpro` プログラムに接続する必要はありません。

手順:

1. サーバー構成プロファイルで、キーワード `ARCHPRO_PORT` および `CLIENT_ALL_PORTS_FIXED` を設定します。
2. クライアント構成プロファイルで、以下のキーワードのいずれかを追加します。
  - `MaxConnectRetries` は、毎回同じポートを使用した、クライアント・ディスパッチャーへの接続の試行回数を指定します。例:  

```
MaxConnectRetries 3
```
  - `MaxArchwinRetries` は、毎回異なるポートを使用した、クライアント・ディスパッチャーへの試行回数を指定します。試行が失敗すると、次回は別のポート番号が使用されます。例:  

```
MaxArchwinRetries 6
```
3. クライアント構成プロファイルで以下のキーワードを設定して、使用されるポートの範囲を指定します。

### **FirstArchwinPort**

クライアント・ディスパッチャーへの接続に使用される最初のポート番号を指定します。

### **LastArchwinPort**

クライアント・ディスパッチャーへの接続に使用される最後のポート番号を指定します。

`cscclient.dll` は、この範囲のすべてのポート番号を昇順に使用して、クライアント・ディスパッチャーへの接続を試行します。

例:

```
[ARCHPRO_CONNECTIONPARAMETER]
MaxArchwinRetries=6
FirstArchwinPort=5602
LastArchwinPort=5607
```

この例では、`cscclient.dll` はポート 5602、5603、5604、5605、5606 および 5607 を使用して接続を試行します。

---

## アーカイブのトラブルシューティング

- 1 つ以上のアーカイブで問題が発生する場合があります。

## アーカイブへのアクセス不能

アーカイブにアクセスできない場合は、まず、サーバー構成プロファイルでキーワード設定 ARCHIVE DEFAULT を使用したかどうかを確認してください。

このキーワードの設定は無効になりました。これを使用した場合は、値を論理アーカイブ ID に変更してください。

## SAP ノートでエラーが生成される

Image Services にカタログされている発信文書に SAP ノートを追加しようとする時、エラーを受け取ることがあります。このエラーは、FileNet P8 のバージョン管理を非活動化した場合に発生します。

以下のエラーが SAP に表示されます。

HTTP エラー: 500 内部サーバー・エラー

Collector Server によって作成されるトレースには、このエラーに関する次の情報が含まれます。

- コンソール出力:

```
CSS0320I: ArchPro はエージェント no から「コンポーネントの更新エラー」を受け取り、ジョブ no を停止しました (時刻: hh:mm:ss.ms)。
(CSS0320I: ArchPro received 'Update component Error' from Agent no
and stop job no (Time: hh:mm:ss.ms).)
```

ここで、no はエージェント番号またはジョブ番号を表し、hh:mm:ss.ms は時間、分、秒、およびミリ秒の時刻を表します。

- トレース・ファイル:

```
P8-AGENT WORKER#0: 文書 <sapdocid> の操作 [updateComponent] に失敗しました。
(P8-AGENT WORKER#0: Operation [updateComponent] for document <sapdocid> failed.)
理由: update(): このメソッドは、このセッションまたはオブジェクトでサポート
されていません。
(Reason: update(): This method is not supported in the context of this session
or object.)
バージョン管理を使用可能にするときに、チェックアウトを実行する必要があります。
(Checkout must be performed when versioning is enabled.)
```

ここで、sapdocid は、文書の SAP 文書 ID (SAPDocId プロパティ) を表します。

- エラー・ログ・ファイル (csserror.log):

```
HTTP WORKER #0: <op=update, rep=archive_id, doc=sapdocid, comp=note> の処理に
失敗しました。
(HTTP WORKER #0: Processing failed for <op=update, rep=archive_id, doc=sapdocid,
comp=note>)
```

```
P8-AGENT WORKER #0: このメソッドは、このセッションまたはオブジェクトで
サポートされていません。
(P8-AGENT WORKER #0: This method is not supported in the context of this session
or object.)
バージョン管理を使用可能にするときに、チェックアウトを実行する必要があります。
(Checkout must be performed when versioning is enabled.)
```

```
P8-AGENT WORKER#0: 文書 <sapdocid> の操作 [updateComponent] に失敗しました。
(P8-AGENT WORKER#0: Operation [updateComponent] for document <sapdocid> failed.)
理由: update(): このメソッドは、このセッションまたはオブジェクトで
サポートされていません。
(Reason: update(): This method is not supported in the
```

context of this session or object.)  
バージョン管理を使用可能にするときに、チェックアウトを実行する必要があります。  
(Checkout must be performed when versioning is enabled.)

ここで、*sapdocid* は文書の SAP 文書 ID (SAPDocId プロパティ) を表し、*archive\_id* はアーカイブの論理アーカイブ ID を表します。

SAP ノートを作成しないことにするか、バージョン管理を活動化してください。  
詳しくは、54 ページの『文書クラスのレプリケーションの方向』を参照してください。

## Content Manager のトラブルシューティング

Content Manager Enterprise Edition でエラーまたは予期しない振る舞いが発生し、その問題を解決できない場合は、サポート・チーム用にトレースを準備してください。

トレースを作成するには、次の手順を実行します。

1. Collector Serverを停止します。
2. DB2 Information Integrator for Content がインストールされているディレクトリに移動します。Windows の場合、デフォルトのディレクトリは `C:\Program Files\IBM\db2cmv8\cmgmt\connectors` です。
3. `cmblogconfig.properties` ファイルをオープンします。
4. フィールド **DKLogPriority** を `DEBUG` に設定してから、ファイルを保存します。
5. **archpro** コマンドを使用して、コマンド・プロンプトから Collector Serverを再始動します。
6. エラーを生成するプロセスを再度実行します。トレースがファイル `dklog.log` に書き込まれます。

トレース・ファイルを Content Collector for SAP サポート・チームに送信します。

## OnDemand のトラブルシューティング

Content Manager OnDemand でエラーまたは予期しない振る舞いが発生した場合、このセクションで説明する手順を使用して、問題の原因を見つけます。

手順:

1. Collector Serverを停止します。
2. サーバー構成プロファイルで `TRACE OFF` が指定されている場合は、`TRACE ON` に変更します。
3. Content Manager OnDemand で、対応するアプリケーション・グループ定義を変更して、問題のあるすべての操作についてメッセージ・ロギング機能を有効にします。
4. **archpro** コマンドを使用して、コマンド・プロンプトから Collector Serverを再始動します。
5. トレース・ファイル (デフォルトの場合は `archint.trace`) および Content Manager OnDemand エラー・プロトコルを確認します。
6. 論理アーカイブで言及されている、ライブラリー・サーバー上のシステム・ログを確認します。



7. 疑わしい場合は、アプリケーション・グループおよびアプリケーション定義を確認してください。

## Tivoli Storage Manager のトラブルシューティング

PASSWORDACCESS GENERATE オプションで結果が生成されない場合、ノード名がサーバー構成プロファイルではなく、`<server_name>.opt` ファイルで指定されていることを確認します。`<server_name>` は、Tivoli Storage Manager サーバーのアドレスを表します。

---

## Collector Serverのトラブルシューティング

Collector Serverでエラーまたは予期しない振る舞いが発生し、その問題を解決できない場合は、Content Collector for SAP サポート・チームに問い合わせる前に、以下のトピックを確認してください。

### Collector Serverが始動しない原因の判別

Collector Serverは始動時に、すべての設定が正しいかどうか、およびアーカイブ・サーバーへの接続が確立されたどうかを検査します。さらに、サーバー構成プロファイルで指定されているすべてのパスとファイルがアクセス可能でなければなりません。

Collector Serverが始動しない原因を判別するには、以下のようになります。

- Collector Server を始動するユーザーがすべての関連パスおよびファイルにアクセスでき、これらのパスへの必要な権限を持っていることを確認します。PATH 環境変数に、使用するアーカイブへのインストール・パスが含まれているかどうかを確認します。さらに、必要な場所に絶対パスが指定されているかどうかを確認します。
- サーバー構成プロファイルの ARCHPRO\_PORT キーワードで指定されるポートが、別のプログラムによって使用されていないことを確認します。別のプログラムで使用されている場合は、ARCHPRO\_PORT キーワードの値を変更します。
- archpro プログラムの画面出力がない場合は、サーバー構成プロファイルで TRACE キーワードと REPORT キーワードを ON に設定して、トレースを使用可能にします。
- アーカイブには、SAP が必要とする属性をすべて持つ文書のみが含まれるようにしてください。文書の一部またはすべてに、DocId または DocProtection などの特定の必要な属性が不足している場合は、サーバー構成プロファイルを変更します。ARCHIVETYPE キーワードを ARCHIVE セクションに追加し、それを 1 つの Content Manager アーカイブに対して GENERIC\_MULTIPART に設定するか、その他のすべてのアーカイブに対して GENERIC と設定します。その後、Collector Server はすべての必要な属性が存在するかどうかを検査しないで始動します。
- トレース・ファイル archint.trace および startup.trace の中にエラー・メッセージがないか調べてください。
- 接続に関する問題のある子プロセスを判別します。通常は、archpro プログラムがエラー・メッセージを表示します。

同じエラー・メッセージがトレース・ファイルにもあります。どのコンポーネントに障害があるのかを見つけることができない場合は、各コンポーネントを個別にチェックします。一度に使用可能にするエージェントは 1 つだけにしてください。

## Collector Serverがサービスとして始動しない

Windows のコマンド `net start` および `net stop` を実行しても、Collector Server がサービスとして開始または停止されない場合は、代わりに `archservice start` および `archservice start` を使用します。

## アーカイブに時間がかかりすぎる。

アーカイブに時間がかかりすぎる場合は、最も一般的な原因を最初に確認してください。

最も一般的な原因:

- アーカイブ・サーバーが過負荷となっている。アーカイブは、限られた数の文書しか同時にインポートできません。
- エージェントの数が少なすぎる。現行数のエージェントで可能な文書のインポート処理速度を上回るペースでアーカイブ・ジョブを作成すると、文書はキューに書き込まれます。サーバー構成プロファイル内で、以下の 1 つ以上のキーワード (アーカイブにより異なる) の値を増やして、エージェントの数を増やします。

### ADSMAGENTS

Tivoli Storage Manager の場合

### CMAGENTS

Content Manager Enterprise Edition の場合

### ODAGENTS

Content Manager OnDemand の場合

### P8AGENTS

FileNet P8 の場合

- Collector Serverに十分なメモリーがありません。
- トレースが使用可能にされている。

---

## Content Collector for SAP クライアントのトラブルシューティング

Content Collector for SAP クライアントでエラーまたは予期しない振る舞いが発生し、その問題を解決できない場合は、Content Collector for SAP サポート・チームに問い合わせる前に、以下のトピックを確認してください。

## アーカイブ失敗後のエラー・フラグのリセット

キュー内の文書をアーカイブできない場合、アーカイブの失敗を示すエラー・フラグがキューに設定されます。アーカイブを再開するには、エラー・フラグをリセットする必要があります。

アーカイブ・エラーの原因となった問題を解決したら、以下のいずれかの方法でエラー・フラグをリセットします。

- 問題解決後にアーカイブ処理を再開します。表示されるメッセージで、「次へ進む」をクリックします。
- キューを右クリックし、「エラー・フラグのリセット (Reset error flag)」を選択します。

## ヘルプ情報が表示されない

Archiving Client または Viewing Client のウィンドウで「ヘルプ」をクリックすると、該当するヘルプ情報のページが開きます。ヘルプ情報が表示されない場合は、ヘルプ情報に使用するポート番号が、別のプログラムで使用されている可能性があります。どちらかのクライアントのヘルプ情報のポート番号を変更できます。

Archiving Client および Viewing Client のヘルプ情報で使用されるデフォルトのポートは 54546 です。

### Archiving Client のヘルプ情報が表示されない

Archiving Client のヘルプ情報のポート番号は、Windows レジストリーで定義されています。

始める前に: 195 ページの『Archiving Client のセットアップ』

Windows レジストリーでポート番号を変更するには、以下のステップを行います。

1. コマンド・プロンプトを開いて regedit と入力し、「レジストリ エディタ」ウィンドウを開きます。
2. 次のレジストリー・キーにナビゲートします。「HKEY\_CURRENT\_USER」 > 「Software」 > 「IBM」 > 「IBM Content Collector for SAP Applications - Archiving Client」 > 「InfoCenter」
3. 右側のコンテンツ・ペインで「ポート」をダブルクリックします。
4. 「値データ」フィールドに設定済みポート番号を入力します。
5. 「OK」をクリックします。
6. Registry Editor ウィンドウを閉じます。
7. Archiving Client を再始動し、ヘルプ情報が表示されるかどうかを確認します。

### Viewing Client のヘルプ情報が表示されない

Viewing Client のヘルプ情報のポート番号は、クライアント構成プロファイルで定義されています。

クライアント構成プロファイルでポート番号を変更するには、以下のステップを行います。

1. クライアント構成プロファイルを開きます。
2. ファイルの最後に以下のセクションを追加します。

```
[InfoCenter]
Port=<number>
```

<number> は優先ポート番号を表し、1025 – 65535 でなければなりません。

3. クライアント構成プロファイルを保管します。
4. Viewing Client を再始動し、ヘルプ情報が表示されるかどうかを確認します。

---

## 戻りコード

Collector Serverによって発行される戻りコードによって、操作の結果を理解します。

各コードは番号順に並べられています。したがって、戻りコード・メッセージを受け取ったときには、括弧内の番号を書き留めてください。

### **CS\_RC\_OK (0)**

操作は正常に完了しました。

### **CS\_RC\_CLOSE\_SOCKET (-1)**

対応するソケットは閉じられています。ただし、この戻りコードはエラーの発生を意味してはいません。

### **CS\_RC\_CHILDINIT\_FAILED (-3)**

Content Collector for SAP 子プロセスの初期化に失敗しました。この戻りコードは、Content Collector for SAP 子プロセスの始動に問題があることを示します。

### **CS\_RC\_CHECKARCHIVE\_FAILED (-5)**

対応するアーカイブの始動検査に失敗したため、 エージェントを始動できませんでした。

### **CS\_RC\_VERSION\_ERROR (-6)**

誤ったバージョンのプログラムによって作成された子プロセスを検出したために、Collector Server が始動しませんでした。プログラムを正しいバージョンのものに置き換えてください。

### **CS\_RC\_SHUTDOWN (-99)**

Collector Server が、archstop プログラムからのシャットダウン要求によってシャットダウンされました。

### **CS\_RC\_SHUTDOWN\_NOW (-100)**

Collector Server が、archstop プログラムからの即時シャットダウン要求によってシャットダウンされました。

### **CS\_RC\_NOMEM (-110)**

Content Collector for SAP プロセスがメモリー不足です。

### **CS\_RC\_NOTFOUND (-115)**

要求データが見つかりませんでした。詳細は、Content Collector for SAP トレース・ファイルを参照してください。

### **CS\_RC\_ERRDELETE (-116)**

アーカイブされた文書またはコンポーネントを削除できません。このエラー・コードは、コンポーネントにデータが付加された場合や、コンポーネントが更新された場合にも発生する可能性があります。

### **CS\_RC\_NOTSUPPORTED (-118)**

Content Collector for SAP が要求された操作を実行できません。このような操作に該当するのは、例えば、 TSM エージェントに送信された索引転送要求や更新操作の無効なアクションなどです。

**CS\_RC\_NOTTEXTSEARCHABLE (-120)**

Content Manager Enterprise Edition 属性または項目タイプがテキスト検索で使用可能になっていません。

**CS\_RC\_VIEWFILTER\_USAGEERROR (-125)**

Content Manager Enterprise Edition 項目タイプ・サブセットで特定の文書のみをアーカイブするために使用されたフィルターが、誤って使用されました。Collector Serverは文書をアーカイブする前に、項目タイプ・サブセットで設定されているフィルター基準と属性が一致しているかどうかを確認します。これは論理チェックです。基準が一致していない場合に、この戻りコードが表示されます。

**CS\_RC\_FILENOTFOUND (-200)**

Content Collector for SAP がファイルまたは文書を検出できません。

**CS\_RC\_UNKNOWNDOC (-201)**

要求された文書がアーカイブ内で検出できません。

**CS\_RC\_QUERYNOTFOUND (-202)**

文書がアーカイブ内で検出できません。その照会は失敗しました。

**CS\_RC\_ACCESSDENIED (-203)**

アーカイブされている文書をこの方法で処理するための適切なアクセス権限が付与されていません。

**CS\_RC\_DOCEXISTS (-204)**

アーカイブ内に同じ文書が存在しているため、この文書はアーカイブできません。

**CS\_RC\_ERRCERT (-205)**

Content Collector for SAP が証明書の使用を試行中に失敗しました。

**CS\_RC\_COMPNOTFOUND (-206)**

データを付加するコンポーネントが、アーカイブ内で検出できません。おそらく、このコンポーネントは存在していません。

**CS\_RC\_CONTRREP\_NOTFOUND (-207)**

指定したコンテンツ・リポジトリまたは論理アーカイブがサーバー構成プロファイル内で検出できません。

**CS\_RC\_INVALIDOFFSET (-208)**

部分検索用に指定されたオフセットが、文書の終わりを超えています。

**CS\_RC\_FREESEARCH\_NOTFOUND (-210)**

指定されたパターンがフリー検索要求で検出できません。

**CS\_RC\_ATTRSEARCH\_NOTFOUND (-211)**

指定されたパターンが属性検索要求で検出できません。

**CS\_RC\_OK\_VERSION1 (-213)**

CommonStore for SAP バージョン 1 でアーカイブされた文書が検出されました。

**CS\_RC\_READONLY (-214)**

この文書は CommonStore for SAP バージョン 1 でアーカイブされたものであるため、アーカイブ内で変更できません。

**CS\_RC\_LOGSYS\_NOTFOUND (-215)**

サーバー構成プロファイル内の DESTINATION セクションに、指定された論理システムが含まれていません。あるいは、そもそも論理システムが含まれていません。

**CS\_RC\_NO\_ATTR\_ARCHIVED (-216)**

プレーン文書は正常にアーカイブされましたが、属性リストで指定されているすべての属性は、アーカイブに保管できないために除去されました。通常このメッセージは、Content Collector for SAP で作成された追加の属性が含まれるアーカイブ要求の処理中に、TSM エージェントによって発行されません。

**CS\_RC\_NOCOPYGROUP (-217)**

コピー・グループに問題があるために、Content Collector for SAP は指定された Tivoli Storage Manager 管理クラスを使用できません。

**CS\_RC\_TRANSFORM\_FAILED (-219)**

TRANSFORM コマンドの呼び出しに失敗しました。

**CS\_RC\_NO\_AGENT (-220)**

Collector Server が、サーバー構成プロファイルで構成されていないエージェントに対する要求を受け取りました。この要求は即時にキャンセルされました。

**CS\_RC\_QUEUE\_ERROR (-221)**

Collector Serverが、ディスク上で非同期ジョブをキューに入れることができません。このジョブは即時にキャンセルされました。通常の (安全な) 操作を継続することが不可能になったので、Collector Server はシャットダウンします。Collector Serverを再始動する前に、Collector Server・キュー・ディレクトリーを確認します。

**CS\_RC\_JOB\_NOT\_ACCEPTED (-225)**

Collector Serverが完全には初期化されていないために、ジョブを処理する準備ができていません。

**CS\_RC\_SAP\_ATTR\_NOTALLOWED (-240)**

アーカイブ要求の属性リストにいずれかの予約済み SAP 属性が含まれているため、アーカイブ操作が失敗しました。これらの属性は、Content Collector for SAP によって自動的に作成されます。今回は、これらの属性を指定しないでください。

**CS\_RC\_SAP\_ATTR\_MISSING (-241)**

Content Collector for SAP に必要な SAP 属性が、索引クラスまたはアプリケーション・グループから欠落しています。

**CS\_RC\_FILEOPEN\_ERROR (-250)**

Collector Server がファイルをオープンしようとしたところ、またはファイルの状況を要求しようとしたところ、エラーが発生しました。

**CS\_RC\_FILEREAD\_ERROR (-251)**

Collector Server がファイルからのデータを読み取ろうとしたところ、エラーが発生しました。

**CS\_RC\_FILEWRITE\_ERROR (-252)**

Collector Server がファイルにデータを書き込もうとしたところ、エラーが発生しました。

**CS\_RC\_ADSM\_ERROR (-260)**

TSM エージェントでエラーが発生しましたが、関連した API 呼び出しは失敗しませんでした。

**CS\_RC\_OD\_ERROR (-262)**

OD エージェントでエラーが発生しました。csserror.log ファイルを検査して、このエラーの説明がないか調べてください。

**CS\_RC\_ATTR\_TOOLONG (-263)**

属性の値が長すぎて、アーカイブに保管できません。

**CS\_RC\_ATTR\_USAGEERROR (-264)**

属性が正しく使用されていません。

**CS\_RC\_ATTR\_NOTFOUND (-265)**

属性がアーカイブ内で検出できませんでした。

**CS\_RC\_USEREXIT\_LOAD\_FAILED (-266)**

Collector Serverがセキュリティー・ユーザー出口をロードしようとしたところ、エラーが発生しました。

**CS\_RC\_CONNECTION\_FAILED (-267)**

Collector Serverがアーカイブにログオンしようとしたところ、エラーが発生しました。

**CS\_RC\_UNKNOWN\_RESOURCE (-270)**

要求されたリソースが見つかりませんでした。

**CS\_RC\_RESOURCE\_EXISTS (-271)**

そのリソースは存在します。

**CS\_RC\_UNKNOWN\_COLLECTION (-272)**

要求コレクションが見つかりませんでした。

**CS\_RC\_UNKNOWN\_PARENTCOLLECTION (-273)**

要求されたリソースの親コレクションが見つかりませんでした。

**CS\_RC\_COLLECTION\_EXISTS (-274)**

そのコレクションは存在します。

**CS\_RC\_TOO\_MANY\_HITS (-275)**

アーカイブ内に存在する要求に当てはまるリソースが多すぎます。一件のみが一致すると予想されています。

**CS\_RC\_CONFLICT (-277)**

保護リソースの変更または削除が試みられました。

**CS\_RC\_HTTP\_REQUEST\_WRONG\_VERSION (-500)**

HTTP ディスパッチャーに送信された HTTP 要求に、新規バージョンが含まれていました。この要求は、現行の HTTP ディスパッチャーではまだサポートされていません。

**CS\_RC\_HTTP\_REQUEST\_WRONG\_METHOD (-501)**

HTTP ディスパッチャーに送信された HTTP 要求に、正しくない HTTP メソッドが含まれていました。

**CS\_RC\_HTTP\_REQUEST\_MISSING\_PARAMETER (-502)**

HTTP ディスパッチャーに送信された HTTP 要求に、すべての必須パラメーターが含まれていないか、これらのパラメーターが空でした。

**CS\_RC\_HTTP\_REQUEST\_MISSING\_ENTITY (-503)**

HTTP ディスパッチャーに送信された HTTP 要求に、本文が含まれていませんでした。

**CS\_DO\_WRONG\_SEARCHATTR (-1003)**

検索属性パターンが誤っています。

**CS\_DO\_ARCHIVELIST\_EMPTY (-1004)**

アーカイブ ID のリストが空であるために、検索操作に失敗しました。

**CS\_DO\_FOLDER\_IEMPTY (-1006)**

フォルダーが空であるために、フォルダー操作を完了できませんでした。

**CS\_BC\_RFC\_ABORT\_BY\_USER (-7095)**

ユーザーが ARCHBC プログラムを停止しました。

**CS\_BC\_RFC\_ERROR\_TABLE (-7096)**

**Open Barcode** テーブルの作成に失敗しました。Content Collector for SAP は、バーコードを SAP に送信できませんでした。

**CS\_BC\_RFC\_ERROR\_INSERT (-7097)**

リモート関数呼び出し ARCHIV\_BARCODE\_INSERT\_RFC または BAPI\_BARCODE\_SENDLIST が失敗したため、バーコードを SAP に送信できませんでした。

**CS\_BC\_RFC\_ERROR\_CONNECTION (-7098)**

Collector Server は、SAP との接続を確立できませんでした。リモート関数呼び出し ARCHIV\_BARCODE\_INSERT\_RFC または BAPI\_BARCODE\_SENDLIST が完了できませんでした。バーコードは SAP に送信されませんでした。

**CS\_BC\_RFC\_NO\_DATA\_TO\_SEND (-7099)**

**Open Barcode** テーブルが空です。そのため、バーコードを SAP に送信できません。

**CS\_RC\_BC\_ARCHIVE\_FAILED (-7100)**

アーカイブ操作に失敗したため、バーコードのアーカイブおよび送信の要求が失敗しました。バーコードは SAP に送信されませんでした。

**CS\_RC\_CWI\_R3\_CONNECTION\_ERROR (-7201)**

Collector Server が SAP に接続できなかったため、作業項目の作成要求は失敗しました。

**CS\_RC\_CWI\_R3\_FAILED (-7202)**

SAP が、作業項目の作成要求の受信時にエラーを戻しました。

**CS\_RC\_CWI\_ARCHIVE\_FAILED (-7203)**

アーカイブ操作に失敗したため、作業項目を作成できませんでした。作業項目の作成要求は SAP に送信されませんでした。



### **CS\_RC\_SOCKET\_PROBLEM (-10000)**

Content Collector for SAP でのソケット通信に問題が発生しました。詳細は、Content Collector for SAP トレース・ファイルを参照してください。

### **CS\_RC\_NO\_HANDLER (-10001)**

Content Collector for SAP プロセスは要求を受け取りましたが、その要求のメッセージ・ハンドラーがインストールされていませんでした。

### **CS\_RC\_INTERNAL\_ERROR (-10002)**

Content Collector for SAP またはソケット通信で内部エラーが発生しました。詳細は、Content Collector for SAP トレース・ファイルを参照してください。

### **CS\_RC\_WRONG\_TYPE (-10003)**

ソケット経由でメッセージで受信する際に、パーサーが誤ったデータ・タイプを検出します。

---

## **ログ・ファイルとトレース**

Content Collector for SAP の各コンポーネントは、問題分析および復旧について、個別のログ・ファイルおよびトレース・ファイルを作成します。

### **Collector Server によって作成されるログ・ファイルとトレース**

Collector Server は、実行時にいくつかのログ・ファイルとトレースを作成します。これらのファイルには、エージェントなど、Collector Server のすべてのコンポーネントの情報が含まれます。

#### **ログ・ファイル**

ログ・ファイルにより、最新の操作またはイベントに関する詳細な情報が得られます。

Collector Server は、以下のログ・ファイルを作成します。

- すべてのエラーを記録するエラー・ログ・ファイル。このエラー・ログ・ファイルの各エントリは、失敗した操作の最初のエラーを表します。デフォルト名は `csserror.log` です。名前を変更するには、`ERRORLOG_FILE` キーワードに他の値を指定します。
- サーバー・ログ・ファイル `aiyyyyymmdd.log`。yyyyymmdd は、ファイルが書き込まれた日付を表します。例えば、ログ・ファイル `ai20101117.log` は、2010 年 11 月 17 日に作成されました。

サーバー・ログ・ファイルは、各操作が個別の行に記載された表です。各行にはエラー・コードが含まれます。列の最初のブロックはすべての操作で同じですが、2 番目のブロックは操作によって変わります。列の最初のブロックの構造は、394 ページの表 9 および 394 ページの表 10 例で示すようになります。

表 9. サーバー・ログ・ファイル内の列の共通ブロック

1 タイム・ スタンプ	2 戻りコード	3 ジョブ番号	4 操作	5 アーカイブ ID
18:47:32	-50	17	Archive	A1
14:02:21	0	16	Append	A1
...	...	...	...	...
09:42:04	0	1	Att Search	A1
09:42:05	0	8	Retrieve	A1

表 10. サーバー・ログ・ファイル内の列の共通ブロック (続き)

6 CS サーバー exec. 時間	7 エージェント exec. 時間	8 エージェント PID	9 IP アドレス
0.456	0.123	660031	6.132.8.58
0.217	0.035	45388	6.132.8.58
...	...	...	6.132.8.58
0.158	0.020	13564	6.132.8.58
0.149	0.018	12406	6.132.8.58

以下に、それぞれの列のデータを簡単に説明します。

#### タイム・スタンプ

Collector Server がジョブを完了した時間。

#### 戻りコード

処理したジョブごとに Collector Server が戻した妥当性検査コード。戻りコード 0 は、正常な操作を示します。その他のコードはエラーを示します。

#### ジョブ番号

処理されたジョブに割り当てられた番号。

**操作** 操作、またはそれを完了するためのプロセスのステージ。

値	説明
ARCHIVE	アーカイブ
APPEND	追加 (アーカイブした文書へのコンテンツの追加)
UPDATE_COMP	コンポーネントの更新
UPDATE_DOC	文書の更新
FULL_RETRIEVE	文書全体をリトリートする
COMP_RETRIEVE	指定した文書コンポーネントをリトリートする
PART_RETRIEVE	部分リトリート。文書の先頭または最後から、指定した KB 数だけがリトリートされる。
DELETE	削除する
STATUS	状況情報を入手する
FREE_SEARCH	アーカイブした文書のコンテンツ全体をサーチする

値	説明
ATTR_SEARCH	アーカイブ属性をサーチする
CHANGE_IC	アーカイブした文書を、ある索引クラスから別の索引クラスに移動する
SEND_BC	バーコードを SAP に送る
CREATE_SAP_WORKITEM	SAP ワークフローで作業項目を作成する
MKCOL	コレクションを作成する (BC-ILM)
PUT	リソースをアーカイブする (BC-ILM)
GET	リソースをリトリートする (BC-ILM)
HEAD	リソースまたはコレクション・ヘッダー・データをリトリートする (BC-ILM)
PROPFIND	リソースまたはコレクション・プロパティをリトリートする (BC-ILM)
PROPPATCH	リソースまたはコレクション・プロパティを変更する (BC-ILM)
WEBDAV_DELETE	リソースまたはコレクションを削除する (BC-ILM)

#### アーカイブ ID

操作で指定されたアーカイブの論理アーカイブ ID (サーバー構成プロファイルに指定したもの)。

#### CS サーバー exec. 時間

Collector Server がジョブを処理するために必要な時間 (秒)。

#### エージェント exec. 時間

エージェントがジョブを処理するために必要な時間 (秒)。

#### エージェント PID

エージェントが処理するジョブに割り当てる識別番号 (プロセス ID) (10 進)。

#### IP アドレス

ジョブを作成する Content Collector for SAP クライアント の IP アドレス。

列の 2 番目のブロックについての情報は、選択した操作によって変わります。以下の表を参照してください。各表には、Windows 用のサンプル値が含まれます。

#### 操作タイプ ARCHIVE 用の列

10 DocID	11 12 CRI	13 コンテンツ・タイプ	14 完全ソース・ファイル名	15 コンテンツの長さ
2000021421141232# 405A.0908		application/ msword	D:\%cstore%test%notice.doc	102717.0
...		...	...	
1000911493141728# 405A.0908		text/plain	D:\%cstore%test%notice.txt	4367.0

### 操作タイプ APPEND 用の列

10 DocID	11 12 CRI	13 コンポーネント ID	14 コンテン ツ・タイ プ	15 完全ソース・ファイル名	16 コンテンツの 長さ
2000021421141232# 405A.0908		note	FAX	D:¥cstore¥test¥notice.doc	
...			...	...	
1000911493141728# 405A.0908		note	TXT	D:¥cstore¥test¥invoice.txt	

### 操作タイプ UPDATE\_COMP 用の列

10 DocID	11 12 CRI	13 コンポーネント ID	14 コンテン ツ・タイ プ	15 完全ソース・ファイル名	16 コンテン ツの長さ
2000021421141232# 405A.0908		note	FAX	D:¥cstore¥test¥notice.doc	
...			...	...	
1000911493141728# 405A.0908		note	TXT	D:¥cstore¥test¥notice.txt	

### 操作タイプ UPDATE\_DOC 用の列

10 DocID	11 12 CRI	13 コンポーネント ID	14 コンテン ツ・タイ プ	15 完全ソース・ファイル名	16 コンテン ツの長さ
2000021421141232# 405A.0908		data1	FAX	D:¥cstore¥test¥notice.doc	
...			...	...	
1000911493141728# 405A.0908		data1	TXT	D:¥cstore¥test¥notice.txt	

更新要求が適用される各コンポーネント用に 1 つのエントリーがあります。

### 操作タイプ INDEX\_TRANSFER 用の列

10 完全ソース・ファイル名	11 成否
D:¥transfer¥test¥BKPF:20020228114509000	100 successful, 5 failed
...	...
D:¥transfer¥test¥BKPF:200202#0336501000	83 successful, 4 failed

### 操作タイプ FULL\_RETRIEVE 用の列

10	11	12	13	14
DocID	ComponentID	CRI	完全ターゲット・ ファイル名	コンテンツの長さ
2000021421141232#405A.0908	data		D:¥cstore¥ test¥notice.txt	102717.0
...	...		...	...
1000911493141728#405A.0908	data		D:¥cstore¥ test¥notice.txt	4367.0

### 操作タイプ COMP\_RETRIEVE 用の列

10	11	12	13	14
DocID	ComponentID	CRI	完全ターゲット・ ファイル名	コンテンツの長さ
2000021421141232#405A.0908	data		D:¥cstore¥ test¥notice.doc	102717.0
...	...		...	...
1000911493141728#405A.0908	data		D:¥cstore¥ test¥notice.txt	4367.0

### 操作タイプ PART\_RETRIEVE 用の列

10	11	12	13	14
DocID	ComponentID	CRI	オフセット	長さ
2000021421141232#405A.0908	data		21373.0	208.0
...	...		...	...
1000911493141728#405A.0908	data		14577.0	217.0

操作が正常に終了した場合、長さ列は、検索された項目の実際の長さを表します。  
そうでない場合は、長さ列は、要求の長さを表します。

### 操作タイプ DELETE 用の列

10	11	12
DocID	ComponentID	CRI
2000021421141232#405A.0908	data	
...	...	
1000911493141728#405A.0908	data	

### 操作タイプ STATUS 用の列

10	11	12
DocID	ComponentID	CRI
2000021421141232#405A.0908		

10	11	12
DocID	ComponentID	CRI
...		
1000911493141728#405A.0908		

### 操作タイプ FREE\_SEARCH 用の列

10	11	12	13	14	15	16
DocID	検索される パターン	差し出し 元オフセ ット	差し出し 先オフセ ット	結果数	最初のヒ ットのオ フセット	最初のヒ ットの長 さ
2000021421141232#405A.0908	abc	17473.0	32000.0	8	21373.0	3
...	...	...	...	...	...	...
1000911493141728#405A.0908	qrs	17473.0	32000.0	5	21373.0	3

操作が正常に終了した場合、「結果数 (Number of results)」列には、実際のヒット数が入ります。操作が正常に終了しなかった場合、このフィールドには、要求されたヒット数が入ります。列「最初のヒットのオフセット (Offset of first hit)」および「最初のヒットの長さ (Length of first hit)」には、操作が正常に終了した場合のみ、値が入ります。

### 操作タイプ ATTR\_SEARCH 用の列

10	11	12	13	14	15	16
DocID	検索される パターン	差し出し 元オフセ ット	差し出し 先オフセ ット	結果数	最初のヒ ットのオ フセット	最初のヒ ットの長 さ
2000021421141232#405A.0908	0+10 +abc# 20+30 +xyz#	17473.0	32000.0	8	21373.0	3
...	...	...	...	...	...	...
1000911493141728#405A.0908	0+15 +def# 15+16 +qrs#	17473.0	32000.0	5	21373.0	3

列「検索されるパターン (Pattern to be searched)」の値は、以下のような構造になっています。

```
<offset>+<length>+<value>#
<offset>+<length>+<value>#
<offset>+<length>+<value>#...
```

操作が正常に終了した場合、「結果数 (Number of results)」列には、実際のヒット数が入ります。操作が正常に終了しなかった場合、このフィールドには、要求されたヒット数が入ります。列「最初のヒットのオフセット (Offset of first hit)」および「最初のヒットの長さ (Length of first hit)」には、操作が正常に終了した場合のみ、値が入ります。

## 操作タイプ SEND\_BC 用の列

10	11
<b>DocID</b>	バーコード
2000021421141232#405A.0908	barcode73211
...	...
1000911493141728#405A.0908	barcode45801

archpro プログラムは、このタイプの要求を直接処理します。エージェントは関係しません。そのため、エージェント実行時間とエージェント処理 ID (PID) はゼロになります。

## 操作タイプ UPDATE 用の列

10	11	12	13	14
<b>DocID</b>	アクション	ターゲット・ワーク・バ スケット	開始フォル ダー	終了フォル ダー
2000021421141232#405A.0908	attributes +workbasket +folder	WORKFLOW_WB	Folder1	Folder2
...	...	...	...	...
1000911493141728#405A.0908	attributes +workbasket +folder	STACK_1	新規	旧

アクション列の値はストリングに変換され、サーバー・ログ・ファイルに書き込まれます。ターゲット・ワーク・バスケット、開始フォルダー、および終了フォルダーの列は、要求メッセージで値を指定しない場合は空のまま残されます。

## 操作タイプ ATTR\_SPEC 用の列

この操作タイプには、追加の列はありません。

## 操作タイプ CREATE\_SAP\_WORKITEM 用の列

10	11	12	13	14
<b>DocID</b>	コンテンツ・ リポジトリ	<b>DocType</b>	<b>SapArObject</b>	バーコード
2000021421141232#405A.0908	A1	ALF	FIINVOICE	barcode0815
...	...	...	...	...
1000911493141728#405A.0908	A1	FAX	FAXMSG	barcode1428

### 操作タイプ MKCOL 用の列

10	11	12
リソース名	完全ソース・ファイル名	コンテンツの長さ
/Coll1/Test1/		0.0
...		
/Coll1/Test2/		0.0

### 操作タイプ PUT 用の列

10	11	12
リソース名	完全ソース・ファイル名	コンテンツの長さ
/Coll1/Test1/res1	C:¥temp¥invoice.doc	245223.0
...		
/Coll1/Test2/res1	C:¥temp¥invoice2.doc	5634535.0

### 操作タイプ GET 用の列

10	11	12	13	14
リソース名	完全ターゲット・ ファイル名	オフセット	長さ	全長
/Coll1/Test1/res1	C:¥temp¥invoice.doc	0.0	245223.0	245223.0
...				
/Coll1/Test2/res1	C:¥temp¥invoice2.doc	0.0	5634535.0	5634535.0

操作が正常に完了した場合には、リトリートされたコンテンツの長さが長さ列に表示されます。失敗した場合は、要求されたコンテンツの長さがこの列に表示されません。

### 操作タイプ HEAD 用の列

10	11	12	13	14
リソース名	完全ターゲット・ ファイル名	オフセット	長さ	全長
/Coll1/Test1/	C:¥temp¥temp1.tmp	0.0	0.0	0.0
...				
/Coll1/Test2/	C:¥temp¥temp2.tmp	0.0	0.0	0.0

### 操作タイプ PROPFIND 用の列

10	11	12	...
リソース名	プロパティ名 1	プロパティ名 2	
/Coll1/Test1/res1	creation_date	2015-01-01	...



10	11	12	...
リソース名	プロパティ名 1	プロパティ名 2	
...			
/Coll1/Test2/res1	creation_dater	2015-01-02	...

すべての要求されたプロパティの名前は追加の列に含まれています。すべてのプロパティがリトリブされた場合、リソース名のみが表示されます。

注: PROPFIND オペレーションは非常に大きな応答リストを返してくる可能性があります。詳しい応答内容はログされていません。

### 操作タイプ PROPPATCH 用の列

10	11	12	13	14	...
リソース名	プロパティ 1	プロパティ 1 値	プロパティ 2	プロパティ 2 値	
/Coll1/Test1/res1	creation_date	2005-01-01	important	true	...
...					
/Coll1/Test2/res1	creation_dater	2005-02-02	important	false	...

すべての変更されたプロパティの名前および値は追加の列に含まれています。

### 操作タイプ WEBDAV\_DELETE 用の列

10
リソース名
/Coll1/Test1/res1
...
/Coll1/Test2/res1

注: WEBDAV\_DELETE オペレーションは非常に大規模の応答リストを返してくる可能性があります。詳しい応答内容はログされていません。

### トレース

Collector Server では、いくつかのトレース・ファイルを作成できます。サーバー構成プロファイルでトレースを構成します。

以下のトレース・ファイルが使用可能です。

- Collector Server の始動および停止に関するエラー情報が含まれるトレース・ファイル。このファイルの絶対パスは、キーワード `STARTUP_TRACEFILE` で決まります。デフォルトのファイル名は、`startup.trace` です。
- Collector Server の始動および停止に関する情報、ファイル名、およびエラーなどを含む、完全な Collector Server トレース情報が含まれるトレース・ファイル。このファイルの絶対パスは、キーワード `TRACEFILE` で決まります。デフォルトのファイル名は、`archint.trace` です。

このファイルは、サーバー構成プロファイルで TRACE キーワードが ON に設定されると作成されます。また、archadmin プログラムのパラメーター `-trace_on` を指定することによって、動的にアクティブ化することもできます。

- コンソールに書き込まれる情報が含まれるトレース・ファイル。このファイルの名前は、キーワード `CONSOLE_TRACE` で決まります。
- Windows の場合: サービスとしての Collector Server の始動および停止に関するエラー情報が含まれるサービス・トレース・ファイル。このファイルの名前は、サービス初期設定ファイル内のキーワード `SERVICE_TRACEFILE` で決まります。

Content Collector for SAP は、サンプルのサービス初期設定ファイル `csservice_sample.ini` を送信します。このファイルを使用する場合は、`csservice.ini` に名前変更して使用します。このファイルを開き、`SERVICE_TRACEFILE` の値を確認してください。この値は、サービス・トレース・ファイルの名前です。

コンソールにトレース情報を書き込まない場合は、サービス構成プロファイルで `CONSOLE_TRACE` キーワードを設定し、コンソール出力を受け入れるファイルの名前を指定します。

#### 動的トレース:

Collector Server を停止または再始動することなく、Collector Server のトレースをオン/オフに切り替えることができます。これは動的トレース と呼ばれます。

トレースを開始または停止するコマンドは archpro プログラムに送信され、archpro のそれぞれのインスタンスによって制御されるすべての子プロセス (ディスパッチャーおよびエージェント) に伝搬されます。

サーバー構成プロファイルの設定により、トレースの処理方法が決められます。

- TRACE OFF に設定した場合、トレースは永続的に使用不可にされ、動的に活動化することはできません。
- TRACE ON に設定した場合、トレースは使用可能になり、オフに切り替えるまでアクティブです。任意の時点で、トレースを再びオン/オフに切り替えることができます。
- TRACE DYNAMIC\_ON に設定した場合、トレースは archpro プログラムの始動中にアクティブになり、archpro プログラムが完全に初期化されると自動的に停止します。任意の時点で、トレースを開始および停止できます。

トレースを開始および停止するには、以下のコマンドを使用します。

```
archadmin -m <computer> -p <port> -trace_on  
archadmin -m <computer> -p <port> -trace_off
```

#### 注:

- TRACE DYNAMIC\_ON に設定する代わりに、TRACE ON に設定して、Collector Server が初期化された後でトレースを停止するコマンドを使用することもできます。
- TRACE DYNAMIC\_ON では、トレースの開始と停止のみを行えます。中間のトレース・レベルはサポートされません。

- TRACE\_DYNAMIC\_ON は実稼働環境での使用を意図しています。通常の操作時にはトレースは非アクティブのままですが、必要に応じてオン/オフに切り替えることができます。

## CM エージェントによって作成されるログ・ファイルとトレース

Content Manager Enterprise Edition をアーカイブとして使用する場合、Content Manager Enterprise Edition エージェントによって追加のログ・ファイルおよびトレースが作成されます。

### cm8errors.log

Collector Server と Content Manager Enterprise Edition との間の通信およびデータ転送に関連した問題の分析に役立ちます。このファイルが書き込まれるディレクトリーは、サーバー構成プロファイルの INSTANCEPATH キーワードで決まります。このファイル内のテキスト・フォーマットは、csserror.log ファイルのそれと似ています。詳しくは、サーバー構成プロファイルの ERRORLOG\_FILE キーワードを参照してください。

### cmtrace.trc

Collector Server と Content Manager Enterprise Edition との間の通信およびデータ転送に関連した問題の解決をさらに支援するトレース情報が入ります。このファイルが書き込まれるディレクトリーは、サーバー構成プロファイルの INSTANCEPATH キーワードで決まります。

## Archiving Client と Viewing Client によって作成されるログ・ファイルおよびトレース

Archiving Client と Viewing Client はどちらもログ・ファイルおよびトレース・ファイルを作成します。

Archiving Client と Viewing Client のセットアップ時に使用可能にするログ・ファイルおよびトレース・ファイルに応じて、以下のファイルが 1 つ以上作成されます。

- 一般ロギング用のログ・ファイル。
- API トレース・ファイルは、クライアントと Collector Server 間の通信に関する情報を記録します。
- クライアント・トレース・ファイルは、クライアントのアクティビティーに関するより詳細な情報を収集します。

クライアントのセットアップ時に、ファイルの名前と場所を指定します。

## P8 Client によって作成されるログ・ファイル

P8 Client は、毎日 1 つずつクライアント・ワークステーション上にログ・ファイルを作成します。

ログ・ファイルは、ブラウザーで「参照」ポートレットまたは「キュー」ポートレットを開いたユーザーのホーム・ディレクトリーに書き込まれます。これらにはファイル名 ICC4SAP\_CLIENTdd\_mm\_yyyy.txt が付けられます。dd\_mm\_yyyy はファイルが作成された日付を表します。ログ・ファイルは常に書き込まれます。

## Utility Client によって作成されるログ・ファイルとトレース

Utility Client は、csyyyyymmdd.log ファイルおよび csyyyyymmdd.trace ファイルを生成します。ここで、yyyyymmdd は、ファイルが作成された日付を表します。

「設定」 ウィンドウの「ロギング/トレース」 ページで、ログ・ファイルとトレース・ファイルの名前とディレクトリー、および実行するトレースを指定します。このウィンドウを開くには、「IBM Content Collector for SAP Applications - Utility Client」 ウィンドウで、「ファイル」 > 「設定」をクリックします。

---

## ソケット・ダンプのアクティブ化

Hypertext Transfer Protocol (HTTP) を介して SAP から受け取るデータを、Collector Server が一時ファイルにダンプするようになります。

各要求は、cs\_HTTP\_received<number>.tmp という名前の個別の検索ファイルに保管されます。

注:

- ソケット・ダンプの作成は、パフォーマンスに影響を与えます。ソケット読み取り操作が正常に実行されるたびに、データがダンプ・ファイルに即時に追加されるため、ダンプ・ファイルのオープンおよびクローズが何度も行われます。
- Content Collector for SAP はダンプ・ファイルをクリーンアップしません。

ソケット・ダンプをアクティブにするには、以下の手順を実行します。

1. サーバー構成プロファイルで、JAVA\_OPTIONS キーワードを次のように設定します。  

```
JAVA_OPTIONS '-Ddump_bytes_received_from_sap=yes'
```
2. トレースを使用可能にします。

---

## ヒント

### すべてのアーカイブが使用可能かどうかの検査をオフに切り替える

デフォルトでは、Collector Server を始動するときに、archpro プログラムはすべての構成済みアーカイブへの接続を検査します。条件によっては、これらの検査をオフに切り替えると便利ことがあります。

アーカイブが使用不可である場合、Collector Server はエラー・メッセージを出して停止します。この即時シャットダウンを使用不可にすることができます。

以下のように、サーバー構成プロファイルの中のキーワードの設定を変更します。

```
CHECK_ARCHIVE_SERVER OFF
```

デフォルト値は ON です。

この場合、警告のみが出されます。アーカイブが使用不可である場合、Collector Server はいずれの文書もアーカイブできません。このため、アーカイブの初期チェ

ックを使用不可にすることに意味があるのは、Collector Server がアーカイブへのアクセスを試行する前に、アーカイブが使用可能になることが確実な場合だけです。

## Content Collector for SAP が作動可能かどうかの確認方法

Collector Server は完全に初期化されないと、外部要求を受け入れません。

「Archpro は完全に初期化されました。キュー処理が使用可能です。」のメッセージが出ると、初期化は完全に終了しています。このメッセージは、コンソール、またはコンソール出力が書き込まれるファイルに書き込まれます。

コンソール出力が含まれるこのファイルは、サーバー構成プロファイルで `CONSOLE_TRACE` キーワードを使用して指定できます。このメッセージが出るのを待ってから、Content Collector for SAP の使用を開始します。

## Collector Server によるすべての使用可能エージェントの使用の回避

短期間に同じタイプの要求が多数発行される場合に、すべての使用可能エージェントが Collector Server によって使用されることのないようにする必要があります。並列で実行可能なアーカイブ要求、検索要求、および削除要求の数について、上限を設定することができます。

手順:

以下の環境変数を 1 つ以上設定します。

- `CS_MAX_ARCHIVE_JOBS=<n1>`
- `CS_MAX_RETRIEVE_JOBS=<n2>`
- `CS_MAX_SEARCH_JOBS=<n3>`
- `CS_MAX_DELETE_JOBS=<n4>`

<n1> から <n4> は、0 より大きい正整数でなければなりません。

例えば、10 個のエージェントが構成されており、`CS_MAX_ARCHIVE_JOBS=4` を指定するとします。その場合、10 個のエージェントすべてがリトリーブ・ジョブを並列に処理できますが、アーカイブ・ジョブを並列に処理できるのは 4 個のみです。



---

## 付録 B. 参照

このセクションではサーバー構成プロファイルのキーワード、ダイナミック・リンク・ライブラリー `csclient.dll`、コマンド行から使用できるコマンド、およびキーボード・ショートカットについて説明します。

---

### サーバー構成プロファイル内のキーワード

キーワードの値を変更したり、キーワードを追加および削除したりして、サーバー構成プロファイルをニーズに合わせて適合させることができます。次の各セクションではそれぞれのキーワードが詳細に説明されており、各キーワードの機能、それを使用するコンテキスト、および指定可能な値が示されています。

サーバー構成プロファイルを変更し、保存した後は、変更を有効にするために Collector Serverを再始動します。

いくつかの Content Collector for SAP コマンドを使用して、サーバー構成プロファイルを使用できます。コマンドではオプション `-i` を使用します。

サーバー構成プロファイルを変更する場合は、以下の情報について注意してください。

- それぞれの行は個別に分析されます。行の長さは 2048 バイト以下にする必要があります。
- キーワードは、行の任意の桁から始めることができます。
- キーワードの前にはいかなる文字も指定しないでください。ただし、スペースを指定することはできます。
- 1 つのキーワードを複数回指定すると、予測不可能な結果になる可能性があります。
- ブランクまたはパスを含む値は、単一引用符で囲むことができますが、必須ではありません。
- プロファイルはキーワード `END` まで、またはファイルの最後に到達するまでスキャンされます。
- コメントを開始するにはハッシュ (`#`) 記号を使用します。Content Collector for SAP はコメントを処理しません。

キーワードに、コンマで区切られた複数の値を指定できる場合を除き、キーワードと同じ行のコメントを指定できます。例えば、次の指定は可能です。

```
DOCTYPE image/tiff # document type for TIFF images
```

次の指定の例は不可です。

```
REPINFOCLASSES test1, test2 # index transfer classes
```

## グローバル・キーワード

グローバル・キーワード とは、サーバー構成プロファイルに一度指定するキーワードです。このキーワードは、Collector Server インスタンス全体に適用されます。キーワードがアーカイブの構成に影響する場合、プロファイルにリストされているすべてのアーカイブに対して、そのキーワードが適用されます。

### 注:

- 必須キーワードの前には、アスタリスク \* が付きます。
- 特定のアーカイブ、タスク、または接続を使用する場合にのみ必須となるキーワードは、括弧に囲まれたアスタリスク (\*) が前に付きます。
- デフォルト値には、説明の中で用いられる場合を除き、下線が引かれます (例 0)。
- 検索しやすいように、このトピックではキーワードはアルファベット順にソートされています。

## ADSMAGENTS *number* | 0

Tivoli Storage Manager でのみ使用。

Collector Server が開始する並列 Tivoli Storage Manager セッション (archagent) の数を指定します。

Tivoli Storage Manager を使用するには、少なくとも 1 つのエージェントを指定する必要があります。データを磁気テープ・ドライブに直接アーカイブする場合や、磁気テープ・ドライブから直接リトリブする場合は、磁気テープ・ドライブの数と同数またはそれより小さい数を指定します。パフォーマンス上の理由から、磁気テープ・ドライブの数と同数のエージェントを使用してください。

### 例:

```
ADSMAGENTS 3
```

## ARCHPATH *path*

Collector Server および SAP がアーカイブされたファイルをリトリブできるディレクトリーの絶対パスを指定します。BASEPATH キーワードの場合と同じパスを使用できます。

このパスは、Collector Server が Remote Function Call (RFC) を使用して SAP と通信する場合、または DISPATCHERS キーワードに 0 より大きい値を指定する場合に使用されます。

デフォルトのディレクトリーは以下のとおりです。

- Linux および UNIX システム上: /tmp
- Windows 上: %tmp

注: このキーワードを指定しない場合、デフォルトのディレクトリーが存在することを確認します。

### 例:



ARCHPATH /sap/trans/base/archint/

**注:**

- SAP でコンテンツ・リポジトリまたは論理アーカイブを作成したときに、「**アーカイブ・パス (Archive Path)**」フィールドに入力したのと同じパスを指定します。ファイル・システムの所有権と権限を検査してください。複数の SAP Application Server が稼働する場合は、ネットワーク・ファイル・システム (NFS) を使用するすべての SAP Application Server でこのパスが共有されなければなりません。
- Administration Development Kit (ADK)、SAP ArchiveLink、および Collector Server はこのパスでデータを共有するため、SAP の ADK が同じパスを使用することを確認します。このパスは ADK で変更できます。または、SAP GUI で SAP ArchiveLink パスを構成するときに変更できます。

**\* ARCHPRO\_PORT port**

Collector Server に接続するために、すべての Content Collector for SAP クライアント およびすべての Content Collector for SAP DLL によって使用される TCP/IP 登録ポートを指定します。ARCHPRO\_PORT は ARCHWIN\_PORT を置き換えます。

このポートは、すべての Windows システムの固定登録ポートであり、archstop プログラムによっても使用されます。

**例:**

ARCHPRO\_PORT 5500

**注:**

- ポート番号は 5000 以上でなければならず、同じコンピューターにインストールされている他のアプリケーションで使用されるポートと競合してはなりません。
- Collector Server の複数のインスタンスが 1 つのコンピューターにインストールされている場合は、ARCHPRO\_PORT キーワードに対して、インスタンスごとに異なる値が必要です。
- 指定するポート番号は ARCHWINS キーワードおよび CLIENT\_ALL\_PORTS\_FIXED キーワードに影響を与えます。例えば、ARCHPRO\_PORT キーワードが 5500 に設定され、ARCHWINS キーワードが 3 に設定され、CLIENT\_ALL\_PORTS\_FIXED が YES に設定されているとします。その場合は、ポート番号 5500 と 5501 は archpro プログラムによって使用され、ポート番号 5502、5503、および 5504 は archwin プログラムの 3 つのインスタンスによって使用されます。

**ARCHWINS number | 0**

Collector Server が csxarchivepst プログラム用に確立する並列セッションの総数を指定します。これは Collector Server とダイナミック・リンク・ライブラリー cscclient.dll の間の並行接続の数です。

**例:**

ARCHWINS 3

**注:**

- csxarchivepst プログラムを使用しないのであれば、0 を指定するかサーバー構成プロファイルからキーワードを削除してください。
- 指定するポート番号は ARCHPRO\_PORT キーワードおよび CLIENT\_ALL\_PORTS\_FIXED キーワードに影響を与えます。例えば、ARCHPRO\_PORT キーワードが 5500 に設定され、ARCHWINS キーワードが 3 に設定され、CLIENT\_ALL\_PORTS\_FIXED が YES に設定されているとします。その場合は、ポート番号 5500 と 5501 は archpro プログラムによって使用され、ポート番号 5502、5503、および 5504 は archwin プログラムの 3 つのインスタンスによって使用されます。

## BASEPATH *path*

SAP アプリケーションで、Content Collector for SAP によってアーカイブされるファイルを格納する交換ディレクトリーの絶対パスを指定します。交換ディレクトリーは、Collector Serverをインストールしたときに作成してあります。

このパスは、Collector Server が Remote Function Call (RFC) を使用して SAP と通信する場合、または DISPATCHERS キーワードに 0 より大きい値を指定する場合に使用されます。

デフォルトのディレクトリーは以下のとおりです。

- Linux および UNIX システム上: /tmp
- Windows 上: %tmp

注: このキーワードを指定しない場合、デフォルトのディレクトリーが存在することを確認します。

例:

```
BASEPATH /sap/trans/base/archint/
```

注:

- SAP でコンテンツ・リポジトリまたは論理アーカイブを作成したときに、「基本パス (Base Path)」フィールドに入力したのと同じパスを指定します。ファイル・システムの所有権と権限を検査してください。複数の SAP Application Server が稼働する場合は、ネットワーク・ファイル・システム (NFS) を使用するすべてのアプリケーション・サーバーでこのパスが共有されなければなりません。
- Administration Development Kit (ADK)、SAP ArchiveLink、および Collector Server はこのパスでデータを共有するため、SAP の ADK が同じパスを使用することを確認します。このパスは ADK で変更できます。または、SAP GUI で SAP ArchiveLink パスを構成するときに変更できます。
- BASEPATH キーワードと ARCHPATH キーワードに同じパスを指定できます。

## \* BINPATH *path*

Collector Server のプログラム・ファイルが含まれるディレクトリーの絶対パスを指定します。

例:

```
BINPATH C:%Program Files%IBM%ICCSAP%Server%bin
```

注: バイナリー・ファイルを名前変更しないでください。これらのファイルは、同一のディレクトリーに置いたままにします。

## **BROWSECACHING ON | OFF**

Web ブラウザーのキャッシュ・メモリーで、Web コンテンツの保管を有効または無効にします。OFF に設定すると、表示用に一時的に検索された文書コンテンツはキャッシュ・メモリーに保管されません。この場合、アーカイブにアクセスしないでローカル・コピーを作成したり、他のユーザーに文書コンテンツを転送したりすることはできません。

例:

```
BROWSECACHING ON
```

## **CHECK\_ARCHIVE\_SERVER ON | OFF**

アーカイブが使用不可の場合に、Collector Server を始動するかどうかを指定します。ON に設定すると、構成されたエージェントのすべてのアーカイブが使用可能で、すべての必須属性が定義されている場合に限り、Collector Server を始動します。OFF に設定すると、アーカイブが使用不可である場合に警告が表示されますが、Collector Server は始動します。

例:

```
CHECK_ARCHIVE_SERVER ON
```

## **CLIENT\_ALL\_PORTS\_FIXED YES | NO**

archwin デイスパッチャーが固定ポート番号を使用して、Content Collector for SAP クライアント に接続するかどうかを指定します。固定ポート番号は、Collector Server と Content Collector for SAP クライアント の間のファイアウォールで必要です。

例:

```
CLIENT_ALL_PORTS_FIXED YES
```

注: 指定するポート番号は ARCHPRO\_PORT キーワードおよび ARCHWINS キーワードに影響を与えます。例えば、ARCHPRO\_PORT キーワードが 5500 に設定され、ARCHWINS キーワードが 3 に設定され、CLIENT\_ALL\_PORTS\_FIXED が YES に設定されているとします。その場合は、ポート番号 5500 と 5501 は archpro プログラムによって使用され、ポート番号 5502、5503、および 5504 は archwin プログラムの 3 つのインスタンスによって使用されます。

## **CMAGENTS *number* | 0**

Content Manager Enterprise Edition でのみ使用。

Collector Server が開始する並列 Content Manager Enterprise Edition セッションの数を指定します。

Content Manager Enterprise Edition を使用するには、少なくとも 1 つのエージェントを指定する必要があります。

例:

CMAGENTS 3

### **CONFIG\_FILE** *file\_name*

Collector Server のすべての変数パラメーター (暗号化パスワード、ユーザー名、および現行バージョン番号など) が保管されるディレクトリーの絶対パスを指定します。

デフォルトのパスは以下のとおりです。

- Linux および UNIX システム上: <InstallHome>/server/bin/archint.cfg
- Windows 上: <InstallHome>%Server%instances%instance01%archint.cfg

例:

```
CONFIG_FILE C:%Program Files%IBM%ICCSAP%Server%instances%instance01%archint.cfg
```

注: 構成ファイルは、CONFIG\_FILE\_FIPSMODE キーワードの設定に応じて暗号化されます。

### **CONFIG\_FILE\_FIPSMODE YES | ON | NO | OFF**

パスワードの暗号化方法を指定します。パスワードは、CONFIG\_FILE キーワードによって指定される構成ファイルに保管されます。

このキーワードが ON または YES に設定されていると、パスワードは、FIPS に準拠した高度暗号化規格 AES-256-CBC によって暗号化されます。このケースでは、CONFIG\_FILE\_KEYFILE キーワードも指定する必要があります。

このキーワードが OFF または NO に設定されていると、パスワードは、CommonStore for SAP によってサポートされたものと同じ単純な IBM 内部暗号化を使用して暗号化されます。

注: キーワードが ON または YES に設定されていると、構成ファイル内にあるパスワードは、高度暗号化基準に従って自動的に暗号化されることはありません。構成ファイル内にある既存のすべてのパスワードを高度基準で暗号化するには、変更を開始するファイルでパスワードを追加または変更する必要があります。

### **(\*) CONFIG\_FILE\_KEYFILE** *file\_name*

CONFIG\_FILE\_FIPSMODE キーワードを指定する場合は必須です。

AES-256-CBC 暗号化の鍵が含まれるファイルの絶対パスを指定します。構成ファイル archint.cfg に保管されているパスワードはすべて、この暗号化規格で暗号化されます。

ここで指定するファイルには、256 ビットの鍵が含まれている必要があります。ファイルのサイズは 32 バイトまたは 64 バイトでなければなりません。ファイルのサイズが 32 バイトである場合、その内容は直接鍵として取られます。ファイルのサイズが 64 バイトである場合、その内容には 16 進形式の鍵が含まれていると見なされます。その場合、ファイルには 16 進文字 (0-9、a-f、および A-F) のみを含めることができます。

## **CONSOLE\_TRACE *file\_name***

コンソール出力が書き込まれるファイルの完全修飾名を指定します。

このキーワードを指定しないと、トレース情報がコンソールに書き込まれます。

## **DISPATCHERS *number* | 0**

Collector Server の並列 RFC ディスパッチャー (archdp) の総数を指定します。

P8 Client を使用する場合は、このキーワードの値を 0 に設定するか、このキーワードを削除するか、コメントにして取り除きます。

0 より大きい値を指定する場合、および Collector Server が Remote Function Call (RFC) を使用して SAP と通信する場合、BASEPATH および ARCHPATH のキーワードを使用して、SAP と Content Collector for SAP の間で交換されるファイルがどこに格納されるかを指定します。

### **例:**

```
DISPATCHERS 3
```

注: 0 より大きい数を指定し、1 つのディスパッチャーがブロックされている場合、SAP ゲートウェイは自動的に次のディスパッチャーを使用します。

## **ECLIENT\_EXCLUDED\_TYPES *mime\_type***

Content Manager Enterprise Edition でのみ使用。

Content Manager eClient で表示不可のアーカイブされた文書の MIME タイプを指定します。

### **例:**

```
ECLIENT_EXCLUDED_TYPE application/x-alf,text/plain
```

この例では、MIME タイプ application/x-alf および text/plain の文書が表示されません。

## **ECLIENT\_INCLUDED\_TYPES *mime\_type* | \***

Content Manager Enterprise Edition でのみ使用。

Content Manager eClient で表示可能なアーカイブされた文書の MIME タイプを指定します。

デフォルト値は \* で、すべての文書が表示可能であることを示します。

### **例:**

```
ECLIENT_INCLUDED_TYPE *
```

注: 複数の MIME タイプを指定する場合は、MIME タイプをコンマで区切ります。

## **ECLIENT\_URL\_PREFIX** *path*

Content Manager Enterprise Edition でのみ使用。

Content Manager eClient がインストールされているサーバーの完全修飾ホスト名を指定します。Content Manager eClient を Content Collector for SAP 環境に統合する場合には、このキーワードを設定します。

**例:**

```
ECLIENT_URL_PREFIX /myserver.com:9080/ecclient/
```

この例では、Content Manager eClient は、サーバー myserver.com の eClient82 ディレクトリーに配置されています。

## **ECLIENT\_USER** *user\_id*

Content Manager Enterprise Edition でのみ使用。

Content Manager eClient へのログオン用の共通認証 ID を指定します。この ID を設定すると、ユーザー ID とパスワードを送信しなくても、Content Manager eClient に、Content Collector for SAP でアーカイブされた文書を表示できます。

**例:**

```
ECLIENT_USER cslogon
```

この例では、ユーザー ID cslogon を使用して Content Manager eClient にアクセスします。

**注:**

- 共通 ID はセキュリティー・リスクを引き起こす可能性があるということに注意してください。
- 指定されたユーザー ID により、Content Collector for SAP に対して使用可能になっているすべての Content Manager eClient にアクセスできます。
- この ID のパスワードを 1 度だけ送信すれば、完全に認証されます。そのために、**archpro** コマンドを使用します。

## **END**

パラメーター定義の終了を指定します。Collector Server は、このキーワードを検出すると、サーバー構成プロファイルでのキーワードの検索を停止します。

## **ERRORLOG\_FILE** *file\_name*

すべてのエラーが記録されるエラー・ログ・ファイルの絶対パスを指定します。エラー・ログ・ファイルはテキスト・ファイルです。特定の操作が繰り返し失敗する場合は、最初の失敗のみがログに記録されます。1 つの項目には以下の情報が含まれます。

1. エラーが発生した日時
2. エラーが発生した製品 (例えば、Content Manager Enterprise Edition または SAP など)。

3. 戻りコード、拡張戻りコード (存在する場合)、および理由コード (存在する場合)。
4. アプリケーション・プログラミング・インターフェースから得られた、または Content Collector for SAP によって生成されたエラーの説明。

エラー・ログ・ファイルのサイズは制限がありません。

デフォルトのパスは以下のとおりです。

- Linux および UNIX システム上: <InstallHome>/server/bin/csserror.log
- Windows 上: <InstallHome>%Server%instances%instance01%csserror.log

例:

```
ERRORLOG_FILE C:%ICCSAP%inst1%log%csserror.log
```

### **INSTANCEPATH *path***

サーバー構成プロファイルなどのインスタンス関連のファイルが配置されているディレクトリーの絶対パスを指定します。使用する Collector Server インスタンスごとにサブディレクトリーを作成し、各インスタンスに対して INSTANCEPATH キーワードを設定します。

デフォルトのパスは BINPATH キーワードの値です。

例:

```
INSTANCEPATH C:%cssapinst%inst1
```

### **\* JARPATH *path***

JAR ファイルを保管するディレクトリーを指定します。HTTP ディスパッチャーがこれらのファイルを使用します。

例:

```
JARPATH /ICCSAP/java
```

### **JAVA\_OPTIONS *options***

Content Manager Enterprise Edition および FileNet P8 で使用。

Java ランタイム環境のオプションを指定します。Content Collector for SAP の Java コンポーネントは、このキーワードに指定するオプションを使用して、Java ランタイム環境を開始します。

FileNet P8 をアーカイブとして使用する場合、このキーワードは Content Engine Client バージョン 4.0 または 4.5.0 をインストールした場合にのみ適用されます。

例 1:

```
JAVA_OPTIONS '-Xmx128m' '-Xrs'
```

'-Xmx128m' は、Java 仮想マシン (JVM) が使用する最大メモリー・サイズを 128 MB に増やします。'-Xrs' は、Java プロセスの無用な停止を防ぎます。

例 2:

```
JAVA_OPTIONS -Ddump_bytes_received_from_sap=yes
```

**例 3:**

```
JAVA_OPTIONS -Dwasp.location=/opt/IBM/CE_API/wsi
```

トレースが有効な場合は、Collector Server は、Hypertext Transfer Protocol (HTTP) を介して SAP から受け取るデータを、一時ファイルにダンプします。

注: 複数のオプションを指定する場合は、スペースで分離して指定します。

### **JAVA\_OPTIONS\_CM *options***

Content Manager Enterprise Edition でのみ使用。

Content Manager Enterprise Edition に関連する Java オプションを指定します。JAVA\_OPTIONS キーワードに指定するオプションが適合しない場合は、このキーワードを使用します。

このキーワードを指定しないと、JAVA\_OPTIONS キーワードのオプションが適用されます。

### **JAVARUNTIME *file\_name***

Java ランタイム実行可能プログラム (java または java.exe など) の絶対パスを指定します。

デフォルトは、Content Collector for SAP で提供される Java ランタイム実行可能プログラムの絶対パスです。

**例:**

```
JAVARUNTIME C:%jdk1.4%bin%java.exe
```

注: このキーワードは、Content Collector for SAP で提供される Java ランタイム環境を指す必要があります。

### **(\*) KEYSTORE\_FILE *file\_name***

Secure Hypertext Transfer Protocol (HTTPS) 通信を使用する場合に必要です。

Collector Server の証明書が含まれる鍵ストアの絶対パスを指定します。HTTPS を使用する場合は証明書が必要です。この鍵ストアは、Java 鍵ストア (JKS) フォーマットでなければなりません。

**例:**

```
KEYSTORE_FILE C:%SSL%keystore.jks
```

### **LOG ON | OFF**

ON に設定すると、Collector Server は、アクティブである日は毎日ログ・ファイルを作成します。ログ・ファイルには、アーカイブ・イベントならびにリトリーブ・イベントのすべてについての情報が入ります。ログ・ファイルの名前のフォーマットは、aiyyyyymmdd.log です。yyyyymmdd は、年、月、日を表します。



## **LOGPATH *path***

Collector Server によって作成されるログ・ファイルを保管するディレクトリーの絶対パスを指定します。

デフォルトのパスは INSTANCEPATH キーワードの値です。

例:

```
LOGPATH C:\Program Files\IBM\ICCSAP\log
```

## **MAILSERVER *host[:port]***

Viewing Client のメール・アプレットにより Web ブラウザーで作成される E メールを受け取る SMTP E メール・サーバーのホストおよびポートを指定します。リモート・ホストについてのみ、ポートを指定する必要があります。

デフォルトでは、E メール・サーバーは定義されません。

例:

```
MAILSERVER mailserv:47110
```

## **ODAGENTS *number* | 0**

Content Manager OnDemand でのみ使用。

Collector Server が開始する並列 Content Manager OnDemand セッション (archagentod) の数を指定します。

Content Manager OnDemand を使用するには、少なくとも 1 つのエージェントを指定する必要があります。

例:

```
ODAGENTS 1
```

## **(\*) P8\_CLASSPATH**

FileNet P8 でのみ必要です。

Content Engine Client のすべての JAR ファイルへの絶対パス、および Process Engine Client の特定の JAR ファイルへの絶対パスを指定します。Content Engine Client の必要とされる JAR ファイルは、Content Engine Client のバージョンに応じて異なります。詳しくは、FileNet P8 とともにインストールされる FileNet P8 の資料を参照してください。

例:

```
P8_CLASSPATH /opt/IBM/FileNet/CEClient/lib/Jace.jar;  
             /opt/IBM/FileNet/CEClient/lib/log4j.jar;...  
             .../opt/FileNet/AE/Workplace/WEB-INF/lib/pe.jar;  
             /opt/FileNet/AE/Workplace/WEB-INF/lib/peResources.jar
```

注: パスは、読みやすいように数行に分けて表示されます。サーバー構成プロファイルでパスを指定するときは、1 行で指定します。

## **P8AGENTS *number* | 0**

FileNet P8 でのみ使用。

Collector Server が開始する並列 FileNet P8 セッションの数を指定します。

FileNet P8 を使用するには、少なくとも 1 つのエージェントを指定する必要があります。

例:

```
P8AGENTS 3
```

## **QUEUEPATH *path***

キューが保管されるディレクトリーの絶対パスを指定します。キューは、アーカイブ・ジョブまたは検索ジョブを表す一時ファイルです。

このキーワードを使用して、デフォルトのキュー・パスを変更します。デフォルトのキュー・パスは `<instance_path>%queue` で、`<instance_path>` は INSTANCEPATH キーワードの値を表します。

例:

```
QUEUEPATH D:%queue
```

注: キューが保管されるディレクトリーは、`queue` という名前であればなりません。

## **REPORT ON | OFF**

通常はコンソールである `stdout` への追加情報の書き込みを Collector Server によってできるようにしたりできないようにしたりします。この情報は、例えば、Collector Server をセットアップするときや、エラーを追跡するときなど、トレースを目的としている場合に役立ちます。

## **SERVICE\_TRACEFILE *file\_name***

Content Manager Enterprise Edition および FileNet P8 で使用。

Collector Server をサービスとして開始および停止する際のエラー情報を含む、追加トレース・ファイルの絶対パスを指定します。このトレース・ファイルは、サービスとしての Collector Server に関する問題を分析する場合のみ有効です。

デフォルトでは、トレース・ファイルは書き込まれません。

## **SSL\_CLIENTAUTH ON | OFF**

Secure Hypertext Transfer Protocol (HTTPS) 接続のクライアント認証を有効または無効にします。ON に設定すると、Collector Server に接続できるのは許可クライアントのみになります。

例:

```
SSL_CLIENTAUTH ON
```

## **SSL\_WEBPORT *port* | 0**

Secure Hypertext Transfer Protocol (HTTPS) 接続に使用するポートを指定します。

デフォルト値は 0 です。これは、HTTPS がサポートされていないことを示します。

例:

```
SSL_WEBPORT 5590
```

## **STARTUP\_TRACEFILE *file\_name***

始動トレース・ファイルの絶対パスを指定します。これを指定すると、Content Collector for SAP のすべての実行可能プログラムが、Collector Server の初期始動時に発行されるメッセージをこのファイルに記録します。このファイルは、サーバー実行可能プログラム間で初期通信問題が発生した場合に役立ちます。

デフォルトでは、始動トレース・ファイルは書き込まれません。

例:

```
STARTUP_TRACEFILE C:%ICCSAP%startup.trace
```

注: 始動トレース・ファイルは、Collector Server の始動のたびに再書き込みされません。

## **TEMPPATH *path***

Collector Server が処理に必要な一時ファイルを格納するディレクトリーの絶対パスを指定します。

このキーワードを指定しないと、Content Collector for SAP は環境変数 TMPDIR を検査します。この変数も設定されていない場合、一時ファイルは、既に存在している必要がある一時ディレクトリーに書き込まれます。Linux およびUNIX では、デフォルトの一時ディレクトリーは /tmp です。Windows では、デフォルトの一時ディレクトリーは c:%temp です。

例:

```
TEMPPATH C:%iccsap%temp
```

## **TRACE DYNAMIC\_ON | OFF | ON | DYNAMIC\_ON RFC\_OFF | ON RFC\_OFF**

トレースの処理方法を指定します。

### **DYNAMIC\_ON**

トレースは Collector Server の始動中はアクティブになり、Collector Server が完全に初期化された後、自動的に停止します。任意の時点で、トレースを開始および停止できます。

### **オフ**

トレースは永続的に使用不可にされ、動的に活動化することはできません。

**ON** トレースは使用可能になり、オフに切り替えるまでアクティブです。任意の時点で、トレースを再びオン/オフに切り替えることができます。

Collector Server はトレース情報をトレース・ファイル `archint.trace` に書き込みます。さらに、トレース・ファイル `dev_rfc` が作成されます。これは完全な RFC トレース情報が含まれる SAP トレースです。RFC トレース・ファイルのパスを指定するには、選択したディレクトリーを環境変数 `RFC_TRACE_DIR` に設定します。

#### **DYNAMIC\_ON RFC\_OFF**

##### **ON RFC\_OFF**

`dev_rfc` トレース・ファイルの作成を抑制するには、`RFC_OFF` オプションを `DYNAMIC_ON` オプションまたは `ON` オプションに追加します。

##### **例:**

```
TRACE OFF
```

##### **注:**

- Collector Server の実行中はトレース・ファイルを削除しないでください。トレース・ファイルを削除する前に必ず、**archstop** コマンドを使って Collector Server を停止してください。
- RFC トレース・ファイルと `archint.trace` トレース・ファイルは、短時間で大きくなる可能性があることに注意してください。

#### **TRACEFILE *file\_name***

完全な Collector Server トレース情報が含まれるトレース・ファイルの絶対パスを指定します。トレースがアクティブの場合、トレース情報はこのファイルに格納されます。

デフォルト・パスは `<instance_path>%archint.trace` です。`<instance_path>` は `INSTANCEPATH` キーワードの値です。

##### **例:**

```
TRACEFILE C:%ICCSAP%Server%inst1%traces%icc_trace.trc
```

**注:** Collector Server の実行中はトレース・ファイルを削除しないでください。トレース・ファイルを削除する前に必ず、**archstop** コマンドを使って Collector Server を停止してください。

#### **TRACEMAX *number* | 1024**

Collector Server トレース・ファイルの最大サイズを KB (K バイト) 単位で指定します。

##### **例:**

```
TRACEMAX 500
```

#### **(\*) TRUSTSTORE\_FILE *file\_name***

Secure Hypertext Transfer Protocol (HTTPS) 通信をクライアント認証と共に使用する場合に必要です。

Collector Server で使用するトラストストアの絶対パスを指定します。Collector Server はトラストストアの証明書と接続クライアントの証明書を比較します。

例:

```
TRUSTSTORE_FILE C:%SSL%truststore.jks
```

## **URL\_ENCODING *schema\_id* | ISO-8859-1**

Hypertext Transfer Protocol (HTTP) ディスパッチャーが URL に使用するエンコード・スキーマを指定します。

例:

```
URL_ENCODING 'UTF-8'
```

注: デフォルト値は、SAP によって提供されます。デフォルトは、SAP ECC6 以降では、UTF-8 に設定される可能性があります。URL\_ENCODING キーワードをデフォルト値で指定する場合は、デフォルト値が SAP のデフォルトと一致することを確認します。

## **WEBDPS *number* | 0**

並列 HTTP ディスパッチャー・セッションの数を指定します。

デフォルト値は 0、つまり、HTTP 通信は使用できません。

例:

```
WEBDPS 5
```

## **WEBPORT *port* | 8085**

HTTP ディスパッチャーが要求を受け取る TCP/IP ポートを指定します。この TCP/IP ポートは、BC-ILM インターフェースでも使用されます。このポート番号は、SAP のコンテンツ・リポジトリに指定されたポート番号と一致しなければなりません。BC-ILM インターフェースを使用する場合、SAP インターネット・トランザクション・サーバー (ITS) の Web アクセス・サービス・ファイルの ~archive セクションでこのポート番号を指定する必要があります。

例:

```
WEBPORT 5501
```

注: Collector Server がインストールされているコンピューター上で Web サーバーが稼働していない場合は、デフォルト・ポートを使用できます。

## **WEBROOT *path***

HTTP ディスパッチャーが Web 操作 (Web ブラウザーでの表示など) を行うためにファイル検索を行うディレクトリーを指定します。

デフォルトのパスは INSTANCEPATH キーワードの値です。

例:

```
WEBROOT /home/csadm1/webroot
```

## DESTINATION セクション

Collector Server が SAP と通信できるようにするには、サーバー構成プロファイルに特定のキーワードがある DESTINATION セクションが必要です。このセクションは、サーバー構成プロファイルに 1 回だけ出現させることができます。

どのキーワードが必須かについての概要については、189 ページの『Collector Serverが SAP に接続できるようにする』を参照してください。

注:

- デフォルト値には、説明の中で用いられる場合を除き、下線が引かれます (例 Q)。
- 検索しやすいように、DESTINATION キーワードの後に続くキーワードはアルファベット順にソートされています。

### DESTINATION *name*

Collector Serverが SAP に接続するために必要なすべての設定をグループ化します。自分で選択した宛先名を指定できます。

#### DESTINATION セクションの例:

```
DESTINATION      KD7
  PROgid          KD7.ICCSAP
  GwHOST          /H/sapserver
  GwSERV          sapgw00
  LU              sapsrver
  TP              sapdp00
  LOGICAL_SYSTEM T90CLNT090
  CLIENT          800
  USER           CPICUser1
  LOGICAL_SYSTEM T90CLNT091
  CLIENT          801
  USER           CPICUser2
```

### CLIENT *ddd*

SAP クライアントの 3 桁の数値を指定します。トランザクション・コード SCC4 を SAP GUI に入力すると、クライアントの概要を取得できます。

Collector Serverと SAP との間の接続を構成したときに、どの SAP クライアントがどの論理システムにリンクされるかを指定しています。

例:

```
CLIENT 800
```

### GROUP *group\_name*

SAP Application Server のグループの名前を指定します。

例:

```
GROUP myGroup
```

## **GWHOST** *hostname* | localhost

SAP ゲートウェイのホスト名または IP アドレスを指定します。

例:

```
GWHOST /H/sapserver
```

## **GWSERV** *service* | sapgw00

SAP ゲートウェイのサービス名またはポート番号を指定します。

例:

```
GWSERV sapgw00
```

## **LANGUAGE** *lang\_id*

RFC 接続でのみ使用。

Collector Serverと SAP 間の内部通信用の言語を指定します。*lang\_id* は、2 文字の言語識別子を表します (米国英語の場合は EN など)。

例:

```
LANGUAGE EN
```

## **LOGICAL\_SYSTEM** *name*

SAP クライアントに接続されている論理システムの名前を指定します。この論理システムは、Collector Serverと SAP 間の接続を構成したときに指定したものです。

複数の LOGICAL\_SYSTEM セクションを指定できます。このような方法で、1 つの Collector Server・インスタンスを複数の SAP クライアントに接続できます。

例:

```
LOGICAL_SYSTEM T90CLNT090
```

注: このキーワードは DESTINATION セクションおよび ARCHIVE セクションで使用されます。要求について、アーカイブ ID のみがわかっている場合、Content Collector for SAP は ARCHIVE セクションの LOGICAL\_SYSTEM キーワードを使用して、SAP システムへの接続パラメーターを検索します。このシステムは、DESTINATION セクションの LOGICAL\_SYSTEM キーワードによって指定されたものです。

## **LU** *hostname* | localhost

SAP Application Server のホスト名または IP アドレスを指定します。

例:

```
LU sapserver
```

注: /H で始まる完全な SAP ルーター・ストリングを必ず指定してください。TCP/IP ファイアウォールがある場合、このルーター・ストリングは次のようになります。

/H/tdben2/H/siccfw1.isicc.ibm.com/H/sapgate1/;;;S/3297/H/hs8100

### **MSHOST** *hostname*

SAP Message Server のホスト名を指定します。

例:

MSHOST sapmsKD7

### **PROGID** *program\_id*

ディスパッチャーが SAP ゲートウェイ・サーバーに登録される時のプログラム ID を指定します。この名前は RFC 宛先の名前と同じでなければなりません。

注: RFC 宛先が SAP Document Finder によって使用される場合、SAP で指定したプログラム ID には番号 1 が付加されます。この番号を PROGID キーワードの一部として指定しないでください。例えば、SAP で DOCF.GIN.0D1 と指定した場合は、PROGID キーワードに DOCF.GIN.0D と指定します。

例:

PROGID KD7.ICCSAP

### **R3NAME** *sap\_system*

以下の ID のいずれかを指定します。

- SAP Application Server のグループが含まれている SAP システムの ID。
- SAP に文書をリンクする際に Collector Serverが接続する SAP システムの ID。

例:

R3NAME KD7

### **TIMEOUT** *seconds* | **86400**

RFC ディスパッチャーまたは Java RFC ディスパッチャーが SAP への接続を閉じてから再オープンするまでにアイドルである必要がある期間を秒単位で指定します。

例:

TIMEOUT 300

### **TP** *service*

SAP Application Server のメッセージ・ディスパッチャーのサービス名またはポート番号を指定します。デフォルトのサービス名は sapdp00 です。最後の 2 桁の数字は、SAP システム ID を表します。

例:

TP sapdp00



## USER *user\_name*

CPIC アクセス権限を持つユーザーの名前を指定します。このユーザーは、Collector Serverと SAP 間の接続を構成したときに作成しています。このユーザーのパスワードは、archint.cfg 構成ファイルに保管されています。

例:

```
USER CPICUser1
```

## アーカイブ固有のキーワード

アーカイブ固有のキーワード は特定のアーカイブにのみ適用されます。これらのキーワードをサーバー構成プロファイルの ARCHIVE セクションでグループ化します。それぞれのアーカイブに対して、ARCHIVE セクションを指定する必要があります。キーワードが複数のアーカイブに適用される場合は、該当する各 ARCHIVE セクションでこれを指定する必要があります。

注:

- 必須キーワードの前には、アスタリスク \* が付きます。
- 特定のタスクまたは接続を使用する場合にのみ必須となるキーワードの前には、括弧に囲まれたアスタリスク (\*) が付きます。
- デフォルト値には、説明の中で用いられる場合を除き、下線が引かれます (例 0)。

## Content Manager バージョン 8 のアーカイブ固有のキーワード

ARCHIVE セクションの最初のキーワードは常に ARCHIVE で、2 番目のキーワードは常に STORAGETYPE です。以下のトピックでは、これらのキーワードを除くすべてのキーワードが、見つけやすいようにアルファベット順で並んでいます。

### \* ARCHIVE *archive\_id*

論理アーカイブ ID (例えば A1) を指定します。アーカイブ ID はサーバー構成プロファイル内で固有でなければなりません。Content Collector for SAP はこれを使用してアーカイブを識別します。

ARCHIVE キーワードの直後に STORAGETYPE キーワードを指定する必要があります。その他のすべてのアーカイブ固有のキーワードは、順不同で指定できます。

例:

```
ARCHIVE A1
      STORAGETYPE CM
```

注:

- セットアップの完了後に設定を変更しないでください。リトリブ操作は設定に依存します。
- ARCHIVE DEFAULT の指定は現在無効です。アーカイブにアクセスできない場合は、このキーワードがまだサーバー構成プロファイルにあるかどうかを確認してください。

## \* **STORAGETYPE CM**

論理アーカイブが Content Manager Enterprise Edition に接続されることを指定します。Content Collector for SAP は、適切なエージェントを選択するのにこの情報が必要とします。定義する論理アーカイブごとにストレージ・タイプを指定する必要があります。

例:

```
STORAGETYPE CM
```

注: このキーワードは、ARCHIVE キーワードの直後に指定します。

## **ADDVIEWFILTERATTR ON | OFF**

特定の文書のみが項目タイプのサブセットに保管されるようにするには、文書属性をフィルターに掛けます。アーカイブされる文書に属性が存在していない場合、および属性が属性マッピング・ファイルに含まれていない場合は、Content Collector for SAP がこれを自動的に追加します。その場合、Content Collector for SAP は、フィルター定義に従って値を割り当てます。したがって、このキーワードは ON に設定します。

例:

```
ARCHIVE A1
  STORAGETYPE      CM
  LIBSERVER        ICMNLSDB
  CMUSER           CMUSER
  ITEM_TYPE        ItemTypeSubset
  ADDVIEWFILTERATTR ON
```

## **ARCHIVETYPE GENERIC\_MULTIPART | SAP**

アーカイブのタイプを指定します。

### **GENERIC\_MULTIPART**

SAP が必要とするすべての属性を持っていないために SAP によってアクセスできない文書でさえも含め、すべての文書をアーカイブが格納できるように指定します。このようなアーカイブについては、Collector Serverは特定の属性が存在するかどうかを検証しません。

この値を指定する場合、アーカイブは保護されず、文書へのアクセスは検査されません。431 ページの『SECKEY\_CHECK prot\_flags | OFF』を参照してください。

SAP Document Finder を使用する場合は、この値を指定する必要があります。

### **SAP**

SAP が必要とするすべての属性を持つ文書のみをアーカイブが保管できることを指定します。Collector Serverは、属性が存在していることを検証します。

## **ATTRMAPPING\_FILE *path***

属性マッピング・ファイルの絶対パスを指定します。このファイルで、属性またはプロパティの名前を Content Collector for SAP によって要求される名前にマップします。例えば、Content Collector for SAP が要求する名前が既にご使用の環境にある場合、または違う名前を使用したい場合などに、マッピングが必要です。

例:

```
ATTRMAPPING_FILE C:¥ICCSAP¥Server¥instance01¥cmmapping.txt
```

**\* CMUSER *user\_id***

Collector Serverが Content Manager Enterprise Edition へのログオンに使用するユーザー ID を指定します。このユーザー ID は、Content Manager Enterprise Edition の構成時に、Content Collector for SAP で使用するために作成したものです。

例:

```
CMUSER sampleuser1
```

**COMMENT**

アーカイブ ID 用のコメントを指定します。コメントは、HTTP コマンド・サーバーにより表示されます。

例:

```
COMMENT Archive is used for testing purposes only.
```

**ECLIENT\_PROTOCOL HTTP | HTTPS**

アーカイブされた文書を Content Manager eClient に表示する際に使用する伝送プロトコルを決定します。

例:

```
ECLIENT_PROTOCOL HTTPS
```

注: HTTPS は、Web ブラウザー (eClient) と eClient サーバーとの間の通信に使用します。

**ECLIENT\_VIEWING YES | NO**

Content Manager eClient を使用した、アーカイブした文書の表示を有効または無効にします。

例:

```
ECLIENT_PROTOCOL YES
```

**\* INDEXCHILDNAME *child\_component***

複数の SAP ビジネス・オブジェクトのメタデータを保管するのに使用される子コンポーネントの名前 (多重値属性) を指定します。子コンポーネントは、複数の SAP ビジネス・オブジェクトの索引情報が単一文書に関連している場合に必要です。

例:

```
ARCHIVE A1
  STORAGETYPE      CM
  .
  .
  .
  INDEXCHILDNAME  MYINDEXCHILD
```

**\* ITEM\_TYPE *name***

Collector Serverが文書をアーカイブする項目タイプまたは項目タイプのサブセットを指定します。この項目タイプまたは項目タイプのサブセットは、Content Collector for SAP が使用する Content Manager Enterprise Edition を構成したときに作成しています。

例:

```
ITEM_TYPE itemtypeA1
```

**(\*) ITEM\_TYPE\_MIG *name***

読み取り専用項目タイプの文書を表示する場合は必須です。この項目タイプは、Content Manager Enterprise Edition バージョン 7 索引クラスからバージョン 8 項目タイプにマイグレーションした際に生成されています。

読み取り専用項目タイプの名前を指定します。この名前はマイグレーション・プログラムにより生成されたものです。

**\* JAVARUNTIME\_CM *path***

DB2 Information Integrator for Content バージョン 8 の Java ランタイム実行可能プログラムの絶対パスを指定します。Content Manager Enterprise Edition バージョン 8.3 を使用する場合は、このキーワードが JRE バージョン 1.4.2 を指す必要があります。Content Manager Enterprise Edition バージョン 8.4 を使用する場合は、このキーワードは JRE バージョン 1.5 を指す必要があります。

例:

```
JAVARUNTIME_CM C:%Program Files%IBM%db2cmv8%java%jre%bin%java.exe
```

**LANGUAGE *code***

ライブラリー・サーバーの言語を指定します。 *code* は、2 文字の言語コードを表します (米国英語の場合は EN など)。

例:

```
LANGUAGE EN
```

**\* LIBSERVER *server\_name***

ライブラリー・サーバーの別名を指定します。Collector Serverは、次のパラメーターを使用して、このサーバーへの接続を確立します。

例:

```
LIBSERVER LIBSERV1
```

**(\*) LOGICAL\_SYSTEM *name***

SAP クライアントに接続されている論理システムの名前を指定します。この論理システムは、Collector Serverと SAP 間の接続を構成したときに指定したものです。

例:

LOGICAL\_SYSTEM T90CLNT090

**注:** このキーワードは DESTINATION セクションおよび ARCHIVE セクションで使用されます。要求について、アーカイブ ID のみがわかっている場合、Content Collector for SAP は ARCHIVE セクションの LOGICAL\_SYSTEM キーワードを使用して、SAP システムへの接続パラメーターを検索します。このシステムは、DESTINATION セクションの LOGICAL\_SYSTEM キーワードによって指定されたものです。

## **MULTIPART ON | OFF**

文書がアーカイブの複数の部分に保管される場合は必須です。このキーワードは、アーカイブまたはオペレーティング・システムが処理するのに、文書が大きすぎる場合に有用です。

可能な場合は、複数文書を 1 つの部分に保管します。これは、複数パーツ文書は、Content Manager eClient で表示されるときに問題が生じる可能性があるからです。

**例:**

```
MULTIPART ON
```

## **(\*) PREPROC\_CLASS *java\_class***

文書がアーカイブされる前に、プリプロセッサを使用して発信文書を変更する場合、およびプリプロセッサを Java クラスとして開始する場合は必須です。

プリプロセッサの Java クラスの完全修飾名が指定されます。

このキーワードは、PREPROC\_MIMETYPE キーワードの後に指定する必要があります。

**例:**

```
PREPROC_MIMETYPE text/plain
PREPROC_CLASS Preprocessor.SamplePreprocText
PREPROC_CLASSPATH D:%preprocessors%preproc_java.jar
```

**注:** 同じプリプロセッサを何度も使用できます。各 MIME タイプに対して異なるプリプロセッサを使用することもできます。異なるプリプロセッサを使用する場合は、Java クラスが異なるクラスパスにある場合でも、各プロセッサが一意的な Java クラス名を持っていることを確認します。Java クラスパスは連結されます。複数のプリプロセッサに対して同じ Java クラス名を使用する場合、プリプロセッサ・ユーザー出口がその Java クラス名に対して見つけた最初のプリプロセッサを呼び出します。

## **(\*) PREPROC\_CLASSPATH *java\_classpath***

プリプロセッサを Java クラスとして開始する場合は必須です。

Java クラスの絶対パスを指定します。

このキーワードは、PREPROC\_CLASS キーワードの後に指定する必要があります。

**例:**

```
PREPROC_MIMETYPE text/plain
PREPROC_CLASS Preprocessor.SamplePreprocText
PREPROC_CLASSPATH D:%preprocessors%preproc_java.jar
```

### (\*) **PREPROC\_EXEC** *exec*

文書がアーカイブされる前に、プリプロセッサを使用して発信文書を変更する場合、およびプリプロセッサを実行可能ファイルとして開始する場合は必須です。

指定された MIME タイプの文書を処理する実行可能ファイルの絶対パスを指定します。

このキーワードは、PREPROC\_MIMETYPE キーワードの後に指定する必要があります。

例:

```
PREPROC_MIMETYPE text/plain
PREPROC_EXEC D:%preprocessors%preproc_text.bat
```

### (\*) **PREPROC\_MIMETYPE** *mime\_type*

文書がアーカイブされる前に、プリプロセッサを使用して発信文書を変更する場合は必須です。

処理される文書の MIME タイプを指定します。

このキーワードは、プリプロセッサを指定する前に指定される必要があります。

例:

```
PREPROC_MIMETYPE image/tiff
```

### (\*) **PROTECTION** *prot\_flags* | **OFF**

Collector Serverと SAP との間の通信に Hypertext Transfer Protocol (HTTP) を使用する場合は必須です。

アーカイブのデフォルトの保護を指定します。

SAP 要求の docProt の値は、PROTECTION キーワードの設定値をオーバーライドします。ただし、PROTECTION OFF を指定した場合は、SAP の docProt 設定は無視され、SECKEY キーワードは暗黙的に OFF に設定されます。この場合、文書は保護されません。

*prot\_flags* は、文字 r (read 読み取り)、c (create 作成)、u (update 更新)、d (delete 削除)、またはこれらの文字の組み合わせを表します。次の表に示すように、デフォルト値は ARCHIVETYPE キーワードの値によって異なります。

ARCHIVETYPE	PROTECTION のデフォルト値
GENERIC_MULTIPART	オフ
SAP	rcud

例:

PROTECTION rcu

この例では、文書に対する READ、CREATE、および UPDATE 操作が保護されています。これは、操作を実行するために必要な権限が検査されることを意味します。DELETE 操作は無保護です。つまり、権限の検査は行われません。

### **(\*) SCAN\_PROCESS *process\_name***

Content Manager Enterprise Edition ワークフローをアーカイブ・シナリオに含める場合は必須です。

ワークフローの名前を指定します。このキーワードは、WORKLIST\_SCAN キーワードおよび WORKLIST\_ERROR キーワードと一緒に使用します。

**例:**

```
ARCHIVE A2
  STORAGE_TYPE    CM
  LIBSERVER       LIBSCM
  ITEM_TYPE       SCANDOCs
  CMUSER          cmuser1
  SCAN_PROCESS    SapScanProcess
  WORKLIST_SCAN   SapScanWL_A2
  WORKLIST_ERROR  SapErrorWL_A2
```

### **SECKEY\_CHECK *prot\_flags* | OFF**

Collector Serverと SAP 間の通信に Hypertext Transfer Protocol (HTTP) を使用する場合に指定します。

secKey が検査される際のアクセス・モードを指定します。*prot\_flags* は、文字 r (read 読み取り)、c (create 作成)、u (update 更新)、d (delete 削除)、またはこれらの文字の組み合わせを表します。このキーワードを指定しない場合は、PROTECTION キーワードに設定した値がデフォルトとして使用されます。

SAP 要求に secKey が含まれていない場合は、このキーワードを OFF に設定します。

PROTECTION キーワードを OFF に設定した場合、または ARCHIVETYPE キーワードを GENERIC\_MULTIPART に設定した場合、SECKEY\_CHECK キーワードは暗黙的に OFF に設定されます。これは、文書へのアクセスも検査されないことを意味します。

### **SSL ON | OFF**

ON に設定された場合、アーカイブは Secure Hypertext Transfer Protocol (HTTPS) を介してのみアクセスできます。

### **TEXT\_SEARCHABLE YES | NO**

項目タイプに保管されている文書の全文検索を有効または無効にします。項目タイプは、Content Manager Enterprise Edition のシステム管理クライアント内のテキスト検索に対して有効にする必要があります。

## **TIMEOUT *seconds* | 86400**

エージェントがアーカイブへの接続を閉じる前に、エージェントがアイドルである必要がある期間を秒単位で指定します。新しい要求がアーカイブに送信されるときに、接続は自動的に再確立されます。

### **例:**

```
TIMEOUT 300
```

## **TRANSFORM\_URL *url***

ユーザー出口を開始します。このユーザー出口により、Java Remote Method Invocation (RMI) を使用する Java メソッドやアプリケーションを実行できます。つまり、Java メソッドやアプリケーションが Web インターフェースを介して呼び出されるということです。Java メソッドまたはアプリケーションは、Content Collector for SAP が文書のアーカイブを開始する前に実行されています。アプリケーションの例として、変換ツールがあります。

キーワードに RMI スtring (URL) を指定する必要があります。実行時に Collector Serverは Hypertext Transfer Protocol (HTTP) サーバーを介して URL を呼び出し、Java メソッドまたはアプリケーションを開始します。

### **例:**

```
ARCHIVE A1
  STORAGE_TYPE CM
  LIBSERVER LIBSCM
  ITEM_TYPE DOCS1
  CMUSER cmuser1
  .
  .
  .
  TRANSFORM_URL rmi://localhost:1099/Transformer
```

この例では、Java メソッドまたはアプリケーションは、Collector Serverと同じコンピューターにインストールされています。

### **注:**

- URL の長さは 255 文字を超えてはなりません。
- 複数の URL を指定して、複数の変換スレッドを並行して実行できます。複数の URL はコンマで区切ります。

## **TRUNCATE\_ATTRIBUTE ON | OFF**

定義された最大長よりも属性値の長さが長い場合に、切り捨てるかどうかを指定します。

### **例:**

```
TRUNCATE_ATTRIBUTE ON
```

### **注:**

- この設定はすべてのアーカイブ属性に適用されます。有効な属性のサブセットのみを切り捨てることはできません。



- ON に設定した場合、データが失われる可能性があります。
- OFF に設定し、かつ属性値が長すぎる場合は、この値を含む文書はアーカイブされず、エラーが記録されます。

### **USEREXIT\_TIMEOUT** *seconds* | 0

タイムアウト期間を指定します。このタイムアウト期間の後、Collector Serverは実行中のユーザー出口への接続を閉じ、処理を続けます。このキーワードは、TRANSFORM\_URL および TRANSFORM CLASS により有効にされたユーザー出口に対して使用できます。

0 から 3600 秒を指定できます。デフォルト値は 0 です。

**注:** Collector Serverは、ユーザー出口により呼び出された実行中のアプリケーションを停止しません。そのアプリケーションへの接続を閉じるだけです。これにより、アプリケーションがクラッシュした場合でも、Collector Serverはクラッシュしません。

### **(\*) WORKLIST\_ERROR** *workbasket\_name*

Content Manager Enterprise Edition ワークフローをアーカイブ・シナリオに含める場合は必須です。

ワークフローのエラー作業ノードに定義されるワーク・バスケットを指定します。このキーワードは、WORKLIST\_SCAN キーワードおよび SCAN\_PROCESS キーワードと一緒に使用します。

**例:**

```
ARCHIVE A2
  STORAGETYPE      CM
  LIBSERVER        LIBSCM
  ITEM_TYPE        SCANDOCS
  CMUSER           cmuser1
  SCAN_PROCESS     SapScanProcess
  WORKLIST_SCAN    SapScanWL_A2
  WORKLIST_ERROR   SapErrorWL_A2
```

### **(\*) WORKLIST\_SCAN** *workbasket\_name*

Content Manager Enterprise Edition ワークフローをアーカイブ・シナリオに含める場合は必須です。

Content Manager Enterprise Edition ワークフローの開始点に定義されるワーク・バスケットを指定します。このキーワードは、WORKLIST\_ERROR キーワードおよび SCAN\_PROCESS キーワードと一緒に使用します。

**例:**

```
ARCHIVE A2
  STORAGETYPE      CM
  LIBSERVER        LIBSCM
  ITEM_TYPE        SCANDOCS
  CMUSER           cmuser1
  SCAN_PROCESS     SapScanProcess
  WORKLIST_SCAN    SapScanWL_A2
  WORKLIST_ERROR   SapErrorWL_A2
```

## OnDemand のアーカイブ固有のキーワード

ARCHIVE セクションの最初のキーワードは常に ARCHIVE で、2 番目のキーワードは常に STORAGETYPE です。以下のトピックでは、これらのキーワードを除くすべてのキーワードが、見つけやすいようにアルファベット順で並んでいます。

### \* **ARCHIVE** *archive\_id*

論理アーカイブ ID (例えば A1) を指定します。アーカイブ ID はサーバー構成プロファイル内で固有でなければなりません。Content Collector for SAP はこれを使用してアーカイブを識別します。

ARCHIVE キーワードの直後に STORAGETYPE キーワードを指定する必要があります。その他のすべてのアーカイブ固有のキーワードは、順不同で指定できます。

#### 例:

```
ARCHIVE A1
      STORAGETYPE ONDEMAND
```

#### 注:

- セットアップの完了後に設定を変更しないでください。リトリブ操作は設定に依存します。
- ARCHIVE DEFAULT の指定は現在無効です。アーカイブにアクセスできない場合は、このキーワードがまだサーバー構成プロファイルにあるかどうかを確認してください。

### \* **STORAGETYPE ONDEMAND**

論理アーカイブが Content Manager OnDemand に接続されることを指定します。Content Collector for SAP は、適切なエージェントを選択するのにこの情報を必要とします。定義する論理アーカイブごとにストレージ・タイプを指定する必要があります。

#### 例:

```
STORAGETYPE ONDEMAND
```

注: このキーワードは、ARCHIVE キーワードの直後に指定します。

### \* **APPGROUP** *group\_name*

Content Collector for SAP で使用する Content Manager OnDemand を構成したときに作成したアプリケーション・グループの名前を指定します。

#### 例:

```
APPGROUP SAP Print Lists
```

### \* **APPLICATION** *appl\_name*

Content Collector for SAP で使用する Content Manager OnDemand を構成したときに作成したアプリケーションの名前を指定します。このアプリケーションは、APPGROUP キーワードに指定したアプリケーション・グループに関連付けられます。

例:

APPLICATION SAP Print Lists

### **APPMAPPING\_FILE** *file\_name*

アプリケーションのマッピング・ファイルの絶対パスを指定します。このマップ・ファイルは、Collector Serverが異なるアプリケーションで文書をアーカイブする場合に、そのために文書のコンテンツ・タイプをアプリケーションにマップする必要があるときに使用されます。

例:

APPMAPPING\_FILE C:¥ICCSAP¥Server¥instance01¥apmapping.txt

### **ARCHIVETYPE** **GENERIC** | **SAP**

アーカイブのタイプを指定します。

#### **GENERIC**

SAP が必要とするすべての属性を持っていないために SAP によってアクセスできない文書でさえも含め、すべての文書をアーカイブが格納できるように指定します。このようなアーカイブについては、Collector Serverは特定の属性が存在するかどうかを検証しません。

この値を指定する場合、アーカイブは保護されず、文書へのアクセスは検査されません。438 ページの『SECKEY\_CHECK prot\_flags | OFF』を参照してください。

SAP Document Finder を使用する場合は、この値を指定する必要があります。

#### **SAP**

SAP が必要とするすべての属性を持つ文書のみをアーカイブが保管できることを指定します。Collector Serverは、属性が存在していることを検証します。

### **ATTRMAPPING\_FILE** *path*

属性マッピング・ファイルの絶対パスを指定します。このファイルで、属性またはプロパティの名前を Content Collector for SAP によって要求される名前にマップします。例えば、Content Collector for SAP が要求する名前が既にご使用の環境にある場合、または違う名前を使用したい場合などに、マッピングが必要です。

例:

ATTRMAPPING\_FILE C:¥ICCSAP¥Server¥instance01¥odmapping.txt

### **COMMENT**

アーカイブ ID 用のコメントを指定します。コメントは、HTTP コマンド・サーバーにより表示されます。

例:

COMMENT Archive is used for testing purposes only.

### \* **FOLDER** *folder*

Content Collector for SAP で使用する Content Manager OnDemand を構成したときに作成したフォルダーの名前を指定します。このフォルダーは、APPGROUP キーワードに指定したアプリケーション・グループに関連付けられます。

例:

```
FOLDER SAP Documents
```

### (\* **LOGICAL\_SYSTEM** *name*

SAP クライアントに接続されている論理システムの名前を指定します。この論理システムは、Collector Serverと SAP 間の接続を構成したときに指定したものです。

例:

```
LOGICAL_SYSTEM T90CLNT090
```

注: このキーワードは DESTINATION セクションおよび ARCHIVE セクションで使用されます。要求について、アーカイブ ID のみがわかっている場合、Content Collector for SAP は ARCHIVE セクションの LOGICAL\_SYSTEM キーワードを使用して、SAP システムへの接続パラメーターを検索します。このシステムは、DESTINATION セクションの LOGICAL\_SYSTEM キーワードによって指定されたものです。

### (\* **ODHOST** *hostname*

Content Manager OnDemand がリモート・サーバー上にある場合は必須です。

リモートの Content Manager OnDemand ライブラリー・サーバーのインスタンス名を指定します。 *hostname* に、リモートの Content Manager OnDemand サーバーへの接続を構成したときに定義したこのインスタンスのホスト名または IP アドレスを指定します。

例:

```
ODHOST cmodsrv
```

### \* **ODUSER** *user\_id*

APPGROUP キーワードに指定したアプリケーション・グループで文書の表示、追加、および削除権限を持つユーザー ID を指定します。このユーザーは、FOLDER キーワードで指定したフォルダーへのアクセス権限も持っています。

このユーザー ID は、Content Collector for SAP が使用する Content Manager OnDemand を構成したときに作成しています。

例:

```
ODUSER admin
```

### (\* **PREPROC\_CLASS** *java\_class*

文書がアーカイブされる前に、プリプロセッサーを使用して発信文書を変更する場合、およびプリプロセッサーを Java クラスとして開始する場合は必須です。

プリプロセッサの Java クラスの完全修飾名が指定されます。

このキーワードは、PREPROC\_MIMETYPE キーワードの後に指定する必要があります。

**例:**

```
PREPROC_MIMETYPE text/plain
PREPROC_CLASS Preprocessor.SamplePreprocText
PREPROC_CLASSPATH D:%preprocessors%preproc_java.jar
```

**注:** 同じプリプロセッサを何度も使用できます。各 MIME タイプに対して異なるプリプロセッサを使用することもできます。異なるプリプロセッサを使用する場合は、Java クラスが異なるクラスパスにある場合でも、各プロセッサが一意的な Java クラス名を持っていることを確認します。Java クラスパスは連結されます。複数のプリプロセッサに対して同じ Java クラス名を使用する場合、プリプロセッサ・ユーザー出口がその Java クラス名に対して見つけた最初のプリプロセッサを呼び出します。

### **(\*) PREPROC\_CLASSPATH *java\_classpath***

プリプロセッサを Java クラスとして開始する場合は必須です。

Java クラスの絶対パスを指定します。

このキーワードは、PREPROC\_CLASS キーワードの後に指定する必要があります。

**例:**

```
PREPROC_MIMETYPE text/plain
PREPROC_CLASS Preprocessor.SamplePreprocText
PREPROC_CLASSPATH D:%preprocessors%preproc_java.jar
```

### **(\*) PREPROC\_EXEC *exec***

文書がアーカイブされる前に、プリプロセッサを使用して発信文書を変更する場合、およびプリプロセッサを実行可能ファイルとして開始する場合は必須です。

指定された MIME タイプの文書を処理する実行可能ファイルの絶対パスを指定します。

このキーワードは、PREPROC\_MIMETYPE キーワードの後に指定する必要があります。

**例:**

```
PREPROC_MIMETYPE text/plain
PREPROC_EXEC D:%preprocessors%preproc_text.bat
```

### **(\*) PREPROC\_MIMETYPE *mime\_type***

文書がアーカイブされる前に、プリプロセッサを使用して発信文書を変更する場合は必須です。

処理される文書の MIME タイプを指定します。

このキーワードは、プリプロセッサを指定する前に指定する必要があります。

例:

```
PREPROC_MIMETYPE image/tiff
```

### (\*) PROTECTION *prot\_flags* | OFF

Collector Serverと SAP との間の通信に Hypertext Transfer Protocol (HTTP) を使用する場合は必須です。

アーカイブのデフォルトの保護を指定します。

SAP 要求の docProt の値は、PROTECTION キーワードの設定値をオーバーライドします。ただし、PROTECTION OFF を指定した場合は、SAP の docProt 設定は無視され、SECKEY キーワードは暗黙的に OFF に設定されます。この場合、文書は保護されません。

*prot\_flags* は、文字 r (read 読み取り)、c (create 作成)、u (update 更新)、d (delete 削除)、またはこれらの文字の組み合わせを表します。次の表に示すように、デフォルト値は ARCHIVETYPE キーワードの値によって異なります。

ARCHIVETYPE	PROTECTION のデフォルト値
GENERIC	オフ
SAP	rcud

例:

```
PROTECTION rcu
```

この例では、文書に対する READ、CREATE、および UPDATE 操作が保護されています。これは、操作を実行するために必要な権限が検査されることを意味します。DELETE 操作は無保護です。つまり、権限の検査は行われません。

### SECKEY\_CHECK *prot\_flags* | OFF

Collector Serverと SAP 間の通信に Hypertext Transfer Protocol (HTTP) を使用する場合に指定します。

secKey が検査される際のアクセス・モードを指定します。*prot\_flags* は、文字 r (read 読み取り)、c (create 作成)、u (update 更新)、d (delete 削除)、またはこれらの文字の組み合わせを表します。このキーワードを指定しない場合は、PROTECTION キーワードに設定した値がデフォルトとして使用されます。

SAP 要求に secKey が含まれていない場合は、このキーワードを OFF に設定します。

PROTECTION キーワードを OFF に設定した場合、またはARCHIVETYPE キーワードを GENERIC に設定した場合、SECKEY\_CHECK キーワードは暗黙的に OFF に設定されます。これは、文書へのアクセスも検査されないことを意味します。

### SSL ON | OFF

ON に設定された場合、アーカイブは Secure Hypertext Transfer Protocol (HTTPS) を介してのみアクセスできます。

## **TIMEOUT *seconds* | 86400**

エージェントがアーカイブへの接続を閉じる前に、エージェントがアイドルである必要がある期間を秒単位で指定します。新しい要求がアーカイブに送信されるときに、接続は自動的に再確立されます。

**例:**

```
TIMEOUT 300
```

## **TRANSFORM *filter***

文書がアーカイブされる前に呼び出されるシェル・コマンドを指定します。このコマンドは、標準入力から SAP により送られたデータを受け入れ、このデータを標準出力へ書き込みます。コマンドにより返される出口コードがゼロではない場合、文書はアーカイブされず、アーカイブ・エラーが SAP に報告されます。

**例:**

```
TRANSFORM cat
```

**注:**

- コマンドは、アーカイブへの並列接続を処理できるように、並行して複数回呼び出されると考えられます。このコマンドを複数回呼び出すことができない場合は、ODAGENTS キーワードを使用し、並列接続の数を 1 に設定して、すべての要求をシリアルライズします。
- Content Collector for SAP は、指定されたコマンドまたはこのコマンドにより生成されたデータを検査しません。

## **TRUNCATE\_ATTRIBUTE ON | OFF**

定義された最大長よりも属性値の長さが長い場合に、切り捨てるかどうかを指定します。

**例:**

```
TRUNCATE_ATTRIBUTE ON
```

**注:**

- この設定はすべてのアーカイブ属性に適用されます。有効な属性のサブセットのみを切り捨てることはできません。
- ON に設定した場合、データが失われる可能性があります。
- OFF に設定し、かつ属性値が長すぎる場合は、この値を含む文書はアーカイブされず、エラーが記録されます。

## **USEREXIT\_TIMEOUT *seconds* | 0**

タイムアウト期間を指定します。このタイムアウト期間の後、Collector Serverは実行中のユーザー出口への接続を閉じ、処理を続けます。このキーワードは、TRANSFORM\_URL および TRANSFORM CLASS により有効にされたユーザー出口に対して使用できます。

0 から 3600 秒を指定できます。デフォルト値は 0 です。

注: Collector Serverは、ユーザー出口により呼び出された実行中のアプリケーションを停止しません。そのアプリケーションへの接続を閉じるだけです。これにより、アプリケーションがクラッシュした場合でも、Collector Serverはクラッシュしません。

## FileNet P8 のアーカイブ固有のキーワード

ARCHIVE セクションの最初のキーワードは常に ARCHIVE で、2 番目のキーワードは常に STORAGETYPE です。以下のトピックでは、これらのキーワードを除くすべてのキーワードが、見つけやすいようにアルファベット順で並んでいます。

### \* ARCHIVE *archive\_id*

論理アーカイブ ID (例えば A1) を指定します。アーカイブ ID はサーバー構成プロファイル内で固有でなければなりません。Content Collector for SAP はこれを使用してアーカイブを識別します。

ARCHIVE キーワードの直後に STORAGETYPE キーワードを指定する必要があります。その他のすべてのアーカイブ固有のキーワードは、順不同で指定できます。

例:

```
ARCHIVE A1
  STORAGETYPE P8
```

注:

- セットアップの完了後に設定を変更しないでください。リトリート操作は設定に依存します。
- ARCHIVE DEFAULT の指定は現在無効です。アーカイブにアクセスできない場合は、このキーワードがまだサーバー構成プロファイルにあるかどうかを確認してください。

### \* STORAGETYPE P8

論理アーカイブが FileNet P8 に接続されることを指定します。Content Collector for SAP は、適切なエージェントを選択するのにこの情報を必要とします。定義する論理アーカイブごとにストレージ・タイプを指定する必要があります。

例:

```
STORAGETYPE P8
```

注: このキーワードは、ARCHIVE キーワードの直後に指定します。

## ARCHIVETYPE GENERIC | SAP

アーカイブのタイプを指定します。

### GENERIC

SAP が必要とするすべての属性を持っていないために SAP によってアクセスできない文書でさえも含め、すべての文書をアーカイブが格納できるように指定します。このようなアーカイブについては、Collector Serverは特定の属性が存在するかどうかを検証しません。



この値を指定する場合、アーカイブは保護されず、文書へのアクセスは検査されません。447 ページの『SECKEY\_CHECK prot\_flags | OFF』を参照してください。

## SAP

SAP が必要とするすべての属性を持つ文書のみをアーカイブが保管できることを指定します。Collector Serverは、属性が存在していることを検証します。

## ATTRMAPPING\_FILE *path*

属性マッピング・ファイルの絶対パスを指定します。このファイルで、属性またはプロパティの名前を Content Collector for SAP によって要求される名前にマップします。例えば、Content Collector for SAP が要求する名前が既にご使用の環境にある場合、または違う名前を使用したい場合などに、マッピングが必要です。

### 例:

```
ATTRMAPPING_FILE C:\ICCSAP\Server\instance01\p8mapping.txt
```

## COMMENT

アーカイブ ID 用のコメントを指定します。コメントは、HTTP コマンド・サーバーにより表示されます。

### 例:

```
COMMENT Archive is used for testing purposes only.
```

## CUSTOM\_FOLDER *folder\_name* | NONE

発信文書のアーカイブ用です。

特定の MIME タイプの文書が保管されるフォルダーの絶対パスを指定します。MIME タイプは、CUSTOM\_FOLDER キーワードが属する DOCTYPE セクションによって定義されます。パスはスラッシュ (/) で始まらなければなりません。

このキーワードを指定しない場合は、DEFAULT\_FOLDER キーワードにより定義された MIME タイプの文書に、デフォルトのフォルダーが使用されます。デフォルト・フォルダーが定義されていない場合、定義された MIME タイプの文書は保管されません。また、CUSTOM\_FOLDER キーワードに NONE を指定した場合も、文書は保管されません。

### 例:

```
DOCTYPE image/tiff
  CUSTOM_FOLDER /production/tiff
```

## DEFAULT\_FOLDER *folder\_name*

発信文書のアーカイブ用です。

キーワード CUSTOM\_FOLDER で定義された特定のフォルダーを持たないすべての文書が保管されるフォルダーの絶対パスを指定します。パスはスラッシュ (/) で始まらなければなりません。

### 例:

DEFAULT\_FOLDER /production/all\_docs

このキーワードを指定しない場合、文書は保管されません。

#### **(\*) DEFAULT\_P8DOCCLASS *doc\_class***

発信文書のアーカイブに必須です。このキーワードが指定されない場合、文書はアーカイブされません。

SAP が文書の MIME タイプを指定しない場合、またはこのアーカイブでこの MIME タイプに DOCTYPE セクションが指定されていない場合に使用される文書クラスを指定します。この文書クラスには、文書のアーカイブ、更新、および削除に必要なすべてのプロパティがなければなりません。

例:

```
DEFAULT_P8DOCCLASS ALLDOCS
```

#### **DOCTYPE *mime\_type***

発信文書のアーカイブ用です。

指定された MIME タイプの文書の設定をグループ化します。

例:

```
DOCTYPE image/tiff
```

#### **LOGICAL\_DELETE ON | OFF**

削除されるファイルが物理的に削除されるのか、または論理的に削除されるのかを指定します。デフォルトは物理的に削除されます (OFF)。

例:

```
LOGICAL_DELETE ON
```

#### **(\*) LOGICAL\_SYSTEM *name***

SAP クライアントに接続されている論理システムの名前を指定します。この論理システムは、Collector Serverと SAP 間の接続を構成したときに指定したものです。

例:

```
LOGICAL_SYSTEM T90CLNT090
```

**注:** このキーワードは DESTINATION セクションおよび ARCHIVE セクションで使用されます。要求について、アーカイブ ID のみがわかっている場合、Content Collector for SAP は ARCHIVE セクションの LOGICAL\_SYSTEM キーワードを使用して、SAP システムへの接続パラメーターを検索します。このシステムは、DESTINATION セクションの LOGICAL\_SYSTEM キーワードによって指定されたものです。

#### **\* OBJECTSTORE *name***

文書が含まれている、またはこれから文書が含まれるオブジェクト・ストアの名前を指定します。

例:

```
OBJECTSTORE store1
```

### (\*) **P8DOCCLASS** *doc\_class*

DOCTYPE キーワードを指定する場合は必須です。

指定された MIME タイプの文書が保管される文書クラスを指定します。MIME タイプは、P8DOCCLASS キーワードが属する DOCTYPE キーワードによって定義されます。

例:

```
DOCTYPE          image/tiff
CUSTOM_FOLDER    /production/tiff
P8DOCCLASS       TIFF
```

### \* **P8DOMAIN** *name*

文書が保管されている、またはこれから保管されるオブジェクト・ストアを含むドメインの名前を指定します。

例:

```
P8DOMAIN domain1
```

### \* **P8USER**

Content Engine ユーザーの名前を指定します。このユーザーは次の権限を持つ必要があります。

- 文書の作成、変更、読み取り、削除、および表示
- Image Services 文書の FileNet P8 へのインポート。

### **PAGESIZE** *number | 0*

印刷リストおよびデータのアーカイブ用 (REO)。

指定された MIME タイプの文書がページ編集されるかどうかを指定し、ページのサイズを KB 単位で指定します。MIME タイプは、PAGESIZE キーワードが属する DOCTYPE キーワードによって定義されます。

例:

```
DOCTYPE          image/tiff
CUSTOM_FOLDER    /production/tiff
P8DOCCLASS       TIFF
PAGESIZE         2000
```

### (\*) **PE\_CONNECTPOINT** *name*

Utility Client を使用して FileNet P8 文書がリンクされる場合に必須です。

Process Engine 接続ポイントの名前を指定します。

例:

```
PE_CONNECTPOINT connpt1
```

### **(\*) PE\_QUEUENAME *name***

Utility Client を使用して FileNet P8 文書がリンクされる場合に必須です。

リンクされる文書が含まれている P8 キューの名前を指定します。

例:

```
PE_QUEUENAME queue1
```

### **(\*) PE\_USERID *user\_name***

Utility Client を使用して FileNet P8 文書がリンクされる場合に必須です。

P8 キューを読み取ることができ、文書を作業項目として P8 キューで使用できるようにするために作成されたワークフローを処理できる Process Engine ユーザーの名前を指定します。

例:

```
PE_USERID peuser1
```

### **(\*) PREPROC\_CLASS *java\_class***

文書がアーカイブされる前に、プリプロセッサーを使用して発信文書を変更する場合、およびプリプロセッサーを Java クラスとして開始する場合は必須です。

プリプロセッサーの Java クラスの完全修飾名が指定されます。

このキーワードは、PREPROC\_MIMETYPE キーワードの後に指定する必要があります。

例:

```
PREPROC_MIMETYPE text/plain  
PREPROC_CLASS Preprocessor.SamplePreprocText  
PREPROC_CLASSPATH D:%preprocessors%preproc_java.jar
```

注: 同じプリプロセッサーを何度も使用できます。各 MIME タイプに対して異なるプリプロセッサーを使用することもできます。異なるプリプロセッサーを使用する場合は、Java クラスが異なるクラスパスにある場合でも、各プロセッサーが一意的な Java クラス名を持っていることを確認します。Java クラスパスは連結されます。複数のプリプロセッサーに対して同じ Java クラス名を使用する場合、プリプロセッサー・ユーザー出口がその Java クラス名に対して見つけた最初のプリプロセッサーを呼び出します。

### **(\*) PREPROC\_CLASSPATH *java\_classpath***

プリプロセッサーを Java クラスとして開始する場合は必須です。

Java クラスの絶対パスを指定します。

このキーワードは、PREPROC\_CLASS キーワードの後に指定する必要があります。

例:

```
PREPROC_MIMETYPE text/plain
PREPROC_CLASS Preprocessor.SamplePreprocText
PREPROC_CLASSPATH D:%preprocessors%preproc_java.jar
```

### (\*) **PREPROC\_EXEC** *exec*

文書がアーカイブされる前に、プリプロセッサを使用して発信文書を変更する場合、およびプリプロセッサを実行可能ファイルとして開始する場合は必須です。

指定された MIME タイプの文書进行处理する実行可能ファイルの絶対パスを指定します。

このキーワードは、PREPROC\_MIMETYPE キーワードの後に指定する必要があります。

例:

```
PREPROC_MIMETYPE text/plain
PREPROC_EXEC D:%preprocessors%preproc_text.bat
```

### (\*) **PREPROC\_MIMETYPE** *mime\_type*

文書がアーカイブされる前に、プリプロセッサを使用して発信文書を変更する場合は必須です。

処理される文書の MIME タイプを指定します。

このキーワードは、プリプロセッサを指定する前に指定される必要があります。

例:

```
PREPROC_MIMETYPE image/tiff
```

### \* **PROTECTION** *prot\_flags* | OFF

アーカイブのデフォルトの保護を指定します。

SAP 要求の docProt の値は、PROTECTION キーワードの設定値をオーバーライドします。ただし、PROTECTION OFF を指定した場合は、SAP の docProt 設定は無視され、SECKEY キーワードは暗黙的に OFF に設定されます。この場合、文書は保護されません。

*prot\_flags* は、文字 r (read 読み取り)、c (create 作成)、u (update 更新)、d (delete 削除)、またはこれらの文字の組み合わせを表します。次の表に示すように、デフォルト値は ARCHIVETYPE キーワードの値によって異なります。

ARCHIVETYPE	PROTECTION のデフォルト値
GENERIC	オフ
SAP	rcud

例:

```
PROTECTION rcu
```

この例では、文書に対する READ、CREATE、および UPDATE 操作が保護されています。これは、操作を実行するために必要な権限が検査されることを意味します。DELETE 操作は無保護です。つまり、権限の検査は行われません。

## **PURETHIN YES | NO (or ON | OFF)**

アーカイブされた文書を Workplace または Workplace XT で表示する場合は必須です。

Workplace または Workplace XT を、指定された MIME タイプの文書の表示に使用するかどうかを指定します。MIME タイプは、PURETHIN キーワードが属する DOCTYPE キーワードによって定義されます。

MIME タイプが image/bmp、image/tiff、image/gif、および image/jpeg の文書の場合、FileNet P8 の Image Viewer が使用されます。他の MIME タイプの文書には、Workplace または Workplace XT のブラウザが使用されます。

例:

```
DOCTYPE          image/tiff
CUSTOM_FOLDER    /production/tiff
P8DOCCCLASS     TIFF
PURETHIN         YES
```

## **\* REMOTESERVERURL *url***

Content Engine Web Service Interface (WSI) エンドポイントへの絶対パスを指定します。

例:

```
REMOTESERVERURL http://<hostname>:<portnumber>/wsi/FNCEWS40MTOM
```

## **(\*) REPINFOCLASSES *class1, class2, ... classn***

索引転送に必須です。

プロパティが索引情報として転送される FileNet P8 文書クラスを指定します。

注: SAPDocId や SAPCompSize などのシステム・プロパティは転送されません。

例:

```
REPINFOCLASSES TIFF, PDF, ALLDOCS
```

## **RETURN\_ALL\_ATTR YES | NO**

REPINFOCLASSES キーワードにリストされるすべての文書クラスのすべてのプロパティが転送されるか、またはリストされたすべての文書クラスに共通なプロパティのみが転送されるかを指定します。デフォルトでは、共通プロパティのみが転送されます (NO)。

注: SAPDocId や SAPCompSize などのシステム・プロパティは転送されません。

例:

```
RETURN_ALL_ATTR YES
```

## **SECKEY\_CHECK *prot\_flags* | OFF**

secKey が検査される際のアクセス・モードを指定します。*prot\_flags* は、文字 r (read 読み取り)、c (create 作成)、u (update 更新)、d (delete 削除)、またはこれらの文字の組み合わせを表します。このキーワードを指定しない場合は、PROTECTION キーワードに設定した値がデフォルトとして使用されます。

SAP 要求に secKey が含まれていない場合は、このキーワードを OFF に設定します。

PROTECTION キーワードを OFF に設定した場合、またはARCHIVETYPE キーワードを GENERIC に設定した場合、SECKEY\_CHECK キーワードは暗黙的に OFF に設定されます。これは、文書へのアクセスも検査されないことを意味します。

## **SSL ON | OFF**

ON に設定された場合、アーカイブは Secure Hypertext Transfer Protocol (HTTPS) を介してのみアクセスできます。

## **TIMEOUT *seconds* | 86400**

エージェントがアーカイブへの接続を閉じる前に、エージェントがアイドルである必要がある期間を秒単位で指定します。新しい要求がアーカイブに送信されるたびに、接続は自動的に再確立されます。

例:

```
TIMEOUT 300
```

## **TRUNCATE\_ATTRIBUTE ON | OFF**

定義された最大長よりも属性値の長さが長い場合に、切り捨てるかどうかを指定します。

例:

```
TRUNCATE_ATTRIBUTE ON
```

注:

- この設定はすべてのアーカイブ属性に適用されます。有効な属性のサブセットのみを切り捨てることはできません。
- ON に設定した場合、データが失われる可能性があります。
- OFF に設定し、かつ属性値が長すぎる場合は、この値を含む文書はアーカイブされず、エラーが記録されます。

## **USEREXIT\_TIMEOUT *seconds* | 0**

タイムアウト期間を指定します。このタイムアウト期間の後、Collector Serverは実行中のユーザー出口への接続を閉じ、処理を続けます。このキーワードは、TRANSFORM\_URL および TRANSFORM CLASS により有効にされたユーザー出口に対して使用できます。

0 から 3600 秒を指定できます。デフォルト値は 0 です。

注: Collector Serverは、ユーザー出口により呼び出された実行中のアプリケーションを停止しません。そのアプリケーションへの接続を閉じるだけです。これにより、アプリケーションがクラッシュした場合でも、Collector Serverはクラッシュしません。

#### **(\*) WORKPLACEURL *url***

文書、フォルダー、保管された検索、および検索テンプレートを、Workplace または Workplace XT を使用して表示する場合は必須です。

Workplace または Workplace XT の Web アドレス (すなわち、  
`http://<application_engine_hostname>:<portnumber>/Workplace` または  
`http://<application_engine_hostname>:<portnumber>/WorkplaceXT`) を指定します。

例:

WORKPLACEURL `http://myappengine.com:7001/Workplace`

#### **(\*) WP\_USERID *user\_name***

Workplace または Workplace XT へのログオンに使用できるユーザーの名前を指定します。

例:

WP\_USERID `wpuser1`

### **Tivoli Storage Manager のアーカイブ固有のキーワード**

ARCHIVE セクションの最初のキーワードは常に ARCHIVE で、2 番目のキーワードは常に STORAGETYPE です。以下のトピックでは、これらのキーワードを除くすべてのキーワードが、見つけやすいようにアルファベット順で並んでいます。

#### **\* ARCHIVE *archive\_id***

論理アーカイブ ID (例えば A1) を指定します。アーカイブ ID はサーバー構成プロファイル内で固有でなければなりません。Content Collector for SAP はこれを使用してアーカイブを識別します。

ARCHIVE キーワードの直後に STORAGETYPE キーワードを指定する必要があります。その他のすべてのアーカイブ固有のキーワードは、順不同で指定できます。

例:

```
ARCHIVE A1
      STORAGETYPE TSM
```

注:

- セットアップの完了後に設定を変更しないでください。リトリート操作は設定に依存します。
- ARCHIVE DEFAULT の指定は現在無効です。アーカイブにアクセスできない場合は、このキーワードがまだサーバー構成プロファイルにあるかどうかを確認してください。



## \* **STORAGETYPE TSM | TSM\_CROSSPLATFORM | TSM\_WEBDAV**

論理アーカイブが接続されているアーカイブを指定します。Content Collector for SAP は、適切なエージェントを選択するのにこの情報を必要とします。定義する論理アーカイブごとにストレージ・タイプを指定する必要があります。次のいずれかの値を指定します。

### **TSM**

Tivoli Storage Manager の場合

### **TSM\_CROSSPLATFORM**

Collector Serverを Linux または UNIX システムから Windows へ、またはその反対にマイグレーションした場合の Tivoli Storage Manager。

### **TSM\_WEBDAV**

BC-ILM インターフェースを使用する Tivoli Storage Manager アーカイブ。

### **例:**

```
STORAGETYPE TSM
```

**注:** このキーワードは、ARCHIVE キーワードの直後に指定します。

## **ADSMNODE *node\_name***

Content Collector for SAP に登録した Tivoli Storage Manager ノードの名前を指定します。

PASSWORD GENERATE オプションを使用する場合は、このキーワードを指定しないでください。

### **例:**

```
ADSMNODE TSM2
```

## **ALLOW\_TSM\_COMPRESSION ON | OFF**

文書がアーカイブされる前に、Tivoli Storage Manager によって圧縮されるかどうかを指定します。

OFF に設定すると、Content Collector for SAP は Tivoli Storage Manager のすべてのアーカイブ操作に、圧縮済み (*already compressed*) のフラグを立てます。このフラグは、Tivoli Storage Manager 圧縮設定値に関係なく、Tivoli Storage Manager による文書の圧縮を防ぎます。

ON に設定すると、Tivoli Storage Manager の設定に応じて、文書は圧縮形式または解凍形式でアーカイブされます。

### **例:**

```
ALLOW_TSM_COMPRESSION ON
```

## **ARCHIVETYPE GENERIC | SAP**

アーカイブのタイプを指定します。

## GENERIC

SAP が必要とするすべての属性を持っていないために SAP によってアクセスできない文書でさえも含め、すべての文書をアーカイブが格納できるように指定します。このようなアーカイブについては、Collector Serverは特定の属性が存在するかどうかを検証しません。

この値を指定する場合、アーカイブは保護されず、文書へのアクセスは検査されません。452 ページの『SECKEY\_CHECK prot\_flags | OFF』を参照してください。

## SAP

SAP が必要とするすべての属性を持つ文書のみをアーカイブが保管できることを指定します。Collector Serverは、属性が存在していることを検証します。

## COMMENT

アーカイブ ID 用のコメントを指定します。コメントは、HTTP コマンド・サーバーにより表示されます。

### 例:

```
COMMENT Archive is used for testing purposes only.
```

### (\*) LOGICAL\_SYSTEM *name*

SAP クライアントに接続されている論理システムの名前を指定します。この論理システムは、Collector Serverと SAP 間の接続を構成したときに指定したものです。

### 例:

```
LOGICAL_SYSTEM T90CLNT090
```

注: このキーワードは DESTINATION セクションおよび ARCHIVE セクションで使用されます。要求について、アーカイブ ID のみがわかっている場合、Content Collector for SAP は ARCHIVE セクションの LOGICAL\_SYSTEM キーワードを使用して、SAP システムへの接続パラメーターを検索します。このシステムは、DESTINATION セクションの LOGICAL\_SYSTEM キーワードによって指定されたものです。

### \* MGMT\_CLASS *class\_name*

Collector Serverが文書のアーカイブに使用する管理クラスを指定します。この管理クラスは、Content Collector for SAP で使用する Tivoli Storage Manager を構成したときに作成しています。

注: Tivoli Storage Manager は保存期間が過ぎたすべてのファイルを自動的に削除します。このため、Tivoli Storage Manager ストレージ・プールで指定された保存期間を検査します。

### (\*) PREPROC\_CLASS *java\_class*

文書がアーカイブされる前に、プリプロセッサを使用して発信文書を変更する場合、およびプリプロセッサを Java クラスとして開始する場合は必須です。

プリプロセッサの Java クラスの完全修飾名が指定されます。

このキーワードは、PREPROC\_MIMETYPE キーワードの後に指定する必要があります。

**例:**

```
PREPROC_MIMETYPE text/plain
PREPROC_CLASS      Preprocessor.SamplePreprocText
PREPROC_CLASSPATH  D:%preprocessors%preproc_java.jar
```

**注:** 同じプリプロセッサを何度も使用できます。各 MIME タイプに対して異なるプリプロセッサを使用することもできます。異なるプリプロセッサを使用する場合は、Java クラスが異なるクラスパスにある場合でも、各プロセッサが一意的な Java クラス名を持っていることを確認します。Java クラスパスは連結されます。複数のプリプロセッサに対して同じ Java クラス名を使用する場合、プリプロセッサ・ユーザー出口がその Java クラス名に対して見つけた最初のプリプロセッサを呼び出します。

**(\*) PREPROC\_CLASSPATH *java\_classpath***

プリプロセッサを Java クラスとして開始する場合は必須です。

Java クラスの絶対パスを指定します。

このキーワードは、PREPROC\_CLASS キーワードの後に指定する必要があります。

**例:**

```
PREPROC_MIMETYPE text/plain
PREPROC_CLASS      Preprocessor.SamplePreprocText
PREPROC_CLASSPATH  D:%preprocessors%preproc_java.jar
```

**(\*) PREPROC\_EXEC *exec***

文書がアーカイブされる前に、プリプロセッサを使用して発信文書を変更する場合は、およびプリプロセッサを実行可能ファイルとして開始する場合は必須です。

指定された MIME タイプの文書を処理する実行可能ファイルの絶対パスを指定します。

このキーワードは、PREPROC\_MIMETYPE キーワードの後に指定する必要があります。

**例:**

```
PREPROC_MIMETYPE text/plain
PREPROC_EXEC      D:%preprocessors%preproc_text.bat
```

**(\*) PREPROC\_MIMETYPE *mime\_type***

文書がアーカイブされる前に、プリプロセッサを使用して発信文書を変更する場合は必須です。

処理される文書の MIME タイプを指定します。

このキーワードは、プリプロセッサを指定する前に指定する必要があります。

**例:**

PREPROC\_MIMETYPE image/tiff

### (\*) PROTECTION *prot\_flags* | OFF

Collector Serverと SAP との間の通信に Hypertext Transfer Protocol (HTTP) を使用する場合は必須です。

アーカイブのデフォルトの保護を指定します。

SAP 要求の docProt の値は、PROTECTION キーワードの設定値をオーバーライドします。ただし、PROTECTION OFF を指定した場合は、SAP の docProt 設定は無視され、SECKEY キーワードは暗黙的に OFF に設定されます。この場合、文書は保護されません。

*prot\_flags* は、文字 r (read 読み取り)、c (create 作成)、u (update 更新)、d (delete 削除)、またはこれらの文字の組み合わせを表します。次の表に示すように、デフォルト値は ARCHIVETYPE キーワードの値によって異なります。

ARCHIVETYPE	PROTECTION のデフォルト値
GENERIC	オフ
SAP	rcud

#### 例:

PROTECTION rcu

この例では、文書に対する READ、CREATE、および UPDATE 操作が保護されています。これは、操作を実行するために必要な権限が検査されることを意味します。DELETE 操作は無保護です。つまり、権限の検査は行われません。

### SECKEY\_CHECK *prot\_flags* | OFF

Collector Serverと SAP 間の通信に Hypertext Transfer Protocol (HTTP) を使用する場合に指定します。

secKey が検査される際のアクセス・モードを指定します。*prot\_flags* は、文字 r (read 読み取り)、c (create 作成)、u (update 更新)、d (delete 削除)、またはこれらの文字の組み合わせを表します。このキーワードを指定しない場合は、PROTECTION キーワードに設定した値がデフォルトとして使用されます。

SAP 要求に secKey が含まれていない場合は、このキーワードを OFF に設定します。

PROTECTION キーワードを OFF に設定した場合、またはARCHIVETYPE キーワードを GENERIC に設定した場合、SECKEY\_CHECK キーワードは暗黙的に OFF に設定されます。これは、文書へのアクセスも検査されないことを意味します。

### \* **SERVER** *server\_name*

Tivoli Storage Manager ノードを Content Collector for SAP に登録したときにログオンした Tivoli Storage Manager ライブラリー・サーバーの名前を指定します。Tivoli Storage Manager が必要とする通信パラメーターは、すべて `dsm.sys` ファイルに含まれています。

例:

```
SERVER ADSMSERV01
```

### **SSL ON | OFF**

ON に設定された場合、アーカイブは Secure Hypertext Transfer Protocol (HTTPS) を介してのみアクセスできます。

### **TIMEOUT** *seconds* | 0

エージェントがアーカイブへの接続を閉じる前に、エージェントがアイドルである必要がある期間を秒単位で指定します。新しい要求がアーカイブに送信されるときに、接続は自動的に再確立されます。

例:

```
TIMEOUT 300
```

### **USEREXIT\_TIMEOUT** *seconds* | 0

タイムアウト期間を指定します。このタイムアウト期間の後、Collector Serverは実行中のユーザー出口への接続を閉じ、処理を続けます。このキーワードは、`TRANSFORM_URL` および `TRANSFORM CLASS` により有効にされたユーザー出口に対して使用できます。

0 から 3600 秒を指定できます。デフォルト値は 0 です。

注: Collector Serverは、ユーザー出口により呼び出された実行中のアプリケーションを停止しません。そのアプリケーションへの接続を閉じるだけです。これにより、アプリケーションがクラッシュした場合でも、Collector Serverはクラッシュしません。

### **(\*) WEBDAV\_AUTH** *user\_name*

BC-ILM を使用したデータのアーカイブ用です。

XML Data Archiving Service (XML DAS) を使用した、XML ベースのアーカイブの実行が許可されているユーザーの名前を指定します。このユーザーのパスワードおよび宛先は `archint.cfg` 構成ファイルに保管されます。

例:

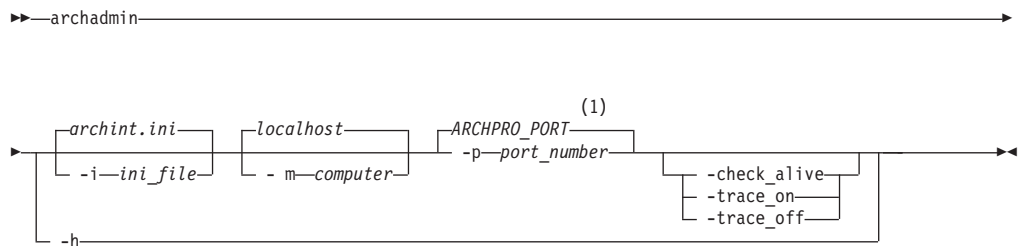
```
WEBDAV_AUTH WUSER
```

## コマンド解説

熟練ユーザーは、コマンド行から Content Collector for SAP を制御できます。次の各セクションではコマンド行から開始できるプログラムおよびそれらの開始方法の概要と説明を提供します。

### archadmin

このプログラムを使用して、Collector Serverへの接続を確立し、Collector Serverが発行したメッセージを表示できるようにします。複数のコンピューターおよび複数のオペレーティング・システムにまたがった接続を開くことができます。



注:

- 1 .ini ファイルが検出された場合は、ARCHPRO\_PORT キーワードの値が使用されます。

### パラメーター

#### **-m computer**

archpro プログラムを実行するコンピューターのホスト名または IP アドレスを指定します。

#### **-p port\_number**

archpro プログラムが使用する固定ポートを指定します。

#### **-i ini\_file**

archadmin プログラムが使用するサーバー構成プロファイルの絶対パスを指定します。このパラメーターを使用して指定できるのは、ローカル・コンピューター上のファイルだけです。

#### **-check\_alive**

Collector Serverが稼働中かどうかを調べます。戻りコード 0 は、Collector Serverが稼働中であることを示します。

#### **-trace\_on**

Collector Serverの始動および停止に関する情報、ファイル名、およびエラーなどを含む、完全な Collector Serverトレース情報が含まれるトレース・ファイルを作成します。

#### **-trace\_off**

トレースは作成されません。

**-h archadmin** コマンドの使用法についての情報を表示します。

## コメント

- **-m** パラメーターを指定しない場合、Content Collector for SAP は、archpro プログラムがローカル・コンピューター (localhost) 上にあると推定します。
- **-p** も **-i** も指定しない場合は、デフォルトのサーバー構成プロファイルの情報が使用されます。
- 5000 より大きいポート番号のみ受け入れられます。
- 異なるオペレーティング・システム間 (例えば Windows と AIX 間) の接続がサポートされています。

## 例

### archadmin

サーバー構成プロファイルからポート番号を読み取って、archpro プログラムに接続します。

### archadmin -p 5510

固定ポート 5510 を使用して、archpro プログラムに接続します。

### archadmin -m ginkgo -p 5510

コンピューター ginkgo で実行される archpro プログラムに接続します。この接続は固定ポート 5510 で確立されます。

### archadmin -m 192.168.1.2 -p 5510

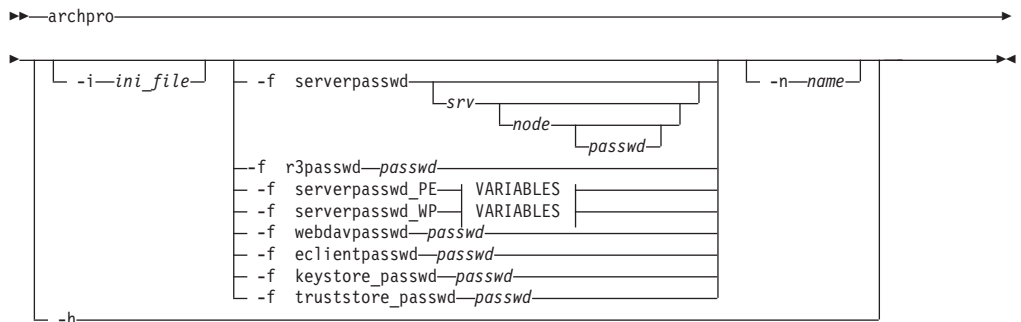
IP アドレス 192.168.1.2 のコンピューター上で実行される archpro プログラムに接続します。この接続は固定ポート 5510 で確立されます。

### archadmin -i C:\Program Files\IBM\ICCSAP\Server\archint2.ini

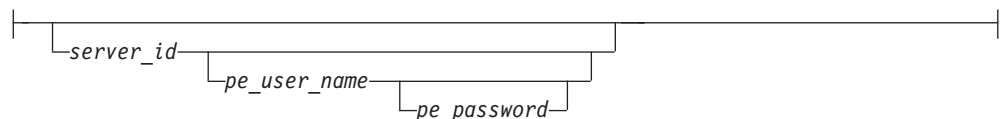
ローカル・コンピューター上で実行される archpro プログラムに接続します。このポート番号はサーバー構成プロファイルから読み取ります。

## archpro

このプログラムを使用して、Collector Server を開始します。これは、すべての Content Collector for SAP コンポーネントを制御します。



### VARIABLES:



## パラメーター

### **-i** *ini\_file*

使用するサーバー構成プロファイルの絶対パスを指定します。このパラメーターは、Content Collector for SAP の個々のコンポーネントがルート・ディレクトリ内の複数のサブディレクトリにインストールされている場合に指定します。

### **-f serverpasswd** [*srv* [*node* [*passwd*]]]

アーカイブ・ユーザーのパスワードを指定します。このパスワードは、初めて Collector Serverを始動するときに 1 度だけ指定する必要があります。

注: このパスワードおよびその他のすべての暗号化されたパスワードは、今後の archpro プログラムの呼び出しのため archint.cfg ファイルに保管されます。

### **-f r3passwd** *passwd*

論理 SAP システムのパスワードを指定します。このパスワードは、初めて Collector Serverを始動するときに 1 度だけ指定する必要があります。

### **-f serverpasswd\_PE** [*server\_id* [*pe\_user\_name* [*pe\_password*]]]

Process Engine ユーザーのパスワードを指定します。このパスワードは、Utility Client を使用して、FileNet P8 に保管されたアーカイブされたバーコード付き文書を SAP にリンクするために環境を構成した後、初めて Collector Serverを始動するときに 1 度だけ指定する必要があります。

注: *server\_id* の値に 1 つ以上の空白が含まれている場合は、引用符で囲む必要があります。Windows では、二重引用符を使用する必要があります。Linux および UNIX システムでは、単一引用符または二重引用符を使用することができます。

### **-f serverpasswd\_WP** [*server\_id* [*wp\_user\_name* [*wp\_password*]]]

Workplace ユーザーまたは Workplace XT ユーザーのパスワードを指定します。このパスワードは、FileNet P8 に保管された文書を表示するために環境を構成した後、初めて Collector Serverを始動するときに 1 度だけ指定する必要があります。

注: *server\_id* の値に 1 つ以上の空白が含まれている場合は、引用符で囲む必要があります。Windows では、二重引用符を使用する必要があります。Linux および UNIX システムでは、単一引用符または二重引用符を使用することができます。

### **-f webdavpasswd** *passwd*

ILM 対応のデータ・アーカイブ (BC-ILM) を許可されている、ユーザー XMLDAS のパスワードを指定します。

### **-f eclientpasswd** *passwd*

Content Manager Enterprise Edition ユーザー ID のパスワードを Content Manager eClient に送信して、ユーザー認証なしで eClient にアクセスできるようにします。このパラメーターを使用するには、サーバー構成プロファイルで ECLIEN\_TUSER キーワードを指定する必要があります。

### **-f keystore\_passwd** *passwd*

Collector Serverの証明書を含む鍵ストアのパスワードを指定します。このパスワードは、Web ブラウザーでアーカイブ済み文書を表示するために Secure Hypertext Transfer Protocol (HTTPS) を使用するとき必要です。



**-f truststore\_passwd passwd**

クライアント証明書を含むトラストストアのパスワードを指定します。このパスワードはクライアント認証を使用するときに必要です。

**-n name**

使用するサーバー・インスタンスの名前を指定します。

**-h archpro** コマンドの使用法に関するヘルプ情報を表示します。

## 例

**archpro**

デフォルトのサーバー構成プロファイルを使用して Collector Server を始動します。

**archpro -i C:\Program Files\IBM\ICCSAP\Server\archint2.ini**

指定されたサーバー構成プロファイルを使用して Collector Server を始動します。

**archpro -f serverpasswd**

すべてのアーカイブのパスワードを求めるプロンプトが Collector Serverによって出されます。

**archpro -f serverpasswd SRV**

このアーカイブのパスワード、ならびに SRV という名前のサーバー上のこのアーカイブに対するアクセス権を持つすべてのノードまたはユーザーのパスワードを求めるプロンプトが Collector Serverによって出されます。

**archpro -f serverpasswd SRV USR**

このアーカイブのパスワード、および SRV というサーバー上の USR というノードまたはユーザーのパスワードを求めるプロンプトが Collector Serverによって出されます。

**archpro -f serverpasswd SRV USR PWD**

サーバー SRV 上のアーカイブへのアクセス権を持つノードまたはユーザー USR に、パスワード PWD を指定します。このようにパラメーターを使用する場合は、パスワードを求めるプロンプトは出されません。

**archpro -f serverpasswd\_PE "[CFSIS42\_OS][http://ecmsap-p850:9080/wsi/FNCEWS40MTOM][P8 Domain]" sampleUser3 PWD**

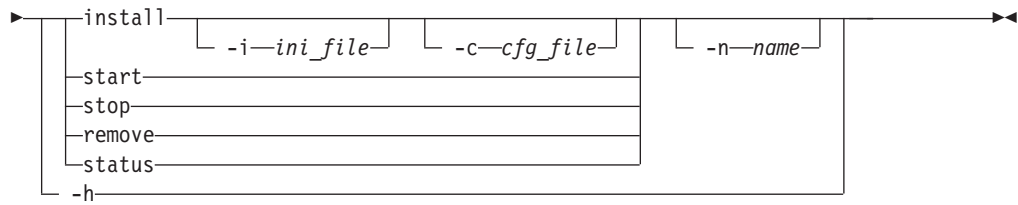
Process Engine ユーザー sampleUser3 のパスワード PWD を指定します。

## archservice

このプログラムを使用して、Collector Serverをサービスとして実行します。

### 形式

▶—archservice—▶



## パラメーター

### インストール

Collector Server をサービスとしてインストールします。

#### -i ini\_file

使用するサーバー構成プロファイルの絶対パスを指定します。このパラメーターは、Content Collector for SAP の個々のコンポーネントがルート・ディレクトリ内の複数のサブディレクトリにインストールされている場合に指定します。

#### -n name

Collector Server ・サービスのインスタンス名を固有にするために付加する接尾語を指定します。

#### start

サービスを開始します。

#### stop

サービスを停止します。

#### remove

サービスをアンインストールします。

#### status

サービスの状況を示します。

**-h archservice** コマンドの使用法に関するヘルプ情報を表示します。

## コメント

- パラメーターを指定しないと、コマンド・プロンプトから archservice プログラムを実行できません。インストール中に、Windows レジストリーにレジストリー・キーが作成されます。レジストリーのすべての変更は「コマンド プロンプト」に表示されます。Windows の「イベント ビューア」ウィンドウの「アプリケーション」ページで、サービスのインストール、削除、開始、または停止が成功したか失敗したかについての情報を表示できます。
- archservice プログラムの呼び出しのたびに固有のインスタンス名を指定することにより、1 台のコンピューターにサービスを複数回インストールできます。
- サービス・インスタンスには ICCSAP\_<name> という名前が付けられます。

## 例

### archservice install

Collector Server を Windows サービスとしてインストールします。

```
archservice install -i C:\Program Files\IBM\ICCSAP\Server\archint2.ini -n 2
```

サーバー構成プロファイル archint2.ini (C:\Program Files\IBM\ICCSAP

ディレクトリーにあります) を使用して、サービスのインスタンスをインストールします。新しいインスタンスには `ICCSAP_2` という名前が付きます。

#### **archservice remove -n 2**

サービスのインスタンス `ICCSAP_2` をアンインストールします。

#### **archservice start -n 2**

サービスのインスタンス `ICCSAP_2` を開始します。

#### **archservice stop -n 2**

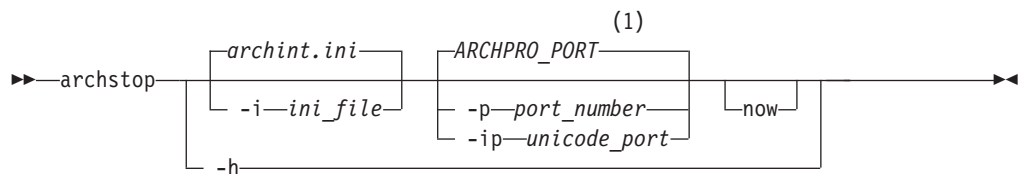
サービスのインスタンス `ICCSAP_2` を停止します。

#### **archservice status -n 2**

サービスのインスタンス `ICCSAP_2` の状況を表示します。

## archstop

このプログラムを使用して Collector Server を停止します。



注:

- 1 サーバー構成プロファイルが検出された場合は、`ARCHPRO_PORT` キーワードの値が使用されます。

## パラメーター

### **-i ini\_file**

サーバー構成プロファイル `ini_file` で `ARCHPRO_PORT` キーワードに指定されたポートを使用する Collector Server インスタンスを停止します。

### **-p port\_number**

指定されたポートを使用する Collector Server インスタンスを停止します。

### **-ip unicode\_port**

指定された内部ポートを使用する Collector Server インスタンスを停止します。

内部ポート番号は、コンソール、またはサーバー構成プロファイルの `CONSOLE_TRACE` キーワードによって指定されるファイルに書き込まれるトレース情報から確認できます。例:

```
ArchPro 14024786 started on UNICODE Port 48637.
```

### **now**

指定された Collector Server インスタンスを、アクティブ・ジョブの完了を待たずに即時に停止します。

**-h archstop** コマンドの使用法に関するヘルプ情報を表示します。

## コメント

- コンピューターと `archpro` プログラムとの間で接続を確立するには、ポート番号が必要です。

- 固定ポート番号はサーバー構成プロファイルから読み取ることも可能です。
- **-i** も **-p** も **-ip** も指定しない場合、デフォルトのサーバー構成プロファイルの情報が使用されます。
- 5000 より大きいポート番号のみ受け入れられます。

## 例

### **archstop**

デフォルトのサーバー構成プロファイルで指定されたポートを使用する Collector Server インスタンスを停止します。

### **archstop -p 5510**

すべてのジョブが完了した後に、ポート 5510 を使用する Collector Server インスタンスを停止します。

### **archstop -p 5510 now**

ポート 5510 を使用する Collector Server インスタンスを直ちに停止します。

### **archstop -i C:\Program Files\IBM\ICCSAP\Server\archint2.ini**

サーバー構成プロファイル archint2.ini で指定されたポートを使用する Collector Server インスタンスを停止します。

---

## ダイナミック・リンク・ライブラリー csclient.dll

csclient.dll は、Collector Serverと、文書のアーカイブおよびアーカイブ済み文書の表示に使用されるアプリケーションとの間のインターフェースです。

csclient.dll は、以下のアプリケーションで使用されます。

- Archiving Client
- Viewing Client
- SAP ArchiveLink Viewer

csclient.dll は Archiving Client パッケージおよび Viewing Client パッケージに含まれており、クライアントのインストール・ディレクトリーにコピーされます。csclient.dll が Collector Serverへの接続を確立するには、ARCHPRO\_CONNECTIONPARAMETER キーワードを、クライアント構成プロファイルに次のように設定する必要があります。

```
[ARCHPRO_CONNECTIONPARAMETER]
server=<server_name>
port=<port_number>
```

<server\_name> は、Collector Serverが実行されているコンピューターの名前または TCP/IP アドレスです。<port\_number> は、サーバー構成プロファイルで ARCHPRO\_PORT キーワードに指定されたポート番号です。

csclient.dll は、このダイナミック・リンク・ライブラリーを開始するすべての要求の詳細なトレースをサポートします。トレースは、エラーが発生した場合にのみアクティブにしてください。クライアント構成プロファイルの次のキーワードを使用して、トレースを制御します。

### DLLTracefile

トレースの絶対パスを指定します。例えば次のようになります。

c:¥CSCClient¥CSD11.trc

### DLLTracelevel

トレースを無効にするには 0 を、トレースを有効にするには 1 を入力します。

### DLLTraceMax

トレースの最大サイズを KB (K バイト) 単位で指定します。デフォルト値は 1024 です。

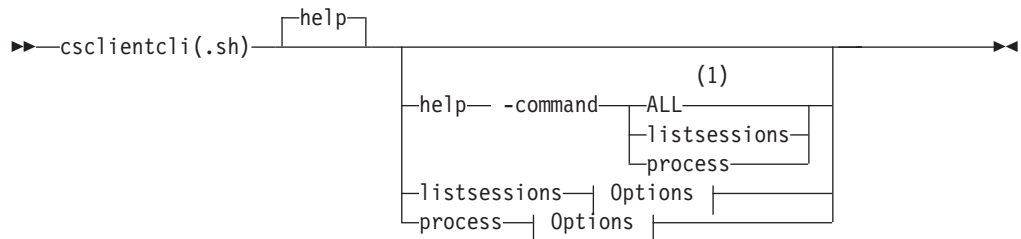
## Utility Client のコマンド行インターフェース

コマンド行インターフェースで、単一のコマンドを使用して索引データを転送することができます。この場合、Utility Client の構成を単一のファイルに保存している必要があります。

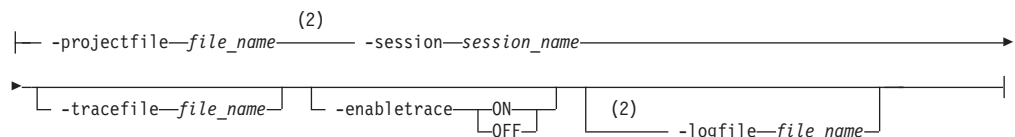
索引転送を開始するファイルは、オペレーティング・システムに応じて、以下のパスに以下の名前配置されています。

オペレーティング・システム	開始ファイルのデフォルト・ロケーション	開始ファイルの名前
AIX	/opt/IBM/iccsap/utilityclient	csclientcli.sh
Linux		
Solaris オペレーティング環境		
Windows	C:¥Program Files¥IBM¥ICCSAP¥UtilityClient	csclientcli.bat

## コマンド構文



### Options:



### 注:

- 1 大/小文字の区別はありません。
- 2 **process** コマンドの場合のみ。

## help

一般ヘルプ情報が表示されます。**-command** パラメーターと一緒に使用すると、このコマンドの結果、指定したコマンドのヘルプ情報が表示されます。

## -command

**help** コマンドに対するパラメーターを指定します。以下の値のいずれかを指定する必要があります。

**ALL** すべての使用可能なコマンドに関するヘルプ情報を表示します。

## listsessions

**listsessions** コマンドに関するヘルプ情報を表示します。

## process

**process** コマンドに関するヘルプ情報を表示します。

## listsessions

構成ファイルに保存されているすべての索引転送セッションをリストします。

## process

構成ファイル内のセッション情報を使用して索引転送を実行します。

## -projectfile *file\_name*

Utility Client の構成が保存されるファイルの絶対パスを指定します。

## -session

索引転送用の情報を格納しているセッションの名前を指定します。**process** コマンドだけに対するセッション名を指定します。

## -tracefile *file\_name*

これにより、デフォルトのトレース・ファイル以外のトレース・ファイルを使用することができます。デフォルトのトレース・ファイルは `uidata.ini` ファイルで指定されます。このパラメーターを使用するには、代わりにのトレース・ファイルの絶対パスを指定します。

## -enabletrace ON | OFF

トレースのオン/オフを切り替えます。このパラメーターを **listsessions** コマンドに続けて使用する場合、この処理に関するトレース情報がトレース・ファイルに書き込まれます。これを **process** コマンドと共に使用する場合、索引転送に関するトレース情報がトレース・ファイルに書き込まれます。

## -logfile *file name*

これにより、デフォルトのログ・ファイル以外のログ・ファイルを使用することができます。デフォルトのログ・ファイルは `uidata.ini` ファイルで指定されます。このパラメーターを使用するには、代わりにのログ・ファイルの絶対パスを指定します。**process** コマンドだけに対してパスを指定します。

---

## Archiving Client のキーボード・ショートカット

Archiving Client 内をナビゲートするには、キーボードも使用できます。

アクション	ショートカット
Archiving Client のセットアップ	Alt+F8
キューの作成	Ctrl+I
キュー・プロパティを開く	Ctrl+Shift+P

アクション	ショートカット
選択されたキューを削除します	Ctrl+D
キューへの文書のインポート	Alt+F1
インポートの停止	Alt+F2
選択された文書の表示	Alt+V
キューからの選択された文書の削除	Alt+D
SAP ワークフローでの作業項目の作成による文書のアーカイブ (手動)	Alt+F5
バーコードの処理による文書のアーカイブ (手動)	Alt+F6
アーカイブの停止	Alt+F7
自動処理の使用可能にします	Alt+F9
自動処理を停止します	Alt+F10
接続状況の表示	Ctrl+F1





---

## 特記事項

### 本書の特記事項および著作権情報

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものであり、本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒242-8502

神奈川県大和市下鶴間1623番14号

日本アイ・ビー・エム株式会社

法務・知的財産

知的財産権ライセンス渉外

**以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。** 本書は特定物として「現存するまま」の状態を提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

*IBM Deutschland GmbH  
Dept. M358  
IBM-Allee 1  
71139 Ehningen  
Germany*

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができませんが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。これらのサンプル・プログラムは特定物として現存するままの状態を提供されるものであり、いかなる保証も提供されません。IBM は、お客様の当該サンプル・プログラムの使用から生ずるいかなる損害に対しても一切の責任を負いません。

## 商標

IBM、IBM ロゴおよび [ibm.com](http://www.ibm.com) は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corp. の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、<http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml> をご覧ください。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは Oracle やその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT、および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

UNIX は The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。



# 索引

日本語, 数字, 英字, 特殊文字の順に配列されています。なお, 濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

## [ア行]

アーカイブ x  
アーカイブが使用可能かどうかの検査 404  
アーカイブ固有のキーワード 425  
    Content Manager Enterprise Edition 425  
    Content Manager OnDemand 434  
    FileNet P8 440  
    Tivoli Storage Manager 448  
アーカイブされた文書  
    索引転送のための構成 313  
    注釈の追加 5  
    表示 367  
    リトリートと表示 13  
    Cold プログラムを使用してリンクする 338  
    E メールへの添付 5  
アーカイブされた文書のリンク  
    説明 11  
    Cold プログラムを使用する 338  
    Content Manager Enterprise Edition に保管されている場合 355  
    FileNet P8 に保管されている場合 357  
アーカイブするデータの宛先 260  
アーカイブに時間がかかりすぎる 386  
アーカイブへのアクセス不能 383  
アーカイブ・ストア  
    ホーム・パスの割り当て 264  
    BC-ILM によるデータ・アーカイブ用に作成 261  
アノテーションに関するセキュリティー概念  
    FileNet Application Connector for SAP マイグレーション  
        Image Services V4.2 47  
    FileNet Application Connector for SAPmigration  
        Image Services V4.1.2 41  
印刷リスト  
    アーカイブおよび表示のための構成 294  
    作成とアーカイブ 365

印刷リスト (続き)  
    説明 10  
    表示 369  
        使用可能にする 297  
    説明 13  
印刷リストのアーカイブのための SAP ArchiveLink バッチ・ジョブ 296  
印刷リスト用のアーカイブ装置 295  
インストール・シーケンス 93  
インストール・パッケージ 25  
インバウンド・リンク・プロセス 6  
インフォメーション・センターのインストール  
    Linux または UNIX 99  
    Windows 101  
エラー・フラグ 386  
エラー・フラグのリセット 386  
お客様のご意見 xii

## [カ行]

鍵 319  
鍵ストア 319  
可変ポート 381  
空の Tivoli Storage Manager アーカイブのルート・コレクション 259  
キーワード  
    ADDVIEWFILTERATTR  
        項目タイプ・サブセットの作成 142  
        説明 426  
    ADSMAGENTS 408  
    ADSMNODE 449  
    ALLOW\_TSM\_COMPRESSION 449  
    APPGROUP 434  
    APPLICATION  
        アプリケーション・グループの作成 145  
        説明 434  
    APPMAPPING\_FILE  
        アプリケーション・グループの作成 145  
        説明 435  
    ARCHIVE  
        Content Manager Enterprise Edition 425  
        Content Manager OnDemand 434  
        FileNet P8 440  
        Tivoli Storage Manager 448

キーワード (続き)  
ARCHIVETYPE  
    Content Manager Enterprise Edition 426  
    Content Manager OnDemand 435  
    FileNet P8 440  
    Tivoli Storage Manager 449  
ARCHPATH  
    コンテンツ・リポジトリまたは論理アーカイブの作成 188  
    説明 408  
    RFC ディスパッチャーの設定 180  
ARCHPRO\_PORT  
    サーバー・インスタンスへの固定ポートの割り当て 328  
    説明 409  
    ネットワーク接続の安定化 382  
    Collector Serverへの Archiving Client の接続 196  
ARCHWINS  
    説明 409  
    Archiving Client の構成 195  
    Viewing Client の構成 245  
ATTRMAPPING\_FILE  
    説明 127  
    1 つの文書を指す複数の SAP オブジェクトを使用可能にする 335  
    Content Manager Enterprise Edition 426  
    Content Manager OnDemand 435  
    FileNet P8 441  
BASEPATH  
    コンテンツ・リポジトリまたは論理アーカイブの作成 188  
    説明 410  
    RFC ディスパッチャーの設定 180  
BINPATH 410  
BROWSECACHING  
    説明 411  
    ブラウザ・キャッシュへの Web コンテンツの保管の回避 317  
CHECK\_ARCHIVE\_SERVER  
    すべてのアーカイブが使用可能かどうかの検査をオフに切り替える 404  
    説明 411  
CLIENT 422  
CLIENT\_ALL\_PORTS\_FIXED  
    説明 411  
    ネットワーク接続の安定化 382  
CMAGENTS 411

キーワード (続き)

CMUSER 427  
 COMMENT  
     Content Manager Enterprise Edition 427  
     Content Manager OnDemand 435  
     FileNet P8 441  
     Tivoli Storage Manager 450  
 CONFIG\_FILE 412  
 CONFIG\_FILE\_FIPSMODE 412  
 CONFIG\_FILE\_KEYFILE 412  
 CONSOLE\_TRACEFILE 413  
 CUSTOMFOLDER 441  
 DEFAULT\_FOLDER 441  
 DEFAULT\_P8DOCCLASS 442  
 DESTINATION  
     説明 422  
     RFC 宛先の作成 186  
 DISPATCHERS  
     説明 413  
     RFC ディスパッチャーの数の設定 180  
 DOCTYPE 442  
 ECLIENT\_EXCLUDED\_TYPES  
     説明 413  
     Content Manager eClient を統合するための構成 305  
 ECLIENT\_INCLUDED\_TYPES  
     説明 413  
     Content Manager eClient を統合するための構成 305  
 ECLIENT\_PROTOCOL  
     説明 427  
     Content Manager eClient を統合するための構成 305  
 ECLIENT\_URL\_PREFIX  
     説明 414  
     Content Manager eClient を統合するための構成 305  
 ECLIENT\_USER  
     説明 414  
     Content Manager eClient を統合するための構成 305  
 ECLIENT\_VIEWING  
     説明 427  
     Content Manager eClient を統合するための構成 305  
 END 414  
 ERRORLOG\_FILE 414  
 FOLDER 436  
 GROUP  
     説明 422  
     SAP ログオン・グループへのログオン 348  
 GWHOOST 423  
 GWSERV 423

キーワード (続き)

INDEXCHILDNAME  
     説明 427  
     1 つの文書を指す複数の SAP オブジェクトを使用可能にする 335  
 INSTANCEPATH 415  
 ITEM\_TYPE  
     項目タイプ・サブセットの作成 142  
     説明 428  
     文書項目タイプの作成 142  
 ITEM\_TYPE\_MIG 428  
 JARPATH 415  
 JAVARUNTIME 416  
 JAVARUNTIME\_CM 428  
 JAVA\_OPTIONS  
     説明 415  
     ソケット・ダンプの使用可能化 404  
 JAVA\_OPTIONS\_CM 416  
 KEYSTORE\_FILE  
     サーバー認証を使用可能にする 320  
     説明 416  
 LANGUAGE  
     Content Manager Enterprise Edition 428  
     DESTINATION セクション 423  
 LIBSERVER 428  
 LOG 416  
 LOGICAL\_DELETE 442  
 LOGICAL\_SYSTEM  
     Content Manager Enterprise Edition 428  
     Content Manager OnDemand 436  
     DESTINATION セクション 423  
     FileNet P8 442  
     Remote Function Call (RFC) 接続に対する論理システムの定義 136  
     Tivoli Storage Manager 450  
 LOGPATH 417  
 LU 423  
 MAILSERVER 417  
 MGMT\_CLASS 450  
 MSHOST  
     説明 424  
     SAP ログオン・グループへのログオン 348  
 MULTIPART 429  
 OBJECTSTORE 442  
 ODAGENTS 417  
 ODHOST  
     説明 436  
     Linux または UNIX で Content Manager OnDemand へのリモート接続を構成する 150

キーワード (続き)

ODHOST (続き)  
     Windows で Content Manager OnDemand へのリモート接続を構成する 151  
 ODUSER 436  
 P8AGENTS 418  
 P8DOCCLASS 443  
 P8DOMAIN 443  
 P8USER 443  
 P8\_CLASSPATH  
     説明 417  
     JAR ファイルが必要 96  
 PAGESIZE 443  
 PE\_CONNECTPOINT  
     説明 443  
     Utility Client を使用して FileNet P8 文書をリンクする 288  
 PE\_QUEUEENAME  
     説明 444  
     Utility Client を使用して FileNet P8 文書をリンクする 288  
 PE\_USERID  
     説明 444  
     Utility Client を使用して FileNet P8 文書をリンクする 288  
 PREPROC\_CLASS  
     発信文書の前処理 347  
     Content Manager Enterprise Edition 429  
     Content Manager OnDemand 436  
     FileNet P8 444  
     Tivoli Storage Manager 450  
 PREPROC\_CLASSPATH  
     発信文書の前処理 347  
     Content Manager Enterprise Edition 429  
     Content Manager OnDemand 437  
     FileNet P8 444  
     Tivoli Storage Manager 451  
 PREPROC\_EXEC  
     発信文書の前処理 347  
     Content Manager Enterprise Edition 430  
     Content Manager OnDemand 437  
     FileNet P8 445  
     Tivoli Storage Manager 451  
 PREPROC\_MIMETYPE  
     発信文書の前処理 347  
     Content Manager Enterprise Edition 430  
     Content Manager OnDemand 437  
     FileNet P8 445  
     Tivoli Storage Manager 451  
 PROGID  
     説明 424

キーワード (続き)

PROGID (続き)  
 RFC 宛先の作成 186  
 PROTECTION  
 Content Manager Enterprise Edition 430  
 Content Manager OnDemand 438  
 FileNet P8 445  
 Tivoli Storage Manager 452  
 PURETHIN  
 説明 446  
 Workplace または Workplace XT を使用して FileNet P8 オブジェクトを表示する 307  
 QUEUEPATH 418  
 R3NAME  
 説明 424  
 SAP ログオン・グループへのログオン 348  
 REMOTESERVERURL 446  
 REPINFOCLASSES  
 索引転送のための構成 313  
 説明 446  
 REPORT 418  
 RETURN\_ALL\_ATTR  
 索引転送のための構成 313  
 説明 446  
 SCAN\_PROCESS 431  
 SECKEY  
 Content Manager Enterprise Edition 431  
 Content Manager OnDemand 438  
 FileNet P8 447  
 Tivoli Storage Manager 452  
 SERVER 453  
 SERVICE\_TRACEFILE  
 サービスとしての Collector Server の複数インスタンスの実行 331  
 説明 418  
 SSL  
 Collector Server とアーカイブの間で HTTPS を使用可能にする 324  
 Content Manager Enterprise Edition 431  
 Content Manager OnDemand 438  
 FileNet P8 447  
 Tivoli Storage Manager 453  
 SSL\_CLIENTAUTH  
 クライアント認証を使用可能にする 323  
 説明 418  
 SSL\_WEBPORT  
 サーバー認証を使用可能にする 320  
 説明 419

キーワード (続き)

STARTUP\_TRACEFILE 419  
 STORAGETYPE  
 BC-ILM を使用したデータ・アーカイブ 258  
 Content Manager Enterprise Edition 426  
 Content Manager OnDemand 434  
 FileNet P8 440  
 Tivoli Storage Manager 449  
 TEMPPATH 419  
 TEXT\_SEARCHABLE  
 説明 431  
 テキスト検索の使用可能化 141  
 TIMEOUT  
 設定 333  
 Content Manager Enterprise Edition 432  
 Content Manager OnDemand 439  
 DESTINATION セクション 424  
 FileNet P8 447  
 RFC または Java RFC ディスパッチャーに対する設定 334  
 ・エージェントに対する設定 334  
 TIMEOUTTivoli Storage Manager 453  
 TP 424  
 TRACE 419  
 TRACEFILE 420  
 TRACEMAX 420  
 TRANSFORM 439  
 TRANSFORM\_URL  
 説明 432  
 Java アプリケーションを統合するための構成 340  
 TRUNCATE\_ATTRIBUTE  
 Content Manager Enterprise Edition 432  
 Content Manager Enterprise Edition の属性を作成 140  
 Content Manager OnDemand 439  
 Content Manager OnDemand の属性を作成 145  
 FileNet P8 447  
 TRUSTSTORE\_FILE 420  
 URL\_ENCODING 421  
 USER  
 説明 425  
 CPIC アクセス権限を持つユーザーの作成 133  
 USEREXIT\_TIMEOUT  
 Content Manager Enterprise Edition 433  
 Content Manager OnDemand 439  
 FileNet P8 447  
 Tivoli Storage Manager 453

キーワード (続き)

WEBDAV\_AUTH  
 説明 453  
 BC-ILM を使用したデータ・アーカイブ 258  
 WEBDPS  
 説明 421  
 並列 HTTP ディスパッチャー・セッションの数を指定する 181  
 WEBPORT  
 説明 421  
 HTTP ディスパッチャーに対する TCP/IP ポートの設定 181  
 WEBROOT 421  
 WORKLIST\_ERROR 433  
 WORKLIST\_SCAN 433  
 WORKPLACEURL  
 説明 448  
 Workplace または Workplace XT を使用して FileNet P8 オブジェクトを表示する 307  
 WP\_USERID  
 説明 448  
 Workplace または Workplace XT を使用して FileNet P8 オブジェクトを表示する 307  
 基本環境 x  
 キュー  
 削除 214  
 作成 200  
 ディレクトリ・キュー 204  
 ファイル・キュー 207  
 CM キュー 201  
 説明 200  
 プロパティ 213  
 文書のインポート 351  
 文書の削除 351  
 保存 212  
 キュー内の文書の自動処理 363  
 クライアント構成プロファイル  
 デフォルト・プロファイル x  
 デフォルト・ロケーション 125  
 クライアント認証 323  
 クライアント・パッケージ  
 インストール 105  
 説明 25  
 グローバル・キーワード 408  
 検索された文書のキャッシュ 342  
 検索テンプレート 359  
 検索テンプレートのリンク  
 説明 11  
 P8 Client を使用 359  
 構成ファイル 125  
 構文図 x  
 項目タイプ  
 作成 142

項目タイプ (続き)  
ソース項目タイプ 283  
ターゲット項目タイプ 284  
項目タイプへの索引クラス 87  
項目タイプ・サブセット 142  
固定ポート 382  
コンテンツ・リポジトリ  
Hypertext Transfer Protocol (HTTP) 用  
183  
Remote Function Call (RFC) に対する  
188

## [サ行]

サーバー構成ファイル 125  
サーバー構成プロファイル  
アーカイブ固有のキーワード 425  
Content Manager Enterprise  
Edition 425  
Content Manager OnDemand 434  
FileNet P8 440  
Tivoli Storage Manager 448  
キーワード 407  
クライアント認証 323  
グローバル・キーワード 408  
サーバー認証 320  
作成  
Content Manager Enterprise Edition  
の場合 165  
Content Manager OnDemand の場合  
168  
FileNet P8 の場合 171  
Tivoli Storage Manager の場合  
175  
サンプル 160  
説明 160  
デフォルト・プロファイル x  
ネイティブ・ビューアー・アプリケーションによる FileNet P8 オブジェクトの表示 307  
複数の Collector Server・インスタンス  
327  
Archiving Client 215  
BC-ILM を使用したデータ・アーカイブ  
258  
Content Manager eClient を使用した、  
Content Manager 文書の表示 305  
Content Manager Enterprise Edition 文  
書のリンク  
作業項目の作成による 281  
バーコードの処理による 285  
DESTINATION セクション  
説明 422  
Collector Serverが SAP に接続でき  
るようにする 189

サーバー構成プロファイル (続き)  
FileNet P8 文書のリンク  
P8 Client を使用 293  
Utility Client を使用 288  
HTTP ディスパッチャーに対する  
TCP/IP ポート 181  
HTTP ディスパッチャー・セッション  
181  
RFC ディスパッチャー 180  
Viewing Client 245  
サーバー認証 318  
サーバー・パッケージ  
インストール  
Linux または UNIX 99  
Windows 101  
サイレント・インストール  
Linux または UNIX 107  
Windows 109  
説明 25  
索引情報の転送 371  
索引転送  
開始 371  
コマンド行インターフェース 461  
セットアップ 233  
サンプル・アーカイブ・オブジェクト  
データ・アーカイブのためのセットア  
ップ 248  
テスト・データの作成 252  
証明書  
Content Collector for SAP 証明書の  
SAP へのインポート 321  
Content Collector for SAP 証明書の  
SAP へのエクスポート 320  
Content Collector for SAP 用に作成  
319  
診断情報 379  
ソース項目タイプ 283  
双方向フェデレーション 21  
双方向レプリケーション 21  
属性マッピング 127  
ソケット・ダンプ 404  
ソフトウェア要件 29

## [タ行]

ターゲット項目タイプ 284  
対象読者 ix  
タイムアウト期間の設定 333  
ダンプ 404  
着信文書  
アーカイブ 351  
アーカイブのための構成 265  
注釈アプレット 5  
注釈処理アプレット 5  
追加プログラム  
インストール 113

追加プログラム (続き)  
計画 29  
データのアーカイブ  
構成する 247  
説明 7  
BC-ILM を使用してアーカイブするた  
めの構成 254  
データ・アーカイブのための SAP  
ArchiveLink パス 249  
ディスパッチャー 180  
デフォルトのインストール・モード 99  
動的トレース 402  
トラブルシューティング  
サポート更新情報のサブスクライブ  
380  
システマティックな問題解決 375  
知識ベースの検索 377  
トラブルシューティングの解決策の検  
索 377  
フィックスの取得 378  
問題の識別 375  
IBM サポート部門へのお問い合わせ  
379  
IBM サポート部門用の情報収集 379  
トレース  
使用可能にする  
Archiving Client 198  
動的トレース 402  
Archiving Client 403  
CM エージェント 403  
Collector Server 401  
Content Manager Enterprise  
Edition 384  
Content Manager OnDemand 384  
Utility Client 404  
使用可能にする 239  
Viewing Client 403  
使用可能にする 244

## [ナ行]

ネットワーク接続の安定化 381

## [ハ行]

バーコードによる文書の遅延アーカイブ  
9  
ハードウェア要件 29  
パート項目タイプ 141  
発信文書  
アーカイブ  
構成する 275  
説明 10  
前処理  
構成する 342



発信文書 (続き)  
前処理 (続き)  
説明 12  
発信文書の前処理  
構成する 342  
サーバー構成プロファイル 347  
説明 12  
プリプロセッサからの結果 344  
実行可能ファイルとして実行する場  
合 345  
Java クラスとして実行する場合  
345  
プリプロセッサへの入力 343  
プリプロセッサ・ユーザー出口 342  
フィードバック xii  
フィックス 378  
フォルダー  
リンク 359  
Content Manager OnDemand 用に作成  
148  
フォルダーのリンク  
説明 11  
P8 Client を使用 359  
ブラウザー・キャッシュ 317  
プロパティ・マッピング 127  
文書  
アーカイブ 351  
キューからの削除 351  
キューへのインポート 351  
表示 367  
リンク 355  
文書項目タイプ 142  
文書タイプ  
作成 267  
SAP ワークフローで使用可能にする  
267  
文書のアーカイブ  
キューへの 文書のインポート 351  
説明 7  
バーコードの処理による 353  
構成する 273  
自動処理 363  
説明 9  
発信文書 275  
SAP ワークフローに作業項目を作成す  
る 352  
構成する 265  
自動処理 363  
説明 8  
Archiving Client から 353  
Object Linking and Embedding  
(OLE) を使用 352  
SAP GUI から 352  
文書の同時アーカイブ 9  
文書の表示 367  
イメージ・ビューアーを使用 368

文書の表示 (続き)  
外部ビューアー・アプリケーションを  
使用 367  
複数の SAP システムから表示するた  
めの構成 341  
Content Manager eClient を使用 367  
SAP Document Finder の使用による  
368  
Workplace または Workplace XT を使  
用 368  
文書の前処理  
構成する 347  
説明 12  
プリプロセッサからの結果 344  
実行可能ファイルとして実行する場  
合 345  
Java クラスとして実行する場合  
345  
プリプロセッサへの入力 343  
プリプロセッサ・ユーザー出口 342  
文書のリンク  
Cold プログラムを使用する 336  
Content Manager Enterprise Edition 文  
書  
構成する 278  
Archiving Client を使用 355  
FileNet P8 文書  
構成する 286  
Browse ポートレットの使用 359  
Queue ポートレットの使用 360  
文書パート項目タイプ 141  
文書表示 367  
イメージ・ビューアーを使用 368  
外部ビューアー・アプリケーションを  
使用 367  
Content Manager eClient を使用 367  
SAP Document Finder の使用による  
368  
Workplace または Workplace XT を使  
用 368  
文書リンク・セッション 237  
文書リンク・プロセス 236  
アーカイブの定義 236  
セッション 237  
Collector Serverへの接続 236  
SAP サーバーへの接続 236  
文書を前処理するためのユーザー出口  
342  
ヘルプが表示されない 387  
Archiving Client 387  
Viewing Client 387  
ポートレット  
構成する 291  
「Browse」ポートレット 218  
FileNet P8 に保管された文書のリンク  
358

ポートレット (続き)  
「Queue」ポートレット 222  
保管検索 359  
保管された検索のリンク  
説明 11  
P8 Client を使用 359  
本製品のアクセシビリティ機能 xii

## [マ行]

マイグレーション  
別のオペレーティング・システムへの  
Collector Server 91  
CommonStore for SAP バージョン  
8.4 85  
Content Manager Enterprise Edition バ  
ージョン 7 文書 87  
FileNet Application Connector for SAP  
FileNet P8 文書 67  
Image Services 文書 35  
マイグレーションされた Content Manager  
システム属性用マッピング・ファイル  
88  
マイグレーション・シナリオ 21  
メール・アプレット 5  
戻りコード 388

## [ヤ行]

ユーザー  
BC-ILM によるデータ・アーカイブ  
256  
Content Manager Enterprise Edition の  
場合 139  
Content Manager OnDemand の場合  
144  
CPIC アクセス権限を持つ  
アクセス権限の制限 134  
作成 133  
用語 ix  
読み方、構文図の x

## [ラ行]

略語 ix  
リンク x  
ログ  
使用可能にする  
Archiving Client 198  
ログオン・グループ 348  
ログ・ファイル  
Archiving Client 403  
CM エージェント 403  
Collector Server 393  
P8 Client 403

ログ・ファイル (続き)

- Utility Client 404
  - 使用可能にする 239
- Viewing Client 403
  - 使用可能にする 244

論理アーカイブ

- Hypertext Transfer Protocol (HTTP) 接続に対する作成 183
- Remote Function Call (RFC) 接続に対する作成 188

論理システム 136

## [ワ行]

ワークシート

- FileNet P8 を使用する FileNet
  - Application Connector for SAP 68
- Image Services V4.1.2 文書のための FileNet P8 V4.0、V4.5.0、V4.5.1、または V5.0 構成設定 44
- Image Services V4.2 文書に対する FileNet P8 V5.1 構成設定 51
- Image Services を使用する FileNet
  - Application Connector for SAP 37

## [数字]

2.2 の新機能 15

## A

- AgentEnv\_CM8.bat 103
- ALF 表示 297
- archadmin
  - 説明 103
  - パラメーター 454
- archint\_sample\_cm8.ini 165
- archint\_sample\_cmod.ini 168
- archint\_sample\_p8.ini 171
- archint\_sample\_tsm.ini 175
- Archiving Client
  - キーボード・ショートカット 462
  - キュー
    - 作成 200
    - 説明 200
    - 保存 212
  - 自動処理 363
  - 説明 4
  - ソフトウェア要件 29
  - 他のコンピューターへの配布 215
  - 定期的なアーカイブ 363
  - トレース 198
  - 文書のアーカイブ
    - バーコードの処理による 353

Archiving Client (続き)

- 文書のアーカイブ (続き)
  - SAP ワークフローに作業項目を作成する 353
- ヘルプが表示されない 387
- ログ 198
- Content Manager Enterprise Edition 文書のリンク 355

Archiving Client のインストール

- アンインストール 121
- コンソールまたは GUI モード 105
- サイレント・モード 107

Archiving Client のキーボード・ショートカット 462

Archiving Client の構成 195

- 一時ファイルのディレクトリー 197
- キューのモジュール 197
- セットアップ 195
- バッチ・ジョブのバーコードの数 197
- 文書フォーマット 198
- Collector Serverへの接続
  - 定義 196
  - 表示 214
- SAP への登録 270

Archiving Client のショートカット 462

archpro

- 説明 103
- パラメーター 455

archservice

- 説明 103
- パラメーター 457

archstop

- 説明 103
- パラメーター 459

## B

BPM キュー x

- 「Browse」ポートレット
  - オブジェクト・ストアとフォルダーの選択 221
  - 構成する 218
  - 「マイ・ワークスペース (My Workplace)」ビューへの追加 218
- Workplace または Workplace XT への登録 218

## C

CFS-IS 40

Cold プログラム

- アーカイブされた文書のリンク 338
- アーカイブされていない文書をリンクする 336
- インストール 113

Collector Server

- クライアント認証 323
- 構成する 159
- 固定ポートの割り当て 328
- サーバー認証 320
- サーバー認証のための使用可能化 320
- サービスとして実行 330
  - ヒント 331
- サービスとして始動しない 386
- 始動しない原因の判別 385
- すべてのエージェントの使用を回避 405
- ソケット・ダンプのアクティブ化 404
- ソフトウェア要件 29
- 停止 193
- 動的トレース 402
- トレース 401
- 初めて始動 191
- 別のオペレーティング・システムへのマイグレーション 91
- ログ・ファイル 393
- HTTPS (Secure Hypertext Transfer Protocol) 通信 317
- Secure Hypertext Transfer Protocol (HTTPS) 通信 317
- Collector Server のインスタンス
  - 作成 326
  - Linux および UNIXで、インスタンス・ユーザーを構成する 129
  - Windows でインスタンスを構成する 130
  - Windows での構成 130
- Collector Server のインストール
  - アンインストール 121
  - インストールされるファイル 103
  - サービスとして 330
  - サイレント・モード 107
  - Linux または UNIX 99
  - SAP Java Connector (SAP JCo) 104
  - SAP RFC ライブラリー 105
  - SAP セキュリティー・ライブラリー (SAPSECULIB) 105
  - Windows 101
- Collector Server の構成
  - サーバー構成プロファイル 160
  - サンプルのサーバー構成プロファイル 160
- Content Manager Enterprise Edition 165
- Content Manager OnDemand 168
- FileNet P8 171
- FileNet P8 文書の再利用 74
- Image Services 文書の再利用 58
- Tivoli Storage Manager 174

- Collector Serverと SAP の間の接続
    - 構成する
      - Hypertext Transfer Protocol (HTTP) 181
      - Remote Function Call (RFC) 185
      - Secure Hypertext Transfer Protocol (HTTPS) 317
  - Collector Serverの接続
    - ディレクトリー・キュー 205
    - ファイル・キュー 208
    - Archiving Client
      - 定義 196
      - 表示 214
    - CM キュー 202
    - SAP 178
    - Utility Client
      - 索引転送 234
      - 文書リンク・プロセス 236
    - Viewing Client 241
    - Workplace または Workplace XT
      - キュー・ポートレット 224
      - 参照ポートレット 220
  - CommonStore for SAP バージョン 8.4 85
  - Content Collector for SAP
    - アーキテクチャー 3
    - インストール 99
    - 概要 3
    - 説明 3
    - SAP Solution Manager への統合 329
  - Content Collector for SAP のアーキテクチャー 3
  - Content Collector for SAP の概要 3
  - Content Collector for SAP を制御するためのコマンド 454
    - archadmin 454
    - archpro 455
    - archservice 457
    - archstop 459
  - Content Manager eClient
    - Content Collector for SAP への統合 305
    - eClient 拡張機能のインストール 115
  - Content Manager Enterprise Edition
    - インストール 95
    - 環境の構成
      - Linux または UNIX 上 131
      - Windows 上 131
    - 構成する 139
    - 項目タイプ 142
    - 項目タイプ・サブセット 142
    - サーバー構成プロファイル 165
    - トレース 384
    - パート項目タイプ 141
    - 文書項目タイプ 142
    - 文書パート項目タイプ 141
  - Content Manager Enterprise Edition (続き)
    - ユーザー ID 139
    - 1 つの文書を指す複数の SAP オブジェクトを使用可能にする 335
    - Collector Serverへのリモート接続 143
    - Java アプリケーションを統合するための構成 340
  - Content Manager Enterprise Edition にアーカイブされた文書
    - リンク
      - Archiving Client を使用 355
      - リンクするための構成 278
  - Content Manager Enterprise Edition の属性 140
  - Content Manager Enterprise Edition バージョン 7 マイグレーション 87
  - Content Manager Enterprise Edition 文書
    - アーカイブ 353
    - アーカイブのための構成
      - バーコードの処理による 273
      - 発信文書 275
      - SAP ワークフローに作業項目を作成する 265
    - 索引転送 371
    - 索引転送のための構成 313
    - 表示
      - 外部ビューアー・アプリケーションを使用 367
      - Content Manager eClient を使用 367
      - SAP Document Finder の使用による 368
    - 表示するための構成
      - 外部ビューアー・アプリケーションを使用 299
    - Content Manager eClient を使用 305
    - SAP Document Finder の使用による 310
    - SAP GUI を使用した 298
    - リンク
      - Archiving Client を使用 355
      - リンクするための構成 278
  - Content Manager Enterprise Edition 文書のリンク
    - 構成する 278
    - Archiving Client を使用 355
  - Content Manager Enterprise Edition ワークフロー
    - 作業項目の作成による文書のリンク 280
    - バーコードを処理することによって文書をリンクする 284
  - Content Manager OnDemand
    - アプリケーション 147
    - アプリケーション・グループ 145
  - Content Manager OnDemand (続き)
    - 構成する 144
    - サーバー構成プロファイル 168
    - トレース 384
    - フォルダー 148
    - ユーザー ID 144
    - Collector Serverへのリモート接続 150
  - Content Manager OnDemand のアプリケーション 147
  - Content Manager OnDemand のアプリケーション・グループ 145
  - Content Manager OnDemand のインストール 95
  - Content Manager OnDemand 文書
    - アーカイブ
      - バーコードの処理による 353
      - SAP ワークフローに作業項目を作成する 352
    - アーカイブのための構成
      - バーコードの処理による 273
      - 発信文書 275
      - SAP ワークフローに作業項目を作成する 265
    - 索引転送 371
    - 索引転送のための構成 313
    - 表示
      - 外部ビューアー・アプリケーションを使用 367
      - SAP Document Finder の使用による 368
    - 表示するための構成
      - 外部ビューアー・アプリケーションを使用 299
      - SAP Document Finder の使用による 310
      - SAP GUI を使用した 298
  - CPIC ユーザー
    - アクセス権限の制限 134
    - 作成 133
  - csclient.dll 460
  - csmimes.properties 103
- ## D
- doCloseWindow
    - SAP ArchiveLink アプリケーションの構成 304
    - Viewing Client を有効にする 243
- ## E
- E メール添付文書 5
  - eClient 拡張機能 115

## F

- FileNet Application Connector for SAP
  - FileNet P8 文書のマイグレーション 67
  - Image Services 文書のマイグレーション 35
- FileNet Content Federation Services for FileNet Image Services 40
- FileNet P8
  - 構成する 152
  - サーバー構成プロファイル 171
- FileNet P8 オブジェクト
  - 索引転送のための構成 313
  - 表示 368
  - 表示するための構成 307
  - リンク 358
  - リンクするための構成
    - P8 Client を使用 291
    - Utility Client を使用 286
- FileNet P8 にアーカイブされた文書リンク
  - Browse ポートレットの使用 359
  - Queue ポートレットの使用 360
  - リンクするための構成 286
- FileNet P8 のインストール 96
- FileNet P8 文書
  - アーカイブ
    - バーコードの処理による 353
    - SAP ワークフローに作業項目を作成する 352
  - アーカイブのための構成
    - バーコードの処理による 273
    - 発信文書 275
    - SAP ワークフローに作業項目を作成する 265
  - 索引転送 371
  - 索引転送のための構成 313
  - 表示
    - 外部ビューアー・アプリケーションを使用 367
    - Workplace または Workplace XT を使用 368
  - 表示するための構成
    - 外部ビューアー・アプリケーションを使用 299
    - SAP GUI を使用した 298
    - Workplace または Workplace XT を使用 307
  - リンク
    - P8 Client を使用 358
  - リンクするための構成
    - P8 Client を使用 291
    - Utility Client を使用 286
- FileNet Application Connector for SAP からのマイグレーション 67

- FileNet P8 文書のリンク
  - 構成する 286
  - Browse ポートレットの使用 359
  - Queue ポートレットの使用 360
- Fix Central 378

## H

- HTTP ディスパッチャー 181
- HTTP ディスパッチャーに対する TCP/IP ポート 181
- HTTPS (Secure Hypertext Transfer Protocol) 317
- Hypertext Transfer Protocol (HTTP) 181

## I

- IBM サポート
  - お問い合わせ 379
  - 更新のサブスクリプション 380
  - サポートへのサブスクリプション 380
- Image Services V4.2
  - プロパティ
  - レプリケーションの方向 57
  - 文書クラスのレプリケーションの方向 54
- Image Services 文書
  - 説明 x
  - FileNet Application Connector for SAP からのマイグレーション 35
- Image Viewer 307
- Index Transfer Enablement パッケージ 117

## J

- Java RFC ディスパッチャー 180
- Java アプリケーション 340

## M

- manage\_root\_collection 103
- MIME タイプおよび SAP 文書クラス 324

## P

- P8 Client
  - 構成する 217
  - 説明 6
  - ソフトウェア要件 29
  - 「Browse」ポートレット 218
  - FileNet P8 オブジェクトをリンクするための構成 291

- P8 Client (続き)
  - FileNet P8 に保管された文書のリンク 358
  - 「Queue」ポートレット 222
- P8 Client SAP Connector
  - 構成する 227
  - 説明 6
  - SAP への登録 227
- P8 Client SAP Connector のインストール
  - アンインストール 121
  - コンソールまたは GUI モード 105
  - サイレント・モード 107
- P8 Client のインストール
  - アンインストール 121
  - クライアント・パッケージ 105
  - サーバー・パッケージ
    - Linux または UNIX 99
    - Windows 101
  - サイレント・モード 107
- P8 キュー
  - 作成 290
  - 説明 x
  - 「Queue」ポートレットへの関連付け 226
- P8 キュー用のワークフロー 290
- Personal Security Environment (PSE) 323
- PSE (Personal Security Environment) 323

## Q

- 「Queue」ポートレット
  - 構成する 222
  - 「マイ・ワークスペース (My Workplace)」ビューへの追加 223
- P8 キューへの関連付け 226
- Workplace または Workplace XT への登録 223

## R

- Remote Function Call (RFC) 185
- RFC 宛先 186
- RFC ディスパッチャー 180

## S

- SAP ArchiveLink
  - 番号範囲の定義 138
  - プロトコルの作成
    - Hypertext Transfer Protocol (HTTP) 接続用 181
    - Remote Function Call (RFC) 接続に 対する 187

SAP ArchiveLink アプリケーション  
ビューアー・アプリケーションを終了  
するための構成 304  
文書表示のために作成 301  
文書をアーカイブするために作成 271  
FileNet P8 オブジェクトをリンクする  
ために作成 228  
SAP ArchiveLink キュー  
Hypertext Transfer Protocol (HTTP) 接  
続に対する作成 182  
Remote Function Call (RFC) 接続に対  
する作成 187  
SAP ArchiveLink プロトコル  
文書表示のために作成 303  
文書をアーカイブするために作成 272  
FileNet P8 オブジェクトをリンクする  
ために作成 230  
SAP Cryptographic Library 117  
SAP Document Finder  
文書の表示 368  
文書を検索および表示するための構成  
310  
RFC 宛先の作成 186  
SAP Java Connector (SAP JCo) 104  
SAP RFC ライブラリー 105  
SAP Solution Manager 329  
SAP Web Application Server ABAP との  
XML Data Archiving Service (XML  
DAS) 接続 262  
SAP セキュリティー・ライブラリー  
(SAPSECULIB) 105  
SAP の文書フォーマット 214  
SAP ビジネス・ワークフローを使用した  
早期アーカイブ 8  
SAP 文書クラスおよび MIME タイプ  
324  
SAP 文書フォーマット 214  
SAP ログオン・グループ 348  
SAP ワークフロー 267  
Secure Hypertext Transfer Protocol  
(HTTPS) 317  
Secure Sockets Layer (SSL) 322

## T

Tivoli Storage Manager  
アーカイブ・コピー・グループ 155  
環境変数の設定 132  
管理クラス 155  
クライアント・オプション・ファイル  
177  
構成する 154  
サーバー構成プロファイル 175  
パスワードは生成されません 385  
パスワード・オプション 157

Tivoli Storage Manager (続き)  
複数のアーカイブに文書を保管するた  
めの構成 332  
リモート接続の構成 158  
Content Collector for SAP によるノー  
ドの登録 154  
STANDARD ポリシー・セット 156  
Tivoli Storage Manager のインストール  
98  
Tivoli Storage Manager 文書  
アーカイブ  
バーコードの処理による 353  
SAP ワークフローに作業項目を作  
成する 352  
アーカイブのための構成  
バーコードの処理による 273  
発信文書 275  
SAP ワークフローに作業項目を作  
成する 265  
表示 367  
表示するための構成  
外部ビューアー・アプリケーション  
を使用 299  
SAP GUI を使用した 298

## U

Utility Client  
言語 239  
構成する 233  
構成の保存 237  
索引転送 371  
セットアップ 233  
索引転送用のコマンド行インターフェ  
ース 461  
設定 239  
説明 5  
ソフトウェア要件 29  
トレース 239  
文書リンク・プロセス 236  
ログ 239  
Content Manager Enterprise Edition 文  
書をリンクするための構成 278  
FileNet P8 文書をリンクするための構  
成 286  
Utility Client のインストール  
アンインストール 121  
クライアント・パッケージ 105  
サーバー・パッケージ  
Linux または UNIX 99  
Windows 101  
サイレント・モード 107  
Index Transfer Enablement パッケージ  
117  
Utility Client のコマンド行インターフェ  
ース 461

## V

Viewing Client  
アプリケーションを閉じる 243  
説明 5  
ソフトウェア要件 29  
他のコンピューターへの配布 245  
注釈アプレット 5  
トレース 244  
ヘルプが表示されない 387  
メール・アプレット 5  
ログ 244  
Viewing Client のインストール  
アンインストール 121  
コンソールまたは GUI モード 105  
サイレント・モード 107  
Viewing Client の構成 241  
一時ファイルのディレクトリー 242  
セットアップ 241  
ビューアー・アプリケーション 242  
Collector Serverへの接続 241  
SAP への登録 301

## W

Web アプリケーション 340  
Web コンテンツ 317  
Workplace  
管理者としてログオンする 217  
マイ・ワークスペースのセットアップ  
「キュー」ポートレットのため  
225  
「参照」ポートレットのため 220  
ユーザーとして ログオン 358  
Collector Serverへの接続  
「キュー」ポートレットのための定  
義 224  
「参照」ポートレットのための定義  
220  
Workplace XT  
管理者としてログオンする 217  
マイ・ワークスペースのセットアップ  
「キュー」ポートレットのため  
225  
「参照」ポートレットのため 220  
ユーザーとして ログオン 358  
Collector Serverへの接続  
「キュー」ポートレットのための定  
義 224  
「参照」ポートレットのための定義  
220

## X

XML DAS との SAP Web Application  
Server ABAP 接続 262

## [特殊文字]

<InstallHome> x





プログラム番号: 5725-B46

Printed in Japan

SH88-4015-01



**日本アイ・ビー・エム株式会社**

〒103-8510 東京都中央区日本橋箱崎町19-21